

A

B

C

D

E

F

G

H

I

L

M

N

O

P

R

S

T

U

V

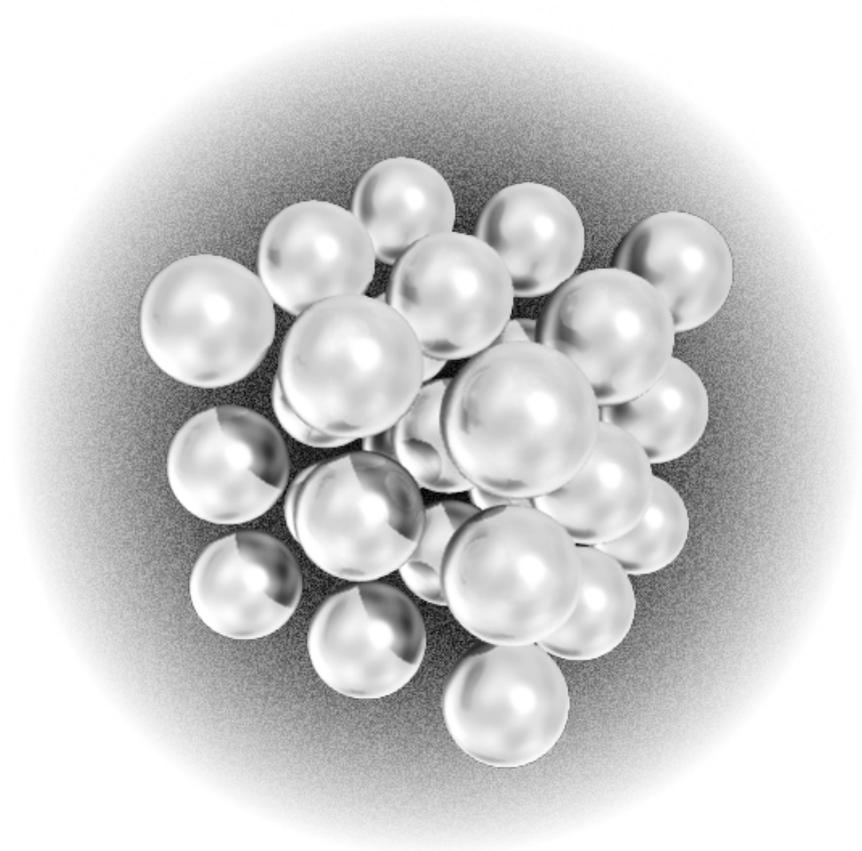
W

X

パーソナルコンピュータソフトウェア

マイツールフリーウェアバージョン

命令辞典



はじめに

このたびは、マイツール フリーウェアバージョンをご利用いただきまして、ありがとうございます。
マイツールフリーウェアバージョンは、簡単な操作で表計算やグラフ作成を行い、データの加工や分析においてその力を発揮するソフトです。

人の思考の流れを中断しない、自由度の高い分析ができるので、ビジネスのさまざまな分野であなたの意思決定を支援します。

本製品を有効に利用するために、必ずマニュアルをよくお読みになり、正しくお取り扱いください。
また、お読みになったあとも、必要時すぐに利用できるように大切に保管してください。

ご注意

- **大切な文書やデータは、必ずコピー（複製）をとってください。**
お客様の操作をミスしたり、本製品に異常が発生した場合、文書やデータが消失することがあります。大切な文書やデータは、必ずコピー（複製）をとるようにしてください。
- **お客様が本製品を使用して作成した文書やデータに関し、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。**
- **本製品の故障による損害、文書やデータの損失による損害、そのほか本製品の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。**

おねがい

- **本書に記載されている内容の無断転載を禁じます。**
©2000 RICOH CO.,LTD.
- **製品の改良により、本書の内容の一部を予告なく変更することがあります。**

Microsoft, Windows, Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

- ・ Windows[®] 98 の製品名は、Microsoft[®] Windows[®] 98 operating system です。
- ・ Windows[®] 95 の製品名は、Microsoft[®] Windows[®] 95 operating system です。
- ・ Windows[®] 2000 の製品名は以下のとおりです。

Microsoft[®] Windows[®] 2000 Professional

Microsoft[®] Windows[®] 2000 Server

- ・ Windows NT[®] の製品名は以下のとおりです。

Microsoft[®] Windows NT[®] Server 4.0

Microsoft[®] Windows NT[®] Workstation 4.0

その他の社名、製品名はそれぞれの会社の商標または登録商標です。

本書の構成

本書はマイツール フリーウェアバージョン（以下、マイツールと略します）の操作説明書です。
この『命令辞典』は、以下の2つのPARTで構成しています。

PART1 マイツールの命令（アルファベット順）

マイツールの各命令の操作手順や、操作時における補足事項について説明します。アルファベット順になっていますので、辞書を引くように調べることができます。

PART2 資料

マイツールの操作を誤ったときに表示されるエラーメッセージの原因とその対策、およびマニュアル中にてくる用語を解説しています。

キー表記について

本書では、操作説明のキーについて以下のような決まりをもうけて表記しています。

- “コンパクトキーボード”と“それ以外のキーボード”では、キーボード上の表示が異なります。そこで、本書では“コンパクトキーボード”のキーに続けて、カッコ（）で囲んで“それ以外のキーボード”の場合のキーを表記しています。

《例》  (Delete) キー → “コンパクトキーボード”では  キー
“それ以外のキーボード”では  キー

- “それ以外キーボード”の  (改行) キーと  (エスケープ) キーは、“コンパクトキーボード”に合わせて表記しています。

《例》  キー（コンパクトキーボード）
 キー（それ以外のキーボード） } →  キーに統一して表記
 キー（コンパクトキーボード）
 キー（それ以外のキーボード） } →  キーに統一して表記

- 本文中の文字入力の表記は、入力状態が「英数」のときに押したキーを表わしています。

《例》  と  い  か →    と表記

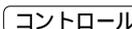
- 漢字の入力を促す場合は、そのまま表記しています。

《例》 売上  → “売上”と文字入力して  キーを押す

- シフトキーを押しながら入力する文字は、シフトキーの表記を省略しています。

《例》  キーを押しながら  キーを押す →  と表記

- 一つのキーを押しながら、別のキーを押すような場合は、キーを“+”でつないで表記しています。

《例》  キーを押しながら  キーを押す →  +  と表記

目次

はじめに・おねがい

本書の構成.....	3
目次.....	4
機能別命令一覧.....	8
メニューバーとプルダウンメニュー.....	12
ページの読み方.....	14

PART1 マイツールの命令

命令	処理概要	ページ
ACM	累計を求める	16
ACMC	条件を指定して累計を求める	18
ADD	V型ファイルにページを追加する	21
AV	平均を求める	22
BC	列のデータだけを空白にする	23
BEST	ベスト10、ワースト10などを求める	24
BFL	イメージデータなどのファイル一覧を作成する	26
BGS	BMP形式の画像データをグレースケールに変換する	28
BL	行を空白にする	30
BLOG	ロギングエリアの内容を消去する	31
BMPR	BMPファイルを読み出す	32
BMPW	BMPファイルを書き込む	33
BMS	BMP形式の画像データを2値化する	35
BR	指定した範囲のセルを空白にする	37
BT	ページの内容を空白にする	38
BTN	命令などを登録したボタンを表示する	39
C	四則演算・関数計算を行う	42
CALE	カレンダーを作成する	60
CCOPY	クリップボードへデータを転送する	63
CF	列の桁数を変更する	64
CFA	すべての列の桁数を変更する	67
CFP	指定した列の分離・結合を行う	69
CGET	CSV形式のファイルをマイツールデータに変換する	71
CHF	現在のファイルを変更する	72
CMD	命令を登録する	74
CMP	おもて画面と裏画面のデータを比較して色をつける	76
CNC	条件ページの条件と一致した行を計算する	79
COPY	ページの内容を別のページにコピーする	81
CPAST	クリップボードからデータを取り込む	83
CPC	列の内容を複写する	85
CPD	データフロッピーやファイルをコピーする	86
CPL	行の内容を複写する	88
CPPB	裏画面の指定したセルの内容を、おもて画面の表に複写する	89
CPR	指定した範囲の内容を複写する	91

命令	処理概要	ページ
CPRB	裏画面の指定した範囲の内容を、おもて画面の表に複写する	92
CPS	ページサイズを変更する	94
CPSL	ページサイズを行数で変更する	96
CPUT	マイツールデータをCSV形式のファイルに変換する	97
CT	表題を変更する	98
CTP	文字タイプやページのモードを変更する	99
D	画面の先頭を表示する	101
DATE	日付を変更する	102
DATEMY	マイツール上での日付を変更する	103
DC	列を削除する	104
DCM	数値のカンマを削除する	105
DF	デザインページを使って、データの検索や修正を行う	106
DFL	イメージ、音声、動画などのファイルを削除する	119
DIA	画面のページ情報を表示する	121
DIF	データの変位を求める	122
DL	行を削除する	124
DOC	おもて画面の下に裏画面を結合する	125
DOCR	おもて画面の上に裏画面を結合する	126
DOS	DOSに移行する	127
DP	指定したセル位置から表示する	128
DR	小数点以下の桁数や端数処理を設定する	129
DRC	縦ケイ線を引く	131
DRL	横ケイ線を引く	132
DS	画面分割の設定を変更する	133
DSH	重複しているデータを抜き出す	135
DW	ワークエリアを表示する	137
E	表にデータを追加する	138
EC	列方向にデータを入力する	139
ED	ワープロとして使う	140
EF	デザインページを使って表にデータを入れる	158
EL	行方向にデータを入力する	168
END	マイツールを終了する	169
ENDW	Windowsを終了する	170
EP	指定したセルにデータを入力する	171
ER	指定した範囲のセルにデータを入力する	172

命令	処理概要	ページ
F	新しく表を作る	173
FILE	ファイルの作成や変更を行う	175
FILEX	ページファイルを作成したり変更する	186
FKS	ファンクションキーに登録する	189
FS	用紙サイズを指定して表を作る	191
G	データをグラフにする	193
GEDR	DOS版マイツールのGED命令で作成した絵を読み出す	220
HELP	マイツールヘルプの目次を表示する	221
IC	表に列を挿入して、データを入力する	226
ICB	裏画面の列を指定して、おもて画面に挿入する	228
ICM	数値の3桁ごとにカンマを挿入する	229
ICS	表にスペース列を挿入する	230
ICW	ワークエリアのデータを、画面の列に挿入する	231
IL	表に行を挿入して、データを入力する	233
ILB	裏画面の行を指定して、おもて画面に挿入する	234
ILS	表にスペース行を挿入する	235
ILW	ワークエリアのデータを、おもて画面の行に挿入する	236
INI	データフロッピーを初期化する	238
LDC	SVC命令で保管してある列を読み出す	241
LDL	SVL命令で保管してある行を読み出す	242
LDP	SVP命令で保管してあるセルを読み出す	243
LOCK	共有ファイルを占有する	244
LPSET	レーザープリンタの印刷方法を設定する	250
M	S命令で並べかえたデータどうしを併合する	252
MAT	表と表を照合して、必要な列で新しい表を作る	256
MAV	移動平均を求める	258
MC	列を移動する	259
ML	行を移動する	260
MOVIE	動画データを再生する	261
MPAST	クリップボードからタブ区切り形式のデータを取り込む	262
MT	ページを移動する	263

命令	処理概要	ページ
MTE	複数の表と複数の表を照合して、必要な列で新しい表を作る	265
MTL	マトリックスデータを1行1データにする	268
NUM	列方向・行方向に連番を入力する	270
OCR	文字イメージを表のデータにする	272
OCRS	文字イメージを文章データにする	274
OFFDATE	タイトル行に日付を表示しない	276
ONDATE	タイトル行に日付を表示する	277
P	画面の内容を印刷する	278
PAGE・PCAN・PRUN	ページ間処理を行う	279
PB	裏画面を印刷する	282
PC	文字間をつめて印刷する	283
PD	複数ページを印刷する	284
PE	印刷範囲などを指定して印刷する	285
PER	百分率を求める	287
PF	デザインページの書式で印刷する	289
PFF	用紙を送る	295
PFG	イメージデータを使って書式印刷する	296
PFGC	PFG命令のデザインページを作成する	297
PG	グラフを印刷する	304
PL	印刷時のレイアウトを表示する	305
PLAY	WAVファイルを再生する	307
PR	画面の縦・横を入れかえて印刷する	308
PRO	オートプログラムに登録する	309
PRT	ページにプロテクトをかけて保護する	311
PSET	印刷方法などを設定する	313
PT	ページのタイトル一覧を印刷する	322
PTF	用紙の先頭位置を決める	323
PTS	サブページのタイトル一覧を印刷する	324
PUL	必要な行のみ抜き出して、それ以外の行を削除する	325
R	指定したページを画面に読み出す	326
RANK	データを集計して順位をつける	328
RB	指定したページを裏画面に読み出す	330
RBB	指定したページを参照画面に読み出す	332
RC	複数ページの内容をつないで、1画面で表示する	334
REC	WAVファイルを作成する	336

命令	処理概要	ページ
RF	表のフォーマットを、指定した表に合わせる	337
RFL	ページファイルを読み出す	339
RLOG	これまで使った命令やデータを画面に読み出す	340
ROC	列のデータを縦方向にずらす	341
ROL	行のデータを横方向にずらす	343
RUN	オートプログラムを実行する	345
RV	1つ前の画面に戻す	346
S	データを並べ替える	347
SC	データをセンタリングする	351
SEPA	列を分離する	352
SET	ページの大きさやモードなどを設定する	353
SETC	マウスの移動速度やブザー音などを調整する	357
SETD	キーボードやかな漢などを設定する	361
SETM	プルダウンメニューの内容を変更する	363
SETP	画面に固定する行や列、またはデータにつける色を設定する	364
SETX	フォーマット行やデータ行を変更する	367
SF	スキャナーで、データをイメージとして取り込む	368
SFE	スキャナーフォーマットページを作成する	370
SGET	他のファイルをマイツールデータに変換する	377
SH	データを検索する	381
SHD	データを検索して、元データから抜き出す	388
SHG	キーページに合わせて検索・整理する	390
SHT	表題をグループに分ける	392
SHU	データを検索して、条件に合うデータを書きかえる	393
SIM	データを修正してから、計算式にしたがって再計算する	399
SL	データを左に寄せる	403
SPUT	マイツールデータを他のファイルに変換する	404

命令	処理概要	ページ
SR	データを右に寄せる	407
ST	条件を指定してページを並べかえる	408
STAT	データを集計して分析値を求める	410
SV	画面の内容を一時的に保管する	412
SVC	列の内容を保管する	413
SVL	行の内容を保管する	414
SVP	セルの内容を保管する	415
T	タイトル一覧を表示する	416
TAB	ファンクションタブレットに言葉や命令を登録する (Mr. シリーズ)	417
TC	小計・総計を求める	420
TF	ファイル一覧を表示する	422
TIME	時刻の表示や変更を行う	423
TL	縦方向・横方向の合計を求める	424
TM	縦軸・横軸を指定してマトリックス表を作る	425
TMT	縦軸・第2縦軸・横軸を指定して、三次元マトリックス表を作る	430
TP	複数ページの同位置のセルの数値を計算する	432
TRP	行と列を入れかえる	434
TS	サブページのタイトル一覧を表示する	436
UNIT	複数の列を結合する	429
UNLOCK	共有ファイルの占有を解除する	437
UPD	表と表を照合して、条件に合うデータを書きかえる	438
UPDS	複数の表と複数の表を照合して、条件に合うデータを書きかえる	439
UPM	表と表と照合して、条件に合うデータを集計する	446
VOICE	文章データを音声で読みあげる	450
VSP	表のデータを音声で読みあげる	453
VT	データを時系列で集計する	455
W	指定したページに画面の内容を書き込む	456
WB	裏画面を指定したページに書き込む	459
WC	RC命令でつないだページを、指定したページに書き込む	461
WFL	ページファイルを書き込む	463
WINEXE	アプリケーションを起動する	465

命令	処理概要	ページ
X	おもて画面と裏画面を入れかえる	466
XY	項目行を指定して、表の行と列を入れかえる	467

PART2 資 料

エラーメッセージと対策	470
用語解説	479
指定方法一覧	488
マイツール命令早見表	490

機能別命令一覧

データを読み出す命令

ページ

R.....	指定したページを画面に読み出す	319
RB.....	指定したページを裏画面に読み出す	323
RB B.....	指定したページを参照画面に読み出す	325
RV.....	1つ前の画面に戻る	339
RC.....	複数ページの内容をつないで、1画面で表示する	327
RLOG.....	これまで使った命令やデータを画面に読み出す	333
GEDR.....	DOS版マイツールのGED命令で作成した絵を読み出す	217
RFL.....	ページファイルを読み出す	332

データを書き込む命令

ページ

W.....	指定したページに画面の内容を書き込む	450
WC.....	RC命令でつないだページを、指定したページに書き込む	453
WB.....	裏画面を指定したページに書き込む	452
WFL.....	ページファイルを書き込む	454

画面表示をかえる命令

ページ

D.....	画面の先頭を表示する	99
DP.....	指定したセル位置から表示する	125
DS.....	画面分割の設定を変更する	130
T.....	タイトル一覧を表示する	408
TS.....	サブページのタイトル一覧を表示する	428
X.....	おもて画面と裏画面を入れかえる	457
PL.....	印刷時のレイアウトを表示する	297
DW.....	ワークエリアを表示する	134

新しく表を作る命令

ページ

F.....	新しく表を作る	170
FS.....	用紙サイズを指定して表を作る	188
CAL E.....	カレンダーを作成する	60

表にデータを入力する命令

ページ

E.....	表にデータを追加する	135
EC.....	列方向にデータを入力する	136
EL.....	行方向にデータを入力する	165
ER.....	指定した範囲のセルにデータを入力する	169
EP.....	指定したセルにデータを入力する	168
EF.....	デザインページを使って表にデータを入力する	155
NUM.....	列方向・行方向に連番を入力する	264

印刷や印刷の設定をする命令

ページ

P.....	画面の内容を印刷する	270
PB.....	裏画面を印刷する	274
PC.....	文字間をつめて印刷する	275
PD.....	複数ページを印刷する	276
PE.....	印刷範囲などを指定して印刷する	277
PG.....	グラフを印刷する	296
PR.....	画面の縦・横を入れかえて印刷する	300
PT.....	ページのタイトル一覧を印刷する	315
PTS.....	サブページのタイトル一覧を印刷する	317
FFF.....	用紙を送る	287
PTF.....	用紙の先頭位置を決める	316
PF.....	デザインページの書式で印刷する	281
PF G.....	イメージデータを使って書式印刷する	288
PF G E.....	PF G命令のデザインページを作成する	289
PL.....	印刷時のレイアウトを表示する	297
PSET.....	印刷方法などを設定する	306
L P S E T... ..	レーザープリンタの印刷方法を設定する	240

プロテクトの設定・解除をする命令

ページ

PRT.....	ページにプロテクトをかけて保護する	304
FILE.....	V型ファイルにプロテクトをかける	172
FILE X... ..	ページファイルにプロテクトをかける	183

計算や計算時の設定をする命令

ページ

C.....	四則演算・関数計算を行う	42
TC.....	小計・総計を求める	412
TL.....	縦方向・横方向の合計を求める	416
TP.....	複数ページの同位置のセルの数値を計算する	424
AV.....	平均を求める	22
MAV.....	移動平均を求める	252
ACM.....	累計を求める	16
ACMC.....	条件を指定して累計を求める	18
CNC.....	条件ページの条件と一致した行を計算する	78
SIM.....	データを修正してから、計算式にしたがって再計算する	391
DR.....	小数点以下の桁数や端数処理を設定する	126

データを集計する命令

ページ

BEST.....	ベスト10、ワースト10などを求める	24
RANK.....	データを集計して順位をつける	321
PER.....	百分率を求める	279
TM.....	縦軸・横軸を指定してマトリックス表を作る	417
TMT.....	縦軸・第2縦軸・横軸を指定して、3次元マトリックス表を作る	422
STAT.....	データを集計して分析値を求める	402
DIF.....	データの変位を求める	119
VT.....	データを時系列で集計する	447

グラフを作成する命令

ページ

G.....	データをグラフにする	190
--------	------------	-----

データを分類する命令

ページ

S.....	データを並べかえる	340
M.....	S命令で並べかえたデータどうしを併合する	246

データを検索する命令

ページ

SH.....	データを検索する	373
SHD.....	データを検索して、元データから抜き出す	380
SHG.....	キーページに合わせて検索・整理する	382
SHU.....	データを検索して、条件に合うデータを書きかえる	385
DF.....	デザインページを使って、データの検索や修正を行う	103
DSH.....	重複しているデータを抜き出す	132

表のデータを照合する命令

ページ

CMP.....	おもて画面と裏画面のデータを比較して色をつける	75
MAT.....	表と表を照合して、必要な列で新しい表を作る	248
MTE.....	複数の表と複数の表を照合して、必要な列で新しい表を作る	259
UPD.....	表と表を照合して、条件に合うデータを書きかえる	430
UPDS.....	複数の表と複数の表を照合して、条件に合うデータを書きかえる	437
UPM.....	表と表と照合して、条件に合うデータを集計する	441

表の行や列を修正する命令

ページ

DC.....	列を削除する	101
DL.....	行を削除する	121
BC.....	列のデータだけを空白にする	23
BL.....	行を空白にする	30
BR.....	指定した範囲のセルを空白にする	37
IC.....	表に列を挿入して、データを入力する	223
IL.....	表に行を挿入して、データを入力する	230
ICS.....	表にスペース列を挿入する	227
ILS.....	表にスペース行を挿入する	232
ICB.....	裏画面の列を指定して、おもて画面に挿入する	225
ILB.....	裏画面の行を指定して、おもて画面に挿入する	231
ICW.....	ワークエリアのデータを、画面の列に挿入する	228
ILW.....	ワークエリアのデータを、おもて画面の行に挿入する	233
MC.....	列を移動する	254
ML.....	行を移動する	255
ROC.....	列のデータを縦方向にずらす	334
ROL.....	行のデータを横方向にずらす	336
CPC.....	列の内容を複製する	84
CPL.....	行の内容を複製する	87
CPR.....	指定した範囲の内容を複製する	90
CPRB.....	裏画面の指定した範囲の内容を、おもて画面の表に複製する	91
CPPB.....	裏画面の指定したセルの内容を、おもて画面の表に複製する	88
PUL.....	必要な行のみ抜き出して、それ以外の行を削除する	318

フォーマットを変更する命令

ページ

MTL.....	マトリクスデータを1行1データにする	262
CF.....	列の桁数を変更する	64
CFA.....	すべての列の桁数を変更する	67
CFP.....	指定した列の分離・結合を行う	69
SEPA.....	列を分離する	345
UNIT.....	複数の列を結合する	429
TRP.....	行と列を入れかえる	426
XY.....	項目行を指定して、表の行と列を入れかえる	458
RF.....	表のフォーマットを、指定した表に合わせる	330

表や文書を編集する命令

ページ

ED.....	ワープロとして使う	137
CT.....	表題を変更する	96
CTP.....	文字タイプやページの変更にモードを変更する	97
CPS.....	ページサイズを変更する	93
CPSL.....	ページサイズを行数で変更する	95
DRL.....	横ケイ線を引く	129
DRC.....	縦ケイ線を引く	128
SL.....	データを左に寄せる	395
SC.....	データをセンタリングする	344
SR.....	データを右に寄せる	399
ICM.....	数値の3桁ごとにカンマを挿入する	226
DCM.....	数値のカンマを削除する	102
DOC.....	おもて画面の下に裏画面を結合する	122
DOCR.....	おもて画面の上に裏画面を結合する	123

画面やモードの設定をする命令

ページ

SET.....	ページの大きさやモードなどを設定する	346
SETC.....	マウスの移動速度やブザー音などを調整する	350
SETD.....	キーボードやかな漢などを設定する	354
SETM.....	ブルダウメニューやツールバーへの登録や変更を行う	355
SETP.....	画面に固定する行や列、またはデータにつける色を設定する	356
SETX.....	フォーマット行やデータ行を変更する	359

データの保管・取り出しをする命令

ページ

SV.....	画面の内容を一時的に保管する	404
SVL.....	行の内容を保管する	406
SVC.....	列の内容を保管する	405
SVP.....	セルの内容を保管する	407
LDL.....	SVL命令で保管してある行を読み出す	238
LDC.....	SVC命令で保管してある列を読み出す	237
LDP.....	SVP命令で保管してあるセルを読み出す	239

セミオートやオートプログラムを扱う命令

ページ

CMD.....	命令を登録する	73
FKS.....	ファンクションキーに登録する	186
BTN.....	命令などをボタンに登録する	39
PRO.....	オートプログラムを登録する	301
RUN.....	オートプログラムを実行する	338

ページ間処理を行う命令

ページ

PAGE		
PRUN.....	ページ間処理を行う	271
PCAN		

ページの情報や命令の説明を見る命令

ページ

DIA.....	画面のページ情報を表示する	118
HELP.....	マイツールヘルプの目次を表示する	218

ファイルを扱う命令

ページ

FILE.....	ファイルの作成や変更を行う	172
FILEX...	ページファイルを作成したり変更する	183
TF.....	ファイル一覧を表示する	414
CHF.....	現在のファイルを変更する	71
ADD.....	V型ファイルにページを追加する	21

フロッピーを扱う命令

ページ

INI.....	データフロッピーを初期化する	235
----------	----------------	-----

データをコピーする命令

ページ

COPY.....	ページの内容を別のページにコピーする	80
CPD.....	データフロッピーやファイルをコピーする	85

時刻や日付を表示・変更する命令

ページ

DATE.....	日付を変更する	100
TIME.....	時刻の表示や変更を行う	415

タイトルを分類したり空白にする命令

ページ

SHT.....	表題をグループに分ける	384
BT.....	ページの内容を空白にする	38
MT.....	ページを移動する	257
ST.....	条件を指定してページを並べかえる	400

システムを扱う命令

ページ

DOS.....	DOSに移行する	124
WINEXE	アプリケーションを起動する	456
...		

ロギングエリアの内容を消去する命令

ページ

BLOG.....	ロギングエリアの内容を消去する	31
-----------	-----------------	----

データのやり取りを扱う命令

ページ

SGET.....	他のファイルをマイツールデータに変換する	369
SPUT.....	マイツールデータを他のファイルに変換する	396
CCOPY...	クリップボードへデータを転送する	63
CPAST...	クリップボードからデータを取り込む	82

イメージデータを扱う命令

ページ

BFL.....	イメージデータなどのファイル一覧を作成する	26
BMPR.....	BMPファイルを読み出す	32
BMPW.....	BMPファイルを書き込む	33
BGS.....	BMP形式の画像データをグレースケールに変換する	28
BMS.....	BMP形式の画像データを2値化する	35
DFL.....	イメージデータなどのファイルを削除する	116
OCR.....	文字イメージを表のデータにする	266
OCRS.....	文字イメージを文章データにする	268

動画データを扱う命令

ページ

MOVIE...	動画データを再生する	256
----------	------------	-----

音声データを扱う命令

ページ

REC.....	WAVファイルを作成する	329
PLAY.....	WAVファイルを再生する	299
VOICE...	文章データを音声で読みあげる	444
VSP.....	表のデータを音声で読みあげる	446

スキャナーを扱う命令

ページ

SF.....	スキャナーで、データをイメージとして取り込む	360
SFE.....	スキャナーフォーマットページを作成する	362

マイツールを終了する命令

ページ

END.....	マイツールを終了する	166
ENDW.....	Windowsを終了する	167

メニューバーとプルダウンメニュー

画面の上部には、メニューバーが表示されます。マウスを使ってメニューを選ぶと、下のようなプルダウンメニューが表示されます。さらに、プルダウンメニューの中からマウスで機能を選んで、マイツールの命令を使います。

「仕事は = 」表示中

		基本	表作成	行	列	変更
電卓 テンキー 外字	[画面分割] 上下分割画面 左右分割画面 [副画面表示] フロントエリア バックエリア タイトル ワークエリア ロギングエリア ファイル [列表示] 番号 桁数 累計桁数	T タイトル	E 入力	IL 挿入	IC 挿入	CF 桁数
		TS タイトル	EL 行入力	ILS 空白挿入	ICS 空白挿入	CFP 分離結合
		R 読む	EC 列入力	ILB 裏行挿入	ICB 裏列挿入	SL 左寄せ
		RV リカバリ	ER 範囲入力	DRL 横線	DRC 縦線	SR 右寄せ
		W 書く	EF 書式入力	DL 削除	DC 削除	SC 中央寄せ
		D 表示	DF 簡易書式入力	BL データ消去	BC データ消去	BR データ消去
		X 裏画面	F 表作成	CPL 複写	CPC 複写	CPR 複写
		ED ワプロ	FS 表選択	ML 移動	MC 移動	CT 表題
		G グラフ		ROL 横移動	ROC 縦移動	CTP 型式
		SET 設定		SVL 保管	SVC 保管	CPS 文字サイズ
		SETC 操作設定		LDL 読み出し	LDC 読み出し	ICM カマ挿入
		SETD 環境設定				DCM カマ削除
		HELP ヘルプ				

C 命令中

		命令	一般関数	特殊関数	その他の関数
電卓 時計 カレンダー テンキー 外字	[画面分割] 上下分割画面 左右分割画面 [副画面表示] フロントエリア バックエリア タイトル ワークエリア ロギングエリア ファイル [列表示] 番号 桁数 累計桁数	D 画面	ABS 絶対値	ADD 連続加算	CNT カウント
		DW ワークエリア	SIN 正弦	SUB 連続減算	STR スtring
		DR 小数点	COS 余弦	MLT 連続乗算	SEQ 順番
		CF 桁数	TAN 正接	DVD 連続除算	YMD 日付
		TL 合計	ATN 逆正接	MAX 最大値	RAND 乱数
		AV 平均	EXP 指数	MIN 最小値	PER 複利計算
		ICM カマ挿入	LOG 自然対数	AVE 範囲平均	[時間関数] TIM 時間
		DCM カマ削除	SQR 平方根	SUM 範囲合計	HRS 10進変換 HMS 60進変換
		ACM 繰り越し	SGN 符号		[定数] PAI 円周率
		RV リカバリ	INT 整数化		[演算子] MOD 剰余演算 ** 累乗
		SV セーブ			

E D 命令中

		F 1 範囲	F 2 編集	F 3 倍角	F 4 行編集	F 5 挿入移動
電卓 時計 カレンダー テンキー 外字	[画面分割] 上下分割画面 左右分割画面 [副画面表示] フロントエリア バックエリア タイトル ワークエリア ロギングエリア ファイル [列表示] 番号 桁数 累計桁数	1: 全画面	1: 枠あけ	1: 横倍角	1: 右寄せ	1: 行挿入
		2: 単一	2: レイアウト変更	2: 縦倍角	2: 左寄せ	2: 行移動
		3: 複数	3: 半改行	3: 4倍角	3: センタリング	3: 文移動
		4: 列	4: 無改行	4: 倍角削除	4: 均等割付け	4: ブロック移動
		5: 改行マーク	5: 検索			
			6: 置換			

計算		分類検索	印刷	マルチメディア			
C	計 算	S	並べかえ	P	印 刷	VOICE	読み上げ
DR	小 数 点	M	併 合	PC	コンバクト	VSP	表読み上げ
TL	合 計	SH	検 索	PD	複 数	REC	録 音
AV	平 均	SHD	検索削除	PE	編 集	PLAY	音 再 生
SIM	再 計 算	SHG	検索整理	PF	書 式	MOVIE	映像再生
TC	小 計	SHU	検索更新	PFG	グラフィック書式	BMPR	BMP 読み込み
ACM	繰り越し	CNC	条件計算	PG	グ ラ フ	BMPW	BMP 書き込み
ACMC	条件繰越	MAT	照合作表	PR	ね か せ	BGS	BMP グレイスケール変換
MAV	移動平均	UPD	条件更新	PT	表 題	BMS	BMP モノ加変換
TM	二 次 元	DF	カード型検索	PFF	紙 送 り	OCR	文字認識
TP	複数集計			PTF	紙 先 頭	OCRS	文章認識
				PL	レイアウト	SF	スキャ-取り込み
				PSET	設 定	SFE	SF デザイン作成
						PFGE	PFG デザイン作成

F 6 削除	F 7 複写	F 8 ケイ線・設定
1 : 行 削 除	1 : 行 複 写	1 : ケイ線モード
2 : 文 削 除	2 : 文 複 写	2 : ケイ線描画
3 : ブロック削除	3 : ブロック複写	3 : 裏画面読込
		4 : リカバリ
		5 : セ ー ブ
		6 : タ ブ
		7 : 横サイズ変更

ページの読み方

PART 1「マイツールの命令」では、次のような表記で各命令の操作手順を解説しています。

命令を実行する際に、特に注意してほしいことがある場合、重要事項として表記しています。

ACMC

Accumulate with Control (アキュムレート ウィズ コントロール)

条件を指定して累計を求める

- 指定したキー列の内容が変わるごとに、繰り越し計算を行います。
- 複数ページにわたる繰り越し計算ができます。
- 計算結果が見やすくなるように行間を空けたり、キーが変わるたびにページをかえたりすることもできます。

重要

- 複数ページの繰り越し計算を行う場合、結果の書き込み先に計算するページと同じページを指定しないでください。元データが失われるおそれがあります。

実行前の確認

- あらかじめ、S命令で、キー列にする列で並べかえておきます。
- 小数点以下の設定は、あらかじめDR命令で設定しておきます。

類似命令

- ACM...画面の表の累計を求める。

仕事は =



計算するページは [画面 ↵] :

繰り越し計算を行うページを指定します。複数ページにわたって計算することも、画面のデータだけを計算することもできます。

- 画面データの繰り越し計算を行う。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1番目のキー列は [終了 ↵] :

1番目のキー列にする列の番号を指定します。

- 1列目をキー列に指定する。
 - キー列は指定しない。
- 単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

命令を実行する前に、確認してほしい事柄です。

操作時の、主な入力例を“ ”の後に表記しています。

入力バーや、画面に表示されるメッセージボックスの内容です。

上に書かれている、主な入力例以外の指定方法をまとめて表記しています。それぞれの指定方法については、488ページの「指定方法一覧」をご覧ください。

その他の補足説明を、操作説明の後の **INFORMATION** で説明しています。合わせてお読みください。

PART1

マイツールの命令 **(アルファベット順)**



- 画面の表を行方向、または列方向で繰り越し計算します。
- 加算・減算・乗算・除算の繰り越し計算ができます。

実行前の確認

- 小数点以下の設定は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- ACM命令で計算できるのは画面の表だけです。複数ページの繰り越し計算を行う場合は、ACMC命令を使ってください。
- 計算結果の桁数が書き込み場所の列に収まらない場合は“*”でうめられます。あらかじめ注意してください。

類似命令

- ACMC...条件を指定して累計を求める。

仕事は =

計算場所は
(データの場所, 書き込み場所) :

計算するデータの列(または行)と、計算結果を書き込む列(または行・ワークエリア)を指定します。指定方法は次のとおりです。

行方向の計算... 列方向の計算...

┌──────────┐
┌──────────┐
 計算データ行・列 書き込み場所

- 4列目のデータを繰り越し計算して、5列目に書き込む。
- 6行目のデータを繰り越し計算して、7行目に書き込む。
- 4列目のデータを繰り越し計算して、ワークエリアの2列目に書き込む。
- 4列目のデータを繰り越し計算して、4列目に上書きする。

★書き込み場所を省略すると、計算結果を最終列(または行)の後ろに追加します。

計算の種類 [+ , - , * , /] :

繰り越し計算の種類を指定します。

- データの先頭から順に加算を繰り返す。
- データの先頭から順に減算を繰り返す。
- データの先頭から順に乗算を繰り返す。
- データの先頭から順に除算を繰り返す。



INFORMATION

- ◆ 計算結果の書き込み場所には、ワークエリアも指定できます(ワークエリアは3列あります)。ワークエリアに書き込んだデータは、DW命令で確認できます。ワークエリアに入れた内容は、C・ILW・ICW命令などで使うことができます。
- ◆ SIM命令の計算式中にACM命令のセミオートを記述すれば、SIM命令で繰り越し計算を使うことができます。

- ◆ 計算場所の指定で、“計算データ行・列”にケイ線の行や列を指定した場合は計算されません。“書き込み場所”にケイ線を指定した場合は、ケイ線上に計算結果が書き込まれます。

例題

5 ページ「売上集計」の売上比率の累計を求めます。

R : 5 回

A C M 回

C 3 , 4 回..... 3 列目の累計を、新しく 4 列目を作って書き込む。

+ 回.....加算で累計を求める。

実行前

5	1	2	3	+	3	+	4	+	5	+	6	+	7
1	[売上集計]								95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12,6												
3													
4	品名	売上	%										
5													
6	F	968,000	37.9										
7	A	754,000	29.5										
8	G	324,000	12.6										
9	B	262,000	10.2										
10	C	128,000	5.0										
11	E	62,000	2.4										
12	D	54,000	2.1										
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
	仕事は=												

実行後

5	1	2	3	4	+	3	+	4	+	5	+	6	+	7
1	[売上集計]									95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12,6,4													
3														
4	品名	売上	%											
5														
6	F	968,000	37.9	38										
7	A	754,000	29.5	68										
8	G	324,000	12.6	81										
9	B	262,000	10.2	91										
10	C	128,000	5.0	96										
11	E	62,000	2.4	98										
12	D	54,000	2.1	100										
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
	仕事は=													

条件を指定して累計を求める

- 指定したキー列の内容が変わるごとに、繰り越し計算を行います。
- 複数ページにわたる繰り越し計算ができます。
- 計算結果が見やすくなるように行間を空けたり、キーが変わるたびにページをかえたりすることもできます。

重要

- 複数ページの繰り越し計算を行う場合、結果の書き込み先に計算するページと同じページを指定しないでください。元データが失われるおそれがあります。

実行前の確認

- あらかじめ、S 命令で、キー列にする列で並べかえておきます。
- 小数点以下の設定は、あらかじめ DR 命令で設定しておきます。

類似命令

- ACM...画面の表の累計を求める。

仕事は =



計算するページは [画面] :

繰り越し計算を行うページを指定します。複数ページにわたって計算することも、画面のデータだけを計算することもできます。

- 画面データの繰り越し計算を行う。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1 番目のキー列は [終了] :

1 番目のキー列にする列の番号を指定します。

- 1 列目をキー列に指定する。
- キー列は指定しない。

単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

2 番目のキー列は [終了] :

複数のキー列を指定する場合は、次のキー列にする列の番号を指定します。これ以上キー列を指定しないときは、[] キーを押します。

- 2 列目を次のキー列に指定する。
- キー列の指定を終了する。

★単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

★繰り越し計算のキー列は、5 つまで指定することができます。

計算場所は
(データの場所、書き込み場所) :

計算するデータの列と、計算結果を書き込む列を指定します。

指定方法は、

C	列番号	,	列番号
---	-----	---	-----

 の形です。

C	列番号
---	-----

計算データ列

,	列番号
---	-----

書き込み場所

- 4 列目のデータを繰り越し計算し、5 列目に書き込む。

- 繰り越し計算をしない。

行方向の計算はできません。

計算の種類は [+ , - , * , /] :

繰り越し計算の種類を指定します。

- データの先頭から順に、加算を繰り返す。
 - データの先頭から順に、減算を繰り返す。
 - データの先頭から順に、乗算を繰り返す。
 - データの先頭から順に、除算を繰り返す。
- ★⑤で[]キーのみを押した場合、このメッセージは表示されません。

[+][] (または[])

[-][]

[*][]

[/][]

I	キーごとにスペース行挿入
L	キーごとに横ケイ線の挿入
P	キーごとに改ページ
K T	計のみ
↵	計算のみ

計算方法は：

結果の書き込みページは
[印刷 P, 画面 ↵]：

繰り越し計算の方法を選択します。

- 指定したキー列の項目が変わるたびに、スペース行を挿入して計算結果を見やすくする。  
 - 指定したキー列の項目が変わるたびに、横ケイ線を挿入して計算結果を見やすくする。  
 - 1 番目に指定したキー列の項目が変わるたびに、ページを変えて書き込む。  
 - キーごとの総累計だけを書き込む。  
 - 累計結果だけを書き込む。 
- ★⑤で  キーのみを押した場合、“計のみ”の指定はできません。
- ★“計のみ”または“計算のみ”を選ぶと、ただちに計算結果がページに書き込まれます。

スペース I、ケイ線 L、改ページ P を選んだ場合、結果をどうするか選択します。複数ページにわたる繰り越し計算の結果、1 ページ内に入りきれないデータは、指定したページを先頭にして順に書き込まれます。

- 印刷する。  
 - 画面に表示する。 
- ★⑦で“計のみ”または“計算のみ”を選ぶと、このメッセージは表示されません。

INFORMATION

- ◆ ACM命令とは異なり、行方向の繰り越し計算はできません。計算結果をワークエリアに書き込むこともできません。
- ◆ “計算方法は：”のメッセージで、“計のみ”または“計算のみ”を選択すると、ページを指定していればその計算結果を書き込みます。画面のデータを指定した場合は表示するだけです。“キーごとに改ページ”を選択すると、1 番目のキーの内容が変わるごとに、ページをかえて計算結果を出します。この場合、書き込み先にページ番号または印刷を選択しないと意味がありません。
- ◆ “スペース行挿入”または“横ケイ線の挿入”を選択すると、キーとする項目数が多い場合や複数ページ指定などでデータ数が多い場合に、結果を画面に表示しきれないことがあります。その場合、最後のデータだけを表示します。
- ◆ 複数ページの処理中、**Esc**キーを押すと、一時停止します。停止中に **↵**キーを押すと再開します。もう一度 **Esc**キーを押すと中止します。
- ◆ “計算方法は：”のメッセージで、“計算のみ”を選択した場合は、計算するページで書き込み禁止のプロテクトをかけたV型ファイルを指定しても書き込んでしまいます。

例題

6 ページ「売上帳」の得意先ごとの売上金額の累計を求めます。

R : 6 回

A C M C 回

回.....画面を計算する。

3 回.....キー列は 3 列目を指定。

回.....キー列の指定を終了する。

C 7 , 8 回..... 7 列目の累計を 8 列目書き込む。

+ 回.....加算で累計を求める。

K T 回.....キーごとの総累計だけを求める。

実行前

6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	【売上帳】				95.03.31	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	118	(株)TO商会	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ	100	800	80,000		
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	10	580	5,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
9	950403	107	(株)神崎建設	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	30	360	10,800		
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ｷｯﾄ	20	500	10,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ｷｯﾄ	20	2,500	50,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	ｺﾝﾊﾞｽ	30	300	9,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ﾎｰﾄｽｸﾙ	15	2,000	30,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
15	950403	107	(株)神崎建設	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ	200	800	160,000		
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚ﾘｰﾌ	150	150	22,500		
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
18	950403	116	(株)全日本出版	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	25	360	9,000		
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ｸﾞｰｽ	100	1,200	120,000		
20	950403	116	(株)全日本出版	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ	6	800	4,800		
21									
≡仕事は≡									



実行後

6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	【売上帳】				95.03.31	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	118	(株)TO商会	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ	100	800	80,000		
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	10	580	5,800		85,800
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
9	950403	107	(株)神崎建設	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	30	360	10,800		
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ｷｯﾄ	20	500	10,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ｷｯﾄ	20	2,500	50,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	ｺﾝﾊﾞｽ	30	300	9,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ﾎｰﾄｽｸﾙ	15	2,000	30,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
15	950403	107	(株)神崎建設	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ	200	800	160,000		
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚ﾘｰﾌ	150	150	22,500		318,900
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
18	950403	116	(株)全日本出版	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	25	360	9,000		
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ｸﾞｰｽ	100	1,200	120,000		
20	950403	116	(株)全日本出版	ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ	6	800	4,800		145,400
21									
≡仕事は≡									

ADD

Adding (アディング)

V型ファイルにページを追加する

- V型ファイルに、ファイルの全体または一部分を追加します。画面のページも追加できます。
- ★ファイルについての詳しい解説は、本書のFILE命令をご覧ください。

仕事は =



どこに追加しますか
(V型ファイル名を入れてください):

ハードディスク内のどのV型ファイルに追加するか、ファイル名を指定します。

- ハードディスク内の“売上”というV型ファイルに追加する。

売上

ファイル【○○】の最終ページは【○○】
です

追加するページを指定します。

- ドライブAの1ページと2ページを追加する。



- ドライブAのフロッピーの内容をすべて追加する。



追加するものは [画面] :

- 画面のデータを追加する。



INFORMATION

- ◆ F型ファイルのすべてのページを追加するときは、次のように指定します。フロッピーの場合“1-100”、ハードディスクの場合“1-最終ページ”。別のV型ファイルのすべてのページを追加するときは、ファイル名のみを指定します。

- 行方向、または列方向の平均を求めます。

実行前の確認

- 小数点以下の設定は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- 平均欄を追加する行、または列が入るスペースがないとエラーになります。

類似命令

- MAV...移動平均を求めます。

仕事は =



平均を求める範囲は :

平均を求める行(または列)の範囲を指定します。

- 行(横)方向の全平均を求める。
 - 列(縦)方向の全平均を求める。
 - 2列目から最終列(T)までの平均を求める。
 - 6行目から最終行(T)までの範囲で、2列目だけの平均を求める。
 - 1列目から最終列(T)までの範囲で、最終行だけは平均を求めない。
- ★単独、連続、複数、混合、H・T、条件式、¥、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ 行または列の平均は、指定された範囲の次の行・列に平均欄を追加して書き込みます。
- ◆ 縦と横の平均は、同時に求められません。
- ◆ スペースは“O”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。
- ◆ 計算結果(整数部)が書き込み先の桁数を超えた場合、そのセルは“*”でうめられます。
- ◆ 求めた平均が割り切れない数の場合には、DR命令で指定した小数点以下まで表示されます。

例題

7ページ「成績集計表」の各教科の平均点を求めます。

R : 7回

AV回

L回.....列方向の平均を求めると。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61
平均	69	66	60	66	66

列のデータだけを空白にする

- 指定した列のデータだけ (項目名は空白にできません) を空白にします。

類似命令

- B L...行を空白にします。
- B R...指定した範囲のセルを空白にします。
- D C...列を削除します。

仕事は =



何列目を空白にしますか :

空白にする列を指定します。

列の指定で だけの指定はできません。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

◆ BC命令で空白にすることができるのは、指定列のデータだけです。項目名やケイ線は空白にすることができません。

◆ 間違って列を空白にしてしまった場合、直後にRV命令を実行すれば、元に戻すことができます。

例題

7 ページ「成績集計表」の、成績データのみを削除します。

R : 7 回

BC 回

2 - 6 回..... 2 列目から 6 列目までのデータを空白にする。

実行前

7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7	
1	[成績集計表]						95.04.01	混	L=0050	C=0170			
2	F=12,6,6,6,6,6												
3													
4	氏	名	国語	数学	理科	社会	英語						
5													
6	北野	広二	85	81	43	71	68						
7	奥村	本泰	61	55	48	65	68						
8	加藤	芳記	80	72	63	71	39						
9	金屋	義子	48	82	63	70	73						
10	原田	秋子	67	55	59	55	46						
11	荒川	康広	74	93	37	65	77						
12	渋谷	行江	72	46	61	69	64						
13	小池	勇作	62	79	52	60	39						
14	水戸	陽子	75	67	79	68	86						
15	杉山	実直	45	38	61	84	90						
16	石田	次郎	82	61	75	66	76						
17	田代	由香	94	68	80	51	61						
18													
19													
20													
21													
	仕事は =												



実行後

7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7	
1	[成績集計表]						95.04.01	混	L=0050	C=0170			
2	F=12,6,6,6,6,6												
3													
4	氏	名	国語	数学	理科	社会	英語						
5													
6	北野	広二											
7	奥村	本泰											
8	加藤	芳記											
9	金屋	義子											
10	原田	秋子											
11	荒川	康広											
12	渋谷	行江											
13	小池	勇作											
14	水戸	陽子											
15	杉山	実直											
16	石田	次郎											
17	田代	由香											
18													
19													
20													
21													
	仕事は =												

BEST

Best Select (ベスト セレクト)

ベスト 10、ワースト 10などを求める

- 指定した列のデータを集計して、順位を大きい順または小さい順で画面に表示します。
- 複数ページにわたって、順位を集計することができます。

類似命令

- RANK...データを集計して順位をつけます。
- S.....データを並べかえます。

仕事は =

B E S T 

集計するページは [画面 ] :

順位を求めるデータのあるページを指定します。

- 画面のデータから順位を求める。 
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

集計する列は :

どの列を集計して順位を求めるか、基準となる列の番号を指定します。

- 表の 1 列目を集計する。  
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥、@指定が可能です。

1 大きい順
2 小さい順

順位を大きい順で求めるか、小さい順で求めるかを番号で選択します。

- 大きい順で順位を求める。   (または )
- 小さい順で順位を求める。  

並べ方は (1 ~ 2) :

いくつまで集計しますか :

第何位までを求めるのか指定します。

- 20 位までを求める。   
-  キーのみは、10 を指定したことになります。

INFORMATION

- ◆ 集計の対象となるのは、数値データだけです。文字データは無視します。空白（スペース）は“0”とみなします。
- ◆ 結果は画面表示されます。書き込み先の指定はできません。複数ページを集計しても、元のデータは書きかえられません。
- ◆ 複数ページを集計中に **エスケープ** キーを押すと一時停止します。停止中に  キーを押すと再開します。もう一度 **エスケープ** キーを押すと処理を中止します。
- ◆ 同じ順位のデータは、指定した範囲の数を超過していても、すべて表示します。

例題

8 ページ「売上帳」の中から、売上金額のベスト10を求めます。

R : 8回

BEST回

- 回.....画面のデータを集計する。
- 10回.....10 列目を基準に集計する。
- 1 回.....大きい順で順位を求める。
- 回.....10 位まで集計する。

実行前

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0078	C=0100			
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12										
3											
4	年月日	伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5											
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000	
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハインター	A	300	360	108,000	
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明本	カット	A	200	500	100,000
9	950403	10002	112	鈴木工務店	1030	ルン	F	2000	500	1,000,000	
10	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1010	透明本	カット	A	250	500	125,000
11	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1002	A3用紙	A	600	620	372,000	
12	950404	10004	106	伊藤テック(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000	
13	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	フイル	A	250	800	200,000	
14	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	フイル	A	200	800	160,000	
15	950406	10006	125	井上ケイブ(株)	1015	鉛筆削り	C	100	1100	110,000	
16	950407	10007	101	(株)TUEE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000	
17	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000	
18	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000	
19	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	フイル	A	100	800	80,000	
20	950410	10010	119	(株)マシカワ	1003	B5用紙	A	1000	480	480,000	
21	950411	10011	122	(株)インテック	1005	ハインター	A	100	360	36,000	

実行後

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日	伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額
5										
6	950403	10002	112	鈴木工務店	1030	ルン	F	2000	500	1,000,000
7	950410	10010	119	(株)マシカワ	1003	B5用紙	A	1000	480	480,000
8	950417	10017	115	中原電機(株)	1013	両面テープ	B	500	800	400,000
9	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1002	A3用紙	A	600	620	372,000
10	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000
11	950417	10027	114	(株)TQ商会	1002	A3用紙	A	500	620	310,000
12	950413	10023	119	(株)マシカワ	1004	B4用紙	A	500	600	300,000
13	950428	10039	101	(株)TUEE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
14	950412	10012	115	中原電機(株)	1003	B5用紙	A	600	480	288,000
15	950413	10013	108	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	200	1200	240,000
16										
17										
18										
19										
20										
21										

イメージデータなどのファイル一覧を作成する

- ハードディスク内に保存されている、イメージ（BMPファイル）、音声（WAVEファイル）、動画（AVIファイル）のファイル名の一覧表を作成します。
- それぞれのファイルが、マイツールのどのファイルのページで使われているかを調べることもできます。
- BFL命令で作成した一覧は、DFL命令で不要なイメージファイルを削除する時に使用します。

実行前の確認

- フロッピーファイルのファイル一覧を作成することはできません。

仕事は =

ファイルのあるディレクトリは
[標準 ↵] :

一覧を作成するデータのあるディレクトリを指定します。

- 標準（マイツールをインストールしたディレクトリの下にある“MYBMP”というディレクトリを指定する。

- マイツールをインストールしたドライブにある“ABC”というディレクトリを指定する。

マイツールをインストールしたディレクトリ以外を指定する場合、ディレクトリ名の前に“¥”を付けて指定します。

《例》“GAZOU”というディレクトリの下にある、“CAR”というディレクトリを指定する。

マイツールをインストールしたドライブ以外にあるディレクトリを指定する場合は、ドライブ名とディレクトリ名をコロン（:）でつなぎ、全体をダブルコーテーション（”）で囲みます。

《例》Dドライブにある、“BMP”というディレクトリを指定する。

イメージ・・・1
音声・・・2
動画・・・3

一覧にするファイルの種類を指定します。

- イメージ（BMP形式の画像）ファイルの一覧表を作る。

- 音声（WAVE形式の音声）ファイルの一覧表を作る。

- 動画（AVI形式の動画）ファイルの一覧表を作る。

- イメージ、音声、動画、すべてのファイルの一覧表を作る。

ファイルの種類は :

表題を付けてください :

一覧表に付ける表題（タイトル）を入力します。

- チェック表と表題を付ける。

チェック表

表題は、全角文字で12字、半角文字で24字以内で付けてください。表題には、自動的に番号が付けられます（一覧表が複数ページになる場合には連番となります）。

キーのみを押すと、自動的に“ファイル使用状況”という表題と連番が付けられます。

作成した一覧表を書き込むページを指定します。

- 画面に表示する。

- 印刷する。

- 10ページから書き込む。

書き込み先頭ページは

[印刷 P, 画面 ↵]

BFL 命令で作られる表

BFL 命令を実行すると、次のような表が作られます。

[ファイル使用状況 1]		98.04.23	混	L=0081	C=0096
F=8,29,22,6					
No	ファイル名	マイツール	ファイル名	ページ	
1				M	10
2					
3	\$\$\$c:¥mtview¥MYBMP¥CHIME01.WAV		MUSIC		1
4	\$\$\$c:¥mtview¥MYBMP¥CHIME02.WAV				
5	\$\$\$c:¥mtview¥MYBMP¥NEWS01.AVI		MOVIE		5

指定されたディレクトリにあるBMP、WAV、AVIファイルが、マイツールのページに取り込まれていない場合、“マイツールファイル名”と“ページ”は空白になります。

“ファイル名”に書き込まれたBMP、WAV、AVIファイルがマイツールのページに取り込まれている場合、そのページがあるファイルの名前と、ページ番号が書き込まれます。

指定されたディレクトリに保存されている、BMP、WAV、AVIファイルの名前が書き込まれます。
BMPファイルであれば、画像が表示されます。

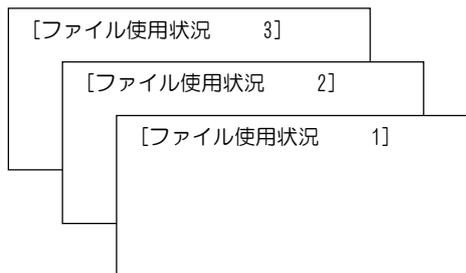
連番がふられます

INFORMATION

- ◆一覧表の作成中、**〔Esc〕**キーを押すと一時停止します。停止中に**〔Enter〕**キーを押すと再開します。もう一度**〔Esc〕**キーを押すと中止します。
- ◆作成される表は、S、M……というように、FILE命令で並んでいるファイルの順番で作成されます。
- ◆A、Bファイル（フロッピードライブ）に対しては処理を行いません。
- ◆指定したディレクトリに、マイツールの表で使われていないファイルがあった場合、一覧表の“マイツールファイル名”“ページ”の内容は空白になります（上図参照）。

- ◆表題には、次のような形式で連番が付けられます。

入力した表題 + 連番 6桁（右詰め）



BMP形式の画像データをグレースケールに変換する

- 表に取り込まれているBMP形式の画像データを、256階調のグレースケールに変換します。

実行前の確認

- グレースケール化した結果を入れる列の桁数が、BMP画像のファイル名を入れるだけの桁数がない場合、処理は行われません。

類似命令

- BMS... BMP形式の画像データを2値化します

仕事は =



グレースケール化する列は :

グレースケール化するBMPファイル名のある、列番号を指定します。

- 2列目のBMPファイル名の画像をグレースケールにする。  

単独指定、条件式指定、@指定が可能です。

書き込み場所は :

グレースケール化したBMPファイル名を書き込む、列番号を指定します。

- グレースケール化した画像のファイル名を、4列目に書き込む。  

単独指定、条件式指定、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆BGS命令は、フルカラーなど色数の多いBMP画像のファイルサイズを小さくしたい場合などに使うと効果的です。ただし、256色カラーの画像をBGS命令でグレースケール化しても、ファイルサイズは変わりません。ファイルサイズを小さくしたい場合は、BMS命令で2値化します。ただし、写真のような画像データは2値化すると判別不可能なほど画質が低下します。

- ◆BGS命令を実行すると、変換前のBMPファイルと同じディレクトリに、グレースケール化されたBMPファイルが書き込まれます。この際、グレースケール化されたBMPファイルには、次のような形式でファイル名が付けられます。

元のファイル名 グレースケール化したファイル名
 《例》 HANA. BMP → HANAG. BMP

上記の場合“HANAG. BMP”というファイルがすでに存在すると、ファイルは上書きされます。また、元の主ファイル名が8文字の場合は、最後の文字が“G”に変わります。

BGS命令でのデータの動き

表に取り込まれているBMP形式の画像といっても、実際には表のセル内に“\$\$○○○.BMP”というようにBMPファイルのファイル名が入力されていて、そのファイルを画面上に表示するようになっているのです。

また、画像を変換するといっても、元のデータを書き替えてしまうわけではありません。

BGS命令を実行するとBMPファイルのデータは、次の例のように処理されます。

[外国旅行記念写真]		95.04.02	混	L=0050	C=0170
No.	16万色	グレースケール		メモ	
1					
2					

マイツールをインストールしたディレクトリ
の下の“MYBMP”というディレクトリに保存
されている“JET.BMP”というBMPファイルの
画像。

セルの中には“\$\$JET.BMP”という文字デー
タが入力されています。

Cドライブの“ETC”というディレクトリに保
存されている“FUKEI.BMP”というBMPファ
イルの画像。

セルの中には“\$\$C:¥ETC¥ETC¥FUKEI.BMP”とい
う文字データが入力されています。



[外国旅行記念写真]		95.04.02	混	L=0050	C=0170
No.	16万色	グレースケール		メモ	
1					
2					

変換前のファイルのあるディレクトリに、
“JETG.BMP”というファイル名で新しく保存さ
れます。

セルの中には“\$\$JETG.BMP”という文字デー
タが入力されます。

変換前のファイルのあるディレクトリに、
“FUKEIG.BMP”というファイル名で新しく保存
されます。

セルの中には“\$\$C:¥ETC¥ETC¥FUKEIG.BMP”とい
う文字データが入力されます。



グレースケール化

INFORMATION

◆表のセル内にBMP画像のファイル名を入力するには、Windowsのエクスプローラからドラッグ&ドロップすると簡単に取り込むことができます。

◆BFL命令で、マイツールの表に取り込まれている画像の一覧を作成することができます。

◆不要になったBMP画像のファイルは、DFL命令で削除することができます。



Blank Line (ブランク ライン)

行を空白にする

- 指定した行を空白にすることができます。

類似命令

- B C ...列のデータだけを空白にします。
- B R ...指定した範囲のセルを空白にします。
- D L ...行を削除します。

仕事は =



何行目を空白にしますか :

空白にする行を指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥、指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ ケイ線は空白にすることができません。ただし、フォーマット行がなければ、ケイ線を空白にできます。
- ◆ 間違っって行を空白にしてしまった場合、直後にRV命令を実行すれば、元に戻すことができます。
- ◆ 行の指定で だけの指定はできません。

例題

7 ページ「成績集計表」のフォーマットを残し、データのみを空白にします。

R : 7回

B L回

6 - 17回..... 6行目から17行目までの行を空白にする。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	85	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語

BLOG

Blank Logging (ブランク ログイング)

ログイングエリアの内容を消去する

- ログイングエリアに保存されている記録を、すべて消去します。

実行前の確認

- 消去したログイングエリアの内容は、RV命令などで戻すことはできませんので注意してください。

仕事は =



ログイングエリアをクリアしました

左のメッセージが表示されます。

INFORMATION

- ◆マイツールを終了すると、ログイングエリアの内容は、自動的に消去されます。
- ◆ログイングエリアは、オートプログラムを作成する時などに使うと便利です。ログイングエリアに保存される手順の記録からオートプログラムを作成する場合、記録する操作を行う前にBLLOG命令を実行して余分な記録を消去しておきます。

- BMP形式の画像ファイルを、画面上に表示します。

実行前の確認

- BMPR命令は、BMPファイルの画像データを画面上に表示するだけです。セルへの画像の取り込みなどはできません。

仕事は =

B M P R 

読み込むファイル名は :

画面上に表示するBMPファイルの、ファイル名を入力します。

ピリオド(.)以下の拡張子は省略可能です。

BMPファイルがマイツールをインストールしたディレクトリの下にある“MYBMP”以外のディレクトリにある場合は、ディレクトリ名を含めて入力します。

- “FLOWER.BMP”というファイルを読み込む。

F L O W E R 

- “ETC”というディレクトリにある、“ANIMAL.BMP”というファイルを読み込む。

¥ E T C ¥ A N I M A L 

ディレクトリ名から指定する場合、ディレクトリ名とファイル名の前に“¥”を付けてください。

マイツールをインストールしたドライブ以外のドライブから読み込む場合は(フロッピードライブなど)、ファイル名の前にドライブ名とコロン(:)を付けて、ダブルコーテーションで囲んでください。

- 《例》Aドライブのフロッピーから“FLOWER.BMP”というファイルを読み込む。

A : ¥ F L O W E R 

《BMPR命令でBMPファイルを表示した例》



INFORMATION

- ◆ BMPR命令で読み込まれたBMPファイルの画像は、画面上に表示されるだけです。画面のスクロールや、他の命令を実行したりすると消去されます。
- ◆ 読み込まれたBMPファイルの画像は、画面左上のページ番号表示部分を基点にして表示されます。
- ◆ お使いのパソコンの“ディスプレイの設定”で設定されている、表示色以上の色数で作られている画像データを表示すると、色がつぶれるなど正常に見ることができない場合があります。

- グラフ画面の内容、もしくはおもて画面に表示されている内容を、BMP形式のファイルとして書き込みます。

実行前の確認

- グラフ画面の内容を書き込む場合、グラフ画面にグラフが無いとエラーになります。あらかじめグラフを作成しておいてください。

仕事は =



書き込む画面は
(1..グラフ画面, 2..おもて画面) :

BMPファイルに書き込む内容を、番号で選択します。

- グラフ画面の内容を書き込む。 (または)
- おもて画面の内容を書き込む。

【 “ 1..グラフ画面 ” を選択したとき、グラフが保管されていなかった場合】

現在グラフは保管されていません

左のメッセージボックスが表示されます。
からの操作をやり直してください。

書き込むファイル名は :

BMPファイルに付ける、ファイル名を入力します。

ピリオド (.) 以下の拡張子は省略可能です。

BMPファイルをマイツールをインストールしたディレクトリ (通常は “MTVIEW”) の下の “MYBMP” 以外のディレクトリに書き込む場合は、ディレクトリ名を含めて入力します。

- “GRAPH.BMP” というファイル名で書き込む。



- “ETC” というディレクトリに、 “GAMEN.BMP” というファイル名で書き込む。



ディレクトリ名から指定する場合、ディレクトリ名とファイル名の前に “ ¥ ” を付けてください。

マイツールをインストールしたドライブ以外のドライブに書き込む場合は (フロッピードライブなど)、ファイル名の前にドライブ名とコロン (:) を付けて、ダブルコーテーションで囲んでください。

《例》 Aドライブのフロッピーへ “GRAPH.BMP” というファイル名で書き込む。



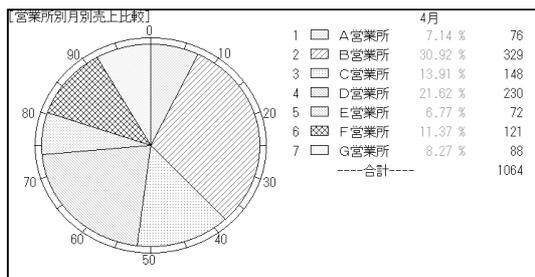
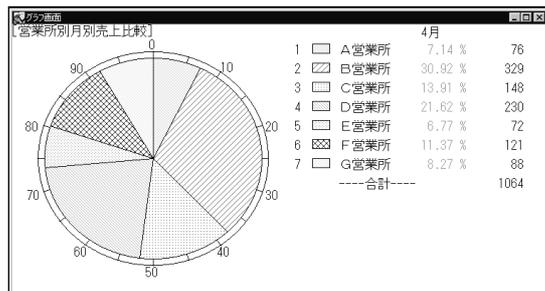
INFORMATION

- ◆ “書き込むファイル名は :” で、すでにあるBMPファイルと同じファイル名を指定すると、上書きされてしまいますので注意してください。ただし、ディレクトリが異なれば同じファイル名を付けても上書きされません。

- ◆ すでにあるファイル名の確認などは、エクスプローラから行うと便利です。マイツール上からエクスプローラを起動するには、W I N E X E 命令で キーのみを押します。

BMPW命令でグラフ画面を書き込んだ場合

次のようなグラフを作成した後、BMPW命令でBMPファイルにすると。



グラフ画面の中の部分が、BMPファイルとして保存されます。

BMPW命令でおもて画面を書き込んだ場合

次のような画面が表示されているとき、BMPW命令でBMPファイルにすると。

	4月	5月	6月	7月
A営業所	76	82	84	91
B営業所	329	334	325	341
C営業所	148	157	167	155
D営業所	230	235	220	202
E営業所	72	78	84	102
F営業所	121	132	118	102
G営業所	88	95	97	106

おもて画面の中の部分が、BMPファイルとして保存されます。

BMP形式の画像データを2値化する

- 2値化とは、カラーや256階調のグレースケール画像を、白と黒の単純モノクロ画像に変換することです。

実行前の確認

- 2値化した結果を入れる列の桁数が、元となる列に書き込まれている、BMP画像のディレクトリ名付きのファイル名を入れるだけの桁数がない場合、処理は行われません。

類似命令

- BGS... BMP画像をグレースケールに変換します。

仕事は =



モノクロにする列は :

2値化するBMP画像のある、列番号を指定します。

- 2列目のBMPファイル名の画像を2値化する。
単独指定、条件式指定、@指定が可能です。



書き込み場所は :

2値化したBMP画像を書き込む、列番号を指定します。

- 2値化したBMPファイル名の画像を4列目に書き込む。
単独指定、条件式指定、@指定が可能です。



基準になる明るさは (0 ~ 255) :

白と黒に分ける際の基準となる色の明るさ (階調) を、0 ~ 255 の範囲で入力します。

- 中間の階調を基準にする。
- 100階調までの色を白にする。
- 200階調までの色を白にする。

128 (または)

100

200

INFORMATION

- ◆ “基準にする階調”とは、256色を0~255の階調に分け、白と黒に分ける階調の境目を決めるものです。たとえば、100と指定すると、99階調までの色をすべて白にし、100階調以上の色を黒とします。
- ◆ BMS命令は、OCR命令で文字イメージをデータに変換する際の下準備などに使います。SF命令で取り込んだ文字イメージの背景に薄い色が付いてしまっていると、OCR命令での読み取り精度が低下します。このような時はBMS命令で、背景を除去して (基準にする階調の指定で、大きい数値を指定する) 文字だけを残すことができます。
- ◆ 2値化したBMPファイルのサイズは小さくなりますので、文字イメージや単純な画像データは2値化して保存しておけばディスク容量を節約することができます。ただし写真のような画像データは、2値化すると判別不可能なほど画質が低下しますので不向きです。

- ◆ 元データが256色以上の画像の場合、自動的に256色のデータに変換してから処理を行います。

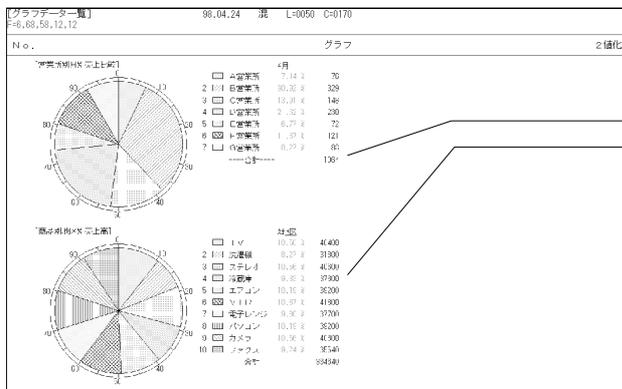
- ◆ BMS命令を実行すると、変換前のBMPファイルと同じディレクトリに、2値化されたBMPファイルが書き込まれます。この際、2値化されたBMPファイルには、次のような形式でファイル名が付けられます。

元のファイル名 2値化したファイル名
《例》 HANA. BMP → HANAM. BMP

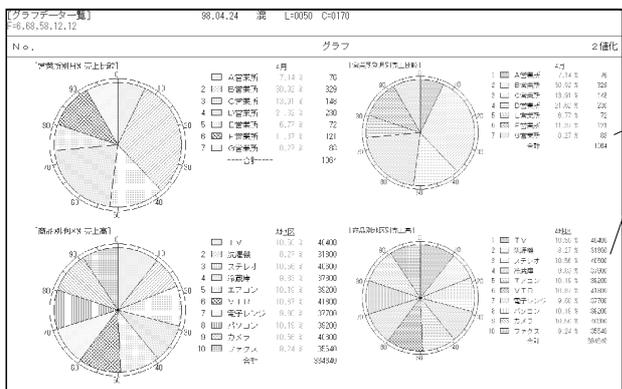
上記の場合 “HANAM. BMP” というファイルがすでに存在すると、ファイルは上書きされます。また、元の主ファイル名が8文字以上の場合、最後の文字が “M” に変わります。

BMS命令でのデータの動き

表に取り込まれているBMP形式の画像といっても、実際には表のセル内に“\$\$○○○.BMP”というようにBMPファイルのファイル名が入力されていて、そのファイルを画面上に表示するようになっています。また、画像を変換するといっても、元のデータを書き替えてしまうわけではありません。BGS命令を実行するとBMPファイルのデータは、次の例のように処理されます。



マイツールをインストールしたディレクトリの下に“MYBMP”のディレクトリに保存されている“GRAPH01.BMP” “GRAPH02.BMP”というBMPファイルの画像。
セルの中には“\$\$GRAPH01.BMP” “\$\$GRAPH02.BMP”という文字データが入力されています。



変換前のファイルのあるディレクトリに、“GRAPH01M.BMP” “GRAPH02M.BMP”というファイル名で新しく保存されます。
セルの中には“\$\$GRAPH01M.BMP” “\$\$GRAPH02M.BMP”という文字データが入力されます。



INFORMATION

- ◆表のセル内にBMP画像のファイル名を入力するには、Windowsのエクスポーラからドラッグ&ドロップすると簡単に取り込むことができます。
- ◆BFL命令で、マイツールの表に取り込まれている画像の一覧を作成することができます。
- ◆不要になったBMP画像のファイルは、DFL命令で削除することができます。

指定した範囲のセルを空白にする

- 指定した範囲のセルを空白にすることができます。

類似命令

- B C ...列のデータだけを空白にします。
- B L ...行だけを空白にします。

仕事は =



何行目を空白にしますか：

空白にする行の範囲を指定します。

単独、連続、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

☞だけの指定はできません。

何列目を空白にしますか：

空白にする列の範囲を指定します。

単独、連続、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

☞だけの指定はできません。

INFORMATION

- ◆ 間違えてセルを空白にしてしまった場合、直後にRV命令を実行すれば、元に戻すことができます。

例題

7ページ「成績集計表」の、指定したセルの範囲を空白にします。

R : 7 ☞

B R ☞

6 - 12 ☞行の範囲は6行目から12行目。

1 ☞列の範囲は1列目。

実行前

7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7	
1	[成績集計表]						95.04.01	混	L=0050	C=0170			
2	F=12,6,6,6,6,6												
3													
4		氏	名	国語	数学	理科	社会	英語					
5													
6		北野	広二	85	81	43	71	68					
7		奥村	本泰	61	55	48	65	68					
8		加藤	芳記	80	72	63	71	39					
9		金屋	義子	48	82	63	70	73					
10		原田	秋子	67	55	59	55	46					
11		荒川	康広	74	93	37	65	77					
12		渋谷	行江	72	46	61	69	64					
13		小池	勇作	62	79	52	60	39					
14		水戸	陽子	75	67	79	68	86					
15		杉山	実貴	45	38	61	84	90					
16		石田	次郎	82	61	75	66	76					
17		田代	由香	94	68	80	51	61					
18													
19													
20													
21													
		仕事は =											

実行後

7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7
1	[成績集計表]						95.04.01	混	L=0050	C=0170		
2	F=12,6,6,6,6,6											
3												
4		氏	名	国語	数学	理科	社会	英語				
5												
6				85	81	43	71	68				
7				61	55	48	65	68				
8				80	72	63	71	39				
9				48	82	63	70	73				
10				67	55	59	55	46				
11				74	93	37	65	77				
12				72	46	61	69	64				
13		小池	勇作	62	79	52	60	39				
14		水戸	陽子	75	67	79	68	86				
15		杉山	実貴	45	38	61	84	90				
16		石田	次郎	82	61	75	66	76				
17		田代	由香	94	68	80	51	61				
18												
19												
20												
21												
		仕事は =										

BT

Blank Title (ブランク タイトル)

ページの内容を空白にする

- 不要なページを、空白ページにします。
- ファイル内の一部分のページだけや、ファイル全体を空白にすることもできます。

仕事は =



空白にするページは :

空白にするページを指定します。

ファイル名のみを指定すると、そのファイルのタイトル一覧を表示します。続けて、空白にするページ番号を指定してください。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

ページ番号を指定すると、現在表示中のファイルのページになります。

よければ [↵] キーを押してください :

指定したページの一覧が表示されます。空白にしてよければ、[↵] キーを押します。

INFORMATION

◆ ファイルそのものを削除はしたい場合は、FILE命令の“5・削除”で行ってください。BT命令はページの内容を空白になるだけで、ファイルそのものは削除されません。

◆ ファイルのページすべてを空白にするのは、FILE命令の“4・クリア”でも行うことができます。

例題

不要になった6ページから13ページを空白ページにします。

下の画面は、サンプルデータフロッピーのデータをMファイルにコピーした場合の画面です。また、この例題を実行するとデータが消えてしまいますので、ご注意ください。

BT

6 - 13回..... 6ページから13ページを指定する。

回..... 空白にするページを確認して、よければ回キーを押す。

実行前

タイトル	表題	作成日	行数	桁数	一覧
1	住所録	95.04.01	16	170	
2				170	
3				170	
4	401	95.04.01	17	170	
5	売上集計	95.04.01	13	120	
6	売上帳	95.04.01	21	120	
7	成集集計表	95.04.01	18	170	
8	売上帳	95.04.01	53	100	
9	売上帳	95.04.01	19	120	
10	支店別売上表94年	95.04.01	10	170	
11	支店別売上表93年	95.04.01	10	170	
12	和西暦年齢	95.04.01	21	170	
13	年齢条件式	95.04.01	10	170	
14	住所録	95.04.01	17	170	
15	テープ貸出 [DF]サマバ	95.04.01	25	170	
16	会員コード表	95.04.01	21	170	
17	作品コード表	95.04.01	22	170	
18	ビデオテープ貸出管理表	95.04.01	21	170	
19	売上集計表	95.04.01	16	170	
20	キャンペーン通知	95.04.01	12	74	

空白にするページは (1 ~ 100) :

実行後

タイトル	表題	作成日	行数	桁数	一覧
1	住所録	95.04.01	16	170	
2				170	
3				170	
4	401	95.04.01	17	170	
5	売上集計	95.04.01	13	120	
6				120	
7				170	
8				100	
9				120	
10				170	
11				170	
12				170	
13				170	
14	住所録	95.04.01	17	170	
15	テープ貸出 [DF]サマバ	95.04.01	25	170	
16	会員コード表	95.04.01	21	170	
17	作品コード表	95.04.01	22	170	
18	ビデオテープ貸出管理表	95.04.01	21	170	
19	売上集計表	95.04.01	16	170	
20	キャンペーン通知	95.04.01	12	74	

仕事は =

命令などを登録したボタンを表示する

- ボタンウィンドウに、BMPファイルの画像をボタンにして表示します。デザインページにセミオートやオートプログラムを登録しておけば、マウスでボタンを押した（マウスで左クリックした）ときに、セミオートなどを実行することができます。
- ボタンが押されたときに、WAVEファイルを再生することもできます。

実行前の確認

- BTN命令を実行するには、あらかじめBMPファイルなどが取り込まれているデザインページを、用意しておく必要があります。また、作成したデザインページは書き込んでおきましょう。

類似命令

- CMD.....命令を登録します。
- SETM...プルダウンメニューやツールバーへの登録や変更をします。

仕事は =



デザインページは [画面 ↵] :

デザインページのあるページ番号を指定します。

- “MENU” というファイルの1ページを指定する。



- 画面に表示されているデザインページを指定する。

単独指定、表題指定、ワイルド指定が可能です。

V型ファイルのページは指定できません。



ボタンアイコンのデザイン列は :

ボタンとして表示するBMPファイルが取り込まれている、列の番号を指定します。

- 2列目を指定する。

単独指定、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。



押下ボタンのアイコンデザイン列は :

ボタンが押されたときに表示するBMPファイルが取り込まれている、列の番号を指定します。

- 4列目を指定する。

単独指定、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。



実行セミオートの列は :

ボタンが押されたときに実行する、セミオートなどが書き込まれている列の番号を指定します。

- 6列目を指定する。

単独指定、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。



ボタン押下時の音声データ列は
[なし ↵] :

ボタンが押されたときに再生する、WAVEファイル名のある列の番号を指定します。

- 8列目を指定する。

- 音声を使わない。

単独指定、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。



ボタンの相対X座標の列は
[自動 ↵] :

ボタンの横方向の表示位置が入力されている、列の番号を指定します。

- 10列目を指定する。

- 自動的にボタンを配置する。

単独指定、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。

ここでいう相対X座標とは、ボタンウィンドウの左上の位置から右方向へのドット数です。詳しくは、後述の「表示位置の指定」をご覧ください。



ボタンの相対Y座標の列は
[自動 ↵] :

ボタンの縦方向の表示位置が入力されている、列の番号を指定します。
● 12 列目を指定する。
● 自動的にボタンを配置する。
単独指定、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。
ここでいう相対Y座標とは、ボタンウィンドウの左上の位置から下方
向へのドット数です。詳しくは、後述の「表示位置の指定」をご覧ください。

ウィンドウのX座標は [自動 ↵] :

画面に表示するボタンウィンドウの横の位置を指定します。
● 基点から 150 ドット右の位置に表示する。

ウィンドウのY座標は [自動 ↵] :

画面に表示するボタンウィンドウの縦の位置を指定します。
● 基点から 200 ドット下の位置に表示する。

ウィンドウの幅は [自動 ↵] :

画面に表示するボタンウィンドウの、横の大きさを指定します。
● 幅を 200 ドットにする。
● 自動的に調整する。

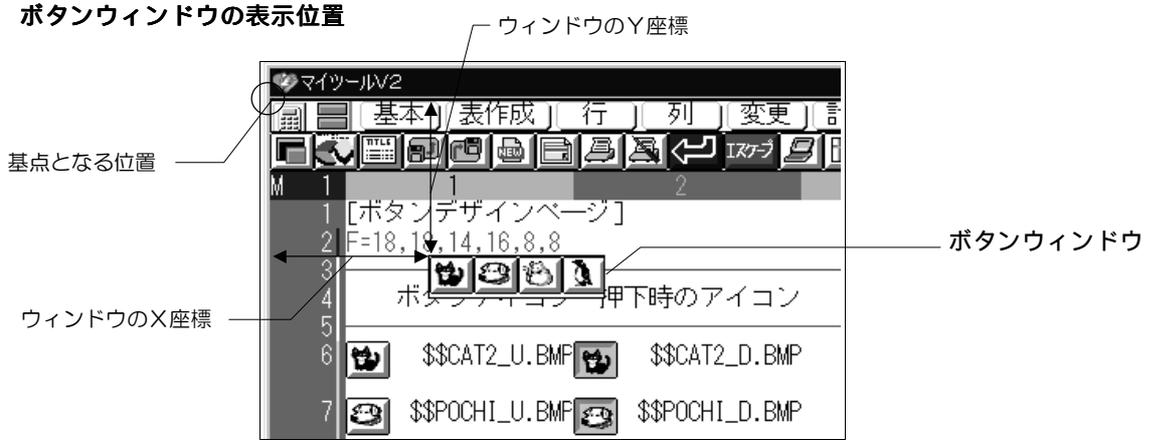
ウィンドウの高さは [自動 ↵] :

画面に表示するボタンウィンドウの、縦の大きさを指定します。
● 高さを 100 ドットにする。
● 自動的に調整する。

表示位置の指定

B T N命令実行時に指定する、ボタンウィンドウやボタンの位置などは次のようになっています。

ボタンウィンドウの表示位置



ボタンの表示位置



★ボタンの相対座標 (X・Y) は、あらかじめデザインページに入力しておきます。

B T N命令の実行例

あらかじめ下のようなデザインページを用意して、画面に表示しておきます。

1	1	2	3	4	5	6
1	[ボタンデザインページ]		95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=18,18,14,16,8,8					
3						
4	ボタンアイコン	押下時のアイコン	セミオート	音声ファイル名	X座標	Y座標
5						
6	 \$\$CAT2_U.BMP	 \$\$CAT2_D.BMP	RUN:入力:		\$NANYAN.WAV	
7	 \$\$POCHI_U.BMP	 \$\$POCHI_D.BMP	RUN:検索:		\$WANWAN.WAV	
8	 \$\$MOUSE_U.BMP	 \$\$MOUSE_D.BMP	RUN:更新:		\$CYUU.WAV	
9	 \$\$PENG2_U.BMP	 \$\$PENG2_D.BMP	RUN:印刷:		\$PAFPAF.WAV	
10						

B T N

- ☐.....画面のデザインページを指定する。
- 1 ☐.....表示するボタンのアイコンは1列目を指定する。
- 2 ☐.....ボタンが押された(マウスで左クリックされた)ときに表示する、ボタンのアイコンは2列目を指定する。
- 3 ☐.....ボタンが押されたときに実行するセミオートは、3列目を指定する。
- 4 ☐.....ボタンが押されたときに再生するWAVEファイルは、4列目を指定する。
- ☐.....ボタンウィンドウ内のボタンの横表示位置は自動にする。
★デザインページの列に位置を入力している場合は、列番号を指定します。
- ☐.....ボタンウィンドウ内のボタンの縦表示位置は自動にする。
★デザインページの列に位置を入力している場合は、列番号を指定します。
- 100☐.....ボタンウィンドウを基点から右方向に100ドットの位置に表示する。
- 100☐.....ボタンウィンドウを基点から下方向に100ドットの位置に表示する。
- ☐.....ボタンウィンドウの横幅は自動にする。
- ☐.....ボタンウィンドウの縦幅は自動にする。



各ボタンを押すと、デザインページで指定されているWAVEファイルが再生され、セミオートが実行されます。

たとえばこのボタンを押すと、“PAFPAF.WAV”というWAVEファイルが再生され、“印刷”という名前で登録されているオートプログラムが実行されます。

◎⑩で指定した位置です。

INFORMATION

◆画面のデザインページを実行する場合、登録してあるセミオートの内容により、画面の内容を書きかえてしまいますので、デザインページはページに保存しておくようにしましょう。

◆サンプルアイコンがSYSファイルの8、9ページに書き込まれていますので、デザインページを作成するときに利用してください。



四則演算・関数計算を行う

- 行・列・セル・ワークエリアのデータを計算式を使って計算します。計算式には、四則演算、一般関数、特殊関数などさまざまな種類があります。
- C命令で使う時は、“仕事は=”の状態でも使うことができます。また、E F命令の自動計算指定部分やS I M命令の計算式などでも使うことができます。

仕事は =



計算式は :

計算式を入力して キーを押します。

計算式は :

計算を続ける場合は、続けて計算式を入れます。

計算を終了する場合は、 キーを押します。

【計算式や関数の種類】

- 行や列の四則演算.....行や列のデータで行う計算
- マトリックス計算.....セルごとのデータで行う計算
- 全セルの計算.....すべてのセルに対して行う計算
- 累乗・べき乗計算・剰余演算.....累乗や相乗積、剰余を求める計算
- 一般関数.....三角関数や対数、一般関数を使った計算
- 特殊関数.....マイツール独特の関数を使った計算
- カウント関数.....表の行数や列数を求める関数
- ストリング関数.....表のデータを文字列として扱います
- 時間関数.....時間の計算を行う関数
- 日付関数.....日付の計算を行う関数
- その他の関数など.....連番付け、乱数の入力や、円周率、百分率などを求める関数
- 誘導関数.....一般関数の組み合わせで求める三角関数

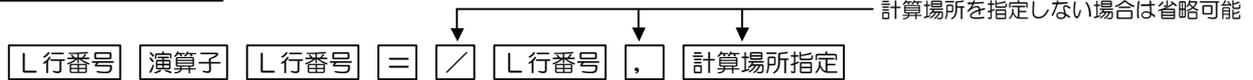
全体的注意

- ◆ 計算式は半角文字で 300 文字、全角文字で 150 文字以内で記述してください。
- ◆ 式の途中には、スペースを入れないでください。
- ◆ C 1 + L 6 = W 1 のように、C (列) と L (行) の混ざった四則演算は行えません。
- ◆ 指定した行や列の計算で、一部だけ計算したい場合は計算場所指定をしてください (次ページ参照)。
- ◆ 漢字モードの表で行った計算の結果は、全角で表示されます。混在モードの表で行った計算の結果は、半角で表示されます。
- ◆ 四則演算は 34 桁、一般関数は 14 桁の計算精度 (計算結果が有効な桁数) です。
- ◆ 計算結果 (整数部) が、書き込み場所の桁数より大きすぎたり、34 桁を超えた場合は、そのセルは “*” でうめられます (“*” は最大 18 個まで表示します)。
- ◆ 計算結果の小数点以下の桁数は、あらかじめ DR 命令で設定しておきます。また最高 18 桁まで計算することができます。
- ◆ 文字データは、STR (ストリング) 関数または “= [] ” を使った場合以外、無視するか “0” の数値データとして扱います。
- ◆ 結果の書き込み場所を省略した計算式を使うと、結果は自動的にワークエリアに入ります (“MTR” は別)。ワークエリアに結果を書き込んだ場合、画面にはワークエリアが表示されます。元の画面に戻すには D 命令を使います。ワークエリアをみるには DW 命令を使います。
- ◆ フォーマット文のない表のデータを計算することはできません (“= [] ” で文字列を入れることはできます)。
- ◆ C 命令中、計算途中の画面を SV 命令で一時的に保管できます。SV 命令で保管した内容は、RV 命令で呼び出すことができます。
- ◆ Z 変数、V 変数、R 変数が計算式の中で使えます。
- ◆ 計算式は、C 命令を実行せず “仕事は=” の状態でも使うことができます。C 命令を実行する場合の利点は、マウスを使って行・列番号やセル番号を入力行に取り込めることにあります。

クリックする場所	入力行に取り込まれるもの
行番号表示部	行番号
列番号表示部	列番号
セル内	セル番号

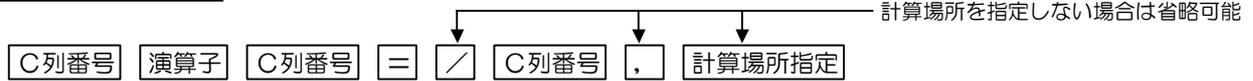
一般式の見方と行・列番号の指定方法

一般的な行の計算式



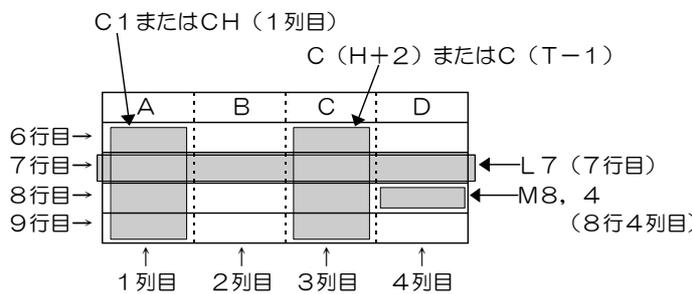
《例》L 6+L 20= / L 21, 4
 (6~20 行目までを加算して、21 行目の4列目だけに表示する)

一般的な列の計算式

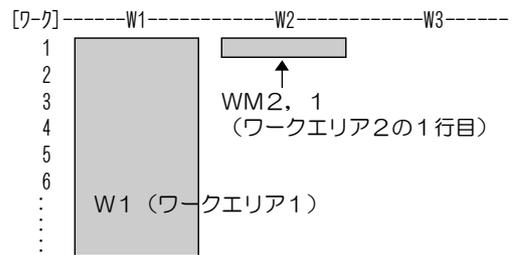


《例》C 2*C 3=C 4, 20
 (2列目と3列目を乗算して、4列目の20行目だけに表示する)

表の行・列番号



ワークエリア



- 行・列・セルの指定は、行番号・列番号・セル番号の前にそれぞれ“C”、“L”、“M”を付けて指定します。また、行の指定は“¥”マークとその列の項目で指定することもできます。
- 裏画面のデータの場合は“X”を、参照画面のデータの場合は“Y”を、“C”“L”“M”の前に付けて指定します。
 《例》XC1 (裏画面の1列目)
 YL6 (参照画面の6行目)
 XM8, 4 (裏画面の8行4列目)
- 計算式の中で行や列を指定するとき、H (データの先頭) や T (データの最後) が使えます。また、(H+1) や (T-1) など先頭や最後から何番目の行、列という使い方もできます。この場合、カッコ () で囲って指定してください。
 《例》L (H+2) 先頭行の2つ下の行
 C (T-1) 最終列の1つ左の列
 M (H+1, T) 先頭+1行目の、最終列のセル
- 結果の書き込み先に参照画面を指定することはできません。
 《例》C1+C2=Y C3 → 不可
- 計算式の右边 (= より後) を省略すると、自動的にW1 (ワークエリアの1列目) に書き込まれます。
 ★ “C1+C2=” と “C1+C2=W1” は同じです。
- 計算結果の書き込み先に、表より大きい行、または列を指定した場合、表の最後に行や列を追加して結果を書き込みます。ただし、ページの中に行・列を追加する空白がない場合はエラーになります。
 《例》C1+CT= / C (T+1)
 (すべての列の合計結果を、最後に1列追加して書き込む)
 ★ “=” の後ろの “/” は連続指定です。

- 行・列・セルの間でデータの代入ができます。
 《例》C6=C7 (6列目のデータを7列目に入れる)
 C2=W1 (2列目のデータをワークエリアの1列目に入れる)
 1=C1 (1列目すべてに1を入れる)
- **計算場所指定** は、指定した範囲の中で、ある場所だけ計算したり、その場所を除いて計算する場合に使います。
 《例》C1+C2=C3 (1列目と2列目の合計を3列目に出す)
 【計算する場合】
 C1+C2=C3, 6 (6行目だけ計算する)
 C1+C2=C3, 6, 7 (6行目と7行目だけ計算する)
 C1+C2=C3, 6-9 (6行目から9行目だけ計算する)
 【計算しない場合】
 C1+C2=C3, N6 (6行目だけ計算しない)
 C1+C2=C3, N6, 7 (6行目と7行目だけ計算しない)
 C1+C2=C3, N6-9 (6行目から9行目だけ計算しない)
 【条件式を使う場合】
 C1+C2=C3, C4=1 (4列目が1の行だけ計算する)
 C1+C2=C3, C4<1 (4列目が1より小さい行だけ計算する)
 C1+C2=C3, C4>=1 (4列目が1以上の行だけ計算する)
- ★ 行方向の計算式では列番号で、列方向の計算式では行番号で計算場所を指定します。
- ★ 計算場所を指定する場合は、必ずその前にカンマ “,” が必要です。計算場所を指定しない場合は、カンマは不要です。また、カンマで終わっているとエラーになります。

1. 行や列の四則演算

指定した行と行、列と列、またはその間を連続して計算します。

一般式

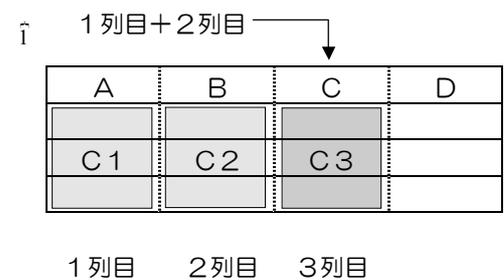
- L行番号 演算子 L行番号 = / L行番号 , 計算場所指定
- C列番号 演算子 C列番号 = / C列番号 , 計算場所指定
- W列番号 演算子 W列番号 = W列番号 , 計算場所指定
- $\left\{ \begin{array}{l} \text{数値} \\ \text{演算子} \\ \text{数値} \end{array} \right\} = \left\{ \begin{array}{l} \text{L行番号} \\ \text{C列番号} \\ \text{W列番号} \end{array} \right\} , \text{計算場所指定}$

<説明>
 演算子は+、-、*、/、MOD、**です。
 “=”の後ろの“/”は連続指定で省略可能です。
 計算場所指定は省略可能です。

例題

1列目と2列目の合計を3列目に入れる

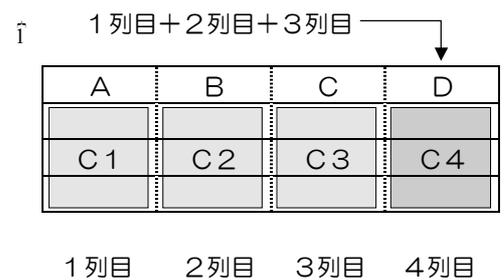
計算式：C1+C2=C3



- 《使用例》
- C1+C2=C3, 6
計算場所を指定して6行目だけを計算する。
 - C1+C2=C3, N6
計算場所を指定して、6行目を除いて計算する。
 - C1+C2=
計算結果をワークエリアに入れる。
(“C1+C2=W1”と同じ)

1列目から3列目までの合計を4列目に入れる

計算式：C1+C3=/C4



- 《使用例》
- C1+C3+C5=C6
1、3、5列目の合計を6列目に入れる
 - LH+LT=/L (T+1)
すべての行の合計を、最終行の下に1行追加して入れる
 - L6-L9=/L10
6行-7行-8行-9行の結果を10行目に入れる
 - C1*3=C1
1列目を3倍する
 - C1+C2=W1
1、2列目の合計をワークエリア1に入れる
 - C1+W1+10=C1
1列目の数値に、ワークエリア1の値と10を加える
 - XC1=C1
裏画面の1列目をおもて画面の1列目に入れる

<説明>
 “=”の後ろの“/”は、C1からC3まで連続して計算する記号です。
 “C1+C3=/C4”は、“C1+C2+C3=C4”と同じです。

2. マトリックス計算（セルごとの計算）

指定したセルの間で計算し、その結果を表の中のセルやワークエリアに入れます。

一般式

- M 行番号, 列番号 演算子 M 行番号, 列番号 = M 行番号, 列番号
- WM列番号, 行番号 演算子 WM列番号, 行番号 = WM列番号, 行番号
- 数値 演算子 数値 = $\left\{ \begin{array}{l} M \text{ 行番号, 列番号} \\ WM \text{ 列番号, 行番号} \end{array} \right\}$

<説明>

演算子は、+、-、*、/、MOD、**です。

例題

6行1列目のデータと7行2列目のデータの合計を、8行3列目に入れる

計算式：M6, 1+M7, 2=M8, 3

↑ 6行1列目+7行2列目 ↓

	A	B	C
6行目→	M6, 1		
7行目→		M7, 2	
8行目→			M8, 3

1列目 2列目 3列目

《使用例》

- M6, 1+M7, 2=WM1, 2
結果をワークエリア1の2行目に入れる
- 《その他の使用例》
- M6, 1+M7, 2+M8, 3=M9, 4
6行1列目、7行2列目、8行3列目のデータの合計を9行4列目に入れる
- M6, 1+WM2, 1=M6, 1
6行1列目に、ワークエリア2の1行目のデータを加える
- M6, 2*3=M6, 3
6行2列目を3倍した結果を、6行3列目に入れる
- WM1, 1+M6, 1+10=MT, T
ワークエリア1の1行目のデータに、6行1列目の値と10を加えて表の最終行最終列位置に入れる
- XM6, 6=M8, 10
裏画面の6行6列目をおもて画面の8行10列目に入れる

1列目のデータを、6行1列目のデータで乗算する（行・列とセルとの計算）

計算式：C1*M6, 1=C1

	A	B	C	D
6行目→	10	20	30	40
7行目→	20			
8行目→	30			

1列目 2列目 3列目 4列目



	A	B	C	D
	100	20	30	40
	200			
	300			

★6行1列目のデータも書きかわります。

《応用例》

- L6*M6, 1=L6
6行目のデータを、6行1列目のデータで乗算する

INFORMATION

- ◆ “/” を使った連続計算や、計算場所指定などはできません。
- ◆ マトリックス指定でHやTを使う場合は、M(H+1, T-1) のように書きます。
- ◆ M・WM・数値を混ぜて式を書くこともできます。
- ◆ 表のセルを指定する場合は、 M 行番号, 列番号 です。ワークエリアのセルを指定する場合は、WM列番号, 行番号 です。表のセルとは番号の指定方法が逆なので、注意してください。

3. 全セルの計算

マトリックス計算がひとつのセルを対象として行う計算なのに対して、全セルの計算はすべてのセルのデータを対象とし、数値、またはひとつのセルとの計算を行います。

一般式

- MTR 演算子 数値 =
- MTR 演算子 M 行番号, 列番号 =
- MTR 演算子 WM列番号, 行番号 =

< 説明 >

演算子は+、-、*、/、MODです。この場合だけ“=”は省略可能です。

例題

表のすべてのセルを3倍にする

計算式：MTR*3

A	B	C	D
10	15	20	25
20	25	30	35
30	35	40	45
40	45	50	55

 →

A	B	C	D
30	45	60	75
60	75	90	105
90	105	120	135
120	135	150	165

《使用例》

- MTR+M6, 1=
表のすべてのセルに、6行1列目のデータを加える
- MTR*WM1, 3=
表のすべてのセルに、ワークエリア1の3行目のデータをかける
- MTR+XM6, 1=
表のすべてのセルに、裏画面の6行1列目のデータを加える

INFORMATION

- ◆ 通常は結果の書き込み先を省略すると、自動的にワークエリアに書き込まれますが、この計算だけは結果の書き込み先を指定しないで使うことができます。
- ◆ “/”を使った連続計算や、計算場所指定などはできません。
- ◆ 裏画面・参照画面・ワークエリアへ計算することはできません。

4. 累乗・ベキ乗計算と剰余演算

行や列、セル（マトリックス）、数値などに対して累乗やベキ乗の計算を行います。

“**”は累乗を、“MOD”は整数の割り算の余りを求める演算子です。

一般式

- L行番号 { ** / MOD } L行番号 = L行番号 , 計算場所指定
- C列番号 { ** / MOD } C列番号 = C列番号 , 計算場所指定
- 数値 { ** / MOD } 数値 = { L行番号 / C列番号 } , 計算場所指定
- M行番号, 列番号 { ** / MOD } M行番号, 列番号 = M行番号, 列番号
- WM列番号, 行番号 { ** / MOD } WM列番号, 行番号 = WM列番号, 行番号
- 数値 { ** / MOD } 数値 = { M行番号, 列番号 / WM列番号, 行番号 }

<説明>

“**”は累乗を求める演算子です。

たとえば“C1**3=C2”と指定すると、“C1*C1*C1=C2”と同じ意味になります。

“MOD”を使った式で求められるのは、除算の余りです。

たとえば“10MOD3=書き込み場所”と指定すると、“10÷3=3”余りは1なので、書き込み場所には“1”と書き込まれます。

計算場所指定は省略可能です。

数値は、実数（-1、-0.5、0、0.1、2.4なども含む）であれば何でも計算できます。

例題

1列目を3乗した結果を2列目に入れる

計算式：C1**3=C2

↑ 1列目を3乗する

A	B	C
0	0	
5	125	
11	1331	

1列目 2列目

《使用例》

- L6**(-0.5)=L6
6行目のデータを-0.5乗する
- M6, 1**100=M6, 1
6行1列目を100乗する

1列目を3で割った余りを2列目に入れる

計算式：C1MOD3=C2

↑ 1列目を3で割った余り

A	B	C
32	2	
24	0	
10	1	

1列目 2列目

《使用例》

- 10MOD3=M6, 1
10を3で割ったときの余りを6行1列目に入れる
- C1MOD7=C2
1列目のデータを7で割ったときの余りを、2列目に入れる

5. 一般関数

行や列、セル（マトリックス）、数値などのデータで、三角関数や対数など一般関数を使った計算を行います。

関数名	求めるもの	注意
ABS	絶対値	
SIN	正弦	データの単位はラジアンです。
COS	余弦	
TAN	正接	
ATAN	逆正接	
EXP	指数	
LOG	自然対数	負の数値の答えはオーバーフローになります。
SQR	平方根	
SGN	符号	0または正の数の答えは1、負の数の答えは-1です。
INT	整数化	

一般式

- 関数名 [[L行番号]] = [L行番号] , [計算場所指定]
- 関数名 [[C列番号]] = [C列番号] , [計算場所指定]
- 関数名 [[{ L行番号
C列番号
W列番号 }]] = [W列番号] , [計算場所指定]
- 関数名 [[数値]] = { L行番号
C列番号
W列番号 } , [計算場所指定]
- 関数名 [[M 行番号, 列番号]] = [M 行番号, 列番号]
- 関数名 [[WM列番号, 行番号]] = [WM列番号, 行番号]
- 関数名 [[数値]] = { M 行番号, 列番号
WM列番号, 行番号 }

< 説明 >

計算場所指定は省略可能です。

[] 内では、普通の計算式も使えます。

《例》SIN [C1+C2-6.28] =C3

例題

1列の正弦（SIN）の値を2列に入れる

計算式：SIN [C1] =C2

↑

1列目の正弦（SIN）

A	B	C
0.49	0.47	
1.99	0.91	
3.51	-0.36	

1列目 2列目

《使用例》

- SQR [L6] =L7
6行目の平方根を7行目に入れる
 - SIN [C2] *2=C4
2列目の正弦を2倍にして4列目に入れる
- ★三角関数は、すべて“ラジアン（弧度）”の単位で計算します。
たとえば左の表で1列目のデータが“度”である場合は、あらかじめ“C1/180*PI=C1”の式で“度”を“ラジアン”に変えておく必要があります。

INFORMATION

- ◆関数名の後ろは必ず [] です。() と間違えないようにしてください。
- ◆SIN、COS、TAN、ATANなどの三角関数・正接関数は、“ラジアン(弧度)”で計算されます。計算するデータが“度”になっている場合は、あらかじめ“ラジアン”に変えておかないと正しく計算されません。“度”のデータを“弧度(ラジアン)”のデータに変えるには、次の計算式を利用します。

$$\text{度} / 180 * \text{PI} = \text{ラジアン}$$
- ★“PI”は円周率3.1415…を定数として持つ文字です。

6. 特殊関数

マイツール独特の関数です。

関数名	機能
ADD	指定された範囲の中の数値を、連続的に足していきます。 $A+B+C+\dots$
SUB	指定された範囲の中の先頭の数値から、残りの数値を連続的に引いていきます。 $A-B-C-\dots$
MLT	指定された範囲の中の数値を、連続的に掛けていきます。 $A \times B \times C \times \dots$
DVD	指定された範囲の中の先頭の数値を、残りの数値で連続的に割っていきます。 $A \div B \div C \div \dots$
MAX	指定された範囲の中のデータで、最大の数値をとり出します。
MIN	指定された範囲の中のデータで、最小の数値をとり出します。
AVE	指定された範囲の中の数値の、平均値を求めます。
SUM	指定された範囲の中の数値を、すべて足した数値を求めます。

一般式

- 特殊関数名 [[L行範囲]] = [L行番号] , [計算場所指定]
- 特殊関数名 [[C列範囲]] = [C列番号] , [計算場所指定]
- 特殊関数名 [[W列範囲]] = [W列番号] , [計算場所指定]

<説明>

行や列の範囲は、[先頭番号] - [最終番号] で指定します。

ADD・SUB・MLT・DVD関数では、条件式を使って範囲を指定できます。

《例》ADD [C1<10] =LT

1列目の中で10より小さい行の数値を、連続的に足して、最終行に入れる

例題

1列から3列までの合計を4列に入れる

計算式：ADD [C1-3] =C4

1列目+2列目+3列目

A	B	C	D
10	10	10	30
20	20	20	60
30	30	30	90

1列目 2列目 3列目 4列目

《使用例》

- ADD [C1-T] =C (T+1)
すべての列の合計を出して、最終列の右に追加して書き込む
 - AVE [LH-T] =L (T+1)
すべての行の平均を出して、最終行の下に追加して書き込む
- “C1-3”は、1列目から3列目までという範囲指定です。
ADD [C1-3] =C4は、 $C1+C2+C3=C4$ と同じ意味になります。

SUM関数

● $\text{SUM} [\text{行範囲} , \text{列範囲}] = \text{M行番号} , \text{列番号}$

<説明>

SUM関数では、行範囲と列範囲をいっしょに指定します。
書き込み場所は、マトリックスで指定します。
行範囲・列範囲は、数値のみで指定してください。

例題

6行から8行までと、2列から3列までの範囲内のデータをすべて足した数値を、8行4列目に入れる

計算式：SUM [6-8, 2-3] =M8, 4

	A	B	C	D
6行目→	15	10	20	
7行目→	20	25	40	
8行目→	30	30	40	165
	1列目	2列目	3列目	8行4列目

《使用例》

- SUM [H- (T-1) , H-T] =M (T, T)
先頭行から最終行のひとつ上の行までと、すべての列の範囲内のデータをすべて加算して、最終行、最終列に書き込む
- SUM [7-10, 2-5]=M11, 6]
7行から10行までと2列から5列までの範囲内のデータをすべて加算して、11行6列目に書き込む

7. カウント関数

表の中にある行や列の数を求める関数です。

一般式

● $\text{CNT} [\left\{ \begin{array}{l} \text{L} \\ \text{C} \end{array} \right\}] = \left\{ \begin{array}{l} \text{L行番号} , \text{計算場所指定} \\ \text{C列番号} , \text{計算場所指定} \\ \text{W列番号} , \text{計算場所指定} \\ \text{M行番号, 列番号} \\ \text{WM列番号, 行番号} \end{array} \right\}$

<説明>

[] の中は列数を求める場合はC、データ行の数を求める場合はLです。
計算場所指定は省略可能です。

例題

表の列数を1列目に入れる

計算式：CNT [C] =C1

	A	B	C	D
	4			
	4			
	4			
	1列目	2列目	3列目	4列目

列数は4

《使用例》

- CNT [C] =C1, 6
列数を1列目の6行目だけに入れる
- CNT [C] =C1, N6
列数を1列目の6行目以外に入れる
- CNT [L] =C1
行数を1列目に入れる

INFORMATION

- ◆ “CNT [L] =” で求められるのは、データ行の行数です。フォーマット文のない表では、“0” になります。

8. スtring関数

指定した行や列のデータを文字列として扱います。

一般式

- STR [L行番号] = L行番号 , 計算場所指定
- STR [C列番号] = C列番号 , 計算場所指定
- STR [M 行番号, 列番号] = M 行番号, 列番号
- STR [{ W列番号
WM列番号, 行番号 }] = { L行番号
C列番号
W列番号 } , 計算場所指定
- STR [{ W列番号
WM列番号, 行番号 }] = { M 行番号, 列番号 }
- " 文字列 " = { L行番号 , 計算場所指定
C列番号 , 計算場所指定
M 行番号, 列番号 }

< 説明 >

文字列を直接入力する場合は、String関数を使わずに文字列をダブルコーテーション (") で囲んで指定します。計算場所指定は省略可能です。

例題

1 列目にある内容を、文字列として 2 列目に入れる

計算式：STR [C1] =C2

1 列目の文字列

A	B	C	D
abc	abc		
ABC	ABC		
あいう	あいう		

1 列目 2 列目

《使用例》

- STR [L6] =L7
6 行目の内容を、文字列として 7 行目に入れる
- "あいう" =C1
1 列目に「あいう」という文字を入れる
文字列を直接入れる場合は、必ず文字列全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。

1 列目と 2 列目の内容を、文字列として足して 4 列目に入れる

計算式：STR [C1+C2] =C4

1 列目の文字列 + 2 列目の文字列

A	B	C	D
ab	cd		abcd
AB	CD		ABCD
あい	うえ		あいうえ

1 列目 2 列目 4 列目

《使用例》

- "平成" +C1=C2
1 列目の数値の前に、「平成」という文字を付けて 2 列目に入れる
- C2-"様" =C2
2 列目から「様」という文字だけを削除する

9. 時間関数

時間を求める関数です。TIM、HRS、HMSの3つがあります。

TIM

行や列、また入力した数値とのデータから合計時間を求めます。

一般式

- TIM [[L行番号] ± [L行番号]] = [L行番号] , [計算場所指定]
- TIM [[C列番号] ± [C列番号]] = [C列番号] , [計算場所指定]
- TIM [[時間] ± [L行番号]] = [L行番号] , [計算場所指定]
- TIM [[時間] ± [C列番号]] = [C列番号] , [計算場所指定]

- TIM [[{ W列番号 }] ± [{ W列番号 }]] = [{ L行番号 } , [計算場所指定]]
[{ WM列番号, 行番号 }]
- TIM [[{ W列番号 }] ± [{ W列番号 }]] = [{ C列番号 } , [計算場所指定]]
[{ WM列番号, 行番号 }]
- TIM [[{ W列番号 }] ± [{ W列番号 }]] = [{ W列番号 }]
[{ WM列番号, 行番号 }]
- TIM [[時間] ± [{ W列番号 }]] = [{ L行番号 } , [計算場所指定]]
[{ WM列番号, 行番号 }]
- TIM [[時間] ± [{ W列番号 }]] = [{ M 行番号, 列番号 }]
[{ WM列番号, 行番号 }]

< 説明 >

計算場所指定は省略可能です。

TIMでは連続指定も使えます。

“ [] ” 内で “ ? ” を指定すると、現在の時刻を求めることができます。

演算子で使えるのは “ + ” と “ - ” だけです。

時間と分の間には小数点 (.) を入れてください。秒も指定する場合は、分と秒の間には何も入れないでください。

“時間” は、DR命令の小数点以下の桁数に注意しないと、5.30あるいは5.3020というふうにきちんと計算できません。小数点以下第3位以降は秒を表します。

例題

退社時間 (2 列目) から入社時間 (1 列目) を引いて、勤務時間 (3 列目) を求める

計算式: TIM [C2 - C1] = C3

↑ 退社時間 - 入社時間 ↓

入社時間	退社時間	勤務時間
9.00	17.30	8.30
9.20	17.00	7.40

1 列目 2 列目 3 列目

HRS

時間を数値として表します。

一般式

- HRS [[L行番号]] = [L行番号] , [計算場所指定]
- HRS [[C列番号]] = [C列番号] , [計算場所指定]
- HRS [[{ W列番号 }]] = { [L行番号] , [計算場所指定]
[C列番号] , [計算場所指定]
[W列番号] , [計算場所指定] }
- HRS [[{ W列番号 }]] = { [M 行番号, 列番号]
[WM列番号, 行番号] }
- HRS [[時間]] = { [L行番号] , [計算場所指定]
[C列番号] , [計算場所指定]
[W列番号] , [計算場所指定] }
- HRS [[時間]] = { [M 行番号, 列番号]
[WM列番号, 行番号] }

< 説明 >

計算場所指定は省略可能です。

[] 内では、普通の計算式が使えます。

時間と分の間には小数点 (.) を入れてください。秒も指定する場合は、分と秒の間には何も入れないでください。

“時間”は、DR命令の小数点以下の桁数に注意しないと、5.30あるいは5.3020というふうにきちんと計算できません。小数点以下第3位以降は秒を表します。

例題

1列目の時間を数値に変換して、2列目に入れる

計算式：HRS [C1] =C2

↑

時間	数値
10.30	10.50
9.50	9.83

1列目 2列目

HMS

数値を時間単位で表します（HRSの逆を行います）。

一般式

- HMS [[L行番号]] = L行番号 , 計算場所指定
- HMS [[C列番号]] = C列番号 , 計算場所指定
- HMS [[{ W列番号 }
{ WM列番号, 行番号 }]] = { L行番号 , 計算場所指定 }
{ C列番号 , 計算場所指定 }
{ W列番号 , 計算場所指定 }
- HMS [[{ W列番号 }
{ WM列番号, 行番号 }]] = { M 行番号, 列番号 }
{ WM列番号, 行番号 }
- HMS [[時間]] = { L行番号 , 計算場所指定 }
{ C列番号 , 計算場所指定 }
{ W列番号 , 計算場所指定 }
- HMS [[時間]] = { M 行番号, 列番号 }
{ WM列番号, 行番号 }

<説明>

計算場所指定は省略可能です。

[] 内では、普通の計算式が使えます。

例題

2列目の数値を時間単位に変換して、1列目に入れる

計算式：HMS [C2] =C1

↑

時間	数値
10.30	10.50
9.50	9.83

1列目 2列目

10. 日付関数

ある日付からある日付までの日数を求めます。

また、ある日付から数日後、もしくは数日前の日付を求めることもできます。

【日数を求める場合】

一般式

- YMD [L行番号 - L行番号] = L行番号 , 計算場所指定
- YMD [C列番号 - C列番号] = C列番号 , 計算場所指定
- YMD [日付 - 日付] = M 行番号, 列番号

<説明>

演算子で使えるのは“-”だけです。

計算場所指定は省略可能です。

“[]”で、“?”を指定すると、現在の日付を求めることができます。

うるう年も自動的に計算されます。

例題

1列目の日付から2列目の日付までの日数を求めて、3列目に入れる

計算式：YMD [C2-C1] =C3

↑ 2列目-1列目

日付	日付	日数
19950101	19950528	147
19950102	19950615	164

1列目 2列目 3列目

【日付を求める場合】

一般式

- YMD [L行番号] ± 日数 = L行番号 , 計算場所指定
- YMD [C列番号] ± 日数 = C列番号 , 計算場所指定
- YMD [日付] ± 日数 = M 行番号, 列番号

<説明>

計算場所指定は省略可能です。

“[]”内で“?”を指定すると、現在の日付に日数を“+”または“-”した日付を求めることができます。

うるう年も自動的に計算されます。

例題

1列目の日付から30日後の日付を求めて、2列目に入れる

計算式：YMD [C1] +30=C2

↑ 1列目+30日

日付	日付
19950201	19950303
19950205	19950307

1列目 2列目

年月日の入力形式と文字数について

◆年月日の入力形式と文字数は、下記の要領にしたがってください。

年月日を入力する	<u>1 9 9 5</u> <u>0 1</u> <u>0 1</u>	8文字	月日は必ず4桁で入力します。 1月1日は0101と入力します。
	年 月 日		
月日を入力する →	<u>0 1</u> <u>0 1</u>	4文字	年は現在の年とみなします
	月 日		
日を入力する →	<u>0 1</u>	2文字	年月は現在の年月とみなします
	日		

◆日付は和暦を使って計算することもできます。

その場合の入力形式と文字数は、下記の要領にしたがってください。

和暦で入力する	<u>H 0 7</u> <u>0 1</u> <u>0 1</u>	7文字
	年 月 日	

和暦の場合は、2桁の年の前に英字で表わした年号を付けます。
年号はH（平成）、S（昭和）、T（大正）、M（明治）とします。

★上記の形式以外で書かれたものは、日付として扱われません。

★和暦では明治元年以前は指定できません、また、和暦の区切りは次のようになります。

明治…1868年 1月 1日から

大正…1912年 6月 30日から

昭和…1926年 12月 25日から

平成…1989年 1月 8日から

11. その他の関数など

SEQ

最初の値と増加値を指定することにより、連番付ができます。

一般式

$$\bullet \text{ SEQ } [\text{ 初期値 } , \text{ 増加値 }] = \left\{ \begin{array}{l} \text{ L 行番号 } , \text{ 計算場所指定 } \\ \text{ C 列番号 } , \text{ 計算場所指定 } \\ \text{ W 列番号 } , \text{ 計算場所指定 } \end{array} \right\}$$

< 説明 >

計算場所指定は省略可能です。

例題

計算式：SEQ [1, 1] =C1

	A	B
初期値	1	
+1	2	
+1	3	
	4	

1 列目

RAND

乱数を発生させます。

一般式

$$\bullet \text{ RAND } [\text{ 最大値 }] = \left\{ \begin{array}{l} \text{ L 行番号 } , \text{ 計算場所指定 } \\ \text{ C 列番号 } , \text{ 計算場所指定 } \\ \text{ W 列番号 } , \text{ 計算場所指定 } \end{array} \right\}$$

< 説明 >

指定できる最大値の範囲は、1 から 32767 までです。

計算場所指定は省略可能です。

例題

乱数を発生させ、1 列目に、1 から 6 までの整数を入力する

計算式：RAND [6] =C1

A	B
2	
6	
1	
3	

1 列目

PAI

円周率 (3.1415.....) の代わりに、PAI という文字を定数として使えます。

例題

1列目のデータをラジアンにする

計算式：C1/180*PAI=C2

1列目 ↓

度	ラジアン
60	1.04
30	0.52

1列目 2列目

DR命令で小数点以下の処理を指定してください。

PER

元になる数の百分率を連続計算します。
保険料の複利計算などをするのに便利です。

一般式

● PER [初期値 , 利率] =

L行番号	,	計算場所指定
C列番号	,	計算場所指定
W列番号	,	計算場所指定

<説明>

計算場所指定は省略可能です。
利率には、小数・マイナスの数値も指定できます。

例題

元金 10 万円が年率 5 % では元利合計がいくらになるのか、結果を 2 列目に入れる

計算式：PER [100000, 5] =C2

年度	元利合計
1	100000
2	105000
3	110250
4	115763
5	121551
6	127628
7	134010
8	140710
9	147746
10	155133

2列目

[[]]

書き込み位置を指定して文字列を入れる場合は、“ = [[]] ” で指定します。
また、指定位置の文字列を取り出すこともできます。

一般式

$$\bullet \left\{ \begin{array}{l} \text{” } \boxed{\text{文字列}} \text{”} \\ \boxed{[[]]} \text{行番号} , \boxed{[]} \text{先頭桁番号} , \boxed{[]} \text{文字数} \end{array} \right\} = \boxed{[[]]} \text{行番号} , \boxed{[]} \text{先頭桁番号} , \boxed{[]} \text{文字数} \boxed{[]]}$$

<説明>

先頭桁番号は、画面左端から数えた桁数です。
文字数は、半角文字で数えた場合の数値です。全角2文字の場合は、“4”と指定します。
列にまたがった文字列の取り込みや書き込みが指定できます。
文字列は右詰めで書き込まれます。また、文字数の指定が、書き込む文字列より小さい場合は、はみ出す文字列は左側から削られます。

例題

“ あいうABC ” を 6 行目 10 桁目から 10 文字分の範囲に入れる

計算式：“ あいうABC” = [[6, 10, 10]]

3行目→ _____
4行目→ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
5行目→ _____
6行目→ _____ あ い う A B C

文字列の長さが半角で9文字分なので、文字列の先頭に1文字分の半角スペースが付きまます。

10 桁目

12. 誘導関数

C 命令で、関数式が用意されていない三角関数は、一般関数を組み合わせることで、計算結果を求めることができます。ただし、誤差の範囲には注意が必要です。

誘導式中の “*1.5708” は、“PAI/2” に置き換えて計算することもできます。
(記述例) 1/COS [C1] =C2

関数名	関数記号	一般関数を使っでの誘導式
セカント	SEC (X)	1/COS [X]
コセカント	CSC (X)	1/SIN [X]
コタンジェント	COT (X)	1/TAN [X]
アークサイン	ARCSIN (X)	ATN [X/SQR [1-X*X]]
アークコサイン	ARCCOS (X)	-ATN [X/SQR [1-X*X]]+1.5708
アークセカント	ARCSEC (X)	ATN [SQR [X*X-1]]+(SGN [X]-1)*1.5708
アークコセカント	ARCCSC (X)	ATN [1/SQR [X*X-1]]+(SGN [X]-1)*1.5708
アークコタンジェント	ARCCOT (X)	-ATN [X]+1.5708
ハイパーボリック・サイン	SINH (X)	(EXP [X]-EXP [-X])/2
ハイパーボリック・コサイン	COSH (X)	(EXP [X]+EXP [-X])/2
ハイパーボリック・タンジェント	TANH (X)	-EXP [-X]/(EXP [X]+EXP [-X])*2+1
ハイパーボリック・セカント	SECH (X)	2/(EXP [X]+EXP [-X])
ハイパーボリック・コセカント	CSCH (X)	2/(EXP [X]-EXP [-X])
ハイパーボリック・コタンジェント	COTH (X)	EXP [-X]/(EXP [X]-EXP [-X])*2+1
ハイパーボリック・アークサイン	ARCSINH (X)	LOG [X+SQR [X*X+1]]
ハイパーボリック・アークコサイン	ARCCOSH (X)	LOG [X+SQR [X*X-1]]
ハイパーボリック・アークタンジェント	ARCTANH (X)	LOG [(1+X)/(1-X)]/2
ハイパーボリック・アークセカント	ARCSECH (X)	LOG [(SQR [-X*X+1]+1)/X]
ハイパーボリック・アークコセカント	ARCCSCH (X)	LOG [(SGN [X]*SQR [X*X+1]+1)/X]
ハイパーボリック・アークコタンジェント	ARCCOTH (X)	LOG [(X+1)/(X-1)]/2

- 年間、月間のカレンダーが作成できます。
- 年間カレンダーは、日にちまたは曜日のどちらかを基準にして作成できます。
- 予定などを書き込めるように、メモ列もいっしょに作成します。

仕事は =

C A L E

- 1 1ヶ月
- 2 複数月

作成するカレンダーの種類を番号で選択します。

- 1ヶ月のカレンダーを作成する。
- 複数月のカレンダーを作成する。

1 (または) 2

作成する表は [1ヶ月] :

作成するのは何年ですか [200] :

何年のカレンダーを作成するか指定します。

- 今年のカレンダーを作成する。
- 2001年のカレンダーを作成する。

キーだけを押ししたときは現在の日付で設定されている年月のカレンダーを作成します。あらかじめ、DATE命令で、現在の日付を確認してください。

2001

【1ヶ月を選んだ場合】

作成する月は [] :

何月のカレンダーを作成するか指定します。

- 今月のカレンダーを作成する。
- 12月のカレンダーを作成する。

1 2

入力した日から1ヶ月を表示します

表示を開始する日付を指定します。

何日から表示しますか (1 ~)
[1] :

指定した日付をもとに、1ヶ月分のカレンダーが作成されます。

- 1日を指定する。
- 15日を指定する。

1 (または) 15

- 1 日付だけ
- 2 日付と曜日

カレンダーに曜日を付けるかどうかを、番号で選択します。

- 日付だけのカレンダーにする。
- 日付と曜日の両方が付いたカレンダーにする。

1 (または) 2

内容は :

- 1 行
- 2 列

日付を行方向(横)に並べるか、列方向(縦)に並べるかを番号で選択します。

- 行方向(横)に並べる。
- 列方向(縦)に並べる。

1 (または) 2

日付のセットは :

横の長さは :

作成するカレンダーの横の長さ(ページの桁数)を指定します。

- ページの横の長さを半角文字で180桁にする。
- 作成可能な最大の桁数にする。

180

今2列設定あと残りは	桁です
3列目の桁数は (0 ~ 100 , [終了 ↵]) :	

で日付のセットを列に指定した場合は、カレンダーのメモ列の桁数を指定します。

- メモ列を20桁にする。
- 8桁のメモ列を5列作る。
- 40桁内で4列のメモ列を作る。



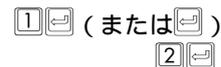
キーのみを押すと、作成可能な最大の桁数で7列分のメモ列を作成します。

【複数月を選んだ場合】

1 曜日
2 日付
何を基準にしますか [曜日 ↵] :

カレンダーの基準列(1列目)に、曜日と日にちのどちらを入れるかを番号で選択します。

- 曜日を基準にする。
- 日付を基準にする。



作成する月は :

指定した年の何月のカレンダーを作成するかを指定します。

- 1年分(今月から12ヶ月分)のカレンダーを作成する。
- 今年の4月から来年の3月までのカレンダーを作成する。
- 今年の4月と5月のカレンダーを作成する。



INFORMATION

- ◆ページのタイトルには、作成したカレンダーの年月が付けられます。
- ◆作成したカレンダーには、土曜日の欄は水色、日曜日の欄は赤で、色をつけて表示されます。なお、祝日は色付けされません。

- ◆4年ごとにうるう年を自動的に設定します。
- ◆複数月を選んだ場合、横の長さはページの最大値をとりまします。また、メモ列は16桁になります。ただし、作成する月数やページのサイズによっては、メモ列の桁数が16桁以下になることがあります。

例題

1998年6月のカレンダーを作成します。

C A L E 関

- 1 関..... 1ヶ月のカレンダーを作成する。
- 1998関..... 1998年のカレンダーを作成する。
- 6 関..... 6月のカレンダーを作成する。
- 5 関..... 5日から始まるカレンダーを作成する。
- 2 関..... 日付と曜日の列を作る。
- 2 関..... 日付を縦方向に並べる。
- 80関..... 横の長さを80桁にする。
- 60関..... メモ列の桁数を60桁にする。
- 関..... 桁数の指定を終わる。

1ヶ月カレンダーの作成例

[1998年 6月]		00.04.25	混	L=0094	C=0080
F=6,4,8,8,8,8,8,8,8					
日付曜日					
6.05	金				
6.06	土				
6.07	日				
6.08	月				
6.09	火				
6.10	水				
6.11	木				
6.12	金				
6.13	土				
6.14	日				
6.15	月				
6.16	火				
6.17	水				
6.18	木				
6.19	金				
6.20	土				
6.21	日				
6.22	月				
6.23	火				
6.24	水				
6.25	木				
6.26	金				
6.27	土				
6.28	日				
6.29	月				
6.30	火				
7.01	水				
7.02	木				
7.03	金				
7.04	土				
7.05	日				

例題

1998年の年間カレンダーを作成します。

C A L E 関

- 2 関..... 1ヶ年分のカレンダーを作成する。
- 1998関..... 1998年のカレンダーを作成する。
- 1 関..... カレンダーの基準列は曜日にする。
- 1 - 12関..... 1月から12月までの1年間のカレンダーを作成する。

複数月カレンダーの作成例 (部分)

[1998年1月~12月]		00.04.25	混	L=0048	C=0196																			
F=2,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9,6,9																								
曜	日付	1998.01	日付	1998.02	日付	1998.03	日付	1998.04	日付	1998.05	日付	1998.06	日付	1998.07	日付	1998.08	日付	1998.09	日付	1998.10	日付	1998.11	日付	1998.12
日		2.01		3.01																				11.01
月		2.02		3.02						6.01														11.02
火		2.03		3.03						6.02														11.03
水		2.04		3.04		4.01				6.03		7.01					9.01							12.01
木	1.01	2.05		3.05		4.02				6.04		7.02					9.02							12.02
金	1.02	2.06		3.06		4.03		5.01		6.05		7.03					9.03		10.01					12.03
土	1.03	2.07		3.07		4.04		5.02		6.06		7.04					9.04		10.02					12.04
日	1.04	2.08		3.08		4.05		5.03		6.07		7.05		8.01			9.05		10.03					12.05
月	1.05	2.09		3.09		4.06		5.04		6.08		7.06		8.02			9.06		10.04					12.06
火	1.06	2.10		3.10		4.07		5.05		6.09		7.07		8.03			9.07		10.05					12.07
水	1.07	2.11		3.11		4.08		5.06		6.10		7.08		8.04			9.08		10.06					12.08
木	1.08	2.12		3.12		4.09		5.07		6.11		7.09		8.05			9.09		10.07					12.09
金	1.09	2.13		3.13		4.10		5.08		6.12		7.10		8.06			9.10		10.08					12.10
土	1.10	2.14		3.14		4.11		5.09		6.13		7.11		8.07			9.11		10.09					12.11
日	1.11	2.15		3.15		4.12		5.10		6.14		7.12		8.08			9.12		10.10					12.12
月	1.12	2.16		3.16		4.13		5.11		6.15		7.13		8.09			9.13		10.11					12.13
火	1.13	2.17		3.17		4.14		5.12		6.16		7.14		8.10			9.14		10.12					12.14
水	1.14	2.18		3.18		4.15		5.13		6.17		7.15		8.11			9.15		10.13					12.15
木	1.15	2.19		3.19		4.16		5.14		6.18		7.16		8.12			9.16		10.14					12.16
金	1.16	2.20		3.20		4.17		5.15		6.19		7.17		8.13			9.17		10.15					12.17
土	1.17	2.21		3.21		4.18		5.16		6.20		7.18		8.14			9.18		10.16					12.18
日	1.18	2.22		3.22		4.19		5.17		6.21		7.19		8.15			9.19		10.17					12.19
																			10.18					12.20

CCOPY

Clipboard Copy (クリップボード コピー)

クリップボードヘデータを転送する

- 指定した範囲のデータを、Windowsのクリップボードへコピーします。
- BMP画像のデータをコピーすることもできます。

実行前の確認

- あらかじめ、クリップボードへコピーするデータのあるページを画面に読み込んでおいてください。

仕事は =



何行目をコピーしますか :

クリップボードへコピーするデータのある、行の番号を指定します。

- 6行目をコピーする。
- すべてのデータ行をコピーする。
- すべての行をコピーする。



単独、連続、複数、混合、H・T・A指定、条件式指定、¥指定が可能です。

何桁目をコピーしますか :

クリップボードへコピーするデータのある、桁数を指定します。

- 1桁目から80桁目までをコピーする。
- 先頭桁から最終桁までをすべてコピーする。



INFORMATION

- ◆ 指定された範囲内にある文字データは、文字形式のデータとしてクリップボードへコピーされます。
- ◆ 桁数で範囲を指定しますので、表の場合列の情報は無視されます。
- ◆ 表の横ケイ線は“—”、縦ケイ線は“|”という記号におきかわります。
- ◆ 指定した範囲内に、“\$ \$0000. BMP” (表の場合) “\$@0000. BMP” (文書の場合) というようなBMPファイル名があった場合、そのBMPファイルの画像データがクリップボードにコピーされます。ただし、範囲内にBMPファイル名と他の文字列がある場合には、すべて文字形式のデータとしてクリップボードにコピーされます。

- いったん作成した表の、列の桁数（幅）を変更します。

実行前の確認

- 桁数を小さくする場合、指定した桁数より入力されているデータが長いと、そのデータは左側より削除されますので注意してください。特に、左寄せで入力されているデータは必ず削除されてしまいますので、あらかじめSR命令でデータを右寄せにしておいてください。

類似命令

- C F A...表のすべての列の桁数を変更します。

仕事は =



何列目の桁数を変えますか：

桁数を変更する列を指定します。

- すべての列の桁数を変える。 (または)
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。指定した列すべてが、次で指定する桁数に変わります。

新しい桁数は：

新しい桁数を指定します。

- 指定した列の桁数を 10 桁に変える。
- 現在の桁数より 2 桁増やす。
- 現在の桁数より 1 桁減らす。
- データの桁数に合わせる。

P (ピッタリ) 指定を行うと、指定した列それぞれの中で、一番文字数の多いデータや項目名の桁数に合わせて、列の桁数が変わります。マウスを使って、“+指定” “-指定”を行うこともできます。詳しくは、後述の「マウスで桁数の指定を行うには」をご覧ください。
キーのみを押すと、桁数は変更されません。

INFORMATION

- ◆ C F 命令実行中でも、 (+) キーを押せば、列数・桁数表示部に各列の桁数を表示することができます。

例題

7 ページ「成績集計表」のすべての列を、2 桁増やします。

R : 7 回

C F 回

A 回.....すべての列の桁数を変更する。

+ 2 回.....それぞれの列を 2 桁増やす。

実行前

氏	名	国語	数学	理科	社会	英語
北野	広二	65	81	43	71	68
奥村	本泰	61	55	48	65	68
加藤	芳記	80	72	63	71	39
金尾	義子	48	82	63	70	73
原田	秋子	67	55	59	55	46
荒川	康広	74	93	37	65	77
渋谷	行江	72	46	61	69	64
小池	勇作	62	79	52	60	39
水戸	陽子	75	67	79	68	86
杉山	実貴	45	38	61	84	90
石田	次郎	82	61	75	66	76
田代	由香	94	68	80	51	61



実行後

氏	名	国語	数学	理科	社会	英語
北野	広二	65	81	43	71	68
奥村	本泰	61	55	48	65	68
加藤	芳記	80	72	63	71	39
金尾	義子	48	82	63	70	73
原田	秋子	67	55	59	55	46
荒川	康広	74	93	37	65	77
渋谷	行江	72	46	61	69	64
小池	勇作	62	79	52	60	39
水戸	陽子	75	67	79	68	86
杉山	実貴	45	38	61	84	90
石田	次郎	82	61	75	66	76
田代	由香	94	68	80	51	61

マウスで桁数の指定を行うには

C F 命令中に、マウスを使って、桁数を “ + 指定 ” “ - 指定 ” することができます。 “ 新しい桁数は： ” のメッセージで、それぞれ次のようにして指定します。

ここでは、7 ページ「成績集計表」の 1 列目の桁数を変更します。

★マウスで変更できるのは、1 列だけです。複数の列を指定すると、一番左の列だけが変更されます。

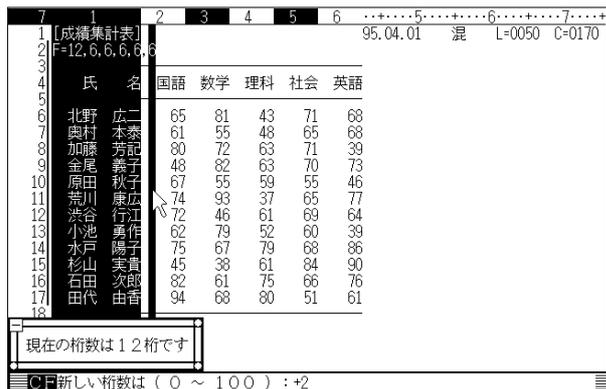
★CFA・CFP 命令でも、同じようにマウスで桁数が指定できます。CFA・CFP 命令では、 キーを押すまで、連続して指定できます。

“ + 指定 ” の場合

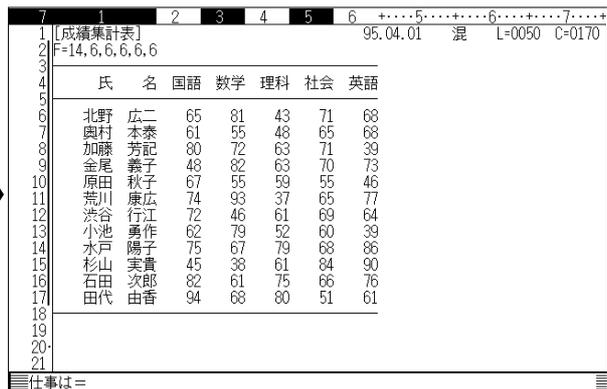
R : 7 

C F 

1  1 列目の桁数を変える。



氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61



氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

マウスで 2 列 2 桁目を指して左ボタンを押すと、“新しい桁数は：” のメッセージの隣に “ + 2 ” と表示されます。

 キーを押すと、1 列目の桁数が 2 桁増えて、14 桁になります。

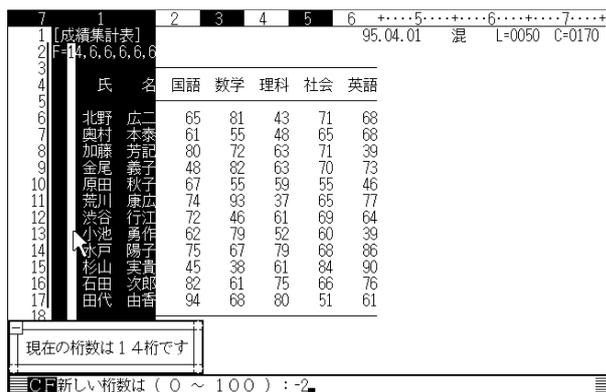
次に、上で増やした桁数を、マウスを使って元の桁数に戻してみましょう。

“ - 指定 ” の場合

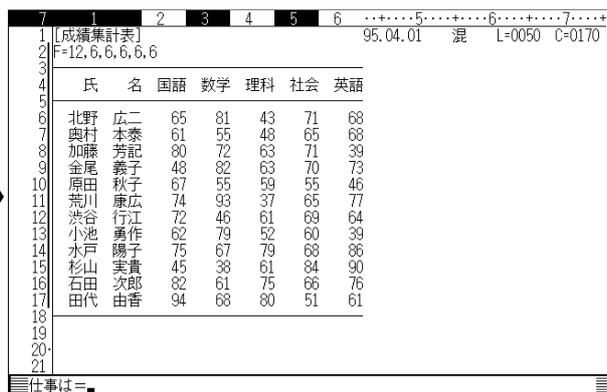
R : 7 

C F 

1  1 列目の桁数を変える。



氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61



氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

マウスで 1 列 3 桁目を指して左ボタンを押すと、“新しい桁数は：” のメッセージの隣に “ - 2 ” と表示されます。

 キーを押すと、1 列目の桁数が 2 桁減って、12 桁になります。

すべての列の桁数を変更する

- 表のすべての列の構成を変えることができます。
 - ・ 複数の列を1つの列にまとめる。
 - ・ 1つの列を複数の列に分ける。
- フォーマット行のないページに、新しくフォーマット行を挿入します。

類似命令

- C F列の桁数を変更します。
- C F P ...列の分離・結合を行います。
- S E P A列を分離します。
- U N I T複数の列を結合します。

仕事は =



【漢字モードの表の場合】

今 0 列設定あと残りは 85 桁です

1 列目の桁数は (0 ~ 50 , [終了 ←]) :

新しく構成する列の桁数を、1つずつ指定します。指定が終わったら最後にもう一度 キーを押します。

- 4 桁、8 桁、8 桁の列からなる新しい表を作る。



- 10 桁の列が 4 列からなる新しい表を作る。



- 60 桁内で 5 列からなる新しい表を作る。



マウスを使って、桁数を指定することもできます。詳しくは、CF命令の「マウスで桁数の指定を行うには」をご覧ください。

【混在モードの表の場合】

今 0 列設定あと残りは 170 桁です

1 列目の桁数は
(0 ~ 100 , [終了 ←]) :

半角文字の桁数を、漢字モードと同様に指定します。

INFORMATION

- ◆ 1 回の桁数指定は、漢字モードのときに 150 桁以内、混在モードのときに 300 桁以内で行います。
- ◆ 桁数指定のとき、F 命令と同様に “*” と “/” が使えます。
- ◆ 部分的な列の分離や結合を行う場合は、C F P 命令、もしくは S E P A 命令・U N I T 命令を使ってください。
- ◆ C F 命令実行中でも、 (+) キーを押せば、列数・桁数表示部に各列の桁数を表示することができます。

例題

72 ページ「売上集計」のフォーマットを変更し、2列の表にします。

R : 72回

C F A回

25回..... 1列目の桁数を25桁にする(1、2、3、4列目を1列にする)。

31回..... 2列目の桁数を31桁にする(5、6、7、8列目を2列にする)。

回..... 指定を終了する。

実行前

72	1	2	3	4	5	6	7	8	6	+	7	+
1	[商品構成台帳Aケルマ]								95.04.01	混	L=0067	C=0120
2	F=5,12,2,8,5,12,8,8											
3												
4	CODE	品名	GR	単価	子CD	品名	部品数	単価				
5												
6	1001	製図ペンセット	A	4600	1002	製図ペン本体	1	2000				
7	1001	製図ペンセット	A	4600	1003	製図ペン先	3	1000				
8	1001	製図ペンセット	A	4600	1024	クランクアダプタ	1	1000				
9	1001	製図ペンセット	A	4600	1026	インク	2	600				
10	1002	製図ペン本体	A	3000	1002	製図ペン本体	1	2000				
11	1003	製図ペン先	A	3000	1003	製図ペン先	3	1000				
12	1004	製図ホート	A	2500	1010	ホートスケール	1	2000				
13	1004	製図ホート	A	2500	1006	30cm直定規	1	200				
14	1004	製図ホート	A	2500	1009	テフレート	1	300				
15	1005	コパス	A	350	1005	コパス	1	350				
16	1006	30cm直定規	A	200	1006	30cm直定規	1	200				
17	1007	12cm三角定規	A	150	1007	12cm三角定規	1	150				
18	1008	9cm分度器	A	150	1008	9cm分度器	1	150				
19	1009	テフレート	A	300	1009	テフレート	1	300				
20	1010	ホートスケール	A	2000	1010	ホートスケール	1	2000				
21	1011	定規セット	A	1100	1006	30cm直定規	1	200				



実行後

72	1	2	3	4	5	6	7	8	6	+	7	+
1	[商品構成台帳Aケルマ]								95.04.01	混	L=0067	C=0120
2	F= <u>25,31</u>											
3												
4	CODE	品名	GR	単価	子CD	品名	部品数	単価				
5												
6	1001	製図ペンセット	A	4600	1002	製図ペン本体	1	2000				
7	1001	製図ペンセット	A	4600	1003	製図ペン先	3	1000				
8	1001	製図ペンセット	A	4600	1024	クランクアダプタ	1	1000				
9	1001	製図ペンセット	A	4600	1026	インク	2	600				
10	1002	製図ペン本体	A	3000	1002	製図ペン本体	1	2000				
11	1003	製図ペン先	A	3000	1003	製図ペン先	3	1000				
12	1004	製図ホート	A	2500	1010	ホートスケール	1	2000				
13	1004	製図ホート	A	2500	1006	30cm直定規	1	200				
14	1004	製図ホート	A	2500	1009	テフレート	1	300				
15	1005	コパス	A	350	1005	コパス	1	350				
16	1006	30cm直定規	A	200	1006	30cm直定規	1	200				
17	1007	12cm三角定規	A	150	1007	12cm三角定規	1	150				
18	1008	9cm分度器	A	150	1008	9cm分度器	1	150				
19	1009	テフレート	A	300	1009	テフレート	1	300				
20	1010	ホートスケール	A	2000	1010	ホートスケール	1	2000				
21	1011	定規セット	A	1100	1006	30cm直定規	1	200				

指定した列の分離・結合を行う

- 指定した列を複数の列に分離することができます。
- 連続した複数の列を結合し、1列にすることができます。

実行前の確認

- 複数の列を結合する場合、指定する列の合計が漢字モードでは 150 桁、混在モードでは 300 桁を超えると処理できません。

類似命令

- C F A...すべての列の桁数を変更します。

仕事は =



列を [分離 1 , 結合 2] :

列を分離するか、結合するかを番号で選択します。

- 分離する。
- 結合する。

1 (または)

2

【分離を選んだ場合】

何列目を分離しますか :

分離する列を指定します。

- ★ 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
- ★ キーを押すとすべての列を指定したことになり、1列目から順に分離することができます。

今 0 列設定 あと残りは 桁です

1 列目の桁数は
(0 ~ , [終了]) :

色のついた列を分離します。必要な桁数を1つずつ指定します。

- 8 桁の列を 5 桁と 3 桁に分離する。 (5) (3) (または (5) (3))
- この列はそのまま次の列指定へ移る。

F 命令と同様に、“*”や“/”を使った指定もできます。

キーのみを押すと、分離せずに次の列へ移ります。指定した列の分離を終了すると、“仕事は=”に戻ります。

【結合を選んだ場合】

何列目を結合しますか :

結合する列を指定します。

- 1 列目から 3 列目を結合する。
- 全体を結合する。

1-3

(または A)

単独、連続、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

連続していない列は結合できません。

例題

9 ページ「売上帳」の“年月日”の列を“年”“月”“日”の3列に分離します。

R : 9 回

C F P 回

- 1 回.....列を分離する。
- 1 回..... 1 列目を分離する。
- 2 回..... “年” を 2 桁にする。
- 2 回..... “月” を 2 桁にする。
- 2 回..... “日” を 2 桁にする。

実行前

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
7	950403	107	(株)神崎建設	ハインター	30	360	10,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	透明*ケツ	20	500	10,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	製図*ト	20	2,500	50,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	コパス	30	300	9,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	ホ*ト*カ*ル	15	2,000	30,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900	
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
16	950403	116	(株)全日本出版	ハインター	25	360	9,000		
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000		
18	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	145,400	
19									
20									
21									

実行後

9	2	3	4	5	6	7	8	9	10	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
2	F=2,2,2,4,15,12,6,6,12,12									
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5										
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
7	950403	107	(株)神崎建設	ハインター	30	360	10,800			
8	950403	107	(株)神崎建設	透明*ケツ	20	500	10,000			
9	950403	107	(株)神崎建設	製図*ト	20	2,500	50,000			
10	950403	107	(株)神崎建設	コパス	30	300	9,000			
11	950403	107	(株)神崎建設	ホ*ト*カ*ル	15	2,000	30,000			
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000			
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000			
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900		
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600			
16	950403	116	(株)全日本出版	ハインター	25	360	9,000			
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000			
18	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	145,400		
19										
20										
21										

上の操作で分離した列を結合します。

C F P 回

- 2 回.....列を結合する。
- 1 - 3 回..... 1 列目から 3 列目を結合する。

実行前

9	1	2	3	4	5	6	7	8	10	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
2	F=2,2,2,4,15,12,6,6,12,12									
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5										
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
7	950403	107	(株)神崎建設	ハインター	30	360	10,800			
8	950403	107	(株)神崎建設	透明*ケツ	20	500	10,000			
9	950403	107	(株)神崎建設	製図*ト	20	2,500	50,000			
10	950403	107	(株)神崎建設	コパス	30	300	9,000			
11	950403	107	(株)神崎建設	ホ*ト*カ*ル	15	2,000	30,000			
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000			
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000			
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900		
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600			
16	950403	116	(株)全日本出版	ハインター	25	360	9,000			
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000			
18	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	145,400		
19										
20										
21										

実行後

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+	
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
2	F=4,15,12,6,6,12,12									
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5										
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
7	950403	107	(株)神崎建設	ハインター	30	360	10,800			
8	950403	107	(株)神崎建設	透明*ケツ	20	500	10,000			
9	950403	107	(株)神崎建設	製図*ト	20	2,500	50,000			
10	950403	107	(株)神崎建設	コパス	30	300	9,000			
11	950403	107	(株)神崎建設	ホ*ト*カ*ル	15	2,000	30,000			
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000			
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000			
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900		
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600			
16	950403	116	(株)全日本出版	ハインター	25	360	9,000			
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000			
18	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	145,400		
19										
20										
21										

CGET

CSV File Get (シーエスバイ ファイル ゲット)

CSV形式のファイルをマイツールデータに変換する

- CSV形式 (カンマ区切りのテキストデータ) で作成されたファイルを読み込み、マイツールのデータとして、指定したページに書き込むことができます。

仕事は =



入力するファイル名は :

変換するファイル名を入力します。

ファイル名は、最大半角 255 文字の主ファイル名と、ピリオド (.) と、拡張子の “CSV” で指定できます。

《例》 URIAGE.CSV など
主ファイル名 | ピリオド | 拡張子

ドライブ名から指定する場合は、ドライブ名とコロンをつけて、ダブルコーテーションで囲ってください。

また、ディレクトリも指定する場合は、ディレクトリ名、ファイル名の前に “¥” を付けます。

《例》 “D : ¥UR I AGE. DAT”

“C : ¥DATA¥UR I AGE. CSV” など

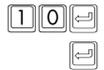
ドライブ名とディレクトリ名を指定しない場合は、マイツールをインストールしたディレクトリの下の “TEMP” ディレクトリを指定したとみなします。

ピリオドと拡張子の “. CSV” は省略することが可能です。

書き込みページは :

変換したファイルを書き込む先頭ページ番号を指定します。

- 10 ページから書き込む。
- 画面に表示する。



INFORMATION

- ◆ カンマで区切られた 1 データを 1 列とします。
- ◆ 1 行目のデータは項目行にします。
- ◆ 1 列の最大文字数は全角で 150 文字、半角で 300 文字です。300 文字を超えた場合は、超えた文字が右側から削除されます。なお、半角文字の 299 文字目から全角文字が始まる場合は、その全角文字は削除されます。文字が削除された場合は、処理終了後にメッセージが表示されます。
- ◆ すべての列の最大文字数は全角で 450 文字、半角で 900 文字です。900 文字を超えた場合はエラーとなり処理が中止されます。
- ◆ CSV のデータに、たとえば 「AB “ ” C」 というようなデータがあった場合、「AB “C」 のように変換されます。

現在のファイルを変更する

- 現在のファイルを変更します。

マイツールのファイルには以下のものがあります。

ファイル名	内容
M (マスターファイル) S (サブファイル)	マイツールをインストールしたドライブに、標準で作られるデータファイルです。
A (B)	フロッピーディスクドライブです。 ドライブが2つある場合は“B”も表示されます。
任意の名称 《例》売上	ファイル命令で、任意に作成されたファイルです。

仕事は =



現在のファイル名は [M] です

新しいファイル名を入れてください：

画面にはファイル名一覧が表示されます。現在のファイルに変更するファイルの名前を入力します。

- 現在のファイルを S (サブファイル) に変更する。



- 確認のみで、ファイルを変更しない。



マイツール起動時は“M” (マスターファイル) になっています。

ファイルに関する詳しい説明は、FILE 命令をご覧ください。

【CHF 命令を使った場合と使わない場合】

例えば“売上”というファイルの1ページを読み出す場合

- 現在のファイルが“売上”に変更されていれば、R 1 と入力するだけですみます。
- 現在のファイルが“売上”以外になっていると、R 売上 / 1 と入力しなければなりません。

特定のファイルのデータを使って作業を続けるような場合は、そのファイルに現在のファイルを設定しておく、データの読み書きが楽になります。

INFORMATION

- ◆ページの書き込みやページの内容を書きかえる処理でファイルを間違えないように、マイツールを操作する時は、常に現在のファイルを意識するようにしてください。

- ◆変更した現在のファイルの設定は、マイツールを終了するときに保存されません。マイツール起動時は、必ず“M”ファイルになっています。

オートプログラム中でのCHF命令の使い方

PRO・RUN命令は、CHF命令で指定した現在のファイルに対して実行しますので、これらの命令を例に説明します。

《例1》 フロッピー内のオートプログラムでフロッピー内のページを処理する。

```
CHF : A : (ドライブAのファイルに変更する)
PRO : E : 100 : ESC :
RUN : ABC :
STOP :
```

《例2》 《例1》の処理をハードディスク内で行う。

```
FILE : 1 : AA : C : F : 100 : テスト : ESC :
CPD : A : AA : :
CHF : AA : (AAというファイルに変更する)
PRO : E : 100 : ESC :
RUN : ABC :
STOP :
```

《例3》 同一プログラムで、別のファイルを処理するプログラム。

```
[BB]
V1 = "売上1月" :
RUN : URI - A :
CHF : M : (元のファイルに戻す)
V1 = "売上2月" :
RUN : URI - A :
CHF : M : (元のファイルに戻す)
STOP :
[URI - A]
CHF : V1 :
R : XX : (売上1月や売上2月のページを読み出す)
:
: (処理)
:
STOP :
```

★ “URI - A” というオートプログラムは、ハードディスクのMファイル内にあらかじめ登録しておきます。

- マイツールを自分で付けた言葉で動かしてみることができます。
- すでにある命令に、アルファベット・ひらがな・カタカナ・漢字で別の名前を付けることができます。
- 1つの仕事（オート）に1つの登録名を付けておけば、その登録名で仕事を実行することができます。登録した命令の一覧表が印刷できます。

重要

- マイツールのすでにある命令と同じ名前で登録してしまうと、その命令は使えなくなってしまうので、英文字で名前を登録する場合は注意してください。

類似命令

- F K S...ファンクションキーに文字列を登録します。
- S E T M...プルダウンメニューやツールバーへの登録や変更を行います。

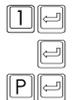
仕事は =



何番目に登録しますか
(または [= 登録名], 印刷 P) :

何番目に登録するか、番号を指定します。登録は 50 個まで可能です。登録名を付けないおす場合は、その番号を指定します。

- 1 番目に登録する。
- 現在登録されているものの次に登録する。
- C M D 命令で登録した一覧表を印刷する。



登録する名前は :

登録名をつけます。

- 画面を分割するオート “ D S : 1 : 10 : 3 : ” に、“ D S 1 ” という登録名を付ける。



内容は :

登録名をつけた命令、またはオートを入れます。

- 内容は “ D S : 1 : 10 : 3 : ”。



INFORMATION

- ◆ 命令は、50 個まで登録できます。
- ◆ 登録名は、全角文字で 5 文字、半角文字で 10 文字以内です。同じ名前は重複して登録できません。
- ◆ 登録できる仕事（オート等）の文字数は、全角文字で 30 文字、半角文字で 60 文字以内です。登録名は、登録を終えると自動的に “ A B C、あいうえお ” 順に 1 番目から順に並べかえられます。
- ◆ 登録する内容は、“ : ”（コロン）で終了してください。
- ◆ 命令の混乱を避けるため、登録する名前はなるべく半角文字を使用してください。
- ◆ 英文字で登録名を付けたものは、小文字でも大文字でも実行できます。ただし、半角で登録したものは半角で、全角で登録したものは全角で入力しないと実行できません。
- ◆ エスケープは “ E S C : ” で登録できます。
- ◆ 半角文字の “ C M D ” は、登録名として使用できません。
- ◆ 登録するデータ内にコロン (:) がある場合は、データ全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。また、すでに登録してあるデータに (↑) (↓) キーでブロックカーソルを移動して (バックタブ) (⇧ Shift) (Tab) キーを押すと、データに { } を付けて入力行に表示されます。{ } はダブルコーテーションと同じ意味もっているため、再度ダブルコーテーションを付ける必要はありません。
- ◆ 登録済みの名前を削除する場合は、登録名にスペースを入力してください。
- ◆ P A G E 命令など、オートプログラム中で使えない命令は使えません。

例題

バランスグラフを作成するセミオートを、“グラフ”という名前で登録する。

CMD

1回.....1番目に登録する。

グラフ回.....登録するセミオートに“グラフ”という名前を付ける。

”G:10::1:3:5::”回.....画面の表からバランスグラフを作る。

★1番目の項目名の列を1列目、2番目の項目名の列を3列目、3番目の項目名の列を5列目にして作成する。

【エスケープ】.....CMD命令を終了する。

登録中の画面



登録が終了したら、実際に実行してみます。

R:38回

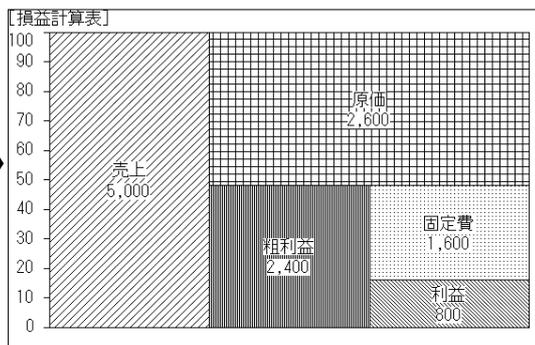
グラフ回

実行前

A	38	1	2	3	4	5	6	+	6	+	7	+
1		[損益計算表]					95.04.01	混	L=0050	C=0170		
2		F=8,10,8,10,8,10										
3												
4		科目	金額	科目	金額	科目	金額					
5												
6		売上	5,000	原価	2,600	@@						
7				粗利益	2,400	固定費	1,600					
8						利益	800					
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												

仕事は=

実行後



おもて画面と裏画面のデータを比較して色をつける

- おもて画面と裏画面の同じ位置のセルのデータを比較して、条件に合ったデータの文字色や背景色を変更します。

実行前の確認

- 比較する表を R B 命令で裏画面に読み出しておいてください。

類似命令

- S H U.....データを検索して条件に合うデータを書きかえます。
- S E T P.....データに付ける色を設定します。

仕事は =



項目行は[指定しない ↵] :

比較する項目行を、1行だけ指定します。
指定した場合は、内容の一致した列のデータを比較します。

- 先頭データ行(H)を指定する。
- 項目行は指定しない。
単独指定が可能です。



指定しない場合は、おもて画面・裏画面の同じ列番号の列を比較します。

項目列は[指定しない ↵] :

比較する項目列を、1列だけ指定します。
指定した場合は、内容の一致した行のデータを比較します。

- 最終列(T)を指定する。
- 項目列は指定しない。
単独指定が可能です。



指定しない場合は、おもて画面・裏画面の同じ行番号の行を比較します。

色付けする行は :

条件が一致したときに、色を付ける行を指定します。

- すべての計算行を指定する。
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。



色付けする列は :

条件が一致したときに、色を付ける列を指定します。

- すべての列を指定する。
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。



0	黒
1	青
2	緑
3	水色
4	赤
5	紫
6	黄
7	白

文字の色を番号で選択します。

- 赤色の文字にする。
- 白色の文字にする。



(または)

文字の色は[白 ↵] :

0	黒
1	青
2	緑
3	水色
4	赤
5	紫
6	黄
7	白

背景の色は[青 ←]

1	数値	変化あり
2		変化なし
3		増加
4		減少
5	文字	変化あり
6		変化なし

色付けする条件は (1 ~ 6) :

文字の背景色を番号で選択します。

- 緑色の文字にする。
- 青色の文字にする。

 (または )

色付けの条件を番号で指定します。

- 数値が変化したデータに色を付ける。
- 数値が変化していないデータに色を付ける。
- 数値の増加したデータに色を付ける。
- 数値の減少したデータに色を付ける。
- 文字が変化したデータに色を付ける。
- 文字が変化していないデータに色を付ける。








3、4を指定した場合、データに文字が含まれていると、内容が変化していても色を付けません。

5を指定した場合、数値データでも内容が変化していれば色を付けます。

6を指定した場合、数値データは内容が変化していても、色を付けません。

⑥、⑦で  キーのみを指定して、条件に“1…数値変化あり”を指定した場合、増加したデータの背景色は青、減少したデータの背景色は赤になります。

【 “ 3 数値増加 ” または “ 4 数値減少 ” を選んだ場合 】

パーセントの範囲は[指定しない ←] :

数値が何パーセント変化したものについて色を付けるか、条件式を使って指定します。

- 10%以上 (10 を含む)。
- 10%未満 (10 を含む)。
- 10%以上 20%未満。
- 10%を超えるもの (10 は含まない)。
- 10%以下 (10 を含む)。
- 範囲は指定しない。

 (または )






範囲を指定しない場合、“数値増加”では増加したものすべてに、“数値減少”では減少したものすべてに色が付きます。

小数点を含む数値も指定できます。

変化が1%未満の場合は、色を付けません。

INFORMATION

- ◆ 文字の色と背景色を同じ色に指定すると、文字が見えなくなってしまうので注意してください。

例題

10ページの「支店別売上表 94年」と11ページの「支店別売上表 93年」を比較して、数値の変化したものに色づけします。

R : 10回

R B : 11回

C M P 回

-項目行は指定しない。
-項目列は指定しない。
-すべての計算行に色付けする。
-すべての列に色付けする。
-白色の文字にする。
-青色の背景にする。
-数値が変化したデータに色を付ける。

実行前

10	1	2	3	4	57.....+
1	[支店別売上表94年]				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4		支店名	4月	5月	6月	合計
5						
6		A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
7		B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
8		C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
9		合計	170,000	133,000	240,000	543,000
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

実行後

10	1	2	3	4	57.....+
1	[支店別売上表94年]				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4		支店名	4月	5月	6月	合計
5						
6		A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
7		B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
8		C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
9		合計	170,000	133,000	240,000	543,000
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

裏画面のデータ

11	1	2	3	4	57.....+
1	[支店別売上表93年]				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4		支店名	4月	5月	6月	合計
5						
6		A支店	45,000	40,000	85,000	170,000
7		B支店	45,000	23,000	65,000	133,000
8		C支店	65,000	20,000	110,000	195,000
9		合計	155,000	83,000	260,000	498,000
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

条件ページの条件と一致した行を計算する

- データを検索して条件ページの条件と一致した場合、指定された計算式にしたがって行を計算し更新します。

実行前の確認

- 条件と、それに対応する計算式は、条件ページにあらかじめ作成しておいてください。

類似命令

- SIM...データを修正してから、計算式にしたがって再計算します。

仕事は =



計算するページは[画面 ↵] :

条件ページと照合して、検索・計算するページ番号を指定します。

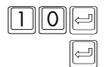
- 画面のデータを検索し、計算する。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

条件ページは[裏画面 ↵] :

条件ページのページ番号を指定します。

- 10 ページの条件ページを使う。
- 裏画面の条件ページを使う。
単独指定が可能です。
複数ページは指定できません。



条件ページの作り方

【条件ページの作成手順】

条件ページの表は次のようになっています。

[年齢条件式]			95.04.01	混
F=18,18,18				
条件式 1	条件式 2	条件式 3		
C3=T	C3=S	C3=H		条件式
DR:0:2: C2-(1911+C4)=C5	DR:0:2: C2-(1925+C4)=C5	DR:0:2: C2-(1988+C4)=C5		計算式

条件ページは次のように作成してください。

F 命令を実行して、条件の数だけ列を指定します。項目名には、“条件 1” “条件 2” と条件の番号を入力してください。

条件式と計算式を入力します。条件式には検索の条件を、計算式には条件式と一致した場合の計算する式を入力します。入力が終わったら、**エスケープ**キーを押して、F 命令を終了します。

D R L 命令で、条件式と計算式の間に 1 行ケイ線を引きます。ケイ線を引かないと、条件式と計算式を区別できないので、必ず引いてください。

【条件ページ作成上の注意】

- 条件式は、S H 命令など検索関係の命令で使うものと同じです（ただし、列検索とブロック検索はできません。条件の指定方法について詳しくは、S H 命令をご覧ください）。
- 条件式を縦方向に続けて書くと、AND 条件になります。
- 計算式は、C 命令の計算式と同じ形で記述してください。ただし、行・マトリックス・ワークエリアに関する式は使用できません。
- 計算式は、同列同行に 1 つだけです。
- 計算式中に、下記のような G O T O 文が使えます。

[条件ページ]				95.04.01	混	L=0055	C=0170
F=18,18,18,18							
条件 1	条件 2	条件 3	条件 4				
C1 < 20		C2 = 3					
1 = C3	2 = C3	" * " = C4	" # " = C4				
G O T O C3	G O T O C4						

上記の場合、“条件 1” に合うデータがあったら、C 3 (3 列目) の “条件 3” へ飛んで照合を行います。

INFORMATION

- ◆ CNC命令を実行すると、条件（条件ページ）の左から順に照合していきます。1番目の条件が合わなければ2番目の条件、3番目の条件…と順に照合していきます。
- ◆ 条件の種類（条件1・条件2……）は、最大300個まで指定できます。
- ◆ 条件は、最大5行です（上の行から順に“AND”条件になります）。
- ◆ 複数の条件で計算を行いたい場合は、計算式の最後にGOTO文を記述しておきます。
- ◆ 計算式は、同行同列に1つですが、個数は無制限です。
- ◆ 条件が何も無い場合は、無条件に計算式を実行します。
- ◆ ページを指定した場合、計算結果がページに書き込まれます。画面のデータを使った場合は表示するだけです。
- ◆ スペースは“O”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。
- ◆ 計算結果（整数部）が書き込み先の桁数を越えた場合、その項目は“*”でうめられます（“*”は最大18まで表示します）。
- ◆ 計算式に、DR命令を使うことができます。
- ◆ 条件ページに誤りがあった場合、最初に見つけた誤りの式を反転して、処理を中止します。
- ◆ 複数ページの処理中、**エスケープ**キーを押すと一時停止します。停止中に**戻る**キーを押すと、再開します。もう一度**エスケープ**キーを押すと中止します。

例題

12ページ「和西暦年齢」の和暦誕生日と本日の日付から、年齢を求めます。

R : 12回

CNC

画面のデータを検索し、計算する。

13回……13ページの条件ページを使う。

実行前

12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	[和西暦年齢]				98.05.01	混	L=0050	C=0170				
2	F=10,10,6,12,10											
3												
4	氏名	本年西暦年	元号	和暦誕生日	年齢							
5												
6	黒木百合子	1998.0501	T	3.0204								
7	木田 美鈴	1998.0501	T	10.0120								
8	若下 峰子	1998.0501	S	8.1108								
9	浦本 昭子	1998.0501	S	11.0518								
10	武井美津子	1998.0501	S	28.0218								
11	井上 洋子	1998.0501	S	39.1213								
12	駒形 麻美	1998.0501	S	41.1205								
13	小泉 桃子	1998.0501	S	42.0603								
14	沢田 和子	1998.0501	S	44.1105								
15	岡本安貴子	1998.0501	S	47.0429								
16	森田 玲	1998.0501	S	51.0318								
17	高木のふ子	1998.0501	S	53.0728								
18	住由 朋	1998.0501	S	61.1229								
19	竹田 夏美	1998.0501	H	2.0914								
20	秋野 昌江	1998.0501	H	5.0414								
21												

実行後

12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	[和西暦年齢]				98.05.01	混	L=0050	C=0170				
2	F=10,10,6,12,10											
3												
4	氏名	本年西暦年	元号	和暦誕生日	年齢							
5												
6	黒木百合子	1998.0501	T	3.0204	84							
7	木田 美鈴	1998.0501	T	10.0120	77							
8	若下 峰子	1998.0501	S	8.1108	64							
9	浦本 昭子	1998.0501	S	11.0518	61							
10	武井美津子	1998.0501	S	28.0218	45							
11	井上 洋子	1998.0501	S	39.1213	33							
12	駒形 麻美	1998.0501	S	41.1205	31							
13	小泉 桃子	1998.0501	S	42.0603	30							
14	沢田 和子	1998.0501	S	44.1105	28							
15	岡本安貴子	1998.0501	S	47.0429	26							
16	森田 玲	1998.0501	S	51.0318	22							
17	高木のふ子	1998.0501	S	53.0728	19							
18	住由 朋	1998.0501	S	61.1229	11							
19	竹田 夏美	1998.0501	H	2.0914	7							
20	秋野 昌江	1998.0501	H	5.0414	5							
21												

使用する条件ページ

13	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	[年齢条件式]				98.05.01	混	L=0055	C=0170				
2	F=18,18,18											
3												
4	条件式1	条件式2	条件式3									
5												
6	C3=T	C3=S	C3=H									
7												
8	DR:0:2:	DR:0:2:	DR:0:2:									
9	C2-(1911+C4)=C5	C2-(1925+C4)=C5	C2-(1988+C4)=C5									
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												

COPY

Copy (コピー)

ページの内容を別のページにコピーする

- ページの内容を別のページへコピーします。複数ページのコピーや異なるファイル間でのコピーも行えます。

重要

- COPY命令を実行すると、書き込み先のページの内容はすべて書きかえられます。実行の際には、十分に注意してください。次ページの「ページ指定時のご注意」も、よくお読みください。

類似命令

- CPD.....ファイルまたはフロッピー全体をコピーします。

仕事は =



コピーするページは[画面 ↵] :

コピー元となるページを指定します。

- 1ページから5ページまでコピーする。



- 2ページと7ページをコピーする。



- サブファイルの3ページをコピーする。



- 表示されている画面のページをコピーする。



- ドライブAのデータフロッピーの8ページをコピーする。



単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

書き込み先頭ページは
[印刷 P, 画面 ↵] :

何ページから書き込むか、コピー先を指定します。

- 4ページから書き込む。



- ドライブAのデータフロッピーの9ページから書き込む。



- 印刷する。



キーのみを押すと、画面に表示するだけでページのコピーは行いません。

INFORMATION

- ◆ 複数ページをコピーすると、コピー終了後、最終ページが画面に残ります。
- ◆ ファイルまたはフロッピー全体のコピーは、CPD命令を使ってください。
- ◆ マスターファイル以外のデータをコピーする場合、ドライブAにセットされたデータフロッピー内のページにはAを、増設フロッピーディスクを使っていればそのドライブ名を、ページ番号の前に付けて指定してください。
- ◆ また、ファイル名もドライブと同様に指定することができます。その際、ファイル名とページ数の間に“/”（スラッシュ）を付けて指定してください。

- ◆ 複数ページの処理中、**[エスケープ]**キーを押すと一時停止します。停止中に**[↵]**キーを押すと再開します。もう一度**[エスケープ]**キーを押すと、コピーを中止します。
- ◆ V型ファイルをコピーする場合はファイル名のみを指定し、ファイル全体をコピーします。V型ファイルを書き込み先に指定した場合は、1ページから順に書き込みます。コピーされたページ数より後ろのページは削除されますので注意してください。

ページ指定時のご注意

同じドライブ（たとえば、ドライブAのフロッピー）またはファイル内でページをコピーする場合は、“コピーするページ”と“書き込み先頭ページ”の、ページ番号が重ならないようにご注意ください。ページ番号が重なるような指定をすると、コピーするページを書きかえてしまいます。

★ドライブが異なる場合は、ページ番号が重なっていても構いません。

間違った指定の例：同じドライブの場合

コピーするページは：A 1 - 5 ・ A / 1 2 3 4 5 ページ

書き込み先頭ページは：A 5 ・ A / 5 6 7 8 9 ページ

ページのコピーは1ページ単位で行われますので、上のよう
にコピーすると、5ページをコピーするときすでに5ページの
内容は書き変わっており、9ページには5ページと同じ内容が
コピーされてしまいます。

正しい指定の例：同じドライブの場合

コピーするページは：A 1 - 5 ・ A / 1 2 3 4 5 ページ

書き込み先頭ページは：A 6 ・ A / 6 7 8 9 10 ページ

ページが重なっていないため、6～10 ページに1～5ページの
内容がコピーされます。

正しい指定の例：異なるドライブの場合

コピーするページは：M 1 - 5 ・ M / 1 2 3 4 5 ページ

書き込み先頭ページは：A 1 ・ A / 1 2 3 4 5

ドライブが異なっているため、ページ番号が重なっていても同じ
内容がコピーされます。

CPAST

Clipboard Paste (クリップボード ペースト)

クリップボードからデータを取り込む

- Windowsのクリップボードの内容(テキスト形式、BMP形式のデータ)を、マイツールに取り込みます。

実行前の確認

- クリップボードから取り込めるのは、テキスト形式のデータか
BMP形式のデータのみです。
- あらかじめ、データを取り込むページを、画面に読み込んでおいてください。

仕事は =



貼りつける先頭の行は :

クリップボードのデータを貼り付ける、行の番号を指定します。

- 6行目をコピーする。
- すべてのデータ行をコピーする。
- すべての行をコピーする。

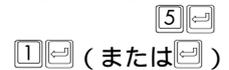


単独指定、H・T指定、条件式指定、¥指定が可能です。

貼りつける先頭の桁は :

クリップボードのデータを貼り付ける、先頭桁数を指定します。

- 5桁目から貼り付ける。
- 1桁目から貼り付ける。



【クリップボードの内容がBMP形式の画像の場合】

ビットマップファイル名は :

クリップボードからBMP形式の画像データを貼り付けると、そのデータを“MYBMP”のディレクトリにBMPファイルとして保存します。その際ファイルにつけるファイル名を指定します。

- “HANA”というファイル名を付ける。
- ファイル名を自動的に付ける。

ファイル名を自動的に付けた場合“PASTE01.BMP”というような名前が付けられ、マイツールをインストールしたディレクトリの下“MYBMP”のディレクトリに保存されます。主ファイル名の下2桁の数字は、自動的にふられる連番となります。

INFORMATION

- ◆ マイツールで、データやBMP形式の画像をクリップボードへコピーするにはCCOPY命令を使います。
- ◆ クリップボードは、Windowsのアプリケーションどうしてデータのやり取りをしたり、データを一時的に保管する場所として使われます。

- ◆ クリップボードへは、アプリケーションによっていろいろな形式でデータが貼り付けられます。マイツールでクリップボードとやり取りのできるデータの形式は、テキスト形式のデータとBMP形式の画像データです。

- ◆ BMP形式のデータを表のセルに貼り付けた場合、セルの中には“\$\$000.BMP”というように、④で付けた名前が入力されます。データ行でない部分に貼り付けた場合、“\$@000.BMP”というような文字が入力されます。

CPAST命令でのデータの動き

クリップボードのデータがテキストデータの場合

来たる5月度において、新製品「マドツール」の発表キャンペーンを全国規模で展開することになりました。

表に取り込むと

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[※]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=14.12.12.12.12.12						
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

指定した桁数より表に取り込まれます。この際、列は一切無視して取り込まれますので、データとして使う場合はCFA命令などで列の設定を行う必要があります。

フォーマット文のないページに取り込むと

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[※]				95.04.01	混	L=0050 C=0170
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

表と同様、指定した桁数より文字が取り込まれます。

クリップボードのデータがBMP形式の画像データの場合



表に取り込むと

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[※]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=24.12.12.12.12.12						
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							

指定した位置に“\$ \$000. BMP”というようなBMPファイル名が書き込まれ画像が表示されます。実際のBMPファイルは、“MYBMP”のディレクトリに書き込まれます。

フォーマット文のないページに取り込むと

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[※]				95.04.01	混	L=0050 C=0170
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

指定した位置に“\$ @000. BMP”というようなBMPファイル名が書き込まれ画像が表示されます。実際のBMPファイルは、“MYBMP”のディレクトリに書き込まれます。

- 表の中で指定した列の内容を別の列へ複写します。
- 1列だけでも、複数の列でも複写することができます。

実行前の確認

- 複写先に指定した列のデータは、すべて書きかえられてしまうので注意してください。
- 複写元の列の桁数が複写先の列の桁数より大きいときは、列の左側からデータを削除して複写します。

類似命令

- C P L...行の内容を複写します。
- C P R...指定した範囲の内容を複写します。

仕事は =



何列目を複写しますか：

複写元となる列を指定します。

- すべての列を複写する。 (または)
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

複写の先頭は何列目ですか：

複写先の先頭列番号を指定します。

- 6列目から複写する。
- 最終列の後ろに、複写した列の内容を追加する。
1列のみを複写する場合は、指定列だけを書きかえます。複数列の複写の場合は、指定列を先頭にして順番に書きかえられます。

INFORMATION

- ◆ 複写した結果、ページの範囲を超えてしまったデータは複写されません。

例題

5ページ「売上集計」の2列目「売上」を、3列目の後に複写します。

R : 5回

C P C

2回.....2列目を複写する。

4回.....4列目の前に複写する。

★このとき3列目までしかありませんが、最終列の後に複写する場合はこのように指定します。

実行前

5	1	2	3	4	5	6	7
1	[売上集計]		95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12,6						
3							
4	品名	売上	%				
5							
6	F	968,000	37.9				
7	A	754,000	29.5				
8	G	324,000	12.6				
9	B	262,000	10.2				
10	C	128,000	5.0				
11	E	62,000	2.4				
12	D	54,000	2.1				
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
	仕事は =						

実行後

5	1	2	3	4	5	6	7
1	[売上集計]		95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12,6,12						
3							
4	品名	売上	%	売上			
5							
6	F	968,000	37.9	968,000			
7	A	754,000	29.5	754,000			
8	G	324,000	12.6	324,000			
9	B	262,000	10.2	262,000			
10	C	128,000	5.0	128,000			
11	E	62,000	2.4	62,000			
12	D	54,000	2.1	54,000			
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
	仕事は =						

データフロッピーやファイルをコピーする

- データフロッピーの全ページを、ハードディスク内のファイルにコピーします。
- ファイルの全ページをコピーすることもできます。

重要

- フロッピーからのコピーやフロッピーへのコピーを行っている最中には、データフロッピーをドライブから抜かないでください。フロッピーが破損するおそれがあります。

類似命令

- COPY...ページの内容をコピーします。

仕事は =



コピー元のドライブは
(A ~ C, 又は名前):

コピーする元の内容が入っているドライブ名、またはファイル名を指定します。

- ドライブAのフロッピーの内容をコピーする。
- URIファイルをコピーする。



入力はドライブ【A】です。

コピー先のドライブ名、またはファイル名を指定します。

コピー先のドライブは
(A ~ C, 又は名前):

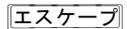
- ドライブCのマスターファイルにコピーする。 (または)
- GETUファイルにコピーする。
- ドライブBのフロッピーにコピーする。

ドライブ【A】から
ドライブ【C】へコピーします

コピーを開始してよければ キーを押します。

よければ キーを押してください

- コピーを始める。
- 中止する



コピー元にドライブA、コピー先にドライブCを指定すると、マスターファイルにデータフロッピーの全ページがコピーされます。

ただいま処理中ですので少しお待ちください
/ 100

コピー中です。
しばらくこのままでお待ちください。

コピー終了
最終書き込みページ = 100

コピーが終了しました。

【フロッピーからV型ファイルにコピーする場合】

コピーするページ数を入力してください
(1 ~) :

コピーするページ数を指定してください。

このフロッピーはフォーマットされて
いません！
フォーマットするなら キーを押
してください

セットしたフロッピーがフォーマットされていないと、このメッセージが表示されます。

キーを押すと、フォーマット後、コピーを始めます。

ドライブのフロッピーが違います。

フロッピーを交換して キーを押
してください

このメッセージは、入力ドライブ(コピー元のフロッピー)にデータフロッピー以外のものがセットされている場合に表示されます。フロッピーを確認してください。

このフロッピーはデータフロッピーではありません。
フロッピーを確認し内容を全て削除してよければ[⇐]キーを押してください

このメッセージは、出力ドライブ(コピー先のフロッピー)にシステムフロッピーなどがセットされている場合に表示されます。フロッピーを確認してください。

☞キーを押すと、ファイルすべてを消してからコピーを始めます。

1枚終了

【A】ドライブに次のフロッピーをセットして[⇐]キーを押してください

ハードディスク内のファイルを指定した場合、コピー元が100ページ以上あると、100ページをコピーした場合、このメッセージが表示されます。

続けてコピーする場合は、次のフロッピーをドライブAにセットした後、☞キーを押してください。

INFORMATION

- ◆ CPD命令で処理中、エスケープキーを押すと一時停止します。停止中に☞キーを押すと再開します。もう一度エスケープキーを押すと中止します。
- ◆ PAGE命令中でCPD命令を使う場合は、PAGE命令で指定しているページのドライブ(またはファイル)に対してCPD命令を行うことはできません。
- ◆ ファイルや、フロッピー内の部分的なページをコピーする場合は、COPY命令を使ってください。
- ◆ 入力ドライブと出力ドライブに、同じものは指定できません。
- ◆ フロッピーがフォーマットされていなくても、CPD命令中にフォーマットすることができます。また、システムのフォーマット後、INI命令で初期化していないフロッピーにもコピーできます。
- ◆ コピー元がインデックス型ファイルの場合、コピーしたファイルにはインデックスがつけられます。

コピー元	コピー先	コピーされるページ数	PRO命令の登録情報	注意制限
フロッピー	フロッピー	100	×	
	Mファイル	Mファイルのページ数		
F型ファイル	F型ファイル	ファイルのページ数	×	コピーするページ数を入力します。コピーするページ数がV型ファイルのページ数より小さい場合、コピーしたページ以降はV型ファイルより削除されます。また、コピーできるページ数は、指定したV型ファイルのページ数 + 空きページ数 までです。ただし、最大10,000ページまでとなります。
	V型ファイル	指定したページ数		
Mファイル	フロッピー	Mファイルのページ数	×	ページ数が100を超える場合、“次のフロッピーをセットしてください”のメッセージが出ます。
	F型ファイル	入力ページ数	×	
V型ファイル	F型ファイル	入力ページ数	×	コピー元よりコピー先のページ数が大きい場合、コピーしたページ以降は削除されます。
	V型ファイル	指定したページ数	×	
F型ファイル	Mファイル	小さい方のページ数	×	コピー元よりコピー先のページ数が大きい場合、コピーしたページ以降は削除されます。
	F型ファイル	小さい方のページ数	×	
V型ファイル	V型ファイル	入力ページ数	×	コピー元よりコピー先のページ数が大きい場合、コピーしたページ以降は削除されます。
	Mファイル	入力ページ数	×	
	F型ファイル	入力ページ数	×	

★必ず1ページから書き込みます。

★PROはオートプログラムの“登録”です。コピーされないものはPRO命令で登録し直してください。

行の内容を複写する

- 表の中の指定した行の内容を別の行へ複写します。
- 1行だけでも、複数の行でも複写することができます。

実行前の確認

- 複写先に指定した行のデータは、すべて書きかえられてしまうので注意してください。

類似命令

- C P C...列の内容を複写します。
- C P R...指定した範囲の内容を複写します。

仕事は =



何行目を複写しますか :

複写元となる行を指定します。

- すべてのデータ行を複写する。 (または)
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

複写の先頭は何行目ですか :

複写の先頭行番号を指定します。

- 10行目から複写する。
 - データ行の最後に複写した行を追加する。
- 1行のみを複写する場合は、指定行だけを書きかえます。複写行の複写の場合は、指定行を先頭にして順番に書きかえます。

INFORMATION

- ◆ 複写した結果、ページの範囲を超えてしまったデータは、複写されません。

例題

9ページ「売上帳」の10行目のデータを、最終データ行に複写します。

R : 9回

C P L

10回.....10行目を複写する。

T最終データ行に複写する (“ T ” はデータ行の最後という意味です)。

実行前

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
7	950403	107	(株)神崎建設	ハインター	30	360	10,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	透明ホケット	20	500	10,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	製図ホート	20	2,500	50,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	ホートスケール	15	2,000	30,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900	
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
16	950403	116	(株)全日本出版	ハインター	25	360	9,000		
17	950403	116	(株)全日本出版	書類カス	100	1,200	120,000		
18	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	145,400	
19									
20									
21									

実行後

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
7	950403	107	(株)神崎建設	ハインター	30	360	10,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	透明ホケット	20	500	10,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	製図ホート	20	2,500	50,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	ホートスケール	15	2,000	30,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900	
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
16	950403	116	(株)全日本出版	ハインター	25	360	9,000		
17	950403	116	(株)全日本出版	書類カス	100	1,200	120,000		
18	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000		
19									
20									
21									

CPPB

Copy Point of Backarea (コピー ポイント オブ バックエリア)

裏画面の指定したセルの内容を、おもて画面の表に複写する

- 裏画面の表の指定したセルの内容を、おもて画面の表の指定したセルに複写します。

実行前の確認

- 複写先に指定したセルの内容は、書きかえられますので注意してください。

類似命令

- C P R B...裏画面の指定した範囲の内容を、おもて画面の表に複写します。

仕事は =



裏画面の何行目を複写しますか：

裏画面から複写するセルの、行番号を指定します。

- 8 行目を指定する。
単独指定、H・T指定、条件式指定、¥指定が可能です。



裏画面の何列目を複写しますか：

裏画面から複写するセルの、列番号を指定します。

- 4 列目を指定する。
単独、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。



表画面の何行目に複写しますか：

複写先にするおもて画面のセルの、行番号を指定します。

- 9 行目を指定する。
単独、H・T指定、条件式指定、¥指定が可能です。



表画面の何列目に複写しますか：

複写先にするおもて画面のセルの、列番号を指定します。

- 6 列目を指定する。
単独、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。



INFORMATION

◆複写先にケイ線のある行や列を指定すると、ケイ線上に上書きされます。

◆複写元のデータの桁数より、複写先の列の桁数が小さいと、データは左側から削除されます。

例題

7ページの「成績集計表」の“氏名”のセルに、裏画面に読み出した64ページの「成績表」から“秋田智子”のデータを複写します。

R : 7回

RB : 64回

CPPB回

- 6回.....複写元に裏画面の6行目を指定する。
- 2回.....さらに裏画面の2列目を指定して、セルを確定する。
- 11回.....複写先におもて画面の12行目を指定する。
- 1回.....さらにおもて画面の1列目を指定して、複写先のセルを確定する。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 委貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
秋田 智子	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 委貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

裏画面の「成績表」

No	氏名	英語	数学	国語	理科	社会	合計
1	秋田 智子	91	64	91	65	82	393
2	浅野 正江	77	69	75	79	84	384
3	荒川 康広	82	76	61	72	49	340
4	荒木 澄朗	70	63	46	56	78	313
5	池田 常臣	82	39	53	48	76	298
6	石田 次郎	62	60	39	55	68	284
7	逸見 秀安	73	56	49	58	71	307
8	伊藤 恵子	82	52	73	59	47	313
9	植田 三朗	83	49	57	67	52	308
10	大野 章義	55	46	77	82	42	302
11	奥村 本泰	39	56	49	58	69	271
12	小野 明子	71	49	39	83	51	293
13	角田 精子	62	78	56	59	75	330
14	加藤 靖恵	64	83	73	62	65	347
15	金丸 修子	65	46	76	62	36	285
16	金田 義記	90	62	46	74	68	340

- 表の中の指定した範囲の内容を、別の範囲へ複写します。

実行前の確認

- 複写先に指定した範囲内のデータは、すべて書きかえられてしまうので注意してください。

類似命令

- C P C...列の内容を複写します。
- C P L...行の内容を複写します。

仕事は =



何行目を複写しますか：

複写元となる、行の番号（範囲）を指定します。

- すべてのデータ行を指定する。 (または)
- 単独、連続、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。
- 連続していない複数行を指定することはできません。

何列目を複写しますか：

複写元となる、列の番号（範囲）を指定します。

- すでに指定した行の全列を複写する。 (または)
- 単独、連続、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
- 連続していない複数列を指定することはできません。

複写の先頭は何行目ですか：

複写先の先頭行番号を指定します。

- 20行目から複写する。

複写の先頭は何列目ですか：

複写先の先頭列番号を指定します。

- 1列目から複写する。

INFORMATION

- ◆複写元と複写先に指定できるのは、項目行の上のケイ線から最終データ行までと、すべての列です。複写した結果、この範囲を超えてしまったデータは複写されません。

例題

6 ページ「売上帳」の“得意先名”のデータを、範囲を指定して別のセルに複写します。

R：5

C P R

6 - 7複写元は 6 - 7 行目を指定する。

3 - 4さらに 3 - 4 列目を指定して範囲を確定する。

17複写先の先頭行は、17 行目を指定する。

3複写先の先頭列は、3 列目を指定する。

実行前

6	1	2	3	4	5	6	7	8
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12							
3								
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計
5								
6	950403	118	(株)T0商会	ファビ	100	800	80,000	
7	950403	118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800	
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600	
9	950403	107	(株)神崎建設	ボンダ-	30	360	10,800	
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ホ-ット	20	500	10,000	
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ホ-ット	20	2,500	50,000	
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000	
13	950403	107	(株)神崎建設	ホ-トカ-ル	15	2,000	30,000	
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000	
15	950403	107	(株)神崎建設	ファビ	200	800	160,000	
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リ-フ	150	150	22,500	
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600	
18	950403	116	(株)全日本出版	ボンダ-	25	360	9,000	
19	950403	116	(株)全日本出版	書類入	100	1,200	120,000	
20	950403	116	(株)全日本出版	ファビ	6	800	4,800	
21								

実行後

6	1	2	3	4	5	6	7	8
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12							
3								
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計
5								
6	950403	118	(株)T0商会	ファビ	100	800	80,000	
7	950403	118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800	
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600	
9	950403	107	(株)神崎建設	ボンダ-	30	360	10,800	
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ホ-ット	20	500	10,000	
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ホ-ット	20	2,500	50,000	
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000	
13	950403	107	(株)神崎建設	ホ-トカ-ル	15	2,000	30,000	
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000	
15	950403	107	(株)神崎建設	ファビ	200	800	160,000	
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リ-フ	150	150	22,500	
17	950403	116	(株)T0商会	ファビ	20	580	11,600	
18	950403	116	(株)T0商会	A4用紙	25	360	9,000	
19	950403	116	(株)全日本出版	書類入	100	1,200	120,000	
20	950403	116	(株)全日本出版	ファビ	6	800	4,800	
21								

CPRB

Copy Range of Backarea (コピー レンジ オブ バックエリア)

裏画面の指定した範囲の内容を、おもて画面の表に複写する

- 裏画面の表の指定した範囲の内容を、おもて画面の表の指定した位置を先頭にして複写します。

実行前の確認

- 複写先に指定した範囲の内容は、書きかえられますので注意してください。

類似命令

- C P P B...裏画面の指定したセルの内容を、おもて画面の表に複写します。

仕事は =



裏画面の何行目を：

裏画面から複写する、行の番号（範囲）を指定します。

- 6行目から9行目を指定する。
- すべてのデータ行を指定する。 (または)
単独、連続、複数、混合、H・T・A指定、条件式指定、¥指定が可能です。

裏画面の何列目を：

裏画面から複写する、列の番号（範囲）を指定します。

- 1列目から6列目を指定する。
- すべてのデータ列を指定する。 (または)
単独、連続、複数、混合、H・T・A指定、条件式指定、@指定が可能です。

複写の先頭は何行目ですか：

複写先にするおもて画面の、先頭行番号を指定します。

- 6行目を指定する。
- 単独、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。

複写の先頭は何列目ですか：

複写先にするおもて画面の、先頭列番号を指定します。

- 1列目を指定する。
- 単独、H・T指定、条件式指定、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ 複写元と複写先に指定できるのは、項目行の上のケイ線から最終データ行までと、すべての列です。複写した結果、この範囲を超えてしまったデータは複写されません。

例題

6 ページの「売上帳」に、裏画面に読み出した 9 ページ「売上帳」から“品名”“数量”“単価”の範囲データを複写します。

R : 6 回

R B : 9 回

C P R B 回

12 - 14 回.....複写元に裏画面の 12 - 14 行目を指定する。

4 - 6 回.....さらに 4 - 6 列目を指定して、範囲を確定する。

8 回.....複写先におもて画面の 8 行目を指定する。

4 回.....さらにおもて画面の 4 列目を指定して、複写先の範囲を確定する。

実行前

6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	118	(株)T0商会	ﾌﾌﾙ	100	800	80,000		
7	950403	118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
9	950403	107	(株)神崎建設	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	30	360	10,800		
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ﾌﾞｯｸﾄﾞ	20	500	10,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ﾊﾞｰﾄﾞ	20	2,500	50,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	ｺｰﾊﾟｰｽ	30	300	9,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ﾎﾞｰﾄﾞｶｰﾄﾞ	15	2,000	30,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
15	950403	107	(株)神崎建設	ﾌﾌﾙ	200	800	160,000		
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚ｼｰﾌﾞ	150	150	22,500		
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
18	950403	116	(株)全日本出版	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	25	360	9,000		
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ｸﾚｰｽ	100	1,200	120,000		
20	950403	116	(株)全日本出版	ﾌﾌﾙ	6	800	4,800		
21									

実行後

6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	118	(株)T0商会	ﾌﾌﾙ	100	800	80,000		
7	950403	118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	ﾌﾌﾙ	200	800	160,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	50枚ｼｰﾌﾞ	150	150	22,500		
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ﾊﾞｰﾄﾞ	20	2,500	50,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	ｺｰﾊﾟｰｽ	30	300	9,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ﾎﾞｰﾄﾞｶｰﾄﾞ	15	2,000	30,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
15	950403	107	(株)神崎建設	ﾌﾌﾙ	200	800	160,000		
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚ｼｰﾌﾞ	150	150	22,500		
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
18	950403	116	(株)全日本出版	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	25	360	9,000		
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ｸﾚｰｽ	100	1,200	120,000		
20	950403	116	(株)全日本出版	ﾌﾌﾙ	6	800	4,800		
21									

裏画面の「売上帳」

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
7	950403	107	(株)神崎建設	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	30	360	10,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	透明ﾌﾞｯｸﾄﾞ	20	500	10,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	製図ﾊﾞｰﾄﾞ	20	2,500	50,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	ｺｰﾊﾟｰｽ	30	300	9,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	ﾎﾞｰﾄﾞｶｰﾄﾞ	15	2,000	30,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ﾌﾌﾙ	200	800	160,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚ｼｰﾌﾞ	150	150	22,500	318,900	
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
16	950403	116	(株)全日本出版	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	25	360	9,000		
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ｸﾚｰｽ	100	1,200	120,000		
18	950403	116	(株)全日本出版	ﾌﾌﾙ	6	800	4,800	145,400	
19									
20									
21									

ページサイズを変更する

- 画面にあるページの大きさ（ページの桁数・行数）を変更します。

実行前の確認

- S E T P 命令や R A N K 命令などで表に色がつけられている場合、C P S 命令を実行すると、色はすべて削除されます。
- C P S 命令を実行すると、裏画面の内容は消去され C P S 実行前の画面と置きかわります。裏画面に必要なデータがないことを確認してください。
- ページサイズを変更した結果、ページの行や列が途中で切れる場合、その行や列以降は削除されます。

仕事は =



現在のページサイズは
横 桁縦 行です

新しい長さは
(桁 34 ~ 900 , 行 L 10 ~ L) :

変更する桁数、または行数を指定します。

- 74 桁のページにする。 (または)
 - 50 行のページにする。
 - 現在使用している桁数のページにする。 (または)
 - 現在使用している行数のページにする。
 - 現在の 1 行の桁数より 2 桁多いページにする。 (または)
 - 現在の行数より 2 行多いページにする。
 - 現在の 1 行の桁数より 4 桁少ないページにする。 (または)
 - 現在の行数より 2 行少ないページにする。
- ここで、“1” から “6” までの数字を指定すると、B5・A4・B4 サイズに変更できます。詳しくは、「INFORMATION」をご覧ください。
- 横サイズは 900 を超えて指定することはできません。

** お知らせ 新しいページの枠を超えた分を削除しました **

ページサイズを変更したためデータが削られるような場合、左のメッセージが表示されます。

INFORMATION

- ◆ CPS命令実行前のページは、裏画面に保存されます。データが削られてしまったような場合、X命令で元の画面を表示させて、変更し直しましょう。また、RV命令で元に戻すこともできます。
- ◆ マイツールのページサイズは偶数桁にしか設定できません。例えば、現在 150 桁のページサイズを“+”、“-”で変更すると以下ようになります。

150 桁

- +5 → 156 桁
- +6 → 156 桁
- 5 → 146 桁
- 4 → 146 桁

- ◆ FS命令で作成したページは、特殊なページサイズ（通常の1ページの面積より小さい）です。ページサイズを指定しないで[↵]キーを押すと、標準のページサイズに戻ります。
- ◆ “新しい長さは”のメッセージのときに、1から6の数字を入力すると、ページサイズは、それぞれ次の表のように変更されます。桁数と行数は、FS命令を行ったときと同じです。

入力	1	2	3	4	5	6
サイズ	B5縦	A4縦	B4縦	B5横	A4横	B4横

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」のページサイズを 170 桁から 100 桁に変更します。

R : 10回

C P S回

100回..... 1 行の長さを 100 桁に変更する。

★行数は自動的に 50 行から 78 行に変更されます。ただし、SETC命令の 10 番“ページの拡張”でページが拡張されている場合は、拡張された分だけ行数をとることができます。

実行前

10	1	2	3	4	57.....+
1	[支店別売上表94年]				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4	支店名	4月	5月	6月	合計	
5						
6	A支店	70,000	38,000	80,000	188,000	
7	B支店	30,000	60,000	70,000	160,000	
8	C支店	70,000	35,000	90,000	195,000	
9	合計	170,000	133,000	240,000	543,000	
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

実行後

10	1	2	3	4	57.....+
1	[支店別売上表94年]				95.04.04	混 [L=0078 C=0100]
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4	支店名	4月	5月	6月	合計	
5						
6	A支店	70,000	38,000	80,000	188,000	
7	B支店	30,000	60,000	70,000	160,000	
8	C支店	70,000	35,000	90,000	195,000	
9	合計	170,000	133,000	240,000	543,000	
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

ページサイズを行数で変更する

- 画面にあるページの大きさを、行数を指定して（桁数指定も可）変更します。

実行前の確認

- CPSL 命令は、拡張モード (SETC 命令 10 番 “ページの拡張” で設定) になっていると実行できません。
- SETP 命令や RANK 命令などで表に色がつけられている場合、CPSL 命令を実行すると、色はすべて削除されます。
- CPSL 命令を実行すると、裏画面の内容は消去され CPSL 実行前の画面と置きかわります。裏画面に必要なデータがないことを確認してください。
- ページサイズを変更した結果、ページの行や列が途中で切れる場合、その行や列以降は削除されます。

類似命令

- CPS... ページサイズを変更します。

仕事は =



現在のページサイズは
横 桁縦 行です

新しい長さは
(桁 34 ~ 900, 行 L 10 ~ L) :

変更する行数、または桁数を指定します。

- 50 行のページにする。
 - 74 桁のページにする。 (または)
 - 現在使用している行数のページにする。 (または)
 - 現在使用している桁数のページにする。
 - 現在の行数より 2 行多いページにする。 (または)
 - 現在の 1 行の桁数より 2 桁多いページにする。
 - 現在の 1 行の桁数より 4 桁少ないページにする。 (または)
 - 現在の行数より 2 行少ないページにする。
- 横サイズは 900 を超えて指定することはできません。

【データが削除された場合】

** お知らせ 新しいページの枠を超えた分を削除しました **

ページサイズを変更したためデータが削られるような場合、左のメッセージが表示されます。

INFORMATION

- ◆ CPSL 命令実行前のページは、裏画面に保存されます。データが削られてしまったような場合、X 命令で元の画面を表示させて、変更し直しましょう。また、RV 命令で元に戻すこともできます。
- ◆ FS 命令で作成したページは、特殊なページサイズ (通常の 1 ページの面積より小さい) です。ページサイズを指定しないで キーを押すと、標準のページサイズに戻ります。

CPUT

CSV File Put (シーエスプイ ファイル プット)

マイツールデータをCSV形式のファイルに変換する

- マイツールのデータを、CSV形式(カンマ区切りのテキストデータ)のファイルに変換して保存します。

仕事は =



入力するページは :

変換するデータのページ番号を指定します。

のみを押すと、画面のデータを変換します

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
ページファイルの指定が可能です。

出力するファイル名は :

変換後のファイルにつけるファイル名を入力します。

ファイル名は、最大半角 255 文字の主ファイル名と、ピリオド (.) と、拡張子の “CSV” で指定します。

《例》 URIAGE. CSV など
主ファイル名 | 拡張子
 ↑
 ピリオド

ドライブ名から指定する場合は、ドライブ名とコロンをつけて、ダブルコーテーションで囲ってください。

また、ディレクトリも指定する場合は、ディレクトリ名、ファイル名の前に “¥” を付けます。

《例》 “D : URIAGE. DAT”

“C : ¥DATA¥URIAGE. CSV” など

ドライブ名とディレクトリ名を指定しない場合は、マイツールをインストールしたディレクトリの下の “TEMP” ディレクトリを指定したとみなします。

ピリオドと拡張子の “. CSV” は省略しても保存するときに自動的に付けられます。

INFORMATION

- ◆表の中のケイ線は無視されます。
- ◆1 列ごとのデータをカンマで区切って保存します。
- ◆カンマの挿入されているデータで数値として認められる場合は、カンマを削除し半角数字として変換されます。
《例》 1, 234 → 1234
1.234 → 1234

- ◆ダブルコーテーションで囲まれている数値は、文字列としてみなされ、次のように変換されます。
《例》 “123” → ”123”
“123” → ”123”
- ◆文字列は、全角・半角そのままに変換されます。
《例》 ABC → ABC
ABC → ABC
010-000 → 010-000

ページのタイトルを変更する

- 表示されているページのタイトル(表題)を変更します。

仕事は =



新しい表題を付けてください:

新しく付ける表題(タイトル)を入力します。表題は全角文字で15字、半角文字で30字以内で付けてください。

- “売上” と表題を付け変える。 売上
- 表題は変えずに、ページの日付のみを現在の日付に変更する。

INFORMATION

- ◆新しい表題は、全角文字で15文字または、半角文字で30文字以内で付けてください。

- ◆ **バックタブ** (⇧ Shift + Tab) キーを押すと、現在の表題が入力バーに表示されます。

←、→、ホーム (Home)、挿入 (Insert)、削除 (Delete)、後退 (Back space) キーなどで、表題を修正してください。

例題

18 ページ「ビデオテープ貸出管理表」の表題を、「貸出表」に変更します。

R : 18回

CT回

貸出表回.....表題を「貸出表」に付け変える。

実行前

18	1	2	3	4	5	6	7
1	[ビデオテープ貸出管理表]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=10,8,14,8,8,10,24						
3	会員番号	入会日	会員名	貸出日	返却日	作品コード	
6	104724	930524	今村 今日子	921124	921125	10461	健康体挿
7	105932	940129	高井 修子	921124	921127	10146	2階の
8	102064	921124	下島 光義	921124	921126	10594	たそがれ
9	102446	921208	高橋 明夫	921125	921127	10053	あるホタ
10	105300	930606	吉田 君恵	921126	921128	10553	インダス
11	104163	930113	山田 寿雄	921126	921127	10461	健康体挿
12	105522	930901	小笠原 恵美	921127	921128	10305	スーパータ
13	104163	930113	山田 寿雄	921127	921128	10462	健康体挿
14	102446	921208	高橋 明夫	921127	921201	10497	ドラ猫
15	105925	931223	田中 隆司	921128		10146	アイデア
16	105932	940129	高井 修子	921129	921130	10991	おいしい
17	105300	930606	吉田 君恵	921130	921201	10848	ルアー
18	105522	930901	小笠原 恵美	921130		10665	ミラクル
19	102064	921124	下島 光義	921201		10952	小
20	101062	921101	小堺 良子	921201		10922	カクテル
21							

実行後

18	1	2	3	4	5	6	7
1	[貸出表]			95.04.04	混	L=0050	C=0170
2	F=10,8,14,8,8,10,24						
3	会員番号	入会日	会員名	貸出日	返却日	作品コード	
6	104724	930524	今村 今日子	921124	921125	10461	健康体挿
7	105932	940129	高井 修子	921124	921127	10146	2階の
8	102064	921124	下島 光義	921124	921126	10594	たそがれ
9	102446	921208	高橋 明夫	921125	921127	10053	あるホタ
10	105300	930606	吉田 君恵	921126	921128	10553	インダス
11	104163	930113	山田 寿雄	921126	921127	10461	健康体挿
12	105522	930901	小笠原 恵美	921127	921128	10305	スーパータ
13	104163	930113	山田 寿雄	921127	921128	10462	健康体挿
14	102446	921208	高橋 明夫	921127	921201	10497	ドラ猫
15	105925	931223	田中 隆司	921128		10146	アイデア
16	105932	940129	高井 修子	921129	921130	10991	おいしい
17	105300	930606	吉田 君恵	921130	921201	10848	ルアー
18	105522	930901	小笠原 恵美	921130		10665	ミラクル
19	102064	921124	下島 光義	921201		10952	小
20	101062	921101	小堺 良子	921201		10922	カクテル
21							

文字タイプやページのモードを変更する

- 指定した行や列の文字タイプ（全角・半角・大文字・小文字など）を変更することができます。
- 画面に表示中のページのモード（漢字モード・混在モード）を変更することができます。

類似命令

- SET...新しく作る表の、1行の長さやモードを設定します。

仕事は =



変更するのは
[文字タイプ 1, モード 2] :

文字のタイプを変えるのか、ページのモードを変えるのかを番号で選択します。

- 文字タイプを変える。 (または)
- モードを変える。

【文字タイプを選んだ場合】

変更する方向は [行 1, 列 2] :

行単位で変えるのか、列単位で変えるのかを番号で選択します。

- 行を変える。
- 列を変える。 (または)

フォーマット行のないページの場合、④の行指定のメッセージが出ます。

【行を選ぶと...】

何行目を変更しますか :

変更する行を指定します。

- 6行目を変える。
- 6行目から20行目までを変える。
- すべてのデータ行を変える。 (または

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。
フォーマット行のないページの場合、 (または) を入力すると、タイトル行以下すべての行が指定されます。

【列を選ぶと】

何列目を変更しますか :

変更する列を指定します。

- 1列目を変える。
- 2列目から4列目までを変える。
- すべての列を変える。 (または

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
列を選んだ場合、タイトル行やフォーマット行、項目行の文字は変更できません。

- 1 半角を全角に
- 2 全角を半角に
- 3 小文字を大文字に
- 4 大文字を小文字に
- 5 かなをカナに
- 6 カナをかなに
- 7 横倍角指定
- 8 縦倍角指定
- 9 四倍角指定
- 10 倍角解除

文字の変更は (1 ~ 10) :

データをどのように変更するか、番号で選択します。

- 半角文字を全角に変える。
- 全角文字を半角に変える。
- 小文字を大文字に変える。
- 大文字を小文字に変える。
- ひらがなをカタカナに変える。
- カタカナをひらがなに変える。
- 横倍角文字に変える。
- 縦倍角文字に変える。
- 四倍角文字に変える。
- 倍角文字を元に戻す。

【モードを選んだ場合】

モードの変更は

[漢字 混在 1 , 混在 漢字 2] :

画面に表示中のページのモードをどのように変更するのか、番号で選択します。

- 漢字モードから、混在モードに変える。
- 混在モードから、漢字モードに変える。
- 現在のモードが漢字なら混在へ、混在なら漢字へ変える。
変更前のページは裏画面に残っています。



INFORMATION

- ◆ データ行すべてを変更する場合は、変更する方向に行・列どちらを選んでかまいません。
- ◆ 漢字やひらがなには半角文字はありませんので、“全角→半角”の変更はできません。
- ◆ “半角→全角”の変更を実行して、データが列の桁数より大きくなると、データの左側から削られます。
- ◆ “全角→半角”および“半角→全角”の変更は、混在モードのページでしかできません。
- ◆ 漢字モードのページで“全角→半角”の変更をする場合は、はじめにモードの変更で“漢字→混在”の変更を行ってください。

モード変更の注意（混在から漢字の場合のみ）

- ケイ線以外の各列の桁数は、すべて偶数でなければ変更できません。
- 奇数の列は、C F 命令で偶数の列に変えてから変更してください。
- 文字はすべて全角文字でなければ変更できません。
- 半角文字はC T P 命令の文字タイプで、あらかじめ“半角→全角”の変更をしておいてください。
- ケイ線の途中に文字などがあると変更できません。修正はE D 命令やD C 命令で行ってください。
- 半角スペースは偶数個で連続したものでなければ変更できません。

例題

14 ページ「住所録」のデータを半角にします。

R : 14回

C T P 回

1 回.....文字タイプを変更する。

2 回.....列方向に変更する。

2 - T 回.....2 列目から最終列までを変更する（“T”は、ここでは最後の列という意味になります）。

2 回.....全角文字を半角文字に変更する。

実行前

14	1	2	3	4
1	[住所録]			95.04.01 混 L=0050 C=0170
2	F=10,12,28,24			
3				
4	名前	〒	住所	TEL
5				
6	井口 康	102	東京都千代田区麹町2-2	03-5000-0000
7	大井 治世	252	神奈川県藤沢市藤沢34-2	046-600-1111
8	小野 岩男	338	埼玉県浦和市大谷口1009	048-800-1029
9	兼田 昭子	433	静岡県浜松市幸福1-2-5	053-000-0000
10	清水 君江	272-01	千葉県市川市行徳901-2	047-300-5697
11	須佐 秀彦	930-13	富山県下大川郡小山村700	076-000-0000
12	鈴木 敏一	784	高知県安芸市荏津000	08873-0-0000
13	鈴木 時夫	151	東京都渋谷区永福1-23	03-3000-6919
14	須田 雅一	343	埼玉県越谷市大林385-6	048-900-8754
15	森 隆宏	259-12	神奈川県平塚市平塚12-9	046-300-5478
16	山田 和子	107	東京都港区青山1-15-5	03-3000-0000
17				
18				
19				
20				
21				

実行後

14	1	2	3	4
1	[住所録]			95.04.01 混 L=0050 C=0170
2	F=10,12,28,24			
3				
4	名前	〒	住所	TEL
5				
6	井口 康	102	東京都千代田区麹町2-2	03-5000-0000
7	大井 治世	252	神奈川県藤沢市藤沢34-2	046-600-1111
8	小野 岩男	338	埼玉県浦和市大谷口1009	048-800-1029
9	兼田 昭子	433	静岡県浜松市幸福1-2-5	053-000-0000
10	清水 君江	272-01	千葉県市川市行徳901-2	047-300-5697
11	須佐 秀彦	930-13	富山県下大川郡小山村700	076-000-0000
12	鈴木 敏一	784	高知県安芸市荏津000	08873-0-0000
13	鈴木 時夫	151	東京都渋谷区永福1-23	03-3000-6919
14	須田 雅一	343	埼玉県越谷市大林385-6	048-900-8754
15	森 隆宏	259-12	神奈川県平塚市平塚12-9	046-300-5478
16	山田 和子	107	東京都港区青山1-15-5	03-3000-0000
17				
18				
19				
20				
21				

D

Display (ディスプレイ)

画面の先頭を表示する

- 大きい表のどこを表示していても、すぐに表の先頭を表示することができます。
- T命令やG命令等の終了後の各画面を、元の画面に戻します。

類似命令

- DP...指定したセル位置から表示します。

仕事は =



INFORMATION

- ◆ 次のようなときに、D命令で元の画面に戻せます。
 - T命令、TS命令でタイトル一覧を表示した後。
 - C命令中に、ワークエリアを表示した後。
 - G命令でグラフを作成した後。(円・縦棒・折線・回帰I・II・レーダー・積棒・バランス・両軸・XY)

例題

8ページ「売上帳」の最終行を見た後、先頭行を表示させます。

R : 8回

文末 (F12) キーを押して、最終行を表示しておきます。

D回..... 1行目を先頭にして表示します。

実行前

8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
33	950413	10023	119	(株)フジ加	1004	B4用紙	A	500	600	300,000
34	950414	10024	117	東京工業(株)	1010	透明*ケツ	A	300	500	150,000
35	950415	10025	123	(株)和光	1014	ナフ	C	50	300	15,000
36	950416	10026	111	東京設備工(株)	1021	色鉛筆	E	50	1000	50,000
37	950417	10027	114	(株)TJ商会	1002	A3用紙	A	500	620	310,000
38	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ナフ	C	500	300	150,000
39	950418	10028	102	(有)上越工務店	1012	如*ア	B	300	250	75,000
40	950419	10029	117	東京工業(株)	1007	書類*ス	A	200	1200	230,000
41	950420	10030	105	伊藤*サ心(株)	1006	ファシ	A	200	800	160,000
42	950421	10031	103	ツジ2001	1013	両面*ア	B	200	800	160,000
43	950423	10032	106	伊藤*サ心(株)	1006	ファシ	A	100	800	80,000
44	950423	10033	116	(株)全日本出版	1008	情報*ド	A	100	300	30,000
45	950424	10034	111	東京設備工(株)	1018	のり	D	300	200	60,000
46	950425	10035	108	(株)神崎建設	1005	ハ*ン*ア	A	100	360	36,000
47	950426	10036	119	(株)フジ加	1010	透明*ケツ	A	200	500	100,000
48	950427	10037	104	ツジ2001	1025	平行定規	F	50	600	30,000
49	950428	10038	105	伊藤*サ心(株)	1006	ファシ	A	100	800	80,000
50	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
51	950428	10040	116	(株)全日本出版	1008	情報*ド	A	200	300	60,000
52	950428	10041	107	(株)神崎建設	1003	B5用紙	A	200	480	96,000
53										

実行後

8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混		L=0078	C=0100
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハ*ン*ア	A	300	360	108,000
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明*ケツ	A	200	500	100,000
9	950403	10002	112	鈴木工務店	1030	ル*ハ	F	2000	500	1,000,000
10	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1010	透明*ケツ	A	250	500	125,000
11	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1002	A3用紙	A	600	620	372,000
12	950404	10004	106	伊藤*サ心(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000
13	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	ファシ	A	250	800	200,000
14	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	ファシ	A	200	800	160,000
15	950406	10006	125	井上*カ*ルス(株)	1015	鉛筆削り	C	100	1100	110,000
16	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報*ド	A	200	300	60,000
17	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類*ス	A	300	1200	360,000
18	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
19	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファシ	A	100	800	80,000
20	950410	10010	119	(株)フジ加	1003	B5用紙	A	1000	480	480,000
21	950411	10011	122	(株)イ*ジ*ラ*フ	1005	ハ*ン*ア	A	100	360	36,000

DATE

Date (デート)

日付を変更する

- 現在の日付を見たり、変更することができます。

類似命令

- TIME...現在の時刻を見たり、変更することができます。

仕事は =

DATE

現在 2000年 月 日(月曜日)です

日付を入れてください

(年・月・日の順で) :

現在の日付が表示されます。

変更する場合はその日付を入れてください。

- 2000年10月1日に変更する。

2000101 (またはH12101)

- 日付を確認するだけで変更しない。

ピリオド“.”のかわりに、スラッシュ“/”やハイフン“-”を使うこともできます。

西暦で日付を変更する場合は、下2桁の年数だけを入力してください。
和暦(平成)で日付を変更する場合は、数字の前に“H”を付けて指定します。

INFORMATION

- ◆ここで表示される日付はマイツールを起動した時に入力した日付か、DATE命令で変更した最後の日付です。
- ◆DATE命令で日付の変更を行うと、そのあとから作るページの作成日は、すべて変更後の日付になります。
- ◆時刻の変更は、TIME命令を使ってください。
- ◆日付を変更すると、システムの日付も変更されます。
- ◆設定可能な日付は、1980年1月1日から2079年12月31日までです。

マイツール上での日付を変更する

- システムの日付を変更せずに、マイツールの日付けを変更したり参照することができます。

類似命令

- DATA... 現在の日付けを見たり、変更することができます。

仕事は =

DATEMY

現在 2000年 月 日(月曜日)です

日付を入れてください
(年・月・日の順で) :

現在の日付が表示されます。

変更する場合はその日付を入れてください。

- 2000年10月1日に変更する。

2000101 (またはH12101)

- 日付を確認するだけで変更しない。

ピリオド“.”のかわりに、スラッシュ“/”やハイフン“-”を使うこともできます。

和暦(平成)で日付を変更する場合は、数字の前に“H”を付けて指定します。

INFORMATION

- ◆ DATEMY命令で設定した日付は、マイツールを終了するまで有効にです。
- ◆ DATEMY命令で日付の変更を行うと、そのあとから作るページの作成日は、すべて変更後の日付になります。
- ◆ DATEMY命令で日付を変更しても、システムの日付は変更されません。
- ◆ 設定可能な日付は、1980年1月1日から2079年12月31日までです。

- 表の中の指定した列を削除します。
- 1列だけでも、複数の列でも削除することができます。
- 縦ケイ線だけを指定して削除することもできます。

類似命令

- DL...行を削除します。
- BC...列のデータを空白にします。

仕事は =



何列目を削除しますか：

削除する列の番号を指定します。

- 3列目を削除する。
- 表の列をすべて削除する。
- 表の縦ケイ線をすべて削除する。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

◆切れたケイ線や桁数が1以外のケイ線は“K指定”では削除できません。

◆間違っって列を削ってしまった場合、直後にRV命令を実行すれば、元に戻すことができます。

例題

10ページ「支店別売上表94年」の“合計”の列を削除します。

R : 10回

DC回

5回.....5列目を削除する。

実行前

10	1	2	3	4	57.....+
1	支店別売上表94年]				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4	支店名	4月	5月	6月	合計	
5						
6	A支店	70,000	38,000	80,000	188,000	
7	B支店	30,000	60,000	70,000	160,000	
8	C支店	70,000	35,000	90,000	195,000	
9	合計	170,000	133,000	240,000	543,000	
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

実行後

10	1	2	3	46.....+7.....+
1	支店別売上表94年]				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12					
3						
4	支店名	4月	5月	6月		
5						
6	A支店	70,000	38,000	80,000		
7	B支店	30,000	60,000	70,000		
8	C支店	70,000	35,000	90,000		
9	合計	170,000	133,000	240,000		
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

数値のカンマを削除する

- 数値データの3桁ごとにつけられているカンマ (,) だけを削除します。

仕事は =



何列目のカンマをとりますか :

カンマを取る列を指定します。

- 2列目の数値のカンマを取る。



- すべての列のカンマを取る。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

◆ 数値データにカンマを挿入する場合は、ICM命令を使います。

◆ DCM命令は、SIM命令の計算式中にも使えます。

例題

9ページ「売上帳」の“単価”の列から、カンマを削除します。

R : 9回

DCM回

6回..... 6列目のカンマを削除する。

実行前

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
7	950403	107	(株)神崎建設	ハイター	30	360	10,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	透明ドット	20	500	10,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	製図ボード	20	2,500	50,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	ホトカシ	15	2,000	30,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900	
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
16	950403	116	(株)全日本出版	ハイター	25	360	9,000		
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000		
18	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	145,400	
19									
20									
21									
	仕事は =								

実行後

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
7	950403	107	(株)神崎建設	ハイター	30	360	10,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	透明ドット	20	500	10,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	製図ボード	20	2500	50,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	ホトカシ	15	2000	30,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900	
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
16	950403	116	(株)全日本出版	ハイター	25	360	9,000		
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1200	120,000		
18	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	145,400	
19									
20									
21									
	仕事は =								

DF

Display by Format (ディスプレイ バイ フォーマット)

デザインページを使って、データの検索や変更を行う

- デザインページの形式にしたがってデータを検索します。また、検索したデータの変更や印刷、追加入力もできます。
- コード入力して、複数ページのコード表の中から必要なデータを、表に書き込むこともできます。
- あらかじめデザインページを用意しなくても、デザインページを自動的に作成できます。

実行前の確認

- DF命令を実行して入力モードにした場合、入力したデータは指定したデータページの最終ページから追加入力されます。ページがいっぱいになったときやすでにいっぱいのはきは、次のページに同じフォーマットの表を作りデータを入力します。

類似命令

- EF...デザインページを使って、表にデータを入力します。
- PF...デザインページの書式で印刷します。

仕事は =



データページは :

データの検索・変更・削除・印刷・入力を行うページを指定します。複数ページを指定した場合、最終ページの後ろからデータを入力していきます。

デザインページは :

デザインページのあるページ番号を指定します。

- デザインページを自動的に作成する。



キーのみを押した場合は、最終データページのフォーマットに合わせてデザインページを自動的に作成します。

【ここからの操作は、DF命令の検索モードの画面になります】

データは :

ブロックカーソルの位置に、検索条件を入力してください。また、ファンクションキーを使って、データの削除・変更や入力モードへの切り替えが行えます。

操作は、検索モードと入力モードとは異なります。次からの説明をご覧ください。

検索モードと入力モード

DF命令実行中は、検索モードと入力モードの2つのモードを使い分けることができます。

検索モード: 検索条件を指定して、書き込みページからデータを検索します。検索したデータは、内容を変更・削除することができます。

入力モード: EF命令と同じように、デザインページの形式にしたがって、データ入力が行えます。また、複数ページのコード表を指定して、コード入力も行えます。

★列番号表示の右端に、現在のモードが表示されます。

検索モード時の操作

検索モード中は、検索条件を指定して、データを検索したり、検索したデータの変更・削除が行えます。機能の選択は、ファンクションキーを使って行います。

【検索条件の指定方法】

会員番号	入会日	会員名	貸出日	返却日	作品コード	作品名
104724	930524	今村 今日子	921124	921125	10461	健康体操
105932	940129	高井 修子	921124	921127	10146	2階の
102064	921124	下島 光義	921124	921126	10594	たそがれ
102446	921208	高橋 明夫	921125	921127	10053	あるホタ
105300	930606	吉田 君恵	921126	921128	10553	インダス
104163	930113	山田 寿雄	921126	921127	10461	健康体操
105522	930901	小笠原 恵美	921127	921128	10305	スーパータ
104163	930113	山田 寿雄	921127	921128	10462	健康体操
102446	921208	高橋 明夫	921127	921201	10497	トラ猫
103925	931223	田中 隆司	921128		10146	アイア
105932	940129	高井 修子	921129	921130	10391	おいしい
105300	930606	吉田 君恵	921130	921201	10848	ルアー
105522	930901	小笠原 恵美	921130		10665	ミラクル
102064	921124	下島 光義	921201		10952	小
101062	921101	小堺 良子	921201		10922	カクテル

ここでは、左の画面のようなデータを使って検索する場合について、検索方法を説明します。

検索モード画面の表示例:

ページNO: 0 現在行NO: 0 モード: 検索

[デザイン画面]

会員番号 []

入会日 []

会員名 []

貸出日 []

返却日 []

作品コード []

作品名 []

データは: .

D F 命令を実行して、簡易デザインページを指定すると、左の画面のようなデザインページを自動作成します。

検索モード画面の表示例:

ページNO: 0 現在行NO: 0 モード: 検索

[デザイン画面]

会員番号 []

入会日 []

会員名 []

貸出日 []

返却日 []

作品コード []

作品名 []

データは: .

[] キーで、検索のキー列にする項目にブロックカーソルを移動します。

ここでは、2列目の“入会日”にブロックカーソルを移動します。

★ブロックカーソルの移動は、マウスでも行えます。

データは: < = 901231

検索条件を入力します。

ここでは、入会日が“901231”以前のデータを検索してみます。

< [=] [9] [0] [1] [2] [3] [1] とキーを押します。

ブロックカーソルの項目について検索条件を指定するので、条件式の左辺には、キー列を記述しません。

[] キーを押すと、検索条件が顧客コードの項目に入力され、ブロックカーソルは、次の項目に移動します。

他にも検索条件を指定する項目があれば、ブロックカーソルを移動して検索条件を入力します。

条件式は半角で100文字、全角で50文字まで指定できます。画面には、ブロックカーソルの長さの分しか表示しませんが、条件式は、モードを切り替えるか条件解除を行うまで、保存されています。

データは:



F3 (検索) キーを押すと、指定したデータページのデータを検索して、条件に当てはまる行のデータを画面に表示します。

繰り返し**F3** (検索) キーを押すと、次々と条件に当てはまるデータを表示します。

条件に当てはまるデータが見つからない場合は、デザイン画面には“データが見つかりません”のメッセージが表示されます。

- ★条件式は、SH命令と同じものが指定できます(ただし、文字検索・最大値・最小値を除く)。条件式について詳しくは、本書の「SH命令」をご覧ください。
- ★検索条件は5つまで指定できます。5つ目の条件を指定するか、データの最終列で条件を指定すると、自動的に検索を開始します。
- ★条件に当てはまるデータがない場合は、“データが見つかりません”のメッセージを表示して、条件を解除します。
- ★検索条件を変更する場合は、**F7** キーを押して条件解除を行ってから、検索条件を指定しなおしてください。

【ファンクションキーの使い方】

検索モード中は、プルダウンメニューに表示されたファンクションキーを押すことで、次のような機能が使用できます。

- ★マウスでプルダウンメニューをクリックしても、機能を利用できます。
- ★“データは:”が表示された状態で、コントロールコードを入力すると、ファンクションキーを押したときと同じ働きをします。コントロールコードについて詳しくは、後述の「コントロールコードの使い方」をご覧ください。

F1 入力

検索モードから入力モードへ切り替えます。

- ★モードを切り替えると、画面に表示されているデータは取り消されて、ブロックカーソルは先頭の項目に移動します。
- ★**F1** キーを押すたびに、検索モードと入力モードが切り替わります。
- ★現在のモードは、列番号表示の右端に表示されます。
モード：検索 ←→ モード：入力

F2 印刷

画面に表示中のデータを印刷します。

- ★デザイン画面の画面指定部分だけを印刷します。
《印刷例》

貸出管理表	
会員番号	104724
入会年月日	930524
会員名 今村 今日子	
貸出日	921124
返却日	921125
作品コード	10461
作品名	健康体操 入門編

F 3 検索

キー列にする項目に入力した検索条件にしたがって指定したデータページのデータを検索して、条件に当てはまる行のデータを画面に表示します。

繰り返し[F 3]キーを押すと、次々と条件に当てはまるデータを検索して画面に表示します。

条件に当てはまるデータがない場合は“データが見つかりません”のメッセージが表示されます。また、条件に当てはまるデータをすべて検索した場合は“最終データです”のメッセージが表示されます。

★別の条件で検索したい場合は、[F 7]キーを押して、検索条件の設定をやり直してください。

検索条件: 会員番号 >=103000

検索結果:

貸出日	返却日
921124	921125
作品コード	10461
作品名	健康体操 入門編

F 4 逆検索

[F 4]キーを押すと、1つ前に検索した内容を再表示します。

[F 4]キーを押すたびに、これまで検索したデータをもう一度表示できます。

★最大 255 個前のデータまで再表示することができます。

現在の検索結果:

貸出日	返却日
921124	921125
作品コード	10461
作品名	健康体操 入門編

逆検索結果:

貸出日	返却日
921124	921127
作品コード	10146
作品名	2階のダージン

F 5 削除

[F 5]キーを押すと、確認のメッセージが表示されます。[↵]キーを押すと、表示中のデータを書き込みページから削除します。

★削除したデータを元に戻すことはできません。削除を行う前に、消してもいいデータかどうかを確認してください。確認のメッセージが表示された状態で、[Esc]キーを押すと、“データは：”の状態に戻ります。

★削除後、引き続き検索が行えます。

削除メッセージ: 削除しました

F 6 変更

検索したデータの内容を変更する場合は、ブロックカーソルを矢印キーで変更したい項目に移動して、データを書きかえてください。変更後、**[F 6]**キーを押すと、表示中のデータを元のページに書き込みます。

★変更後、**[F 6]**キーを押さずに、別のデータを検索すると、データの変更は行われません。

★変更後、引き続き検索が行えます。

★**[F 6]**キーでデータを変更した場合、デザインページに計算式が登録してあれば、再計算を行ってからデータを変更します。

The screenshot shows a transition from a search result page to an update page. The '貸出管理表' (Loan Management Table) is displayed with the following data:

会員番号	105300	入会年月日	930606	会員名	吉田 君恵
貸出日	921126	返却日	921128	作品コード	10600
作品名	インダス文明の謎				

An arrow labeled 'F 6' points to the right, where the same table is shown with the member number field highlighted in black, indicating it has been updated. A blue box at the bottom of the second screenshot contains the text '変更しました。' (Updated).

F 7 条件解除

検索を中断したい場合や検索条件を変更したい場合は、**[F 7]**キーを押してください。現在の検索条件を取り消して、もう一度先頭データから検索をやり直せます。

★**[F 7]**キーを押すと、画面に表示されているデータは取り消されて、ブロックカーソルは先頭の項目に移動します。

The screenshot shows a transition from a search result page to a cleared search page. The '貸出管理表' (Loan Management Table) is displayed with the following data:

会員番号	104163	入会年月日	930113	会員名	山田 寿雄
貸出日	921126	返却日	921127	作品コード	10461
作品名	健康体操 入門編				

An arrow labeled 'F 7' points to the right, where the same table is shown with the member number field highlighted in black. The search status at the top of the page has changed to 'ページNO: 0' and '現在行NO: 0', indicating that the search conditions have been cleared.

F 8 追加登録

データを検索した後でデータを変更し、変更したデータを新しいデータとして追加したい場合は、**[F 8]**キーを押してください。

★**[F 8]**キーを押すと、画面に表示されているデータが、データページの最終行の後に入力されます。

The screenshot shows a transition from a search result page to an add record page. The '貸出管理表' (Loan Management Table) is displayed with the following data:

会員番号	105932	入会年月日	940129	会員名	高井 修子
貸出日	921124	返却日	921127	作品コード	10146
作品名	2階のダーリン				

An arrow labeled 'F 8' points to the right, where the same table is shown with the member number field highlighted in black. A blue box at the bottom of the second screenshot contains the text '追加しました。' (Added).

【コントロールコードの使い方】

ファンクションキーやマウスで検索モードの機能を使う代わりに、コントロールコードで同じ操作が行えます。

“データは：”の状態では、キーボードからコントロールコードを入力すると、次のような働きをします。

★オートプログラムでDF命令を使うときは、プログラム中のファンクションキーを押す部分で、コントロールコードをダブルコーテーションで囲んで記述してください。

コントロールコード	働き	対応するファンクションキー
? S	検索（検索モードへ切替）	F 1
? I	入力（入力モードへ切替）	F 1
? P	印刷	F 2
? N	検索	F 3
? B	逆検索	F 4
? D	削除	F 5
? C	変更	F 6
? E	条件解除	F 7
? W	追加登録	F 8

入力モード時の操作

入力モード中はE F命令と同じように、デザインページのブロックカーソルの位置にデータを入力することができます。書き込みページの表の桁数を読み取り、ブロックカーソルの幅が桁数に合わせて表示されるので、入力できる文字数が一目でわかります。また、桁数の範囲内であれば、全角でも半角でも文字を入力することができます。

INFORMATION

- ◆データは、データページの最終行に追加されます。データ入力中に書き込みページの表がいっぱいになったときは、そのページを書き込み、同じ形式の表を次のページに作って、再びデータ入力をはじめます。次のページに必要なデータがあると、新しくデータページを書き込んでしまうので、ご注意ください。
- ◆入力の途中で[Esc]キーを押すと、データを書き込んでDF命令を終了します。
- ◆コードを入力して取り込んだコード表の内容は、変更することができます。ブロックカーソルを[↑][↓][→][←]キーで変更したい項目に移動して、新しいデータを入力してください。
- ◆コード表は、複数ページ指定できます。また、ファイル指定が行えますので、異なるファイルどうしても指定できます。

【ファンクションキーの使い方】

入力モード中は、プルダウンメニューに表示されたファンクションキーを押すことで、次のような機能が使用できます。

- ★マウスでプルダウンメニューをクリックしても、機能を利用できます。
- ★“データは：”が表示された状態で、コントロールコードを入力すると、ファンクションキーを押したときと同じ働きをします。コントロールコードについて詳しくは、後述の「コントロールコードの使い方」をご覧ください。

F 1 検索

入力モードから検索モードへ切り替えます。

- ★モードを切り替えると、画面に表示されているデータは取り消されて、ブロックカーソルは先頭の項目に移動します。
- ★[F1]キーを押すたびに、入力モードと検索モードが切り替わります。
- ★現在のモードは、列番号表示部分に表示されます。

モード：入力 ↔ モード：検索

F 2 印刷

画面に表示中のデータを印刷します。

- ★デザイン画面の画面指定部分だけを印刷します。

貸出管理表			
会員番号	104724	入会年月日	930524
		会員名	今村 今日子
貸出日	921124	返却日	921125
作品コード	10461		
作品名	健康体操 入門編		

【コントロールコードの使い方】

ファンクションキーやマウスで検索モードの機能を使う代わりに、コントロールコードで同じ操作が行えます。

“データは：”の状態ではキーボードからコントロールコードを入力すると、次のような働きをします。

★オートプログラムでDF命令を使うときは、プログラム中のファンクションキーを押す部分を、コントロールコードをダブルコーテーションで囲んで記述してください。

コントロールコード	働き	対応するファンクションキー
? S	検索 (検索モードへ切替)	F 1
? I	入力 (入力モードへ切替)	F 1
? P	印刷	F 2

【デザインページでP (ポーズ) を指定した場合】

⏏キーを押してください
(処理を続行します) :

データを確認して⏏キーを押してください。

★デザインページでP (ポーズ) を指定しない場合、1画面分のデータを入れ終わると、自動的に次の画面が表示され、続けてデータを入れることができます。

DF デザインページの作り方

デザインページは、DF命令でデータを検索したり、入力したりするのに必要です。あらかじめ用意しておけば、繰り返し同じ手順で検索・入力するのに便利です。また、簡易デザインページ機能を使えば、書き込みページのフォーマットに合わせて自動的に作ることができます。ここでは、作業の手順と注意点について説明します。

【繰り返し使用するデザインページの場合】

F命令で表題まで入力してから、エスケープキーを押します。デザインページは、ED命令を使って作ります。

下記の(1)～(3)の手順で作ります。

★手順や作り方は、EF命令のデザインページと同じです。

[テープ貸出 DFデザイン/DF] 95.04.01 混 L=0050 C=0170

(1) コントロール行 → *P

貸出管理表

会員番号 C1
 入会年月日 C2

_____ 会員名 C3

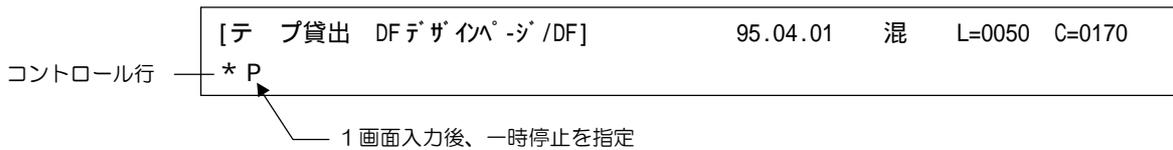
貸出日 C4	返却日 C5
作品コード C6	
作品名 C7	

(2) 画面指定部分

(3) コード入力指定 → *A
 CODE [C1, 1, 2] = C2/M/60 :
 CODE [C1, 1, 3] = C3/M/60 :
 CODE [C6, 1, 2] = C7/M/61 :

(1) コントロール行

データを入力する際、画面指定部分でのカーソルの移動方法や一時停止を指定します。ただし、この行は省略可能です。省略すると、次々とデザイン画面にデータを入力し、ブロックカーソルは横に移動します。



指定方法	意味
* P (P A U S E)	1画面のデータを入力したあと、表に書き込む前に一時停止をします。データを確認後、  キーを押すと、表に書き込み、次のデザイン画面に進みます。
* V (V E R T I C A L)	デザイン画面でのブロックカーソルは、通常横に移動しますが、これを指定すると縦に移動します。

INFORMATION

◆コントロール行は必ず2行目に書きます。

◆指定方法に続けて処理行数を書いておくと、指定した行数をデータページに書き込むと、処理を終了します。たとえば、“* P 3”と書いておくと、3行分書き込みを行って終了します。

(2) 画面指定部分

貸出管理表

会員番号 C1
入会年月日 C2

_____ 会員名 C3

貸出日 C4	返却日 C5
作品コード C6	
作品名 C7	

画面指定部分

★例えば、この画面指定部分の“C1”に、会員番号101062を入れると、書き込みページの1列目に自動的に書き込まれるわけです。

画面指定部分では、書き込みページの1列目に入る項目を“C1”、2列目を“C2”といったように記述します。入力モードでは、画面指定部分の“C1”にデータを入れると自動的に書き込みページの表の1列目に入力されます。

★項目は合計100個まで指定できます。

(3) コード入力指定部分(*A)

```
* A
CODE [ C 1 , 1 , 2 ] = C 2 / M / 59 :
CODE [ C 1 , 1 , 3 ] = C 3 / M / 59 :
CODE [ C 6 , 1 , 2 ] = C 7 / M / 60 :
```

コード入力指定部分

入力したデータを計算し、その結果を書き込む場合や、コード入力してコード表から必要なものを書き込む場合、それぞれの式を指定してください。

先頭の行には“* A”をおいてください。

ここでは、DR命令で小数点以下の指定が可能です。

小数点以下2桁までを求め、次の桁を切り捨てる場合は、“DR : 2 : 2 : ”と指定します。

一般計算式

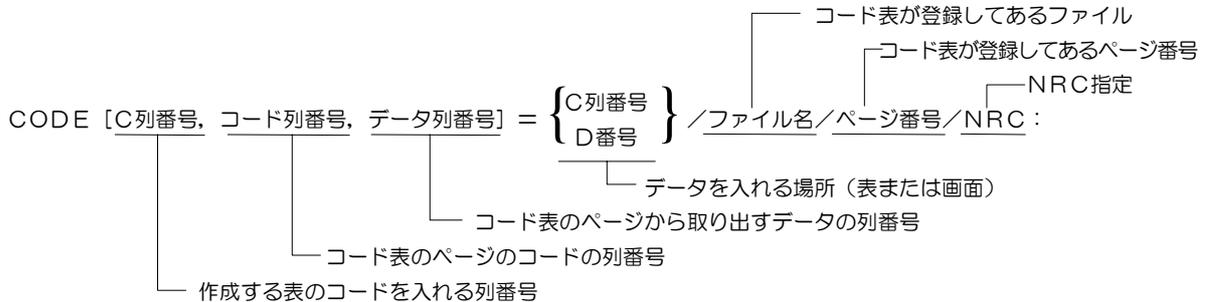
計算式はC命令と同じ書き方ですが、行、マトリックス、ワークエリアに関する式は使用できません。

《例》 1列目2列目の合計を3列目に入れる場合、“C 1 + C 2 = C 3 :”と指定します。

★演算結果を画面に表示する“D番号”の指定はできません。

《例》 C 1 + C 2 = D 1 : →X

コード入力式



作成する表のコードの列番号を指定すると、コード表のページからデータを取り出し、表の中に書き込んだり、デザイン画面に表示したりします。

表の中に書き込むときは“=”の後ろにC列番号を、デザイン画面に表示するだけのときはD番号を付けてください。また、コード表のページは、複数指定できます。

NRC(ノーリードチェイニング)指定とは、DF命令実行時にコード表を自動的につながらないという指定です。複数ページをコード表に指定した場合、NRC指定を付けないと、コード表は自動的につながれ(RC命令でページをつないだ状態)参照画面に読み出されます。

NRC指定を付けておくと、コード表を1ページずつ参照画面に読み出しますので、コード表のページが大量の場合は、DF命令を実行してから入力状態になるまでの時間が早くなります。

《記入例》 * A

CODE [C 1 , 1 , 2] = C 2 / 売上 1 / 1 - 5 :

CODE [C 3 , 1 , 3] = C 4 / 得意先 / 1 - 1 0 0 / NRC :

【コード表のコードが多い場合】

コード表のコードが多い場合は、“S指定”を使うと、処理の速度が速くなります。

あらかじめ、コード表をS命令で並べかえておいてから、次のように指定してください。並べかえの種類は、必ずコード表をS命令で並べかえるときに指定した並べかえの種類と同じものを入れてください。

CODE [C列番号, コード列番号, データ列番号, Sソートの種類] = { C列番号 / D番号 } / ファイル名 / ページ番号 / NRC :

★ “S指定”を行うときは、“コード列番号”の桁数を半角12文字以内にしてください。

★コード表のページが、インデックス型ファイルの場合は、S指定が優先されます。

★NRC指定は、場合に応じて指定してください。

INFORMATION

- ◆列を指定する場合、表の中に存在しない列は指定できません。
- ◆コード入力指定部分はページのどこにおいてもかまいませんが、必ず、画面指定部分の後でなければなりません。
- ◆指定部分の始まりに書く指定記号は、必ず、行の先頭に大文字で書いてください。
- ◆コード入力指定部分の各式の最後には、必ず“:”を付けてください。
- ◆作成したデザインページなどは、必ず、W命令で書き込んでください。
- ◆DF命令中は、画面上部の1行に“ページNO”（現在データを書き込んでいるページ数）、“現在行NO”（現在データを書き込んでいる行数）、モード（入力または検索モードのどちらか）が表示されます。
- ◆コード入力式の最大指定数は、次のとおりです。
“S指定”を行わない…最大100個まで
“S指定”を行う…コード列番号×コードページ数 ≤ 100
||
(同じ列をまとめて1つと数える)
- ◆コード表の入っているページを、1つのコードに対して、複数のファイル名で指定することはできません。

簡易デザインページの場合

D F 命令では、あらかじめデザインページを用意しておかなくても、“デザインページは：”のメッセージで  キーを押すだけで、書き込みページのフォーマットに合わせて簡易デザインページを自動作成します。

たとえば、下の左のような表を書き込みページに指定して、簡易デザインページを作成すると、右の画面のようになります。

18	1	2	3	4	5	6	7
1	[ビデオテープ貸出管理表]		95.04.01	混	L=0050	C=0170	
2	F=10,8,14,8,8,10,24						
3							
4	会員番号	入会日	会員名	貸出日	返却日	作品コード	
5							
6	104724	930524	今村 今日子	921124	921125	10461	健康体操
7	105932	940129	高井 修子	921124	921127	10146	2階の
8	102064	921124	下島 光義	921124	921126	10594	たそがれ
9	102446	921208	高橋 明夫	921125	921127	10053	あるホタ
10	105300	930606	吉田 君恵	921126	921128	10553	インダス
11	104163	930113	山田 秀雄	921126	921127	10461	健康体操
12	105522	930901	小笠原 恵美	921127	921128	10305	スーパータ
13	104163	930113	山田 秀雄	921127	921128	10462	健康体操
14	102446	921208	高橋 明夫	921127	921201	10497	ドラ猫
15	105925	931223	田中 隆司	921128		10146	アイデア
16	105932	940129	高井 修子	921129	921130	10991	おいしい
17	105300	930606	吉田 君恵	921130	921201	10948	ルアー
18	105522	930901	小笠原 恵美	921130		10685	ミラクル
19	102064	921124	下島 光義	921201		10952	小
20	101062	921101	小堺 良子	921201		10922	カクテル
21							



18	ページNO:	0	現在行NO:	0	モード:	検索
1	[デザイン画面]					
2						
3	会員番号					
4	入会日					
5	会員名					
6	貸出日					
7	返却日					
8	作品コード					
9	作品名					
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

INFORMATION

- ◆簡易デザインページの、2行目にはコントロールコードの“*V”が記入されます。
- ◆3行目から21行目には、書き込みページの項目を1列目から順番に表示します。
- ◆項目が20個以上あると、20個目からは2列に分けて表示します。ただし、表示できる項目は38個までです。
- ◆簡易デザインページは、D F 命令を終了しても画面に残ります。また、項目名の右側には、項目に対応するC列番号が表示されます。
- ◆画面に残った簡易デザインページを登録しておけば、次回から同じデザインページが使用できます。また、必要に応じて、コントロール行や画面指定部分を書きかえたり、コード入力式を追加して、新しいデザインページを作ることでもできます。

書き込みページの作り方

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[ビデオテープ貸出し管理表]		95.04.01	混	L=0050	C=0170	
2	F=10,8,14,8,8,10,24						
3							
4	会員番号	入会日	会員名	貸出日	返却日	作品コード	作品名
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

F 命令で項目行まで入力して  キーを押します。また、作成した書き込みページにデータを入力しておくと、検索モードでデータ検索が行えます。

★作成した書き込みページは、W 命令で必ず書き込んでください。

★書き込みページには、入力モードで入力したデータを自動的に書き込みます。データが多くなると、はじめに作った書き込みページの後ろに、次々とページを追加します。書き込みページの後ろには、デザインページなど必要なデータを入れないようにしてください。

★書き込み先にV型ファイルを指定すると、V型ファイルの最終ページの後ろからデータを書き込みます。

コード表の作り方

会員番号	入会日	会員名
101062	921101	小堺 良子
102064	921124	下島 光義
102284	921130	高村 孝一
102446	921208	高橋 明夫
103302	921210	大島 祥子
104163	930113	山田 寿雄
104368	930211	田島 順一郎
104724	930524	今村 今日子
105300	930606	吉田 君恵
105414	930815	後藤 美代子
105522	930901	小笠原 恵美
105766	931104	並川 芳江
105925	931223	田中 隆司
105932	940129	高井 修子
105940	940130	三浦 早苗

書き込みページと同じように、F 命令で作成してください。コード表は、複数ページにわたって書き込んでおくことができます。

★作成したコード表は、W命令で必ず書き込んでください。

★コードを入力するだけで、コード表のデータをデザインページに表示したり、書き込みページに入力することができます。

★コード式でS指定を使うときは、コードの列をS命令で並べかえておきます。並べかえの種類は、“1…文字正順” “3…数字小さい順”のみです。

D F 命令実行中の特別操作キー

D F 命令を実行中に下記のキーを操作すると、それぞれ特別な処理を行います。データを検索するときや入力するときに、下記のキーやデータを入力してください。

キー操作	役割
¥	前のデザイン画面の同じ位置（表の1行前の同じ項目）にあるデータをコピーします。
@	デザイン画面の1つ前の項目にあるデータをコピーします。
エスケープ	処理を途中でやめます。作成中の表は書き込みません。
バックタブ ((Shift) + Tab)	デザイン画面のブロックカーソル位置のデータを“データは:”の位置に呼び戻します。
↑ または ←	画面のブロックカーソルを前の項目に移します。
↓ または →	画面のブロックカーソルを後ろの項目に移します。
↵	↵キーのみを押すと、項目には空白が入ります。
(ALT) + (↑) ((ALT) + (F 5))	表の1行前の行に戻ります。
(ALT) + (↓) ((ALT) + (Ctrl) + (F 6))	表の次の行に移ります。

例題

18 ページ「ビデオテープ貸出管理表」のデータを検索します。

D F 図

18 図.....データページは 18 ページ。

15 図.....デザイン画面は 15 ページ。

> = 105000 図.....会員番号に検索条件 (> = 105000) を入力する。

F 3データの検索を行う。

使用するデザインページ (15 ページ)

15	+	1	+	2	+	3	+	4	+	5	+	6	+	7	+	
1	[テープ貸出 [デザインページ]] 95.03.31 混 L=0050 C=0170															
2	*P															
3																
4																
5																
6	貸出管理表															
7																
8																
9																
10	会員番号 C 1															
11	入会年月日 C 2															
12	_____ 会員名 C 3 _____															
13																
14	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>貸出日 C 4</td> <td>返却日 C 5</td> </tr> </table>														貸出日 C 4	返却日 C 5
貸出日 C 4	返却日 C 5															
15																
16	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>作品コード C 6</td> <td></td> </tr> </table>														作品コード C 6	
作品コード C 6																
17																
18	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>作品名 C 7</td> <td></td> </tr> </table>														作品名 C 7	
作品名 C 7																
19																
20																
21																
仕事は=																

検索実行後

15	ページNO: 18 現在行NO: 7 モード:検索															
1	[テープ貸出 [デザインページ]] 95.03.31 混 L=0050 C=0170															
2	*P															
3																
4																
5																
6	貸出管理表															
7																
8																
9																
10	会員番号 105932															
11	入会年月日 940129															
12	_____ 会員名 高井 修子 _____															
13																
14	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>貸出日 921124</td> <td>返却日 921127</td> </tr> </table>														貸出日 921124	返却日 921127
貸出日 921124	返却日 921127															
15																
16	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>作品コード 10146</td> <td></td> </tr> </table>														作品コード 10146	
作品コード 10146																
17																
18	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>作品名 2階のダーリン</td> <td></td> </tr> </table>														作品名 2階のダーリン	
作品名 2階のダーリン																
19																
20																
21																
D F データは:																

検索するデータページ「ビデオテープ貸出管理表」(18 ページ)

18	1	2	3	4	5	6	7																																																																																																																
1	[ビデオテープ貸出管理表] 95.04.01 混 L=0050 C=0170																																																																																																																						
2	F=10,8,14,8,8,10,24																																																																																																																						
3																																																																																																																							
4	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>会員番号</th> <th>入会日</th> <th>会員名</th> <th>貸出日</th> <th>返却日</th> <th>作品コード</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>104724</td> <td>930524</td> <td>今村 今日子</td> <td>921124</td> <td>921125</td> <td>10461</td> <td>健康体操</td> </tr> <tr> <td>105932</td> <td>940129</td> <td>高井 修子</td> <td>921124</td> <td>921127</td> <td>10146</td> <td>2階の</td> </tr> <tr> <td>102064</td> <td>921124</td> <td>下島 光義</td> <td>921124</td> <td>921126</td> <td>10594</td> <td>たそがれ</td> </tr> <tr> <td>102446</td> <td>921208</td> <td>高橋 明夫</td> <td>921125</td> <td>921127</td> <td>10053</td> <td>あるホタ</td> </tr> <tr> <td>105300</td> <td>930606</td> <td>吉田 君恵</td> <td>921126</td> <td>921128</td> <td>10553</td> <td>インダス</td> </tr> <tr> <td>104163</td> <td>930113</td> <td>山田 寿雄</td> <td>921126</td> <td>921127</td> <td>10461</td> <td>健康体操</td> </tr> <tr> <td>105522</td> <td>930901</td> <td>小笠原 恵美</td> <td>921127</td> <td>921128</td> <td>10305</td> <td>スーパータ</td> </tr> <tr> <td>104163</td> <td>930113</td> <td>山田 寿雄</td> <td>921127</td> <td>921128</td> <td>10462</td> <td>健康体操</td> </tr> <tr> <td>102446</td> <td>921208</td> <td>高橋 明夫</td> <td>921127</td> <td>921201</td> <td>10497</td> <td>ドラ猫</td> </tr> <tr> <td>105925</td> <td>931223</td> <td>田中 隆司</td> <td>921128</td> <td></td> <td>10146</td> <td>アイア</td> </tr> <tr> <td>105932</td> <td>940129</td> <td>高井 修子</td> <td>921129</td> <td>921130</td> <td>10991</td> <td>おいしい</td> </tr> <tr> <td>105300</td> <td>930606</td> <td>吉田 君恵</td> <td>921130</td> <td>921201</td> <td>10848</td> <td>ルアー</td> </tr> <tr> <td>105522</td> <td>930901</td> <td>小笠原 恵美</td> <td>921130</td> <td></td> <td>10685</td> <td>ミラクル</td> </tr> <tr> <td>102064</td> <td>921124</td> <td>下島 光義</td> <td>921201</td> <td></td> <td>10952</td> <td>小</td> </tr> <tr> <td>101062</td> <td>921101</td> <td>小堺 良子</td> <td>921201</td> <td></td> <td>10922</td> <td>カクテル</td> </tr> </tbody> </table>							会員番号	入会日	会員名	貸出日	返却日	作品コード		104724	930524	今村 今日子	921124	921125	10461	健康体操	105932	940129	高井 修子	921124	921127	10146	2階の	102064	921124	下島 光義	921124	921126	10594	たそがれ	102446	921208	高橋 明夫	921125	921127	10053	あるホタ	105300	930606	吉田 君恵	921126	921128	10553	インダス	104163	930113	山田 寿雄	921126	921127	10461	健康体操	105522	930901	小笠原 恵美	921127	921128	10305	スーパータ	104163	930113	山田 寿雄	921127	921128	10462	健康体操	102446	921208	高橋 明夫	921127	921201	10497	ドラ猫	105925	931223	田中 隆司	921128		10146	アイア	105932	940129	高井 修子	921129	921130	10991	おいしい	105300	930606	吉田 君恵	921130	921201	10848	ルアー	105522	930901	小笠原 恵美	921130		10685	ミラクル	102064	921124	下島 光義	921201		10952	小	101062	921101	小堺 良子	921201		10922	カクテル
会員番号	入会日	会員名	貸出日	返却日	作品コード																																																																																																																		
104724	930524	今村 今日子	921124	921125	10461	健康体操																																																																																																																	
105932	940129	高井 修子	921124	921127	10146	2階の																																																																																																																	
102064	921124	下島 光義	921124	921126	10594	たそがれ																																																																																																																	
102446	921208	高橋 明夫	921125	921127	10053	あるホタ																																																																																																																	
105300	930606	吉田 君恵	921126	921128	10553	インダス																																																																																																																	
104163	930113	山田 寿雄	921126	921127	10461	健康体操																																																																																																																	
105522	930901	小笠原 恵美	921127	921128	10305	スーパータ																																																																																																																	
104163	930113	山田 寿雄	921127	921128	10462	健康体操																																																																																																																	
102446	921208	高橋 明夫	921127	921201	10497	ドラ猫																																																																																																																	
105925	931223	田中 隆司	921128		10146	アイア																																																																																																																	
105932	940129	高井 修子	921129	921130	10991	おいしい																																																																																																																	
105300	930606	吉田 君恵	921130	921201	10848	ルアー																																																																																																																	
105522	930901	小笠原 恵美	921130		10685	ミラクル																																																																																																																	
102064	921124	下島 光義	921201		10952	小																																																																																																																	
101062	921101	小堺 良子	921201		10922	カクテル																																																																																																																	
21																																																																																																																							
仕事は=																																																																																																																							

イメージ、動画、音声などのファイルを削除する

- マイツールの表に取り込まれている、イメージ (BMPファイル)、音声 (WAVEファイル)、動画 (AVIファイル) のファイルを削除します。
- あらかじめ BFL 命令で一覧表を作成しておけば、ハードディスク内に保存されている上記のファイルを削除できます。

実行前の確認

- あらかじめ、削除するイメージ、動画、音声などのファイルの取り込まれている表を画面に読み出しておいてください。BFL 命令で簡単に作ることもできます。

仕事は =



削除するファイルの行は :

削除するファイル名が取り込まれている、行の番号を指定します。

- 5 行目にあるファイルを指定する。  
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、¥指定が可能です。

削除するファイルの列は :

削除するファイル名が取り込まれている、列の番号を指定します。

- 2 行目にあるファイルを指定する。  
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ イメージ、動画、音声などのファイルは、内容にもよりますが、他に比べサイズの大きいファイルです。多くの不要なファイルをそのままにしておくとハードディスクの容量を圧迫することになります。適度な期間で DFL 命令を実行して、不要なファイルは削除しておくようにしましょう。
- ◆ BFL 命令と組み合わせて使えば、マイツールのどのページにイメージ、動画、音声などのファイルが取り込まれているかを一覧で確認しながら削除することができます。
- ◆ BFL 命令で削除したファイルは元に戻すことはできません。削除する際は十分に注意してください。

DFL 命令の実行例

まず、BFL 命令を実行して、イメージ、動画、音声などの一覧を作成しておきます。

0	1	2	3	4	...	6	...	7	...
1	[ファイルリスト	1]	95.04.01	混	L=0055	C=0150			
2	F=8,20,22,6								
3									
4	No	ファイル名	マイツールファイル名	ページ					
5									
6	1			M	5				
7	2			M	7				
8	3	\$\$CHIME1.WAV		M	10				
9	4	\$\$CHIME2.WAV		M	10				
10	5	\$\$ZOO.AVI		M	15				
11									

仕事は=

DFL 命令を実行します。

DFL 図

図.....すべての行を指定する。

2 図.....ファイル名が書き込まれている 2 列目を指定する。

0	1	2	3	4	...	6	...	7	...
1	[ファイルリスト	1]	95.04.01	混	L=0055	C=0150			
2	F=8,20,22,6								
3									
4	No	ファイル名	マイツールファイル名	ページ					
5									
6	1	\$\$PHOTO1.BMP		M	5				
7	2	\$\$PHOTO3.BMP		M	7				
8	3	\$\$CHIME1.WAV		M	10				
9	4	\$\$CHIME2.WAV		M	10				
10	5	\$\$ZOO.AVI		M	15				
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									

仕事は=

BMP、AVI、WAVEなどのファイルそのものは削除されますが、表の中のファイル名は残りますので、削除後に正しく削除できたかを確認することができます。

画面のページ情報を表示する

- 画面に表示されているページの、ページサイズや、現在使用している行数と列数、データ行数、そしてフォーマット行のある位置などの情報を表示します。

仕事は =



```

横 幅 =
行 数 =
モ ー ド =
F 行 =
列 数 =
使用行数 =
データ行 ( ~ )
データ件数 = 件

```

ページ情報のメッセージボックスが表示されます。

仕事は =

ページ情報の各内容

- 横 幅.....ページに設定された、1行の長さ(半角の桁数)を表示します。
- 行 数.....ページ内で使うことのできる、行数を表示します。
- モ ー ド.....ページのモードを表示します。
- F (フォーマット) 行.....F命令で表を作ったとき、2行目に“F=”で表示される行のことを、フォーマット文といいます。その、フォーマット文のある行番号を表示します。
- 列 数.....ページ内の表が使っている列数を表示します。
- 使用行数.....現在使っている行数を表示します。文字やケイ線にかかわらず、使用している行数です。
- データ行 (~) ...画面の表の中で、データとして使うことのできる行の範囲を表示します。
- データ件数.....画面の中で、データとして使うことのできる行の件数を表示します。

INFORMATION

- ◆DIA命令を実行すると、いくつかの情報はZ変数に代入されます。代入されるZ変数と代入される内容は次のとおりです。

- Z35...横幅
- Z36...行数
- Z37...使用行数
- Z38...F行
- Z39...データ行(開始行のみ)
- Z40...データ件数

- 同列・同行のデータを比較して、データの変位を求めることができます。

実行前の確認

- 計算場所と書き込み場所に、同じ行・列を指定すると指定によっては正しく計算されません。
- 小数点以下の設定は、あらかじめDR命令で設定しておきます。

類似命令

- CMP.....表と表を照合して、一致したデータに色を付けます。
- RANK...データを集計して順位をつけます。

仕事は =



計算場所は :

変位を求める行 (または列) を 1 つだけ指定します。

- 6 行目の変位を求める。



- 2 列目の変位を求める。



単独指定が可能です。

行の場合は行番号の前に “L” を、列の場合は列番号の前に “C” を付けてください。

書き込み場所は :

計算結果を書き込む場所を指定します。

- 3 列目に書き込む。



- 最終行 (または列) の後ろに行 (または列) を追加して書き込む。



計算場所の指定で、列を指定した場合は列番号、行を指定した場合は行番号を指定してください。

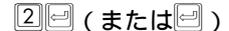
- 1 +
- 2 -
- 3 ×
- 4 ÷
- 5 %

変位の計算方法を番号で選択します。

- データを加算する。



- データを減算する。



- データを乗算する。



- データを除算する。



- データの百分率を求める。



キーのみの入力は、“2 -” を指定したことになります。

計算方法は (1 ~ 5) :

- 1 前のデータ
- 2 後のデータ

手前のデータと後ろのデータのどちらと比較して計算するのかを、番号で選択します。

- 手前のデータと比較して計算する。



- 後ろのデータと比較して計算する。



手前のデータとは、行・列番号の小さい方のデータの事です。

後ろのデータとは、行・列番号の大きい方のデータの事です。

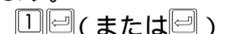
計算するのは (1 ~ 2) :

【 “ 1 前のデータ ” を指定した場合 】

いくつ前ですか :

何列 (または行) 手前のデータと比べるか、指定します。

- 1 列手前のデータを指定する。



- 3 行手前のデータを指定する。

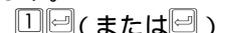


【 “ 2 後のデータ ” を指定した場合 】

いくつ後ですか :

何列 (または行) 後ろのデータと比べるか、指定します。

- 1 列後ろのデータを指定する。



- 3 行後ろのデータを指定する。



- 1 正順
 - 2 逆順
- 計算する方向は (1 ~ 2) :

比較するデータと基準にするデータの、どちらを先に式に組み込むのかを、番号で選択します。

- **元になるデータ** **演算子** **比較するデータ** の形で計算する。①
- **比較するデータ** **演算子** **元になるデータ** の形で計算する。②

元になるデータとは②で指定した行(または列)、演算子とは④で指定した演算子、比較するデータとは⑥で指定した行(または列)です。

INFORMATION

- ◆ 計算場所と書き込み場所には、複数の行・列を指定できません。
- ◆ 計算場所あるいは書き込み場所に、ケイ線を指定した場合は無視します。
- ◆ 計算結果が書き込み場所に収まらない場合は、“*”でうめられます。

DIF命令での計算について

年度	経常利益	前年比伸び率
82	A 2,300,000	
83	B 1,603,200	B ÷ A 0.7
84	C 2,315,600	C ÷ B 1.4
85	D 1,622,000	D ÷ C 0.7
86	E 2,038,000	E ÷ D 7.4
87	F 6,046,800	F ÷ E 1.3
88	G 1,046,000	G ÷ F 0.7
89	H 8,792,000	H ÷ G 0.8
90	I 9,068,400	I ÷ H 1.0
91	J 3,358,000	J ÷ I 1.5

左のような表の経常利益を、前年のデータと比較して、伸び率を求める場合、次のように指定します。

D I F

- 計算場所は： C 2 (2 列目 “ 経常利益 ”)
- 書き込み場所は： 3 (3 列目 “ 前年比伸び率 ”)
- 計算方法は： 4 (除算 “ ÷ ”)
- 計算するのは： 1 (前のデータ)
- いくつ前ですか： 1 (1 行前)
- 計算する方向は： 1 (正順)

この場合、BのデータをAで割った数値0.7を3列目にいれ、以下同じようにデータを計算して3列目に入れます。

★この例は、DR命令で小数点以下第1位、四捨五入に設定した場合です。

元データ 元データをこの式で計算する

例題 19 ページ「売上実績表」の前年比伸び率を求めます。

あらかじめDR命令で、小数点以下の設定を“2”に、計算結果を“切り捨て”に設定しておいてください。

R : 19

D I F

- C 4 4 列目を計算する。
- 5 5 列目に計算結果を書き込む。
- 4 データを除算する。
- 1 前のデータと比較する。
- 1 一つ前のデータと比較する。
- 1 正順で比較する。(元になるデータ ÷ 比較するデータ)

実行前

19	1	2	3	4	5	6	7
1	【売上実績表】				95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=4,12,12,12,12						
3							
4	年度	売上高	経費	経常利益	前年比伸び率		
5							
6	85	11,500,000	9,200,000	2,300,000			
7	86	11,320,000	9,716,800	1,603,200			
8	87	15,170,000	12,854,400	2,315,600			
9	88	19,370,000	17,748,000	1,622,000			
10	89	36,730,000	24,692,000	12,038,000			
11	90	36,470,000	20,423,200	16,046,800			
12	91	39,450,000	28,404,000	11,046,000			
13	92	43,960,000	35,168,000	8,792,000			
14	93	46,510,000	37,441,600	9,068,400			
15	94	53,650,000	40,292,000	13,358,000			
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後

19	1	2	3	4	5	6	7
1	【売上実績表】				95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=4,12,12,12,12						
3							
4	年度	売上高	経費	経常利益	前年比伸び率		
5							
6	85	11,500,000	9,200,000	2,300,000			
7	86	11,320,000	9,716,800	1,603,200	0.69		
8	87	15,170,000	12,854,400	2,315,600	1.44		
9	88	19,370,000	17,748,000	1,622,000	0.70		
10	89	36,730,000	24,692,000	12,038,000	7.42		
11	90	36,470,000	20,423,200	16,046,800	1.33		
12	91	39,450,000	28,404,000	11,046,000	0.68		
13	92	43,960,000	35,168,000	8,792,000	0.79		
14	93	46,510,000	37,441,600	9,068,400	1.03		
15	94	53,650,000	40,292,000	13,358,000	1.47		
16							
17							
18							
19							
20							
21							

DL

Delete Line (デリート ライン)

行を削除する

- 表の中の指定した行を削除します。
- 1行だけでも、複数の行でも削除することができます。
- 横ケイ線だけ指定して削除することもできます。

類似命令

- D C列を削除します。
- B L行を空白にします。
- P U L ...必要な行のみ抜き出して、それ以外の行を削除します。

仕事は =



何行目を削除しますか :

削除する行を指定します。

- 6行目を削除する。
- 表のデータ行すべてを削る。
- 表の横ケイ線を削る。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ 不必要なデータのある行や、横ケイ線を削除するときに使います。ただし、途中で切れているケイ線は“K指定”では削除できません。
- ◆ 間違っって行を削ってしまった場合、直後にRV命令を実行すれば、元に戻すことができます。

- ◆ K指定で削除できる横ケイ線は、データ行にあるケイ線ののみです。
- ◆ A指定で削除できるのは、表のデータ行のみです。項目行やデータ行でない行は残ります。表のフォーマットを流用して、新しくデータを入力する場合に便利です。

例題

7ページ「成績集計表」の、10行目から12行目までを削除します。

R : 7回

DL回

10 - 12回.....10行目から12行目までを削除する。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇子	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 美貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
小池 勇子	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 美貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

おもて画面の下に裏画面を結合する

- おもて画面のデータの下の空白に、裏画面のデータを結合します。

実行前の確認

- 結合するデータは、あらかじめ R B 命令で裏画面に読み出ししておきます。
- おもて画面の下に、データを挿入する空白がないと実行できません。
- おもて画面が漢字モードで、裏画面が混在モードの場合は D O C 命令は使えません。C T P 命令でモードを変更してください。

類似命令

- D O C R...おもて画面の上に裏画面を結合します。

仕事は =



INFORMATION

- ◆ 裏画面の表題やフォーマット行もいっしょにつながります。
- ◆ おもて画面の下の空白に入りきらない行は削除されます。また、D O C 命令を実行してもページサイズは変更されませんので、裏画面の 1 行の長さの方が大きい場合、はみ出す部分は右側から削除されます。
- ◆ 画面の下につながれた内容は、そのままではデータとして扱えません。計算などはできないので注意しましょう。M L 命令で上の表の中に移したり、S E T X 命令で計算終了行を変更すると、計算などを行うことができるようになります。
- ◆ 表とグラフ (帯・点・散布図・工程管理) を 1 つにまとめるときに便利な命令です。

例題

20 ページ「キャンペーン通知」と 21 ページ「キャンペーン日程」のデータを結合します。

R : 20回

R B : 21回

D O C 回.....おもて画面のデータの下の裏画面のデータを結合する。

実行前

20	[...].....2.....3.....4.....5.....6.....7.....
1	[キャンペーン通知] 95.04.01 混 L=0100 C=0074
2	平成★年4月1日
3	
4	各 位
5	キ キ ャ ン ペ ン 通 知
6	キ キ ャ ン ペ ン 通 知
7	
8	来たる5月度において、新製品「マドツール」の発表キャンペーンを全国規模で
9	展開することになりました。
10	キャンペーンにさきかいて、担当者は、機材の搬入などの手順及び、進行を衆知
11	徹底し、ミスのない運営を心がけてください。
12	なお、担当地区及び担当者・スケジュールは下記のとおりです。
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	

実行後

20	[...].....2.....3.....4.....5.....6.....7.....
1	[キャンペーン通知] 95.04.01 混 L=0100 C=0074
2	平成★年4月1日
3	
4	各 位
5	キ キ ャ ン ペ ン 通 知
6	キ キ ャ ン ペ ン 通 知
7	
8	来たる5月度において、新製品「マドツール」の発表キャンペーンを全国規模で
9	展開することになりました。
10	キャンペーンにさきかいて、担当者は、機材の搬入などの手順及び、進行を衆知
11	徹底し、ミスのない運営を心がけてください。
12	なお、担当地区及び担当者・スケジュールは下記のとおりです。
13	[キャンペーン日程] 95.04.01 混 L=0100 C=0074
14	F=1,20,1,10,1,20,1,8,1,10,1
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	

キャンペーン地	担当者	前キャンペーン地	開始	所要日数
札幌キャンペーン	能野	札幌キャンペーン	1	3
青森キャンペーン	鐘場	札幌キャンペーン	5	3
静岡キャンペーン	駒形	青森キャンペーン	9	3
京都キャンペーン	能野	静岡キャンペーン	13	3

おもて画面の上に裏画面を結合する

- おもて画面のデータ上に裏画面のデータを結合します。

実行前の確認

- 結合するデータは、あらかじめ R B 命令で裏画面に読み出しておきます。
- おもて画面の下に空白がないと実行できません。
- おもて画面が漢字モードで、裏画面が混在モードの場合は、C O C R 命令は使えません。C T P 命令でモードを変更してください。

類似命令

- D O C ... おもて画面の下に裏画面を結合します。

仕事は =



INFORMATION

- ◆ 裏画面の表題や、フォーマット行もいっしょにつなぎます。
- ◆ おもて画面の下にある空白の行数で入りきれないデータは削除されます。また、DOCR命令を実行してもページサイズは変更されませんので、裏画面の1行の長さの方が大きい場合は、はみ出す部分は右側から削除されます。
- ◆ 画面の上につながれた内容は、そのままではデータとして扱えません。計算などはできないので注意しましょう。ML命令で下の表の中に移したり、SETX命令で計算開始行を変更すると、計算などを行うことができるようになります。
- ◆ 表とグラフ(帯・点・散布図・工程管理)を1つにまとめるときに便利な命令です。

例題

21 ページ「キャンペーン日程」と20 ページ「キャンペーン通知」のデータを結合します。

R : 21回

R B : 20回

DOCR回.....おもて画面のデータの上に裏画面のデータを結合する。

実行前

1	2	4	6	8	10
1	[キャンペーン日程]		95.04.01	混	L=0100 C=0074
2	F=1,20,1,10,1,20,1,8,1,10,1				
3					
4	キャンペーン地	担当者	前キャンペーン地	開始	所要日数
5					
6	札幌キャンペーン	能野	札幌キャンペーン	1	3
7	青森キャンペーン	踊場	札幌キャンペーン	5	3
8	静岡キャンペーン	駒形	青森キャンペーン	9	3
9	京都キャンペーン	能野	静岡キャンペーン	13	3
10	鳥取キャンペーン	踊場	京都キャンペーン	17	3
11	福岡キャンペーン	駒形	鳥取キャンペーン	21	3
12	沖縄キャンペーン	並室	福岡キャンペーン	25	3
13	東京キャンペーン	白澤	沖縄キャンペーン	29	3
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					

実行後

1	2	4	6	8	10
1	[キャンペーン通知]		95.04.01	混	L=0100 C=0074
2					平成★年4月1日
3					
4	各 位				
5					
6	キ&キャン&ベ&ー&ン&実&施&の&お&知&ら&せ				
7					
8	来たる5月度において、新製品「マドツール」の発表キャンペーンを全国規模で				
9	展開することになりました。				
10	キャンペーンにさきかちて、担当者は、機材の搬入などの手順及び、進行の衆知				
11	徹底し、ミスのない運営を心がけてください。				
12	なお、担当地区及び担当者・スケジュールは下記のとおりです。				
13	[キャンペーン日程]		95.04.01	混	L=0100 C=0074
14	F=1,20,1,10,1,20,1,8,1,10,1				
15					
16	キャンペーン地	担当者	前キャンペーン地	開始	所要日数
17					
18	札幌キャンペーン	能野	札幌キャンペーン	1	3
19	青森キャンペーン	踊場	札幌キャンペーン	5	3
20	静岡キャンペーン	駒形	青森キャンペーン	9	3
21	京都キャンペーン	能野	静岡キャンペーン	13	3

DOS

Disk Operating System (ディスク オペレーティング システム)

DOSに移行する

- マイツール上から、DOSのコマンドを実行したり、MS-DOSプロンプトを起動します。
- DOSを終了してマイツールに戻るときは、EXITと入力します。

仕事は =



コマンドは :

DOSのコマンドを入力します。

- DOSのコマンドを1回だけ実行する。 コマンド名
 - DOSシステムのコマンドを複数回実行する。 コマンド名
- 1回だけの場合、コマンド実行後、マイツールの“仕事は=”の状態に戻ります。

複数回実行する場合は、DOSの画面に移行し、連続してシステムのコマンドを実行することができます。

1回だけ実行する場合は半角文字で入力してください。全角ではエラーになります。

また：(コロン)を使用するときは、コマンド全体をダブルコーテーションで囲ってください。(例) ”DIR A :”

複数回実行したとき、DOSの状態から抜けるには、画面に“C:¥MTFREE>”というような表示が出ている状態でEXITと入力してください。マイツールの“仕事は=”の状態に戻ります。

【MS-DOSプロンプトからマイツールに戻る場合】

C:¥MTFREE>

システムの状態を終わり、“仕事は=”の状態に戻す。 EXIT

INFORMATION

- ◆DOS命令を実行してDOSの状態になっているときに、パソコンの電源を切ったり、リセットすることは決してしないでください。データやハードディスクを破損する場合があります。



指定したセル位置から表示する

- キーやマウスを使わないで、表の見たい位置を表示させることができます。

類似命令

- D...画面の先頭を表示します。

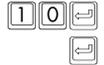
仕事は =



何行目から表示しますか：

画面の先頭（左上）に合わせる行を指定します。

- 10 行目を先頭に合わせる。
- 行はそのまま(列の表示位置のみを変える)。
単独、H・A、条件式、¥指定が可能です。



何列目から表示しますか：

画面の先頭（左上）に合わせる列を指定します。

- 2 列目を先頭に合わせる。
- 列はそのまま(行の表示位置のみを変える)。
単独、H・T、条件式、@指定が可能です。



INFORMATION

- ◆ D命令は画面の先頭部分しか見ることができないのに比べ、DP命令は表のどこからでも見ることができます。仕事に合わせて使い分けてください。

例題

8 ページ「売上帳」を、16 行 4 列目を先頭にして表示します。

R : 8 回

D P 回

16 回.....16 行目を指定します。

4 回.....4 列目を指定して、先頭位置に表示するセルを確定します。

実行前

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0150	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハンカチ	A	300	360	108,000
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明ドット	A	200	500	100,000
9	950403	10002	112	(有)紅梅物産	1030	ルン	F	2000	500	1,000,000
10	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1010	透明ドット	A	250	500	125,000
11	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1002	A3用紙	A	600	620	372,000
12	950404	10004	106	伊藤ササ(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000
13	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	ファイル	A	250	800	200,000
14	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	ファイル	A	200	800	160,000
15	950406	10006	125	井上カナル(株)	1015	鉛筆削り	C	100	1100	110,000
16	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
17	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000
18	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
19	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファイル	A	100	800	80,000
20	950410	10010	119	(株)マジックカット	1003	B5用紙	A	1000	480	480,000
21	950411	10011	122	(株)イジマラファ	1005	ハンカチ	A	100	360	36,000

実行後

16	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000	230	14,000
17	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000	900	90,000
18	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000	450	37,500
19	(有)上越工務店	1006	ファイル	A	100	800	80,000	600	20,000
20	(株)マジックカット	1003	B5用紙	A	1000	480	480,000	340	140,000
21	(株)イジマラファ	1005	ハンカチ	A	100	360	36,000	270	9,000
22	中原電機(株)	1003	B5用紙	A	600	480	288,000	340	84,000
23	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	200	1200	240,000	900	60,000
24	(株)TQ商会	1006	ファイル	A	200	800	160,000	600	40,000
25	東京工業(株)	1006	ファイル	A	200	800	160,000	600	40,000
26	(株)和光	1008	情報カード	A	300	300	90,000	230	21,000
27	中原電機(株)	1013	両面テープ	B	500	800	400,000	600	100,000
28	(株)TQ商会	1003	B5用紙	A	200	480	96,000	340	28,000
29	東京設備工(株)	1002	A3用紙	A	300	620	186,000	480	42,000
30	鈴木工務店	1021	色鉛筆	E	200	1000	200,000	750	50,000
31	(株)和光	1007	書類ケース	A	150	1200	180,000	900	45,000
32	(有)奥町印刷	1008	情報カード	A	150	300	45,000	230	10,500
33	(株)マジックカット	1004	B4用紙	A	500	600	300,000	460	70,000
34	東京工業(株)	1010	透明ドット	A	300	500	150,000	380	36,000
35	(株)和光	1014	ナフ	C	50	300	15,000	230	3,500
36	東京設備工(株)	1021	色鉛筆	E	50	1000	50,000	750	12,500

小数点以下の桁数や端数処理を設定する

- 計算結果の小数点以下の桁数や、四捨五入、切り捨て、切り上げなどの端数処理を設定します。計算する前に実行してください。
- 整数部の四捨五入、切り捨て、切り上げの指定もできます。

仕事は =



現在の桁数は 0 です

小数点以下の桁数は
(指定 -18~18, [変更なし ↵]) :

計算結果で、小数点以下を何桁まで求めるかを指定します。

- 小数点以下を 3 桁までに設定する。
- 現在設定されている桁数を変更しない。
- 100 の位までの整数部を 0 にする。
整数部を 0 に指定する場合は、“-”をつけます。
小数点以下の桁数は 18 桁まで指定できます。



現在の計算結果は切り上げです

1. 四捨五入
2. 切り捨て
3. 切り上げ

計算結果は [変更なし ↵] :

画面に表示される数値の最終桁は、次の桁を四捨五入するか、切り上げるか、切り捨てるかによって変わってきます。1、2、3、の中から選んでください。

- 四捨五入する。
- 切り捨てる。
- 切り上げる。
- 現在の指定を変更しない。



INFORMATION

- ◆ DR 命令は、S I M 命令や CNC 命令で使う計算式の中でも指定できます。
- ◆ 桁数の指定に - (マイナス) をつけると、指定した桁数までの整数部を 0 にします。
《整数部 3 桁まで四捨五入のときの例》
1 2 3 4 5 6 7 1 2 3 5 0 0 0
7 6 5 4 3 2 1 7 6 5 4 0 0 0
- ◆ -3 とした場合は、100 の位までの数値を四捨五入します。
- ◆ 整数部の桁数を指定すると、計算結果に小数点以下の数値はつきません。
- ◆ DR 命令で小数点以下の桁数を設定しても、計算結果を書き込む列の桁数により、すべての桁を表示しきれない場合があります。

- ◆ DR 命令の設定は、次回 DR 命令で設定を変更するまで有効です。

- ◆ DR 命令の指定と列の桁数との関係は以下のとおりです。

《小数点以下 3 桁まで四捨五入のときの例》

123.456789 という計算結果は

↓ 7

1 2 3 . 4 5 6 7

列の桁数	7 桁以上のとき	3 ~ 6 桁のとき	2 桁のとき
計算結果	1 2 3 . 4 5 7 すべての桁数が収まります	1 2 3 . 4 整数部が優先的に収まります。	** 整数部が収まらないと*になります。

例題

22 ページ「支店別売上表 94 年」のデータを 3 ヶ月の全体合計比率（パーセント）に直します。

R : 22回

D R回

3 回.....小数点以下を 3 桁に設定する。

2 回.....最終桁以下は切り捨てる。

M T R / M T , T = 回.....計算式を使って、表全体を総合計で割る。

D R回

1 回.....小数点以下を 1 桁に設定する。

2 回.....最終桁以下は切り捨てる。

M T R * 100 = 回計算式を使って、表全体に 100 を掛けてデータをパーセント（%）に直す。

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	12.8	6.9	14.7	34.6
B支店	5.5	11.0	12.8	29.4
C支店	12.8	6.4	16.5	35.9
合計	31.3	24.4	44.1	100.0

例題

23 ページ「支店別売上表 94 年」のデータの、1000 の桁を四捨五入します。

R : 23回

D R回

- 3 回.....整数部の下 3 桁を指定する。

1 回.....指定部分を四捨五入する。

M T R * 1 = 回.....計算式を使って、表全体に 1 を掛ける。

実行前

支店名	4月	5月	6月
A支店	70,024	37,973	80,435
B支店	30,003	60,048	70,237
C支店	70,427	35,329	90,330

実行後

支店名	4月	5月	6月
A支店	70,000	38,000	80,000
B支店	30,000	60,000	70,000
C支店	70,000	35,000	90,000

- 縦ケイ線を引いて表を見やすくします。

実行前の確認

- 縦ケイ線 1 本は 1 列として扱われます。
- ページ内に指定した縦ケイ線を引くのに十分な桁数がない場合、引けるだけの縦ケイ線を引いて終了します。

類似命令

- D R L...横ケイ線を引きます。

仕事は =



何列目の前に引きますか :

縦ケイ線を引く列を指定します。

- すべての列の前(左側)に縦ケイ線を引く。
- 1 列目の前と最終列の後に縦ケイ線を引く。

(または)

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ 縦ケイ線を引いた数だけ、フォーマット行に 1 列分の表示が加えられます。

- ◆ 一度にすべての縦ケイ線を削除する場合は、DC命令の“K指定”を使うと便利です。

例題

7 ページ「成績集計表」に縦ケイ線を引きます。

R : 7 回

D R C

.....すべての列の前に縦ケイ線を引く。
最終列の後もケイ線が引かれます。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	85	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実直	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	85	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実直	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

- 横ケイ線を引いて表を見やすくします。

実行前の確認

- 横ケイ線 1 本は 1 行として扱われます。
- ページ内に指定した横ケイ線を引くのに十分な行数がない場合、引けるだけの横ケイ線を引いて終了します。

類似命令

- DRC...縦ケイ線を引きます。

仕事は =



何行目の前に引きますか :

横ケイ線を引く行を指定します。

- 先頭データ行の後ろから最終データ行の前まで、横ケイ線を引く。
 (または)
 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

INFORMATION

- ◆一度にデータ行の横ケイ線を削除する場合は、DL命令の“K指定”を使うと便利です。

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」の“合計”の行の前に、横ケイ線を引きます。

R : 1 0

D R L

9 9 行目の前に横ケイ線を引く。

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

画面分割の設定を変更する

- 画面を2つに分割し、その片方の画面（副画面）に表示する内容を指定します。
- 画面分割の方向や操作画面の大きさを変更することもできます。

副画面に表示できるもの

フロントエリア（おもて画面）...通常使っている表示画面の内容です。

バックエリア（裏画面）.....裏画面の内容です。

タイトル.....T命令で表示するタイトル一覧と同じです。

ワークエリア.....DW命令で表示するワークエリアと同じです。

ロギングエリア.....RLOG命令で表示するロギングの画面です。

★今までキーボードから入れたデータや命令を、保存しておく領域です。

ファイル.....F I L E命令やT F命令で表示する、ファイル一覧と同じです。

仕事は =

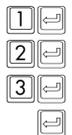


分割方法は

[上下 1,左右 2,分割しない 3]:

画面を分割する方法を番号で選択します。

- 上下に分割する。
- 左右に分割する。
- 分割されている画面を1画面にもどす。
- 現在の設定を変更しない。

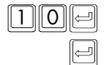


【上下分割を選んだ場合】

操作画面の大きさは（4～〇〇行）:

上下に画面分割したとき、操作画面を何行にするか指定します。

- 操作画面を10行にする。
- 現在の設定を変更しない。



上下分割の場合、上部が副画面、下部が操作画面になります。

【左右分割を選んだ場合】

操作画面の大きさは（10～〇〇桁）:

左右に画面分割したとき、操作画面を何桁（半角文字で数えた文字数）にするか指定します。

- 操作画面を50桁にする。
- 現在の設定を変更しない。



左右分割の場合、左が操作画面、右が副画面になります。

- 1 フロントエリア
 - 2 バックエリア
 - 3 タイトル
 - 4 ワークエリア
 - 5 ロギングエリア
 - 6 ファイル
- ↩ 変更なし

副画面に表示するものを番号で選択します。

- 操作画面と同じ内容を表示する。
- 裏画面の内容を表示する。
- タイトル一覧を表示する。
- ワークエリアの内容を表示する。
- ロギングエリアの画面を表示する。
- ファイル一覧を表示する。
- 現在の設定を変更しない。



副画面に表示するものは:

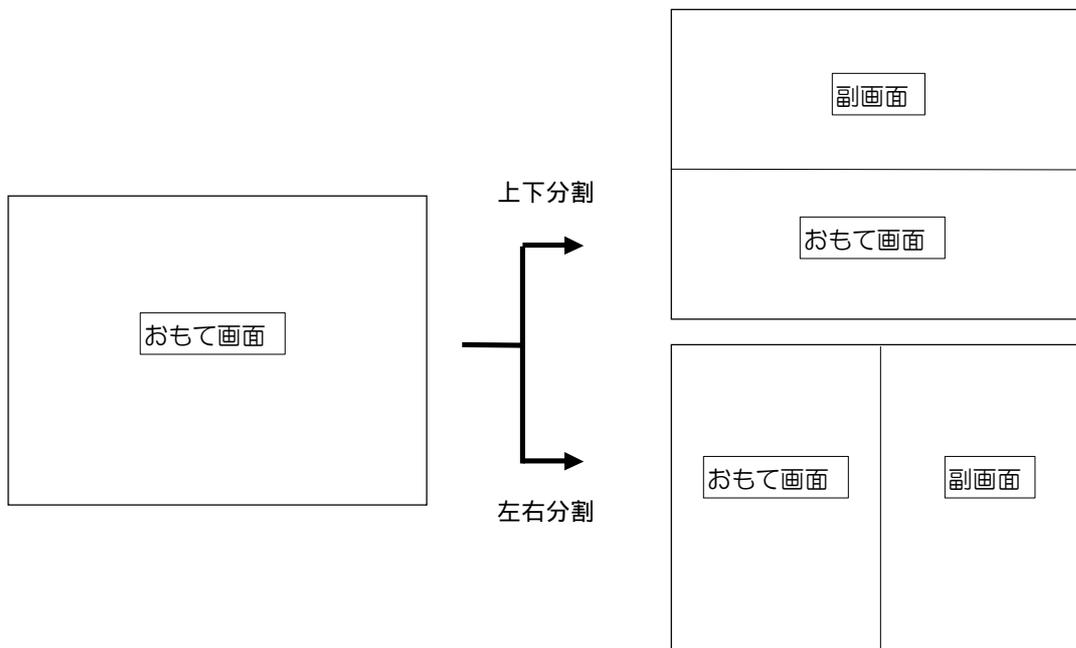
INFORMATION

◆DS命令での設定は、マイツールを終了したときに保存されませんので、マイツールを起動したときには標準値になっています。標準値は、分割方法は上下分割、副画面に表示するのはバックエリア（裏画面）になっています。

◆操作画面を、画面上から見えなくすることはできません。最低4行または14バイト（14桁）が残ります。また設定できる最大行数・桁数は、表示しているマイツールウィンドウのサイズにより異なります。

画面分割について

D S 命令で“おもて画面”と“副画面”で画面分割を行う場合、上下分割と左右分割はそれぞれ次のように表示されます。



例題

画面を左右に分割して、裏画面の内容を表示します。

R : 5回

R B : 19回

D S回

2回.....左右に分割する。

40回.....操作画面の大きさを40桁にする。

2回.....副画面にバックエリア(裏画面)を表示する。

実行前

品名	売上	%
F	968,000	37.9
A	754,000	29.5
G	324,000	12.6
B	262,000	10.2
C	128,000	5.0
E	62,000	2.4
D	54,000	2.1

実行後

年度	売上高	経費	経
85	11,500,000	9,200,000	2.30
86	11,320,000	9,716,800	1.60
87	15,170,000	12,854,400	2.31
88	19,370,000	17,748,000	1.62
89	36,730,000	24,692,000	12.03
90	36,470,000	20,423,200	16.04
91	39,450,000	28,404,000	11.04
92	43,960,000	35,168,000	8.79
93	46,510,000	37,441,600	9.06
94	53,650,000	40,292,000	13.35

重複しているデータを抜き出す

- 指定したページの中で、キー列のデータが重複しているものを抜き出し、元データから削除します。
- 重複しているものすべてを探し出すだけでなく、最初のもの・最後のもの・指定した順番のものだけを抜き出すこともできます。
- 名簿や住所録の中で、重複するものを探し出すのに便利です。

重要

- ページを指定してDSH命令を実行すると、抜き出されたデータはただちにページから削除されます。実行する際は十分に注意してください。

実行前の確認

- キー列は、あらかじめS命令で文字正順に並べかえておいてください。
- 複数ページからデータを抜き出す場合、表のフォーマットは先頭ページの桁数に合わせるの、桁数からはみ出すデータがあると削除されます。
- 先頭ページが混在モードの場合は、抜き出し中に漢字モードのページがあっても結果はすべて混在モードになります。

類似命令

- SH.....データを検索します。
- SHD...条件に合った行を検索し、元データから削除します。

仕事は =



抜き出すページは[画面 ↵] :

データを抜き出すページを指定します。

- 画面のデータから抜き出す。 
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。ここで指定したページには、抜き出しの指定に当てはまらなかったデータが書き込まれます。

1 番目のキー列は[終了 ↵] :

どの列をキー列にしてデータを抜き出すのか、基準となる列の番号を指定してください。

- 表の 1 列目をキー列にする。 
- キー列を指定しない。 
- 単独指定が可能です。キー列を指定しない場合、1 つ前の行とデータの内容がすべて同じものだけを抜き出します。

2 番目のキー列は[終了 ↵] :

さらにキー列を指定する場合は、次に基準となる列の番号を指定してください。

- 次のキー列に 2 列目を指定する。 
- キー列の指定を終了する。 
- 単独指定が可能です。抜き出しのキー列は 5 つまで指定することができます。

D	重複するデータを抜く
数字	指定されたデータ
H	最初のデータ
T	最後のデータ
A	重複するデータすべて

抜き出しの種類を指定します。

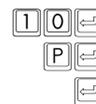
- 重複しているデータの 2 番目から最後までを抜き出す。 
- 重複しているデータの 5 番目のデータを抜き出す。 
- 重複している最初のデータを抜き出す。 
- 重複している最後のデータを抜き出す。 
- 重複しているデータすべてを抜き出す。 

抜き出しの種類は :

結果の書き込み先頭ページは
[印刷 P, 画面 ⇐] :

抜き出したデータをどうするのか、指定します。

- 10 ページから書き込む。
- 印刷する。
- 画面に表示する。



INFORMATION

- ◆ 抜き出したデータは、おもて画面に表示されます。
- ◆ 抜き出しの指定に当てはまらない残りのデータは、裏画面にも表示されます。ただし、複数ページを指定した場合は、最終ページが裏画面に表示されます。
- ◆ 複数ページの抜き出し中に[Esc]キーを押すと一時停止します。停止中に[⇐]キーを押すと再開します。もう一度[Esc]キーを押すと処理を中止します。

例題

24 ページ「得意先名簿」の重複しているデータを抜き出します。

R : 24回

S 回 3 回 1 回 6 回 1 回 2 回 3 回 回 回 回 あらかじめ S 命令で、“会社名”を文字正順で並べかえておきます。

D S H 回

回 画面のデータから抜き出す。

6 回 氏名は 6 列目。

回 キー列指定を終了する。

H 回 重複する氏名の最初のデータを抜き出す。

回 結果を画面に書き込む。

実行前

24	1	2	3	4	5	6	7
1	【得意先名簿】			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野	代表取締役	森野 裕二	150	
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長 駒形 勝也	150	
8	103	1995.0315	伊藤テック(株)	営業部営業一課	係長 江口 かなな	108	
9	104	1995.0315	伊藤テック(株)	テック部	主任 佐藤 博子	107	
10	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長 蹄場 二郎	107	
11	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任 吉野 友子	107	
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任 林 礼子	107	
13	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長 新藤 悟	106	
14	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任 豊田 秀雄	106	
15	110	1995.0415	伊藤テック(株)	テック部	猫柳 史子	106	
16	111	1995.0415	伊藤テック(株)	営業部営業一課	課長 江口 かなな	106	
17	112	1995.0415	伊藤テック(株)	製造部	係長 伊藤 高志	106	
18	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長 新藤 悟	106	
19	114	1995.0412	システム2001	開発部	部長 佐藤 春男	150	
20	115	1995.0412	システム2001	開発部	係長 海野 広子	150	
21							

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	【得意先名簿】			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長 新藤 悟	106	
7	103	1995.0315	伊藤テック(株)	営業部営業一課	係長 江口 かなな	108	
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

裏画面に残るデータ (抜き出されたデータ)

0	1	2	3	4	5	6	7
1	【得意先名簿】			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長 新藤 悟	106	
7	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任 豊田 秀雄	106	
8	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長 駒形 勝也	150	
9	101	1995.0305	(株)TUBE森野	代表取締役	森野 裕二	150	
10	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任 吉野 友子	107	
11	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長 蹄場 二郎	107	
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任 林 礼子	107	
13	112	1995.0415	伊藤テック(株)	製造部	係長 伊藤 高志	106	
14	111	1995.0415	伊藤テック(株)	営業部営業一課	課長 江口 かなな	106	
15	104	1995.0315	伊藤テック(株)	テック部	佐藤 博子	106	
16	110	1995.0415	伊藤テック(株)	テック部	猫柳 史子	106	
17	115	1995.0412	システム2001	開発部	係長 海野 広子	150	
18	114	1995.0412	システム2001	開発部	部長 佐藤 春男	150	
19							
20							
21							

ワークエリアを表示する

- ワークエリアに入っているデータを表示します。
- ワークエリアとは、データや計算結果を一時的に保管しておく場所です。

類似命令

- D S...画面分割して副画面にワークエリアなどを表示します。

仕事は =



ワーク	W1	W2	W3
1	116000		
2	108000		
3	100000		
4	1000000		
5	125000		
6	372000		
7	210000		
8	200000		
9	160000		
10	110000		
11	60000		
12	360000		
13	150000		
14	80000		
15	480000		
16	36000		
17	288000		
18	240000		
19	160000		
20	160000		
21	90000		

DW下を見る...↓, 上を見る...↑ エスケープキーを押せば終わります

ワークエリアの内容が表示されます。

- 下方向へスクロールする。
- 上方向へスクロールする。
- ワークエリアの表示を終了する。



ワークエリアに計算結果やデータを書き込んでいない場合には、左のように数字は表示されません。

INFORMATION

- ◆ I L W命令・I C W命令を行う前には、DW命令でワークエリアの内容を確認しましょう。
- ◆ C命令中でも、DW命令でワークエリアの内容を見ることができます。
- ◆ 数値はワークエリアに半角文字で保存されますが、文字はそのままのかたちで保存されます。C命令やI C W命令、I L W命令で読み出して使うときに、その画面が漢字モードであれば全角文字にして表示されます。
- ◆ ワークエリアには、W1・W2・W3の3つのエリアがあります。1つのエリアに保存できるのは、18桁のデータを180個までです。
- ◆ ワークエリアに結果を入れることのできる命令
C・ACM・MAV
- ◆ ワークエリアに入っているデータを読み出して使う命令
C・I C W・I L W
- ◆ マイツールを終了すると、ワークエリアの内容はすべて消去されます。

E

Entry (エントリー)

表にデータを追加する

- 表に新しく行を追加し、データを入力します。

実行前の確認

- 画面にフォーマット文のある表がないと、E命令を実行することはできません。

類似命令

- E C...列方向にデータを入力します。
- E L...行方向にデータを入力します。
- E R...指定した範囲のセルにデータを入力します。

仕事は =



データは :

データを入力します。 **[エスケープ]** キーを押すと、データ入力を終了します。

INFORMATION

- ◆ケイ線を見逃して、次々とデータを入れることができます。
- ◆入力するデータ内にコロン (:)、エスケープ (ESC) がある場合は、データ全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。
- ◆データを入力できるのは、指定可能行数内だけです。
- ◆データは、**[右]** キーを押すと、右つめで入力されます。**[タブ]** (Tab) キーを押すと、左つめで入力されます。
- ◆**[@]** キーや **[¥]** キーを使うと、前の列または前の行と同じデータを入力することができます。
- ◆すでに入力したデータの修正は、**[上]** **[下]** **[左]** **[右]** キーでブロックカーソルを移動させて行います。
- ◆表の左端にブロックカーソルがある状態で **[左]** キーを押すと、ブロックカーソルは前の行の行末に移動します。また、表の右端にブロックカーソルがある状態で **[右]** キーを押すと、ブロックカーソルは次の行の行頭に移動します。
- ◆データの一部分だけを修正する場合は、**[バックタブ]** (**[Shift]** + **[Tab]**) キーを押した後、**[左]**、**[右]**、**[ホーム]** (Home)、**[挿入]** (Insert)、**[削除]** (Delete)、**[後退]** (Back space) キーで行ってください。
- ◆**[コントロール]+[X]** (Ctrl)+[X] キーを押すと、ブロックカーソルのある列の桁数が1桁ずつ広がります。
- ◆**[コントロール]+[A]** (Ctrl)+[A] キーを押すと、空白行が1行挿入されます。

例題

7ページ「成績集計表」に、新しくデータを1行追加します。

R : 7回

E回

鈴木 太郎 78 69 82 80 72 データを入力します。

[エスケープ] 1行分データを入れ終わったら入力を終了します。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 委貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	88	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 委貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	88	80	51	61
鈴木 太郎	78	69	82	80	72

- 表の指定した列に、列方向でデータを入力します。

類似命令

- E表にデータを追加します。
- E L ...行方向にデータを入力します。
- E R ...指定した範囲のセルにデータを入力します。

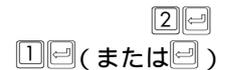
仕事は =



何列目から入れますか :

データを入力する列の番号を指定します。

- 2列目にデータを入れる。
 - 1列目にデータを入れる。
- 単独、H・T、条件式、@指定が可能です。



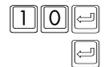
何行目から入れますか :

指定列の何行目からデータを入れ始めるか、行の番号を指定します。

- 指定した列の 10 行目からデータを入れる。
- 項目行に項目名を入れる。

単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。

キーを押した場合、データ入力の前に項目名を入れます。



データは :

データを入力します。データを入力し終わったら、**エスケープ** キーを押します。

INFORMATION

- ◆ ケイ線を無視して、次々とデータを入れることができます。
- ◆ 入力するデータ内にコロン (:)、エスケープ (ESC) がある場合は、データ全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。
- ◆ データを入力できるのは、指定可能行数内だけです。
- ◆ データは、**右** キーを押すと、右づめで入力されます。**左** キーを押すと、左づめで入力されます。
- ◆ **@** キーや **¥** キーを使うと、前の列または前の行と同じデータを入力することができます。
- ◆ すでに入力したデータの修正は、**上** **下** **左** **右** キーでブロックカーソルを移動させて行います。
- ◆ 表の左端にブロックカーソルがある状態で **左** キーを押すと、ブロックカーソルは前の行の行末に移動します。また、表の右端にブロックカーソルがある状態で **右** キーを押すと、ブロックカーソルは次の行の行頭に移動します。
- ◆ データの一部だけを修正する場合は、**バックタブ** (**Shift** + **Tab**) キーを押した後、**左**、**右**、**ホーム** (**Home**)、**挿入** (**Insert**)、**削除** (**Delete**)、**後退** (**Back space**) キーで行ってください。
- ◆ **コントロール** + **X** (**Ctrl** + **X**) キーを押すと、ブロックカーソルのある列の桁数が 1 桁ずつ広がります。
- ◆ **コントロール** + **A** (**Ctrl** + **A**) キーを押すと、空白行が 1 行挿入されます。

- 日本語ワードプロセッサとしての機能になります。
- 表の修正も行うことができます。

実行前の確認

- 既存の表や文書を編集する場合は、あらかじめR命令で編集するページを画面に読み出しておいってください。
- 新しく文書を作成する場合は、F命令実行後、エスケープキーを押して空白のページを作成してください（ED命令の機能で文章を削除することもできます）。

類似命令

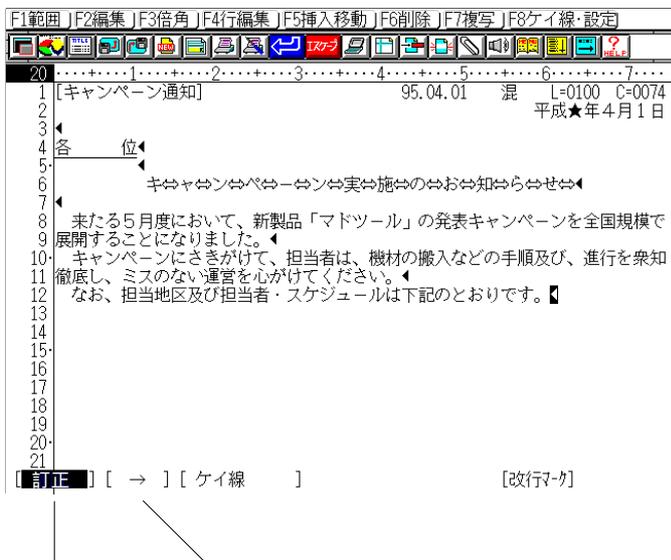
- FS...用紙サイズに合わせて表を作ります。

仕事は =



ED命令の画面

ED命令を実行すると、画面は下のようになります。



ED命令を実行すると、画面上には文字入力位置を示すカーソル()と、1行の最後を示す改行マーク(◀)が表示されます。また、プルダウンメニューや画面最下行などの表示がED命令用に変更されます。

画面の説明

- メニューバー..... “仕事は=”と表示されているときのメニューバーとは異なり、ED命令専用のメニューバーに変更されます。ED命令時のメニューバーおよびプルダウンメニューは、マウスだけでなく、キーボードを使って操作することができます。
- 改行マーク..... ED命令を実行すると、各行の文字列の最後に、・マークが表示されます。
- カーソル..... ED命令実行中は“ ”あるいは“■”の形のカーソルが表示されます。入力行はなくなり、打った文字が画面上のカーソル位置に表示されます。
- モード表示..... ここには、[訂正]、[挿入]のどちらかが表示されます。訂正モードでは、カーソルのあるところから文字を上書きし、挿入モードでは、カーソルのあるところに文字が挿入されます。
- カーソル移動方向..... 文字を打った後、通常は右方向にカーソルが移動しますが、ED命令中では、上下左右のいずれかにカーソルの移動方向を指定することができます。

基本操作

表のデータを変更する場合は、E D命令実行前に、変更したいページを画面に表示させておきます。新しく文書を作る場合は、画面上のデータは消しておきます。

F命令、F S命令を行うか、あるいはE D命令中の削除などで消すことができます。

●訂正モードと挿入モード

E D命令中に文字入力を行うと、画面上のカーソル位置に文字が入力されます。文字の入力時には訂正モードと挿入モードがあり、それぞれ次の機能があります。

漢字モードのページには、半角文字は入力できません。

モード	機能
訂正モード	表示されている文字に重ねて文字を打つと、それまであった文字が消えて新しく打った文字が残ります。つまり、重ねて打った文字に上書きする状態のことです。
挿入モード	表示されている文字に重ねて文字を打つと、それまであった文字は入力した文字数分右側に移動します。 ただし、入力した文字がページの桁数を超えると、文字は右側から削除されるので注意が必要です。

現在のモードは画面左下のモード表示部分に表示されます。訂正モードなら緑色で[訂正]、挿入モードなら水色で[挿入]と表示され、カーソルの色も同じ色に変わります。

挿入モードで[↵]キーを押すと、カーソルがあった位置には・マークが表示され、カーソル位置およびカーソル以降の文字列は次の行に送られます。カーソルは次の行の先頭に移動します。

<訂正モードと挿入モードの切り替え>

キーボードで切り替える場合.....[挿入]キーを押すたびに、訂正モードと挿入モードが交互に切り替わります。

マウスで切り替える場合.....モード表示部分にカーソルを合わせて左クリックするたびに、訂正モードと挿入モードが切り替わります。

●カーソルの移動

E D命令中に文字入力を行うと、文字はカーソルの位置に入力されます。

文字の入力位置を移動する場合は、カーソルの位置を移動します。

<文字入力位置へのカーソルの移動>

キーボードで移動する場合.....カーソルキーを押して、キーの矢印方向に1文字あるいは1行ずつカーソルを移動させることができます。

マウスで移動する場合.....入力する位置にマウスカーソルを合わせ、左クリックすると、その位置にカーソルが移動します。

●文字入力後のカーソルの移動方向

通常は、文字入力後カーソルは右に移動しますが、左方向および上下方向に移動方向を指定することができます。画面左下に表示されているカーソル移動方向の表示が、現在の移動方向を示しています。表示が[]の場合は、右方向への移動です。

<カーソルの移動方向の指定>

キーボードで指定する場合.....[ALT]キーを押しながら[↑][↓][←][→]([F5][F6][F7][F8])キーを押します。

下方向にする場合は、[ALT]+[Ctrl]キーを押しながら[F6]キーを押します。

マウスで指定する場合.....[→]が表示されている位置にマウスカーソルを合わせ左クリックすると、[↓]の表示に変わります。続けて左クリックするたびに[←][↑][→]の順に矢印の向きが変わります。

●スクロール

キーボードで行う場合.....[↑][↓][←][→]([Ctrl]+[↑][↓][←][→])キーを押すと、1画面ずつスクロールします。また、カーソルが表示領域を超えたとき、スクロールが行われます。

マウスで行う場合.....他の命令と同じように、右ドラッキングでスクロールさせます。

●文字の消去

文字の消去はキーボードから行います。**後退**(**Backspace**)キーでカーソルの左どなりの文字、**削除**(**Delete**)キーでカーソル上の文字を消すことができます。**コントロール** + **クリア**(**Ctrl** + **End**)もしくは**コントロール** + **Z**(**Ctrl** + **Z**)で、その行のカーソル位置以降の文字を消すことができます。ただし、複数の行や文章を消去するような場合は、プルダウンメニューの[削除]から行います。

プルダウンメニューと各機能の選択

ED命令を実行すると、専用のメニューバーとプルダウンメニューに変わります。メニューバーおよびプルダウンメニューの選択は、キーボードのファンクションキーとマウスのどちらでも行えます。

F1 範囲	F2 編集	F3 倍角	F4 行編集	F5 挿入移動	F6 削除	F7 複写	F8 ケイ線・設定
1: 全面	1: 枠あげ	1: 横倍角	1: 右寄せ	1: 行挿入	1: 行削除	1: 行複写	1: ケイ線モード
2: 単一	2: レイアウト変更	2: 縦倍角	2: 左寄せ	2: 行移動	2: 文削除	2: 文複写	2: ケイ線描画
3: 複数	3: 半改行	3: 4倍角	3: 均等割付	3: 文移動	3: ブロック削除	3: ブロック複写	3: 裏画面読込
4: 列	4: 無改行	4: 倍角削除	4: 均等割付け	4: ブロック移動			4: カバリ
5: 改行マーク	5: 検索						5: セーブ
	6: 置換						6: タブ
							7: 横サイズ変更

上図は、メニューバーで各メニューを選んだときに表示されるプルダウンメニューの内容を示したものです。キーボードのファンクションキーを使って、機能を選択する場合は、次のように操作します。

メニューバーのメニューに対応するファンクションキーを押します。

《例》 [倍角]を選択する。 **F3** キーを押す。

プルダウンメニューが表示されたら、使用したい機能の番号を、数字キーで選択します。

《例》 [横倍角]を選択する。 数字キーの **1** を押す。

エスケープキーを押すと、取り消されます。

プルダウンメニューの各機能解説

F1 範囲

編集可能な範囲を設定します。

範囲を設定すると、範囲以外への文字入力や編集を行うことができなくなります。

文書全体のレイアウトを変えずに、部分的な修正をする場合や、文字を書き込む範囲をあらかじめ決めておく場合に使用します。

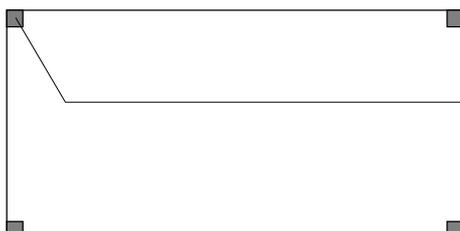
範囲設定中は、文字入力を行うと、その行の範囲を超えた文字やカーソルは、自動的に次の行へ移動します。範囲設定を解除するときは、**エスケープ**キーを押します。

(1) 全面

ページの最終行数・最終桁数の位置まで、範囲を設定します。

「全面」を選択すると、ただちに範囲が設定されます。

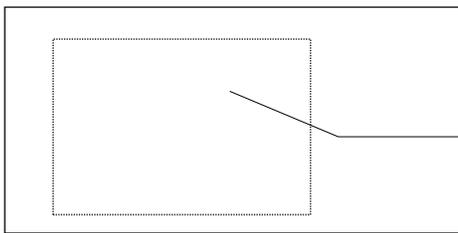
範囲指定が行われても、画面に大きな変化はありません。ただし、実行されると、範囲の四隅に赤いマークが表示され、範囲の限界を示します。マークはカーソルと重なって表示されることがあります。



四隅に赤いマークが表示されます。
その内側が設定されている範囲です。

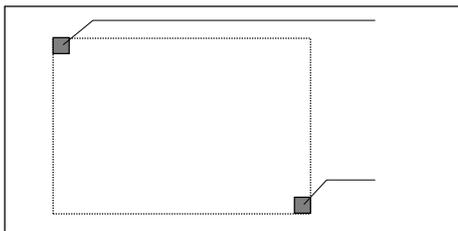
(2) 単一

- 1ヶ所だけ範囲を設定します。範囲は四角形で指定し、対角となる2点の位置をカーソルで指定します。
複数の範囲を設定する場合は“(3) 複数”で行います。
位置の指定は、キーボードとマウスのどちらでも可能です。
始点と終点の指定について詳しくは、下の「始点と終点の指定」をご覧ください。



範囲の始点を指定してください

この部分に範囲を設定する。

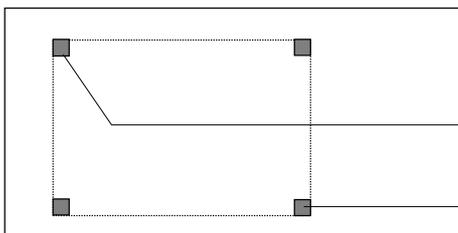


カーソルを範囲の始点(たとえば左上)に移動させ、
[Enter]キーを押します。

範囲の終点を指定してください

カーソルを範囲の終点に移動させ、[Enter]キーを押します。
以上の操作で範囲が設定されます。

★途中で中止したい場合は、[Esc]キーを押します。以降の機能についても同じです。



カーソルが1行1桁目にあると、赤いマークは緑の
カーソルで隠れています。カーソルを動かすと赤い
マークが見えるようになります。

赤いマーク

● 始点と終点の指定

[範囲]での指定に限らず、ブロック(四角形の範囲)の始点と終点を指定して使う機能は他にもあります。その場合、次のように操作してください。

右図のA B C Dの四隅のうち、対角となる2点で始点と終点を指定します。どの位置を始点にしてもかまいませんが、終点は必ず対角の位置になります。

たとえば、Aの位置を始点にするとDの位置が終点になり、Cが始点ならばBが終点になります。

★1行内の範囲指定や1桁の範囲指定もできます。



< 図のAとDの位置で指定する >

キーボードで指定する場合.....Aの位置にカーソルを移動させ、[Enter]キーを押します。

続いてDの位置にカーソルを移動させ、[Enter]キーを押します。

マウスで指定する場合.....Aの位置にマウスカーソルを合わせ、左クリックを押します。

続いてDの位置にマウスカーソルを合わせ、左クリックを押します。

(3) 複数

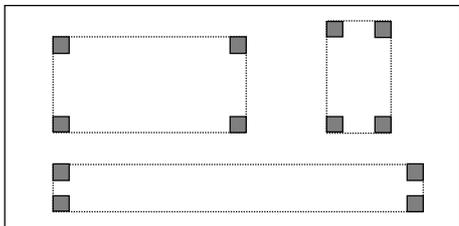
範囲を4ヶ所まで指定することができます。

指定の方法は“(2) 単一”の操作と同じです。

1ヶ所の範囲指定を終えると、ふたたび同じメッセージが表示されるので、繰り返し同じように指定します。

4ヶ所未満の範囲指定を行うときは、必要な数を設定し終えた後(エスケープ)キーを押して、指定の操作を終えます。

《複数の範囲を指定した例》



すでに設定されている範囲に重ねて、別の範囲を設定することはできません(ブザーが鳴ります)。

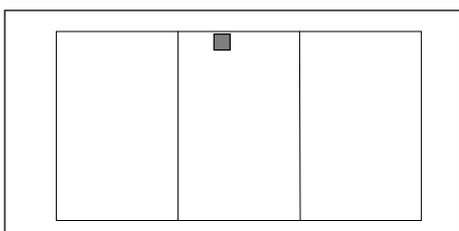
範囲内にカーソルがある場合、四隅を示すマークが赤で表示されます。カーソルのない範囲の四隅は紫で表示されます。

範囲間のカーソルの移動はマウスを使って行います。

(4) 列

表の列内を範囲指定します。いったん設定しておけば、他の列にも列指定を移動させることができます。

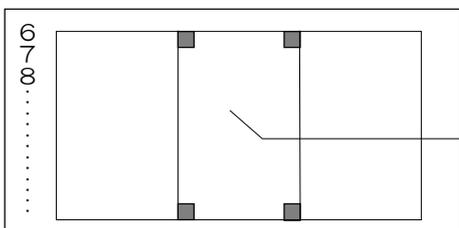
ただし、画面に列のある表がないと、実行することはできません。



対象の列を指定してください

範囲指定する列の中にカーソルを移動させ、(←)キーを押します。

★マウスの場合は、列内にカーソルを合わせ左クリックします。



赤いマークが表示され、カーソルのある列内が範囲指定されます。

フォーマット行より上の行を指定することはできません。

データ行内で指定すると、データの先頭行からデータの最終行までが範囲となります。

フォーマット行以降からデータ先頭行より上の間で指定を行うと、その行からデータの最終行までが範囲となります。

●範囲の対象列の変更

キーボードで行う場合.....(シフト)+(改行) (ALT)+(*)キーを押すと、右隣の列に範囲が移動します(右端の列にカーソルがある場合は、左端の列に範囲が移動します)。

マウスで行う場合.....新しく範囲に設定する列をマウスで左クリックします。

この操作は何回でも行うことができます。

コンパクトキーボード以外のキーボードでは、テンキー上の(*)キーを使わないと、この操作は行えません。

(5) 改行マーク

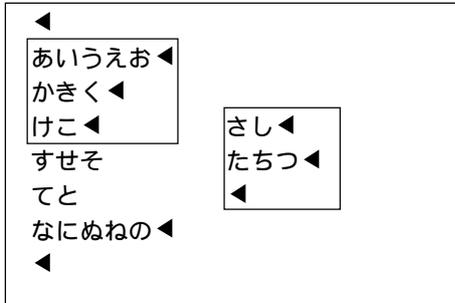
「改行マーク」は、設定した範囲の中に、それぞれ改行マークを表示するかしないかの設定を行います。プルダウンメニューから選択することにより、表示しない、表示するを切り替えます。

ED命令実行直後は、各範囲に改行マークを表示する状態になっています。

画面最下行に表示される[改行マーク]（もしくは[改行]）をマウスで左クリックして、切り替えることもできます。範囲以外の部分の改行マークは、ここでの設定に関係なく常に表示されます。

● “表示する” “表示しない”の違い

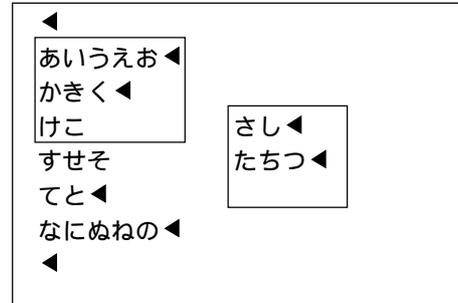
《表示する》



画面最下行の表示

[改行マーク]

《表示しない》



[改行]

F2 編集

主に、文書作成後の編集を行います。

(1) 枠あけ

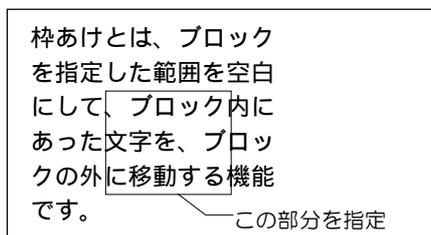
ブロック（範囲）を指定して、空白を空けます。ブロック内の文字はブロック外へ移動します。

ブロックの始点を指定してください

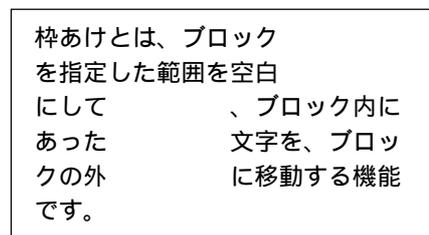
《始点と終点の指定》の操作を、空白にしたい領域に対して行います。

ブロックの終点を指定してください

《実行前》



《実行後》



(2) レイアウト変更

ブロック（範囲）を指定して、ブロック内にある文字を、新しく指定するブロック内に並べかえます。始点の位置は変更できません。

ブロックの始点を指定してください

《始点と終点の指定》の操作を、レイアウト変更をする領域に対して行います。

ブロックの終点を指定してください

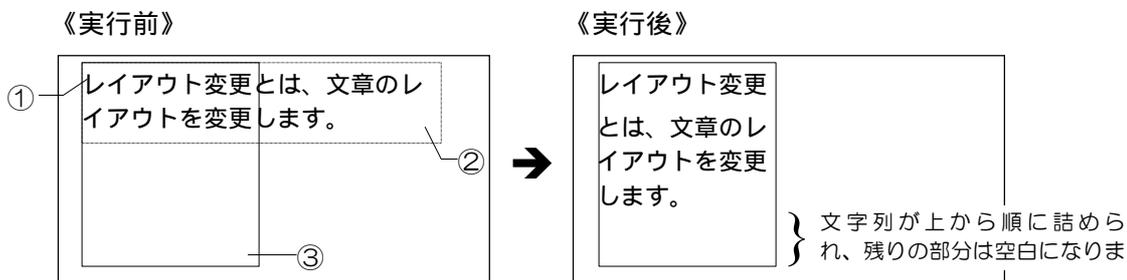
次の図の の位置が始点（左上）にあたります。

整形後のブロック右下を指定してください

新しくレイアウトする範囲の、右下の位置（終点）のみを指定します。

下図の の位置が終点（右下）にあたります。

③の位置は、①と②で指定したブロック内にある文字数分と等しいか、それより大きいブロックにしないと指定できません。整形後のブロック位置に、整形前のブロック以外の文字があると消えてしまいます。繰り返し指定できますので、終わるときは`エスケープ`キーを押してください。



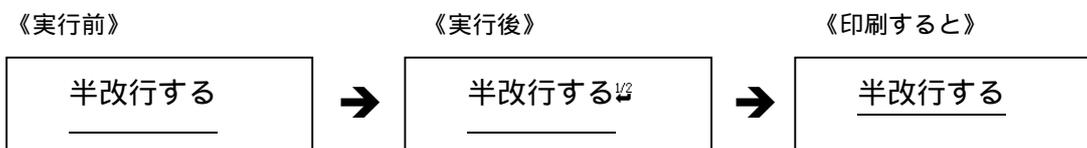
(3) 半改行

印刷時に半改行する行を設定します。印刷すると、行の半分の位置から次の行が重なって印刷されます。ケイ線を利用して、文字の下にアンダーラインを引くときなどに利用できます。

半改行の行を指定してください

半改行する行の右側にカーソルを移動させ、`⇧`キーを押します。カーソル位置に半改行マーク(⏏)が挿入されます。

文字列の途中で指定すると、半改行マークの分、文字列が右に移動してしまいますのでご注意ください。繰り返し指定できますので、終わるときは`エスケープ`キーを押してください。半改行の指定を取り消すには、半改行マークを削除します。



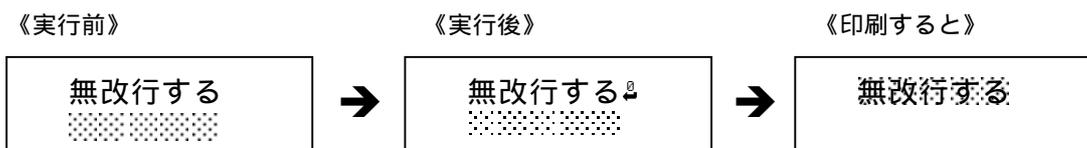
(4) 無改行

印刷時に無改行する行を設定します。印刷すると、次の行に重なって文字が印刷されます。文字にアミをかけるときなどに利用できます。

無改行の行を指定してください

無改行する行の右側にカーソルを移動させ、`⇧`キーを押します。カーソル位置に無改行マーク(⏏)が挿入されます。

文字列の中でこの操作を行うと、無改行マークの分、文字列が右に移動してしまいます。繰り返し指定できますので、終わるときは`エスケープ`キーを押してください。無改行の指定を取り消すには、無改行マークを削除します。



(5) 検索

指定した文字列を、カーソルの位置から下方向へ探します。

検索する文字列は：

検索文字列を入力し、キーを押します。

キーのみを押すと、前回の [検索] や [置換] で検索した文字列を指定したことになります。

次をさがしますか
(さがす , 終了)

はじめにあった指定文字列が青く反転します。次の指定文字列をさがす場合は、キーを押します。

“次をさがしますか：” のメッセージ表示中は、文字の訂正・挿入を行うことができます。

繰り返し キーを押すと、次々と文字列を検索します。該当する文字列をすべて探し終わると、“文字列が見つかりません” を表示し、[検索] を終了します。途中で検索を終わるときは、エスケープキーを押します。

検索する文字列で、指定するデータ内にコロン (:) やエスケープ (E S C) がある場合は、データ全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。

(6) 置換

指定した文字列をカーソル位置以降から検索し、他の文字列に置き換えます。

検索する文字列は：

検索する文字列を入力し、キーを押します。

キーを押すと、前回検索や置換で入力した文字列を指定したことになります。

置き換えは一度に行いますか [一度に Y / 確認あり N] :

一度に置き換えるのか、ひとつずつ順にチェックしながら置き換えるのか、指定します。

キーのみを押すと、“N”を指定したことになります。

置き換える文字列は：

置き換える文字列を入力し、キーを押します。

キーのみを押すと、検索した文字列を削除します。

②で“一度に…Y”を選んでいれば、文字列を一度にすべて置き換えます。“確認あり…N”を選んでいれば、該当する文字列の先頭から順に青く反転し、“置き換えますか [Y / N] :” の確認のメッセージが表示されます。ここで、“Y”を選ぶと、指定文字列に置き換え、次の文字列へ移ります。“N”を選ぶと、置き換えを行わずに、次の文字列へ移ります。

検索する文字列や置き換える文字列で、指定するデータ内にコロン (:) やエスケープ (E S C) がある場合は、データ全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。

F3 倍角

文字を大きく印刷できます。

ただし、印字フォントをもたない外字は、倍角の操作を行うことはできません。

(1) 横倍角

画面の文字を横方向に2倍の大きさを印刷できます。

横倍角にする文の先頭を指定してください

横倍角にする文字列の先頭の文字にカーソルを合わせ、

キーを押します。

横倍角にする文の終わりを指定してください

同じく、文字列の終わりの文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

- 横倍角に指定した文字列中には、各文字の右側に横倍角マーク()が表示されます。この横倍角マークが付いた文字だけ横倍角付加で印刷され、マークは印刷されません。

2行にまたがった文字列の指定はできません。

繰り返し指定できますので、終わるときは、キーを押してください。

《実行前》

横倍角する
A B C D



《実行後》

横倍角する
A B C D



《印刷すると》

横倍角にする
A B C D

(2) 縦倍角

画面の文字を縦方向に2倍の大きさに印刷できます。

縦倍角にする文の先頭を指定してください

縦倍角にする文字列の先頭の文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

縦倍角にする文の終わりを指定してください

同じく、文字列の終わりの文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

- 縦倍角に指定した文字列中には、各文字の右側に縦倍角マーク()が表示されます。この縦倍角マークが付いた文字だけ縦倍角付加で印刷され、マークは印刷されません。

2行にまたがった文字列の指定はできません。

繰り返し指定できますので、終わるときは、キーを押してください。

《実行前》

縦倍角する
A B C D



《実行後》

縦倍角する
A B C D



《印刷すると》

縦倍角する
A B C D

(3) 4倍角

画面の文字を4倍角(縦横2倍)の大きさに印刷できます。

4倍角にする文の先頭を指定してください

4倍角にする文字列の先頭の文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

4倍角にする文の終わりを指定してください

同じく、文字列の終わりの文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

- 4倍角に指定した文字列中には、各文字の右側に4倍角マーク()が表示されます。この4倍角マークが付いた文字だけが4倍角付加で印刷され、マークは印刷されません。

2行にまたがった文字列の指定はできません。

繰り返し指定できますので、終わるときは、キーを押してください。

《実行前》

4 倍角する
A B C D



《実行後》

4 ⇄ 倍 ⇄ 角 ⇄ す ⇄ る ⇄
A B C D ⇄



《印刷すると》

4倍角する
A B C D

(4) 倍角削除

倍角指定を削除します。

倍角削除する文の先頭を指定してください

倍角削除する文字列の先頭の文字にカーソルを合わせ、
⇄ キーを押します。

倍角削除する文の終わりを指定してください

同じく、文字列の終わりの文字にカーソルを合わせ、⇄
キーを押します。

- 倍角削除に指定した文字列の倍角マークが消去されます。

2行にまたがった文字列の指定はできません。

繰り返し指定できますので、終わるときは、エスケープキーを押してください。

F 4 行編集

文字列の右寄せ、左寄せ、センタリング、均等割付けを行います。いずれも、範囲指定中はその範囲内で行います。

(1) 右寄せ

指定した行の文字列を、右端に移動します。

右寄せする行を指定してください

右寄せする行にカーソルを合わせ、⇄ キーを押します。
● この操作で、指定された範囲の右端まで文字列が移動します。

繰り返し指定できますので、終わるときはエスケープキーを押してください。

《実行前》

右寄せは、指定した
行の文字列を右詰め
にします。

範囲指定



《実行後》

右寄せは、指定した
行の文字列を右詰め
にします。

右寄せした行

(2) 左寄せ

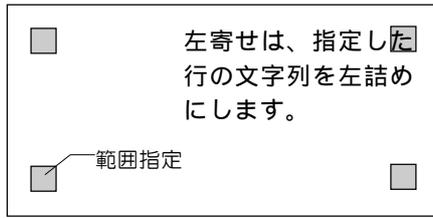
指定した行の文字列を、左端に移動します。

左寄せする行を指定してください

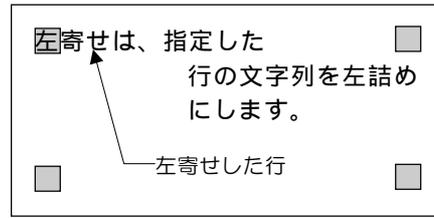
左寄せする行にカーソルを合わせ、⇄ キーを押します。
● この操作で、指定された範囲の左端まで文字列が移動します。

繰り返し指定できますので、終わるときはエスケープキーを押してください。

《実行前》



《実行後》



(3) センタリング

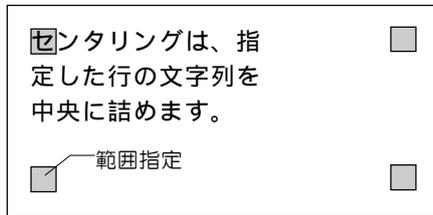
指定した行の文字列を、中央に移動します。

センタリングする行を指定してください

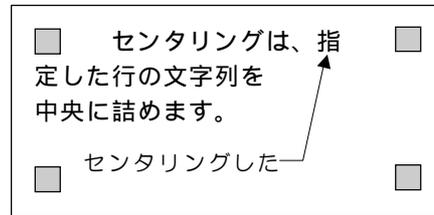
センタリングする行にカーソルを合わせ、**[Enter]**キーを押します。この操作で、指定された範囲の中央に文字列が移動します。

繰り返し指定できますので、終わるときは**[Esc]**キーを押してください。

《実行前》



《実行後》



(4) 均等割付け

指定した範囲に、ほぼ均等に文字を配置します。
列内の文字を均等に割り付けるときなどに便利です。

均等割付けする文の先頭を指定してください

割り付け範囲の先頭の位置にカーソルを合わせ、**[Enter]**キーを押します。

均等割付けする文の終わりを指定してください

同じく、範囲の終わりにカーソルを合わせ、**[Enter]**キーを押します。

2行にまたがった範囲の指定はできません。

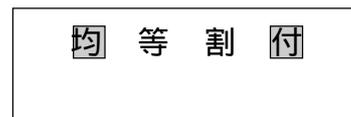
繰り返し指定できますので、終わるときは**[Esc]**キーを押してください。

指定した範囲に、{割り付けする文字数-1}個以上の半角スペースが含まれていないと、均等割付けは行われません。

《実行前》



《実行後》



F5 挿入移動

行の間に新しく行を挿入したり、行やブロックの移動を行います。

(1) 行挿入

指定した位置に新しく1行を挿入します。挿入した行には文字を入力できます。

挿入する行を指定してください

新しい行を挿入する位置にカーソルを合わせ、キーを押します。挿入先にすでにある行以降は改行されます。

- 新しい行の挿入によって最下行が消えてしまう場合は、次のようなメッセージが表示されます。

最下行が消えてしまいます
(実行 , 終了 エスケープ) :

挿入するときは、キーを押します。

中止するときは、エスケープキーを押します。

範囲指定中は、範囲内のみで操作可能です。

繰り返し指定できますので、終わるときはエスケープキーを押してください。

カーソル位置に行を挿入するときは、コントロール+挿入 (Alt+Insert) キーでもできます。

《実行前》

《実行後》

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
挿入位置



あいうえお
かきくけこ
さしすせそ

(2) 行移動

任意の1行を他の行へ移動します。

移動する行を指定してください

移動する行にカーソルを合わせ、キーを押します。

移動先の行を指定してください

移動先の位置にカーソルを合わせ、キーを押します。

★範囲指定中では、範囲内のみで操作可能です。

★繰り返し指定できますので、終わるときはエスケープキーを押してください。

《実行前》

《実行後》

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
移動する行



あいうえお
さしすせそ
かきくけこ
移動先

(3) 文移動

指定した位置に文字列を移動します。複数行に渡って指定できます。

移動する文の先頭を指定してください

移動する文字列の先頭の文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

移動する文の終わりを指定してください

同じく、文字列の最後の文字にカーソルを合わせ、**⇐**キーを押します。

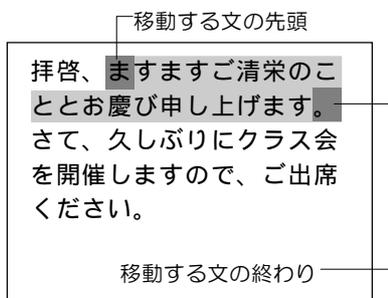
移動先を指定してください

移動する位置にカーソルを合わせ、**⇐**キーを押します。

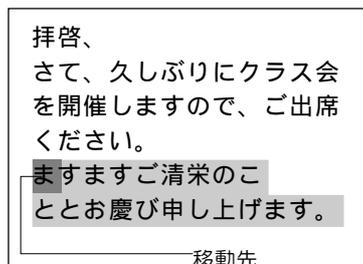
- **⇐**で指定した位置を、文の先頭として移動します。ただし、移動する文の範囲内に移動先を指定することはできません。

繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。

《実行前》



《実行後》



(4) ブロック移動

指定した位置にブロックを移動します。また、文字列を縦・横方向に自由に移動します。

移動するブロックの始点を指定してください

移動するブロックの始점에カーソルを合わせ、**⇐**キーを押します。

移動するブロックの終点を指定してください

同じく、ブロックの終点到カーソルを合わせ、**⇐**キーを押します。

移動先を指定してください

移動する位置にカーソルを合わせ、**⇐**キーを押します。

- **⇐**で指定した位置を、ブロックの先頭として移動します。

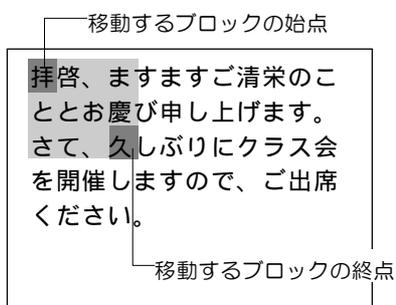
移動先にすでにあるものは、削除されてしまいます。

ブロック移動では、文字やケイ線などのブロック内にあるものすべてを、そのままの形で移動できます。他の範囲内でもブロックの移動先に指定することができます。

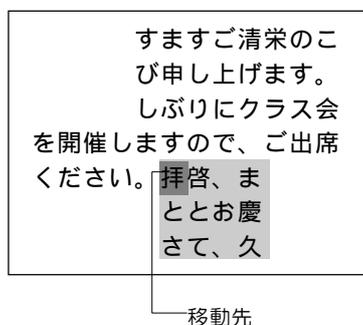
移動元はブロック移動した分だけ空白になります。

繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。

《実行前》



《実行後》



F6 削除

不要な行や文などを削除します。

(1) 行削除

指定した1行すべてを削除します。

削除する行を指定してください

削除する行にカーソルを合わせ、キーを押します。

削除した行より下にあった行は、削除した行数分、上に詰められます。

繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。

カーソル位置の行を削除するのは、**コントロール**+**削除** (**Alt**+**Delete**) キーでもできます。

《実行前》

拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。

削除する行



《実行後》

拝啓、ますますご清栄のことで、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。

(2) 文削除

指定した文を削除します。複数行に渡って指定できます。

削除する文の先頭を指定してください

削除する文字列の先頭の文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

削除する文の終わりを指定してください

同じく、文字列の終わりの文字にカーソルを合わせ、キーを押します。

削除された部分は詰められます。

繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。

《実行前》

削除する文の先頭

拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。

削除する文の終わり



《実行後》

拝啓、さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。

(3) ブロック削除

指定したブロックを削除します。

削除するブロックの始点を指定してください

削除するブロックの始点にカーソルを合わせ、キーを押します。

削除するブロックの終点を指定してください

同じく、ブロックの終点にカーソルを合わせ、キーを押します。

削除された部分は空白となって残ります。
繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。
ケイ線の消去などに使うこともできます。

《実行前》

《実行後》

削除するブロックの始点
拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。
削除するブロックの終点



拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。

F7 複写

行、文、ブロックを複写します。

(1) 行複写

指定した行を指定した位置に複写します。元の行はそのまま残ります。

複写する行を指定してください

複写したい行にカーソルを合わせ、キーを押します。

複写先の行を指定してください

複写する位置にカーソルを合わせ、キーを押します。
● 複写先にすでにある行は、下に送られます。

★繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。

● 行複写によって最下行が消えてしまう場合は、次のようなメッセージが表示されます。

最下行が消えてしまいます

複写するときは、キーを押します。

《実行前》

《実行後》

拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。
複写する行



拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。
複写先の行
ととお慶び申し上げます。

(2) 文複写

指定した位置に文を複写します。元の文はそのまま残ります。

複写する文の先頭を指定してください

複写する文の先頭の文字にカーソルを合わせ、**⇧**キーを押します。
範囲指定中、操作できるのは範囲内のみです。

複写する文の終わりを指定してください

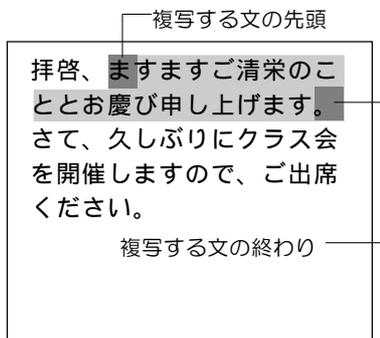
同じく、文の終わりの文字にカーソルを合わせ、**⇧**キーを押します。

複写先を指定してください

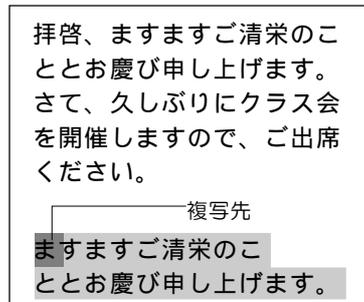
複写する位置にカーソルを合わせ、**⇧**キーを押します。
● 複写先にすでにある文は、下に送られます。
● **⇧**で指定した位置を、文の先頭として複写します。
● 文複写によってページからデータがはみ出してしまう場合は、はみ出したデータは消えてしまいます。

繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。

《実行前》



《実行後》



(3) ブロック複写

指定した位置にブロックを複写します。元のブロックはそのまま残ります。複写先のブロック内の文字などは消えてしまいます。

複写するブロックの始点を指定してください

複写するブロックの始点にカーソルを合わせ、**⇧**キーを押します。

複写するブロックの終点を指定してください

同じく、ブロックの終点にカーソルを合わせ、**⇧**キーを押します。

複写先を指定してください

複写する位置にカーソルを合わせ、**⇧**キーを押します。
複写先にすでにある文字は、複写するブロックの文字に置き換えられます。
● **⇧**で指定した位置を、ブロックの始点として複写します。

繰り返し指定できますので、終わるときは**エスケープ**キーを押してください。

ブロック複写では、文字やケイ線などのブロック内にあるものすべてを、そのままの形で複写できます。
他の範囲内にも、複写先を指定することができます。

《実行前》

複製するブロックの始点

拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、久しぶりにクラス会を開催しますので、ご出席ください。

複製するブロックの終点



《実行後》

拝啓、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、久しぶりにクラス会を、ご清栄のすので、ご出席く上げます。

にクラスで、ご出

複製先

F8 ケイ線・設定

ケイ線を引いたり、裏画面にページを読み込むことができます。

(1) ケイ線モード

キーボードのキーを使ってケイ線が引けます。1文字ずつのケイ線が引けます。

- ケイ線モードでは、画面最下行に [ケイ線モード] と表示されます。

ケイ線モードの表示

[訂正] [] [ケイ線モード]

- 前もって、カーソルの移動方向を指定しておきます。
- ケイ線を引く位置にカーソルを移動し、次のキーを使って1文字ずつケイ線を引いていきます。
 - **-** キーを押すと、横ケイ線が引けます。
 - **+** キーを押すと、縦ケイ線が引けます。
 - ***** キーを押すと、交点とカドが引けます。

横線は、カーソル移動方向が [] または [] の状態で、 **-** キーで引きます。

縦線は、カーソル移動方向が [] または [] の状態で、 **+** キーで引きます。

★ケイ線モードを終えるときは、もう一度プルダウンメニューの“ケイ線モード”を指定するか、マウスで [ケイ線モード] にマウスカーソルを合わせ左クリックします。

★一度引いたケイ線を削除するときは、ブロック削除でケイ線上を指定するか、**⏏** (スペース) キーを押して消します。

(2) ケイ線描画

引こうとするケイ線の両端をカーソルで指定すれば、その間をケイ線で結びます。また、始点・終点を対角位置で指定すると、四角形のケイ線が引けます。マウスおよびキーボードの両方で行えます。

ケイ線の始点を指定してください

ケイ線を引く始점에カーソルを合わせ、**⇐** キーを押します。

ケイ線の終点を指定してください

ケイ線を引く終점에カーソルを合わせ、**⇒** キーを押します。

★繰り返し指定できますので、終わるときは **⏏** (エスケープ) キーを押してください。

(3) 裏画面読込

指定したデータを、裏画面に読み込むことができます。

何ページを読み出しますか：

読み出すページを指定してください（R命令のページ指定と同じです）。

(4) リカバリ

“リカバリ”を選ぶと、“セーブ”で保管したデータを画面に表示し、今まで画面表示中のデータを一時保管します。もう一度、“リカバリ”を行うと、元に戻ります。

(5) セーブ

“セーブ”を選ぶと、画面表示中のデータを一時的に保管することができます。

★範囲を指定している場合は、その範囲を解除して一時保管します。

(6) タブ

タブ (Tab) キーを押したときの、カーソルの移動幅を指定できます。

タブキーでスキップする桁数は：

移動幅（スキップ）の桁数を指定してください。はじめは次のように設定されています。

- 混在モードでは 8 桁（半角 8 文字分）
- 漢字モードでは 4 桁（全角 4 文字分）

(7) 横サイズ変更

ページのサイズを変更できます。

新しい長さは：

変更する桁数を指定してください。

34 桁から 900 桁までです。
ページサイズの表示は変更されません。



Entry by Format (エントリー バイ フォーマット)

デザインページを使って、表にデータを入力する

- デザインページの形式にしたがってデータを入力します。
- 自動的にそのデータをチェック・計算し、表に書き込みます。
- コードを入力して、コード表の中から必要なデータを、表に書き込むこともできます。



- EF 命令は正しい手順で終了してください（後述の「EF 命令の終了方法」をご覧ください）。
[Esc] キーを押して中止すると、入力したデータは書き込まれません。

実行前の確認

- あらかじめデザインページと書き込み先のページを用意しておきます。また、コード入力を行う場合は、コード表の用意も必要です。
- デザインページ、またはコード表のページが混在モードで、書き込みページが漢字モードの場合、EF 命令は実行できません。

類似命令

- DF ... デザインページを使ってデータの検索や変更を行います。

仕事は =



書き込み先頭ページは :

データを書き込む表の、先頭ページ番号を指定します。

- 10 ページの表に書き込む。
- 単独指定が可能です。
- 指定する書き込みページは、あらかじめ作成して書き込んでおいてください（後述の「書き込みページの作り方」をご覧ください）。

デザインページは :

デザインページのある、ページ番号を指定します。

- 50 ページのデザインページを指定する。
- 単独指定が可能です。
- 指定するデザインページは、あらかじめ作成して書き込んでおいてください（後述の「EF デザインページの作り方」をご覧ください）。

【デザインページでコード入力を指定している場合】

コード表のページは :

デザインページにコード入力式が書かれている場合、そのコード表のあるページ番号を指定します。

- 3 ページにあるコード表を使う。
- 3 ページから 5 ページにあるコード表を使う。
- 3 ページから 10 ページにあるコード表を使い、NRC 指定 (コード表を自動的につながない) をする。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
- 指定するコード表は、あらかじめ作成して書き込んでおいてください、NRC 指定については、後述の「コード表使用時の NRC 指定について」をご覧ください。
- デザインページにコード入力式が書かれていない場合、このメッセージは表示されません。

データは :

ブロックカーソルの位置に、データを入力します。

ここで入力したデータは、デザインページの各指定にしたがってチェックされ、条件に合わない場合はブザーが鳴り、ふたたび入力を求めています。

デザインページで P (ポーズ) を指定していない場合、1 画面分のデータを入力し終わると自動的に次の画面が表示され、続けてデータを入力することができます。

【デザインページでP（ポーズ）を指定している場合】

[↵] キーを押してください
(処理を続行します) :

デザインページのコントロール行にP(ポーズ)が指定されている場合、1画面分(書き込む表の1行分)のデータを入力するごとに左のメッセージが表示されます。データを確認して[↵]キーを押してください。データ入力を続けられます。

【EF命令の終了方法】

データ入力を終了して書き込む場合は、デザインページの最初の入力位置で[?] [E] [↵] とキーを押します。

★途中で[エスケープ]キーを押すと、入力したデータはページに書き込まれずに、画面に表示されるだけです。ただし、データ入力中に書き込み用ページの表がいっぱいになったときは、そのページを書き込み、同じフォーマットの表を次のページに作って、ふたたびデータ入力をはじめます。

INFORMATION

- ◆書き込み先のページに、データが入っていた場合は、そのあとから追加入力されます。
- ◆入力するデータ内にコロン(:)やエスケープ(ESC)がある場合、データ全体をダブルコーテーション(")で囲んでください。
- ◆EF命令終了後は、裏画面にデザインページが残ります。
- ◆EF命令でデータを入力する際、画面をデザイン画面から書き込み用の表に切り替えたり、前項目のデータや前のデザイン画面の同一位置のデータをコピーしたり、また、入力済みのデータを修正することもできます(後述「EF命令実行中の特別操作キー」をご覧ください)。

EFデザインページの作り方

F命令でタイトルまで入力してから、[エスケープ]キーを押します。次にED命令を使って下の例のように必要な部分を書き込んでいきます。下記の(1)~(5)の順番で作ってください。

★データフロッピーの79ページに“売上伝票EFデザインページ”が入っています。これを元に、デザインページの作り方を説明します。ここで説明するのは、ほんの1つの例です。あとはこれを参考に、自分の“デザインページ”“書き込みページ”“コード表”を作って、EF命令を活用してください。

(1) コントロール行

[売上伝票 EFデザインページ] 95.04.01 混 L=0050 C=0170
P

商品担当者 D1

売上伝票

販売日 C1 取引先 C2

商品コード C3	品名 C4
個数 C5	単価 C6
金額 C7	

(2) 画面指定部分

(4) 形式指定部分

(5) 条件指定部分

(6) 自動計算指定部分

指定記号

```

*F
C1=NNNN:.....1列目には数字4文字まで
C2=XXXXXX:.....2列目にはどの文字でも6文字まで
C3=NNN:.....3列目には数字3文字まで
C4=PPPPP:.....4列目にはコード入力して5文字まで
C5=NNNNN:.....5列目には数字5文字まで
C6=PPPPP:.....6列目にはコード入力して5文字まで
C7=PPPPPPP:.....7列目には自動計算をして8文字まで
D1=PPPPPPP:.....コード入力をして8文字まで表示

*C
C5#1-L:.....5列目の数字は、1から最大値まで
C6#1-L:.....6列目の数字は、1から最大値まで

*A
CODE [C3, 1, 2] =C4:.....コード表のコードと一致したデータを4列目に書く
CODE [C3, 1, 3] =C6:.....コード表のコードと一致したデータを6列目に書く
CODE [C3, 1, 4] =D1:.....コード表のコードと一致したデータを“D1”部分に表示する。
C5*C6=C7:.....5列目と6列目の値をかけた結果を7列目に書く

```

★デザインページの横の桁数は、74桁以上必要になります。

(1) コントロール行

データを入力する際、画面指定部分でのカーソルの移動方法や一時停止を指定します。ただし、この行は省略可能です。省略すると、次々とデザイン画面にデータを入力し、ブロックカーソルは横に移動します。

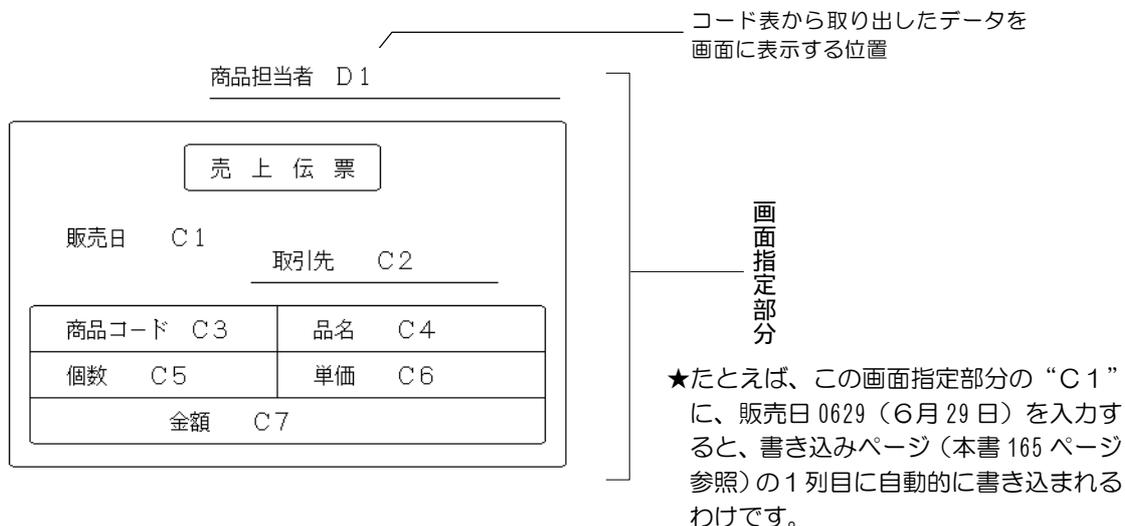


指定方法	意味
P (PAUSE)	1画面のデータを入力したあと、表に書き込む前に一時停止をします。データを確認後、  キーを押すと、表に書き込み、次のデザイン画面に進みます。
PP	複数件入力で、表の1行分のデータを入力したあと、表に書き込む前に一時停止をします。複数件入力以外では、P指定と同様になります。
V (VERTICAL)	デザイン画面でのブロックカーソルは、通常横に移動しますが、これを指定すると縦に移動します。

INFORMATION

- ◆コントロール行は必ず2行目に書いてください。
- ◆コントロール行にはコメントを記述しないでください。
- ◆指定方法に続けて処理行数を書いておくと、指定した行数分のデータを書き込みページに書き込むと、処理を終了します。たとえば、“*P3”と書いておくと、3行分書き込みを行って終了します。

(2) 画面指定部分



画面指定部分では、書き込みページの1列目に入る項目を“C1”、2列目を“C2”といったように記述します。つまり、画面指定部分の“C1”にデータを入力すると自動的に書き込みページの表の1列目に入力されます。

INFORMATION

- ◆“C”は列の意味です。“C1”は1列目を表します。コード入力した結果を、画面に表示するだけの場合は、表示したい場所に、“D1”、“D2”のように“D番号”で指定してください。Dはディスプレイ（表示）の略です。
- ◆“C”と“D”は、合計100個まで指定できます。

年月日	伝票NO	NO	得意先名				
C1	C2	C3	C4				
CODE	品名	GR	数量	単価	金額	原価	粗利益
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12

複数件入力のデザインページ

画面指定部分では、左の例のように、同じ列を複数回指定することができます。ただし、複数行表示の場合、タテ計（合計）はとれません。

★複数件入力の場合、途中で〔文頭〕（F11）キーを押すと、次の入力画面に進むことができます。データ入力中の1行は削除されません。

（3）形式指定部分（*F）

画面指定部分で指定したデータの形式を、ここで決めます。必ず形式指定部分の先頭に“*F”をおいてください。



★たとえば、“C1=NNNN:”は、“C1”に4文字の数字（NNNN）を入れてください、という指定です。

一般形式

〔C列番号〕 = 〔種別記号の並び〕 〔制御記号〕 :

INFORMATION

- ◆列番号は、画面指定部分で指定した列番号と対応させてください。
- ◆制御記号は省略してもかまいません。

種別記号

入力できるデータの種別を指定するのが、種別記号です（下表参照）。X（またはY）、A（またはB）、N（またはM）、Pで、文字数分並べて指定してください。

種別記号	データの指定
X（またはY）	キーボードから入力するすべての文字が入力できます。
A（またはB）	英字と空白のみが入力できます。
N（またはM）	数値を表す文字（0～9、+、-、.、,）が入力できます。
P	“自動計算指定部分”で書き込み先・表示先に指定した個所は、すべて“P”で指定しなければなりません。“P”の部分に自動的に書き込み・表示を行います。

★全角の“X”を指定すると全角文字だけ、半角の“X”を指定すると半角文字だけしか入力できません。ここで“X”のかわりに“Y”を指定すると、全角・半角にかかわらずその長さ分の文字を入力できます。“A”と“B”、“N”と“M”も同様です。

★“X”、“A”、“N”は、混ぜて指定できますが、“P”や“Y”、“B”、“M”は混ぜて指定できません。

《例》C1=ANNN:→O
C2=YYYY:→O
C1=BMMM:→X
C2=XXYY:→X

制御記号

データを入力した後の処理や、コードの手入力を指定する記号です。

制御記号	処理指定
指定しない	 キーを押すと、次のデータの入力に移ります。
/ F	すべての桁数を入力しなければ、  キーを押しても、次のデータ入力へ移ることができません。
/ T	 キーを押さなくても、すべての桁数が入力されると、次のデータ入力へ移ります。
/ M	コード表にないコードを指定した場合、手入力できます。
/ KCON [記号]	キーボードからの入力方式が選べます。 《例》 C1=NNNN/KCON [E] : ←英数入力 C2=XXXXXX/F/KCON [ZRH] : ←全角・ローマ字・ひらがな入力 C3=NNN/KCON [E] : ←英数入力 ※KCONの記号は、カッコ [] で囲みます。

“/F”と“/T”は、種別記号“P”の後ろへは付けられません。また、“/M”は、種別記号“P”の後ろへしか付けられません。

“/M”を指定してコード表にないコードを入力すると、“コード表に登録されていません(↓または→…データを手入力、…処理を続行)”のメッセージが表示されます。 キーまたは キーで、コードに対応した各項目に手入力してデータを入れることができます。コード表が一致した場合は、コード表のデータが書き込まれます。 キーを押すと、新しいコード番号だけを入力して、次の処理へ進みます。

“/KCON”の制御記号は、Windowsの日本語入力システムに「日本語自動変換システム」もしくは「連文節変換プログラム」をお使いの場合のみ指定することができます。

“/KCON [記号]”の記号(設定記号)は、下の表のようになります。()内は「連文節変換プログラム」の場合です。なお、記号は複数指定することができますが、各グループからはひとつしか指定できません。

グループ	記号	内容
1	S	標準入力モード
	A	半角入力モード(漢字モード・半角)
	Z	漢字入力モード(漢字モード・全角)
2	R	ローマ字入力
	D	直接入力(かな入力)
3	E	英数モード(英数)
	K	カタカナモード(カタカナ)
	H	ひらがなモード(ひらがな)

(4) 条件指定部分 (*C)

条件指定部分では、各所に入力できるデータの範囲を指定します。この条件にしたがって、入力データはチェックされ、条件に合わないものは除外されます。必ず先頭の行に“*C”をおいてください。

```
*C
C 5 # 1 - L :
C 6 # 1 - L :
```

条件指定部分

★これは、“C5”と“C6”に“0”と“マイナス”のデータが入らないようにしたものです。

指定方法	例
列挙指定 指定したデータを選ぶ C列番号=データ C列番号=データ, データ, データ データは20個まで指定できます。	C 1 = 15 (1列目に入力できるデータは15だけです) C 1 = 0, 10, 20 (1列目に入力できるデータは0と10と20だけです)
範囲指定 指定した範囲内のデータを選ぶ C列番号#下限-上限 C列番号#下限-上限, 下限-上限 範囲は10組まで指定できます。 最小値をS、最大値をLで表します。	C 2 # 1 - 99 (2列目に入力できるデータは1以上99以下のものです) C 3 # 1 - 10, 100-200 (3列目に入力できるデータは1以上10以下、または100以上200以下のものです) C 4 # S - 50 (4列目に入力できるデータは50以下のものです)
大小指定 指定したデータの大小を比較して選ぶ <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">C列番号</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">比較演算子</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">データ</div> 比較演算子 > より大きい < より小さい > = 以上 < = 以下	C 3 > 100 (3列目には100を超える数値しか入力できません) C 4 < = 1000 (4列目には1000以下の数値しか入力できません)
NOT指定 指定したデータ以外のものを選ぶ C列番号 < > データ	C 4 < > 0 (4列目には0は入力できません)

(5) 自動計算指定部分 (*A)

入力したデータを計算し、その結果を書き込む場合や、コード入力してコード表から必要なものを書き込む場合、それぞれの式を指定してください。形式指定部分で自動挿入の列を指定(P)した場合は、必ずここで式を指定しなければなりません。先頭の行には“*A”をおいてください。

```
*A
CODE [ C 3 , 1 , 2 ] = C 4 :
CODE [ C 3 , 1 , 3 ] = C 6 :
CODE [ C 3 , 1 , 4 ] = D 1 :
C 5 * C 6 = C 7 :
```

自動計算指定部分

ここでは、DR命令で小数点以下の指定が可能です。小数点以下2桁までを求め、次の桁を切り捨てる場合は、“DR : 2 : 2 :”と指定します。

一般計算式

計算式はC命令と同じ書き方ですが、行、マトリックス、ワークエリアに関する式は使用できません。

《例》1列目2列目の合計を3列目に入れる場合、形式指定部分で“C 3 = P P P P P :”と指定し、自動計算指定部分で“C 1 + C 2 = C 3 :”と指定します。

コード入力式

一般式

$$\text{CODE} [\text{C列番号}, \text{コード列番号}, \text{データ列番号}] = \left\{ \begin{array}{l} \text{C列番号} \\ \text{D番号} \end{array} \right\} :$$

データを入れる場所（表または画面）

コード表のページから取り出すデータの列番号

コード表のページのコードの列番号

作成する表のコードを入れる列番号

作成する表のコードの列番号を指定すると、コード表のページからデータを取り出し、表の中に書き込んだり、デザイン画面に表示したりします。表の中に書き込むときは“=”の後ろにC列番号を、デザイン画面に表示するだけのときはD番号を付けてください。

★自動計算指定部分で演算結果を画面に表示する“D番号”の指定はできません。

《例》C1+C2=D1： →×

【コード表のコードが多い場合】

コード表のコードが多い場合は、“S指定”を使うと、処理の速度が速くなります。あらかじめ、コード表をS命令で並べかえておいてから、次のように指定してください。ソートの種類は、必ずコード表をS命令で並べかえるときに指定したソートの種類と同じものを入れてください。

$$\text{CODE} [\text{C列番号}, \text{コード列番号}, \text{データ列番号}, \text{Sソートの種類}] = \left\{ \begin{array}{l} \text{C列番号} \\ \text{D番号} \end{array} \right\} :$$

“1”か“3”を選択
1…文字正順
3…数字の小さい順

★“S指定”を行うときは、“コード列番号”の桁数を半角12文字以内にしてください。

★コード表のページが、インデックス型ファイルの場合は、S指定を優先します。

【コード表使用時のNRC指定について】

NRC（ノーリードチェイニング）指定とは、DF命令実行時にコード表を自動的につながないという指定です。

複数ページをコード表に指定した場合、NRC指定を付けないと、コード表は自動的につなぐれ（RC命令でページをつないだ状態）参照画面に読み出されます。

NRC指定を付けておくと、コード表を1ページずつ参照画面に読み出しますので、コード表のページが大量の場合は、EF命令を実行してから入力状態になるまでの時間が早くなります。

EF命令でNRC指定するには、コード表のページ番号を指定するときに表示される“コード表のページは：”のメッセージで、次のように入力します。

5-10, NRC⊕（5ページから10ページまでをコード表とする場合）

INFORMATION

- ◆列を指定する場合、表の中に存在しない列は指定できません。
- ◆形式指定部分や条件指定部分、自動計算指定部分はページのどこにおいてもかまいませんが、必ず、画面指定部分の後でなければなりません。
- ◆指定部分の始まりに書く指定記号は、必ず、行の先頭に書いてください。また、大文字1文字でも、単語をそのまま書いてもかまいません。

* F を *FORMAT

* C を *CONDITION

* A を *AUTO

- ◆形式指定部分や条件指定部分、自動計算指定部分の各式の最後には、必ず“:”を付けてください。
- ◆作成したデザインページなどは、必ず、W命令で書き込んでください。
- ◆デザインページはコントロール行、画面指定部分、形式指定部分、条件指定部分、自動計算指定部分の5つに分けられますが、コントロール行と条件指定部分、自動計算指定部分はなくともEF命令を行えます。
- ◆データ入力中は、画面上部の1行に“書込ページ”（現在データを書き込んでいるページ数）、“最大書込行”（ページ内に書き込むことのできる行数）、“現在書込行”（現在データを書き込んでいる行数）が表示されます。
- ◆自動計算指定部分のコード入力式の最大指定数は、次のとおりです。

“S指定”を行わない…最大100個まで

“S指定”を行う……………コード列番数×コードページ数≤100

||

（同じ列をまとめて1つと数える）

書き込みページの作り方

F命令で表を作り、項目行まで入力して(エスケープ)キーを押します。

★作成した書き込みページは、W命令で必ず書き込んでください。

81	1	2	3	4	5	6	7
1	[請求書]				95.04.01	混	L=0094 C=0170
2	F=8,12,8,10,10,16,16						
3							
4	月日	取引先	コード	品名	個数	単価	金額
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
	仕事は=						

書き込みページには、デザインページで入力されたデータや、コード入力されたデータ、計算されたデータを自動的に書き込みます。データが多くなると、はじめに作った書き込みページの後ろに、次々とページを増やします。書き込みページの後ろには、デザインページなど、必要なデータは入れないようにしてください。

★書き込み先にV型ファイルを指定すると、V型ファイルの最終ページの後ろからデータを書き込みます。

コード表の作り方

F 命令で作成します。

★作成したコード表は、W命令で必ず書き込んでください。

商品コード	商品名	単価	商品担当者
101	インク	300	1課 鈴木 慶
102	印刷用紙	1200	1課 鈴木 慶
103	コピー用紙	2800	1課 鈴木 慶
110	ボールペン	1800	2課 山田一郎
115	鉛筆	600	2課 山田一郎
118	消しゴム	100	2課 山田一郎
120	修正液	2500	2課 山田一郎
123	ナイフ	2400	3課 遠藤 誠
124	はさみ	1600	3課 遠藤 誠
125	ボンド	2400	3課 遠藤 誠
126	定規	350	3課 遠藤 誠

データフロッピーの 80 ページに“コード表”が入っています。R 命令で読み出すことができます。

コードを入力するだけでコード表のデータをデザインページに表示したり、書き込みページに入力することができます。

コード式で S 指定を使うときは、コードの列を S 命令で並べかえておきます。並べかえの種類は、“1…文字正順” “3…数字小さい順”のみです。

E F 命令実行中の特別操作キー

E F 命令を実行中に下記のキーを操作すると、それぞれ特別な処理を行います。データ入力するときや修正するときに、下記のキーやデータを入力してください。

キー操作	役割
¥	前のデザイン画面の同じ位置（1行前の同じ項目）にあるデータをコピーします。
@	デザイン画面の1つ前の項目にあるデータをコピーします。
? N	デザイン画面の最初の入力位置で入れると、今まで入力したデータをいったん書き込み、あらためて書き込み用の次のページに入力を始めることができます。
? E	デザイン画面の最初の入力位置で入れると、今作成中の表を書き込み、E F 命令を終了します。
エスケープ	処理を途中でやめます。作成中の表は書き込みません。
(ALT) + (ホーム) ((Alt) + (Home))	画面の表示をデザインページから、書き込み用の表の画面に切り替えます。
(文頭) (F 11)	複数件入力するとき、次の画面の入力位置に進みます。
(バックタブ) ((Shift) + (Tab))	デザイン画面のブロックカーソル位置のデータを“データは：”の位置に呼び戻します。
(↑) または (←)	画面のブロックカーソルを前の項目に移します。
(↓) または (→)	画面のブロックカーソルを後ろの項目に移します。ただし、まだ入力していない所には進めません。
(↵)	(↵) キーのみを押すと、数値項目には 0 が、文字の項目には空白が入ります。
(ALT) + (↑) ((Alt) + (F 5))	表の 1 行前の行に戻ります。このキーを押すと、画面最上行に“修正行：”と表示され、現在表示中の表の行番号を表示します。
(ALT) + (↓) ((Alt) + (Ctrl)) + (F 6)	表の次の行に移ります。ただし、まだ入力されていない行には進めません。
(ALT) + (←) ((Alt) + (F 7))	複数件入力時に、1つ前のデザイン画面に戻ります。
(ALT) + (→) ((Alt) + (F 8))	複数件入力時に、次のデザイン画面に移ります。ただし、まだ入力されていない行には進めません。

例題

28 ページ「売上帳」を書き込みページ、25 ページ「売上帳入力デザインページ」をデザインページ、26 ページ「得意先台帳」、27 ページ「商品台帳」をコード表とし、E F 命令でデータを入力します。

E F 図

- 28 図 28 ページのデータページから書き込む。
- 25 図 25 ページのデザインページを指定する。
- 26, 27 図 26, 27 ページのコード表を指定する。
- 950403 図 年月日 (950403) を入力する。
- 10001 図 伝票 NO を入力する。
- 107 図 得意先 NO を入力する (得意先名がコード入力されます)。
- 1001 図 商品コードを入力する (品名、GR (グループ)、単価、原価がコード入力されます)。
- 20 図 数量を入力する (金額、粗利益が自動計算されて入力されます)。
- 1005 : 20 図 同様にもう一つの商品データを入力する。
- ? E 図 E F 入力を終了する。

E F 命令実行中の画面

25 書込ページ: 28 最大書込行: 77 現在書込行: 6
 [売上帳入力デザイン] 95.04.01 混 L=0050 C=0170

年月日	伝票NO	NO	得意先名				
950406	10001	107	(株)神崎建設				
CODE	品名	GR	数量	単価	金額	原価	粗利益
■■■■■	PPPPPPPP	P	NNNNN	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP
NNNN	PPPPPPPP	P	NNNNN	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP
NNNN	PPPPPPPP	P	NNNNN	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP
NNNN	PPPPPPPP	P	NNNNN	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP
NNNN	PPPPPPPP	P	NNNNN	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP
NNNN	PPPPPPPP	P	NNNNN	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP
NNNN	PPPPPPPP	P	NNNNN	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP	PPPPPP	PPPPPPPPPPPP

データは: 1001

実行後の 28 ページ (書き込みページ)

28 [売上帳] 95.04.01 混 L=0078 C=0100
 F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12

年月日伝票NO NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額
950406 10001 107	(株)神崎建設	1001	A4用紙 A	A	20	580	11600
950406 10001 107	(株)神崎建設	1005	A4用紙 A	A	20	800	16000

仕事は=

デザインページとする「売上帳入力デザイン」(25 ページ)

25 [売上帳入力デザイン] 95.04.01 混 L=0050 C=0170

年月日	伝票NO	NO	得意先名				
C1	C2	C3	C4				
CODE	品名	GR	数量	単価	金額	原価	粗利益
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12
C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12

仕事は=

コード表とする「得意先台帳」(26 ページ)

26 [得意先台帳] 95.04.01 混 L=0036 C=0260
 F=3,15,16,11,11,6,30,12,14,14,8,5,12,12,12

NO	会社名	所属	役職	氏名	〒
101	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150 東京
102	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107 東京都目
103	沢742001	開発部	係長	海野 広子	150 東京都渋
104	沢742001	技術支援部		川原 泉	150 東京都渋
105	伊藤マシ心(株)	営業部営業一課	課長	江口 かな	106 東京
106	伊藤マシ心(株)	マシ心部		猫柳 史子	106 東京
107	(株)神崎建設	住宅建築部	課長	安森 真美	160 東京都
108	(株)神崎建設	心材開発部	部長	佐藤 睦代	160 東京都
109	(株)イースト	マーケティング部	課長	中田 高次	150 東京都
110	(株)イースト	営業部	主任	桃井 宏一	150 東京都
111	東京設備工(株)	営業部二課		細木 泰司	133 東京都江戸
112	鈴木工務店	システム営業部		堀江 明	107 東京
113	(株)新坂興行	営業部	係長	安達 美樹	272 千葉
114	(株)TO商會	業務部	主任	豊田 秀雄	106 東京
115	中原電機(株)	総務部	権名	元男	242 神奈川県大
116	(株)全日本出版	経理部	主任	元井 蘭子	182 東京都

仕事は=

コード表とする「商品台帳」(27 ページ)

27 [商品台帳] 95.04.01 混 L=0050 C=0170
 F=4,12,2,6,6,10,10,10,10,10

CODE	品名	GR	単価	原価	前月在庫	在庫金額	当月入庫	当月出庫	当月
1001	A4用紙 A	A	580	440	405	178200			
1002	A3用紙 A	A	620	480	390	148200			
1003	B5用紙 A	A	480	340	2850	256500			
1004	B4用紙 A	A	600	460	1790	196800			
1005	A4用紙 A	A	380	270	900	243000			
1006	ファイル A	A	800	600	200	120000			
1007	書類ケース	A	1200	900	185	168500			
1008	情報カード	A	300	230	530	121900			
1009	手帳	A	600	450	200	90000			
1010	透明マシット	A	500	380	250	95000			
1011	ブックペーパー	A	600	450	205	92250			
1012	両面テープ	B	250	190	1240	235800			
1013	両面テープ	B	800	600	515	309000			
1014	ナイフ	C	300	230	55	12650			
1015	鉛筆削り	C	1100	830	230	190900			
1016	はさみ	C	500	380	440	167200			

仕事は=

行方向にデータを入力する

- 表の指定した行に、行方向でデータを入力します。

類似命令

- E表にデータを追加します。
- E C ...列方向にデータを入力します。
- E R ...指定した範囲のセルにデータを入力します。

仕事は =



何行目から入れますか :

データ入力始める、行の番号を指定します。

- 10 行目から入れる。
- データ行の先頭からデータを入れる。
単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。



データは :

データを入力します。データを入力し終わったら、**エスケープ** キーを押します。

INFORMATION

- ◆ ケイ線を無視して、次々とデータを入れることができます。
- ◆ データは、**右矢印** キーを押すと、右づめで入力されます。
タブ (**Tab**) キーを押すと、左づめで入力されます。
- ◆ **@** キーや **¥** キーを使うと、前の列または前の行と同じデータを入力することができます。
- ◆ データを入力できるのは、指定可能行数内だけです。
- ◆ すでに入力したデータの修正は、**上** **下** **左** **右** キーでブロックカーソルを移動させて行います。
- ◆ 表の左端にブロックカーソルがある状態で **左** キーを押すと、ブロックカーソルは前の行の行末に移動します。また、表の右端にブロックカーソルがある状態で **右** キーを押すと、ブロックカーソルは次の行の行頭に移動します。
- ◆ データの一部だけを修正する場合は、**バックタブ** (**Shift** + **Tab**) を押した後、**左**、**右**、**ホーム** (**Home**)、**挿入** (**Insert**)、**削除** (**Delete**)、**後退** (**Back space**) キーで行ってください。
- ◆ 入力するデータ内にコロン (:)、エスケープ (ESC) がある場合は、データ全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。
- ◆ **コントロール** + **X** (**Ctrl** + **X**) キーを押すと、ブロックカーソルのある列の桁数が 1 桁ずつ広がります。
- ◆ **コントロール** + **A** (**Ctrl** + **A**) キーを押すと、空白行が 1 行挿入されます。

END

End (エンド)

マイツールを終了する

- マイツールを終了します。
- マイツールを終了しても画面の内容は消去されず、次回起動時に表示されます。

類似命令

- ENDW...Windowsを終了します。

仕事は =



INFORMATION

◆マイツールを終了すると、保存されるものと消されてしまうものがあるので気をつけてください。

保存されるもの

- 画面、裏画面、参照画面、
- SET・PSET・TSET・SETC・DR命令で変更した内容。
- CMD・FKS・PRT・PRO・SHT命令で登録した内容。
- LPSET命令で変更した1～4番の内容

消されるもの

- グラフ画面、ロギング、ワークエリアの内容。
- SVL・SVC・SVP命令で保存した内容。
- SETM命令で指定した内容。
- LPSET命令で変更した6～8番の内容。

ENDW

End Windows (エンド ウィンドウズ)

Windowsを終了する

- マイツールを終了させた後、続けてWindowsを終了させます。

実行前の確認

- Windows2000 では実行しても処理されません。

類似命令

- END...マイツールを終了します。

仕事は =



マイツールを終了すると同時に Windows も終了します。

【マイツール以外のアプリケーションが起動している場合】

他のアプリケーションで作成中のデータがある場合、マイツールを終了する前にそのアプリケーション側のダイアログボックスが表示され、確認のメッセージが表示される場合があります。それぞれのアプリケーションの操作にしたがってください。

INFORMATION

- ◆マイツールを終了すると、保存されるものと消されてしまうものがあるので気をつけてください。

保存されるもの

- 画面、裏画面、参照画面、
- SET・PSET・TSET・SETC・DR命令で変更した内容。
- CMD・FKS・PRT・PRO・SHT命令で登録した内容。
- LPSET命令で変更した1～4番の内容

消されるもの

- グラフ画面、ロギング、ワークエリアの内容。
- SVL・SVC・SVP命令で保存した内容。
- SETM命令で指定した内容。
- LPSET命令で変更した6～8番の内容。

指定したセルにデータを入力する

- 表の中のひとつのセルを指定して、データを入力します。

実行前の確認

- E P 命令は、指定したひとつのセルにデータを入力するのみで終了します。

類似命令

- E R...指定した範囲のセルにデータを入力する。

仕事は =



何行目に入れますか :

データを入力するセルの、行番号を指定します。

- 6 行目を指定する。
単独、H・T 指定、条件式指定、¥ 指定が可能です。



何列目に入れますか :

データを入力するセルの、列番号を指定します。

- 4 列目を指定する。
単独、H・T 指定、条件式指定、@ 指定が可能です。



データは :

データを入力します。

INFORMATION

- ◆ 指定セル内にデータを入れ終わると、“仕事は=”の状態に戻ります。入力を途中で中止するときは、**エスケープ**キーを押してください。
- ◆ データは、**Enter**キーを押すと、右つめで入力されます。**Tab** (**Tab**) キーを押すと、左つめで入力されます。
- ◆ **@** キーや **¥** キーを使うと、前の列または前の行と同じデータを入力することができます。
- ◆ すでに入力したデータの修正は、**Up** **Down** **Left** **Right** キーでブロックカーソルを移動させて行います。
- ◆ 入力するデータ内にコロン (:)、エスケープ (ESC) がある場合は、データ全体をダブルコーテーション (") で囲んでください。

- ◆ データの一部分だけを修正する場合は、**バックタブ** (**Shift** + **Tab**) を押した後、**Left**、**Right**、**Home** (**Home**)、**挿入** (**Insert**)、**削除** (**Delete**)、**後退** (**Back space**) キーで行ってください。
- ◆ **コントロール** + **X** (**Ctrl** + **X**) キーを押すと、ブロックカーソルのある列の桁数が 1 桁ずつ広がります。
- ◆ **コントロール** + **A** (**Ctrl** + **A**) キーを押すと、空白行が 1 行挿入されます。ただし、指定した範囲の最下行のデータが消えてしまったり、横ケイ線がずれることがありますので、ご注意ください。

指定した範囲のセルにデータを入れる

- 表の行と列の範囲を指定して、その範囲内のセルにデータを入力します。

類似命令

- E表にデータを追加します。
- E L ...行方向にデータを入力します。
- E C ...列方向にデータを入力します。

仕事は =



何行目に入れますか：

データを入力する行の範囲を指定します。

- 10 行目から 18 行目までにデータを入れる。
- データ行すべて。 (または)
単独、連続、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。
行の範囲は“—”を使って指定してください。“，”は使えません。

何列目に入れますか：

データを入力する列の範囲を指定します。

- すでに指定した行の中で、2 列目と 3 列目だけにデータを入れる。
- 列すべてにデータを入れる。 (または)
単独、連続、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
列の範囲は“—”を使って指定してください。“，”は使えません。

データは：

データを入力します。すでに入力されているデータを変更しない場合は、キーを押してください。

INFORMATION

- ◆ 指定した範囲内にだけ、ケイ線を無視して、次々とデータを入れることができます。
- ◆ 指定範囲内にデータを入れ終わると、“仕事は=”の状態に戻ります。入力を途中で中止するときは、キーを押してください。
- ◆ 複数の行列指定は、ハイフン(—)を使って連続指定で行ってください。カンマ(,)を使った複数指定は行えません。
- ◆ データは、キーを押すと、右づめで入力されます。
 () キーを押すと、左づめで入力されます。
- ◆ キーやキーを使うと、前の列または前の行と同じデータを入力することができます。
- ◆ すでに入力したデータの修正は、 キーでブロックカーソルを移動させて行います。
- ◆ 入力するデータ内にコロン(:)、エスケープ(ESC)がある場合は、データ全体をダブルコーテーション(")で囲んでください。
- ◆ 指定範囲の左端にブロックカーソルがある状態でキーを押すと、ブロックカーソルは指定範囲の前の行の右端に移動します。また、指定範囲の右端にブロックカーソルがある状態でキーを押すと、ブロックカーソルは指定範囲の次行の左端に移動します。
- ◆ データの一部だけを修正する場合は、 (+)を押した後、、、 ()、 ()、 ()、 ()キーで行ってください。
- ◆ + (+)キーを押すと、ブロックカーソルのある列の桁数が1桁ずつ広がります。
- ◆ + (+)キーを押すと、空白行が1行挿入されます。ただし、指定した範囲の最下行のデータが消えてしまったり、横ケイ線がずれることがありますので、ご注意ください。

- 新しく表を作成します。

実行前の確認

- F 命令を実行すると、画面に表示されている内容は消去されます。
- 作成されるページのモードやページサイズは、S E T 命令での設定値になります。
- 漢字モードで作成した表では、半角文字の入力はできません。

類似命令

- F S ...用紙サイズに合わせて表を作ります。

仕事は =



表題を付けてください:

新しく作る表にタイトル(表題)を付けます。表題は全角文字で15字、半角文字では30字以内に入れてください。

- “売上”とタイトルをつける
- とりあえず“ ”とタイトルをつける



今0列設定 あと残りは170桁です

1列目の桁数は
(0~100, [終了 ↵]) :

この画面は混在モードの場合です。新しい表に必要な列の桁数を、繰り返し指定します。指定が終わったら、キーを押します。1回の桁数指定は、漢字モードでは150桁、混在モードでは300桁以内で行います。

- 4桁、8桁、8桁の列で新しい表を作る。

(または、)

- 8桁の列を5列作る。

- 20桁内で5列作る。

このとき、桁数を指定せずにキーを押すと、自動的に下記のような桁数の表を作ります。

F 命令で作る表のモードは、S E T 命令の1番の設定によって変わります。

マウスの左のボタンで桁数指定を行うことができます。

のみの指定で作られる表

設定が漢字モードの状態ではキーを押すと、全角文字で10桁、8桁、8桁、8桁の表を自動的に作ります。設定が混在モードの状態ではキーを押すと、半角文字で14桁、12桁、12桁、12桁、12桁、12桁の表を自動的に作ります。

- ★自動的に表を作るとき、S E T 命令で指定した1行の長さが74桁未満(漢字モードの場合は、68桁未満)の場合、その長さに合わせて列数を調整します。

項目名は:

順番に各列の項目名を入れてください。

- 1列目に“A”、2列目に“B”、3列目に“C”と、項目名を入れる。

項目名を入れ終わると、続けてデータを入れることができます。

データは:

データを入力します。データを入力し終わったら、キーを押します。

INFORMATION

- ◆桁数の指定中は、現在の列数と残りの桁数が表示されます。
最大 300 列まで作ることができます。
- ◆ページの 1 行の長さを越えたフォーマット行は、作ることができません。
- ◆**@**キーや**¥**キーを使うと、前の列または前の行と同じデータを続けて入力することができます。

例題

新しく「住所録」を作成します。

ここでは混在モードで表を作ります。漢字モードになっている場合は、はじめに **S E T** **1** **1** **1** **エスケープ** で新しく作る表を混在モードに設定します。

F **1**

住所録 **1**.....表題を「住所録」と付ける。

12 **6** **40** **14** **14**.....表の列を 12 桁、6 桁、40 桁、14 桁にする。

氏名 **1** **1** **1** **1** **1**.....それぞれの列に項目名を入れる。

奥田 憲二 **1**.....データを入力する。

エスケープ.....データ入力が終わったら**エスケープ**。

F 命令実行後に作られる表

0	1	2	3	4	...
1	[[住所録]		95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=12,6,40,14				
3					
4	氏名	〒		住所	電話番号
5					
6	奥田 憲二	108		東京都港区三田5-6-109	03-9999-0000
7	浅田 明雄	106		東京都港区麻布台11-66-198	03-9999-1111
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					

仕事は=

ファイルの作成や変更などを行う

- 主にハードディスク内のマイツールデータファイルの作成や変更など、マイツールデータファイル全体を管理します。

類似命令

- F I L E X...ページファイルを作成したり変更します。
- T Fファイル一覧を画面に表示します。

仕事は =



ファイル一覧とメッセージボックスが表示されます。メッセージボックスの中から、どの処理を行うのか番号で選択します。

F I L E 命令を終了するときは **[エスケープ]** キーを押します。

- ★新しくファイルを作成する場合、空きエリアがないときは、他のファイルのページ数を“2..ページ数変更”などで小さくし、必要なエリアを確保してください。

1 ファイル作成

新しく作るファイルの名前は :

データファイルにつける名前を入力します。

- “ G E T U J I ” という名前をつける。
- “ 山田 ” という名前をつける。



ファイル名は、2文字以上、10文字以内の全角文字でつけてください。先頭の2文字は、英字・ひらがな・漢字（3文字目以降には数字も可）でつけます。特殊文字は入力できません。

ドライブ ディレクトリ
C C : M Y F I L E

現在登録してあるドライブとディレクトリ名が表示されます。ファイルをどのドライブに作るか、指定します。

ドライブは :

- ハードディスク(ドライブC)に作る。



型は[固定 F , 可変 V] :

ファイルの長さを固定するか可変にするかを指定します。

- 固定ファイルを作る。
- 可変ファイルを作る。



固定ファイルは、作成時に指定した一定のページ数しか入らないようにします。可変ファイルは、作成時にページ数を指定せず、データ作成時に自動的にページが増えたり減ったりします。

【固定を選んだ場合】

指定可能ページ数は です

ページ数は：

必要なページ数を入力します。

- 100 ページのファイルを作る。

指定可能ページが画面に表示されます。指定可能ページを超える指定はできません。

ページ数が不足しているときは、不要なデータファイルを消すか、他のファイルのページ数を少なくしてください。

“可変・V” を選ぶとこのメッセージは表示されません。

備考があれば入れてください：

備考をつけたい場合、備考を入力します。

- “月次集計ファイル” と備考を入れる。

- 備考を入れない。

半角 20 文字以内、または全角 10 文字以内でつけます。

INFORMATION

◆ 可変（V型）ファイルの場合、作成時のページは0ページと表示されます。

◆ ファイルの作成数の上限は 100 個程度にしてください。101 個以上作られた場合、動作は保証されません。

2 ページ数変更

ハードディスク内に一度設定した、ファイルのページ数の変更はここでを行います。

ハードディスク内のMファイルは1ページ以上、Sファイルは25ページ以上必要です。それ未満の指定はできません。

ページ数を変更する
ファイルの名前は：

ページ数を変更するファイルのファイル名を指定してください。

- マイツールのMファイル（マスターファイル）のデータページを指定する。

- “売上1” というデータファイルを指定する。

ファイルのページ数を変更できるのは、ハードディスクのF型（固定）ファイルのみです。

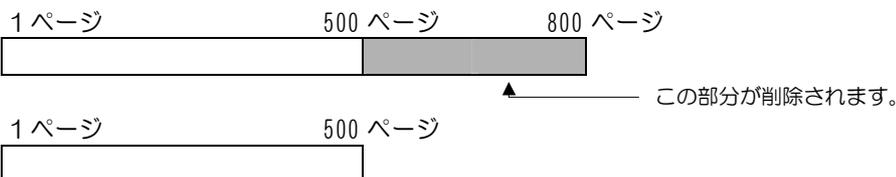
指定可能ページ数は です

新しいページ数は：

何ページのファイルに変更するのか、ページ数を指定します。

- 500 ページに変更する。

前のページ数より変更後のページ数が少なくなる場合には、必要なデータ部分が削られないことを確認してください。なお、削られるページに PRT 命令でプロテクトがかけられている場合は、変更できません。



たとえば、800 ページのファイルを 500 ページに変更する場合、501～800 ページの間に入っているデータ（図の指定部分）は、削られてしまいます。

このように、ページの最後から削除、あるいはページの最後に追加してページ数の変更を行います。データのバックアップを必ず確認してから、行ってください。

3 変更

変更するファイルの名前は：

名前を変更するファイルのファイル名を指定します。

- “売上1”というファイルを指定する。 売上1 
Mファイル・Sファイルの名前は変更できません。また、フロッピーファイル（ドライブA～E）は、ファイル名とドライブ名を変更できません。

ファイル名を変更する場合は入れてください：

新しいファイル名を指定します。

- “売上2”に変更する。 売上2 
- 変更しない。 

【フロッピーファイルの名前を変更した場合】

ドライブを変更する場合は入れてください（A～E）：

ドライブ名を変更する場合は、ドライブを指定してください。

- ドライブ名を“D”に変更する。 D 
すでに登録してあるドライブ名は指定できません。
ファイル名とドライブ名は、同じものを指定してください。

【ハードディスクファイルの名前を変更した場合】

備考を変更する場合は入れてください：

備考を変更する場合は、備考を入力してください。

- “新しい備考”に変更する。 新しい備考 
- 変更しない。 

4 クリア

内容を空白にするファイルの名前は：

内容を空白にするファイルのファイル名を指定します。

- “売上1”を指定する。 売上1 
この操作を行うと、データが消えてしまいます。注意してください。
ハードディスクのファイルのみ指定できます。ただし、Mファイル・Sファイルは指定できません。実行後は、F型は空白ページ、V型はOページになります。
F型の場合、ファイル内に1ページでもPRT命令でプロテクトがかかっていると、そのファイルは処理できません。

5 削除

削除するファイルの名前は：

削除するファイルのファイル名を指定します。

- “売上1”を指定する。 売上1 
ハードディスクのファイルのみ指定できます。ただし、Mファイル・Sファイルは指定できません。
CHF命令で現在のファイルに設定されているファイルは、消すことができません。
F型の場合、ファイル内に1ページでもPRT命令でプロテクトがかかっていると、そのファイルは処理できません。
この操作を行うと、データが消えてしまいます。注意してください。

6 プロテクト



プロテクトするファイルの名前は
(V型のみ) :

プロテクトをかけるファイルのファイル名を指定します。

- “売上1”を指定する。  売上1 
- V型ファイルのみプロテクトの指定ができます。
指定したファイルにすでにプロテクトがかけられていると、“旧キーワードは”のメッセージが表示されます。旧キーワードを入力してください。

書き込み禁止 1 ,
読み書き禁止 2 ,

プロテクトの種類を指定します。

- 書き込み禁止だけのプロテクトをかける。 
 - 読み出し・書き込み禁止のプロテクトをかける。 
- “1”を指定すると@マーク、“2”を指定すると#マークがキーワード欄に表示されます。
“1”を指定すると、読み出すときにキーワードはいりません。

プロテクトの種類は :

キーワードは :

キーワードを指定します。

- “ABC” とつける。   
- 

INFORMATION

- ◆ キーワードは全角4文字、半角8文字以内でスペース以外のどの文字でも使えます。
- ◆ キーワードを忘れると、そのファイルを操作することができなくなります。キーワードは控えをとっておきましょう。キーワードの文字列内にコロン(:)やエスケープ(ESC)がある場合は、キーワード全体をダブルコーテーション(")で囲んでください。
- ◆ プロテクトをはずしたい場合 プロテクトをはずしたいファイル名を指定し、旧キーワードを入力します。“キーワードは:”に対して  キーを押すと、プロテクトは解除されます。

7 プリント



“7 プリント”を選択すると、画面に表示されているファイル一覧が印刷されます。

8 ドライブ登録等



1 ドライブ登録
2 登録内容変更
3 ドライブ削除

ドライブに対して行う処理を、番号で選択します。

- ドライブを登録する。 
 - 登録されている内容を変更する。 
 - ドライブを削除する。 
- 1~3の番号を選ぶと、現在登録されているドライブが表示されます。

処理は(1~3) :

【ドライブ登録を選択した場合】

登録するドライブ名は :

新しく登録するドライブ(D~Z)を指定します。

- “H”を指定する。 

ディレクトリ名は :

ディレクトリ名を指定します。

- ディレクトリ名を指定する。  ディレクトリ名 

INFORMATION

- ◆ディレクトリ名の指定では、マイツールデータのファイルのあるディレクトリを指定します。ご自分で作成したディレクトリ名も指定することができます。
- ◆ディレクトリ名を指定するときは、システムの制限に準拠して行います。
- ◆実際のディレクトリは作成しません。システムの状態で作成してください。

【登録内容変更を選択した場合】

変更するドライブ名は：

変更するドライブのドライブ名を指定します。

- “ H ” を指定する。



使用区分は[未使用 0, 使用 1, 共有使用 2]：

未使用にするか、使用するかを指定し番号で選択します。

- 未使用にする。



- 使用にする。



“使用・1”と“共有使用・2”は同じ機能を行います。

INFORMATION

- ◆一時的に外部ディスクをはずす場合や、使用を中断する場合は、使用区分を未使用に変更します。
- ◆ドライブの使用区分を“0”に変更してもファイルは元のまま残っています。“1”になおすと再度使用することができます。

【ドライブ削除を選択した場合】

削除するドライブ名は：

削除するドライブのドライブ名を指定します。

- “ H ” を指定する。



ドライブCは削除しないでください。

ファイルが登録されているドライブを指定すると、エラーになります。

9 インデックス

インデックス型ファイルは、キー列のデータの最大・最小を、インデックスとしてタイトル一覧に表示するファイルです。インデックスがついているため、SH・SHD命令などの検索関係の命令を実行すると、通常のファイルよりも検索処理の速度が速いのが特長です。

★インデックス型ファイルについて詳しくは、後述の「インデックス型ファイルについて」をご覧ください。

- 1 インデックス設定
- 2 インデックス解除

インデックス型ファイルの設定を行うのか、解除を行うのか番号で選択します。

- インデックス型ファイルの設定をする。



- インデックス型ファイルを解除する。



処理は(1~2)

【インデックス設定を選択した場合】

設定するファイルの名前は：

インデックス型ファイルに設定するファイルの、ファイル名を指定します。

- “ 売上 1 ” を指定する。

売上 1

- ドライブAのデータフロッピーを指定する。



S・SYS・HELPファイルは、指定できません。

グループ分けは取り消されます。

指定するキー列は：

インデックスのキー列にする列を指定します。

- 2列目をキー列にする。



キーのみでは、指定できません。

キーの種類は[文字 1, 数字 2]:

キー列のデータの種類を指定します。

- キー列のデータは文字データ。  (または )
- キー列のデータは数字データ。 

データの種類を指定すると、画面に“ただいま処理中です”のメッセージが表示され、インデックス型ファイルの設定が行われます。

インデックス型ファイルの設定を行うと、キー列が文字データの場合は“l”が、数値データの場合は“i”が、ファイル一覧に表示されます。

設定中は、作業を中断できません。

【インデックス解除を選択した場合】

解除するファイルの名前は:

インデックス型ファイルを解除するファイルの、ファイル名を指定します。

- “売上1”を指定する。  売上1 

ファイル名を指定すると、画面に“ただいま処理中です”のメッセージが表示され、インデックス型ファイルの解除が行われます。

解除中は、作業を中断できません。

ファイルの解説

一般的なファイルの意味と同じように、マイツールというファイルも、データをおもむきよりにファイル化して、分かりやすくしておくことができます。ファイルは、元から用意されているものもありますし、新しく作ったり、中身（データ）を入れ替えたり、処分（削除）したりすることができます。たとえば、ファイル用の棚にいろいろな種類のファイルの箱が並んでいるところを想像してみてください。各ファイルの中には、マイツールのノートが入っており、指定ページを読み書きしたり、各命令を実行して作業することができます。マイツールでは、主にハードディスク内がこの棚に相当します。

ファイル関係の命令

F I L E 命令.....ファイルの箱を作ったり、ファイルの名前を書いたり、不要なファイルを処分したりして、ファイルの棚を管理します。

T F 命令.....ファイルの箱につけられた名前の一覧を表示します。

C H F 命令.....棚からファイルの箱を1つだけ取り出して、作業机の上に持ってきます。

ファイル一覧の見方

F I L E 命令が **T F** 命令を実行すると、ファイルのタイトル一覧が表示されます。

No.	名	作成日	型	頁数	ドライブ	キーワード	備考
1	S	92.11.01	F	25	C		サブページ
2*	M	92.11.01	F	100	C		マスターページ
3	A	92.11.01	F	100	A		フロッピーファイル1
10	SYS	92.11.01	V	37	C		システムファイル
15	売上	95.04.02	F	100	C		
16	顧客名簿	95.04.02	F	50	C	i	商品マスター

1..ファイル作成	6..プロテクト
2..ページ数変更	7..プリント
3..変更	8..ドライブ登録等
4..クリア	9..インデックス
5..削除	

FILE処理は: 0

名前.....ファイルの名前が表示されます。詳しくは、下記をご覧ください。

作成日.....そのファイルを作成した日付が表示されます。

型.....そのファイルの型が表示されます。詳しくは、次ページの「ファイルのタイプ」をご覧ください。

頁数.....そのファイルが使用できるページ数（F型ファイルの場合）か、現在のページ数（V型ファイルの場合）が表示されます。

ドライブ.....ファイル作成時に指定したドライブが表示されます。

インデックス型...インデックス型ファイルの設定の有無が表示されます。設定されている場合は“i”または“i”が表示されます。

キーワード...プロテクトの有無が表示されます。書き込み禁止なら@、読み書き禁止なら#が表示されます（V型ファイルのみ）。

備考.....備考が表示されます（半角20文字、全角10文字以内）。

空きページ...空きページが表示されます。

ファイル一覧に表示される以下の4つのファイルは、最初から用意されているファイルです。この他、**F I L E** 命令で作られたファイルがあれば表示されます。

S.....サブページが入っているファイルです。最高200ページまで作成できます。

M.....マイツールのハードディスク内にある、通常使うデータページのファイルです。ドライブC内にあります。

A.....ドライブAのデータページのファイルです。ドライブAのデータページから読み込むときは、“A/ページ番号”で指定するか、**C H F** 命令で“A”に指定しておきます。

S Y S.....“仕事は=”や命令中、**C**命令のプルダウンメニューとなるデータが入っています。それぞれ、“SYS/1”、“SYS/2”、“SYS/3”で指定します。

★**S・M・A**については、/（スラッシュ）は省略可能です。

ファイルのタイプ

ファイルのタイプには、F型ファイルとV型ファイルの2種類があり、ファイル作成時にどちらのファイルにするか指定します。

F型ファイル

固定ファイルのことです。ファイルのページ数は、ファイルを作るときに指定します。100ページ分のファイルを作っておけば、1～100ページまでの好きなページにデータを入れることができます。データの入っていないページは、空白ページとして確保されています。

FILE命令でページ数を変更することができます。

S・Mファイルは、クリア・削除の指定はできません。

ファイル全体にプロテクトはかけられません。ただし、ページ単位では、PRT命令でかけることが可能です。

V型ファイル

可変ファイルのことです。データを1ページから順に入れていくと、自動的にページ数が増えていき、ハードディスク内の空きエリアいっぱいまでページ数を増やすことが可能です。通常はファイル名のみで指定します。データを追加したい場合は、ADD命令かW命令で行います。ファイルのページ数を指定することはできません。データが入っていないと0ページになります。

ページ数の変更は指定できません。

W命令で、B（ブランク）指定はできません。

グループ指定、ワイルド指定はできません。

E F命令で書き込み先にV型ファイルを指定すると、V型ファイルの最終ページの次からデータを書き込みます。

《V型ファイルの内容を見たりデータを修正する場合》

V型ファイルの読み出し・書き込みは次のように指定します。

《例》1ページから5ページまでのデータの入っている“集計”というV型ファイルがあるとします。

●部分読み出し R：集計 / 1 回～R：集計 / 5 回

●部分書き込み W：集計 / 1 回～W：集計 / 6 回

★書き込みページ指定では、最終ページ+1ページまでの指定ができます。

●S・SHなどのページ指定→集計・

★処理するページは1ページから最終ページまでになります。書き込みページで指定すると1ページ目から書き込みます。

★すでにデータが書き込まれているV型ファイルに書き込みの指定を行うと、すべて新しいデータと置き換わってしまいます。

ファイルの指定方法

読み書きするファイルとそのページを指定するには、2つの方法があります。

●CHF命令で現在のファイルを変更する。

CHF命令を実行して“現在のファイル”を指定すれば、そのまま、書き込み・読み出しなどを、ファイル名の指定なしに現在のファイル中のページに対して行うことができます。

★マイツール起動時の“現在のファイル”はMです。

●直接ファイル名やページを指定する。

書き込みや読み出しのとき、ファイル名やページ番号を指定すると、現在のファイル以外のファイルを読み書きすることができます。次のように指定します。

1. ファイル全体の指定（V型のみ） ファイル名 回

《例》“売上”というファイルの指定.....売上 回

2. ファイル内のページ指定（F型、V型） ファイル名 / ページ番号 回

《例》“売上”というファイルの3ページ目の指定.....売上 / 3 回

★ファイル名とページの区切りは“/”を使います。ただし、S・M・Aファイルは“/”を省略することもできます。

3. ブランク指定、グループ指定、ワイルド指定（F型のみ）

《例》ブランク指定 ファイル名 / B 回

グループ指定 ファイル名 / G 1 回

ワイルド指定 ファイル名 / =売上? ? 回

★ブランク指定は、書き込みを行うときに使うことができます。指定したファイルの一番最初にある空白ページに、自動的に書き込みを行います。ページ拡張時には、そのページ分が空いている最初のページから書き込みます。

★インデックス型ファイルは、グループ指定はできません。

《ファイルの指定列》

ファイルを使用した場合の指定は、次のようになります。

現在のファイルは、ハードディスクのM (マスター) ファイルであるとしてします。

- R : 1 回 (= R : M 1 回) マスターファイルの1ページの読み出し。
- R : S 1 回 サブファイルの1ページの読み出し。
- R : A 8 回 ドライブAのデータフロッピーの8ページの読み出し。
- R : K A I / 1 回 (= C H F : K A I : R : 1 回) K A Iファイルの1ページの読み出し。
- R : 表 B / 3 回 表Bというファイルの3ページの読み出し。
- W : 15 : 回 (= W : M 15 : 回) マスターファイルの15ページの書き込み。
- W : B 回 (= W : M / B 回) マスターファイルのブランクページへの書き込み。
- W : K A I / 5 : 回 (C H F : K A I : W : 5 : 回)
..... K A Iというファイルの5ページへの書き込み。
- W : K A I / B 回 (= C H F : K A I : W : B 回)
..... K A Iというファイルのブランクページへの書き込み。

★いったんCHF命令で現在のファイルを変更すると、次にCHF命令で変更するまで、そのファイルが現在のファイルとなります。

《オートプログラム中でのファイルの使用例》

オートのプログラム中でのファイルの使用例は、次のようになります。

< ページ番号で指定した例 > ファイルを使用しない

```
S H : 1 - 20 : C 2 > 2000 : : 51 :  
S : 51 - Z 0 : 1 : 1 : 2 : 3 : : 71 :  
T C : 71 - Z 0 : 1 : : I : 51 :  
P D : 51 - Z 0 :  
S T O P :
```

< ファイルを使用した例 > V型ファイルを使用

ファイルの登録 (一度のみで可)

オートプログラムを実行する前に、あらかじめ作業用ファイルと集計表ファイルを作成しておきます。

```
F I L E :  
1 : 作業用 : C : V : :  
1 : 集計表 : C : V : 7月分 : E S C :  
S T O P :
```

```
S H : 1 - 20 : C 2 > 2000 : : 集計表 :  
S : 集計表 : 1 : 1 : 2 : 3 : : 作業用 :  
T C : 作業用 : 1 : : I : 集計表 :  
P D : 集計表 :  
S T O P :
```

1 ~ 20 ページまでサーチした結果を、集計表ファイルに書き込みます。

その集計表ファイルのデータをソートし、作業用ファイルに書き込みます。

作業用ファイルの小計を求めて集計表ファイルに書き込みます。結果は集計表ファイルの1ページ目から書き込まれますので、書き込まれたページの元のデータは消えてしまいます。

集計表のファイルを印刷します。

★例はオートプログラムですが、ひとつずつ手入力してもかまいません。

ファイル関連機能

ファイルを利用する命令には、COPY・CPD・LASTP（オート命令）・M命令などがあります。ここでは、これらの命令の使用例を紹介します。

ハードディスク内に新しく“売上”というファイルを作成し、COPY命令・CPD命令を使ってドライブAから“売上”ファイルに必要なデータをコピーする。
★“売上”ファイルを作る手順は次のとおりです（V型の場合）。
FILE 1 回売上 C 回 V 回 エスケープ

COPY命令.....ファイルの一部をコピーする。

ドライブAのデータフロッピーの3、5、9ページを、ハードディスク内の“売上”というファイルにコピーします。

V型ファイルの場合 COPY : A / 3 , 5 , 9 : 売上

★売上ファイルは3ページになります。

F型ファイルの場合 COPY : A / 3 , 5 , 9 : 売上 / 1

★売上ファイルの1～3ページにコピーされます。

CPD命令.....ファイル全体を別のファイルにコピーする。

ドライブAのデータフロッピーの1ページから、ハードディスク内の“売上”というファイルにコピーします。

V型ファイルの場合 CPD : A : 売上 : 20

★コピーするページ数を指定します。売上ファイルは20ページになります。

F型ファイルの場合 CPD : A : 売上

★売上ファイルのページ数分だけコピーします。

LASTP命令.....オートプログラム中に、ファイルの最終ページ番号をZ0に入れる。

オートプログラム中で、“～ : LASTP : ファイル名 : ～”と指定すると、ファイルの最終ページ番号がZ0に代入されます。

M命令.....ドライブや型が違うファイルを併合し、1つのファイルにする。

●ドライブA

「売上管理」というタイトルの付いたデータが、1ページから10ページまで入っています。

●ドライブC

「売上管理1」という5ページのF型ファイルが入っています。

「売上管理2」という8ページのV型ファイルが入っています。

3つのファイルを1つのファイルにまとめます。

<操作方法>

1. それぞれのファイルを、たとえば品名という項目の列をキー列としてソートしておきます。

2. ハードディスク内に“売上管理まとめ”というV型ファイルを作成します。

FILE : 1 : 売上管理まとめ : C : V : : エスケープ

M : A 1 - 10 : 売上管理 1 / 1 - 5 : 売上管理 2 : @品名 : 1 : : 売上管理まとめ

★データ件数と最終書き込みページが表示されます。

インデックス型ファイルについて

同じフォーマットのページ（売上台帳など）を何ページにもわたって登録しておき、必要に応じてSH命令でデータを検索するような場合、ファイル全体をインデックス型にしておくと、検索速度が速くなります。

《インデックス型ファイルの特長》

- タイトル一覧にキー列のデータの最大値と最小値をインデックスとして表示します。
- SH・SHDなどの検索関係の命令を実行すると、通常のファイルでは1ページずつ読み取って検索を行いますが、インデックス型ファイルでは、先にインデックスを読み取り、検索条件と一致したページだけを検索するので、検索処理の速度が通常のファイルよりも速くなります。
- インデックス型ファイルの設定は、F型・V型どちらのファイルでも設定可能です。また、データフロッピーにも、設定が行えます。
- 設定は、ファイル全体に行われます。部分的な設定は行えません。
- インデックス型ファイルの設定を行うと、SHT命令で行ったグループ分けの指定は解除されます。

《インデックスの見方》

インデックス型ファイルのタイトル一覧をT命令で表示すると、通常のファイルでグループ名が表示される欄に、インデックスが表示されます。

インデックス型ファイルのタイトル一覧

グループ	表題	作成日	行数	桁数	<Start>	<End>	キー列
1	得意先名簿	95.04.02	21	170	101	115	
2	得意先名簿	95.04.02	21	170	116	130	
3	得意先名簿	95.04.02	21	170	131	145	
4	得意先名簿	95.04.02	21	170	146	160	
5	得意先名簿	95.04.02	21	170	161	175	
6	得意先名簿	95.04.02	21	170	176	190	
7	得意先名簿	95.04.02	21	170	191	205	
8	得意先名簿	95.04.02	21	170	206	220	
9	得意先名簿	95.04.02	18	170	221	232	
10					170		
11					170		
12					170		
13					170		
14					170		
15					170		
16					170		
17					170		
18					170		
19					170		
20					170		

見たい表題は (ページ番号, =表題, [↑, ↓, Eカーナ]) :

インデックス

- キー列のデータの最小値を“<Start>”、最大値を“<End>”に表示します。
- インデックスは、キー列のデータを左端から全角文字で4文字、半角文字で8文字まで、左詰めで表示します。キー列の桁数やデータの長さが、表示できる文字数を超過していても、インデックス処理には影響ありません。
- キー列のデータは、文字データとして扱われます。
- キー列のデータは、JIS区点コードの順(文字正順)に最大値・最小値を読み取って、インデックスに表示します。
- キー列がケイ線行の場合は、インデックスは空白になります。
- インデックス型ファイルの空白ページにデータを書き込むと、キー列のデータを自動的に読み取って、インデックスに表示します。また、キー列のデータを書きかえた場合も、インデックスは新しいものにかわります。
- インデックス型ファイルの設定を行うと、ファイル一覧のドライブの欄に“ I ” (または“ i ”) が表示されます。

《インデックス型ファイル使用上の注意》

- インデックス型ファイルのキー列以外の列を検索する場合は、通常の検索と同様に1ページずつ読み込んで検索します。
- EF命令では、コード式入力にS指定がある場合は、S指定が優先されます。
- コピー先がインデックス型ファイルの場合、インデックス型ファイルに設定され、グループ指定は解除されます。また、インデックス型ファイルを通常のファイルへコピーした場合、インデックス型の設定は解除されます。
- キー列を変更した場合は、もう一度FILE命令で“インデックス設定”を行って、キー列の指定をやり直してください。
- インデックス型ファイルの設定を解除すると、通常のファイルに戻ります。解除されたファイルは、グループ分けされていない状態になっています。
- S・SYS・HELPファイルはインデックス型ファイルにできません。

《インデックス型ファイルの検索条件の指定方法》

指定されたキー列は文字データになります。検索条件式を入力する場合は、次のように指定してください。

《例》 C 1 = “ 1000 ”

C 1 > “ 1000 ”

★数値データの場合、必ずダブルコーテーション(”)で囲んでください。

- 大小指定などは、文字コードで比較します。1から1000までのデータをキー列としている場合、1000よりも2の方が大きいとみなされてしまいます。数値データの場合は桁数をそろえるために頭に0をつけて入力しておいてください。
- 全角の数値データと半角の数値データでは、値は同じでも別々のデータとして扱います。CTP命令で全角あるいは半角のどちらかに統一しておいてください。

《キー列のデータの種類について》

- インデックス型ファイルの設定を行う際に、キー列のデータの種類(文字または数字)を指定します。キー列の種類を“数字”に指定した場合は、次の点がここまでの解説と異なります。
- キー列のデータが全角の場合は、半角に変更して右詰めでインデックスに表示します。
- データは、数字の小さい順に最大値・最小値を読み取って、右詰めでインデックスに表示します。
- キー列のデータが8桁以上の場合は、8桁目に“*”を付けます。
- キー列のデータが文字データの場合は、インデックスに“S”を表示します。

ページファイルの一覧を見る

- ページファイルのファイル名一覧を表示します。ファイル名一覧からは、ファイル名の変更やページファイルの削除などを行うことができます。

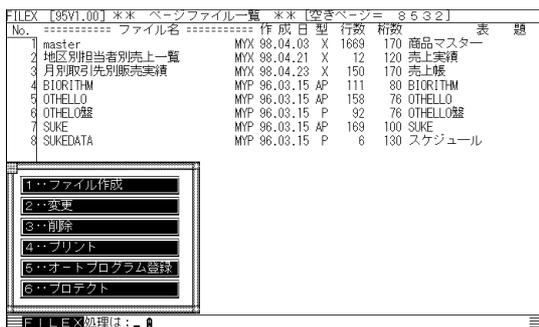
実行前の確認

- ページファイルとは、FILEX 命令で作成するファイルとは異なります。

類似命令

- FILE...ファイルの作成や変更を行う。

仕事は =

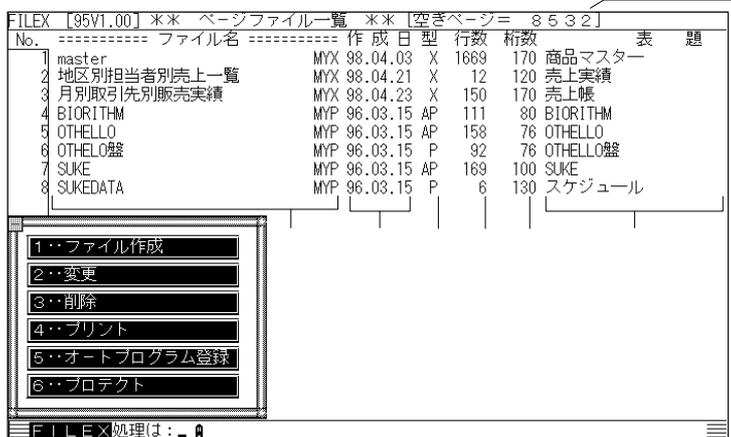


ページファイル一覧とメッセージボックスが表示されます。メッセージボックスの中から、どの処理を行うのが番号で選択します。FILEX 命令を終了するときは **ESC** キーを押します。

使い始めにはページファイルはありませんので、一覧にはサンプルデータのページファイルのみが表示されます。

FILEX 命令でファイル作成や、WFL 命令で保存を行うことで、左のようにページファイルが表示されるようになります。

ページファイル一覧の見方



ファイル名.....ページファイルに付けられている名前が表示されます。ファイル名の右側に表示される“MYX”はX型ページファイル、“MYP”はP型ページファイルを表わします。ファイル名が全角で15文字（半角で30文字）以上の場合は、14文字目（半角の場合は28文字目）以降が“...”で表示されます。

作成日.....ページファイルを作成した日付が表示されます。

型.....ページファイルの型が表示されます。“X”はX型でパックされていないページファイル、“P”はP型でパックされているページファイルを表わします。

行数.....ページの最終使用行数が表示されます。

桁数.....ページの1行の桁数が表示されます。

表題.....ページの表題が表示されます。ファイル名とは異なり、RFL 命令で読み出したときにタイトル行に付けられている表題です。

空きページ.....空きページが表示されます。

1 ファイル作成



新しく作るファイルの名前は：

ページファイルに付ける名前を入力します。

- “GETUJI” という名前を付ける。
- “売上” という名前を付ける。

GETUJI
売上

INFORMATION

- ◆ ページファイルの名前に使用できる文字には制限があります。以下にあげる文字を半角で使用することはできませんのでご注意ください（全角文字の場合は使用できます）。

, / * “ : ; < > | ¥ ?

- ◆ 英文字を半角で入力した場合、大文字と小文字は区別されません。全角の場合は区別されます。
- ◆ ページファイルには、ファイルの名前とは別に表題を付けることができます。表題に付けられる文字数は、通常データページと同じです。
- ◆ “1…ファイル作成” で作られるページファイルは、表題のない空白ページになり、ページファイル一覧で見ると行数が“0”になります。
- ◆ ページファイルは、WFL 命令で書き込む時にディレクトリを指定しない限り、マイツールをインストールしたディレクトリ（標準で“WTVIEW”）の下の“MYFILEX” に保存されます。
- ◆ ページファイルには“X型”と“P型”の2種類のタイプがあります。“P型”は表に取り込まれているBMP、WAVE、AVIファイル名のデータをファイル内に圧縮して保存します。“X型”はこの圧縮を行わず通常の形式で保存します。“1…ファイル作成”でページファイルを作成すると“X型”になります。

2 変更



変更するファイルの名前は：

名前を変更するページファイルの名前を入力します。

- “GETUJI” というページファイルの名前を変更する。

GETUJI

新しいファイル名を入れてください：

新しいページファイル名を入力します。

- “URIAGE” というページファイルの名前を変更する。

URIAGE

INFORMATION

- ◆ ページファイルの名前に使用できる文字には制限があります。“1 ファイル作成”の「INFORMATION」をご覧ください。
- ◆ 英文字を半角で入力した場合、大文字と小文字は区別されません。全角の場合は区別されます。
- ◆ ここで変更できるのは、ページファイルのファイル名です。ページに付けられている表題を変更するには、RFL 命令でページファイルを読み込んで、CT 命令で表題を変更します。表題に付けられる文字数は、通常データページと同じです。

3 削除



削除するファイルの名前は：

削除するページファイルの名前を入力します。

- “GETUJI” というページファイルを削除する。

GETUJI

INFORMATION

- ◆この操作を行うとデータは消えてしまいます。RV命令で元に戻すことはできませんので、削除の際は十分にご注意ください。

4 プリント



“ 4 プリント ” を選択すると、画面に表示されている拡張ファイル一覧が印刷されます。

5 オートプログラム登録



プログラムを [登録 E , 削除 D] :

オートプログラムを登録する場合は と、登録してあるオートプログラムを削除する場合は とキーを押します。

【登録を選択した場合】

登録するファイル名は :

登録するオートプログラムのあるページファイル名を指定します。

- “ URIAGE ” というページファイルを登録する。

【削除を選択した場合】

削除するファイル名は :

オートプログラムの登録を削除するページファイル名を指定します。

- “ URIAGE ” というページファイルの登録を削除する。

6 プロテクト



プロテクトするファイルの名前は :

プロテクトをかけるページファイルの名前を入力します。

- “ GETUJI ” というページファイルにプロテクトを登録する。

書き込み禁止 1 , 読み書き禁止 2 :

プロテクトの種類は :

プロテクトの種類を番号で選択します。

- 書き込み禁止だけのプロテクトをかける。
- 読み出し・書き込み禁止のプロテクトをかける。

キーワードは :

ページファイルに付けるキーワードを入力します。

キーワードは全角 4 文字、半角 8 文字以内で付けることができます。

- “ ABCD ” というキーワードを付ける。

すでにキーワードが付けられている場合、“旧キーワードは : ” というメッセージが表示されます。旧キーワードを入力すると、新しくキーワードを付けることができます。プロテクトをはずしたい場合は “ キーワードは : ” のメッセージに対して キーのみを押します。

ファンクションキーに登録する

- (F1) から (F8) までの各ファンクションキーに、文字列や計算式、セミオートなどを登録し、ファンクションキーが押されたときに入力バーに呼び出すことができます。
- ファンクションキーを押したときに、すぐ実行することもできます。

類似命令

- B T N.....命令などを登録したボタンを表示します。
- C M D.....命令を登録します。
- S E T M...プルダウンメニューやツールバーへの登録や変更をします。

仕事は =



ファンクションキー登録内容	
F 1 [R:+:]
F 2 [R:-:]
F 3 [0F:売上:RUN:売上集計&]
F 4 []
F 5 []
F 6 []
F 7 []
F 8 []
エスケープキーを押せば終わります	

ファンクションキー登録内容が表示されます。
すでに登録されているものがあれば、その内容が表示されます。

何番目に登録しますか (1 ~ 8) :

どのファンクションキーに登録するのか指定します。

- (F1) キーに登録する。 
すでに登録済みの番号を指定すると、以前の内容を消去して新しく登録し直すことができます。

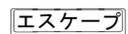
内容は :

登録する内容を入力します。

- “ P S E T : 2 : 2 : E S C : ” というセミオートを登録する。 
- 登録した内容を消去する。 (スペース) 
内容は全角文字で 20 字、半角文字で 40 字までの文字列を登録することができます。
ファンクションキーを押したときに、登録内容をすぐ実行したい場合は、最後の “ : ” を “ & ” にかえて登録します。

何番目に登録しますか (1 ~ 8) :

次に登録するファンクションキーの番号を指定します。これ以上登録しなければ、(エスケープ)キーを押します。あとはファンクションキーを押すだけで、登録した内容を表示します。

- 続いて、(F2) キーに登録する。 
内容も③と同様に指定してください。
- F K S 命令を終了する。 

INFORMATION

- ◆登録できるファンクションキーは、**F1**から**F8**までです。
- ◆頻繁に使うデータや、セミオートなどを登録しておくとう便利です。
- ◆データの最後に“&”をつけておくと、**↵**キーを押したことになります、ファンクションキーを押したときにすぐ実行します。“&”をつけないと入力行に表示されるだけです。また**エスケープ**は“ESC:”で登録することができます。
- ◆データは、通常のデータ入力と同様に**←****→**などで修正できます。
- ◆登録するデータ内にコロン(:)やエスケープ(ESC)がある場合は、データ全体をダブルコーテーション(")で囲んでください。また、すでに登録してあるデータを**バックタブ**(**⇧ Shift**+**Tab**)キーで入力行に持ってくると、{}がついて表示されます。{}はダブルコーテーションと同じ意味をもっているため、再度ダブルコーテーションをつける必要はありません。

例題

F1キーに、項目行のデータだけを中央に寄せるセミオートを登録します。

この例題を実行すると、すでに**F1**に登録している内容は消去されてしまいます。すでに登録されている場合は、**F1**以外の空いているファンクションキーに登録してください。

F K S

1回.....ファンクションキーの1番目(**F1**)に登録する。

"SC::SVL:4:SR::LDL:4&"

エスケープ.....登録を終了します。

登録が終わったら実行してみましょう。

R : 11回

F1

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	45,000	40,000	85,000	170,000
B支店	45,000	23,000	65,000	133,000
C支店	65,000	20,000	110,000	195,000
合計	155,000	83,000	260,000	498,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	45,000	40,000	85,000	170,000
B支店	45,000	23,000	65,000	133,000
C支店	65,000	20,000	110,000	195,000
合計	155,000	83,000	260,000	498,000

用紙サイズを指定して表を作る

- 規定の用紙サイズ (B 5、A 4、B 4) に合わせて、新しく表や文書を作ります。

実行前の確認

- F S 命令を実行すると、画面に表示されている内容は消去されます。
- 漢字モードで作成した表では、半角文字の入力はできません。

類似命令

- F新しく表を作ります。

仕事は =



《 表 作成 情報 》			
番号	内 容		現在
1	用紙サイズ (B5・1, A4・2, B4・3)		<input checked="" type="checkbox"/>
2	用紙方向 (縦表・1, 横表・2)		1
3	モード (混在・1, 漢字・2)		2
4	形 式 (既製・1, 手作り・2, 文章用・3)		1

表作成情報が表示されます。画面の右端には、現在の設定値が表示されています。

1 番の内容から順番に、番号で選んで設定を行います。

- 1 B 5
- 2 A 4
- 3 B 4

用紙サイズは
(1 ~ 3 , [変更なし]) :

用紙のサイズを B 5、A 4、B 4 のどれかを番号で選択します。[] キーを押すと、現在の設定はそのまま次に移ります。

- B 5 サイズを選ぶ。
- A 4 サイズを選ぶ。
- B 4 サイズを選ぶ。
- 現在の設定のまま。



- 1 縦表
- 2 横表

用紙方向は(1 ~ 2 , [変更なし]):

指定した用紙サイズの縦・横を番号で選択します。[] キーを押すと、現在の設定はそのまま次に移ります。

- 縦を選ぶ。
- 横を選ぶ。
- 現在の設定のまま。



- 1 混在
- 2 漢字

モードは(1 ~ 2 , [変更なし]):

作成するページのモードを番号で選択します。[] キーを押すと、現在の設定はそのまま次に移ります。

- 混在モードにする。
- 漢字モードにする。
- 現在の設定のまま。



- 1 既製
- 2 手作り
- 3 文章用

形式は(1 ~ 3 , [変更なし]):

どのような表を作るか番号で選択します。“既製”を選ぶと、縦ケイ線の有無と列数を指定するだけで表が自動的にできます。“手作り”を選ぶと、F 命令と同様に表が作れます。表ではなく、E D 命令で文章を書く場合は、“文章用”を選びます。

- “既製”を選ぶ。
- “手作り”を選ぶ。
- “文章用”を選ぶ。
- 現在の設定のまま。



【既製を選んだ場合】

- 1 引く
- 2 引かない

縦ケイ線は(1 ~ 2 , [変更なし ↔]):

必要な列数を入れてください
(1 ~ 5) :

表題を付けてください

表に縦ケイ線を引くか、引かないかを番号で選択します。☑キーを押すと、現在の設定はそのままで次に移ります。

表を何列に分けるか、指定します。用紙サイズ内を均等に分けます。☑キーを押すと、表を作ります。
分割する列数の表示値は、モードや縦ケイ線の指定により異なります。

ページにつけるタイトルを指定します。以降は、E L 命令と同じ手順でデータを入れてください。

【手作りを選んだ場合】

タイトルをつけてから、F 命令と同じ手順でデータを入力してください。

【文章用を選んだ場合】

タイトルをつけてから、E D 命令と同じ手順でデータを入力してください。

各設定によるページサイズ

用紙サイズ	方向	モード	1 行の長さ	行数
B 5	縦	漢字	74	53
		混在	56	53
	横	漢字	112	35
		混在	84	35
A 4	縦	漢字	92	63
		混在	70	63
	横	漢字	132	42
		混在	100	42
B 4	縦	漢字	112	71
		混在	84	71
	横	漢字	170	50
		混在	122	52

INFORMATION

- ◆   キーを使って、変更項目を移動することができます。
- ◆ F S 命令で作成されるページは、指定した用紙のサイズになっています。通常の画面上にあるページサイズ (L=O O C=OO) のかわりに、用紙サイズと縦・横が表示されます。
- ◆ F S 命令で作成したページでは、S E T C 命令の 10 番“ページの拡張”は使えません。
- ◆ 指定した用紙サイズを、標準のページサイズに変えるときは、C P S 命令を使います。
- ◆  キーや  キーを使うと、前の列または前の行と同じデータを続けて入力することができます。



データをグラフにする

- 帯グラフ、点グラフ、散布図、円グラフ、比較縦棒グラフ、折れ線グラフ、回帰分析グラフ、レーダーチャートグラフ、積み重ね棒グラフ、バランスグラフ、両軸グラフ、XYグラフ、工程管理グラフを描くことができます。また、立体や切りだし表示もできます。

仕事は =



- | | | |
|------|---------|-------|
| 1 帯 | 6 折線 | 11 回帰 |
| 2 点 | 7 回帰 | 12 両軸 |
| 3 散布 | 8 レーダー | 13 XY |
| 4 円 | 9 積棒 | 21 工程 |
| 5 縦棒 | 10 バランス | |

作成するグラフを番号で選択します。

キーのみを押すと、“4 円”を選択したことになります。

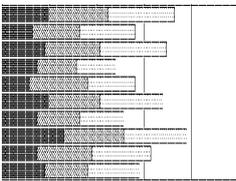
グラフは :

グラフの表題は :

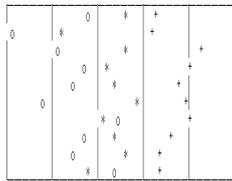
グラフにつける表題(タイトル)を指定します。キーのみを押すと、元となるページの表題と同じになります。ここまでは各グラフとも同じ手順です。表題をつけた後の手順や注意は、グラフ別に説明してあるので、各項目をご覧ください。グラフの元になる各データは、データフロッピーにあります。

グラフの種類

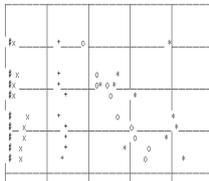
1. 帯グラフ



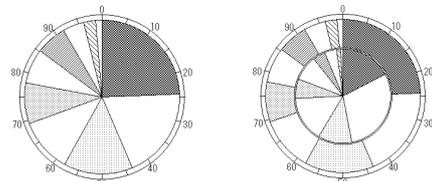
2. 点グラフ



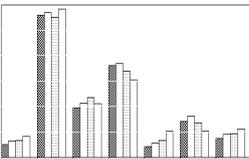
3. 散布図



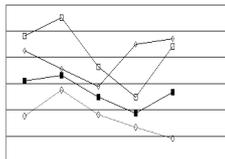
4. 円グラフ・二重円グラフ



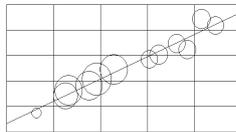
5. 比較縦棒グラフ



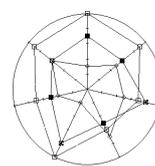
6. 折れ線グラフ



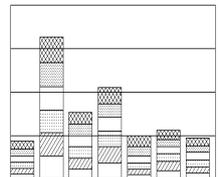
7. 回帰分析グラフ I



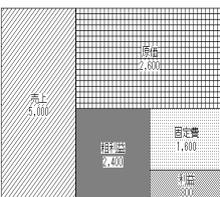
8. レーダーチャート



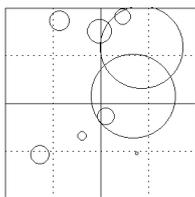
9. 積み重ね棒グラフ



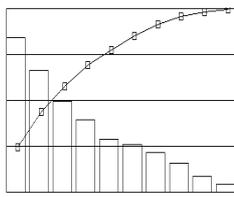
10. バランスグラフ



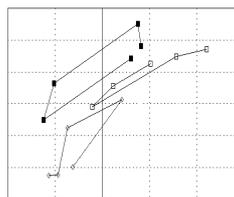
11. 回帰分析グラフ II



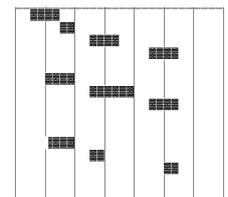
12. 両軸グラフ



13. XYグラフ



21. 工程管理グラフ



全体的注意

- 帯・点・散布図・工程管理の4つのグラフと、その他のグラフとではグラフにした後の扱いが異なります。

帯・点・散布図・工程管理	円・縦棒・折線・回帰 レーダー・積棒・バランス・両軸・XY
W命令でグラフを保管する	BMPW命令でグラフをBMPファイルに保管する
X命令で元の表を表示する	D命令で元の表を表示する
PG命令で印刷する	手順の最後で、印刷するサイズや表示変更などの設定を、プルダウンメニューからマウスで指定できる
グラフの拡大・縮小はできない	マウスでグラフの拡大・縮小ができる
ED命令で、グラフの修正・文字の追加が可能	グラフの修正は、マイツールでは不可

- 立体表示できるグラフは、円・縦棒・積棒・両軸グラフです。
- 最大値、最小値の指定
 - ・  キー
バランスのよいグラフになるように自動的に最大値、最小値をとります。分割数は4、または6になります。
 - ★帯・工程管理のグラフの最小値は“0”をとります。
 - ・  キー
データの中から、最大値、最小値をとります。
- データにする行や列の指定で、 キーを押した場合、ケイ線やデータのない行・列は無視して、自動的にグラフを作ります。

【印刷・スケール変更・表示変更の指定方法】

グラフの種類は、14種類あります。その内10種類の場合のみ（円・縦棒・折線・回帰 ・ ・レーダー・積棒・バランス・両軸・XY）、印刷・スケール値変更・拡張機能の指定方法をプルダウンメニューからマウスで選ぶことができます。

★指定できるプルダウンメニューの種類は5つで、グラフによって異なります。

円グラフ

印刷	表示変更
0 特大	D 通常表示
1 大	3D 立体表示
2 小	C 切りだし
PFF 改頁	V 値表示
	P %表示
	PAT パターン

- ★“V 値表示”と“P %表示”は、二重円グラフの場合のみ表示されます。
- ★二重円グラフの場合“C 切りだし”は表示されません。

縦棒・積棒・両軸グラフ

印刷	スケール変更	表示変更
0 特大	R 最大/最小設定	D 通常表示
1 大	S 本数設定	3D 立体表示
2 小		V 値表示
PFF 改頁		PAT パターン

折れ線・XYグラフ

印刷	スケール変更	表示変更
0 特大	R 最大/最小設定	D 通常表示
1 大	S 本数設定	V 値表示
2 小		
PFF 改頁		

- ★XYグラフでは、“V 項目表示”と表示されます。

回歸 ・ グラフ

印刷		スケール変更	
0	特大	R	最大/最小設定
1	大	S	本数設定
2	小		
P F F	改頁		

レーダーチャート

印刷	
0	特大
1	大
2	小
P F F	改頁

バランスグラフ

印刷		表示変更	
0	特大	P A T	パターン
1	大		
2	小		
P F F	改頁		

● 印刷・スケール変更・表示変更の指定

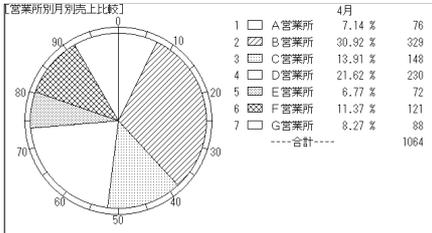
メニューバー	指定項目	内容
印刷	0 特大	● 指定したサイズで印刷、または改ページします。
	1 大	
スケール変更	2 小	● 最大値・最小値の指定の入力に戻ります。 ●  キーのみを押した場合は、最初に指定した値をとります。分割数は4になります。
	P F F 改頁	
表示変更	R 最大/最小設定	● “最小値は：” “増分値は：” “分割数は：” の順でメッセージが表示されます。 ● 最小値を“0”、増分値を“100”、分割数を“5”と指定すると、最小値が“0”、最小値が“500”で、“100”ごとに目盛りのついたグラフが作成されます。 ● 分割数の最大は15です。
	S 本数指定	● “最小値は：” “増分値は：” “分割数は：” の順でメッセージが表示されます。 ● 最小値を“0”、増分値を“100”、分割数を“5”と指定すると、最小値が“0”、最小値が“500”で、“100”ごとに目盛りのついたグラフが作成されます。 ● 分割数の最大は15です。
	D 通常表示	● グラフ作成時の表示に戻ります。
	3 D 立体表示	● 比較縦棒・積み重ね棒・両軸グラフでは、立体表示できるグラフの本数は、次のとおりです。 比較縦棒.....44本以下 積み重ね棒...44本以下 両軸.....34本以下 上記の本数を超えると、立体表示できません。 ● 立体表示後、もう一度立体表示を指定すると、通常表示に戻ります。
	C 切りだし	● “何番目を切りだしますか：” と表示されます。切りだす項目の番号を指定してください。 ● 複数個の指定はできません。 ● 二重円グラフでは、指定できません。 ● 1%以下、99%以上の項目は切りだしできません。 ● 立体表示中に切りだしを指定すると、通常表示に戻って切りだします。
V 値表示	● 値表示できるデータ数は、グラフ化できるデータ数の最大値と同じです。 ● 二重円以外のグラフでは、値表示後、もう一度値表示を指定すると、通常表示に戻ります。 ● 積み重ね棒グラフでは、合計の数値だけを値表示します。 ● XYグラフでは、値表示できるデータの個数は300個以下です。また、グラフ1本については50個以下となります。	
P %表示	● %表示後、もう一度%表示を指定すると、値表示に戻ります。	
P A T パターン	● 通常グラフを作成すると、グラフの各要素を線や点の模様で表示しますが、パターンを指定すると、各要素を単色で塗りつぶします。	

【立体表示・切りだし・値表示の例】

円・比較・両軸・積棒グラフは、表示変更のプルダウンメニューで“立体表示”や“切りだし”、“値表示”をマウスで選ぶと、立体化・切り出し・値表示することができます。また、比較・両軸・積棒グラフは、“値表示”の状態でも立体化することができます。立体化・切りだし・値表示したグラフは、表示変更のプルダウンメニューで“通常表示”をマウスで選ぶと、元の状態に戻ります。

●円グラフ

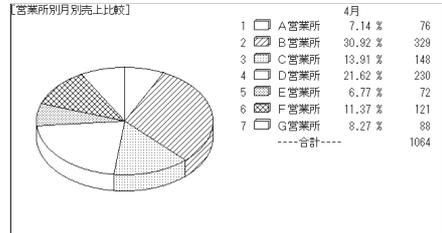
[通常表示]



マウスで“立体表示”を選択



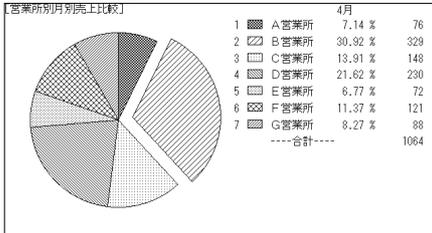
[立体表示]



マウスで“切りだし”を選択して、“2”を入力



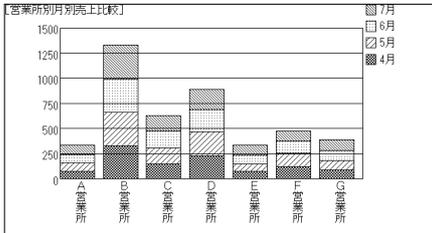
[切りだし]



★“切りだし”の状態では、“立体表示”を選択すると、“切りだし”は解除されます。

●積み重ね棒グラフ

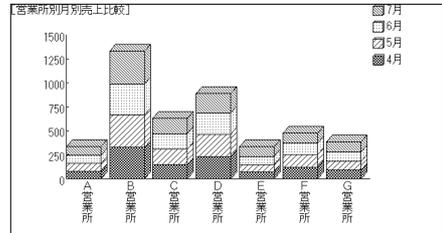
[通常表示]



マウスで“立体表示”を選択



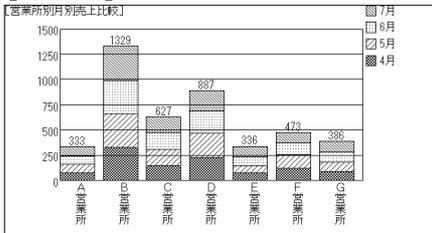
[立体表示]



マウスで“値表示”を選択



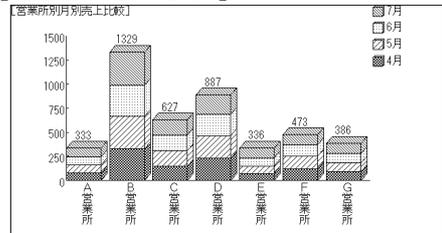
[値表示]



マウスで“立体表示”を選択



[値表示 + 立体表示]



1 帯グラフ



データの指定は [行 1 , 列 2] :

縦軸に項目名をとる場合は、**[1]**または**[L]**を、1列目の内容をとる場合は**[2]**または**[C]**を指定します。**[⇐]**キーを押すと、列を指定したことになります。

【行を選んだ場合】

何行目をグラフにしますか :

帯グラフにするデータの行番号を指定します。**[⇐]**キーを押すと、先頭データ行から最大5行をグラフにします。

【列を選んだ場合】

何列目をグラフにしますか :

帯グラフにするデータの列番号を指定します。**[⇐]**キーを押すと、2列目から最大5列をグラフにします。

最大値はいくつにしますか :

横軸にとる最大値を指定します。**[⇐]**キーを押すと、各行または各列の合計の中から最大値をとります。

最小値はいくつにしますか :

横軸にとる最小値を指定します。**[⇐]**キーを押すと、“0”をとります。

やりなおしますか [Y / N] :

グラフが表示されます。最大・最小値の指定をやりなおす場合は**[Y]**を、終了する場合は**[N]** (または**[⇐]**キー) を指定します。**[4⇐]**を入力すると横方向に縮小します。**[6⇐]**と入力すると拡大します。

INFORMATION

- ◆帯グラフの保存は、G命令終了後にW命令で行います。
- ◆縦軸の見出しは、1列目または項目名の内容です。
- ◆負のデータは“0”として扱います。
- ◆帯は、5種類まで描けます。データの行や列を指定するときに、“-”や“,”を使って複数指定してください。

例題

29 ページ「商品別売上推移」のデータを帯グラフにします。

R : 29回

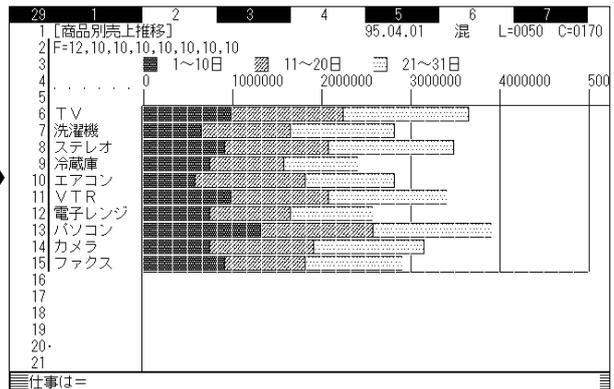
G回

- 1回.....帯グラフを指定する。
- 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2回.....データは列を指定する。
- 2 - 4回.....2列目から4列目までをグラフにする。
- 回.....最大値には、グラフにするデータの中から最大値をとる。
- 回.....最小値には“0”をとる。
- 回.....終了する。

実行前

29	1	2	3	4	5	6	7
1	【商品別売上推移】			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=10,12,12,12						
3							
4		1~10日	11~20日	21~31日			
5							
6	TV	1,030,000	1,240,000	1,370,000			
7	洗濯機	650,000	1,040,000	1,170,000			
8	ステレオ	920,000	1,140,000	1,470,000			
9	冷蔵庫	710,000	880,000	820,000			
10	エアコン	550,000	1,280,000	970,000			
11	VTR	1,020,000	1,040,000	1,340,000			
12	電子レンジ	730,000	970,000	890,000			
13	パソコン	1,320,000	1,240,000	1,370,000			
14	カメラ	770,000	1,140,000	1,270,000			
15	ファクス	880,000	960,000	1,070,000			
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後



2 点グラフ

データの指定は [行 1 , 列 2] :

縦軸に項目名をとる場合は **1** (または **L**) を、1列目の内容をとる場合は **2** (または **C**) を指定します。 **⇨** キーを押すと、列を指定したことになります。

【行を選んだ場合】

何行目をグラフにしますか :

点グラフにするデータの行番号を指定します。
⇨ キーを押すと、先頭データ行から最大5行をグラフにします。

【列を選んだ場合】

何列目をグラフにしますか :

点グラフにするデータの列番号を指定します。
⇨ キーを押すと、2列目から最大5列をグラフにします。

最大値はいくつにしますか :

縦軸にとる最大値を指定します。
⇨ キーを押すと、全データの中から最大値をとります。

最小値はいくつにしますか :

横軸にとる最小値を指定します。
⇨ キーを押すと、全データの中から最小値をとります。

やりなおしますか [Y / N] :

グラフが表示されます。最大・最小値の指定をやりなおす場合は \boxed{Y} を、終了する場合は \boxed{N} (または \boxed{ESC} キー)を指定します。
 $\boxed{4}$ と入力すると横方向に縮小します。 $\boxed{6}$ と入力すると拡大します。

INFORMATION

- ◆点グラフの保存は、G命令終了後にW命令で行います。
- ◆縦軸の見出しは、1列目または項目名の内容です。
- ◆点は5種類まで描けます。データの行や列を指定するときに、“-”や“,”を使って複数指定してください。

例題

30 ページ「商品別地区別売上高」のデータを点グラフにします。

R : 30

G

2点グラフを指定する。

.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。

2データは列を指定する。

2 - 4 2列目から4列目までをグラフにする。

.....最大値には“60000”を指定する。

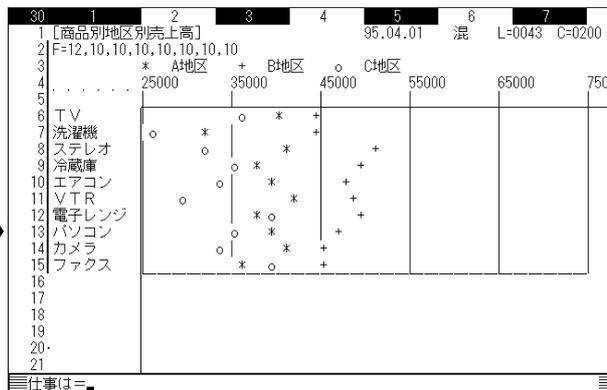
.....最小値には“10000”を指定する。

N終了する。

実行前

30	1	2	3	4	5.....	6.....	7.....
1	[商品別地区別売上高]			95.04.01	混	L=0043	C=0200
2	F=10,13,13,13						
3							
4		A地区	B地区	C地区			
5							
6	TV	40,400	44,400	35,520			
7	洗濯機	31,800	44,000	25,740			
8	ステレオ	40,600	50,600	31,740			
9	冷蔵庫	37,800	49,200	34,890			
10	エアコン	39,200	47,400	33,630			
11	VTR	41,800	48,600	29,500			
12	電子レンジ	37,700	49,000	39,500			
13	パソコン	39,200	46,400	34,890			
14	カメラ	40,600	45,000	33,630			
15	ファクス	35,540	45,200	39,150			
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後



3 散布図

3

データの指定は [行 1 , 列 2] :

行方向のデータを使う場合¹ (または^L) を、列方向のデータを使う場合は² (または^C) を指定します。³ キーを押すと、列を指定したことになります。

【行を選んだ場合】

縦軸は何行目にしますか :

グラフの縦軸にとる行番号を指定します。³ キーを押すと、先頭データ行をとります。

横軸は何行目にしますか :

グラフの横軸にとる行番号を指定します。³ キーを押すと、(先頭データ行 + 1) 行目から 5 行をグラフにします。

【列を選んだ場合】

縦軸は何列目にしますか :

グラフの縦軸にとる列番号を指定します。³ キーを押すと、1 列目をとります。

横軸は何列目にしますか :

グラフの横軸にとる列番号を指定します。³ キーを押すと、2 列目から 5 列をグラフにします。

縦軸の最大値はいくつにしますか :

縦軸にとる最大値を指定します。³ キーを押すと、縦軸にとったデータの中から最大値をとります。

縦軸の最小値はいくつにしますか :

縦軸にとる最小値を指定します。³ キーを押すと、縦軸にとったデータの中から最小値をとります。

横軸の最大値はいくつにしますか :

横軸にとる最大値を指定します。³ キーを押すと、横軸にとったデータの中から最大値をとります。

横軸の最小値はいくつにしますか :

横軸にとる最小値を指定します。³ キーを押すと、横軸にとったデータの中から最小値をとります。

やりなおしますか [Y / N] :

グラフが表示されます。最大・最小値の指定からやりなおす場合は^Yを、終了する場合は^N (または³ キー) を指定します。⁴ と入力すると横方向に縮小します。⁶ と入力すると拡大します。

INFORMATION

- ◆ 散布図の保存は、G 命令終了後に W 命令で行います。
- ◆ 散布は 5 種類まで描けます。横軸のデータを指定するときに、“-” や “,” を使って複数指定してください。

例題

31 ページ「対売上広告費用効果」のデータを散布図にします。

R : 31回

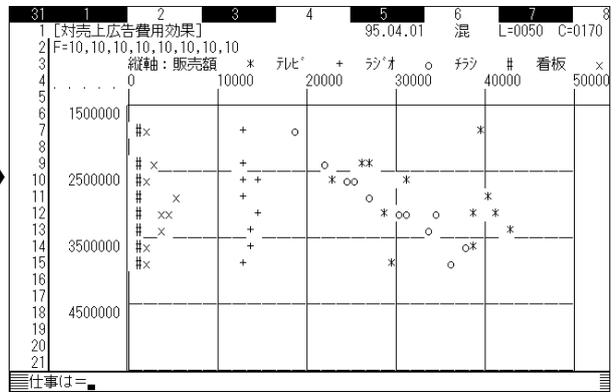
G 回

- 3 回.....散布図を指定する。
- 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2 回.....データは列を指定する。
- 2 回.....縦軸には 2 列目を指定する。
- 3 - 7 回.....横軸には 3 列目から 7 列目までを指定する。
- 回.....縦軸の最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。
- 回.....縦軸の最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。
- 回.....横軸の最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。
- 回.....横軸の最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。
- 回.....終了する。

実行前

月	販売額	テレビ	ラジオ	雑誌	看板	ハウスト	合計
1	1,870,000	38,900	12,600	18,200	500	1,920	89,400
2	2,320,000	25,600	12,400	21,600	500	1,130	71,400
3	3,720,000	29,100	12,400	35,700	500	1,780	95,500
4	2,540,000	31,200	13,800	24,600	500	1,890	89,000
5	3,120,000	28,200	14,000	34,200	500	3,520	112,100
6	2,410,000	22,300	12,900	23,800	500	1,920	78,700
7	3,596,000	38,300	13,500	37,200	500	1,760	107,100
8	2,210,000	26,400	12,200	21,300	500	2,110	81,500
9	2,730,000	39,700	12,100	26,400	500	4,830	127,000
10	3,240,000	42,100	13,400	33,100	500	3,450	123,600
11	2,930,000	41,000	14,100	30,200	500	4,180	127,400
12	3,020,000	38,700	13,900	31,200	500	4,520	129,500

実行後



4 円グラフ (立体表示ができます)

データの指定は [行 1 , 列 2] :

塗り分けの見出しに項目名をとる場合は、**1** (または**L**) を、1 列目の内容を使う場合は**2** (または**C**) を指定します。キーを押すと、列を指定したことになります。

【行を選んだ場合】

何行目をグラフにしますか :

円グラフにするデータの行番号を指定します。
キーを押すと、先頭データ行のデータをグラフにします。
 二重円グラフを作成するときは、カンマ “ , ” やハイフン “ - ” で区切って 2 行を指定します。

【列を選んだ場合】

何列目をグラフにしますか :

円グラフにするデータの列番号を指定します。
キーを押すと、2 列目のデータをグラフにします。
 二重円グラフを作成するときは、カンマ “ , ” やハイフン “ - ” で区切って 2 列を指定します。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改頁・PFF] , 表示変更 :

グラフが表示されます。印刷サイズ・表示変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。終了する場合はキーを押します。

INFORMATION

- ◆データが 13 個以上の場合、12 個目以降のデータを足して “その他” の項目にまとめます。
- ◆負のデータは無視します。
- ◆データ数の最大は 600 個です。

例題

32 ページ「商品別売上高」のデータを立体円グラフにします。

R : 32

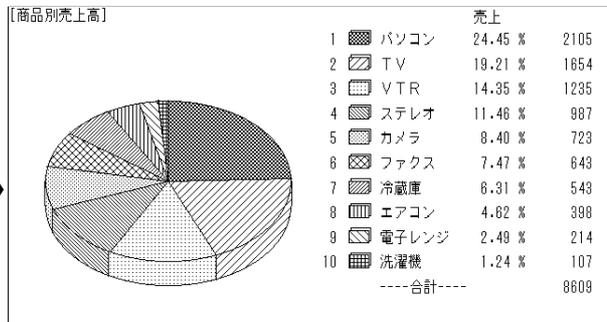
G

- 4円グラフを指定する。
-グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2データは列を指定する。
- 2 2 列目をグラフにする。
- 3 Dグラフを立体表示にする。
-終了する。

実行前

32	1	2	35.....6.....7.....
1	[商品別売上高]			95.04.01 混 L=0043 C=0200
2	F=12,14,14			
3				
4		売上	粗利	
5				
6	パソコン	2,105	484	
7	TV	1,654	578	
8	VTR	1,235	333	
9	ステレオ	987	315	
10	カメラ	723	180	
11	ファクス	643	218	
12	冷蔵庫	543	114	
13	エアコン	398	111	
14	電子レンジ	214	38	
15	洗濯機	107	20	
16				
17				
18				
19				
20				
21				

実行後



例題

32 ページ「商品別売上高」のデータを切り出し円グラフにします。

R : 32回

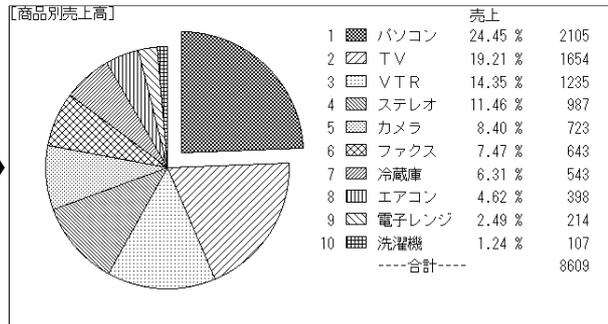
G 回

- 4 回.....円グラフを指定する。
- 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2 回.....データは列を指定する。
- 2 回.....2 列目をグラフにする。
- C 回.....グラフを切り出し表示にする。
- 1 回.....1 番目の項目を切り出す。
- 回.....終了する。

実行前

1	2	3	4	5	6	7
1	[商品別売上高]			95.04.01	混	L=0043 C=0200
2	F=12,14,14					
3						
4		売上	粗利			
5						
6	パソコン	2,105	484			
7	TV	1,654	578			
8	VTR	1,235	333			
9	ステレオ	987	315			
10	カメラ	723	180			
11	ファクス	643	218			
12	冷蔵庫	543	114			
13	エアコン	398	111			
14	電子レンジ	214	38			
15	洗濯機	107	20			
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22	仕事は=					

実行後



例題

32 ページ「商品別売上高」のデータを二重円グラフにします。

R : 32回

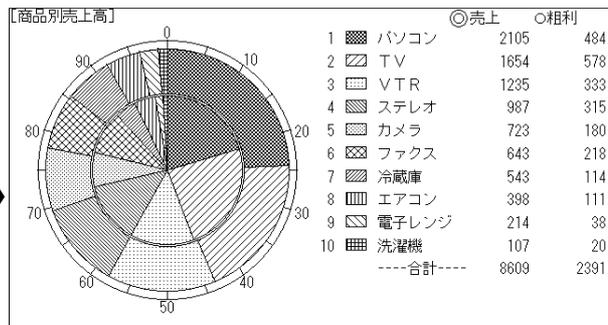
G 回

- 4 回.....円グラフを指定する。
- 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2 回.....データは列を指定する。
- 2 - 3 回.....2 列目と3 列目をグラフにする。
- 回.....終了する。

実行前

1	2	3	4	5	6	7
1	[商品別売上高]			95.04.01	混	L=0043 C=0200
2	F=12,14,14					
3						
4		売上	粗利			
5						
6	パソコン	2,105	484			
7	TV	1,654	578			
8	VTR	1,235	333			
9	ステレオ	987	315			
10	カメラ	723	180			
11	ファクス	643	218			
12	冷蔵庫	543	114			
13	エアコン	398	111			
14	電子レンジ	214	38			
15	洗濯機	107	20			
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22	仕事は=					

実行後



5 比較縦棒グラフ (立体表示ができます)

データの指定は [行 1 , 列 2] :

横軸に項目名をとる場合は **1** (または **L**) を、1 列目の内容をとる場合は **2** (または **C**) を指定します。

 キーを押すと、列を指定したことになります。

【行を選んだ場合】

何行目をグラフにしますか :

棒グラフにするデータの行番号を指定します。

 キーを押すと、先頭データ行から最大 6 行をグラフにします。

【列を選んだ場合】

何列目をグラフにしますか :

棒グラフにするデータの列番号を指定します。

 キーを押すと、2 列目から最大 6 列をグラフにします。

最大値はいくつにしますか :

縦軸にとる最大値を指定します。

 キーを押すと、グラフにする全データの中から最大値をとります。

最小値はいくつにしますか :

縦軸にとる最小値を指定します。  キーを押すと、グラフにする全データの中から最小値をとります。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改頁・PFF] , スケール変更 , 表示変更 :

グラフが表示されます。印刷サイズ・スケール変更・表示変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。終了する場合は  キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 横軸の見出しは、項目名または 1 列目の内容です。
- ◆ 横軸のデータ数は最大 520 個までです。521 個目以降は無視します。
- ◆ 最大値と最小値の指定で、 キーのみを押すと、自動的にバランス良く縦軸の目盛りがつかます。
- ◆ 棒は最大 6 種類まで描けます。データの行や列を指定するときに、“-” や “,” を使って複数指定してください。
- ◆ データ数の最大は 520 個です。

例題

33 ページ「営業所別月別売上比較」のデータを比較縦棒グラフにします。

R : 33 

G 

5  比較縦棒グラフを指定する。

 グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。

2  データは列を指定する。

2 - 5  2 列目から 5 列目をグラフにする。

 最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。

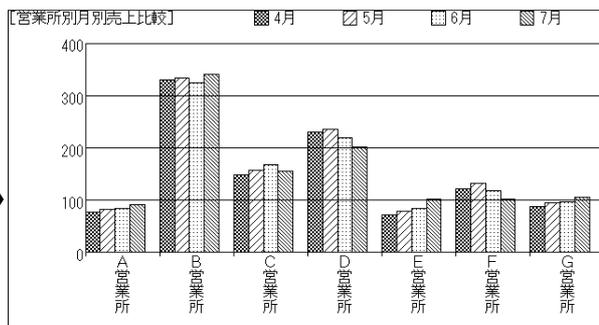
0  最小値は “ 0 ” にする。

 終了する。

実行前

	1	2	3	4	5	6	7
33	[営業所別月別売上比較] 95.04.01 混 L=0043 C=0200						
2	F=12,10,10,10,10						
3							
4		4月	5月	6月	7月		
5							
6	A 営業所	76	82	84	91		
7	B 営業所	329	334	325	341		
8	C 営業所	148	157	167	155		
9	D 営業所	230	235	220	202		
10	E 営業所	72	78	84	102		
11	F 営業所	121	132	118	102		
12	G 営業所	88	95	97	106		
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後



6 折れ線グラフ



データの指定は [行 1 , 列 2] :

横軸に項目名をとる場合は [1] (または [L]) を、1 列目の内容をとる場合は [2] (または [C]) を指定します。

[Enter] キーを押すと、列を指定したことになります。

【行を選んだ場合】

何行目をグラフにしますか :

折れ線グラフにするデータの行番号を指定します。

[Enter] キーを押すと、先頭データ行から最大 6 行をグラフにします。

【列を選んだ場合】

何列目をグラフにしますか :

折れ線グラフにするデータの列番号を指定します。

[Enter] キーを押すと、2 列目から最大 6 列をグラフにします。

最大値はいくつにしますか :

縦軸にとる最大値を指定します。

最小値はいくつにしますか :

[Enter] キーを押すと、グラフにする全データの中から最大値をとります。

縦軸にとる最小値を指定します。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改頁・PFF] , スケール変更 , 表示変更 :

[Enter] キーを押すと、グラフにする全データの中から最小値をとります。

グラフが表示されます。印刷サイズ・スケール変更・表示変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。終了する場合は [Esc] キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 横軸の見出しは、項目名または 1 列目の内容です。
- ◆ 折れ線は最大 6 種類まで描けます。データの行や列を指定するときに、“-” や “,” を使って複数指定してください。
- ◆ 横軸のデータ数は最大 520 個までです。521 個目以降は無視します。
- ◆ 最大値 < 最小値の指定を行うと、最小値が上で最大値が下のグラフになります。
- ◆ 最大値と最小値の指定で、 [Enter] キーのみを押すと、自動的にバランス良く縦軸の目盛りがつきます。
- ◆ データ数の最大は 520 個です。

例題

34 ページ「商品別売上高推移」のデータを折れ線グラフにします。

R : 34 回

G 回

6 回.....折れ線グラフを指定する。

回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。

2 回.....データは列を指定する。

2 - 6 回... 2 列目から 6 列目をグラフにする。

回.....最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。

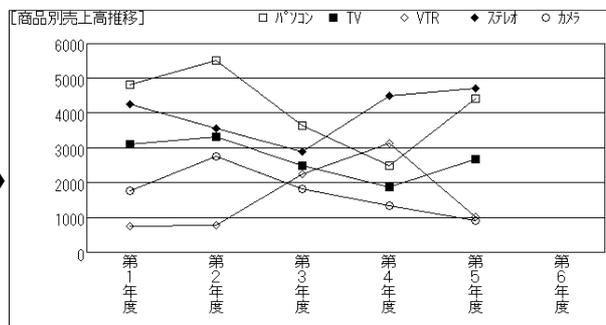
回.....最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。

回.....終了する。

実行前

34	1	2	3	4	5	6	7
1	[商品別売上高推移]					95.04.01	混	L=0055	C=0170
2	F=10,10,10,10,10,10								
3									
4		パソコン	TV	VTR	スチオ	かろ			
5									
6	第1年度	4,821	3,087	756	4,253	1,756			
7	第2年度	5,511	3,314	762	3,568	2,756			
8	第3年度	3,641	2,495	2,255	2,896	1,823			
9	第4年度	2,493	1,862	3,140	4,485	1,326			
10	第5年度	4,415	2,679	1,011	4,711	905			
11	第6年度								
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
仕事は=									

実行後



7 回帰分析グラフ I

データの指定は [行 1 , 列 2] :

行方向のデータを使う場合は [1] (または [L]) を、列方向のデータを使う場合は [2] (または [C]) を指定します。

縦軸は何列 (行) 目にしますか :

[2] キーを押すと、列を指定したことになります。

グラフの縦軸にとる列、または行番号を指定します。1 行または 1 列のみ指定できます。 [2] キーを押すと、2 列目または先頭データ行をとります。

横軸は何列 (行) 目にしますか :

グラフの横軸にとる列、または行番号を指定します。1 行または 1 列のみ指定できます。

[2] キーを押すと、3 列目または (先頭データ行 + 1) 行目をとります。

重みは何列 (行) 目ですか :

グラフの点にもたせる重みの列または、行番号を指定します。1 行または 1 列のみ指定できます。 [2] キーを押すと、重みをつけません。

縦軸の最大値はいくつにしますか :

縦軸にとる最大値を指定します。

[2] キーを押すと、縦軸にとったデータの中から最大値をとります。

縦軸の最小値はいくつにしますか :

縦軸にとる最小値を指定します。

[2] キーを押すと、縦軸にとったデータの中から最小値をとります。

横軸の最大値はいくつにしますか :

横軸にとる最大値を指定します。

[2] キーを押すと、横軸にとったデータの中から最大値をとります。

横軸の最小値はいくつにしますか :

横軸にとる最小値を指定します。

[2] キーを押すと、横軸にとったデータの中から最小値をとります。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改頁・PFF] , スケール変更 :

グラフが表示されます。印刷サイズ・スケール変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。終了するときは [2] キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 重みの列が “0” や負の値の場合、赤色で表示します。
- ◆ グラフの下の “ $Y = \square \times X + \square$ ” は、直線回帰式です。また、“e” は指数を意味します。
- ◆ データ数の最大は、2000 個です。

直線回帰式とは

回帰分析グラフ で表示される直線のことを、直線回帰線といい、各データとの距離が最小となる角度と位置で引かれています。直線回帰式は、直線回帰線を表すための式です。回帰分析グラフ ではグラフの下に、指数 e を使って表現されています。グラフに表示される式を通常の変現に変えると、次のようになります。

$$Y = (1.3147833 e + 000) * X + (5.2644435 e + 001)$$

↓

$$Y = (1.3147833 \times 10^0) * X + (5.2644435 \times 10^1)$$

↓

$$y = 1.3147833 x + 52.644435$$

また、画面右下に表示される相関係数は、- 1 ~ 1 の範囲の値になります。相関係数が 1 に近いほど、縦軸のデータの正相関が高いこととなります。逆に、- 1 に近いほど、逆相関が高いこととなります。

例題

35 ページ「対売上広告費用効果」のデータを回帰分析グラフ にします。

R : 35回

G 回

7 回.....回帰分析グラフ を指定する。

回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。

2 回.....データは列を指定する。

2 回.....縦軸には 2 列目を指定する。

3 回.....横軸には 3 列目を指定する。

4 回.....重みには 4 列目を指定する。

回.....縦軸の最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。

回.....縦軸の最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。

回.....横軸の最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。

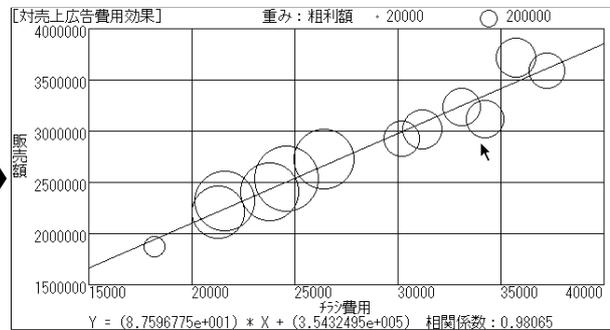
回.....横軸の最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。

回.....終了する。

実行前

月	販売額	広告費用	粗利益
1	1,870,000	18,200	225,000
2	2,320,000	21,600	641,000
3	3,720,000	35,700	422,000
4	2,540,000	24,600	688,000
5	3,120,000	34,200	406,000
6	2,410,000	23,800	623,000
7	3,596,000	37,200	393,000
8	2,210,000	21,300	561,000
9	2,730,000	26,400	652,000
10	3,240,000	33,100	407,000
11	2,930,000	30,200	385,000
12	3,020,000	31,200	431,000
			20,000

実行後



8 レーダーチャートグラフ

データの指定は [行 1 , 列 2] :

まわりの見出しに項目名をとる場合は  (または ) を、1 列目の内容を使う場合は  (または ) を指定します。
 キーを押すと、列を指定したことになります。

基準にする列 (行) は :

各チャートの上限値にあたるデータの列番号、または行番号を指定します。
 キーを押すと、各データの最大値をとります。

何列 (行) 目をグラフにしますか :

レーダーチャートにするデータの列番号、または行番号を指定します。
 キーを押すと、2 列目または先頭データ行から最大 6 列または 6 行をグラフにします。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改頁・PFF] :

グラフが表示されます。印刷サイズをプルダウンメニューからマウスで選択します。終了する場合は、 キーを押します。

INFORMATION

- ◆まわりの見出しは、項目名または 1 列目の内容です。レーダー線の数は最大 6 つです。データの行や列を指定するときに “-” や “,” を使って複数指定してください。
- ◆データ数は 12 個までで、13 個目以降は無視します。
- ◆基準にする行 (列) で指定したデータは、チャートの上限値 (円周にあたる部分) です。
- ◆負のデータは “0” として扱います。
- ◆レーダーチャートは平均 (標準) 状態を基準に、分析するデータとの比率を比べ、全体の傾向をみるものです。

例題

36 ページ「人事考課表」のデータをレーダーチャートグラフにします。

R : 36 画

G 画

8 画.....レーダーチャートグラフを指定する。

画.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。

1 画.....データは行を指定する。

13 画.....13 行目 (基準値) を基準にする。

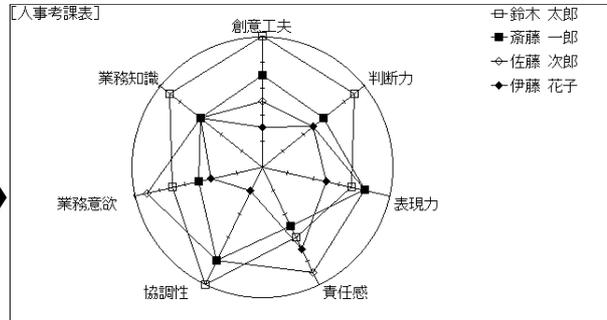
6 - 9 画.....6 行目から 9 行目をグラフにする。

画.....終了する。

実行前

社員名	創意工夫	判断力	表現力	責任感	協調性	業務意欲	業務知識
鈴木 太郎	10	9	7	6	10	7	9
斎藤 一郎	7	6	8	5	8	5	6
佐藤 次郎	5	5	8	9	8	9	6
伊藤 花子	3	5	5	7	2	4	6
基準値	10	10	10	10	10	10	10
平均	4.6	4.6	4.7	4.8	4.3	4.6	4.7
合計	41	41	42	43	39	41	42

実行後



9 積み重ね棒グラフ (立体表示ができます)

データの指定は [行 1 , 列 2] :

横軸に項目名をとる場合は **1** (または **L**) を、1 列目をとる場合は **2** (または **C**) を指定します。 **⇨** キーを押すと、列を指定したことになります。

【行を選んだ場合】

何行目をグラフにしますか :

棒グラフにするデータの行番号を指定します。
⇨ キーを押すと、先頭データ行から最大 12 行をグラフにします。

【列を選んだ場合】

何列目をグラフにしますか :

棒グラフにするデータの列番号を指定します。
⇨ キーを押すと、2 列目から最大 12 列をグラフにします。

最大値はいくつにしますか :

縦軸にとる最大値を指定します。
⇨ キーを押すと、行または列の合計の中から最大値をとります。

最小値はいくつにしますか :

縦軸にとる最小値を指定します。
⇨ キーを押すと、最小値をとります。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改
頁・PFF] , スケール変更、表示変更 :

グラフが表示されます。印刷サイズ・スケール変更・表示変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。終了する場合は **⇨** キーを押します。

INFORMATION

- ◆横軸の見出しは、表の項目名または 1 列目の内容です。
- ◆横軸のデータ数は最大 520 個までです。521 個目以降は無視します。
- ◆データの種類 (1 つの棒に積める数) は 12 個までです。
- ◆最大値と最小値の指定で **⇨** キーのみを押すと、自動的にバランス良く縦軸の目盛りがつかます。
- ◆データ数の最大は 520 個です。

例題

37 ページ「営業所別上半期売上比較」のデータを積み重ね棒グラフにします。

R : 37

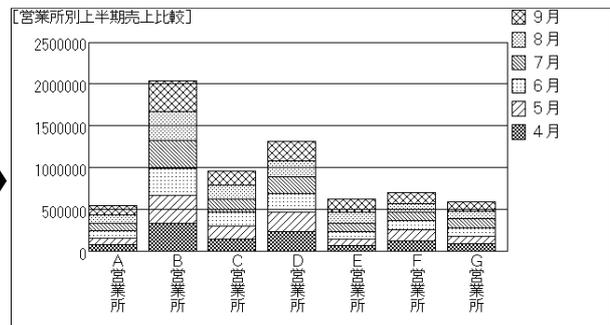
G

- 9 積み重ね棒グラフを指定する。
- ⇨ グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2 データは列を指定する。
- 2 - 7 2 列目から 7 列目までをグラフにする。
- ⇨ 最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。
- ⇨ 最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。
- ⇨ 終了する。

実行前

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
A 営業所	76,000	82,000	84,000	91,000	98,000	112,000
B 営業所	329,000	334,000	325,000	341,000	346,000	367,000
C 営業所	148,000	157,000	167,000	155,000	164,000	172,000
D 営業所	230,000	235,000	220,000	202,000	194,000	232,000
E 営業所	72,000	78,000	84,000	102,000	135,000	153,000
F 営業所	121,000	132,000	118,000	102,000	98,000	131,000
G 営業所	88,000	95,000	97,000	106,000	91,000	110,000

実行後



10 バランスグラフ

1 番目の項目名の列は [終了 ・] :

グラフにするデータの項目名が入っている列番号を指定します。列を指定しないで  キーを押すと、1 列目を指定したことになります。

2 ~ 5 番目の項目名の列は [終了 ・] :

と同様に、分析するデータの項目名が入っている列番号を指定します。全部の指定を終えたら  キーを押します。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改頁・PFF] :

グラフが表示されます。印刷サイズをプルダウンメニューからマウスで選択します。終了する場合は、 キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 縦軸の目盛りは、0 から 100 まで 10 ずつ分割した数値です。
- ◆ バランスグラフにする表は、他のグラフと異なり、分析する項目とデータの値は対にしてください。(項目列、データ列、項目列、データ列…の順です)
- ◆ 必ず、各データ列の合計は一致させてください。
- ◆ 項目を書く場所に “@@” を入れると、すぐ左の項目・数値と同じデータという意味になります。
- ◆ 負の値は最下行のみ可能です。
- ◆ データ数は、1 つの項目について最大 10 個までです。11 個目以降のデータは無視します。
- ◆ 項目名や数値データは通常グラフの中に入れますが、入りきらない場合は、“利益 150” のようにグラフの右側に表示されます。
- ◆ 項目列とデータ列の間には、ケイ線を引かないようにしてください。
- ◆ データ数の最大は 600 個です。

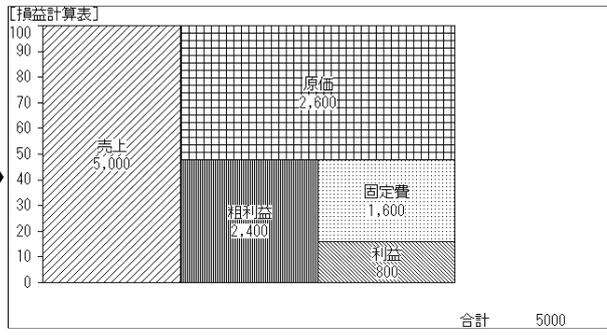
例題 38 ページ「損益計算書」のデータをバランスグラフにします。

- R : 38回
 G 回
 10回.....バランスグラフを指定する。
 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
 1 回..... 1 番目の項目名の列は、1 列目を指定する。
 3 回..... 2 番目の項目名の列は、3 列目を指定する。
 5 回..... 3 番目の項目名の列は、5 列目を指定する。
 回..... 4 番目の項目名の列は、指定しない。
 回.....終了する。

実行前

1	2	3	4	5	6	+	6	+	7	+
[損益計算表]										
F=8,10,8,10,8,10 95.04.01 混 L=0050 C=0170										
科目	金額	科目	金額	科目	金額					
売上	5,000	原価	2,600	@@	1,600					
		粗利益	2,400	固定費	800					
				利益						

実行後



1 1 回帰分析グラフⅡ



データの指定は [行 1 , 列 2] :

行方向のデータを使う場合は (または) を、列方向のデータを使う場合は (または) を指定します。

キーを押すと、列を指定したことになります。

グラフの縦軸にとる列、または行番号を指定します。

キーを押すと、2 列目または先頭データ行をとります。

縦軸は何列 (行) 目にしますか :

横軸は何列 (行) 目にしますか :

グラフの横軸にとる列、または行番号を指定します。

キーを押すと、3 列目または (先頭データ行 + 1) 行目をとります。

重みは何列 (行) 目ですか :

グラフの点にもたせる重みの列、または行番号を指定します。

キーを押すと、重みをつけません。

グラフのパターンは
[・ 1 , ・ 2 , ・ 3] :

グラフに表示するデータの相対的な位置を見るための分割線を、番号で選択します。

【パターン “ 2 ” または “ 3 ” を選んだ場合】

グラフの左半分につける名称は :

グラフの左半分 (・ または ・) につける名称を指定します。

キーを押すと、何もつけません。

グラフの右半分につける名称は :

グラフの右半分 (・ または ・) につける名称を指定します。

キーを押すと、何もつけません。

縦軸の上の値はいくつにしますか :

縦軸の上の値を指定します。 キーを押すと、データの中から最大値をとります。

縦軸の下の値はいくつにしますか :

縦軸の下の値を指定します。 キーを押すと、データの中から最小値をとります。

横軸の右の値はいくつにしますか :

横軸の右の値を指定します。 キーを押すと、データの中から最大値をとります。

横軸の左の値はいくつにしますか :

横軸の左の値を指定します。 キーを押すと、データの中から最小値をとります。

印刷は [特大・ 0 , 大・ 1 , 小・ 2 , 改
頁・ P F F] , スケール変更 :

グラフが表示されます。印刷サイズ・スケール変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。終了する場合は キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 縦軸、横軸が数値以外の場合は描かれませんが、
- ◆ 重みの列が “ 0 ” や負の値の場合、赤色で表示し、数値以外は無視します。
- ◆ グラフ内の各点の名称には、項目名または 1 列目の内容を使い、全角 5 文字、半角 10 文字まで表示できます。
- ◆ データの最大は、2000 個です。
- ◆ 最大値と最小値の指定で、 キーのみを押すと、自動的にバランス良く縦軸・横軸の目盛りがつきます。

例題

39 ページ「商品別ポートフォリオ分析」のデータを回帰分析グラフ にします。

R : 39回

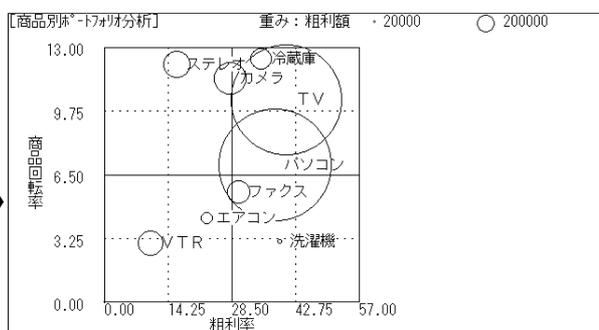
G 回

- 11回.....回帰分析グラフ を指定する。
- 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2 回.....データには列を指定する。
- 6 回.....縦軸には 6 列目を指定する。
- 4 回.....横軸には 4 列目を指定する。
- 3 回.....重みには 3 列目を指定する。
- 1 回.....グラフのパターンには 1 を指定する。
- 13回.....縦軸の上の値は “ 13 ” にする。
- 0 回.....縦軸の下の値は “ 0 ” にする。
- 57回.....横軸の右の値は “ 57 ” にする。
- 0 回.....横軸の左の値は “ 0 ” にする。
- 回.....終了する。

実行前

商品	売上額	粗利額	粗利率	在庫額	商品回転率
パソコン	3,110,000	1,181,000	38.0	444,000	7.0
TV	2,890,000	1,173,000	40.6	280,000	10.3
VTR	2,563,000	262,000	10.2	848,000	3.0
ステレオ	1,845,000	295,200	16.0	153,000	12.1
カメラ	1,250,000	350,000	28.0	110,000	11.4
ファクス	806,000	241,000	29.9	145,000	5.6
冷蔵庫	632,000	221,000	35.0	51,000	12.4
エアコン	556,000	127,000	22.8	130,000	4.3
電子レンジ	333,000	116,000	34.8	24,000	13.9
洗濯機	148,000	58,000	39.2	47,000	3.1
		20,000			

実行後



12 両軸グラフ (立体表示ができます)

棒グラフと折れ線グラフを一つのグラフで表示したもので、左縦軸は棒グラフ、右縦軸は折れ線グラフの目盛りです。

データの指定は [行 1 , 列 2] :

横軸に項目行をとる場合は **[1]** (または **[L]**) を、1 列目の内容をとる場合は **[2]** (または **[C]**) を指定します。

[⇐] キーを押すと、列を指定したことになります。

棒グラフの縦軸は何列 (行) 目にしますか :

棒グラフの縦軸にとるデータの列、または行番号を指定します。

[⇐] キーを押すと、2 列目または先頭データ行をとります。

折れ線グラフの縦軸は何列 (行) 目にしますか :

折れ線グラフの縦軸にとるデータの列、または行番号を指定します。

[⇐] キーを押すと、3 列目または (先頭データ行 + 1) 行目をとります。

棒グラフの最大値はいくつにしますか：

棒グラフの縦軸にとる最大値を指定します。
☞キーを押すと、全データの中から最大値をとります。

棒グラフの最小値はいくつにしますか：

棒グラフの縦軸にとる最小値を指定します。
☞キーを押すと、全データの中から最小値をとります。

折れ線グラフの最大値はいくつにしますか：

折れ線グラフの縦軸にとる最大値を指定します。
☞キーを押すと、全データの中から最大値をとります。

折れ線グラフの最小値はいくつにしますか：

折れ線グラフの縦軸にとる最小値を指定します。
☞キーを押すと、全データの中から最小値をとります。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改頁・P F F] , スケール変更 , 表示変更：

グラフが表示されます。印刷サイズ・スケール変更・表示変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。終了するときは☞キーを押します。

INFORMATION

- ◆左の縦軸の目盛りは棒グラフの目盛りです。右の縦軸の目盛りは折れ線グラフの目盛りです。
- ◆⑥⑦で最大値<最小値の指定を行うと、最小値が上で最大値が下のグラフになります。
- ◆最大値と最小値の指定で、☞キーのみを押すと、自動的にバランス良く縦軸の目盛りがつかます。
- ◆横軸の見出しは、項目名または1列目の内容です。
- ◆データ数は最大52個です。
- ◆棒グラフ、折れ線グラフとも最大6種類まで描けます。

例題

40 ページ「商品別売上高」のデータを両軸グラフにします。

R : 40回

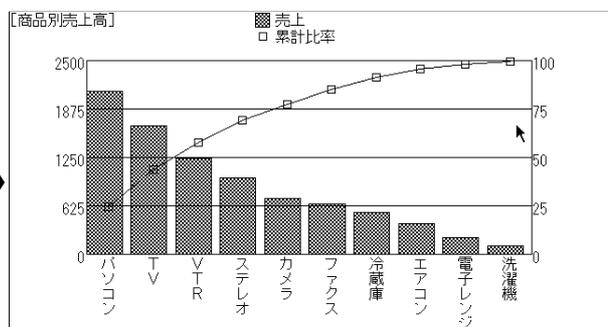
G ☞

- 12回.....両軸グラフを指定する。
- ☞.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2回.....データには列を指定する。
- 2回.....棒グラフの縦軸には2列目を指定する。
- 3回.....折れ線グラフの縦軸には3列目を指定する。
- 2500回.....棒グラフの最大値は“2500”にする。
- 0回.....棒グラフの最小値は“0”にする。
- 100回.....折れ線グラフの最大値は“100”にする。
- 0回.....折れ線グラフの最小値は“0”にする。
- ☞.....終了する。

実行前

	売上	累計比率	
1			
2			
3			
4			
5			
6	パソコン	2,105	24.4
7	TV	1,654	43.6
8	VTR	1,235	57.9
9	ステレオ	987	69.3
10	カメラ	723	77.6
11	ファクス	643	85.0
12	冷蔵庫	543	91.3
13	エアコン	398	95.9
14	電子レンジ	214	98.3
15	洗濯機	107	99.5
16			
17			
18			
19			
20			
21			

実行後



13 XYグラフ



データの指定は [行 1 , 列 2] :

行方向のデータを使う場合は $\boxed{1}$ (または \boxed{L}) を、列方向のデータを使う場合は $\boxed{2}$ (または \boxed{C}) を指定します。

$\boxed{\leftarrow}$ キーを押すと、列を指定したことになります。

縦軸は何列 (行) 目にしますか :

グラフの縦軸にとる列、または行番号を指定します。最大6列 (行) まで指定できます。

$\boxed{\leftarrow}$ キーを押すと、2列目または先頭データ行をとります。

横軸は何列 (行) 目にしますか :

グラフの横軸にとる列、または行番号を指定します。最大6列 (行) まで指定できます。

$\boxed{\leftarrow}$ キーを押すと、3列目または (先頭データ行 + 1) 行目をとります。

縦軸の最大値はいくつにしますか :

縦軸にとる最大値を指定します。

$\boxed{\leftarrow}$ キーを押すと、縦軸にとったデータの中から最大値をとります。

縦軸の最小値はいくつにしますか :

縦軸にとる最小値を指定します。

$\boxed{\leftarrow}$ キーを押すと、縦軸にとったデータの中から最小値をとります。

横軸の最大値はいくつにしますか :

横軸にとる最大値を指定します。

$\boxed{\leftarrow}$ キーを押すと、横軸にとったデータの中から最大値をとります。

横軸の最小値はいくつにしますか :

横軸にとる最小値を指定します。

$\boxed{\leftarrow}$ キーを押すと、横軸にとったデータの中から最小値をとります。

印刷は [特大・0 , 大・1 , 小・2 , 改
頁・P F F] , スケール変更 , 表示変更 :

グラフが表示されます。印刷サイズ・スケール変更・表示変更をプルダウンメニューからマウスで選択します。

終了する場合は $\boxed{\leftarrow}$ キーを押します。

INFORMATION

- ◆最大6つまで描けます。データの行や列を指定するときに “-” “,” を使って複数指定してください。
- ◆項目名は、先頭項目行または1列目の縦軸指定のデータをとります。
- ◆縦軸の名称は、最終項目行または2列目の縦軸指定のデータをとります。
- ◆横軸の名称は、最終項目行または2列目の横軸指定のデータをとります。
- ◆データの最大は、1本につき100個、全部で2000個です。
- ◆最大値と最小値の指定で $\boxed{\leftarrow}$ キーのみを押すと、自動的にバランス良く縦軸・横軸の目盛りがつかます。

例題

41 ページ「商品別売上高粗利率推移」のデータを X Y グラフにします。

R : 41回

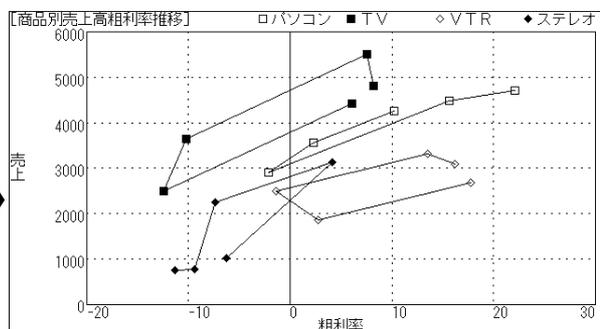
G 回

- 13回..... X Y グラフを指定する。
- 回..... グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2 回..... データには列を指定する。
- 2 , 4 , 6 , 8 回..... 縦軸には 2、4、6、8 列目を指定する。
- 3 , 5 , 7 , 9 回..... 横軸には 3、5、7、9 列目を指定する。
- 回..... 縦軸の最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。
- 回..... 縦軸の最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。
- 回..... 横軸の最大値は、グラフにするデータの中から最大値をとる。
- 回..... 横軸の最小値は、グラフにするデータの中から最小値をとる。
- 回..... 終了する。

実行前

パソコン		TV		VTR		ステレオ		
売上	粗利率	売上	粗利率	売上	粗利率	売上	粗利率	
1	4253	10.2	4821	8.2	3087	16.2	756	-11.3
2	3568	2.3	5511	7.5	3314	13.5	762	-9.4
3	2896	-2.1	3641	-10.2	2495	-1.4	2255	-7.4
4	4485	15.6	2493	-12.4	1862	2.8	3140	4.1
5	4711	22.1	4415	6.1	2679	17.8	1011	-6.3

実行後



21 工程管理グラフ



タイプは [1 , 2 , 3] :

タイプを指定してください。

【タイプ のグラフを選んだ場合】

データの指定は [行 1 , 列 2] :

行方向のデータを使う場合は **1** または **L**、列方向のデータを使う場合は **2** または **C** を指定します。 **C** キーを押すと、列を指定したことになります。

作業名は何列 (行) 目ですか :

作業名の列または行を指定します。 **C** キーを押すと、作業名はつけません。

開始時刻は何列 (行) 目ですか :

開始の時刻や日付・年数などの列 (行) を指定します。
C キーを押すと、2 列目または先頭データ行をとります。

終了時刻は何列 (行) 目ですか :

終了の時刻や日付・年数などの列 (行) を指定します。
C キーを押すと、3 列目または (先頭データ行 + 1) 行目をとります。

最大時刻はいくつにしますか：

横軸にとる最大時刻を指定します。

キーを押すと、データの最大時刻をとります。

最小時刻はいくつにしますか：

横軸にとる最小時刻を指定します。 キーを押すと、0をとります。

いくつずつ目盛りをふりますか：

指定した最小時刻から最大時刻までを、いくつずつで区切って目盛りをふるか指定します。

キーを押すと、自動的にバランス良く目盛りをふります。

やりなおしますか [Y / N]：

グラフが表示されます。最大・最小時刻の指定をやりなおす場合は を、終了する場合は (または) キーを指定します。

と入力すると横方向に縮小します。 と入力すると拡大します。

1 列目または4 行目に同じデータがいくつもあるような場合は、

でひとまとめにできます。 で元に戻ります。

例題

42 ページ「会議室予約状況」のデータを工程管理グラフ (タイプ) にします。

R : 42

G

21 工程管理グラフを指定する。

..... グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。

1 タイプ を指定する。

2 データには列を指定する。

2 作業名には2 列目を指定する。

3 開始時刻には3 列目を指定する。

4 終了時刻は4 列目を指定する。

22 最大時刻は “ 22 ” にする。

8 最小時刻は “ 8 ” にする。

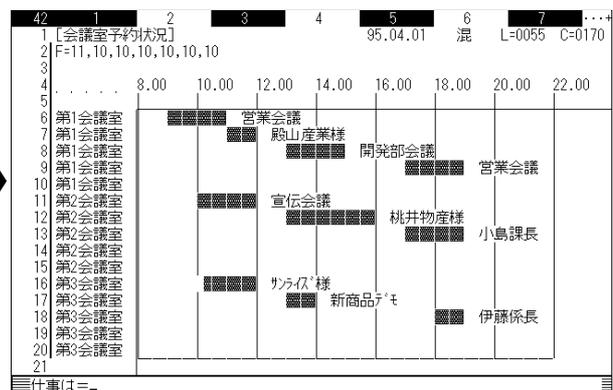
2 “ 2 ” で区切って目盛りをふる。

..... 終了する。

実行前

42	1	2	3	4	5	6	7	...
1	【会議室予約状況】			95.04.01	混	L=0055	C=0170	
2	F=9,10,12,12							
3								
4	会議室NO.	会議名	開始時刻	終了時刻				
5								
6	第1会議室	営業会議	9.00	11.00				
7	第1会議室	殿山産業様	11.00	12.00				
8	第1会議室	開発部会議	13.00	15.00				
9	第1会議室	営業会議	17.00	19.00				
10	第1会議室							
11	第2会議室	宣伝会議	10.00	12.00				
12	第2会議室	桃井物産様	13.00	16.00				
13	第2会議室	小島課長	17.00	19.00				
14	第2会議室							
15	第3会議室	カンライ様	10.30	12.00				
16	第3会議室	新商品デモ	13.00	14.00				
17	第3会議室	伊藤係長	18.00	19.00				
18	第3会議室							
19	第3会議室							
20	第3会議室							
21								
仕事は=								

実行後



【タイプ のグラフを選んだ場合】

データの指定は [行 1 , 列 2] :

行方向のデータを使う場合は (または)、列方向のデータを使う場合は (または) を指定します。 キーを押すと、列を指定したことになります。

作業名は何列(行)目ですか：

作業名の列または行を指定します。[Enter]キーを押すと、作業名はつけません。

前工程名は何列(行)目ですか：

前工程の列または行を指定します。
[Enter]キーを押すと、2列目または先頭データ行をとります。

所要時間は何列(行)目ですか：

所要の時間や日数・年数などの列(行)を指定します。
[Enter]キーを押すと、3列目または(先頭データ行+1)行目をとります。

最大時刻はいくつにしますか：

横軸にとる最大時刻を指定します。
[Enter]キーを押すと、データの最大時刻をとります。

最小時刻はいくつにしますか：

横軸をとる最小時刻を指定します。[Enter]キーを押すと、0をとります。

いくつずつで目盛りをふりますか：

指定した最小時刻から最大時刻までを、いくつずつで区切って目盛りをふるか、指定します。[Enter]キーを押すと、自動的にバランス良く目盛りをふります。

やりなおしますか[Y/N]：

グラフが表示されます。最大・最小時刻の指定をやりなおす場合は[Y]キーを、終了する場合は[N]キー(または[Enter])キーを押します。
[4]キーと入力すると横方向に縮小します。[6]キーと入力すると拡大します。
1列目または4行目に同じデータがいくつもあるような場合は、[8]キーでひとまとめにできます。[2]キーで元に戻ります。

例題

43 ページ「工程管理」のデータを工程管理グラフ(タイプ)にします。

R : 43回

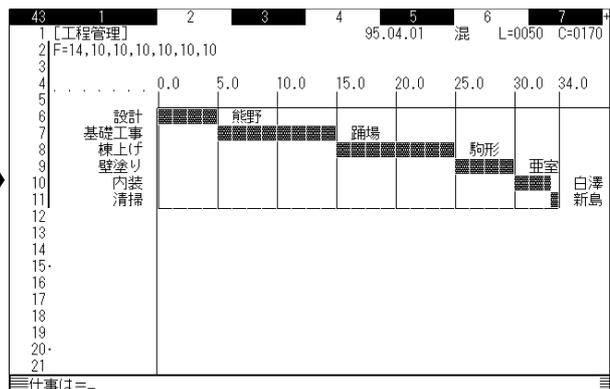
G 回

- 21回.....工程管理グラフを指定する。
- 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 2回.....タイプ を指定する。
- 2回.....データには列を指定する。
- 3回.....作業名には3列目を指定する。
- 2回.....前工程名には2列目を指定する。
- 5回.....所要時間には5列目を指定する。
- 34回.....最大時刻は“34”にする。
- 0回.....最小時刻は“0”にする。
- 5回.....“5”で区切って目盛りをふる。
- 回.....終了する。

実行前

43	1	2	3	4	5	6	7
1	[工程管理]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=12,12,12,12,12						
3							
4	工程名	前工程名	作業名	開始	所要日数		
5							
6	設計	設計	能野	0	5		
7	基礎工事	設計	踏場	0	10		
8	棟上げ	基礎工事	駒形	0	10		
9	壁塗り	棟上げ	押室	30	5		
10	内装	壁塗り	白澤	37	3		
11	清掃	内装	新島	0	1		
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後



【タイプ のグラフを選んだ場合】

データの指定は [行 1 , 列 2] :

行方向のデータを使う場合は **1** (または **L**)、列方向のデータを使う場合は **2** (または **C**) を指定します。

Enter キーを押すと、列を指定したことになります。

作業名は何列 (行) 目ですか :

作業名の列、または行番号を指定します。

Enter キーを押すと、作業名はつけません。

前工程名は何列 (行) 目ですか :

前工程名の列、または行番号を指定します。

Enter キーを押すと、2 列目または先頭データ行をとります。

開始時刻は何列 (行) 目ですか :

開始の時刻や日付・年数などの列 (行) を指定します。

Enter キーを押すと、3 列目または (先頭データ行 + 1) 行目をとります。

前工程で指定された工程の終了時刻と比較して、遅い方の時刻を開始時刻にします。

所要時間は何列 (行) 目にしますか :

所要の時間や日数・年数などの列 (行) を指定します。

Enter キーを押すと、4 列目または (先頭データ行 + 2) 行目をとります。

最大時刻はいくつにしますか :

横軸にとる最大時刻を指定します。

Enter キーを押すと、データの最大値をとります。

最小時刻はいくつにしますか :

横軸にとる最小時刻を指定します。 **0** キーを押すと、0 をとります。

いくつずつで目盛りをふりますか :

指定した最小時刻から最大時刻までを、いくつずつで区切って目盛りをふるか指定します。

Enter キーを押すと、自動的にバランス良く目盛りをふります。

やりなおしますか [Y / N] :

グラフが表示されます。最大・最小時刻の指定をやりなおす場合は **Y** **Enter** を、終了する場合は **N** **Enter** (または **0**) キーを指定します。

4 **Enter** と入力すると横方向に縮小します。 **6** **Enter** と入力すると拡大します。

1 列目または 4 行目に同じデータがいくつもあるような場合は、 **8** **Enter** でひとまとめにできます。 **2** **Enter** で元に戻ります。

例題

43 ページ「工程管理」のデータを工程管理グラフ（タイプ ）にします。

R : 43回

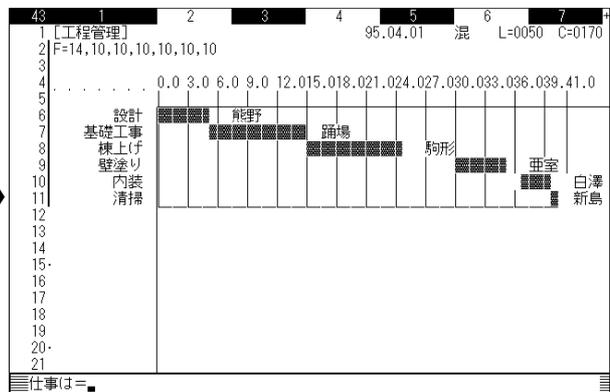
G 回

- 21回.....工程管理グラフを指定する。
- 回.....グラフの表題には、表のタイトルをそのまま使う。
- 3 回.....タイプ を指定する。
- 2 回.....データには列を指定する。
- 3 回.....作業名には 3 列目を指定する。
- 2 回.....前工程名には 2 列目を指定する。
- 4 回.....開始時刻には 4 列目を指定する。
- 5 回.....所要時間には 5 列目を指定する。
- 41回.....最大時刻は “ 41 ” にする。
- 0 回.....最小時刻は “ 0 ” にする。
- 3 回..... “ 3 ” で区切って目盛りをふる。
- 回.....終了する。

実行前

43	1	2	3	4	57.....
1	[工程管理]			95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=12,12,12,12,12					
3						
4		工程名	前工程名	作業名	開始	所要日数
5						
6		設計	設計	能野	0	5
7		基礎工事	設計	踏場	0	10
8		棟上げ	基礎工事	駒形	0	10
9		壁塗り	棟上げ	中室	30	5
10		内装	壁塗り	白澤	37	3
11		清掃	内装	新島	0	1
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

実行後



INFORMATION

- ◆ 工程管理グラフの保存は、G命令終了後にW命令で行います。
- ◆ 縦軸の見出しは、1 列目または項目名の内容です。
- ◆ 負のデータは “ 0 ” として扱います。
- ◆ 工程管理グラフにする表は、工程名を 1 列目にしてください。
- ◆ “ やりなおしますか [Y/N] : ” で 8 を指定すると、重なったデータに “ ! ” が付きます。
- ◆ データの最大数は 1000 個です。

GEDR

Graphic Editor Read (グラフィック エディター リード)

DOS版マイツールのGED命令で作成した絵を読み出す

- DOS版マイツールのGED命令で作成した、絵のデータを画面上に表示します。

実行前の確認

- GEDR命令で画面に読み出された絵は、表示されているだけです。編集などの操作を行うことはできません。

仕事は =



読み出し先頭ページは :

読み出す絵が書き込まれている、先頭ページ番号を指定します。

- Aドライブのフロッピーの1ページから読み出す。
単独指定、表題指定、ワイルド指定が可能です。



【GED命令で作成した絵を表示した例】



INFORMATION

- ◆GEDR命令で読み出せるのは、DOS版マイツールのGED命令で作成した絵のデータのみです。
- ◆DOS版マイツールのGED命令で作成した絵を、修正したり新しく保存したりすることはできません。
絵などのイメージデータを新しく作成したい場合は、Windowsのペイントなどのグラフィックソフトを利用してください。
- ◆また、ペイントで作成したイメージデータは、BMP形式のファイルとして保存すればマイツールに取り込むことができます。

オンラインヘルプの目次を表示する

- 命令の操作手順を知りたいとき、指定の仕方がわからないときなどに便利なオンラインヘルプの目次を表示します。
- マイツールヘルプは階層構造になっており、関連した項目を次々と探していくことができます。

仕事は =

H E L P ⇐

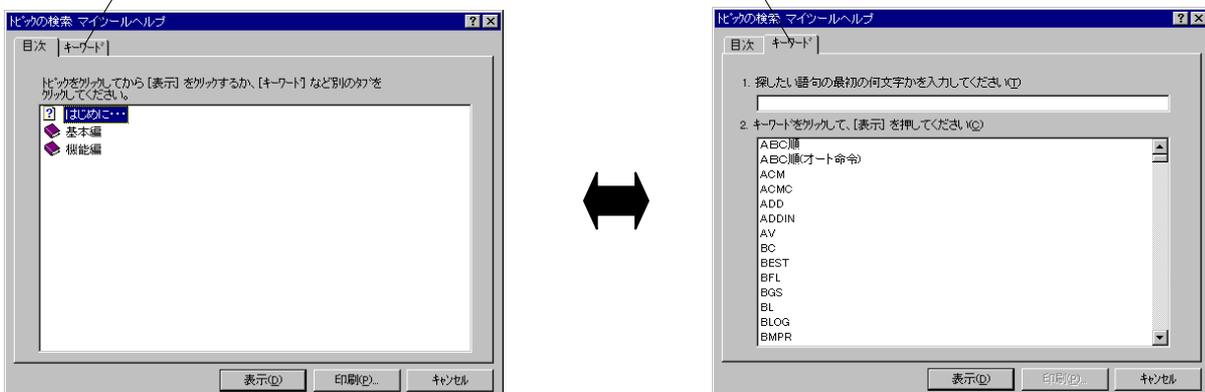


左のようなマイツールヘルプの「トピックの検索」が表示されます。

※前回、「キーワード」に切り替えてからマイツールヘルプを終了している場合には、「キーワード」の画面が最初に表示されます。

ヘルプは、「目次」と「キーワード」に大きく分かります。
「目次」と「キーワード」は、上部のタブをマウスでクリックして切り替えます。

上部のタブをクリックして切り替えます。



「目次」からは、文字通り本の目次を引くように、目的の項目を探せます。
「キーワード」からは、キーワードとなる単語から関連する項目を探せます。



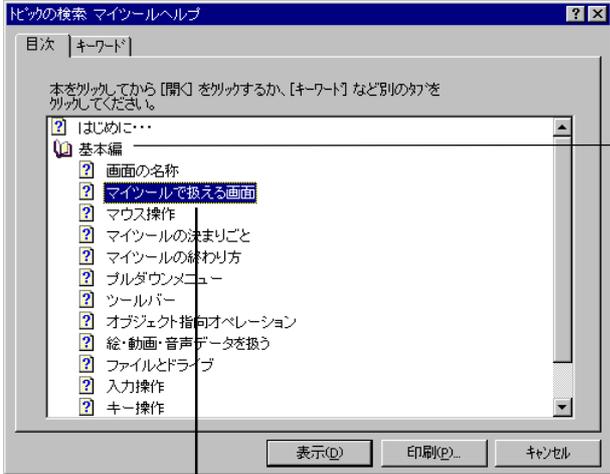
目次の使い方



「目次」には次のようなアイコンが表示されます。

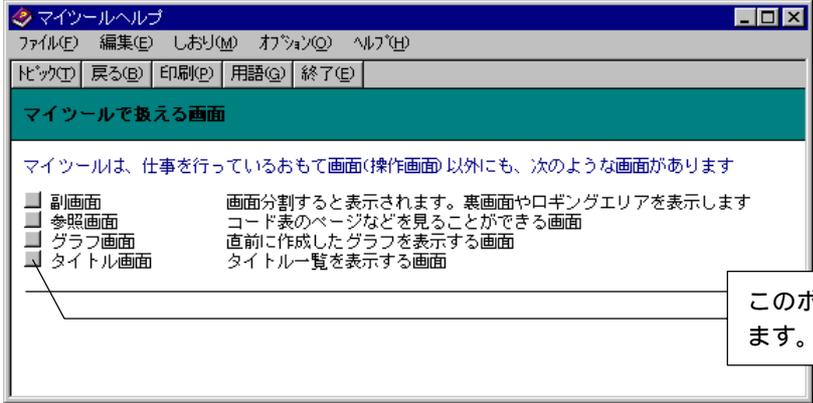
-  (トピック) ...最終的なヘルプの項目です。選択して[表示]ボタンをクリックするか、ダブルクリックすると、解説が表示されます。
-  (本)関連するトピックの一覧がテーマごとに分類されています。選択して[表示]ボタンをクリックするか、ダブルクリックすると、トピックの一覧が表示されます。さらに“本”が表示される場合もあります。

基本編の検索の例



本を開いている(トピックの一覧が表示されている)時は、アイコンの形状がに変わります。

トピックをダブルクリックすると、解説が表示されます。



このボタンをクリックすると、さらに解説を表示します。

- メニューバーの下に表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。
- [トピック]「トピックの検索」のウィンドウを表示します。
 - [戻る]ひとつ前に表示していた画面に戻ります。
 - [印刷]表示されている解説を印刷します。
 - [用語]マイツールで使われる用語の解説を表示します。
 - [終了]マイツールヘルプを終了します。
- [用語] ボタンは、選択しているトピックにより表示されない場合もあります。

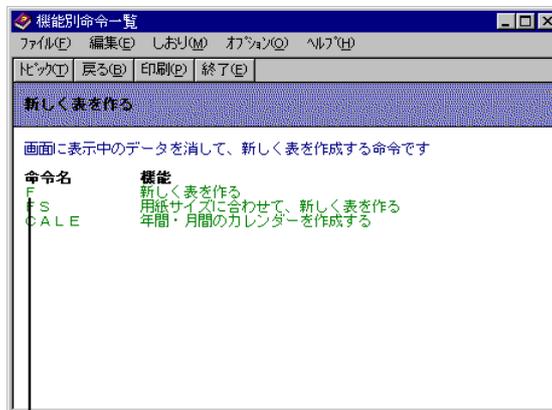
機能編の検索の例



機能編は次の4つに分かれています。

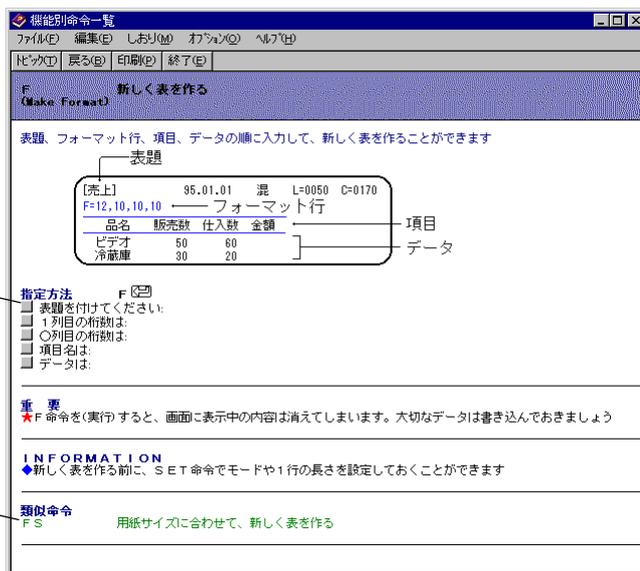
- 機能別命令一覧.....マイツールで実行できる機能が、種類別に分類されて表示されます。機能から目的の解説を引くことができます。
- ABC順命令一覧.....コマンド名のABC順で解説を引くことができる目次を表示します。
- オート命令一覧.....オートプログラムの命令の一覧を表示します。
- エラーメッセージ.....誤った操作を行ったときに表示される、エラーメッセージの一覧を表示します。

機能別命令一覧



命令実行時に表示されるメッセージごとに解説を表示できます。

類似する命令がある場合は、そのコマンド名が表示されます。クリックすると該当するヘルプを表示します。

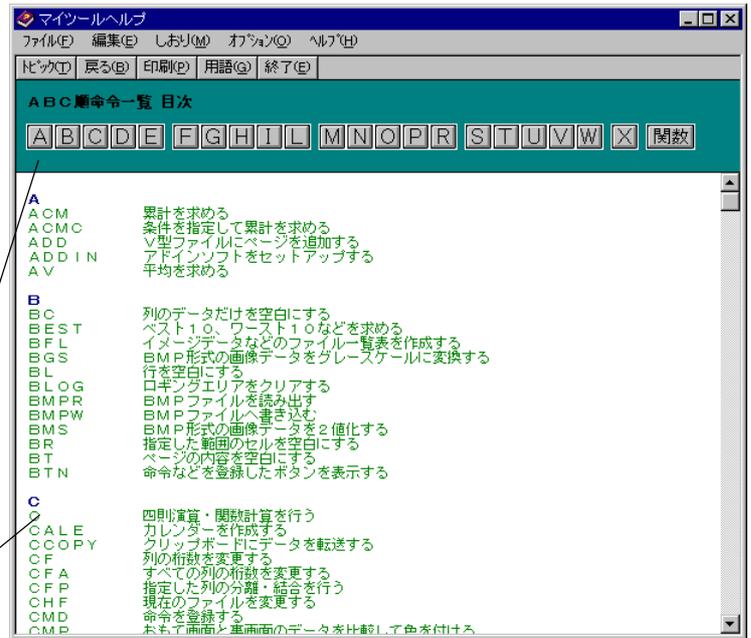


A B C 順命令一覧



ボタンをマウスで左クリックすると、その言葉を先頭にして表示します。

コマンド名やコマンドの説明を左クリックすると、コマンドの解説を表示します。

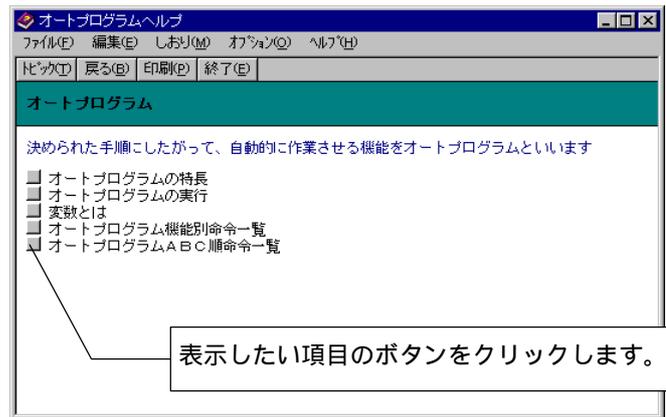


最終的に表示されるコマンドの解説は、「機能別命令一覧」で表示されるものと同じです。

オート命令一覧



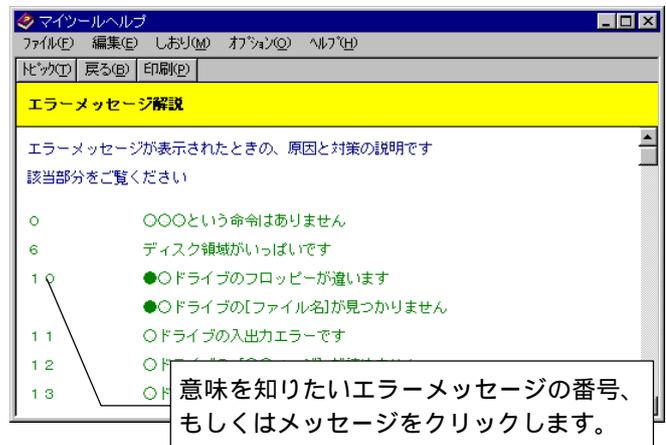
表示したい項目のボタンをクリックします。



エラーメッセージ



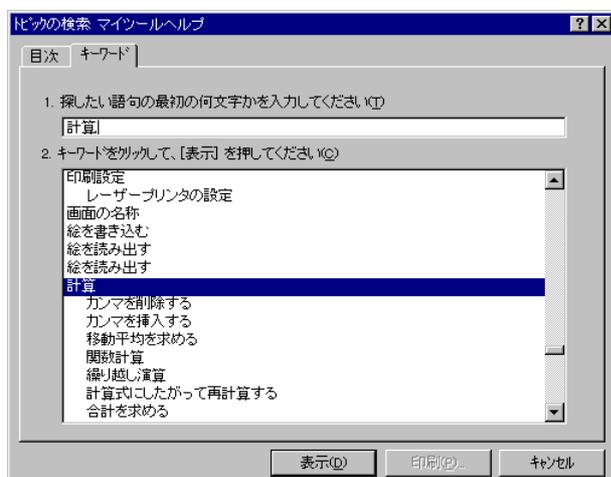
意味を知りたいエラーメッセージの番号、もしくはメッセージをクリックします。



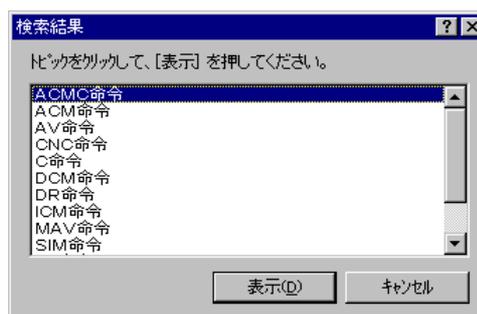
キーワードの使い方



検索する言葉の、最初の数文字を入力します。



検索されたキーワードが表示されたら、キーワードをダブルクリックすることで、解説を表示します。ただし、入力した言葉に対して、関連する複数のトピックがある場合、下のようなウィンドウが表示されます。



INFORMATION

- ◆ マイツールヘルプを表示中、マイツールを終了させてもマイツールヘルプはそのまま残ります。マイツール側でマイツールヘルプを終了させることはできません。



Insert Column (インサート カラム)

表に列を挿入して、データを入力する

- 表に新しい1列を挿入し、次々とデータを入力します。

実行前の確認

- 挿入できる列の桁数は、漢字モードの場合 50 桁まで、混在モードの場合は 100 桁までです。
- ただし、ページの桁数を超えてしまう場合は挿入できません。

類似命令

- I L ...表に行を挿入して、データを入力します。
- E C ...列方向にデータを入力します。

仕事は =



何列目の前に挿入しますか :

何列目の前に列を挿入するか、列番号を指定します。

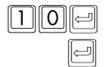
- 2 列目の前に挿入する。
- 最終列の後ろに追加する。
単独、H・T、条件式、@指定が可能です。



桁数は :

挿入する列の桁数を指定します。

- 10 桁の列を挿入する。
- とりあえず 14 桁の列を挿入する。
キーのみを押すと 14 桁の列を挿入します。ただし、14 桁の列を挿入するだけの桁数があまっていない場合、残りの桁数で列を挿入します。



項目名は :

挿入された列の項目名を入力します。

- 項目名は“住所”にする。

住所

データは :

データを入力します。 キーを押すと終了します。

INFORMATION

- ◆ キーを押すまで、挿入した列に、次々とデータを入れ続けることができます。

例題

17 ページ「作品コード表」に、備考欄を挿入します。

R : 17回

I C 回

回.....最終列の右に挿入する。

20回.....20 桁の列を挿入する。

備考回.....項目名 “ 備考 ” を入力する。

〔Esc〕データの入力を終了する。

実行前

1	2	3	4	5	6	7
1	[作品コード表]			95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=10,24					
3						
4	作品コード	作品名				
5						
6	10053	あるホテルの一生				
7	10146	2階のダーリン				
8	10146	アイアンロード				
9	10283	罪とバス				
10	10305	スーパータイガース				
11	10461	健康体操 入門編				
12	10462	健康体操 応用編				
13	10497	ドラ猫ブルース				
14	10553	インダス文明の謎				
15	10594	たそがれの旅立ち				
16	10665	ミラクルマスター				
17	10732	恐怖のタラコスバグティ				
18	10848	ルアーの作り方				
19	10922	カクテル・ガイド				
20	10952	小さな勇者				
21	10991	おいしいコーヒー				

実行後

1	2	3	4	5	6	7
1	[作品コード表]			95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=10,24,20					
3						
4	作品コード	作品名	備考			
5						
6	10053	あるホテルの一生				
7	10146	2階のダーリン				
8	10146	アイアンロード				
9	10283	罪とバス				
10	10305	スーパータイガース				
11	10461	健康体操 入門編				
12	10462	健康体操 応用編				
13	10497	ドラ猫ブルース				
14	10553	インダス文明の謎				
15	10594	たそがれの旅立ち				
16	10665	ミラクルマスター				
17	10732	恐怖のタラコスバグティ				
18	10848	ルアーの作り方				
19	10922	カクテル・ガイド				
20	10952	小さな勇者				
21	10991	おいしいコーヒー				



裏画面の列を指定して、おもて画面に挿入する

- 裏画面の指定した列を、おもて画面の表に挿入します。
- 1列だけでも、複数の列でも挿入することができます。

実行前の確認

- 挿入するデータのある表を、あらかじめR B命令で裏画面に読み出しておきます。
- おもて画面が漢字モード、裏画面が混在モードの場合、裏画面の半角文字は全角に変わって挿入されます。
- 裏画面のデータの行数がおもて画面の行数より多い場合、はみ出した行は削られます。
- 列を挿入した結果、おもて画面のページサイズを超えるときは、その列は挿入できません。

類似命令

- I L B...裏画面の行を指定して、おもて画面に挿入します。

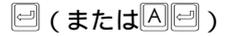
仕事は =



裏画面の何列目を：

おもて画面に挿入する、裏画面の列の番号を指定します。

- 裏画面のすべての列を、おもて画面の表に挿入する。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

何列目の前に挿入しますか：

おもて画面の挿入先になる、列の番号を指定します。

- 最終列の後ろに、裏画面の列を追加する。



単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

◆項目名も含めた列すべてを、おもて画面の表に挿入します。

◆縦ケイ線も、列と同様に挿入できます。

例題

76 ページ「A支店」の最終列の後に、77 ページ「B支店」の2列目を挿入します。

R : 76回

R B : 77回

I C B回

2回.....裏画面の2列目を指定する。

T + 1回.....おもて画面の最終列の右に挿入する。

実行前

M	76	1	2	3	4678
	2	[A支店]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
	3	F=14,12,12,12						
	4		支店名	4月	5月	6月		
	5		パソコン	70,000	38,000	80,000		
	6		VTR	40,000	20,000	80,000		
	7		TV	30,000	40,000	50,000		
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
			仕事は =					

実行後

M	76	1	2	3	4	578
	2	[A支店]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
	3	F=14,12,12,12,12						
	4		支店名	4月	5月	6月	4月	
	5		パソコン	70,000	38,000	80,000	30,000	
	6		VTR	40,000	20,000	80,000	25,000	
	7		TV	30,000	40,000	50,000	20,000	
	8							
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
	16							
	17							
	18							
	19							
	20							
	21							
			仕事は =					

数値の3桁ごとにカンマを挿入する

- 数値データの3桁ごとにカンマ (,) を入れて、画面の数値を読みやすくします。

実行前の確認

- 漢字モードのページにある数値には、全角文字でカンマを入れます。また、混在モードのページにある数値には、半角文字でカンマを入れます。
- カンマを入れた結果、項目内に収まらないような数値には、カンマは入りません。

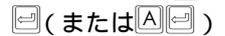
仕事は =



何列目にカンマを入れますか：

カンマを入れる、列の番号を指定します。

- 3列目の数値データにカンマを入れる。
- すべての列にカンマを入れる。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ 文字データや数値と文字の混じったデータには、カンマを入れることはできません。
- ◆ 小数点以下には、カンマは入れられません。
- ◆ ICM命令は、SIM命令の計算式にも使えます。
- ◆ 数値データのカンマを削除する場合は、DCM命令を使います。

例題

27 ページ「商品台帳」の“在庫金額”の数値データに、カンマを挿入します。

R : 27回

ICM回

7回..... 7列目の数値データにカンマを挿入する。

実行前

M	27	1	2	3	4	5	6	7	8	9
								95.04.01	混	L=0050 C=0170
1	[商品台帳]									
2	F=4,12,2,8,8,10,10,10,10,10									
3										
4	CODE	品名	GR	単価	原価	前月在庫	在庫金額	当月入庫	当月出庫	当月
5										
6	1001	A4用紙	A	580	440	405	178200			
7	1002	A3用紙	A	620	480	390	148200			
8	1003	B5用紙	A	480	340	2850	256500			
9	1004	B4用紙	A	600	460	1790	196900			
10	1005	Hインク	A	360	270	900	243000			
11	1006	ファイル	A	800	600	200	120000			
12	1007	書類ケース	A	1200	900	185	166500			
13	1008	情報カード	A	300	230	530	121900			
14	1009	手帳	A	600	450	200	90000			
15	1010	透明ホケット	A	500	380	250	95000			
16	1011	タックペル	A	600	450	205	92250			
17	1012	ホテブ	B	250	190	1240	235600			
18	1013	両面テープ	B	800	600	515	309000			
19	1014	ナイフ	C	300	230	55	12650			
20	1015	鉛筆削り	C	1100	830	230	190900			
21	1016	はさみ	C	500	380	440	167200			
	仕事は =									

実行後

M	27	1	2	3	4	5	6	7	8	9
								95.04.01	混	L=0050 C=0170
1	[商品台帳]									
2	F=4,12,2,8,8,10,10,10,10,10									
3										
4	CODE	品名	GR	単価	原価	前月在庫	在庫金額	当月入庫	当月出庫	当月
5										
6	1001	A4用紙	A	580	440	405	178,200			
7	1002	A3用紙	A	620	480	390	148,200			
8	1003	B5用紙	A	480	340	2850	256,500			
9	1004	B4用紙	A	600	460	1790	196,900			
10	1005	Hインク	A	360	270	900	243,000			
11	1006	ファイル	A	800	600	200	120,000			
12	1007	書類ケース	A	1200	900	185	166,500			
13	1008	情報カード	A	300	230	530	121,900			
14	1009	手帳	A	600	450	200	90,000			
15	1010	透明ホケット	A	500	380	250	95,000			
16	1011	タックペル	A	600	450	205	92,250			
17	1012	ホテブ	B	250	190	1240	235,600			
18	1013	両面テープ	B	800	600	515	309,000			
19	1014	ナイフ	C	300	230	55	12,650			
20	1015	鉛筆削り	C	1100	830	230	190,900			
21	1016	はさみ	C	500	380	440	167,200			
	仕事は =									

表にスペース列を挿入する

- 表に、スペース（空白）列を挿入します。
- 指定を終了するまで、複数のスペース列を続けて挿入することができます。

実行前の確認

- ページの桁数を超えて列を挿入することはできません。

類似命令

- I L S...表に空白の行を挿入します。

仕事は =



何列目の前にスペースを入れますか：

列を挿入する位置の、列の番号を指定します。

- 最終列の後ろに追加する。
単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

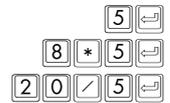


今 列設定あと残りは 桁です

現在設定されている列数と、残りの桁数が表示されます。スペース列の桁数を指定します。

スペースの桁数は
(0 ~ , [終了 ↵]) :

- 5 桁のスペース列を挿入する。
- 8 桁のスペース列を 5 列作る。
- 20 桁内に 5 つのスペース列を作る。



今 列設定あと残りは 桁です

続いて、次のスペース列の桁数を指定できます。

スペースの桁数は
(0 ~ , [終了 ↵]) :

- キーを押すと、終了します。
- 次のスペース列は 7 桁にする。
- スペース列の指定を終了する。



INFORMATION

- ◆ 桁数指定のとき、F 命令と同様に “*” と “/” が使えます。

例題

33 ページ「営業所別月別売上比較」の表に空白列を挿入して、データを追加できるようにします。

R : 33回

I C S

回.....最終列の右に挿入する。

10 * 2 回.....10 桁の列を 2 列挿入する。

回.....列の挿入を終了する。

実行前

	1	2	3	4	5	6	7
1	【営業所別月別売上比較】				95.04.01	混	L=0043 C=0200
2	F=12,10,10,10,10						
3							
4		4月	5月	6月	7月		
5							
6	A 営業所	76	82	84	91		
7	B 営業所	329	334	325	341		
8	C 営業所	148	157	167	155		
9	D 営業所	230	235	220	202		
10	E 営業所	72	78	84	102		
11	F 営業所	121	132	118	102		
12	G 営業所	88	95	97	106		
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22	仕事は =						

実行後

	1	2	3	4	5	6	7
1	【営業所別月別売上比較】				95.04.01	混	L=0043 C=0200
2	F=12,10,10,10,10,10						
3							
4		4月	5月	6月	7月		
5							
6	A 営業所	76	82	84	91		
7	B 営業所	329	334	325	341		
8	C 営業所	148	157	167	155		
9	D 営業所	230	235	220	202		
10	E 営業所	72	78	84	102		
11	F 営業所	121	132	118	102		
12	G 営業所	88	95	97	106		
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22	仕事は =						

ワークエリアのデータを画面の列に挿入する

- ワークエリアに保管しておいたデータを、おもて画面の指定した列の前に挿入します。
- 挿入後の列の桁数と、項目名を指定することができます。

実行前の確認

- ワークエリアのデータが指定した行の項目の桁数より大きい場合、データは左側から削られます。新しく挿入する列の桁数は、数値がきちんと列内に収まるように指定してください。

類似命令

- I L W...ワークエリアのデータを画面の行に挿入します。
- I C B...裏画面の列を指定して、おもて画面に挿入します。

仕事は =

ワークエリアの何列目を挿入しますか
(1 ~ 3) :

ワークエリアの何列目の内容を挿入するか、列の番号を指定します。

- ワークエリアの1列目のデータを、画面の表に挿入する。
 (または)
- ワークエリアの3列目のデータを、画面の表に挿入する。

単独指定が可能です。
1度に複数の列を指定することはできません。

何列目の前に挿入しますか :

ワークエリアのデータを挿入する、画面の表の列番号を指定します。

- 5列目の前に挿入する。
- 最終列の後ろに、ワークエリアのデータを追加する。

単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

桁数は :

挿入する列に必要な列の桁数を指定します。このとき桁数を指定しないで キーを押すと、自動的に適切な桁数を設定します。

- 10桁の列を挿入する。
- 自動的に桁数を設定する。

項目名は :

新しく挿入する列の項目名を入力します。

- “8月上”と項目名を入れる。
- 項目名を入れない。

INFORMATION

◆ワークエリアにデータを入れることのできる命令は、AC M命令、C命令、MAV命令などです。

◆半角文字で保存されたデータは、C命令やICW命令、ILW命令で使う画面が漢字モードだと全角文字に変わって表示されます。

例題

6 ページ「売上帳」の表に、ワークエリアのデータを挿入します。

R : 6 回 :

まずワークエリアにデータを入れます。

ACM 回

C 7、W 1 回..... 7 列目の累計をワークエリアの 1 列目に入れる。

+ 回..... 計算方法は「加算」を指定する。

続けてワークエリアのデータを画面の表に挿入します。

ICW 回

1 回..... ワークエリアの 1 列目を指定する。

8 回..... 画面の表の 8 列目の前に挿入する。

12 回..... 挿入する列の桁数は 12 桁にする。

全体累計回..... 項目名は“全体累計”にする。

実行前

M	6	1	2	3	4	5	6	7	8	→
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12									
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5										
6	950403	118	(株)TO商会	ファイル	100	800	80,000			
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	10	580	5,800			
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
9	950403	107	(株)神崎建設	バインダー	30	360	10,800			
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ポケット	20	500	10,000			
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ポケット	20	2,500	50,000			
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000			
13	950403	107	(株)神崎建設	ホトスカール	15	2,000	30,000			
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000			
15	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000			
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500			
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600			
18	950403	116	(株)全日本出版	バインダー	25	360	9,000			
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000			
20	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800			
21										



実行後

M	6	1	2	3	4	5	6	7	8	
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12									
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	全体累計		
5										
6	950403	118	(株)TO商会	ファイル	100	800	80,000	80000		
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	10	580	5,800	85800		
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600	97400		
9	950403	107	(株)神崎建設	バインダー	30	360	10,800	108200		
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ポケット	20	500	10,000	118200		
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ポケット	20	2,500	50,000	168200		
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000	177200		
13	950403	107	(株)神崎建設	ホトスカール	15	2,000	30,000	207200		
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000	222200		
15	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000	382200		
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	404700		
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600	416300		
18	950403	116	(株)全日本出版	バインダー	25	360	9,000	425300		
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000	545300		
20	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800	550100		
21										



- 表に新しい行を挿入しながら、次々とデータを入力します。

類似命令

- I C...表に列を挿入して、データを入力します。
- E L...行方向にデータを入力します。

仕事は =



何行目の前に挿入しますか :

行を挿入する位置の、行番号を指定します。

- 5 行目の前に挿入する。
- 最終データ行の後ろに追加する。



データは :

単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。

データを入力します。 **エスケープ** キーを押すと終了します。

INFORMATION

◆ **エスケープ** キーを押すまで、横方向に次々とデータを入れ続けることができます。

◆ 1 行分のデータを入れ終わると、さらにその下に新しい行が作られるので、使用可能行数内ならば何行でも挿入できます。

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」の“ 合計 ”の前に、“ D 支店 ”のデータを追加します。

R : 10回

I L 回

9 回..... 9 行目に挿入する。

D 支店 回50,000回40,000回50,000回.....データを入力する。

エスケープ.....入力を終了する。

実行前

10	1	2	3	4	57.....+
1	[支店別売上表94年]			95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4	支店名	4月	5月	6月	合計	
5						
6	A支店	70,000	38,000	80,000	188,000	
7	B支店	30,000	60,000	70,000	160,000	
8	C支店	70,000	35,000	90,000	195,000	
9	合計	170,000	133,000	240,000	543,000	
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
仕事は =						



実行後

10	1	2	3	4	57.....+
1	[支店別売上表94年]			95.04.01	混	L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4	支店名	4月	5月	6月	合計	
5						
6	A支店	70,000	38,000	80,000	188,000	
7	B支店	30,000	60,000	70,000	160,000	
8	C支店	70,000	35,000	90,000	195,000	
9	D支店	50,000	40,000	50,000		
10	合計	170,000	133,000	240,000	543,000	
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
仕事は =						



Insert Line of Backarea (インサート ライン オブ バックエリア)

裏画面の行を指定して、おもて画面に挿入する

- 裏画面の指定した行を、おもて画面の表に挿入します。
- 1行だけでも、複数の行でも挿入することができます。

実行前の確認

- 挿入するデータのある表を、あらかじめRB命令で裏画面に読み出しておきます。
- 裏画面のデータの列数がおもて画面の列数より多い場合、はみ出した列は削られます。

類似命令

- ICB...裏画面の列を指定して、おもて画面に挿入します。
- ILW...ワークエリアのデータを画面の行に挿入します。

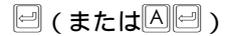
仕事は =



裏画面の何行目を：

おもて画面に挿入する、裏画面の行の番号を指定します。

- 裏画面のすべてのデータ行を、おもて画面の表に挿入する。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

何行目の前に挿入しますか：

おもて画面の挿入先になる、行の番号を指定します。

- 4行目の前に、裏画面の行を追加する。
- 最終データ行の後ろに、裏画面の行を追加する。



単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。

INFORMATION

◆おもて画面が漢字モード、裏画面が混在モードの場合、裏画面の半角文字は全角に変わって挿入されます。

◆横ケイ線も、行と同様に挿入できます。

◆1行だけでなく、一度に複数の行を挿入できます。

例題

45 ページ「得意先名簿4月」のデータに、44 ページ「得意先名簿3月」のデータを裏画面から挿入し

R : 45回

RB : 44回

ILB回

回.....裏画面のすべてのデータ行を指定する。

H回.....おもて画面の先頭データ行の前に挿入する。

実行前

M	45	1	2	3	4	5	6	7
1	【得意先名簿4月】				95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14							
3								
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒	
5								
6	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106	
7	112	1995.0415	伊藤テサ心(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106	
8	111	1995.0415	伊藤テサ心(株)	営業部営業一課	課長	江口 かなな	106	
9	110	1995.0415	伊藤テサ心(株)	テサ心部		猫柳 史子	106	
10	115	1995.0412	テサ心2001	開発部	係長	海野 広子	150	
11	114	1995.0412	テサ心2001	開発部	部長	佐藤 春男	150	
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								

実行後

M	45	1	2	3	4	5	6	7
1	【得意先名簿4月】				95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14							
3								
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒	
5								
6	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長	新藤 悟	106	
7	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106	
8	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150	
9	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150	
10	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107	
11	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107	
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107	
13	103	1995.0315	伊藤テサ心(株)	営業部営業一課	係長	江口 かなな	106	
14	104	1995.0315	伊藤テサ心(株)	テサ心部		佐藤 博子	106	
15	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106	
16	112	1995.0415	伊藤テサ心(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106	
17	111	1995.0415	伊藤テサ心(株)	営業部営業一課	課長	江口 かなな	106	
18	110	1995.0415	伊藤テサ心(株)	テサ心部		猫柳 史子	106	
19	115	1995.0412	テサ心2001	開発部	係長	海野 広子	150	
20	114	1995.0412	テサ心2001	開発部	部長	佐藤 春男	150	
21								

- 表に、スペース（空白）行を挿入します。

類似命令

- I C S...表にスペース列を挿入します。

仕事は =



何行目の前にスペースを入れますか：

行を挿入する位置の、行の番号を指定します。
 ● 最終データ行の後ろに、スペース行を追加する。
 単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。



スペースの行数は：

スペースを何行挿入するか、行数を指定します。
 ● 2行のスペース行を挿入する。
 ● ページ内でとれるだけのスペース行を挿入する。



INFORMATION

- ◆ スペース行は、ページに収まる範囲で何行でも挿入することができます。

例題

7ページ「成績集計表」のデータに、空白行を挿入します。

R : 7回

I L S

H.....先頭データ行の前に挿入する。

5.....空白行を5行挿入する。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	85	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	85	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76

ワークエリアのデータを画面の行に挿入する

- ワークエリアに保管しておいたデータを、画面の指定した行の前に挿入します。
- 列方向で入力されているワークエリアのデータを、画面の表へ行方向で挿入します。
- 行の先頭列に項目名を入力することができます。

実行前の確認

- ワークエリアのデータが指定した行の項目の桁数より大きい場合、データは左側から削られます。

類似命令

- I C W...ワークエリアを画面の列に挿入します。
- I L B...裏画面の行を指定して、おもて画面に挿入します。

仕事は =



ワークエリアの何列目を挿入しますか
(1 ~ 3) :

ワークエリアの何列目の内容を挿入するか、列の番号を指定します。

- ワークエリアの 1 列目のデータを、画面の表に挿入する。
 (または)
- ワークエリアの 3 列目のデータを、画面の表に挿入する。
単独指定が可能です。
一度に複数の列を指定することはできません。

何行目の前に挿入しますか :

ワークエリアのデータを挿入する、画面の表の行番号を指定します。

- 10 行目の前に挿入する。
- 最終データ行の後ろに、ワークエリアの数値を追加する。
単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。

項目名は :

行の先頭から数値を挿入する場合は、キーを押します。行の先頭に項目名を入れてから続けて数値を挿入する場合は、まず項目名を入力します。

- 項目名はつけず、行の先頭から数値を挿入する。
- “ 原価 ” と項目名をつける。
項目名を入れた場合、ワークエリアの先頭のデータは挿入されません。

INFORMATION

- ◆半角文字で保存されたデータは、C命令や I C W命令、I L W命令で使う画面が漢字モードだと、全角文字に変わって表示されます。

例題

23 ページ「支店別売上表 94 年」の表に、ワークエリアのデータを挿入します。

R : 23回

まず縦方向の合計を出します。

T L 回

L 回.....縦方向の合計を求める。

次に累計を計算して、ワークエリアにデータを入れます。

A C M 回

L T , W 1 回.....最終行（合計行）の累計をワークエリアの 1 列目に入れる。

+ 回.....計算方法は「加算」を指定する。

ワークエリアのデータを画面の表に挿入します。

I L W 回

1 回.....ワークエリアの 1 列目を指定する。

10 回.....画面の表の 10 行目の前に挿入する。

累計回.....項目名は「累計」にする。

実行前

支店名	4 月	5 月	6 月
A 支店	70,024	37,973	80,435
B 支店	30,003	60,048	70,237
C 支店	70,427	35,329	90,330

実行後

支店名	4 月	5 月	6 月
A 支店	70,024	37,973	80,435
B 支店	30,003	60,048	70,237
C 支店	70,427	35,329	90,330
合計	170,454	133,350	241,002
累計	170454	303804	544806



Initialize Disk (イニシャライズ ディスク)

データフロッピーを初期化する

- 新しいフロッピーは、そのままではマイツールのデータフロッピーとして使うことができません。まず、INI命令で《初期化》します。
- 今まで使っていたデータフロッピーの内容を、すべて消したいときにも使います。



- INI命令を行うと、そのフロッピー内にある内容は、たとえページがプロテクトされていてもすべて消えてしまいます。命令を実行する前に、必ずそのフロッピーが初期化してもよいものか、確認しましょう。

仕事は =



初期化するフロッピーのドライブは (A , B) :

初期化するフロッピーの入っているドライブを、指定します。通常“ A ”を指定します。

- ドライブAのフロッピーを初期化する。



初期化するデータフロッピーをドライブ【A】にセットして [↵] キーを押してください

画面に表示される、メッセージにしたがって操作します(左のメッセージはドライブAを指定した場合です)。

[エスケープ] キーを押すと中止します

ただいま処理中ですので少しお待ちください 0 / 100

初期化がはじまると、左のメッセージが表示されます。

初期化終了

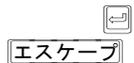
初期化が終わりました。

【フロッピーがフォーマットされていない場合】

このフロッピーはフォーマットされていません
フォーマットするなら [↵] キーを押してください
[エスケープ] キーを押せば中止します

左のメッセージが表示されます。 [↵] キーを押すと、フォーマット後、初期化を行います。

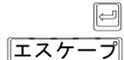
- 初期化する。
- 中止する。



このフロッピーはデータフロッピーではありません
フロッピーを確認し内容を全て削除してよければ [↵] を押してください
[エスケープ] キーを押せば中止します

フロッピーがマイツールのデータフロッピーでなかったり、余分なファイルが入っている場合は、このメッセージが表示されます。 [↵] キーを押すと、削除後、初期化を行います。

- そのまま削除して、初期化する。
- 中止する。



- ◆データエラーの発生したフロッピーは、必ずシステムでフォーマットをしてから I N I 命令を行ってください。そのまま I N I 命令を行うとエラーになります。また、このフロッピーには重要なデータは入れずに練習用、編集用などにお使いください。
- ◆システムでフォーマットを行う場合は、“/S”の指定をしないでください。
- ◆はじめて使うフロッピーは、普通、この I N I 命令を行ってからでないと使用できませんが、買って来たばかりのフロッピーに、データフロッピーの内容をコピーして使う場合、I N I 命令は必要ありません。そのまま C P D 命令を行ってください。

【フロッピーにキズがある場合】

フロッピーにキズがある場合、“領域が足りないので初期化できません”というエラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージが表示されたフロッピーは、このままでは初期化できません。システムでフォーマットの操作を行ってください。

その際に、不良セクターの表示が出なかったら、もう一度 I N I 命令を行って、正常に初期化することができます。不良セクターが表示された場合は、マイツールのデータフロッピーとしては使用できません。

【フォーマット後のフロッピーの容量について】

システムのフォーマットが行われていないフロッピーを I N I 命令で初期化した場合、フロッピーの容量は 1.4MB になります。ただし、システムでフォーマット済のフロッピーの場合は、システムで行われた容量のまま、初期化が行われます。

たとえば、1.2MB でフォーマットされたフロッピーで I N I 命令を行うと、フロッピーの容量は 1.2MB のままで初期化が行われます。

★お使いの機種によっては、1.2MB のフロッピーに読み書きが行えないことがあります。

SVC命令で保管してある列を読み出す

- SVC命令であらかじめ保管しておいた列の内容を、画面の指定した列に読み出します。
- 保管した列が1列であれば、同じ内容を複数の列に読み出すことができます。

実行前の確認

- SVC命令で混在モードのページの列を保管していた場合、その列は漢字モードのページに読み出すことはできません。
- SVC命令で保管した列の行数より、読み出す列の行数のほうが小さいと、はみ出した部分は削られます。また、大きい場合は、スペースになります。
- 読み出したときに、列の桁数よりデータの桁数のほうが大きい場合、はみ出した部分は左側から削られます。

類似命令

- LDL...SVL命令で保管してある行を読み出します。
- LDP...SVP命令で保管してあるセルを読み出します。

仕事は =



何列目に読み出しますか :

保管してある列を、画面の何列目に読み出すか、列の番号を指定します。

- 1列目に読み出す。
 - 1列目から3列目までに同じデータを読み出す。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
SVC命令で複数の列を保管している場合、指定した列を先頭にして、すべて読み出されます。ただし、この場合は複数の列を指定できません。

INFORMATION

◆ SVC命令の後に、SVL命令やSVP命令などを行うと、保管した内容は書きかわってしまいます。

◆ 画面の表の中ならば、どの列にでも読み出すことができます。

例題

64ページ「成績表」の保存した列を、7ページ「成績集計表」の表に、読み出します。

まずSVC命令で、64ページの2列目を保存します。

R : 64回 SVC 2回

次に、7ページ「成績集計表」のデータをすべて削除し、ページいっぱいの空白行を挿入します。

R : 7回 DL A回 ILS回回

保存した列をLDC命令で画面に読み出します。

LDC回

1回.....1列目に読み出す。

実行前

M	7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7
1	【成績集計表】 95.04.01 混 L=0050 C=0170												
2	F=12,6,6,6,6,6												
3													
4	氏	名	国語	数学	理科	社会	英語						
5													
6	北野	広二	65	81	43	71	68						
7	奥村	本泰	61	55	48	65	68						
8	加藤	芳記	80	72	63	71	39						
9	金尾	義子	48	32	63	70	73						
10	原田	秋子	67	55	59	55	46						
11	荒川	康広	74	93	37	65	77						
12	渋谷	行江	72	46	61	69	64						
13	小池	勇作	62	79	52	60	39						
14	水戸	陽子	75	67	79	68	86						
15	杉山	実貴	45	38	61	84	90						
16	石田	次郎	82	61	75	66	76						
17	田代	由香	94	68	80	51	61						
18													
19													
20													
21													

実行後

M	7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7
1	【成績集計表】 95.04.01 混 L=0050 C=0170												
2	F=12,6,6,6,6,6												
3													
4	氏	名	国語	数学	理科	社会	英語						
5													
6	秋田	智子											
7	浅野	正江											
8	荒川	康広											
9	荒木	澄朗											
10	池田	常臣											
11	石田	次郎											
12	逸見	秀安											
13	伊藤	恵子											
14	植田	三朗											
15	大野	章義											
16	奥村	本泰											
17	小野	明子											
18	角田	精子											
19	加藤	靖恵											
20	金丸	修子											
21	金田	義記											

S V L 命令で保管してある行を読み出す

- S V L 命令であらかじめ保管しておいた行の内容を、画面の指定した行に読み出します。
- 保管した行が 1 行であれば、同じ内容を複数の行に読み出すことができます。

実行前の確認

- S V L 命令で保管した行より、読み出す行のほうが小さいと、はみ出した部分は削られます。また、大きい場合はスペースになります。
- S V L 命令で混在モードのページの行を保管していた場合、その行は漢字モードのページに読み出すことはできません。
- 読み出したときに、列の桁数よりデータの桁数のほうが大きい場合、はみ出した部分は削られます。

類似命令

- L D C... S V C 命令で保管してある列を読み出します。
- L D P... S V P 命令で保管してあるセルを読み出します。

仕事は =



何行目に読み出しますか :

保管してある行を、画面の何行目に読み出すか、行の番号を指定します。

- 10 行目に読み出す。
 - 10 行目から 15 行目までに同じデータを読み出す。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。S V L 命令で複数の行を保管している場合、指定した行を先頭にして、すべて読み出されます。ただし、この場合は複数の行を指定できません。

INFORMATION

◆ S V L 命令の後に、S V C 命令や S V P 命令などを行うと、保管した内容は書きかわってしまいます。

◆ 画面の中ならば、どの行にでも読み出すことができます。

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」の項目行だけを中央寄せにします。

R : 10 :

すべての列のデータを中央寄せにして、S V L 命令で項目行を保存した後、すべての列を右寄せに戻します。
S C S V L 4 S R

保存した項目行を L D L 命令を使って画面に読み出します。

L D L

4 4 行目に読み出す。

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

SVP命令で保管してあるセルを読み出す

- SVP命令であらかじめ保管しておいたセルを、画面の指定した位置に読み出します。

実行前の確認

- SVP命令で、混在モードのページのセルを保管していた場合、そのデータを漢字モードのページに読み出すと、半角文字は全角に変わります。
- 読み出したときに、セルの桁数よりデータの桁数のほうが大きい場合、はみ出した部分は削られます。

類似命令

- LDC...SVC命令で保管してある列を読み出します。
- LDL...SVL命令で保管してある行を読み出します。

仕事は =



何行目に読み出しますか：

保管してあるセルを、画面の何行目に読み出すか、行の番号を指定します。

- 10行目に読み出す。
- 単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。

何列目に読み出しますか：

その行の何列目に読み出すか、指定します。

- すでに指定した10行目の、1列目に読み出す。
- 単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ SVP命令の後に、SVC命令やSVL命令などを行うと、保管した内容は書きかわってしまいます。
- ◆ 画面の表の中ならば、どのセルにでも読み出すことができます。

例題

64ページ「成績表」のデータを使って、7ページ「成績集計表」を変更します。

まずSVP命令で、64ページの「成績表」の13行2列目のセルのデータを保存します。

R : 64 : SVP 13 2

R : 7

保存したセルをLDP命令で画面に読み出します。

LDP

6 6行目を指定する。

1 さらに1列目を指定して、読み出すセルを確定する。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	85	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
伊藤 恵子	85	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

LOCK

LOCK (ロック)

共有ファイルを占有する

- 指定した共有ファイルを、他のクライアントから読み書きができないように設定します。
- 共有ファイルに書き込んだデータを、他のクライアントに読み書きされたくないときに使用します。
- 占有 (LOCK) の解除は、UNLOCK 命令で行います。

仕事は =



共有ファイル一覧が表示されます。

占有するファイルの、ファイル名を指定します。

- E I G Y O U ファイルを占有する。

他のクライアントがすでにそのファイルを占有している場合は、ファイル一覧の“LOCK”欄に占有しているステーション (クライアント) 名が表示されます。

他のクライアントが占有しているファイルを指定した場合は、待ち状態になります。待ち状態は、占有しているクライアントが解除するか キーを押すまで続きます。

仕事は =

占有が行われると、“仕事は = ”の状態に戻ります。

【他のクライアントが占有しているファイルを読み書きした場合】

ただいま「○○○○」は「****」ステーションで「LOCK」中のため書き込みできません。そのまま待つか、 キーを押してください

他のクライアントが占有している共有ファイルを読み書きしようとする時、左のようなメッセージが表示され、命令は待ち状態になります。

占有したクライアントがUNLOCK命令で占有を解除するまで、待ち状態は続きます。

待ち状態を解除したい場合は、 キーを押してください。

何ページに書き込みますか:○○○○○
○/○

【他のクライアントが占有しているファイルを読み書きした場合】

ただいま「○○○○」は他ステーションで使用中のため読み込みできません。そのまま待つか、 キーを押してください。

他のクライアントが共有ファイルを使ってS・SH・PAGE命令など、複数ページに渡って読み書きを行う命令を実行している場合は、左のようなメッセージが表示され、命令は待ち状態になります。

実行中の命令が終了するまで、待ち状態は続きます。

待ち状態を解除したい場合は、 キーを押してください。

何ページを読み出しますか:○○○○○
○/○

INFORMATION

- ◆ マイツールでは、サーバの共有ファイルを全ワークステーションで読み書きできます。そのため、複数のクライアントが同時に同じファイルの同じページを読み書きする可能性があり、修正を行って書き込んでおいたページが、別のクライアントに書き替えられたり、消されてしまう可能性があります。SVP命令の後に、SVC命令やSVL命令などを行うと、保管した内容は書きかわってしまいます。後に書き込んだ人のデータは残りますが、その前の人のデータは消えてしまいます。そのような事態を、LOCK命令で防ぐ事ができます。サーバの共有ファイルを占有 (LOCK) すると、その人が解除 (UNLOCK) するまで、他のクライアントからそのファイルを読み書きできなくなります。

LPSET

Laser Printer Set (レーザ プリンタ セット)

レーザプリンタの設定を変える

●レーザプリンタを使って印刷する場合に、用紙の種類や縮小率などの設定を変更することができます。

実行前の確認

- 必ずPSET命令の9番を、ご使用になるレーザプリンタの機種に合わせてから、LPSET命令を実行してください。

類似命令

- PSET...印刷方法などを設定します。
- PL.....印刷時のレイアウトを表示します。

仕事は =



番号	内容	範囲	現在
0	現在値を標準値に戻す		
1	トレイ (自動選択)	0, 一段目, 二段目以降	1
2	用紙の種類	(A5...4 ~ A3...8)	6
3	用紙の方向	(縦...1, 横...2)	1
4	縮小率	(等倍...1 ~ 67%...6)	1
6	複写枚数	(1 ~ 99)	1
7	文字傾斜角	(0 ~ 45)	0
8	文字拡大倍	(1 ~ 8)	1
9	半角文字フォント	(1 ~ 13)	2
10	全角文字フォント	(1 ~ 6)	2

LPSET何番をセットしますか (0~10) :

左の画面が表示されます。画面の右側には、現在設定されている状態が表示されています。変更する番号を選択してから[0]キーを押します。

LPSET命令を変更すると、PL命令の共通部分も変更されます。

PSET命令の9番で設定した内容により、LPSET命令の画面の内容が異なります。左の画面は、PSET命令の9番を“84・RPDL・SP10”に設定した場合です。

LPSET命令を終了するときは、[エスケープ]キーを押します。

LPSET命令で設定した1~4の内容は、マイツールを終了しても変更されません。次に起動したときは、前回設定した状態で始まります。ただし、END命令・ENDW命令で正常に終了したときだけです。

6~8番の内容は、マイツールを終了すると標準値に戻ります。

0 現在値を標準値に戻す



[0]とキーを押すだけで、LPSET命令の各項目が標準の設定値に戻ります。

1 トレイ



- 0 トレイ自動選択
- 1 一段目
- 2 二段目
- 3 三段目
- 4 四段目
- 5 マルチ/サイド
- 6 手差し

トレイ :

印刷用紙を給紙するトレイを番号で選択します。

格段のトレイに別々のサイズ of 用紙をセットしておけば、印刷の際、用紙を使い分けることができます。標準は“1”です。

使用するプリンタによって、メッセージボックスの内容が異なります。PSET命令の9番で“100”、もしくは“110”のGDIプリンタを選択している場合、この項目は表示されません。

INFORMATION

- ◆LP3320-SP4mk IIに省スペースユニットを取り付けた場合は、“2・二段目”に設定してください。
- ◆LP2310-SP5をご使用の場合は、“2・二段目”に設定してください。
- ◆LP2310-SP5、LP3320-SP4mk IIでは、“3・三段目”までがメッセージボックスに表示されます。
- ◆イマジオMF150では、“5・マルチ/サイド”は表示されません。

2 用紙の種類 2

4	A 5
5	B 5
6	A 4
7	B 4
8	A 3

用紙の種類

用紙サイズの種類を、番号で選択します。
A 3、A 4、A 5、B 4、B 5 の用紙が選択できます。標準は“ 6 ”です。
PSET命令の9番“接続プリンタ機種”が“100”、“110”に設定されている場合、“0・帳票、その他”も表示されます。

INFORMATION

◆使用するトレイに、設定した用紙の種類に合わせて、用紙をセットしてください。

3 用紙の方向 3

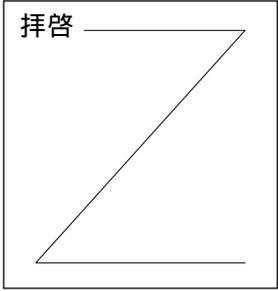
1	縦
2	横

用紙の方向

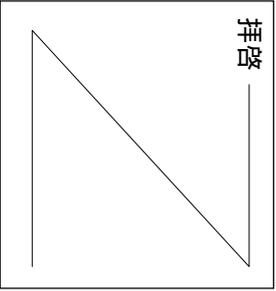
用紙の印刷方向を、番号で選択します。単票用紙の縦・横が選択できます。
標準は“ 1 ”です。0

- 単票縦に設定する。 1
 - 単票横に設定する。 2
- PSET命令の9番“接続プリンタ機種”が“100”、“110”に設定されていて、LPSET命令の2番が“0・帳票、その他”に設定されている場合、この項目は表示されません。

《縦の場合》



《横の場合》



4 縮小率 4

1	等倍
2	88%
3	80%
4	75%
5	70%
6	67%

縮小率：

縮小して印刷する場合の縮小率を、番号で選択します。印刷用紙よりも大きなサイズの表を、縮小して印刷を行う場合に、88%、80%、75%、70%、67%の縮小率が選択できます。標準は“ 1 ”です。

- 等倍に設定する。 1
- A 4 B 5、11' x 14' ストックフォーム B 4 の縮小 (88%) に設定する。 2
- B 4 A 4、B 5 A 5 の縮小 (80%) に設定する。 3
- 75% に設定する。 4
- 11' x 14' ストックフォーム A 4 の縮小 (70%) に設定する。 5
- A 2 A 3、A 3 A 4、B 4 B 5 の縮小 (67%) に設定する。 6

PSET命令の9番“接続プリンタ機種”が“100”、“110”に設定されていて、LPSET命令の2番が“0・帳票、その他”に設定されている場合、この項目は表示されません。

INFORMATION

- ◆縮小率は、表の桁数・行数に応じて、別表“印字可能桁数・行数表”を参照して設定してください。
- ◆印刷する表の桁数が、設定した縮小率の印字可能桁数よりも大きい場合は、はみ出したデータは無視されて印字されません。
- ◆印刷する表の行数が、設定した縮小率の印字可能行数よりも大きい場合は、いったん改ページを行い、はみ出したデータは次の用紙に印字されます。
- ◆縮小率を80%以下に設定して印字を行うと、文字が重なって印字される場合があります。
- ◆オプションのフォントカートリッジF24M・F24Gを装着した状態で縮小率を80%以下に設定して印字を行うと、自動的にオプションフォントで印字されます。
- ◆“A2→A3”の縮小は、A3用紙がセットできるプリンタでのみ可能です。

6 複写枚数



複写枚数 (1 ~ 99) :

1 ~ 99 の数値で、複写枚数を指定します。最高 99 枚まで設定できます。標準は “ 1 ” です。

- 1 ページにつき 1 枚印刷する。
- 1 ページにつき 20 枚印刷する。



PSET 命令の 9 番で “100”、もしくは “110” の GDI プリンタを選択している場合、この項目は表示されません。

INFORMATION

- ◆レーザープリンタは、いったん印刷を開始すると、指定した複写枚数を印字するまで、印字を中止できません。2 枚以上印字を行う場合は、試し打ちを行ってから、複写枚数の指定を行ってください。また、複写枚数の設定は、印刷ごとに確認してください。

7 文字傾斜角



文字傾斜角 (0 ~ 45 度) :

0 ~ 45 の数値で、文字の傾斜角を指定してください。0° ~ 45° の範囲で、右方向に文字を傾けます。標準は “ 0 ” です。

- 文字を傾斜しない。
- 30° 傾斜させる。



この項目が表示されるのは、PSET 命令の 9 番で “82” “83” “84” “90” “91” のプリンタ (RPDL モード) を選択している場合です。

INFORMATION

- ◆傾斜角は、用紙の縦方向に対して右方向に文字を傾けるので、3 番の “用紙の方向” が縦と横とでは、文字の形が異なります。
- ◆ケイ線は傾斜しません。
- ◆印刷中に改ページされると、プリンタ側の設定のみ解除されます。たとえば、PD 命令で複数ページを印刷した場合、最初の 1 枚目は設定が有効ですが、次のページ以降からは文字は傾斜されません。

8 文字拡大



文字拡大 (1 ~ 8 倍) :

1 ~ 8 の数値で、文字の拡大倍率を指定してください。最大 8 倍まで倍率を設定できます。標準は “ 1 ” です。

- 文字を拡大しない。
- 5 倍に拡大する。



PSET 命令の 9 番 “接続プリンタ機種” が “60” “70” “80” “81” “82” に設定されている場合、この項目は表示されません。

INFORMATION

- ◆倍角文字は他の等倍文字と同じ大きさで印刷されます。
- ◆ケイ線は、拡大倍率を設定しても、太さや位置は変わりません。また、空白行も拡大されません。
- ◆通常の表を文字拡大して印字しても、正しく印刷されません。文字のみのデータを拡大するときにご利用ください。
- ◆印刷中に改ページされると、プリンタ側の設定のみ解除されます。たとえば、PD命令で複数ページを印刷した場合、最初の1枚目は設定が有効ですが、次のページ以降からは文字は拡大されません。

9 半角文字フォント



- | | |
|----|---------------|
| 1 | クーリエ 24 |
| 2 | クーリエ 32 |
| 3 | クーリエ 40 |
| 4 | プレステージエリート 24 |
| 5 | プレステージエリート 32 |
| 6 | プレステージエリート 40 |
| 7 | レターゴシック 24 |
| 8 | レターゴシック 32 |
| 9 | レターゴシック 40 |
| 10 | ボールドフェイス 24 |
| 11 | ボールドフェイス 32 |
| 12 | ボールドフェイス 40 |
| 13 | OCR B |
| 14 | レタークォリティ |

半角文字フォント (1 ~ 14) :

印刷に使用する半角文字のフォントを指定してください。1 ~ 14 の数値で、半角文字フォントが選択できます。標準は“2”です。

24・32・40の数値は、フォントのドット数です。

PSET命令の9番“接続プリン多機種”が“100”“110”に設定されている場合、この項目は表示されません。

PSET命令の9番“接続プリン多機種”の設定により表示される内容が異なります。下の表を参照してください。

番号	接続プリンタ機種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
80	ESC/P・SP5(RICOH)	x		x	x		x	x		x	x		x	x	
81	ESC/P・SP4Mk(RICOH)	x		x	x		x	x		x	x		x	x	
82	ESC/P・SP7,8(RICOH)														
83	RPDL・SP7,8(RICOH)														x
84	RPDL・SP10(RICOH)			x			x			x			x		x
90	RPDL・IMAGIO MF530(RICOH)			x			x			x			x		x
91	RPDL・IMAGIO MF150(RICOH)			x			x			x			x		x

PSET命令の9番“接続プリン多機種”が“60”“70”に設定されている場合、ここでの設定は無効になります。

INFORMATION

- ◆40ドットの半角文字フォントを指定した場合、40ドットのフォントまたはフォントカートリッジを用意していないプリンタでは、24ドットで印字されます。
- ◆“13・OCR B”に設定した場合、SP-7、SP-8以外のプリンタでは、オプションカートリッジが必要です。カートリッジがないと、LP2310-SP5、LP3320-SP4mk IIではレターゴシックで印字されます。
- ◆PSET命令の1番を“2・コンパクト”に設定した場合は、半角文字フォントの設定は無視されます。また、PC命令で印刷した場合も同様です。

10 全角フォント



- | | |
|---|---------|
| 1 | 中明朝 24 |
| 2 | 中明朝 32 |
| 3 | 中明朝 40 |
| 4 | ゴシック 24 |
| 5 | ゴシック 32 |
| 6 | ゴシック 40 |

全角文字フォント (1 ~ 6) :

印刷に使用する全角文字のフォントを指定してください。1 ~ 6 の数値で、全角文字フォントが選択できます。標準は“2”です。

- 中明朝 24 に設定する。



- ゴシック 32 に設定する。



24・32・40の数値は、フォントのドット数です。

PSET命令の9番“接続プリン多機種”が“100”“110”に設定されている場合、この項目は表示されません。また、“80”“81”に設定されている場合、“2 中明朝32”“5 ゴシック32”のみが表示されます。

PSET命令の9番“接続プリン多機種”が“60”“70”に設定されている場合、ここでの設定は無効になります。

INFORMATION

- ◆ゴシックを指定した場合、オプションカートリッジを用意していないと、ゴシック 24 は中明朝 24 で、ゴシック 32 と 40 は中明朝 32 で印字されます。

【接続プリンタ機種が “ S P 10 ” “ I M A G I O M F 530 ・ 150 ” の場合】

- | | |
|---|---------|
| 1 | 中明朝 40 |
| 2 | 中明朝 56 |
| 4 | ゴシック 40 |
| 5 | ゴシック 56 |

全角文字フォント (1 ~ 5) :

印刷に使用する全角文字のフォントを指定してください。1 ~ 5 の数値で、全角文字フォントが選択できます。標準は “ 2 ” です。

- 中明朝 40 に設定する。
 - ゴシック 56 に設定する。
- 40 ・ 56 の数値は、フォントのドット数です。



11 印字フォント



- | | |
|---|----------|
| 1 | MSゴシック |
| 2 | MS明朝 |
| 3 | その他のフォント |

印字フォント (1 ~ 3) :

印刷に使用する TrueType フォントを、番号で選択します。

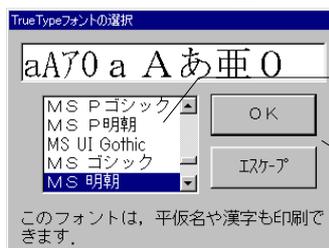
- MSゴシックに設定する。
- MS明朝に設定する。
- その他の TrueType フォントに設定する。

PSET命令の9番“接続プリン多機種”が“100”“110”以外に設定されている場合、この項目は表示されません。



【 “ 3 その他のフォント ” を選択した場合】

下のような “ TrueType フォントの選択 ” のメッセージボックスが表示されます。



表示されるリストからフォントを選択します。

マウスを使って左クリックするか、 キーで選択できます。

反転表示しているフォントが現在選択されているフォントです。

[OK] ボタンをマウスで左クリックすると終了します。

[エスケープ] ボタンを左クリックすると中止します。

INFORMATION

- ◆ “ TrueType フォントの選択 ” でリストに表示されるのは、Windows にインストールされているフォントですので、お使いの環境により異なります。
- ◆頭に “ @ ” が付く縦書き用フォントは、リストに表示されません。

印字可能桁数・行数表（概算値）

標準モード（PSET命令の“1インチ当りの行数”が6行）で印刷する場合

用紙\縮小率	等倍	88%	80%	75%	70%	67%
A 3縦	112桁 97行	126桁 110行	140桁 121行	148桁 129行	148桁 138行	168桁 145行
A 3横	162桁 67行	184桁 76行	202桁 84行	216桁 89行	216桁 96行	242桁 100行
B 4縦	96桁 83行	110桁 95行	120桁 104行	128桁 111行	128桁 119行	144桁 125行
B 4横	138桁 58行	158桁 66行	174桁 73行	186桁 77行	186桁 83行	208桁 87行
A 4縦	78桁 66行	88桁 77行	96桁 85行	104桁 90行	104桁 97行	116桁 101行
A 4横	112桁 46行	128桁 53行	140桁 58行	150桁 62行	150桁 66行	170桁 70行
B 5縦	66桁 58行	76桁 66行	82桁 73行	88桁 78行	88桁 84行	100桁 88行
B 5横	96桁 40行	110桁 45行	122桁 50行	130桁 53行	130桁 57行	146桁 59行
A 5縦	52桁 47行	60桁 54行	66桁 59行	70桁 63行	70桁 66行	80桁 71行
A 5横	78桁 32行	90桁 36行	98桁 40行	104桁 42行	104桁 45行	118桁 47行

標準モード（PSET命令の“1インチ当りの行数”が8行）で印刷する場合

用紙\縮小率	等倍	88%	80%	75%	70%	67%
A 3縦	112桁 129行	126桁 147行	140桁 161行	148桁 172行	148桁 184行	168桁 194行
A 3横	162桁 89行	184桁 101行	202桁 111行	216桁 119行	216桁 127行	242桁 134行
B 4縦	96桁 111行	110桁 126行	120桁 139行	128桁 148行	128桁 159行	144桁 167行
B 4横	138桁 77行	158桁 87行	174桁 97行	186桁 103行	186桁 110行	208桁 116行
A 4縦	78桁 87行	88桁 102行	96桁 113行	104桁 120行	104桁 129行	116桁 135行
A 4横	112桁 62行	128桁 70行	140桁 77行	150桁 82行	150桁 87行	170桁 93行
B 5縦	66桁 78行	76桁 87行	82桁 97行	88桁 104行	88桁 111行	100桁 117行
B 5横	96桁 53行	110桁 60行	122桁 66行	130桁 70行	130桁 75行	146桁 79行
A 5縦	52桁 63行	60桁 71行	66桁 79行	70桁 84行	70桁 87行	80桁 94行
A 5横	78桁 42行	90桁 48行	98桁 53行	104桁 56行	104桁 60行	118桁 63行

コンパクトモード（PSET命令の“1インチ当りの行数”が6行）で印刷する場合

用紙\縮小率	等倍	88%	80%	75%	70%	67%
A 3縦	168桁 97行	188桁 110行	210桁 121行	222桁 129行	222桁 138行	252桁 145行
A 3横	242桁 67行	276桁 76行	302桁 84行	324桁 89行	324桁 96行	362桁 100行
B 4縦	144桁 83行	164桁 95行	180桁 104行	192桁 111行	192桁 119行	216桁 125行
B 4横	206桁 58行	236桁 66行	260桁 73行	278桁 77行	278桁 83行	312桁 87行
A 4縦	116桁 66行	132桁 77行	144桁 85行	156桁 90行	156桁 97行	174桁 102行
A 4横	168桁 46行	192桁 53行	210桁 58行	224桁 62行	224桁 66行	254桁 70行
B 5縦	98桁 58行	114桁 66行	122桁 73行	132桁 78行	132桁 83行	150桁 87行
B 5横	144桁 40行	164桁 45行	182桁 50行	194桁 53行	194桁 57行	218桁 60行
A 5縦	78桁 47行	90桁 54行	98桁 59行	104桁 63行	104桁 68行	120桁 71行
A 5横	116桁 32行	134桁 36行	146桁 40行	156桁 42行	156桁 45行	176桁 48行

コンパクトモード（PSET命令の“1インチ当りの行数”が8行）で印刷する場合

用紙\縮小率	等倍	88%	80%	75%	70%	67%
A 3縦	168桁 129行	190桁 147行	210桁 161行	222桁 172行	222桁 184行	252桁 194行
A 3横	242桁 89行	276桁 101行	302桁 111行	324桁 119行	324桁 127行	364桁 134行
B 4縦	144桁 111行	164桁 126行	180桁 139行	192桁 148行	192桁 159行	216桁 167行
B 4横	208桁 77行	236桁 87行	260桁 97行	278桁 103行	278桁 110行	312桁 116行
A 4縦	116桁 87行	132桁 102行	144桁 113行	156桁 120行	156桁 129行	174桁 135行
A 4横	168桁 62行	192桁 70行	210桁 77行	226桁 82行	226桁 87行	254桁 93行
B 5縦	98桁 78行	114桁 87行	124桁 97行	132桁 104行	132桁 111行	150桁 117行
B 5横	144桁 53行	166桁 60行	182桁 66行	194桁 70行	194桁 75行	218桁 79行
A 5縦	78桁 63行	90桁 71行	98桁 79行	106桁 84行	106桁 87行	120桁 94行
A 5横	118桁 42行	134桁 48行	148桁 53行	156桁 56行	156桁 60行	178桁 63行

INFORMATION

- ◆ 設定した縮小率の印字可能桁数よりも表の桁数が大きい場合、はみ出すデータは印字されません。
- ◆ 設定した縮小率の印字可能行数よりも表の行数が大きい場合、はみ出すデータは次の用紙に印字されます。
- ◆ “標準モード”はPSET命令の1番“コンパクトモード”が“1・標準”に設定されている状態でP命令などを行うことです。“コンパクトモード”はPSET命令の1番“コンパクトモード”が“2・コンパクト”に設定されている状態でP命令などを行うことです。PC命令を使うと、コンパクトモードで印刷した場合と同じ結果になります。
- ◆ 上記の数値は、概算値です。プリンタの設定やデータによっては、多少桁数・行数が異なる場合があります。



Merge (マージ)

S 命令で並べかえたデータどうしを併合する

- S 命令であいうえお順、ABC 順などに並べかえた 2 つ以上のデータを、キー列の順番で 1 つに合わせます。
- 画面に表示中のデータや複数ページのデータ、異なるファイルのデータを併合することができます。

重要

- 併合する元のページに、結果を書き込まないでください。データの失われるおそれがあります。

実行前の確認

- 併合するデータページは、あらかじめ S 命令で同じキー列、同じ並べ方で並べかえておく必要があります。異なる並べ方のデータページがあると、正しく併合できません。
- 併合する各データページのモードは、あらかじめそろえておいてください。
- 先頭ページが混在モードの場合、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合には、混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- S... データを並べかえます。

仕事は =



併合する第 1 番目のページは
[画面 ↵] :

併合するデータは 3 つまで指定できます。1 つ目のデータページを指定します。

- 2 ~ 5 ページまでのデータを併合する。
 - 画面のデータを併合する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

併合する第 2 番目のページは [終了
↵] :

2 つ目に合わせるデータページを指定します。

- サブページの 3 ~ 8 ページまでのデータを併合する。
 - 指定しない。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。指定しないとき、④は表示されません。⑤から操作してください。

併合する第 3 番目のページは [終了
↵] :

3 つ目に合わせるデータページを指定します。

- 7 ページを併合する。
 - 指定しない。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1 番目のキー列は [終了 ↵] :

どの列をキー列にして併合するか指定します。

- 表の 1 列目をキー列にする。
 - キー列は指定しない。
- 単独指定が可能です。
 キーを押すと、指定したページの順番に併合されます。その際、⑥⑦のメッセージは表示されません。

- | | |
|---|---------|
| 1 | 文字正順 |
| 2 | 逆順 |
| 3 | 数字小さい順 |
| 4 | 大きい順 |
| 5 | あいうえお正順 |
| 6 | 逆順 |

並べ方を番号で選択します。

- J I S 区点コード番号の小さい順で並べる。
- J I S 区点コード番号の大きい順 (逆順) で並べる。
- 数字の小さい順に並べる。
- 数字の大きい順に並べる。
- 文字の読みの正順で並べる。
- 文字の読みの逆順で並べる。

並べ方は (1 ~ 6) :

併合するデータは、S 命令での指定と同じ並べ方を指定してください。違う並べ方を選ぶと、正常に併合できません。

2 番目のキー列は [終了 ⏪] :

2 番目のキー列を指定します。

● 2 番目のキー列を 2 列目にする。

● 2 番目は指定しない。

単独指定が可能です。

キー列の指定は最大 5 つまでです。操作は⑤からの繰り返しです。



結果の書き込み先頭ページは
[印刷 P , 画面 ⏪] :

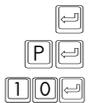
併合した結果をどうするか、指定します。

● 画面に表示する。

● 印刷する。

● 10 ページから書き込む。

併合したデータが 1 ページ内に書き込めない場合は、指定したページを先頭にして順に書き込みます。



INFORMATION

◆たとえば、毎日のデータが 1~30 ページ、今日のデータがサブの 1 ページにあるとします。これを 1 つに併合して 50 ページから書き込む。こんなことも、M 命令を使えば簡単に行うことができます。

◆並べ方の“文字正順(逆順)”は J | S 区点番号の正順(逆順)で、“あいうえお正順(逆順)”はひらがな、カタカナを讀みの正順(逆順)で並べかえます。また、“あいうえお正順(逆順)”の場合でも、漢字は J | S 区点番号の順になります。

◆複数ページの処理中、**Esc** キーを押すと一時停止します。停止中に **Esc** キーを押すと再開します。もう一度 **Esc** キーを押すと中止します。

◆ハードディスクで大量のページを並べかえるときに、便利な命令です。あらかじめ各ページを並べかえておいてから M 命令を実行すれば、S 命令で並べかえができる何倍ものページを、併合して書き込むことができます。ただし、併合するページ数と同じ量の書き込みページが必要です。

例題

44 ページ「得意先名簿 3 月」と、45 ページ「得意先名簿 4 月」のデータを併合します。

R : 44 回

M 回

④.....併合する 1 番目の表には、画面の表を指定する。

45 回.....併合する 2 番目の表には、45 ページの表を指定する。

④.....併合する表の指定を終了する。

3 回..... 1 番目のキー列には 3 列目(会社名)を指定する。

1 回.....並べ方は文字正順を指定する。

6 回..... 2 番目のキー列には 6 列目(氏名)を指定する。

1 回.....並べ方は文字正順を指定する。

④.....キー列の指定を終了する。

④.....結果を画面に書き込む。

実行前

44	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿3月]				95.04.01	混	L=0057 C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長	新藤 悟	106
7	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
8	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
9	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
10	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
11	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	駒場 二郎	107
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
13	103	1995.0315	伊藤がサウ(株)	営業部営業一課	係長	江口 かな	106
14	104	1995.0315	伊藤がサウ(株)	デサウ部		佐藤 博子	106
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後

44	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿3月]				95.04.01	混	L=0057 C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長	新藤 悟	106
7	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	主任	新藤 悟	106
8	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
9	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
10	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
11	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
12	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	駒場 二郎	107
13	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
14	112	1995.0415	伊藤がサウ(株)	製造部	主任	伊藤 高志	106
15	103	1995.0315	伊藤がサウ(株)	営業部営業一課	係長	江口 かな	106
16	111	1995.0415	伊藤がサウ(株)	営業部営業一課	課長	江口 かな	106
17	104	1995.0315	伊藤がサウ(株)	デサウ部		佐藤 博子	106
18	110	1995.0415	伊藤がサウ(株)	デサウ部		猫柳 史子	106
19	115	1995.0412	沢村2001	開発部	係長	海野 広子	150
20	114	1995.0412	沢村2001	開発部	部長	佐藤 春男	150
21							

表と表を照合して、必要な列で新しい表を作る

- 画面の表と別のページの表を照合し、必要な列どうしを結合して新しい表を作ります。
- 新しい表の列構成は、画面の表とページの表の列を使って自由に配置することができます。

実行前の確認

- 書きかえる表が漢字モードの場合、混在モードの表を照合ページに指定することはできません。

類似命令

- UPD.....表と表を照合して条件に合うデータを書きかえます。
- UPDS...複数の表と複数の表を照合して、条件に合うデータを書きかえます。
- MTE.....複数の表と複数の表を照合して、必要な列で新しい表を作ります。

仕事は =

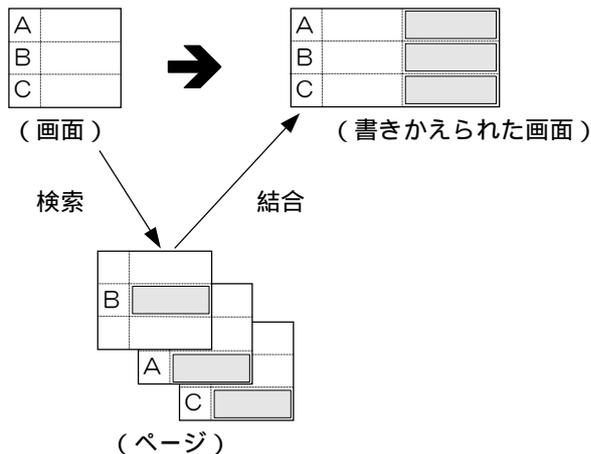


書きかえるのは
[画面 1, ページ 2] :

画面の表を書きかえるのか、ページの表を書きかえるのか、番号で選択します。☞キーを押すと、画面を指定したことになります。

- 画面の表を元に、新しい表を作る。 1☞ (または☞☞)
- 指定ページの表を元に、新しい表を作る。 2☞

【画面を選んだ場合】



照合するページは [裏画面 ☞] :

画面の表と照合するページを指定します。ページは1ページだけでも、複数ページでも指定できます。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

☞キーを押すと、裏画面を指定したことになります。

画面のキー列は :

画面の表の中で照合のキー列となる列を指定します。キー列は最大5つまで指定できます。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

☞キーを押すと、1列目を指定したことになります。

キー列を複数列指定するときは、カンマ“,”やハイフン“-”で区切って指定します。

ページのキー列は :

画面のキー列と対応するページのキー列を指定します。画面のキー列を複数指定した場合、その列数だけメッセージが表示されるので、順番に指定します。

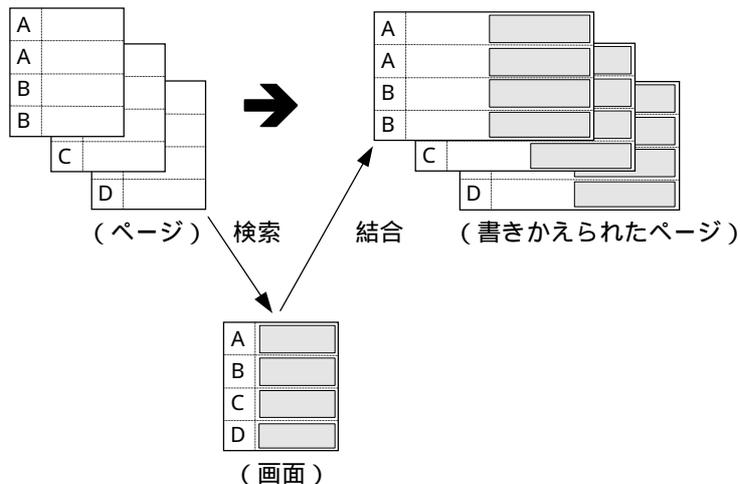
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

☞キーを押すと、1列目を指定したことになります。

新しい表に必要な 1 番目の列は：

画面の表と指定ページの表で、新しい表に必要な列番号を指定します。指定が終わったら  キーを押します。列の指定方法は次のページをご覧ください。

【ページを選んだ場合】



書きかえるページは：

書きかえるページを指定します。単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

画面のキー列は：

画面の表の中で照合のキー列となる列を指定します。キー列は最大 5 つまで指定できます。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

 キーを押すと、1 列目を指定したことになります。

キー列を複数列指定するときは、カンマ “,” やハイフン “-” で区切って指定します。

ページのキー列は：

画面のキー列と対応するページのキー列を指定します。画面のキー列を複数指定した場合、その列数だけメッセージが表示されるので、順番に指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

 キーを押すと、1 列目を指定したことになります。

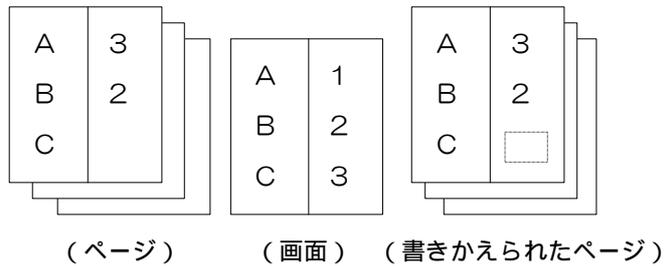
新しい表に必要な 1 番目の列は：

画面の表と指定ページの表から必要な列番号を指定します。指定が終わったら  キーを押します。

列の指定方法は次のページをご覧ください。

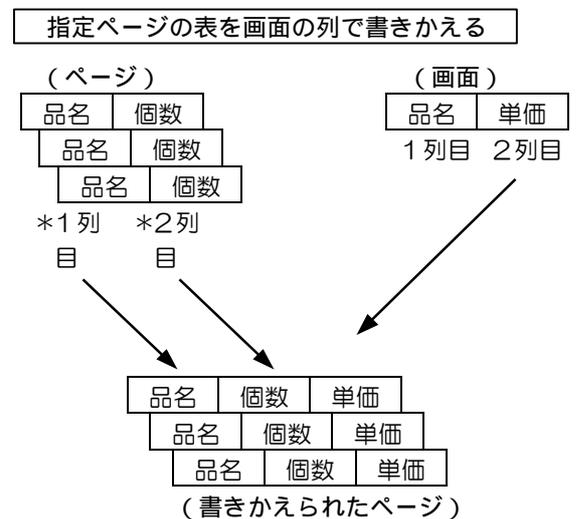
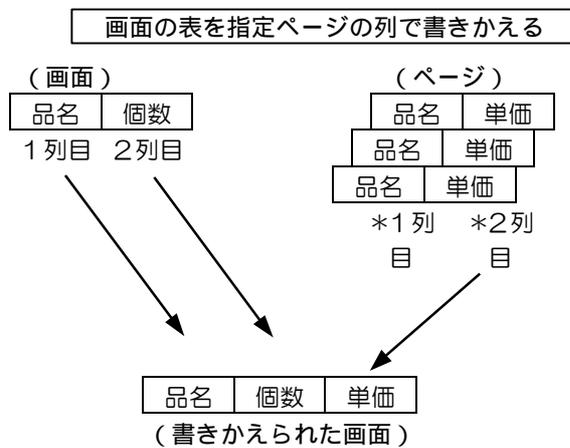
INFORMATION

◆複数ページの処理中、**〔エスケープ〕**キーを押すと一時停止します。停止中に**〔↵〕**キーを押すと再開します。もう一度**〔エスケープ〕**キーを押すと中止します。



◆左図のように、ページの表を書きかえます。同じキーで、データの異なる場合は、その最終キーのデータが書き込まれます(Aには、1でなく3が書き込まれます)。また、キーに対応するデータがない場合は、空白になります(Cに対応するキーがないので、空白になります)。これは、画面の表を書きかえる場合も同様です。

新しい表で必要な列の指定方法



新しい表で必要な列は：**〔1〕〔2〕〔*〕〔2〕**
画面の1列目と2列目とページの2列目で新しい表を作ります。

新しい表で必要な列は：**〔*〕〔1〕〔*〕〔2〕〔2〕**
ページの1列目と2列目と画面の2列目で新しい表を作ります。

★画面の列には“*”マークを付けません。ページの列には“*”マークを付けます。

★ハイフン(ー)やカンマ(,)でつないで、複数列を一度に指定することもできます。ただし、画面の列とページの列をまぜて指定することはできません。

《例》 1-3, 6-9

★オートプログラム中で列指定を行う場合は、ページの列(*1など)の前後にダブルコーテーション(“)を付けてください。

例題

46 ページ「売上帳」のデータと他の表を照合して、新しい表を作ります。

まず 26 ページの「得意先台帳」を照合し、互いの表から必要な列だけを指定して新しい表を作ります（ここでは“会社名”の列を追加します）。

R : 46回

M A T回

- 1回.....画面の表を書きかえる。
- 26回.....26 ページの「得意先台帳」と照合する。
- 3回.....画面のキー列には、3列目（得意先NO）を指定する。
- 1回.....ページのキー列には、1列目（得意先NO）を指定する。
- 1 - 3回.....新しい表に必要な1番目の列には、画面の1列目から3列目（年月日から得意先NO）を指定する。
- * 2回.....新しい表に必要な4番目の列には、ページの2列目（会社名）を指定する。
- 4 - 7回.....新しい表に必要な5番目の列には、画面の4列目から7列目（CODEから粗利益）までを指定する。
- 回.....必要な列の指定を終了する。

実行前

46	1	2	3	4	5	6	7	...	6	...	7	...
1	[売上帳]						95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,5,6,12,12											
3												
4	年月日	伝票NO	NO	CODE	数量	金額	粗利益					
5												
6	950403	10001	107	1001	20							
7	950403	10001	107	1005	30							
8	950403	10001	107	1010	20							
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												

実行後

46	1	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...	
1	[売上帳]						95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,6,12,12											
3												
4	年月日	伝票NO	NO	会社名	CODE	数量	金額	粗利益				
5												
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	20						
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	30						
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	20						
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												

上で作成した表を、さらに 27 ページの「商品台帳」と照合し、必要な列だけを指定して新しい表を作ります（ここでは、“品名”“GR”“単価”“原価”の列を追加します）。

M A T回

- 1回.....画面の表を書きかえる。
- 27回.....27 ページの「商品台帳」と照合する。
- 5回.....画面のキー列には、5列目（商品コード）を指定する。
- 1回.....ページのキー列には、1列目（商品コード）を指定する。
- 1 - 5回.....新しい表に必要な1番目の列には、画面の1列目から5列目（年月日から商品コード）を指定する。
- * 2 - 3回.....新しい表に必要な6番目の列には、ページの2列目から3列目（品名からグループ）を指定する。
- 6回.....新しい表に必要な8番目の列には、画面の6列目（数量）を指定する。
- * 4回.....新しい表に必要な9番目の列には、ページの4列目（単価）を指定する。
- 7回.....新しい表に必要な10番目の列には、画面の7列目（金額）を指定する。
- * 5回.....新しい表に必要な11番目の列には、ページの5列目（原価）を指定する。
- 8回.....新しい表に必要な12番目の列には、画面の8列目（粗利益）を指定する。
- 回.....必要な列の指定を終了する。

実行前

46	1	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...	
1	[売上帳]						95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,6,12,12											
3												
4	年月日	伝票NO	NO	会社名	CODE	数量	金額	粗利益				
5												
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	20						
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	30						
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	20						
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												

実行後

46	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
1	[売上帳]						95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,6,12											
3												
4	年月日	伝票NO	NO	会社名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額		
5												
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙 A		20	580			
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	A`ンダ`- A		30	360			
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明粘`ケツ A		20	500			
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												

- 縦（行）方向、または横（列）方向の移動平均を求めます。

実行前の確認

- 小数点以下の設定は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- 移動平均を書き込むスペースは、あらかじめ用意しておきます。

類似命令

- AV...平均を求めます。

仕事は =



計算するページは [画面 ↵] :

移動平均を求めるページを指定します。

- 画面データの移動平均を求める。 
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。ページを指定すると、移動平均を同じページに直接書き込みます。

計算場所は
(データの場所、書き込み場所) :

移動平均を求めるデータの行(または列)と、計算結果を書き込む行(または列・ワークエリア)を指定します。指定方法は次のとおりです。

行方向の計算...  行番号  行番号

列方向の計算...  列番号  列番号

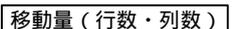
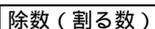
計算データ行・列 書き込み場所

- 4 列目のデータを計算して、5 列目に書き込む。 
 - 6 行目のデータを計算して、7 行目に書き込む。 
 - 4 列目のデータを計算して、ワークエリアの 2 列目に書き込む。 
 - 4 列目のデータを計算して、4 列目に書き込む。 
- 複数ページを指定したときは、行方向の計算とワークエリアへの書き込みはできません。

いくつつで平均を計算しますか
(1 ~ 52) :

何行または何列ずつで移動平均を求めて、いくつつで割るかを指定します。

指定方法は、次のとおりです。

移動量は 1 ~ 52 の間で指定できます。除数・ブランク指定は省略できます。

除数を省略すると、移動量で指定した数で移動平均を求めます。

ブランク指定をすると、移動量に満たない行・列は、空白になります。

- 5 行ずつを合計して、3 で割って移動平均(縦方向の計算)を求める。また、先頭行から 4 行目までは、空白にする。 
- 3 列ずつを合計して、移動量(3)で割って移動平均(横方向の計算)を求める。また、1 列目と 2 列目は空白にする。 
- 4 行ずつを合計して、移動量で割って移動平均を求める。 

INFORMATION

- ◆ スペースは“0”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。
- ◆ 計算結果(整数部)が書き込み先の桁数を超えた場合、そのセルを“*”でうめます。
- ◆ 複数ページの処理中、**エスケープ**キーを押すと一時停止します。停止中に**↵**キーを押すと再開します。もう一度**エスケープ**キーを押すと中止します。

- ◆ ワークエリアは3列まであります。ワークエリアに書き込んだ内容を知りたいときは、DW命令で確認してください。一度ワークエリアに入れた内容をとり出すときは、C・ILW・ICW命令などを使います。

例題

47 ページ「月別売上集計表」のデータから、移動平均を求めます。

まずDR命令で、小数点以下の設定を“0桁”に、計算結果を“切り捨て”に設定します。

DR 0 0 1 0

R : 47 0

MAV 0

0画面の表を計算する。

C 2 , 3 0 2 列目の移動平均を求めて 3 列目に書き込む。

12 , B 012 行ずつを合計して 12 で割って移動平均を求め、先頭行から 12 行目までは空白にする。

実行前

47	1	2	3	4	5	6	7
1	【月別売上集計表】		95.04.01	混	L=0077	C=0102	
2	F=4,12,12						
3							
4	年月	売上	移動平均				
5							
6	9204	1,032,043					
7	9205	1,870,027					
8	9206	3,735,065					
9	9207	1,854,861					
10	9208	637,560					
11	9209	3,654,633					
12	9210	1,200,132					
13	9211	2,746,859					
14	9212	3,704,394					
15	9301	1,888,827					
16	9302	2,002,859					
17	9303	3,258,022					
18	9304	1,909,000					
19	9305	2,331,443					
20	9306	1,143,200					
21	9307	1,514,623					
≡仕事は≡							



実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	【月別売上集計表】		95.04.01	混	L=0077	C=0102	
2	F=4,12,12						
3							
4	年月	売上	移動平均				
5							
6	9204	1,032,043					
7	9205	1,870,027					
8	9206	3,735,065					
9	9207	1,854,861					
10	9208	637,560					
11	9209	3,654,633					
12	9210	1,200,132					
13	9211	2,746,859					
14	9212	3,704,394					
15	9301	1,888,827					
16	9302	2,002,859					
17	9303	3,258,022	2,298,774				
18	9304	1,909,000	2,371,853				
19	9305	2,331,443	2,410,305				
20	9306	1,143,200	2,194,316				
21	9307	1,514,623	2,185,963				
≡仕事は≡							

- 表の中で列を移動します。

類似命令

- M L...行を移動します。

仕事は =



何列目を移動しますか：

移動する列の番号を指定します。

- 2列目を移動する。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

何列目の前に移動しますか：

移動先の列の番号を指定します。

- 5列目の前に移動する。
- 単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

例題

6ページ「売上帳」の“単価”の列を、“数量”の列の前に移動します。

R : 6回

MC回

6回..... 6列目(単価)を移動する。

5回..... 5列目(数量)の前に移動する。

実行前

M	6	1	2	3	4	5	6	7	8	..	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120			
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12										
3											
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計			
5											
6	950403	118	(株)TO商会	ファイル	100	800	80,000				
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	10	580	5,800				
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600				
9	950403	107	(株)神崎建設	バインダー	30	360	10,800				
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ホック	20	500	10,000				
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ホック	20	2,500	50,000				
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000				
13	950403	107	(株)神崎建設	ホトスカル	15	2,000	30,000				
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000				
15	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000				
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500				
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600				
18	950403	116	(株)全日本出版	バインダー	25	360	9,000				
19	950403	116	(株)全日本出版	書類カス	100	1,200	120,000				
20	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800				
21											

実行後

M	6	1	2	3	4	5	6	7	8	..	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120			
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12										
3											
4	年月日	NO	得意先名	品名	単価	数量	金額	金額累計			
5											
6	950403	118	(株)TO商会	ファイル	800	100	80,000				
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	580	10	5,800				
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	580	20	11,600				
9	950403	107	(株)神崎建設	バインダー	360	30	10,800				
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ホック	500	20	10,000				
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ホック	2,500	20	50,000				
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	300	30	9,000				
13	950403	107	(株)神崎建設	ホトスカル	2,000	15	30,000				
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	150	100	15,000				
15	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	800	200	160,000				
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500				
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	580	20	11,600				
18	950403	116	(株)全日本出版	バインダー	360	25	9,000				
19	950403	116	(株)全日本出版	書類カス	1,200	100	120,000				
20	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	800	6	4,800				
21											

M COPY

Matrix Copy (マトリックス コピー)

マイツールデータをタブ区切り形式でコピーする

- マイツールデータをWindowsのクリップボードへタブ区切り形式のテキストでコピーします。

類似命令

- C COPY...クリップボードへデータを転送します。

仕事は =



入力ページは [画面 ↵] :

コピーするページを指定します。

- 5ページを指定する。



- 画面のデータをコピーする。



単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

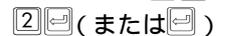
1 全部
2 項目行と計算行

コピーする範囲を指定します。

- 指定したすべてのデータを指定する。



- 項目行と計算行のみを指定する。



出力範囲は

(1 全部 , 2 項目行と計算行) :

INFORMATION

- ◆数値として認識されるデータは右寄せで、それ以外のデータは左寄せで出力されます。
- ◆数値として認識されるデータ内のカンマ (,) は削除して出力されます。それ以外のデータ内のカンマ (,) はそのまま出力されます。
- ◆入力ページの指定で複数ページを指定した場合、出力範囲で「2・項目行と計算行」を選択すると、先頭ページは項目行と計算行を、2ページ目以降は計算行のみをコピーします。

- ◆項目行とは、表の項目が入力された行で、行番号の右側に白いラインが表示されている行です (ケイ線は含みません)。

- ◆計算行とは「計算開始行」から「計算終了行」までの行をいい、行番号の右側に青いラインが表示されている行です。



- 表の中で行を移動します。

類似命令

- M C...列を移動します。

仕事は =



何行目を移動しますか :

移動する行を指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

何行目の前に移動しますか :

行の移動先を指定します。

単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」の合計行を、データの先頭に移動します。

R : 10回

ML回

T回.....最終行を移動する。

H回.....先頭データ行の前に移動する。

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
合計	170,000	133,000	240,000	543,000
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000

- AVI形式の動画データを再生します。

実行前の確認

- 音声付きの動画データの音声を再生する場合、お使いのパソコンにサウンドボードとスピーカーが取り付けられている必要があります。

仕事は =



AVIファイル名は：

再生するAVIファイルのファイル名を指定します。ピリオド(.)以下の拡張子は省略可能です。ファイルがマイツールをインストールしたディレクトリ、およびその下の“MYBMP”以外にある場合は、ディレクトリ名を含めて入力します。

- “GOLF.AVI”というファイルを読み込む。
- “ETC”というディレクトリにある、“ANIMAL.AVI”というファイルを再生する。

ディレクトリ名から指定する場合、ディレクトリ名とファイル名の前に“¥”を付けてください。

マイツールをインストールしたドライブ以外のドライブから読み込む場合は(CD-ROMドライブなど)、ファイル名の前にドライブ名とコロン(:)を付けて、ダブルコーテーション(”)で囲んでください。

《例》EドライブのCD-ROMから“TENNIS.AVI”というファイルを読み込む。

AVIファイルのファイル名が、表に入力されていれば、マウスを使って簡単に再生することができます。ファイル名の入力されているセルを左クリックして、ファイル名が入力バーに取り込まれたら キーを押します。

- 1 再生
- 2 逆再生

再生方向は(1~2)：

再生する方向を指定します。

- 通常方向で再生する。
- 逆方向で再生する。

【再生途中で キーを押した場合】

只今	一時停止中
再開	実行()
中止	エスケープ

左のようなメッセージボックスが表示されます。

- 再生を再開する。
- 再生を中止する。



INFORMATION

- ◆ MOVIE命令を実行すると、専用のウィンドウが開いてAVIファイルが再生されます。ウィンドウ上でマウスの右ボタンをクリックすると、コントロールメニューが開きます。このコントロールメニューから、ウィンドウの表示の大きさや音量、スピードなどを設定することができます。
- ◆ AVIファイルのファイル名には“OOO.AVI”というように拡張子に“AVI”がつきます。
- ◆ マイツールに動画データを作成する機能はありません。AVIファイルの再生のみすることができます。

MPAST

Matrix Paste (マトリックス ペースト)

クリップボードからタブ区切り形式のデータを取り込む

- Windows のクリップボードから、タブ区切り形式のテキストデータをマイツールの表形式データとして取り込みます。

類似命令

- CPAST...クリップボードの内容をマイツールに取り込みます。

仕事は =



書き込み先頭ページは [画面 ↵] :

書き込み先のページを指定します。

- 5 ページを指定する。
- 画面に書き込む。



単独、連続、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1 タイトル行
2 項目行
3 計算行

コピーするデータの 1 行目を何にするかを指定します。

- タイトル行にする。
- 項目行にする。
- 計算行にする。



1 行目は (1 タイトル行, 2 項目行, 3 計算行) :

1 ピッタリ
2 ピッタリ + 1 桁

取り込んだ列の桁数を指定します。

- 各列の最大桁数を列の桁数にする。
- 各列の最大桁数に 1 桁足した桁数を列の桁数にする。



列幅調整は
(1 ピッタリ, 2 ピッタリ + 1) :



INFORMATION

- ◆③で「1...タイトル行」を指定した場合、次のように処理されます。
 - データの 1 行 1 列目のデータをタイトルに付けます。データが半角 30 文字を超える場合は超えた分が削除されます。
 - データの 1 行目のデータは、マイツールのページの 2 行目にもコピーされます。また、複数ページに書き込んだ場合、2 ページ目以降にもコピーされます。
 - データの 2 行目は項目行、3 行目以降は計算行になります。
- ◆③で「2...項目行」または「3...計算行」を指定した場合、タイトルは「※」と付けられます。

- ◆④で「1...ピッタリ」を指定した場合、ページの横サイズ (1 行の長さ) は各列の最大桁数の合計桁数になります。また、④で「2...ピッタリ + 1」を指定した場合、ページの横サイズ (1 行の長さ) は各列の最大桁数 + 1 の合計桁数になります。ただし、最小は 34 桁、最大は 900 桁で、偶数の桁数で設定されます。ただし、どちらの場合も最小は 34 桁、最大は 900 桁で、偶数の桁数で設定されます。
- ◆項目行とは、表の項目が入力された行で、行番号の右側に白いラインが表示されている行です (ケイ線は含みません)。
- ◆計算行とは「計算開始行」から「計算終了行」までの行をいい、行番号の右側に青いラインが表示されている行です。

- ファイルの中でページを移動させることができます。

実行前の確認

- 異なるファイル間でページを移動することはできません。
- 移動元や移動先のページ番号は変わりますので、注意してください。

類似命令

- S T...条件を指定してページを並べかえます。

仕事は =



移動するページは :

現在のファイルのタイトル一覧が表示されます。
移動するページを指定します。

- 表題に“売上”という文字を含むページを移動する。



- 支払いファイルの 10 から 12 ページと 15 ページを移動する。



- ドライブ A にセットしたデータフロッピーの 51 から 60 ページを移動する。



単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
ここでファイル名やフロッピーディスクのドライブ名のみを入力すると、そのファイルやデータフロッピーのタイトル一覧が表示されます。ページを指定すれば、表示されているタイトル一覧のファイルやデータフロッピー内でページを移動できます。

何ページの前に移動しますか :

ページの移動先を指定します。

- 1 ページの前に移動する。
- 50 ページの前に移動する。
- 一番最初のページの次に移動する。



単独指定が可能です。

②で指定したページのファイルと異なるファイルへは、移動先の指定を行えません。

INFORMATION

- ◆移動元や移動先のページ番号が変わるのでご注意ください。
- ◆全体のページ数は変わりません。
- ◆異なるファイルへページの内容を移動したい場合は、COP Y 命令でページの内容をコピーしてください。

例題

14 ページ「住所録」を 2 ページに移動します。

MT 図

14 図.....14 ページを移動する。

2 図..... 2 ページの前に移動する。

実行前

表名	LV	1.00	J	(M	マスター)	タイトル	一覧	
ページ	作成日	行数	桁数	-G1--G2--G3--G4- キョウト'						
1	住所録	95.04.01	16	170						
2										
3										
4	売上帳	95.04.01	46	110						
5	売上集計	95.04.01	13	120						
6	売上帳	95.04.01	21	120						
7	成算集計表	95.04.01	18	170						
8	売上帳	95.04.01	53	100						
9	売上帳	95.04.01	19	120						
10	支店別売上表94年	95.04.01	10	170						
11	支店別売上表93年	95.04.01	10	170						
12	和西暦年齢	95.04.01	21	170						
13	年齢条件式	95.04.01	10	170						
14	住所録	95.04.01	17	170						
15	テープ貸出 DFデータ入力	95.04.01	25	170						
16	会員コード表	95.04.01	21	170						
17	作品コード表	95.04.01	22	170						
18	ビデオテープ貸出管理表	95.04.01	21	170						
19	売上実績表	95.04.01	16	170						
20	キャンペーン通知	95.04.01	12	74						

見たい表題は (ページ番号, =表題, [↑, ↓, エスケープ]) : ■



実行後

表名	LV	1.00	J	(M	マスター)	タイトル	一覧	
ページ	作成日	行数	桁数	-G1--G2--G3--G4- キョウト'						
1	住所録	95.04.01	16	170						
2	住所録	95.04.01	17	170						
3										
4										
5	売上帳	95.04.01	46	110						
6	売上集計	95.04.01	13	120						
7	売上帳	95.04.01	21	120						
8	成算集計表	95.04.01	18	170						
9	売上帳	95.04.01	53	100						
10	売上帳	95.04.01	19	120						
11	支店別売上表94年	95.04.01	10	170						
12	支店別売上表93年	95.04.01	10	170						
13	和西暦年齢	95.04.01	21	170						
14	年齢条件式	95.04.01	10	170						
15	テープ貸出 DFデータ入力	95.04.01	25	170						
16	会員コード表	95.04.01	21	170						
17	作品コード表	95.04.01	22	170						
18	ビデオテープ貸出管理表	95.04.01	21	170						
19	売上実績表	95.04.01	16	170						
20	キャンペーン通知	95.04.01	12	74						

見たい表題は (ページ番号, =表題, [↑, ↓, エスケープ]) : ■

複数の表と複数の表を照合して、必要な列で新しい表を作る

- 2つの異なる形式の表を展開して、必要な列から新しい表を作ります。
- 新しい表の列は、元になる表の列を自由にならべかえて作ることができます。

実行前の確認

- 照合するページは、あらかじめキー列を S 命令で文字正順で並べかえておきます。
- 先頭ページが混在モードの場合は、処理中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- MAT.....表と表を照合して、必要な列で新しい表を作ります。
- UPD.....条件に合うデータを照合して書きかえます。
- UPDS...複数ページの条件に合うデータを照合して書きかえます。

仕事は =



処理するページは[画面 ↵] :

処理するページを指定します。

- おもて画面を指定する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

照合するページは[裏画面 ↵] :

照合するページを指定します。

- 裏画面を指定する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

処理するページの 1 番目のキー列は (1 ~) :

処理するページの中で、展開のキー列となる列を指定します。キー列は、最大 5 つまで指定できます。

- 単独、連続、複数、混合、H・T、条件式、@指定が可能です。
- キーを押すと、1 列目を指定したことになり、次に進みます。
- キー列を複数列指定するときは、カンマ “,” やハイフン “-” で区切って指定します。

照合するページの 1 番目のキー列は (1 ~) :

照合するページの中で、展開のキー列となる列を指定します。 のキー列の指定で複数列指定した場合は、指定した列の数だけメッセージが表示されるので、順番に指定します。

- 単独、連続、複数、混合、H・T、条件式、@指定が可能です。
- キーを押すと、1 列目を指定したことになります。

新しい表で必要な 1 番目の列は :

新しい表を作るのに必要な列を指定します。

- 処理するページの 1 列目を指定する。
- 照合するページの 1 列目と 2 列目を指定する。 * 1 2
- 処理するページの 2 列目から 5 列目までを指定する。 2 - 5
- 単独、連続、複数、混合、H・T、条件式、@指定が可能です。
- 照合するページの列を指定する場合は、列番号の前に “*” または “X” (エックス) を付けてください。

結果の書き込み先頭ページは [印刷 P, 画面 ↵] :

作成した表をどうするか、指定します。

- 10 ページから書き込む。 10
- 印刷する。 P
- 画面に表示する。

INFORMATION

◆複数ページを処理中に(エスケープ)キーを押すと一時停止します。停止中に(エスケープ)キーを押すと再開します。もう一度(エスケープ)キーを押すと処理を中止します。

◆照合するページは、最大 600 ページまで指定できます。

新しい表で必要な列の指定方法

下の図のような、画面の処理するページと裏画面の照合するページを使って、新しい表を作成する例を説明します。

- M T E 命令を実行..... M T E
- 処理するページは、おもて画面.....
- 照合するページは、裏画面.....
- 処理するページのキー列に 2 列目の “ 品名 ” を指定..... 2
- 照合するページのキー列に 1 列目の “ 品名 ” を指定..... 1
- 新しい表で必要な 1 列目は、処理するページの 2 列目 (品名) 1
- 2 列目は、照合するページの 2 列目 (部品名) * 2
- 3 列目は、照合するページの 3 列目 (部品名) * 3
- 4 列目は、処理するページの 3 列目 (個数) 3
- 5 列目は、照合するページの 4 列目 (単価) * 4
- 列の指定を終わる.....
- 結果を画面に表示.....

★ハイフン (-) やカンマ (,) でつないで、複数列を一度に指定することもできます。

《例》 1-3-3*1-3

★オートプログラム中で列指定を行う場合は、ページの列 (* 1 など) の前後にダブルコーテーション (") をつけてください。

<処理するページ>

日付	品名	個数
1201	パソコンA	10
1201	ワープロ	24
1202	パソコンA	8
1203	ワープロ	30
1203	パソコンB	5
1203	パソコンC	12

<照合するページ>

品名	部品名	部品数	単価
パソコンA	キーボード	1	100,000
パソコンA	ディスプレイ	1	200,000
パソコンA	本体	1	500,000
パソコンB	キーボード	1	120,000
パソコンB	ディスプレイ	1	210,000
パソコンB	本体	1	550,000
ワープロ	キーボード	1	50,000
ワープロ	本体	1	120,000

<新しく作られた表>

品名	部品名	部品数	個数	単価
パソコンA	キーボード	1	10	100,000
パソコンA	ディスプレイ	1	10	200,000
パソコンA	本体	1	10	500,000
ワープロ	キーボード	1	24	50,000
ワープロ	本体	1	24	120,000
パソコンA	キーボード	1	8	100,000
パソコンA	ディスプレイ	1	8	200,000
パソコンA	本体	1	8	500,000
ワープロ	キーボード	1	30	50,000
ワープロ	本体	1	30	120,000
パソコンB	キーボード	1	5	120,000
パソコンB	ディスプレイ	1	5	210,000
パソコンB	本体	1	5	550,000
パソコンC		1	12	

対応する項目がない場合は空白になります。

例題

48 ページ「商品個数一覧」を、49 ページ「内容構成物一覧」のデータを使って展開します。

R : 48回

R B : 49回

M T E 回

回.....画面の表を書きかえる。

回.....裏画面の表と照合する。

1 回.....画面のキー列には 1 列目 (品名) を指定する。

1 回.....照合するページのキー列には、1 列目 (品名) を指定する。

1 - 2 回.....新しい表に必要な 1 番目の列には、画面の 1 列目を指定する。

* 2 - 3 回.....新しい表に必要な 2 番目の列には、ページの 2 列目を指定する。

回.....必要な列の指定を終了する。

回.....結果を画面に書き込む。

実行前

48	1	2	3	4	5	6	7
1	商品個数一覧	95.04.01	混	L=0050	C=0170		
2	F=12,6						
3							
4	品名	個数					
5							
6	しゃけべん	30					
7	のりべん	45					
8	まくのうち	40					
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	商品個数一覧	95.04.01	混	L=0050	C=0170		
2	F=12,6,12,6						
3							
4	品名	個数	内容物	量(g)			
5							
6	しゃけべん	30	ごはん	200			
7	しゃけべん	30	しゃけ	70			
8	しゃけべん	30	ちくわ	50			
9	のりべん	45	きんひら	30			
10	のりべん	45	ごはん	200			
11	のりべん	45	ちくわ	50			
12	まくのうち	40	からあげ	30			
13	まくのうち	40	ごはん	200			
14	まくのうち	40	たまごやき	15			
15	まくのうち	40	にもの	30			
16							
17							
18							
19							
20							
21							

マトリックス表を1行1データの表にする

- マトリックス表を1行1データの表に変更します。

重要

- 複数ページにわたって変更を行う場合の結果の書き込み先には、入力ページと同じページを指定しないでください。

実行前の確認

- 複数ページの場合、行や列の桁数を合わせておきましょう。
- 先頭ページが混在モードの場合、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合には、混在モードのページがあると処理を中止します。

仕事は =



変更するページは[画面 画面] :

1行1データに変更したいマトリックス表のあるページを指定します。

- 画面のデータを変更する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

新しい1行の長さは
(~ 900) , [変更なし 画面] :

新しい表のページサイズを変更する場合は、そのページの1行の桁数を指定します。

- 1行を半角文字で300桁に変更する。
- 現在のページサイズと同じにする。
- 処理後の使用桁数に合わせる。
- 現在より2桁増やす。
- 現在より4桁減らす。



結果の書き込み先頭ページは
[印刷 P , 画面 画面] :

変更した結果をどうするか指定します。

- 10ページから書き込む。
- 印刷する。
- 画面に表示する。
- 1ページに入りきれないデータは、指定したページを先頭にして順に書き込まれます。



INFORMATION

- ◆複数ページの処理中、**[Esc]**キーを押すと一時停止します。停止中に**[Enter]**キーを押すと再開します。もう一度**[Esc]**キーを押すと中止します。
- ◆複数ページの変更を行った結果に“画面”を選んだ場合、その最終データだけが画面に表示されます。

例題

23 ページ「支店別売上表 94 年」を 1 行 1 データの表に変更します。

R : 23回

M T L 回

回.....画面の表を変更する。

回.....新しいページの横幅は、今のまま変更しない。

回.....結果は画面に書き込む。

実行前

支店名	4月	5月	6月
A支店	70,024	37,973	80,435
B支店	30,003	60,048	70,237
C支店	70,427	35,329	90,330

実行後

支店名	4月	5月	6月
A支店	4月	70,024	
A支店	5月	37,973	
A支店	6月	80,435	
B支店	4月	30,003	
B支店	5月	60,048	
B支店	6月	70,237	
C支店	4月	70,427	
C支店	5月	35,329	
C支店	6月	90,330	

行方向・列方向に連番を入力する

- 表の行や列に、連続した番号をふることができます。

実行前の確認

- 複数ページを指定して表に連番をふる場合、連番を入れる行、または列は同じ行・列になります。各ページの表のフォーマットにはご注意ください。

類似命令

- SEQ (関数) ...連番付けを行います。

仕事は =



連番を付けるページは [画面 ↵] :

連番をふるページの、ページ番号を指定します。

- 1ページから5ページの表に連番をふる。



- 画面の表に連番をふる。

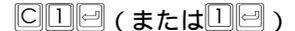


単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

連番を付ける行 (または列) を指定します。

複数に渡る行 (または列) を指定することもできます。

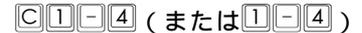
- 1列目に連番をふる。



- 4行目に連番をふる。



- 1列目から4列目までに連番をふる。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

列を指定する場合、“C”は省略可能です

②でページ番号を指定している場合、ただちに結果を書き込みます。

INFORMATION

- ◆ 連番付けを行う行 (または列) の途中でケイ線がある場合、ケイ線は無視して連番付けを続けます。

- ◆ 複数ページに対して連番付けを行った場合は、下の図のようになります。

複数ページの同じ列に連番付けします。

		A	B	C	
		1			
	A	2			
	4	3			ページ目
A	5				
7	6				2ページ目
8					
9					3ページ目

例題

7 ページ「成績集計表」に連番の列を追加して、連番を付けます。

R : 7 回

まず連番付けを行う列を挿入します。

I C 回

H 回.....先頭列の前に挿入する。

5 回..... 5 桁の列を挿入する。

Esc.....項目名は付けずに、I C 命令を終了する。

NUM 命令で連番付けを行います。

NUM 回

回.....画面の表に連番を付ける。

C 1 回..... 1 列目に連番を付ける。

実行前

氏	名	国語	数学	理科	社会	英語
北野	広二	65	81	43	71	68
奥村	本泰	61	55	48	65	68
加藤	芳記	80	72	63	71	39
金尾	義子	48	82	63	70	73
原田	秋子	67	55	59	55	46
荒川	康広	74	93	37	65	77
渋谷	行江	72	46	61	69	64
小池	勇作	62	79	52	60	39
水戸	陽子	75	67	79	68	86
杉山	実貴	45	38	61	84	90
石田	次郎	82	61	75	66	76
田代	由香	94	68	80	51	61



実行後

	氏	名	国語	数学	理科	社会	英語
1	北野	広二	65	81	43	71	68
2	奥村	本泰	61	55	48	65	68
3	加藤	芳記	80	72	63	71	39
4	金尾	義子	48	82	63	70	73
5	原田	秋子	67	55	59	55	46
6	荒川	康広	74	93	37	65	77
7	渋谷	行江	72	46	61	69	64
8	小池	勇作	62	79	52	60	39
9	水戸	陽子	75	67	79	68	86
10	杉山	実貴	45	38	61	84	90
11	石田	次郎	82	61	75	66	76
12	田代	由香	94	68	80	51	61



文字イメージを表のデータにする

- BMP形式の文字イメージのデータを、表データに変換します。

実行前の確認

- あらかじめ、BMP形式の文字イメージデータを取り込まれた表を画面に読み出しておいてください。
- 読み取る元となる文字イメージのデータがカラーのような場合、読み取り精度が低下する場合があります。あらかじめBMS命令で2値化しておけば読み取り精度が向上します。

類似命令

- OCR S...文字イメージを文章データにします。

仕事は =



判読する列は :

文字イメージデータが取り込まれている列を指定します。

- 2列目の文字イメージデータを指定する。



単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

変換した結果のデータを入力する列を指定します。

- 文字データにして4列目に書き込む。



単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

識別基準の濃さを数値で入力します。

読み取る元の文字イメージデータが薄い場合は低い数値を、暗い場合は高い数値を指定します。

キーのみを押すと128を指定したことになります。

 薄い 85
 普通 128
 暗い 170

識別基準の濃さは (0~255) :

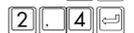
 全ての文字 1
 ひらがな 2
 カタカナ 3
 漢字 4
 数字 5
 記号 6
 英字 7
 数字記号 8
 英字記号 9

文字の種類を番号で選択します。

文字の種類が混在している場合は“全ての文字 1”を選択しますが、たとえば、文字イメージがひらがなだけの場合、“ひらがな 2”を選択すれば、ひらがなの認識率が向上します。

また、混合して指定することが可能です。

- すべてカタカナとして認識する。
- ひらがなと漢字として認識する。



識別文字は (すべて ⇐) :

INFORMATION

- ◆ 文字データをイメージとして表に取り込むには、SF命令を使います。SF命令とは、SFE命令で作ったデザインページに合わせて、スキャナーからデータを表へ取り込みます。
- ◆ 読み取りがうまくいかない場合は、④の識別基準の濃さを調節してみてください。

- ◆ BMS命令は、OCR命令で文字イメージをデータに変換する際の下準備などに使います。SF命令で取り込んだ文字イメージの背景に薄い色が付いてしまっていると、OCR命令での読み取り精度が低下します。このような時はBMS命令で、背景を除去して(基準にする階調の指定で、大きい数値を指定する)文字だけを残すことができます。

OCR命令の実行例

OCR命令で文字イメージデータを文字データに変換するには、下のようにBMP形式の文字イメージデータが取り込まれている表を作成しておきます。

0	1	2	...
1	[OCR命令]	95.04.01 混 L=0050 C=0170	
2	F=30,46		
3			
4	文字イメージデータ	判読結果	
5			
6	東京市場で最高値		
7	マルチメディア		
8	渋谷へひと駅3分。 ■東急新玉川線「三軒茶屋」駅へは徒歩7分		
9			
10			
11			
仕事は=			

OCR命令を実行します。

OCR

- 1 判読する列は1列目を指定する。
- 2 結果の書き込み場所は2列目を指定する。
- 識別基準の濃さは“128”にする。
- 特に文字種を指定しない。

文字イメージを判読し、文字データとして変換します。

0	1	2	...
1	[OCR命令]	95.04.01 混 L=0050 C=0170	
2	F=30,46		
3			
4	文字イメージデータ	判読結果	
5			
6	東京市場で最高値	東京市場で最高値	
7	マルチメディア	マルチメディア	
8	渋谷へひと駅3分。 ■東急新玉川線「三軒茶屋」駅へは徒歩7分	渋谷へひと駅3分。・東急新玉川線「三軒茶屋」駅	
9			
10			
11			
仕事は=			

このように2行になっている文字イメージでも、判読することができます。ただし、判読した結果を入れる列の桁数が足りないと、上のように右側から切れてしまいますので、注意してください。



文字イメージを文章データにする

- BMP形式の文字イメージのデータを、文字（文章）データに変換します。

実行前の確認

- 画面上に表示されている内容は書きかえられますので、必要なデータならあらかじめ書き込んでおいてください。
- 読み取る元となる文字イメージのデータがカラーのような場合、読み取り精度が低下する場合があります。あらかじめBMS命令で2値化しておけば読み取り精度が向上します。

類似命令

- OCR...文字イメージを表のデータにします。

仕事は =



判読するBMPファイル名は :

文字データに変換する文字イメージデータのBMPファイル名を指定します。

ピリオド(.)以下の拡張子は省略可能です。

BMPファイルがマイツールをインストールしたディレクトリ、またはその下の“MYBMP”以外のディレクトリにある場合は、ディレクトリ名を含めて入力します。

- “TEXT.BMP”というファイルを読み込む。
- “ETC”というディレクトリにある、“TEXT.BMP”というファイルを読み込む。

ディレクトリ名から指定する場合、ディレクトリ名とファイル名の前に“¥”を付けてください。

マイツールをインストールしたドライブ以外のドライブから読み込む場合は(フロッピードライブなど)、ファイル名の前にドライブ名とコロン(:)を付けて、ダブルコーテーションで囲んでください。

《例》Aドライブのフロッピーから“TEXT.BMP”というファイルを読み込む。

薄い 85
普通 128
暗い 170

識別基準の濃さは(0~255) :

識別基準の濃さを数値で入力します。

読み取る元の文字イメージデータが薄い場合は低い数値を、暗い場合は高めの数値を指定します。

キーのみを押すと128を指定したことになります。

全ての文字 1
ひらがな 2
カタカナ 3
漢字 4
数字 5
記号 6
英字 7
数字記号 8
英字記号 9

識別文字は(すべて .) :

文字の種類を番号で選択します。

文字の種類が混在している場合は“全ての文字 1”を選択しますが、たとえば、文字イメージがひらがなだけの場合、“ひらがな 2”を選択すれば、ひらがなの認識率が向上します。

また、混合して指定することが可能です。

- すべてカタカナとして認識する。
- ひらがなと漢字として認識する。

INFORMATION

- ◆ OCRS 命令を実行すると、新しくページを作成します。このとき表題には、指定した BMP ファイルのファイル名が付けられます。
- ◆ 読み取りがうまくいかない場合は、③の識別基準の濃さを調節してみてください。
- ◆ マイツールで、文字データを BMP 形式のデータにする方法として、SF 命令があります。SF 命令とは、SFE 命令で作ったデザインページに合わせて、スキャナーからイメージデータを表へ取り込みます。

OCRS 命令の実行例

OCRS 命令で文字イメージデータを文字データに変換するには、下のような BMP 形式の文字イメージデータが必要です。

的確なお客様分析

せっかくの顧客名簿、もっと積極的に活用したいのだが…こんな時がマイツールの本領発揮の場です。たとえば単なる住所録でも、顧客名簿には変わりありません。でもちょっとした加工で使い道は大きく広がります。表に新しい項目を追加、データを入力して計算、結果を元にグラフを作る、という作業が一貫した流れの中で可能です。素早い分析と的確な判断…。マイツールなら簡単です。

左の BMP ファイル SENDEN.BMP がマイツールをインストールしたディレクトリにあると想定します。

OCRS 命令を実行します。

OCRS ④

SENDEN④.....ファイル名“SENDEN”を指定する。

④.....識別基準の濃さは“128”にする。

④.....特に文字種を指定しない。

判読した BMP ファイルのファイル名が表題になります

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[¥WINMT¥SENDEN.BMP]		95.04.01	混	L=0050	C=0170	
2	的確なお客様分析						
3	せっかくの顧客名簿、もっと積極的に活用したいのだが...						
4	こんな時がマイツールの本領発揮の場です。たとえば単なる						
5	住所録でも、顧客名簿には変わりありません。でもちよ						
6	つとした加工で使い道は大きく広がります。表に新しい項						
7	目を追加、データを入力して計算、結果を元にグラフを作						
8	る、という作業が一貫した流れの中で可能です。素早い分						
9	析と的確な判断...。マイツールなら簡単です。						
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

仕事は =

OFFDATE

Off Date (オフ デート)

タイトル行に日付を表示しない

- タイトル行（1行目）に日付を表示しないように設定します。

仕事は =

OFFDATE

INFORMATION

- ◆マイツールのインストール直後は日付が表示されるようになっています。
- ◆裏画面の日付も非表示になります。
- ◆日付を非表示にしても、W命令などでページを書き込むと日付の情報は書き込まれます。
- ◆非表示の状態ではONDATE命令を実行すると、日付を表示できます。
- ◆参照画面の日付は、OFFDATE命令で非表示になっているときにページを読み込めば非表示になり、その後、ONDATE命令、OFFDATE命令の実行にかかわらず非表示の状態になります。

ONDATE

On Date (オン デート)

タイトル行に日付を表示する

- タイトル行（1行目）に日付を表示するように設定します。

仕事は =

ONDATE

INFORMATION

- ◆マイツールのインストール直後は日付が表示されるようになっていません。
- ◆裏画面の日付も表示されます。
- ◆日付が表示されている状態でOFFDATE命令を実行すると、日付を非表示にできます。
- ◆参照画面の日付は、ONDATE命令で非表示になっているときにページを読み込めば表示され、その後、ONDATE命令、OFFDATE命令の実行にかかわらず表示の状態になります。



Print (プリント)

画面の内容を印刷する

- 画面の1行目(タイトル行)から最終行までを印刷します。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。

類似命令

- PB.....裏画面の内容を印刷します。
- PC.....文字間をつめて印刷します。
- PD.....複数ページを印刷します。
- PE.....編集を加えて印刷します。
- PF.....デザインページの書式に合わせて印刷します。
- PG.....グラフを印刷します。

仕事は =



【印刷途中で キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆PSET命令の1番(コンパクトモード)が“2・コンパクト”に設定されていると、文字間隔をつめて印刷します(PC命令で印刷した場合と同じになります)。
- ◆漢字モードと混在モードとでは印刷されたときに大きさが異なります。
- ◆PSET命令の8番(印刷後の改頁)が“1・しない”に設定されていると、印刷が終了しても紙送りをしません。この場合、紙送りはPFF命令で行ってください。
- ◆印刷命令は、マイツールを起動させたとき、プリンタの電源もONの状態になっていないと、きちんと印刷できません。
- ◆P命令では、グラフ(帯・点・散布図・工程管理)は正常に印刷できません。グラフの印刷は、PG命令で文字間隔をつめて印刷を行ってください。

《印刷例》

[売上帳 2]		95.04.01	混	L=0050	C=0170
F=8,12,12,12,12,12					
	シャンプー	リンス	洗濯洗剤	漂白剤	計
個数	62	102	35	26	
単価	290	300	910	280	
売上金額	17980	30600	31850	7280	
累計	17980	48580	80430	87710	87710

PAGE PRUN PCAN

Page (ページ) ・ Page Run (ページ ラン) ・ Page Cancel (ページ キャンセル)

ページ間処理を行う

- 複数のページに対して、同じ処理を自動的に行います。
- PAGEでページ間処理の指定をしたあと、通常の命令を入力し、PRUNで実行します。
- PCANはページ間処理を取り消す場合に使います。

重要

- 書き込み先の指定は十分注意して行ってください。ページと同じページに書き込む場合、つまり元のページを書きかえるときは、最大限の注意を払うようにしてください。

類似命令

- RUN...オートプログラムを実行します。

仕事は =

P A G E ↵

同一処理するページは :

同一処理を行うページを指定します。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

同じページ ↵
他のページ 先頭ページ
書き込まない N

同一処理を行った結果をどうするか指定します。

- 1ページから書き込む。
- 入力ページと同じページに書き込む。
- 書き込まない。

1 ↵

↵

N ↵

結果の書き込み先は :

“N”を選んだ場合、処理を画面で見ただけです。

ページを指定した場合は、そのページを先頭に連続して書き込みます。

《例》 入力ページに、5、7、9を指定し、書き込み先頭ページで1を指定すると、1から3ページに書き込みます。

(ここからページモードに変わります)

[PAGE]仕事は =

指定したすべてのページに対して実行する命令を入力します。通常の指定とまったく同じです。命令は複数入れられます。

画面には、指定した先頭ページが表示されます。

★PAGE↵と入力すると、②から操作をやり直すことができます。

【ページ間処理を取り消す場合】

[PAGE]仕事は =

P C A N ↵

仕事は =

ページ間処理が取り消されます。

画面はページモードを解除して、“仕事は = ”の状態に戻ります。

【ページ間処理を行う場合】

[PAGE]仕事は =

P R U N ↵

(ここからページ間処理を開始します)

画面のページの処理を終え、入力ページの次から同じ処理を繰り返します。

P

【実行途中で「ストップ」(Ctrl + Pause) キーを押した場合】

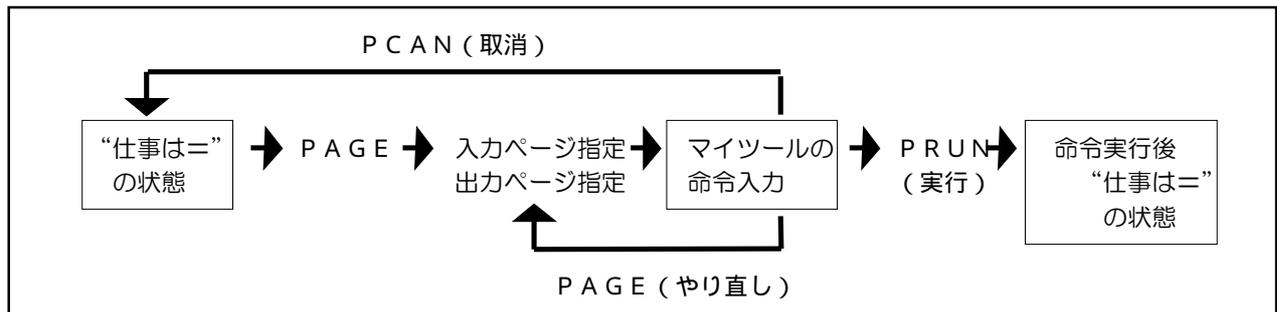
エラー番号 = 0
PAGE コマンドを中断します

左のようなエラーメッセージを表示してページ間処理を中止します。

仕事は =

入力した命令をすべて終了した場合、または途中で中止した場合、通常の“仕事は = ”の状態に戻ります。

PAGE 命令の流れ

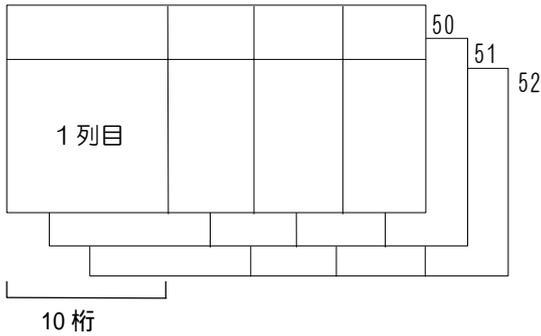
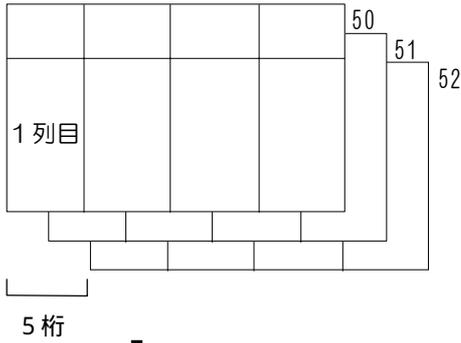


INFORMATION

- ◆ PAGE 命令は、複数ページに、同じ命令で同じ指定を繰り返す場合に使います。
- ◆ 複数ページに同じ修正、同じ計算などを行うときに便利な命令です。
- ◆ 実行するのは、画面が “[PAGE] 仕事は = ” の状態に変わってから入力された命令です。指定の順番に実行します。
- ◆ PAGE 命令中ではオートプログラムは使えません。また、オートプログラム中も PAGE 命令は使えません。
- ◆ PRUN 命令を実行する前にエラーが発生した場合は、PAGE 命令が中止され、“仕事は = ” の状態に戻りますので、もう一度、PAGE 命令からやり直してください。PRUN 命令の実行後にエラーが発生した場合は、エラーメッセージを表示してページ間処理が中断されます。再び PRUN 命令を実行すると、残りの処理を継続します。処理を中止する場合は PCAN 命令を実行します。
- ◆ 入力できる命令数は約 70 個です。PAGE 命令中の内容がロギングエリアの最大行数を超えると PAGE 命令は実行できません。

PAGE 命令の実行例

(1) 50～52 ページまでの表の 1 列目の桁数を 10 に変更します。



仕事は =

PAGE

同一処理するページは :

50-52

結果の書き込み先は :

[PAGE]仕事は =

CF

[PAGE]何列目の桁数を変えますか :

1

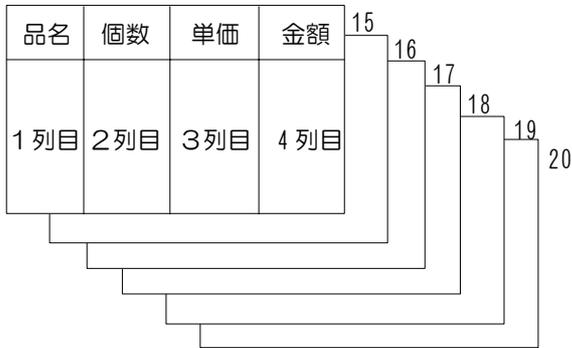
[PAGE]新しい桁数は :

10

[PAGE]仕事は =

PRUN

(2) 15～20 ページまでの金額を計算して 1 ページ目から書き込みます。



仕事は =

PAGE

同一処理するページは :

15-20

結果の書き込み先は :

1

[PAGE]仕事は =

C

[PAGE]計算式は :

C2*C3=C4

[PAGE]計算式は :

エスケープ

[PAGE]仕事は =

PRUN

(“ 個数 * 単価 = 金額 ” を、複数ページにわたって行う)

- 裏画面の1行目(タイトル行)から最終行までを印刷します。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。

類似命令

- P.....おもて画面の内容を印刷します。
- PC...文字間をつめて印刷します。
- PD...複数ページを印刷します。
- PE...編集を加えて印刷します。
- PF...デザインページの書式に合わせて印刷します。
- PG...グラフを印刷します。

仕事は =



【印刷途中で[エスケープ]キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開]ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止]ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し]ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆PSET命令の1番(コンパクトモード)が“2...コンパクト”に設定されていると、文字間隔をつめて印刷します(PC命令で印刷した場合と同じになります)。
- ◆漢字モードと混在モードとでは印刷されたときに大きさが異なります。
- ◆P命令では、グラフ(帯・点・散布図・工程管理)は正常に印刷できません。グラフの印刷は、PG命令で文字間隔をつめて印刷を行ってください。
- ◆印刷命令は、マイツールを起動させたとき、プリンタの電源もONの状態になっていないと、きちんと印刷できません。
- ◆PSET命令の8番(印刷後の改頁)が“1...しない”に設定されていると、印刷が終了しても紙送りをしません。この場合、紙送りはPFF命令で行ってください。ただし、GDIプリンタをお使いの場合は設定できません。必ず1ページごとに改ページを行います。

- 画面の1行目(タイトル行)から最終行までを、文字間隔をつめて印刷します。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。

類似命令

- P画面の内容を印刷します。
- PB裏画面の内容を印刷します。
- PD複数ページを印刷します。
- PE編集を加えて印刷します。
- PFデザインページの書式に合わせて印刷します。
- PGグラフを印刷します。

仕事は =



【印刷途中で **エスケープ** キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆ PC命令で印刷すると、PSET命令の1番(コンパクトモード)が“1..標準”、“2..コンパクト”のどちらかに設定されていても、印刷結果は同じです。
- ◆ PSET命令の8番(印刷後の改頁)が“1..しない”に設定してあると、印刷が終了しても紙送りをしません。この場合、紙送りはPFF命令で行ってください。
- ◆ 印刷命令は、マイツールを起動させたときに、プリンタの電源もONの状態になっていないと、きちんと印刷できません。

《P命令とPC命令での印刷の違い》

P命令

[売上帳 2]				95
F=8,12,12,12,12,12				
	シャンプー	リンス	洗濯洗剤	
個数	62	102	35	
単価	290	300	910	
売上金額	17980	30600	31850	
累計	17980	48580	80430	

PC命令

[売上帳 2]				95.04.01	混	L=0050
F=8,12,12,12,12,12						
	シャンプー	リンス	洗濯洗剤	漂白剤		
個数	62	102	35	26		
単価	290	300	910	280		
売上金額	17980	30600	31850	7280		
累計	17980	48580	80430	87710	877	

- 複数のページを連続して印刷します。
- 印刷枚数を指定することもできます。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。

類似命令

- P画面の内容を印刷します。
- PC文字間をつめて印刷します。
- PE編集を加えて印刷します。
- PFデザインページの書式に合わせて印刷します。
- PGグラフを印刷します。

仕事は =



印刷するページは[画面 ↵] :

印刷するページを指定します。

- 画面のページを何回も印刷する。
単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。



【画面を選んだ場合】

何枚印刷しますか
(1 ~ 100 , [1 枚 ↵]) :

何枚印刷するか、指定します。

- 1 枚だけ印刷する。
- 10 枚印刷する。



【印刷途中で[エスケープ] キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆ PSET命令の1番(コンパクトモード)が“2・コンパクト”に設定されていると、文字間隔をつめて印刷します(PC命令で印刷した場合と同じになります)。
- ◆ 印刷命令は、マイツールを起動させたとき、プリンタの電源もONの状態になっていないと、きちんと印刷できません。

- ◆ 複数ページを印刷する場合、指定されたページの順に印刷します。50, 3, 10-20と指定すると、その順に連続して1枚ずつ印刷します。

印刷範囲などを指定して印刷する

- 行や列を指定して、必要な部分だけ印刷します。
- 行番号をつけて印刷することができます。
- 行と行の間にスペース行を入れて印刷することができます。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。

類似命令

- P 画面の内容を印刷します。
- PC 文字間をつめて印刷します。
- PD 複数ページを印刷します。
- PF デザインページの書式に合わせて印刷します。
- PG グラフを印刷します。

仕事は =



印刷するページは[画面 ↵] :

印刷するページを指定します。

- 画面のページを印刷する。 
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

(画面を選んだ場合のみ、このメッセージが表示されます)

何行目を印刷しますか :

印刷する行の範囲を指定します。

- 1行目から最終行まですべてを印刷する。 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

何列目を印刷しますか :

列の範囲を指定します。

- すべての列を印刷する。 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

行番号を付けますか[Y/N] :

画面上にある行番号も印刷するか、イエス(Y)ノー(N)で指定します。

- 行番号も印刷する。 
- 行番号は印刷しない。  (または )

縦線をつなぎますか[Y/N] :

縦線を実線で印刷するか、イエス(Y)ノー(N)で指定します。

- 実線で印刷する。 
- 破線で印刷する。  (または )

行間をいくつ空けますか
(0~9, [行間なし ↵]) :

行と行の間にいくつスペース行を入れるか、指定します。

- 行ごとに1行のスペースを入れる。 
 - 行間を空けない。 
- PE命令では、印刷終了後、紙送りを行いません。紙送りはPFF命令で行ってください。

【印刷途中で^[エスケープ] キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカースルを合わせて、左クリックします。

- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆ 複数ページにわたって、印刷できます。複数ページの印刷が終わると、画面には最後のページが表示されます。
- ◆ 列を指定する場合は、印刷したい列の順にハイフン (-) やカンマ (,) を使って指定してください (4-5, 1, 2 と指定すると、その順番に印刷します) 。
- ◆ 画面以外のページを印刷する場合、行の指定はできません。無条件にすべての行を印刷します。
- ◆ “縦線をつなぎますか[Y/N]” のメッセージで “Y” を選ぶと実線で印刷できます。
- ◆ PSET 命令の 18 番 (行番号印字) が “2..する” に設定されていても、“行番号を付けますか[Y/N]” のメッセージで “N” を選ぶと行番号は印字されません。
- ◆ 行間を開ける場合、データ内に空白の行があると、その空白も 1 行としてスペース行を入れます。スペース行は、最大 9 行まで指定できます。
- ◆ 印刷する内容が、用紙の幅を超えた場合、オーバーした列は次の用紙に印刷します。
- ◆ フォーマット行があるページでは、列として指定されていない部分 (最終列よりも右側にある文字やケイ線) で、フォーマット行以降は印刷されません。
- ◆ ページ指定を行うとき、先頭ページがフォーマット行のないページの場合は、すべての行・列を印刷します。
- ◆ 1 ページだけを印刷する場合は、PSET 命令の 8 番 “印刷後の改頁” が “2..する” に設定されていても、改ページは行われません。PFF 命令で改ページしてください。

PER

Percentage (パーセンテージ)

百分率を求める

- 縦方向、または横方向の百分率を求めることができます。

実行前の確認

- 小数点以下の桁数は、あらかじめ D R 命令で設定しておきます。
また、D R 命令の設定によって、百分率の合計が 100% にならない場合があります。

仕事は =

PER

計算場所は :

パーセント (百分率) を求める、行 (または列) の番号を指定します。

- 2 列目を指定する。

C 2

- 最終行 (T) を指定する。

L T

単独指定が可能です。

複数の行・列は指定できません。

計算の範囲は :

指定した行 (または列) の中で、計算する範囲を指定します。

- 計算場所で指定した列の、6 ~ 10 行目の百分率を求める。

6 - 1 0

- 全列、または全行の百分率を求める。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥、@指定が可能です。

計算場所の指定で、列を指定した場合は行の範囲、行を指定した場合は列の範囲になります。

書き込み場所は :

計算結果を書き込む場所を指定します。指定した行 (または列) の前に計算結果が挿入されます。

- 3 列目の前に 1 列挿入して書き込む。

3

- 最終行の次の行に書き込む。

単独指定が可能です。

計算場所の指定で列を指定した場合は列番号を、行を指定した場合は行番号を指定してください。

INFORMATION

- ◆ PER 命令を実行すると、百分率の合計欄が自動的に挿入されます。
- ◆ 挿入される行・列の先頭列または項目行に“%”が入ります。
- ◆ 行を求める場合は“L”、列を求める場合は“C”を行番号・列番号の頭につけてください。
- ◆ 行と列は、同時に百分率を求められません。
- ◆ 計算結果の整数部の桁数が、書き込み先の桁数を超えた場合、そのセルを“*”でうめます。
- ◆ スペースは“0”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。

例題

5 ページ「売上集計」のデータの、百分率を求めます。

あらかじめDR命令で、小数点以下の桁数を“1桁”に、計算結果を“切り捨て”に設定しておいてください。

R : 5 回

PER 回

C 2 回..... 2 列目のデータの百分率を求める。

回..... すべての行を計算する。

3 回..... 3 列目の前に 1 列追加して、結果を書き込む。

実行前

5	1	2	3	4	5	6	7
1	[売上集計]		95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12						
3							
4	品名	売上					
5							
6	F	968,000					
7	A	754,000					
8	G	324,000					
9	B	262,000					
10	C	128,000					
11	E	62,000					
12	D	54,000					
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
	仕事は=						



実行後

5	1	2	3	4	5	6	7
1	[売上集計]		95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12,5						
3							
4	品名	売上	%				
5							
6	F	968,000	37.9				
7	A	754,000	29.5				
8	G	324,000	12.6				
9	B	262,000	10.2				
10	C	128,000	5.0				
11	E	62,000	2.4				
12	D	54,000	2.1				
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
	仕事は=						

デザインページの書式で印刷する

- 表のデータを決まった書式で印刷します。
- キーを指定して合計を出したり、改ページすることができます。
- 宛名(ラベル)印刷、請求書印刷、見積書印刷などの用途に使用します。

実行前の確認

- あらかじめデザインページとデータページを用意しておきます。
- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。

類似命令

- P.....画面の内容を印刷します。
- PC.....文字間をつめて印刷します。
- PD.....複数ページを印刷します。
- PE.....編集を加えて印刷します。
- PG.....グラフを印刷します。

仕事は =



デザインページは :

デザインページのあるページを指定します。

- 50ページのデザインページを指定する。
単独、表題、ワイルド指定が可能です。



データページは[画面 ←] :

印刷するデータのあるページを指定します。

- 画面のデータを印刷する。
単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
ページを指定すると、指定ページの先頭のページから順に印刷を始
めます。



【画面を選んだ場合】

何行目を印刷しますか :

画面の何行目から何行目までのデータを印刷するか、指定します。

- 画面のデータすべてを印刷する。
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。



【印刷途中で[エスケープ]キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開]ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止]ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し]ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆PSET命令の9番(接続プリンタ機種)が、カラープリンタにセットされていると、カラー印字が行えます。ただし、プリンタ本体の設定がカラー対応になっていないと、カラー印字できません。
- ◆カラー印字は文字に対してのみ行われ、背景色は印字しません。ただし、文字が黒で、背景色が黒以外の場合は、文字が背景色で印字されます。

デザインページの作り方

P F 命令のデザインページは、コントロール行と印刷行の2つに分かれます。コントロール行で印刷の方法などを指定し、印刷行でケイ線や見出し、印刷するデータとその位置などを指定します。

デザインページの作成の手順は、

- F 命令で表題まで入力し、
- [エスケープ]**キーを押したあと、
- E D 命令でデザインページを作り、
- [エスケープ]**キーを押して終了します。

作成したデザインページは、必ずW命令で書き込んでください。

デザインページの作り方は、次の解説事項にしたがってください。

<pre>[P F デザインページ] 95.04.01 混 L=0050 C=0170 &U *1 &2</pre> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">請_レ求_レ書_レ ⇄ #!1,2 様</p> <p>下記の通り請求いたします。 (株) ECONIC</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>販売日</th> <th>品名</th> <th>個数</th> <th>単価</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>#1,1</td> <td>#1,4</td> <td>#1,5</td> <td>#1,6</td> <td>#1,7</td> </tr> <tr> <td>#2,1</td> <td>#2,4</td> <td>#2,5</td> <td>#2,6</td> <td>#2,7</td> </tr> <tr> <td>#3,1</td> <td>#3,4</td> <td>#3,5</td> <td>#3,6</td> <td>#3,7</td> </tr> <tr> <td>#4,1</td> <td>#4,4</td> <td>#4,5</td> <td>#4,6</td> <td>#4,7</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">合計金額 #T,8</p> </div> <pre>&P &E</pre>	販売日	品名	個数	単価	金額	#1,1	#1,4	#1,5	#1,6	#1,7	#2,1	#2,4	#2,5	#2,6	#2,7	#3,1	#3,4	#3,5	#3,6	#3,7	#4,1	#4,4	#4,5	#4,6	#4,7	<p>——— コントロール行</p> <p>——— 印刷行</p> <p>——— コントロール行</p>
販売日	品名	個数	単価	金額																						
#1,1	#1,4	#1,5	#1,6	#1,7																						
#2,1	#2,4	#2,5	#2,6	#2,7																						
#3,1	#3,4	#3,5	#3,6	#3,7																						
#4,1	#4,4	#4,5	#4,6	#4,7																						

(1) コントロール行

コントロール行の先頭は“&”を書き、そのあとの文字で印刷時の機能を指定します。

コントロール行は、1桁目から書かれていれば、デザインページのどの行にあってもかまいません (“*数字”はどの桁でも可)。また印刷時、この行は印字されません。

指定方法	意味	指定方法	意味
* 数字 (1~9まで)	デザインページの横方向の終了位置を指定します。 この位置から右は何が書かれても無視します。 数字は1から9までで、この数字の分だけ横方向に繰り返して印刷します。 《例》*5の場合 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> 1 件目 2 件目 3 件目 4 件目 5 件目 </div> ★省略時はページの右はしに“*1”と書き込んだのと同じになります。	F (大文字で)	改ページを指定します。 この指定が現れたところでプリンタ用紙1ページ分送り、次の用紙から印刷をはじめます。
		E (大文字で)	デザインページの縦方向の終了位置を指定します。 ★この行から下はすべてコメントとみなされ、何も印刷しません。 ★省略時は、印刷行の1番下が終了位置になります。
		P (大文字で)	ポーズモードを指定します。 この指定が現れたところで印字を一時中断して、ポーズモードに入ります。 ポーズモードで“やり直し”を指定した場合、はじめから印字を再開して、再度ポーズ指定のところでポーズモードに入ります。 ポーズモードで再開を指定した場合、次の行から印字を再開します。 ★再開を指定した場合は、それ以後のポーズ指定は無視します。
数字 (1~9まで)	数字は1から9までで、指定したコントロール行から数字の分だけ改行して印刷します。たとえば“&3”は、その行の位置にスペース行が3行あるのと同じ様に印刷します。		
U (大文字で)	縦線をつないで印刷するときに指定します。省略時は、縦線を破線で印刷します。		
T (大文字で)	データをすべて縦書きに印刷するときに指定します。	H (大文字で)	データをすべて½圧縮印刷するときに指定します。
Y (大文字で)	データをすべて横書きに印刷するときに指定します。	B (大文字で)	データをすべて標準(½圧縮印刷を解除)印刷するときに指定します。

GD I プリント使用時の TrueType フォントの指定

GD I プリントを使用すれば、コントロール行の指定で、Windows にインストールされている TrueType フォントを使用して印刷することができます。

TrueType フォントを使って印刷するには、次のように指定します。

指定方法	意味
&FT "フォント名"	コントロール以降の行を、指定されたフォントで印刷します。
FT	フォント指定を解除し、コントロール以降の行をLPSET命令の11番で選択されているフォントで印刷する。

《指定例》

```
&FT "HGゴシックE"
案内状

&FT "HG正楷書体"
#1,2                      様

&FT
恒例となりました、「星について語る会」
ですが、はやいもので今回で12回を迎
えることになりました。
```

《印刷結果》

案内状

北山 春是 様

恒例となりました、「星について語る会」
ですが、はやいもので今回で12回を迎
えることになりました。

LPSET命令の11番“印字フォント”で
“MS明朝”が選択されている場合。

INFORMATION

- ◆フォントの指定は行単位で行うことができます。
- ◆TrueType フォントを使って印刷できるのは、PSET命令の9番“接続プリンタ機種”で“100”もしくは“110”のGD I プリントを選択している場合のみです。
- ◆指定できる TrueType フォントは、お使いのWindows にインストールされているフォントのみです。
- ◆フォント名は、全角・半角・大文字・小文字を区別しますので正しく入力してください。フォント名はLPSET命令の11番“印字フォント”から“3…その他のフォント”を選択して確認するか、Windowsの「コントロールパネル」から「フォント」を選択して確認することができます。

(2) 印刷行

印刷行の部分で、印刷するケイ線やデータの位置を指定します。

印刷するデータとその位置は、# 相対行番号 , 列番号 の形式で指定します。

相対行番号とは、データ先頭行を1として数えた番号です。通常に行番号とは異なるので注意が必要です。

キー列指定がある場合の相対行番号は、キーが変わるたびに、1から数え直します。

キー列は、“#”と“相対行番号, 列番号”の間に“!”マークを入れて指定します。

《例》 取引先をキー列にした場合の相対行番号とセル内データの位置指定です。

		取引先	品名	
相対行番号	1→	A	りんご	(“A”は#1, 1 “りんご”は#1, 2)
	2→	A	みかん	(“みかん”は#2, 2)
	3→	A	バナナ	(“バナナ”は#T, 2) ※キー列が変わる直前の相対行番号はT
相対行番号	1→	B	みかん	(“B”は#1, 1 “みかん”は#1, 2)
	2→	B	なし	(“なし”は#2, 2)
	3→	B	いちご	(“いちご”は#3, 2)
	4→	B	バナナ	(“バナナ”は#T, 2) ※キー列が変わる直前の相対行番号はT
相対行番号	1→	C	メロン	(“C”は#1, 1 “メロン”は#1, 2)
	2→	C	バナナ	(“バナナ”は#T, 2)
		キー列	2列目	
		(1列目)		

《例》 キー列を指定しないで、住所一覧を印刷する。

〒	住所	氏名
102	東京都…	山下 昭雄
261	千葉県…	谷村 健一
336	埼玉県…	野村 朝子

2列目 4列目 6列目

#1, 2 #1, 4
#1, 6
#1, 2 #1, 4
#1, 6
#1, 2 #1, 4
#1, 6



102	東京都…	山下 昭雄
261	千葉県…	谷村 健一
336	埼玉県…	野村 朝子

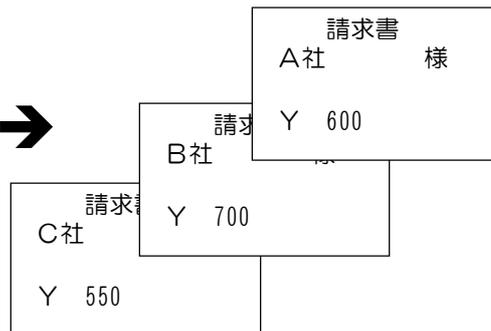
キーを指定していないで、表のデータ行の1行目から、1行ずつ住所と名前を印刷します。

《例》 取引先をキー列にして、取引先別請求書を作る。

取引先	品名	金額	合計
A社	おにぎり	100	
A社	シャク弁当	500	600
B社	おにぎり	100	
B社	カレー弁当	600	700
C社	オムライス	550	550

2列目 4列目 6列目

請求書
#! 1, 2 様
¥ #T, 8



キー列の指定には“!”を、使います。
“T”を合わせて使うと、キー列ごとの最後の行のデータを印刷することができます。

【まとめ】

指定形式	意味
# 相対行番号 , 列番号	データの相対行番号と列番号で、印刷する項目の位置を指定します。
# ! 相対行番号 , 列番号	キー列を指定する場合に使います。 キー列の指定は5列まで可能です。
# T , 列番号	キー列指定の場合など、相対行番号の最後は“T”で指定します。 取引先などのキー列が変わるたびに、その取引先合計などを印刷することができます。
# 相対行番号 , 列番号 R	指定したデータを右寄せで印刷することができます。
# 相対行番号 , 列番号 C	指定したデータを中央にして印刷することができます。
# 相対行番号 , 列番号 L	指定したデータを左寄せで印刷することができます。
# 相対行番号 , 列番号 ⇔	指定したデータを横倍角で印刷することができます。
# 相対行番号 , 列番号 ⇓	指定したデータを縦倍角で印刷することができます。
# 相対行番号 , 列番号 ⇘	指定したデータを4倍角で印刷することができます。

★左寄せ、中央寄せ、右寄せの指定と、横倍角、縦倍角、4倍角の指定は同時に行うことができます。

ただし、倍角の指定と中央寄せ、もしくは右寄せの指定を同時に行う場合、データページの元データのある列の桁数を最大のデータの長さの2倍にしておかないと正常に印刷されません。

★横倍角、4倍角のマークは、印刷時にデータと重なる位置にあると、印字位置がずれてしまいます。印刷するデータがマークと重ならないよう、十分間隔を取って指定してください。

INFORMATION

- ◆キー列を指定する場合は、1つのキーで5ページ以上続いたデータページを指定しないでください。あらかじめ表のデータをS命令やSHG命令で整理・分類しておいてください。
- ◆5ページ以上のデータページを印刷する場合、4ページ目までのデータは同一印刷用紙、同一デザインページに印刷することができます。
- ◆デザインページで指定した項目が、表の中に存在しないときは印刷しません。たとえば、デザインページで#4, 2と指定しても1, 2, 3行目を印刷して、キーが変わった場合、#4, 2で指定した場所は空白になります。
- ◆デザインページで半改行や無改行を設定する場合、半改行マークや無改行マークが、印刷するデータと重なるような位置にあると、半改行や無改行は無視されてしまいます。半改行マークや無改行マークは、印刷するデータと重ならない場所に置いてください。
- ◆デザインページは、縦方向2ページ分までの大きさで作成することができます。大きな用紙に印刷したいときなどに便利です。

例題

50 ページ「売上帳」のデータを、51 ページ「納品書 P F デザインページ」の書式で印刷します。

P F 図

51 図.....51 ページ「納品書 P F デザインページ」のデザインページを使う。

50 図.....50 ページのデータを印刷する。

P F デザインページ

51	[納品書]	95.04.01	混	L=0100	C=0074
2	8U				
3		納品書			
4		納品書			
5					
6	#1,6	様			#1,1年 #1,2月 #1,3日
7					
8		[#1,5]			
9					102 東京都千代田区麹町 2-2
10					麹町高橋ビル 3F
11					TEL 03-3000-6532
12					FAX 03-3000-6728
13					
14					アビタイト 株式会社
15					
16					担当 斎藤
17					
18					
19					
20					
21					

印刷結果

納品書		95 年 04 月 03 日		
(株)神崎建設 様		[107]		
		102 東京都千代田区麹町 2-2 麹町高橋ビル 3F TEL 03-3000-6532 FAX 03-3000-6728		
		アビタイト 株式会社		
		担当 斎藤		
毎度お買上ありがとうございます		合計金額 円	324,000	
品名	CODE	数量	単価	金額
A4用紙	1001	200	580	116,000
ハインター	1005	300	360	108,000
透明ポット	1010	200	500	100,000

データページ

50	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	[売上帳]						95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=2,2,2,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12,12										
3											
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額		
5											
6	950403	10001	107 (株)神崎建設	1001	A4用紙 A		200	580	116,000		
7	950403	10001	107 (株)神崎建設	1005	ハインター A		300	360	108,000		
8	950403	10001	107 (株)神崎建設	1010	透明ポット A		200	500	100,000		
9	950403	10002	112 鈴木工務店	1030	ルーペ F		2000	500	1,000,000		
10	950403	10003	118 (有)紅梅物産	1010	透明ポット A		250	500	125,000		
11	950403	10003	118 (有)紅梅物産	1002	A3用紙 A		600	620	372,000		
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											

納品書		95 年 04 月 03 日		
鈴木工務店 様		[112]		
		102 東京都千代田区麹町 2-2 麹町高橋ビル 3F TEL 03-3000-6532 FAX 03-3000-6728		
		アビタイト 株式会社		
		担当 斎藤		
毎度お買上ありがとうございます		合計金額 円	1,000,000	
品名	CODE	数量	単価	金額
ルーペ	1030	2000	500	1,000,000

納品書		95 年 04 月 03 日		
(有)紅梅物産 様		[118]		
		102 東京都千代田区麹町 2-2 麹町高橋ビル 3F TEL 03-3000-6532 FAX 03-3000-6728		
		アビタイト 株式会社		
		担当 斎藤		
毎度お買上ありがとうございます		合計金額 円	497,000	
品名	CODE	数量	単価	金額
透明ポット	1010	250	500	125,000
A3用紙	1002	600	620	372,000

例題

52 ページ「得意先名簿」のデータを、53 ページ「宛名印刷 P F デザインページ」の書式で印刷します。

P F 図

53 図.....53 ページ「宛名印刷 P F デザインページ」のデザインページを使う。

52 図.....52 ページのデータを印刷する。

図.....すべてのデータ行を印刷する。

P F デザインページ

53	1	[宛名印刷 P F デザインページ]	95.04.01	混	L=0055	C=0170
2	2			*2		
3	3	〒#1,7L				
4	4	#1,8L				
5	5	#1,9L				
6	6	#1,3L				
7	7	#1,4L				
8	8	#1,5L				
9	9	#1,6L		様		
10	10					
11	11					
12	12					
13	13	OE				
14	14					
15	15					
16	16					
17	17					
18	18					
19	19					
20	20					
21	21					
		仕事(は=				

印刷結果

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-26 3F 309号 (株)丸味森野 代表取締役 森野 裕二	〒150 東京都渋谷区広尾4-1-26 3F 309号 (株)丸味森野 営業一課 課長 駒形 勝也
〒106 東京都港区麻布台1-5-25 2F-22C A3階 伊藤デザイン(株) デザイン部 佐藤 博子	〒106 東京都港区麻布台1-5-25 2F-22C A3階 伊藤デザイン(株) デザイン部 猫柳 史子
〒106 東京都港区麻布台1-5-25 2F-22C A3階 伊藤デザイン(株) 営業部営業一課 課長 江口 かなな	〒106 東京都港区麻布台1-5-25 2F-22C A3階 伊藤デザイン(株) 製造部 係長 伊藤 高志
〒107 東京都目黒区大岡山3-1-105 (有)上越工務店 開発設計部 部長 藤嶋 二郎	〒107 東京都目黒区大岡山3-1-105 (有)上越工務店 開発設計部 主任 吉野 友子
〒107 東京都目黒区大岡山3-1-105 (有)上越工務店 経理部 主任 林 礼子	〒106 東京都台東区上野2-8-8 2F 204号 A3F (株)TO商會 営業部 主任 豊田 秀雄
〒106 東京都台東区上野2-8-8 2F 204号 A3F (株)TO商會 営業部 部長 新藤 悟	〒150 東京都渋谷区渋谷2-9-11-901 3F 301号 A (株)TO商會 開発部 部長 佐藤 春男

データページ

52	1	2	3	4	5	6	7
1	1	[得意先名簿]	95.04.01	混	L=0057	C=0144	
2	2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14					
3	3						
4	4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名
5	5						〒
6	6	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二
7	7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也
8	8	103	1995.0315	伊藤デザイン(株)	デザイン部		佐藤 博子
9	9	104	1995.0415	伊藤デザイン(株)	デザイン部		猫柳 史子
10	10	105	1995.0415	伊藤デザイン(株)	営業部営業一課	課長	江口 かなな
11	11	106	1995.0415	伊藤デザイン(株)	製造部	係長	伊藤 高志
12	12	107	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	藤嶋 二郎
13	13	108	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子
14	14	109	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子
15	15	110	1995.0320	(株)TO商會	営業部	主任	豊田 秀雄
16	16	111	1995.0421	(株)TO商會	営業部	部長	新藤 悟
17	17	112	1995.0412	システム2001	開発部	部長	佐藤 春男
18	18						
19	19						
20	20						
21	21						
		仕事(は=					

上余白約 20mm、左右余白約 19mm、12 面付けのレーザープリンタ用ラベルシールを使っています。

★お使いのプリンタによって、印刷開始位置の調整が必要な場合があります。

- プリンタ用紙を、セット位置から次ページの先頭位置まで紙送りします。
- PFF命令は、PE・PF命令・LPRIN(オート)命令など、印刷後に紙送りを行わない命令で印刷した後に使います。

仕事は =



次のページの先頭に紙送りします。

紙送りの幅は、標準で11インチにセットされています。

用紙の印字先頭位置は、プリンタによって多少異なります。詳しくは、プリンタの説明書をご覧ください。

INFORMATION

- ◆PSET命令またはSET命令の11番“用紙の縦幅”を変更すると、PFF命令で紙を送る長さが変わります。
- ◆PTF命令で用紙の先頭位置を変更したとき、紙送りの先頭位置が変わります。
- ◆P・PC・PB(オート命令)・PG・PD・PR・PT命令は、印刷が終わるとPFF命令をしなくても、次のページの先頭位置まで紙を送ります。ただし、PSET命令の8番“印刷後の改頁”が“1…しない”に設定されていると、印刷が終了しても紙送りをしません。
- ◆レーザープリンタの場合、PF命令で印刷すると、PSET命令の8番“印刷後の改頁”を“2…する”に設定していても、紙送りをしません(複数ページの場合は最後のページが改ページされません)。このようなときに、PFF命令を実行して用紙を送ります。ただし、PSET命令9番“接続プリンタ機種”が“100”、もしくは“110”のGDIプリンタに設定されている場合、PSET命令8番“印刷後の改頁”の設定にかかわらず、必ず用紙を送ります。

イメージデータを使って書式印刷する

- P F G E 命令で作ったスキャナーフォーマットページをもとに、書式印刷を行います。
- BMP 画像を入れたり、TrueType フォントを使って印刷することができます。

重要

- P F G 命令を使って印刷できるのは、G D I プリンタ (Windows 対応プリンタ) をお使いの場合のみです。その他のプリンタでは、P F G 命令を使って書式印刷することはできません。

実行前の確認

- 印刷する前に、P S E T ・ L P S E T 命令の設定、および Windows のプリンタの設定を確認してください。
- P F G 命令を実行するには、あらかじめ P F G E 命令で作った P F G デザインページが必要になります。また、P F G デザインページに合わせたデータページも合わせて作成しておいてください。

仕事は =



デザインページは [裏画面 ↵] :

デザインページのあるページを指定します。

- 5 ページのデザインページを指定する。
- 裏画面のデザインページを指定する。

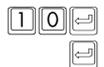


データページは :

単独指定、表題指定、ワイルド指定が可能です。

印刷するデータのあるページを指定します。

- 10 ページのデータページを指定する。
- 画面のデータページを指定する。



↵ なし

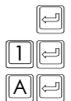
1 一回

A 毎回

単独指定、表題指定、ワイルド指定が可能です。

1 ページ印刷するごとに、一時停止するかどうかを指定します。

- 一時停止しない。
- はじめの 1 回のみ一時停止する。
- 1 枚印刷するごとに一時停止する。



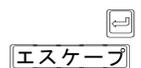
ポーズモードは :

【ポーズモードを設定している場合】

只今 一時停止中
再開 ↵
中止 エスケープ

でポーズモードを設定した場合、最初の 1 ページ、もしくは 1 ページの印刷ごとに左のメッセージが表示されます。

- 印刷を続ける。
- 印刷を中止する。



只今 仕事を一時停止しています

INFORMATION

- ◆ P S E T 命令の 9 番 “接続プリンタ機種” を “110 · G D I · W I N D O W S プリンタ (カラー)” に設定してある場合カラーで印刷を行えますが、プリンタ本体の設定がカラーになっていないとカラー印字できません。
- ◆ G D I プリンタをお使いになる場合、主なプリンタの設定は Windows 側のプリンタ設定で行いますので、あらかじめ確認しておいてください。

PFGE命令のデザインページを作成する

- PFGE命令で書式印刷するためのデザインページを作成します。
- レイアウト画面を見ながら、自由なレイアウトでデザインすることができます。

重要

- PFGE命令を使って印刷できるのは、GDIプリンタ (Windows対応プリンタ) をお使いの場合のみです。その他のプリンタでは、PFGE命令を使って書式印刷することはできません。

実行前の確認

- PFGE命令でデザインページを作成する時は、PFGE命令実行時に使用するデータページのどこのデータを印刷するかを指定する必要があります。すでにデータページがある場合は、あらかじめ画面に読み出しておくとう作業がしやすくなります。また、データページがない場合は、先にデータページのフォーマットを作っておきましょう。

仕事は =



デザインページは [新規作成 ↵]

すでにあるデザインページを修正する場合は、デザインページのページ数を指定します。

新しくデザインページを作成する場合は キーのみを押します。

- 50 ページのデザインページを指定する。
 - 新しくデザインページを作成する。
- 単独、表題指定、ワイルド指定が可能です。

【 “ 新規作成 ” を選んだ場合】

表題を付けてください：

デザインページに付ける表題 (タイトル) を指定します。表題は全角文字で 15 字、半角文字で 30 文字で付けられます。

キーのみを押すと “ PFGE デザインページ ” という表題が付けられます。

- “ 案内状デザインページ ” と表題を付ける。案内状デザインページ
- “ PFGE デザインページ ” と表題を付ける。



左のメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- 次の操作に進む場合は、[設定] ボタンをマウスで左クリックします。
 - PFGE命令を中止する場合は、[エスケープ] ボタンをマウスで左クリックします。
- キーのみを押すと [設定] ボタンをクリックしたことになり、
 キーを押すと中止します。

で [設定] ボタンを左クリックすると “ デザインフォーマットパラメータ設定 ” ウィンドウが開きます。以後各種ウィンドウを開いて必要な設定を行っていきます。次の手順でデザインページを完成させていきます。

1. “ デザインフォーマットパラメータ設定 ” ウィンドウで用紙の大きさ、デザイン領域の位置、大きさなどを設定します。
2. “ 項目設定 ” ウィンドウで、デザイン内に入れる項目の位置、大きさを設定します。
3. “ 項目範囲 ” ウィンドウで、各項目の基本設定を行います。
4. “ 項目パラメータ設定 ” ウィンドウで、各項目の詳細設定を行います。

以上の操作が終わったら、デザインページを書き込むページを指定して終了です。

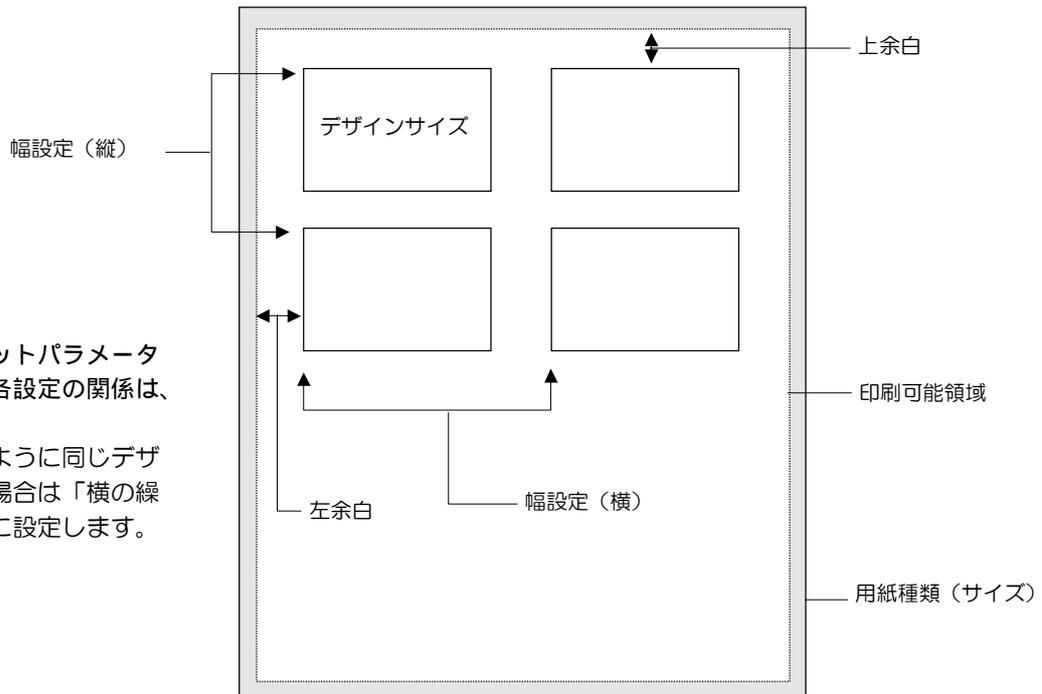
1. “デザインフォーマットパラメータ設定” ウィンドウでの設定



“デザインフォーマットパラメータ設定” ウィンドウでは、印刷する用紙の大きさや方向、用紙の中のデザイン領域など、基本的な項目を設定します。
左の各項目の値は標準値です。

“デザインフォーマットパラメータ設定” のウィンドウの各項目で次の設定を行うことができます。

- デザイン設定**..... 「デザインサイズ」でデザイン範囲の縦横の大きさを設定します。
「幅設定」は、宛名ラベルのようにデザインを繰り返して印刷する場合の、デザインの印刷開始位置から次の開始位置までの長さを設定します。
- 用紙**..... 「用紙種類」で印刷する用紙の大きさを設定します。↓ をマウスで左クリックすると左側に一覧が表示されますので、用紙の大きさを選択してください。設定できる大きさはA5、A4、A3、B5、B4、Uです。“U”を指定すると、Windows のプリンタの設定で印刷を行います。ハガキなどに印刷する場合は、必ず“U”に設定してください。
「用紙方向」で印刷方向の縦横を設定することができます。
「上余白」「下余白」で、上下の余白を設定します。プリンタの印字可能領域は含みません。
- 横の繰り返し**..... 「デザインサイズ」で設定した大きさのデザインを、横にいくつ繰り返して印刷するかを設定します。宛名ラベルの印刷のように、同じデザインを繰り返す場合に指定します。
- キー列**..... データページのキー列を指定します。たとえば、請求書のように取引先ごとに改ページして印刷したい場合、取引先のデータが入力されているデータページの列番号を入力します。
- ねかせ印字**..... ねかせ印字を「する」に設定すると、文字を 90 度左に回転させて印刷を行います。



“デザインフォーマットパラメータ設定” ウィンドウの各設定の関係は、右のようになります。
★右のラベル印刷のように同じデザインを2列にする場合は「横の繰り返し」を“2”に設定します。

INFORMATION

[PFGEデザインページ] 00.08.31
*PFGE
F=1,16,1,6,1,6,1,8,1,8,1,8,1,10,1,10,1,8,1,32,1,10,1,8

デザイン縦サイズ	0270.0			
デザイン横サイズ	0180.0			
上余白	0010.0			
左余白	0015.0			
用紙の種類	A4			
用紙方向	縦			
横の繰り返し	1			
縦幅設定	0285.0			
横幅設定	0190.0			
キー列	2	4	6	8
ねかせ印字	しない			
項目名	縦位置	横位置	縦の長さ	横の長さ

◆キー列は“デザインフォーマットパラメータ設定” ウィンドウでは1列しか指定できませんが、実際は5列まで指定が可能です。
1列以上指定する場合は、デザインページの作成を一旦登録して終了し、書き込んだデザインページを読み出してから、EL命令等でキー列の項目の右側のキー列にする列番号を入力します(左図参照)。

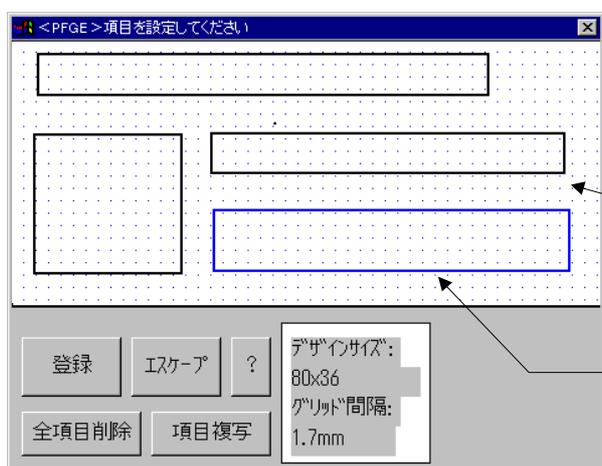
← キー列にする列番号を入力します

- “デザインフォーマットパラメータ設定” ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。
- [登録] “デザインフォーマットパラメータ設定” の設定を登録し、“項目設定” ウィンドウを表示します。
 - [レイアウト]レイアウトウィンドウを表示します。デザインを繰り返す場合、用紙内にいくつまで入るか確認するときに役立ちます。
 - [標準値]各項目の設定値を標準値に戻します。
 - [?]ヘルプを表示します。
 - [エスケープ]P F G E 命令を中止して“仕事は＝”の状態に戻ります。

“デザインフォーマットパラメータ設定” ウィンドウでデザイン領域の大きさなどを設定したら、次にデザイン領域に配置する項目の設定を行います。

- [登録] ボタンをマウスで左クリックすると、“項目設定” ウィンドウが表示されます。
- “項目設定” ウィンドウから“デザインフォーマットパラメータ設定” ウィンドウには戻れませんので注意してください。

2. “項目設定” ウィンドウでの設定



“項目設定” ウィンドウでは、P F G 命令実行時に印刷する各データをそれぞれ項目として、デザイン領域内での位置と大きさを設定します。

項目の位置と領域の大きさの指定は、マウスで行います。
領域は、左上から右下、右上から左下というように、四角形の対角をマウスで左ドラッグして指定します。

項目指定後は、項目内でマウスの右クリックを行うとその項目に対する“項目範囲”ウィンドウが表示され、各種設定を行うことができます。

一度設定した領域の右下の角にマウスカーソルを合わせて左ドラッグすれば、領域の大きさを変更することができます。
また、領域内にマウスカーソルを合わせて左ドラッグすれば、領域を移動することができます。

- “項目設定” ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。
- [登録]P F G E 命令を終了し、設定した内容をページを指定して書き込むことができます。
 - [エスケープ]P F G E 命令を中止して、“仕事は＝”の状態に戻ります。
 - [?]ヘルプを表示します。
 - [全項目削除]設定してある、すべての項目を削除します。
 - [レイアウト]レイアウトウィンドウを表示します。

INFORMATION

- ◆項目は、デザイン内に 26 個まで設定することができます。

“項目設定” ウィンドウで項目の位置と領域の大きさを設定したら、次に項目内に入れるものを設定します。
設定する項目の範囲内にマウスカーソルを合わせて左クリックすると、“項目範囲” ウィンドウが表示されます。

3. “項目範囲” ウィンドウでの設定



“項目範囲” ウィンドウでは、“項目設定” のウィンドウで設定した各項目に対する基本設定を行います。

“項目範囲” ウィンドウの各項目で次の設定を行うことができます。

項目位置.....項目の位置を設定します。「縦」で印刷可能範囲上部からの位置を、「横」で印刷可能範囲左側からの位置を設定します。

項目サイズ.....項目の大きさを縦横の長さで設定します。

データ列.....選択されている項目にデータページのデータを印刷する場合、データページのデータのある列番号を入力します。
また、列番号の前にSを付けた場合は小計、Tを付けた場合は合計を自動的に計算します。
データ以外に「ケイ線」「イメージ」「文字」「計算」を入れるときは右側のボタンをマウスで左クリックします。それぞれの内容については次の各ボタンの機能説明をご覧ください。

“項目範囲” ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。

[罫線]選択されている項目の大きさを、ケイ線（1種類のみ）で囲むように設定します。

[イメージ]選択されている項目に、BMP形式の画像データを印刷するように設定します。
BMPの画像を印刷する場合は“項目詳細設定” ウィンドウを開き、「イメージファイル名」の入力欄にBMPファイル名を入力します。

[文字]選択されている項目に、固定の文字を印刷するように設定します。
固定の文字を印刷する場合は“項目詳細設定” ウィンドウを開き、「指定文字列」の入力欄に印刷する文字を入力します。

[計算]選択されている項目に、データページのデータを計算した結果を印刷するように設定します。
データの計算を行う場合は“項目詳細設定” ウィンドウを開き、「指定文字列」の入力欄に計算式を入力します。

[登録]設定を一時登録し“項目設定” ウィンドウに戻ります。

[詳細設定]各項目に対する、さらに詳しい設定を行います。

[エスケープ]P F G E命令を中止して、“仕事は=”の状態に戻ります。

[?]ヘルプを表示します。

[項目削除]設定中の項目を削除して、“項目設定” ウィンドウに戻ります。

各項目に関するより詳細な設定は、“項目詳細設定” のウィンドウで行います。

[各種設定] ボタンにマウスカーソルを合わせて左クリックすると、“項目詳細設定” ウィンドウが表示されます。

4. “項目詳細設定” のウィンドウ

“項目詳細設定” ウィンドウでは、“項目設定” のウィンドウで設定した各項目に対する、より詳細な各種設定を行います。

表示されるウィンドウは、“項目範囲” ウィンドウでの設定により異なります。

【項目に“罫線”が設定されている場合】



罫線線種.....罫線の線種を選択します。線種には、“実線” “点線” “破線” “一点鎖線” があります。

線幅.....描画する先の太さを選択します。線幅には、“細” “中” “太” “極太” があります。 ”

【項目に“イメージ”が設定されている場合】



イメージファイル名.....印刷するBMP形式の画像ファイルのファイル名を入力します。

入力できるのは全角文字で15字、半角文字で30字まで入力できます。

《例》\$SHANA.BMP “HANA.BMP” というBMPファイルを印刷する。

\$@CAT.BMP “CAT.BMP” というBMPファイルを印刷する。

ファイル名の前に“\$\$”を付けると、項目サイズ内でBMP画像を変倍して印刷します。“\$@”を付けるとBMPファイルの大きさと印刷します。

BMPファイルはマイツールをインストールしたディレクトリ（標準は“MTFREE”）にないと印刷されません。

【項目に“文字”または“計算式”が設定されている場合】



文字サイズ.....文字の大きさを設定します。“縦”と“横”をそれぞれ指定します。

文字間/行間.....文字と文字の間隔、行の間隔を指定します。

文字色.....文字の色を選択します。

文字位置.....項目領域内で文字の入る位置を選択します。

文字方向.....文字の印字方向を指定します。“縦”か“横”かどちらかを選択します。

フォント.....印刷時のフォントを選択します。

項目名.....項目に名前を付けることができます。項目名を付けておけば、作成後のPFGデザインページで各項目を判別しやすくなります。

指定文字列.....項目に固定した文字列を印刷する場合は、ここに文字列を入力します。
項目にデータページの計算結果を印刷したい場合は、ここに計算式を入力します。
全角文字で15文字、半角文字で30文字まで入力できます。

 をマウスで左クリックすると左側に一覧が表示されますので、この中から設定値を選択します。

“項目詳細設定”ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。

[登録]設定を一時登録し、“項目設定”ウィンドウに戻ります。

[エスケープ]設定した内容を取り消して、“項目パラメータ設定”ウィンドウを閉じます。

[標準値] “項目パラメータ設定”ウィンドウの各項目を標準値に戻します。

[項目範囲] “項目範囲”のウィンドウに戻ります。

[項目削除]設定中の項目を削除します。

[?]ヘルプを表示します。

INFORMATION

◆文字データを印刷する際の“文字サイズ”の指定では、文字の横方向のサイズは半角文字が基準となっているため、全角文字で印刷すると指定したサイズの2倍の大きさとなります。ただし、全角文字は左右に余白を持つため、“文字間/行間”の設定が“0”であっても、文字の間隔が空いて印刷されます。

たとえば、文字の横の大きさを6mmに設定して全角文字を印刷すると12mmになりますが、左右に2mmの余白があると文字自体は8mmとなり、あたかも文字間が4mm空いたような印刷結果となります。



全角文字の左右には余白があります（この余白は、文字により多少異なる場合もあります）

すべての項目の設定が終わったら、“項目設定”ウィンドウまで戻り [登録] ボタンをマウスで左クリックします。画面に P F G デザインページが作成され、次のメッセージが表示されます。

何ページに書き込みますか：

デザインページを書き込むページ番号を指定します。

- 5ページに書き込む。

書き込み先の確認はなく、ただちに書き込まれます。単独指定が可能です。



INFORMATION

- ◆位置や範囲などのサイズ設定は、ミリ単位、小数点以下1桁までできます。
- ◆デザインページは固定フォーマットなので、列・行数サイズ変更などを行った場合、正常な動作は保証されません。
- ◆作成済みのデザインページを修正する時、デザインサイズを変更すると、項目の設定位置が適切でなくなります。

PFGデザインページについて

P F G E 命令終了後には、次のような P F G デザインページが作成されます。

一度作成した P F G デザインページの修正は、P F G E 命令でページ数を指定して行いますが、E L・E C 命令などの入力系命令や、E D 命令などで直接ページを修正することも可能です。

[PFGデザインページ] 95.04.01 混 L=0045 C=0190
**PFG
F=1,16,1,6,1,6,1,8,1,8,1,8,1,10,1,10,1,8,1,32,1,10,1,8,1,6,1,30,1

デザイン縦サイズ	55									
デザイン横サイズ	80									
上余白	0020.0									
左余白	0015.0									
用紙の種類	A4									
用紙方向	縦									
横の繰り返し	2									
縦幅設定	66									
横幅設定	90									
キー列	しない									
ねかせ印字	しない									
項目名	縦位置	横位置	縦の長さ	横の長さ	テータ列	縦の大きさ	横の大きさ	シフト		
社員証	2.8	3.3	7.5	37.0	文字	5.0	5.0	左上		
顔写真	16.8	3.7	33.2	27.8	5	3.5	1.7	左上		
部署名	16.5	36.5	5.8	36.5	2	3.5	1.7	左上		
氏名	25.2	36.7	8.7	35.7	1	4.0	4.0	左上		
会社名	45.5	38.5	6.0	36.5	イメージ	3.5	1.7	左上		

“デザインフォーマットパラメータ設定”ウィンドウで設定した値が入力されます。

会社のロゴなどもBMPファイルとして用意しておけば、印刷できます。
セルの中には“\$@LOGO.BMP”というように、ファイル名が入力されています。

“項目範囲”ウィンドウで設定した値が入力されます。

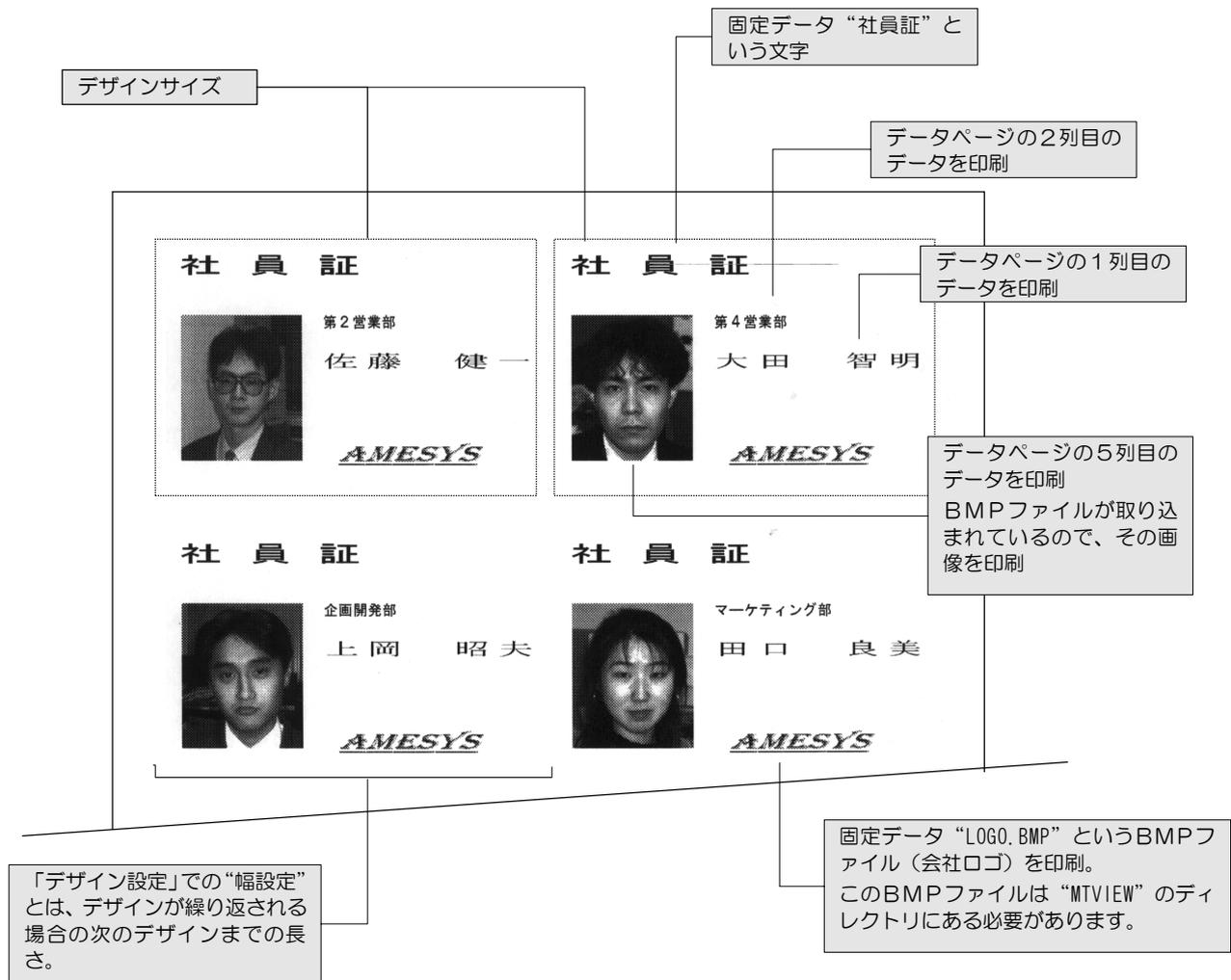
“項目パラメータ設定”ウィンドウで設定した値が入力されます。

フォント	文字/行間	文字方向	文字色	固定データ
MS ゴシック	3.0	横方向	黒色	社員証 
MS ゴシック	0.0	横方向	黒色	
MS 明朝	1.0	横方向	黒色	
MS ゴシック	1.0	横方向	黒色	

PFGデザインページについて

前ページのデザインページと下のデータページを使って、PFG印刷で社員証を作ると.....

[社員カードデータページ]					
		95.04.01	混	L=0050	C=0170
F=14,18,12,6,14,22					
氏名	所属	入社年月日	年齢	顔写真	備考
佐藤 健一	第2営業部	1994.0401	23		
大田 智明	第4営業部	1994.0401	23		
上岡 昭夫	企画開発部	1995.0401	22		
田口 良美	マーケティング部	1995.0401	22		



- 帯グラフ・点グラフ・散布図・工程管理グラフを印刷します。
- グラフと表がいっしょになっていても印刷できます。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。

仕事は =



【印刷途中で **エスケープ** キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカursorを合わせて、左クリックします。

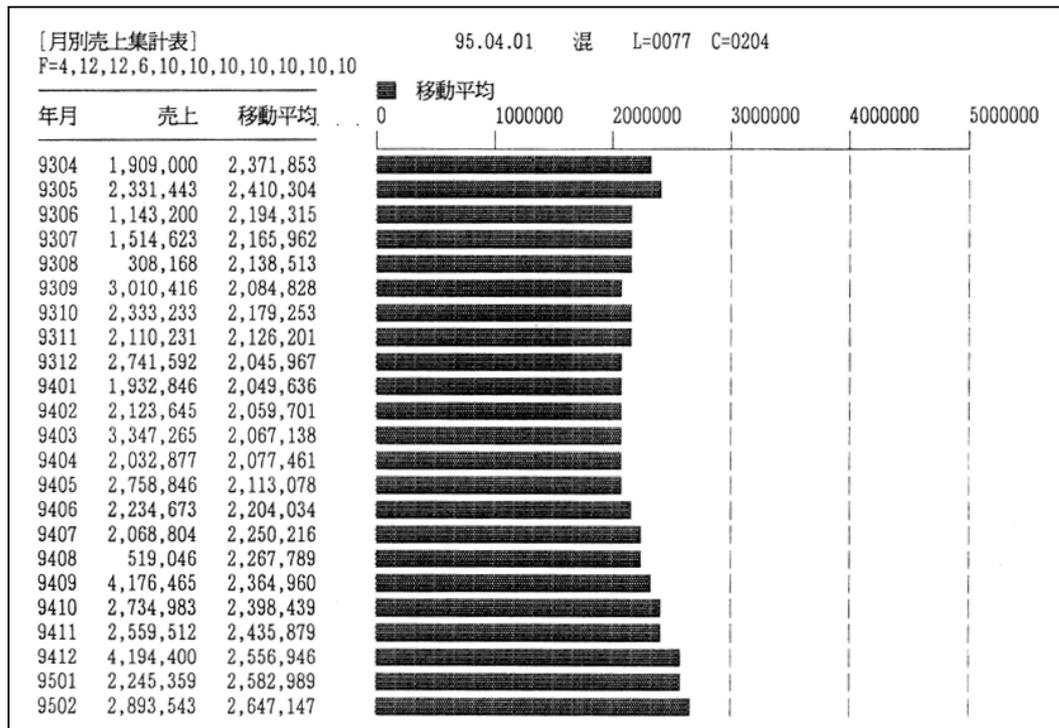
- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆PG命令で印刷できるグラフは、帯グラフ、点グラフ、散布図、工程管理グラフの4つだけです。
- ◆表とグラフをいっしょに印刷する場合、全体をつめて見やすく印刷します。

- ◆グラフと表を1つのページにするには、DOC命令などではないでください。そのとき、グラフのあるページは混在モードになっているので、漢字モードの表を使った場合だけは、おもて画面にグラフ、裏画面に表を置いた状態でDOC命令を行ってください。

《印刷例》



印刷時のレイアウトを表示する

- 画面データの、印刷時のレイアウトを見ます。
- 印刷方法の設定を変更することもできます。

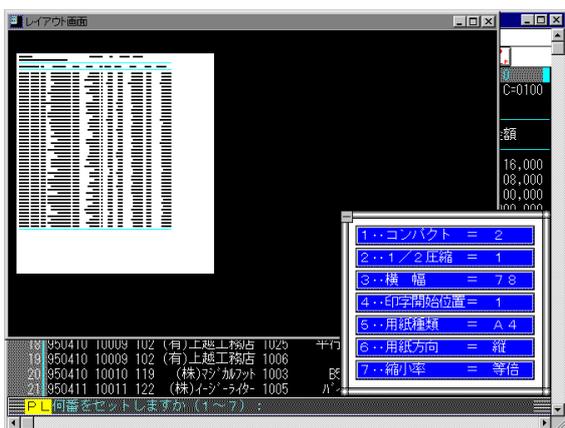
実行前の確認

- P L 命令を実行すると、保存されているグラフは消去されます。

類似命令

- P S E T印刷方法などを変更します。
- L P S E T ...レーザプリンタの設定をします。

仕事は =



現在 P S E T ・ L P S E T 命令で設定されている内容で、画面と用紙のレイアウトが表示されます。メッセージボックス内の項目を変更して指定の用紙サイズに印刷できるかなどを、確認します。

- ★ キーで画面内をスクロールさせて見ることができます。マウスを使ってのスクロールは行えません。
- ★ メッセージボックス内に表示される項目は、P E S T 命令の9番“接続プリンタ機種”の設定により異なります。

- 1 コンパクト = 1
- 2 1 / 2 圧縮 = 1
- 3 横幅 = 78
- 4 印字開始位置 = 1
- 5 用紙種類 = A 4
- 6 用紙方向 = 縦
- 7 縮小率 = 等倍

何番をセットしますか (1 ~ 7) :

印刷設定を変更するときは、変更する内容の番号を選択します。

終了するときは、 キーを押します。

変更した内容は、L P S E T (用紙種類・用紙方向・縮小率) ・ P S E T ・ S E T 命令の共通部分も変更されます。

詳しくは、L P S E T ・ P S E T 命令の該当部分をご覧ください。

- 文字の間隔を設定する。
- 1 / 2 圧縮 (文字の圧縮) を設定する。
- 用紙の横幅 (桁数) を設定する。
- 印刷時の印字開始桁位置を設定する。
- 用紙サイズの種類を設定する。
 - 帳票に指定すると、用紙方向は指定できません。
 - 接続プリンタ機種がレーザプリンタの場合、帳票は指定できません。
- 用紙の印刷方向を設定する。
 - 用紙種類が単票の場合に設定できます。
- 印刷の縮小率を設定する。
 - 接続プリンタ機種がレーザプリンタ以外の場合、縮小率は指定できません。

INFORMATION

- ◆ 接続プリンタ機種によって、横幅が異なる場合があります。
- ◆ 接続プリンタ機種がレーザプリンタ以外の場合、マイツアーを立ち上げ直すと、用紙種類は帳票に設定されます。

- ◆ P L 命令中は、副画面・参照画面を表示することができません。

例題

8 ページ「売上帳」を印刷する前に、指定の用紙で印刷できるかレイアウトを確認します。

R : 8 回

PL 回

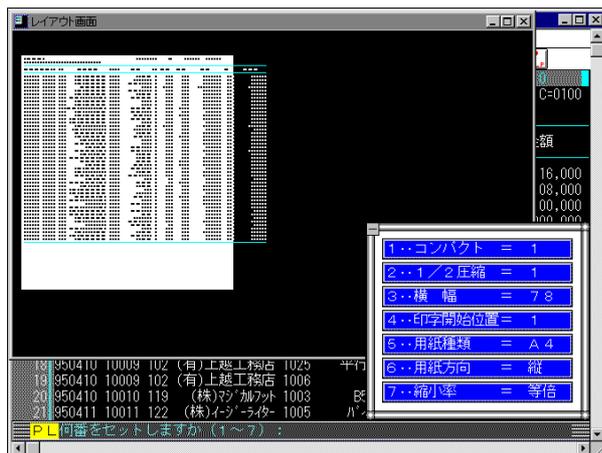
レイアウトを見ると、表の右側がはみだしてしまうことが分かります。

コンパクトモードに変更してみましょう。

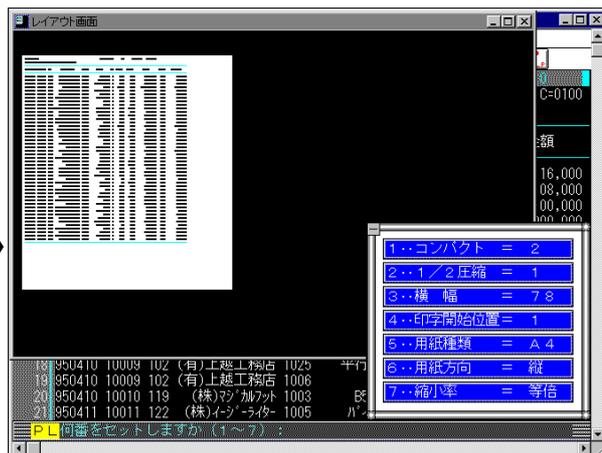
1 回..... 1 番を変更する。

2 回.....コンパクトモードに変更する。

PL 命令実行後



コンパクトモード変更後



- マイツールの表に取り込まれている、WAVE形式の音声データを再生します。

実行前の確認

- 音声データを再生するには、お使いのパソコンにサウンドカードとスピーカーが取り付けられている必要があります。

仕事は =



WAVファイル名は :

再生するWAVEファイルのファイル名を指定します。

ピリオド(.)以下の拡張子は省略可能です。

ファイルがマイツールをインストールしたディレクトリ、またはその下の“MYBMP”ディレクトリ以外にある場合は、ディレクトリ名を含めて入力します。

- “OHAYOU.WAV”というファイルを読み込む。

- “WINDOWS”のディレクトリにある、“DING.WAV”というファイルを再生する。

ディレクトリ名から指定する場合、ディレクトリ名とファイル名の前に“¥”を付けてください。

マイツールをインストールしたドライブ以外のドライブから読み込む場合は(CD-ROMドライブなど)、ファイル名の前にドライブ名とコロン(:)を付けて、ダブルコーテーション(”)で囲んでください。

《例》EドライブのCD-ROMから“BAYBAY.WAV”というファイルを読み込む。

WAVファイルのファイル名が、表に入力されている場合は、マウスを使って簡単に再生することができます。ファイル名の入力されているセルを左クリックするだけで再生されます。また、マウスでの操作は繰り返し行うことができます。

音声終了を待つ(1) 待たない(2) :

WAVEファイル再生中に次の操作を行えるようにするかしないかを選択します。

- 音声再生終了まで操作を受け付けない。
- 音声再生中に、次の操作を行えるようにする。 (または)

INFORMATION

◆WAVEファイルとは、Windows上で標準で扱われるデジタルオーディオデータで、PCMでデジタル化して記録されたものです。WAVEファイルのファイル名には“〇〇〇〇.WAV”という拡張子がつきます。

◆マイツールのREC命令を使えば、ご自分で音声や音楽などをWAVE形式のファイルに保存することができます。

PR

Print Rotate (プリント ローテート)

画面の縦・横を入れかえて印刷する

- 画面のデータを左方向へ 90 度ねかせて印刷します。
- 横に長い表を印刷するときに便利です。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。
- PR命令で印刷できるのは、漢字モードのページだけです。

仕事は =



【印刷途中で キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆ PSET命令の14番(横書き/縦書き)の設定は無視します。
- ◆ PR命令では、倍角設定された文字を印刷できません。通常の文字に戻して印刷します。
- ◆ 印刷命令は、マイツールを起動させたとき、プリンタの電源もONの状態になっていないと、きちんと印刷できません。
- ◆ PSET命令の8番“印刷後の改頁が“1…しない”に設定されていると、印刷が終了しても紙送りをしません。この場合、紙送りはPFF命令で行ってください。
- ◆ PSET命令の16番(縦ケイ線つなぎ)を2に設定しておくと、ケイ線をつないで印刷します。

印刷例

(P 命令で印刷)

[支店別売上表94年]				
F=7,9,9,9,9		95.04.01	漢	L=0050 C=0170
支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

(PR 命令で印刷)

[支店別売上表94年]				
F=7,9,9,9,9		95.04.01	漢	L=0050 C=0170
支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

オートプログラムを登録する

- 作成したオートプログラムを登録したり、削除します。
- 登録されているオートプログラムの一覧を見たり、一覧を印刷することもできます。

実行前の確認

- オートプログラムはファイルごとに登録しますので、あらかじめ C H F 命令で現在のファイルを、登録・削除・印刷などを行いたいファイルに切り替えておいてください。
- Sファイル、およびV型ファイルには、オートプログラムを登録できません。

仕事は =

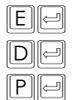


000	プログラム名	登録日	頁	行
1	売上集計	95.04.01	90	1
2	在庫処理	95.04.01	91	1
3	棚卸し	95.04.01	92	1
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				

PROプログラムを[登録・E, 削除・D, 印刷・P]:

左のような画面が表示されます。
 オートプログラムをどうするか指定します。
 指定を終わる場合は **エスケープ** キーを押してください。

- 作ったオートプログラムを登録する。
- 登録してあるオートプログラムを削除する。
- オートプログラムの一覧を印刷する。

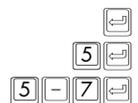


【登録を選んだ場合】

登録するページは[画面 ←]:

登録するページを指定します。

- 画面を登録する。
- 5 ページを登録する。
- 5 ページから 7 ページを登録する。



単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
 ページを指定すると、すぐに登録を行い②の画面へ戻ります。
 現在のファイル以外のページは指定できません。

書き込みページは:

で“画面”を選択した場合は、オートプログラムを何ページに書き込むか指定します。

- 23 ページに書き込む。
- 単独指定が可能です。



現在のファイル以外のページは指定できません。

23 ページの表題は[]です

書き込んでよければ、←キーを押してください

書き込み先の表題が表示されるので、そのページに書き込んで良いか確認してから ← キーを押します。

- 23 ページにある[]に、重ねて画面の内容を書き込む。
- 書き込みを中止するときは、 **エスケープ** キーを押します。



【削除を選んだ場合】

削除するプログラム名は：

削除するプログラム名を指定します。

- “在庫”というプログラムを削除する。
- “売上”という文字を含んだ表題のプログラムをすべて削除する。

在庫 

 * 売上 * 

- 行番号で削除する。

表題、ワイルド指定が可能です。



削除する行番号は：

 キーのみを押した場合は、削除するプログラムの行番号を指定します。

- 1行目を削除する。
- 1行目から3行目までを削除する。

1 

1 - 3 

単独、連続、複数、混合、H指定が可能です。

【印刷を選んだ場合】

オートプログラムの一覧を印刷します。

INFORMATION

- ◆ Mファイルに登録できるオートプログラムは200個までです。
- ◆ データフロッピーに登録できるオートプログラムは50個までです。F型ファイルに登録できるオートプログラムは100個までです。
- ◆ 一度登録したオートプログラムを修正した場合は、もう一度PRO命令で登録してください。
- ◆ 同じプログラム名を複数個登録することはできません。同じプログラム名で登録すると、前に登録した同一名のプログラムが取り消されます。
- ◆ オートプログラムは、1ページに複数個作成することができます。1ページに複数個のプログラムを作る場合には、まずそのページを読み出し、空いているスペースに新しいプログラムを追加してから登録してください。
- ◆ オートプログラムの削除は、登録からはすすだけなので、ページに書き込まれているオートプログラムは、そのまま残ります。

ページにプロテクトをかけて保護する

- 重要なデータのあるページに暗証(キーワード)を付けてデータを保護します。ページに付けられた正しいキーワードを入力しない限り、読み出しも書き込みもできません。

重要

- キーワードを忘れてしまうと、そのページへの読み書きができなくなります。キーワードは控えをとっておくとよいでしょう。

仕事は =



ページ番号か、=表題、グループ番号で
選んでください

タイトル一覧が表示されるので キーで画面を動かしながらプロテクトするページを確認し、ページ番号か、表題を指定します。

プロテクトするページは :

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

ページ番号か、=表題、グループ番号で
選んでください

ほかに同じプロテクトをかけるページがあれば指定します。なければ、 キーを押してください。

プロテクトするページは[終了] :

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

【指定したページにプロテクトがかけられていない場合】

新しいキーワードをつけてください :

指定したページ(画面に表示しています)に付けるキーワードを入力します。

- キーワードを“やま”とつける。

やま

もう一度行いますか
[行う , 終了 エスケープ] :

キーを押すと、また から繰り返します。

[エスケープ] キーを押すと、終了します。

【指定したページにプロテクトがかけられている場合】

旧キーワードを入れてください
(種類あります) :

指定したページに付けられているキーワードを入力します。

- すでに“やま”と付いている場合。

やま

旧キーワードが複数個ある場合は、すべてのキーワードを入力するまでメッセージが表示されます。

新しいキーワードをつけてください :

新しく付け直すキーワードを入力します。

- “かわ”と付け直す。
- プロテクトを解除する。

かわ



もう一度行いますか
[行う , 終了 エスケープ] :

キーを押すと、また から繰り返します。

[エスケープ] キーを押すと、終了します。

INFORMATION

- ◆キーワードは全角4文字、半角8文字以内でつけてください。
- ◆プロテクトをかけたページは、正しいキーワードを入れなければ、読み出しも書き込みもできません。
- ◆キーワードの文字列内にコロン(:)やエスケープ(ESC)がある場合は、キーワード全体をダブルコーテーション(")で囲んでください。
- ◆プロテクトを解除したい場合は、プロテクトを解除したいページを指定し、旧キーワードを入力します。“新しいキーワードをつけてください:”に対して`[.]`キーを押すとプロテクトは解除されます。

- 現在、マイツールで設定されている印刷方法や使用プリンタを変更します。

類似命令

- L P S E T ...レーザプリンタの設定をします。
- P L印刷時のレイアウトを表示します。

仕事は =



番号	項目	現在	番号	項目	現在
0	現在値を標準値に戻す		10	用紙の横幅	78
1	コンパクトモード	1	11	用紙の縦幅	0
2	1/2圧縮モード	1	12	印刷開始桁位置	1
3	全体倍角モード	1	13	1インチの行数	6
4	半角文字タイプ	1	14	横書き/縦書き	1
6	文字間ピッチ	0	15	見出し行の印字	0
7	改行ピッチ	2.0	16	縦key繰りつき	2
8	印刷後の改頁	2	17	片方向印字	1
9	接続プリンタ機種	84	18	行番号印字	1

左の画面が表示されます。

画面の“現在”欄には、現在設定されている状態が表示されます。

変更する内容の番号を入力してから キーを押します。

★9番“接続プリンタ機種”の設定により、画面の内容は異なります。左の画面は、9番を“84・RPDL・SP10”に設定した場合です。

PSET命令を終了するときは、 キーを押します。

PSET命令で設定した内容は、マイツールを終了してもそのまま残っているので、次に起動したときは、前回設定した状態で始まります。ただし、マイツールを正常に終了したときだけです。

INFORMATION

- ◆ PSET命令の9～15番の内容は、SET命令の9～15番と同じです。
- ◆ PSET命令の9～15番の設定を変更するとSET命令の9～15番の設定も変更されます。どちらでも新しく設定した内容にしたがいます。

0 現在値を標準値に戻す



入力バーに“何番をセットしますか(0~18)”とメッセージが表示されているときに、 とキーを押すと、各項目が、標準として設定されている値に戻ります。

ただし、9番“接続プリンタ機種”のみは変更されません。

1 コンパクトモード



文字の間隔を設定します

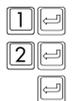
- 標準
- コンパクト

文字の間隔(1~2):

文字の間隔をつめて印刷するのか、つめないで印刷するのかを番号で選択します。

標準値は“1”です。

- 文字間隔をつめない。
- コンパクトに設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。



《標準で印刷》

[売上帳 2]			
F=8,12,12,12,12,12			
シャンプー		リンス	
個数	62	102	
単価	290	300	
売上金額	17980	30600	

《コンパクトで印刷》

[売上帳 2]		95.04.02	
F=8,12,12,12,12,12			
シャンプー		リンス	洗濯洗剤
個数	62	102	35
単価	290	300	910
売上金額	17980	30600	31850

INFORMATION

- ◆ “コンパクト” を選ぶと、常に文字の間隔をつめて印刷します。PC命令で印刷するのとまったく同じです。
- ◆ 9番 “接続プリンタ機種” で “60” “70” の ESC/Pプリンタを選択している場合、2番 “1/2圧縮モード” と同時に指定できません。

2 1/2圧縮モード

文字の圧縮を設定します

- 1 標準
- 2 1/2圧縮

1/2圧縮 (1~2) :

文字を圧縮して印刷するか、圧縮しないで印刷するかを番号で選択します。
標準値は “1” です。

- 標準に設定する。
- 1/2圧縮に設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。



《標準で印刷》

[売上帳 2]			
F=8,12,12,12,12,12			
	シャンプー	リンス	洗
個数	62	102	
単価	290	300	
売上金額	17980	30600	

《1/2圧縮モードで印刷》

[売上帳 2]		95.04.02	混	L=0050	C=0170
F=8,12,12,12,12,12					
	シャンプー	リンス	洗濯洗剤	漂白剤	計
個数	62	102	35	26	
単価	290	300	910	280	
売上金額	17980	30600	31850	7280	

INFORMATION

- ◆ 9番 “接続プリンタ機種” で “60” “70” の ESC/Pプリンタを選択している場合、1番 “コンパクトモード” と同時に指定できません。

3 全体倍角モード

文字の倍角印刷を設定します

- 1 標準
- 2 横倍角
- 3 縦倍角
- 4 4倍角

倍角印刷 (1~4) :

文字の大きさを番号で選択します。
標準値は “1” です。

- 標準に設定する。
- 横倍角に設定する。
- 縦倍角に設定する。
- 4倍角に設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。



《標準で印刷》

[売上帳 2]			95
F=8,12,12,12,12,12			
	シャンプー	リンス	洗濯洗剤
個数	62	102	35
単価	290	300	910
売上金額	17980	30600	31850
累計	17980	48580	80430

《横倍角で印刷》

[売上帳 2]			
F=8,12,12,12,12,12			
シャンプー			
個数	62		
単価	290		
売上金額	17980		
累計	17980		

《縦倍角で印刷》

[売上帳 2]		95
F=8,12,12,12,12,12		
シャンプー	リンス	洗濯洗剤

《4倍角で印刷》

[売上帳 2]	
F=8,12,12,12,12,12	
シャンプー	

INFORMATION

- ◆倍角印刷で標準以外を指定した場合、データ中の倍角などの指定（ED命令で指定）は、すべて無視されます。
- ◆ケイ線も倍角印刷されます。

4 半角文字タイプ

半角文字の印刷タイプを設定します

- 1 高速
- 2 高密度

半角文字（1～2）：

半角文字のタイプを番号で選択します。

標準値は“1”です。

- 高速を設定する。
- 高密度を設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。

高密度を設定して印刷すると、文字の形や密度が変わり、ボリュームのある文字になります。

《高速で印刷》

[商品別販売管理]	
F=12,12,12,12	
品名	仕入数
ビデオ	50
冷蔵庫	80
パソコン	90

《高密度で印刷》

[商品別販売管理]	
F=12,12,12,12	
品名	仕入数
ビデオ	50
冷蔵庫	80
パソコン	90

6 文字間ピッチ

文字の間隔を設定します

文字間ピッチ（0～26）：

文字と文字の間隔を指定します。

標準値は“0”です。

- 3に設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。

《“7”で印刷》

三	重	志	摩	郡	磯	部
大	阪	府	大	阪	市	北
岩	手	県	花	巻	市	大
広	島	県	広	島	市	中
山	口	県	防	府	市	柴
						町

《“14”で印刷》

三	重	志	摩	郡	磯	部
大	阪	府	大	阪	市	北
岩	手	県	花	巻	市	大
広	島	県	広	島	市	中
山	口	県	防	府	市	柴
						町

《“21”で印刷》

三	重	志	摩	郡	磯	部
大	阪	府	大	阪	市	北
岩	手	県	花	巻	市	大
広	島	県	広	島	市	中
山	口	県	防	府	市	柴
						町

7 改行ピッチ

改行の幅を自由に設定します
13番が0の場合のみ有効です

改行ピッチ (0 ~ 120) :

改行の幅 (文字の上の位置から、次の行の文字の上の位置までの幅) を指定します。

ここでの設定を有効にするには、13番“1インチの行数”を“0”に設定しておく必要があります (SET命令の13番でも同じ設定ができます)。

標準値は“20”です。

- 25 に設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。



《 “ 7 ” で印刷 》

[売上帳 12,12,12,12]		シャンプー		リンス	
売上	金額	17980		30600	

《 “ 14 ” で印刷 》

[売上帳 2]		シャンプー		リンス	
F=8,12,12,12,12,12					
	個数	62		102	
	単価	290		300	
売上	金額	17980		30600	
	累計	17980		48580	

《 “ 21 ” で印刷 》

[売上帳 2]		シャンプー		リンス	
F=8,12,12,12,12,12					
	個数	62		102	
	単価	290		300	
売上	金額	17980		30600	
	累計	17980		48580	

混在モード時にP命令で印刷したものです。

INFORMATION

- ◆ SET・PSET命令の13番 (1インチの行数) を“0”に設定していなければ、改行ピッチを変更しても改行の幅は変わりません。
- ◆ 改行ピッチが“20”のときは、13番 (1インチの行数) を“6”に設定したときと同じになります。
- ◆ 改行ピッチが“15”のときは、13番 (1インチの行数) を“8”に設定したときと同じになります。

8 印刷後の改頁

用紙のページ送りを設定します

- 1 しない
- 2 する

印刷後の改頁 (1 ~ 2) :

印刷後に、紙送りをするか、しないかを番号で選択します。

標準値は“2”です。

- 改ページしない。
- 改ページする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ レーザープリンタを使ってPE命令で印刷する場合、印刷後の改頁を“する”に設定していても改ページされません。PFF命令で改ページしてください。
- ◆ 9番の“接続プリンタ機種”で“100”“110”の“GDI・WINDOWSプリンタ”を選択している場合は、表示されません。印刷を行うと、ページごとに自動的に改ページします。

9 接続プリンタ機種



接続されているプリンタの機種を設定します

60	ESC/P	ドットプリンタ(モノクロ)
70	ESC/P	ドットプリンタ(カラー)
80	ESC/P	SP5(RICOH)
81	ESC/P	SP4Mk(RICOH)
82	ESC/P	SP7,8(RICOH)
83	RPDL	SP7,8(RICOH)
84	RPDL	SP9,10(RICOH)
90	RPDL	IMAGIO MF530(RICOH)
91	RPDL	IMAGIO MF150(RICOH)
100	GDI	WINDOWSプリンタ(モノクロ)
110	GDI	WINDOWSプリンタ(カラー)

接続プリンタ機種：

接続されているプリンタの機種を番号で選択します。
はじめは“100”に設定されています。

- 現在の設定のまま変更しない。
9番の設定は、“現在値を標準に戻す”を実行しても変更されません。

INFORMATION

- ◆現在マイツールに接続されているプリンタ機種を確認のうえ設定してください。
- ◆違う機種を指定すると正常に印刷しません。
- ◆表や文書ページなどに貼り付けられているBMPファイルの画像の印刷は、“GDI・WINDOWS”プリンタでのみ行えます。
設定は「コントロールパネル」の“プリンタ”から、お使いになるプリンタのプロパティを開いて行ってください（詳しくはWindowsのマニュアル、もしくはプリンタのマニュアルをご覧ください）。
- ◆Windows NT およびWindows 2000の場合、“60”から“91”までのプリンタはお使いになれません。

GDI・WINDOWSプリンタについて

- “100”“110”の“GDI・WINDOWSプリンタ”とは、Windowsに対応したプリンタのことです。“GDI・WINDOWSプリンタ”に設定した場合、用紙サイズ、印刷方向、給紙トレイ、その他細かい設定はWindows側のプリンタの設定で行うことになります。
★設定は「コントロールパネル」の“プリンタ”から、お使いになるプリンタのプロパティを開いて行ってください（詳しくはWindowsのマニュアル、もしくはプリンタのマニュアルをご覧ください）。
- GDI・WINDOWSプリンタ(カラー)で黒インクのみを使って印刷する場合、ケイ線や色の付いた文字などがグレースケールで印刷されることがあります。
- “100”“110”の“GDI・WINDOWSプリンタ”に設定した場合、印刷情報の設定の画面で4番“半角文字タイプ”、8番“印刷後の改頁”、11番“用紙の縦幅”、17“片方向印字”は表示されません。

10 用紙の横幅



用紙の横幅(桁数)を設定します
0のときはなにも印刷しません

用紙サイズ<横>(0~136)：

プリンタに使用している用紙サイズ(桁数)を指定します。
標準値は9番“接続プリンタの機種”により異なります。

- 122桁にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。
通常はプリンタ機種別に最大値を設定します。ただし、9番“接続プリンタ機種”を“60”“70”以外に設定した場合、LPSET命令の2~4番の値によって最大値が自動的に変更されます。

INFORMATION

- ◆設定した横幅を超えるデータは印刷されません。

11 用紙の縦幅



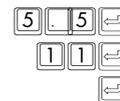
用紙の縦幅（インチ数）を設定します
0 の場合はプリンタの標準値になります

用紙サイズ<縦>（ 0 , 1 ~ 20 , 5.5 ）：

用紙の縦幅（インチ数）を指定します。ここで設定した縦幅単位で印刷・紙送りを行います。

はじめは“ 0 ”に設定されています。

- 5.5 インチにする。
- 11 インチにする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ “0” に設定されていると、用紙の縦幅はプリンタ側のセットに自動的に合わされます。
- ◆ 用紙長さスイッチのないプリンタの場合は、自動的に 11 インチに設定されます。

12 印刷開始桁位置



印字開始桁位置を設定します

印字開始桁位置（ 1 ~ 136 ）：

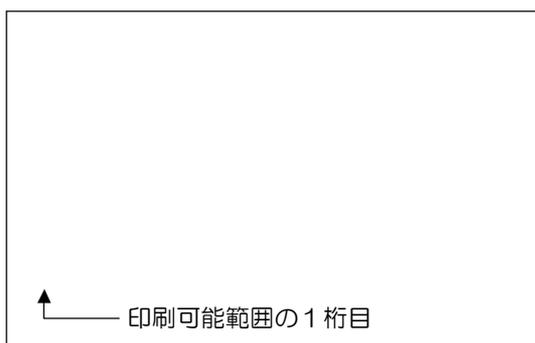
印字スタート位置の設定です。印刷を始める桁位置を指定します。
標準値は“ 1 ”です。

- 4 桁に設定する。
- 80 桁に設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。

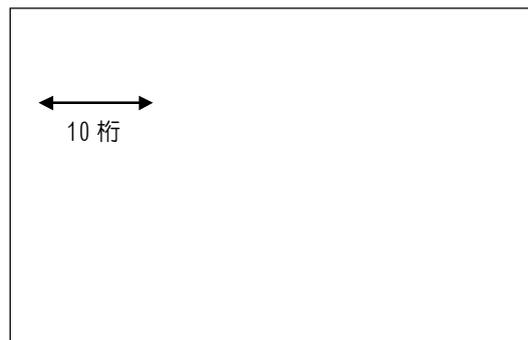
指定範囲の最大値は、9番の“接続プリンタ機種”の設定により異なります。



《 “ 1 桁 ” に設定して印刷》



《 “ 10 桁 ” に設定して印刷》



INFORMATION

- ◆ 印字開始桁位置設定では、左端にどの程度の空白をとって印刷するか指定できます。

13 1 インチの行数



用紙 1 インチに印字する行数を設定します
0 を指定した場合は 7 番の指定に従います

1 インチの行数 [6 , 8 , 0] :

用紙の 1 インチ幅 (スプロケット用紙の穴 2 つで 1 インチ) に何行印字するか指定します。

はじめは “ 6 ” に設定されています。

- 6 行に設定する。
- 8 行に設定する。
- 7 番の設定によって改行する。
- 現在の設定のまま変更しない。



《 6 行で印刷 》

[売上帳 2]			
F=8,12,12,1			
シャンプー		リンス	¥
個数	62	102	
単価	290	300	
売上金額	17980	30600	
累計	17980	48580	

《 8 行で印刷 》

[売上帳 2]			
F=8,12,12,12,12,12			
シャンプー		リンス	¥
個数	62	102	
単価	290	300	
売上金額	17980	30600	
累計	17980	48580	

《 0 にして印刷 (7 番が “ 30 ” の場合) 》

[売上帳 2]			
F=8,12,12,12,12,12			
シャンプー		リンス	¥
個数	62	102	
単価	290	300	

《 0 にして印刷 (7 番が “ 50 ” の場合) 》

[売上帳 2]			
F=8,12,12,12,12,12			
シャンプー		リンス	¥
個数	62	102	
単価	290	300	

INFORMATION

- ◆ 16 番の “縦ケイ線つなぎ” が “1..しない” に設定されてもいる場合、 “8 (行)” に設定すると行と行の間隔が狭くなるので、縦ケイ線はつながって印刷されます。 “6 行” で印刷すると縦のケイ線は破線で印刷されます。
- ◆ “0” に設定すると、7 番の “改行ピッチ” で設定されている改行幅にしたがって印刷します (0 から 120 までの間で自由に設定できます)。

14 横書き / 縦書き



横書き / 縦書きを設定します

- 1 横書き
- 2 縦書き

横書き / 縦書き (1 ~ 2) :

横書きで印刷するか縦書きで印刷するかを番号で選択します。

はじめは “ 1 ” に設定されています。

- 横書きに設定する。
- 縦書きに設定する。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ PR 命令と PT 命令は、縦書きを指定しても無視します。

15 見出し行の印字   

見出し行の印字を設定します

0 しない
1 ページ番号
2 連番
3 ページ番号・連番
4 日付・時間
5 すべて

見出し行印字 (0 ~ 5) :

印刷したときに、用紙の1行目右端にページ番号や印刷枚数をつけるかどうかを番号で選択します。
標準値は“ しない ”です。

- ページ番号や連番は付けずに印刷する。
- ページ番号をつけて印刷する。
- 連番をつけて印刷する。
- ページ番号と連番をつけて印刷する。
- 日付と時間を印刷する。
- すべてを印刷する。
- 現在の設定のまま変更しない。



《それぞれの印刷例》

ページ番号	PAGE: 0001
連番	DATA: 00
ページ番号・連番	DATA: 00 PAGE: 0001
日付・時間	DATE: 95.04.01 TIME: 11:50
すべて	DATE: 95.04.01 TIME: 11:50 DATA: 00 PAGE: 0001

INFORMATION

◆ PSET命令の9~15番の内容は、SET命令の9~15番と同じです。PSET命令の9~15番を変更するとSET命令の9~15番も変更されます。どちらでも新しく設定した内容にしたがいます。

16 縦ケイ線つなぎ   

縦ケイ線をつなぐか設定します

1 しない
2 する

縦ケイ線つなぎ (1 ~ 2) :

縦ケイ線をつないで印刷するか、つなぐずに印刷するかを番号で選択します。
はじめは“ する ”に設定されています。

- 縦ケイ線をつなぐずに印刷する。
- 縦ケイ線をつないで印刷する。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

◆ 縦ケイ線つなぎを“ しない ”に設定していても、13番“ 1インチの行数 ”で“ 8 (行) ”と設定されていると、行間が狭くなり縦ケイ線はつながって印刷されます。

17 片方向印字   

片方向印字を設定します

1 標準
2 片方向 (きれい)

片方向印字 (1 ~ 2) :

通常の印刷をするか、片方向できれいに印刷するかを番号で選択します。
片方向を指定すると、ケイ線がずれなくなります。ただし、片方向を指定すると印刷に多少時間がかかります。
標準値は“ 1 ”です。

- 通常の印刷をする。
- 片方向で印刷する。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ “片方向印字”は、9番の“接続プリンタ機種”で“100”“110”の“GDI・WINDOWSプリンタ”を選択している場合は、表示されません。

18 行番号印字



行番号を印刷するか設定します

- 1 しない
- 2 する

行番号をつけて印刷するか、つけずに印刷するかを番号で選択します。
はじめは、“しない”に設定されています。

- 現在の設定のまま変更しない。



行番号印字 (1 ~ 2) :

《行番号をつけないで印刷》

[売上集計]		
F=6,12,6		
品名	売上	%
F	968,000	37.9
A	754,000	29.5
G	324,000	12.6

《行番号をつけて印刷》

1:	[売上集計]		
2:	F=6,12,6		
3:			
4:	品名	売上	%
5:			
6:	F	968,000	37.9
7:	A	754,000	29.5
8:	G	324,000	12.6

ページのタイトル一覧を印刷する

- ページのタイトル一覧を印刷します。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。
- 印刷する表題が60ページ以上あると、60ページずつに分けて印刷されます。

類似命令

- PTS.....サブページのタイトル一覧を印刷します。

仕事は =

ページ番号か、=表題、グループ番号で
選んでください

印刷する表題は[全体 ↵] :

印刷するページ番号か、ページの表題を指定します。

- 表題すべてを印刷する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

印刷する表題は[印刷開始 ↵] :

何度でも、ページや表題、グループ番号を指定できます。
指定が終わったら、キーのみを押します。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

【印刷途中で[エスケープ] キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆PSET命令の14番(横書き/縦書き)が“2・縦書き”に設定されていると、縦書きされない文字があったり、不揃いになることがあります。

- ◆表題はもちろんのこと、ページの作成日やプロテクトの有無、使っている行数・桁数・グループが印刷されます。

タイトル	表題	作成日	行数	桁数	ページ
1 住所録		95.04.01	16	170	
2				170	
3				170	
4 401		95.04.01	17	170	
5 売上集計		95.04.01	13	120	
6 売上帳		95.04.01	21	120	
7 成績集計表		95.04.01	18	170	
8 売上帳		95.04.01	53	100	
9 売上帳		95.04.01	19	120	
10 支店別売上表94年		95.04.01	10	170	
11 支店別売上表93年		95.04.01	10	170	
12 和西暦年齢		95.04.01	21	170	
13 年齢条件式		95.04.01	10	170	
14 住所録		95.04.01	17	170	
15 テープ貸出履歴表		95.04.01	25	170	
16 会員コード表		95.04.01	21	170	
17 作品コード表		95.04.01	22	170	
18 ビデオテープ貸出管理表		95.04.01	21	170	
19 売上実績表		95.04.01	16	170	
20 キャンペーン通知		95.04.01	12	74	
21 キャンペーン日程		95.04.01	14	74	
22 支店別売上表94年		95.04.01	10	170	
23 支店別売上表94年		95.04.01	9	170	
24 得意先名簿		95.04.01	21	144	
25 売上帳入力履歴表		95.04.01	46	170	
26 得意先台帳		95.04.01	31	260	
27 商品台帳		95.04.01	36	170	
28 売上帳		95.04.01	6	100	
29 商品別売上推移		95.04.01	16	170	
30 商品別地区別売上高		95.04.01	16	200	
31 対売上広告費用効果		95.04.01	18	170	

PTF

Printer Top of Form (プリンタ トップ オブ フォーム)

用紙の先頭位置を決める

- ドットプリンタをお使いの場合、印刷を始める用紙の印字開始行位置 (トップ オブ フォーム) を設定します。
- 連続帳票で印字開始位置をミシン目に合わせるときに使用します。

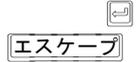
仕事は =



プリンタ用紙のミシン目をセットして [Esc] キーを押してください:

ドットプリンタのノブを回して用紙を印字開始行位置 (トップ オブ フォーム) に合わせます。

- 印字開始行位置をセットする。
- 中止する。



プリンタ機種によって多少位置が異なります。詳しくは、プリンタの説明書をご覧ください。

プリンタ用紙のミシン目 (印字開始行位置) を再設定しました:

キーを押すと、左のメッセージが表示されます。

INFORMATION

◆ 次の場合、一度設定した印字開始行位置 (トップ オブ フォーム) が変化します。

- ① PSET 命令・SET 命令の 11 番 (用紙の縦幅) で用紙 1 ページの長さを設定し直したとき (通常は 11 インチです)。
- ② PTF 命令を再度実行したとき。
- ③ プリンタの電源を切ったとき。
- ④ プリンタのノブを回して用紙を動かしたとき。

◆ レーザプリンタの場合、実行しても意味がありません。

サブページのタイトル一覧を印刷する

- サブページのタイトル一覧を印刷します。

実行前の確認

- 印刷する前に、PSET命令で現在の印刷設定を確認してください。
- 印刷する表題が60ページ以上あると、60ページずつに分けて印刷されます。

類似命令

- PT.....現在のファイルのタイトル一覧を印刷します。

仕事は =



ページ番号か、=表題、グループ番号で
選んでください

印刷する表題は[全体 ↵] :

印刷するページ番号か、ページの表題を指定します。

- 表題すべてを印刷する。
単独、連続、複数、混合、表題、ワイルド指定が可能です。



印刷する表題は[印刷開始 ↵] :

何度でも、ページや表題を指定できます。

指定が終わったら、[↵]キーのみを押します。

単独、連続、複数、混合、表題、ワイルド指定が可能です。

【印刷途中で[エスケープ]キーを押した場合】



左のようなメッセージボックスが表示されます。

選択するボタンにマウスカーソルを合わせて、左クリックします。

- [再開] ボタンを左クリックすると、印刷を続行します。
- [中止] ボタンを左クリックすると、印刷を中止します。
- [やり直し] ボタンを左クリックすると、そのページの最初から印刷をやり直します。

INFORMATION

- ◆ PSET命令の14番(横書き/縦書き)が“2・縦書き”に設定されていると、縦書きされない文字があったり、不揃いになることがあります。

- ◆ 表題はもちろんのこと、ページの作成日や使っている行数・桁数が印刷されます。

列	表	サブ	作成日	行数	桁数
1	家計簿	11月	食費・予備費	95.04.01	35 170
2	会議室利用の通達			95.04.01	29 74
3					170
4					170
5					170
6					170
7					170
8					170
9					170
10					170
11					170
12					170
13					170
14					170
15					170
16					170
17					170
18					170
19					170
20					170
21					170
22					170
23					170
24					170
25					170



Pick Up Line (ピック アップ ライン)

指定した行を残して、データをすべて削除する

- 画面の表の中から必要な行だけを残して、残りのデータ行をすべて削除します。

実行前の確認

- 指定した行以外のデータは、すべて削除されますので注意してください。
- 取り出せるのは画面の表だけです。ページ指定はできません。

類似命令

- D L...行を削除する。

仕事は =



取り出す行は :

取り出す行の番号を指定します。

- 8 行目を取り出す。 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、条件式、¥指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ D L 命令とは逆に、指定した行を残し、他のデータ行すべてを削除します。

例題

7 ページ「成績集計表」から、「国語」の点数が 70 点以上のデータだけを取り出します。

R : 7 回

P U L 回

C 2 > = 70 回..... 2 列目 (国語) が 70 以上のものを指定する。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 委貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
加藤 芳記	80	72	63	71	39
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
水戸 陽子	75	67	79	68	86
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

R

Read (リード)

指定したページを画面に読み出す

- 指定したページ内容を画面に読み出します。

重要

- R命令を実行すると、現在画面に表示されている内容は消去され、読み出したページの内容にかわります。必要なデータは、W命令でページに書き込んでおいてください。

類似命令

- R B...指定したページを裏画面に読み出します。
- R B B...指定したページを参照画面に読み出します。

仕事は =

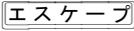


何ページを読み出しますか :

画面に読み出すページ番号を指定します。

- システムファイルの 1 ページを読み出す。 
システムファイルの 1 ページ目にはメニューバー・プルダウンメニューのデータがあります。
- 直前の R・R B・R B B 命令または W・W B 命令で指定したページと同じページを読み出す。 
オートプログラム中で “*” 指定を行う場合は、前後にダブルコーテーション (”) を付けてください。
- 直前の R・R B・R B B 命令または W・W B 命令で指定した、次のページを読み出す。 

- 直前の R・R B・R B B 命令または W・W B 命令で指定した、前のページを読み出す。 

- 次のページの内容を読み出す。 
キーのみを繰り返し押すと、次々とページを表示します。
ページ番号または  キーを押すと、“仕事は=” の状態に戻ります。
単独、表題、+、-、* 指定が可能です。

【ページがプロテクトされている場合】

キーワードを入れてください :

指定したページにつけられた、キーワードを入力します。

- キーワード “ 88 ” を入れる。



INFORMATION

- ◆ R命令を実行した直後であれば、R V命令で読み出す前の画面を表示することができます。
- ◆ R命令は、T命令中でも実行できます。
- ◆ R・W・R B・W B・R B B命令以外の命令の場合、ページ指定に “+” “-” “*” は使えません。

例題

52 ページ「得意先名簿」を画面に読み込みます。

R 関

52 関 52 ページを読み込む。

実行前

01.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	

≡仕事は≡

実行後

52	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿]				95.04.01	混	L=0057 C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
8	103	1995.0315	伊藤テマ心(株)	テマ心部		佐藤 博子	106
9	104	1995.0415	伊藤テマ心(株)	テマ心部		猫柳 史子	106
10	105	1995.0415	伊藤テマ心(株)	営業部営業一課	課長	江口 かなな	106
11	106	1995.0415	伊藤テマ心(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107
13	108	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 灰子	107
14	109	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
15	110	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
16	111	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106
17	112	1995.0412	ｽﾌﾟﾙ2001	開発部	部長	佐藤 春男	150
18							
19							
20							
21							

≡仕事は≡



RANK

Ranking (ランキング)

データを集計して順位をつける

- 行または列のデータを評価して、大きい順・小さい順に順位を求めて画面に表示します。
- 行・列を並べかえずに順位をつけることができます。

実行前の確認

- SET命令の16番(色指定が可能な列数)が“0”になっていたり、すでに色指定が可能な列数だけ色がついている場合、集計方法の指定で“5 色付け”を選択しても、色をつけることはできません。

類似命令

- BEST...ベスト10・ワースト10などを求めます。

仕事は =

RANK

順位を求める場所は :

順位を求める、行(または列)の番号を指定します。

- 2列目のデータから順位を求める。
- 10行目のデータから順位を求める。

C 2
L 10

単独指定が可能です。

行番号には“C”を、列番号には“L”をつけてください。

複数の行・列は指定できません。

- 1 大きい順
- 2 小さい順

順位を大きい順で求めるのか、小さい順で求めるのかを番号で選択します。

- 大きい順で順位を求める。

1 (または)

- 小さい順で順位を求める。

2

キーのみは、大きい順を指定したことになります。

並べ方は (1 ~ 2) :

- 1 順位
- 2 × (3 段階)
- 3 A B C (指定段階)
- 4 数字 (指定段階)
- 5 色付け (指定段階)

どの集計方法でつけるのか、番号で選択します。

- 1 から順に、数字で順位をつける。

1 (または)

- × の記号を使い、順位を3段階に分ける。

2

- 英文字を使い、順位を指定した段階に分ける。

3

- 数字を使い、順位を指定した段階に分ける。

4

- 指定した段階に分けて、背景色をつける。

5

集計方法は (1 ~ 5) [数字] :

【 A B C (指定段階) を選んだ場合 】

何段階ですか (1 ~ 26) :

データを何段階に分けて順位をつけるかを、1 から 26 の数字で指定します。

- 5 段階 (A ~ E) に分ける。

5

- 26 段階 (A ~ Z) に分ける。

26

【 数字 (指定段階) を選んだ場合 】

何段階ですか :

データを何段階に分けて順位をつけるかを、指定します。

- 5 段階 (1 ~ 5) に分ける。

5

- 10 段階 (1 ~ 10) に分ける。

10

【色付け（指定段階）を選んだ場合】

何段階ですか（1～8）：

データを何段階に色分けするかを、1から8の数字で指定します。

- 4段階（青・緑・水色・赤）に分ける。
 - 8段階（青・緑・水色・赤・紫・黄・白・黒）に分ける。
- 1から8の数字で、次の色を使って色分けします。



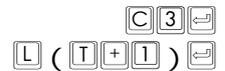
指定	使う色							
	1番目	2番目	3番目	4番目	5番目	6番目	7番目	8番目
1	青							
2	青	緑						
3	青	緑	水色					
4	青	緑	水色	赤				
5	青	緑	水色	赤	紫			
6	青	緑	水色	赤	紫	黄		
7	青	緑	水色	赤	紫	黄	白	
8	青	緑	水色	赤	紫	黄	白	黒

色の組み合わせや順番は、変更できません。

書き込み場所は：

集計結果を書き込む場所を指定してください。

- 3列目に書き込む。
- 最終行の次の行（T + 1）に書き込む。



INFORMATION

◆集計の対象となるのは、数値データだけです。文字や空白は無視します。

◆集計方法に“（指定段階）”を選んだ場合、データ行の行数によっては、等分に分割されないことがあります。

例題

54ページ「売上集計」のデータを集計して順位をつけます。

R : 54回

RANK回

C 2回..... 2列目のデータの順位を求める。

1回.....大きい順に並べる。

1回..... 1から順に、数字で順位をつける。

C 3回..... 3列目の前に1列追加して、順位を書き込む。

実行前

54	1	2	3	4	5	6	7
1	【売上集計】		95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12						
3							
4	品名	売上					
5							
6	A	754,000					
7	B	262,000					
8	C	128,000					
9	D	54,000					
10	E	62,000					
11	F	968,000					
12	G	324,000					
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	【売上集計】		95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12,2						
3							
4	品名	売上					
5							
6	A	754,000	2				
7	B	262,000	4				
8	C	128,000	5				
9	D	54,000	7				
10	E	62,000	6				
11	F	968,000	1				
12	G	324,000	3				
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

RB

Read of Backarea (リード オブ バックエリア)

指定したページを裏画面に読み出す

- 裏画面に、指定したページを読み出します。

重要

- RB命令を実行すると、裏画面にあったデータは消去され、読み出したページの内容にかわりま
す。必要なデータは、WB命令でページに書き込んでおいてください。

類似命令

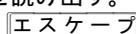
- R.....指定したページを画面に読み出します。
- R B B...指定したページを参照画面に読み出します。

仕事は =



何ページを読み出しますか :

裏画面に読み出すページの、ページ番号を指定します。

- システムファイルの1ページを読み出す。 
システムファイルの1ページ目にはメニューバー・プルダウンメニュー
のデータがあります。
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定したページと
同じページを読み出す。 
オートプログラム中で“*”指定を行う場合は、前後にダブルコーテ
ーション(”)を付けてください。
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定した、次のペ
ージを読み出す。 
+ 
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定した、前のペ
ージを読み出す。 
- 
- 次のページの内容を読み出す。
ページ番号または  キーを押すと、“仕事は=”の状態
に戻ります。
単独、表題、+、-、*指定が可能です。

【ページがプロテクトされている場合】

キーワードを入れてください :

指定したページにつけられた、キーワードを入力します。

- キーワード“88”を入れる。



INFORMATION

◆RB命令を実行した直後であれば、RV命令で読み出す前の
画面を表示することができます。

◆R・W・RB・WB・RBB命令以外の命令の場合、ページ
指定に“+”“-”“*”は使えません。

例題

5 ページ「売上集計」のデータを裏画面に読み出し、X 命令で確認します。

R B 画

5 画

X 画..... X 命令で裏画面とおもて画面を入れかえる。

実行前

01.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....+
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
≡仕事は≡	



実行後

M	5	1	2	33.....4.....5.....6.....7.....+		
1	[売上集計]			95.04.01	混	L=0067	C=0120
2	F=6,12,6						
3							
4	品名	売上	%				
5							
6	F	968,000	37.9				
7	A	754,000	29.5				
8	G	324,000	12.6				
9	B	262,000	10.2				
10	C	128,000	5.0				
11	E	62,000	2.4				
12	D	54,000	2.1				
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
≡仕事は≡							

RBB

Read Back Back (リード バック バック)

指定したページを参照画面に読み出す

- 指定したページの内容を参照画面に読み出します。

実行前の確認

- RBB命令を実行すると、現在参照画面に読み出してある内容は消去され、読み出したページの内容にかわります。

類似命令

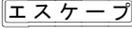
- R.....指定したページを画面に読み出します。
- RB...指定したページを裏画面に読み出します。

仕事は=



何ページを読み出しますか：

参照画面に読み出すページ番号を指定します。

- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定したページと同じページを読み出す。
オートプログラム中で“*”指定を行う場合は、前後にダブルコーテーション(”)を付けてください。
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定した、次のページを読み出す。
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定した、前のページを読み出す。
ページ番号または  キーを押すと、“仕事は=”の状態に戻ります。
単独、表題、+、-、*指定が可能です。

【ページがプロテクトされている場合】

キーワードを入れてください：

指定したページにつけられた、キーワードを入れてください。

- キーワード“88”を入れる。

INFORMATION

- ◆ R・RB・RBB・W・WB命令以外の命令の場合、ページ指定に“+”“-”“*”は使えません。

例題

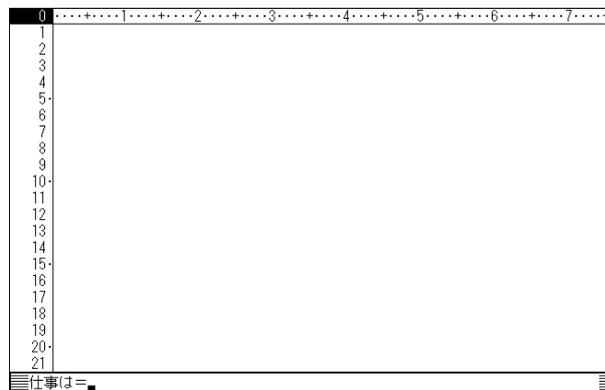
参照画面に5ページ「売上集計」のデータを読み出します。

R B B 図

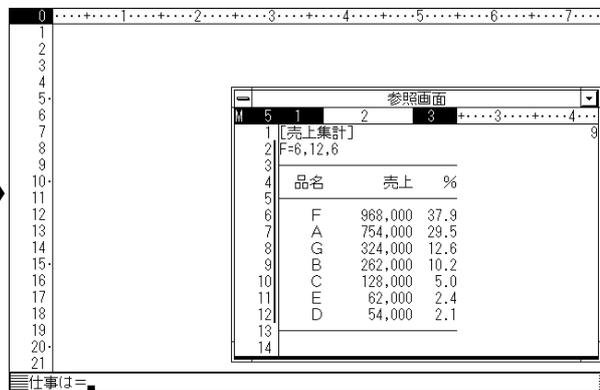
5 図

画面の  アイコンを左クリックして、参照画面を表示させて確認します。

実行前



実行後



品名	売上	%
F	968,000	37.9
A	754,000	29.5
G	324,000	12.6
B	262,000	10.2
C	128,000	5.0
E	62,000	2.4
D	54,000	2.1

複数ページの内容をつないで1画面で表示する

- 32000 行までのデータを縦方向につなぎ1 ページのデータとして扱うことができます。
- 同一ページのデータを繰り返してつなぐこともできます。

実行前の確認

- つなぐことができるのは、同じモード、同じページサイズだけです。
- 異なるファイル間のページをつなぐことはできません。
- V型ファイルのページをつなぐことはできません。
- フォーマットの異なるページを縦につないだ場合、2 ページ目以降は先頭ページのフォーマットに合わされます。その場合、追加された行はデータ行になりません。フォーマット行の位置の異なるページを横につないだ場合は、追加されたデータは列として使用できません。

仕事は =



つなぐページは :

つなぐデータのあるページ番号を指定します。

- 2 ページから 100 ページまでをつなぐ。
- 2 ページのデータを繰り返してつなぐ。

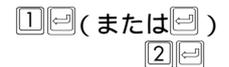


単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

ページをつなぐ方向は
[縦 1, 横 2] :

つなぐ方向を番号で選択します。

- 縦につなぐ。
- 横につなぐ。



【ページがプロテクトされている場合】

キーワードを入れてください :

指定したページにつけられた、キーワードを入力します。

- キーワード“ 88 ”を入れる。



この後、つなぐ方向を聞いてきます。

キーワードの異なるページどうしはつなげません。

INFORMATION

- ◆ RC 命令で縦方向につなげられるページの最大は、つないだ結果のデータ行数が 32000 行までのページ数となります。例えば、データ行数が 100 行のページならば 320 ページまで、縦方向につなぐことができます。
- ◆ つないだページのデータを計算可能なデータにするには、縦につなぐ場合と横につなぐ場合に次のような制限があるので注意しましょう。
 - 縦につなぐときの制限
 - フォーマット文の型が同じ
 - 横につなぐときの制限
 - フォーマット文の位置が同じ
 - 項目名の位置と行数が同じ
 - 計算開始行が同じ
- ◆ 指定したページが、PRT 命令でプロテクト（保護）されている場合は、そのページにつけられたキーワードを入れてください。
- ◆ RC 命令でつないだページを保管するときは WC 命令または W 命令で書き込みます。この際 1 ページ分のページに分けて書き込まれます。
- ◆ WFL 命令を使えば、RC 命令でつないだページを、1 ページごとに保存せず、ページファイルとしてつながったままの状態でも書き込むことができます。ページファイルを読み出す場合は、RFL 命令を使います。
- ◆ RC 命令でつないだページを解除する場合は、WC 命令で書き込むか、R 命令などでページを読み出します。

例題

55 ページ「月別売上集計表」と 56 ページの帯グラフを、横につないで画面に表示します。

R C 図

55-56 図55 ページと 56 ページをつなげる。

2 図.....横につなげる。

B C 図 4 図..... 4 列目を空白にして表を見やすくする。

実行前

55	1	2	3	4	5	6	7
1	【月別売上集計表】		95.04.01	混	L=0077	C=0102	
2	F=4,12,12						
3							
4	年月	売上	移動平均				
5							
6	9304	1,909,000	2,371,853				
7	9305	2,331,443	2,410,304				
8	9306	1,143,200	2,194,315				
9	9307	1,514,623	2,165,962				
10	9308	308,168	2,138,513				
11	9309	3,010,416	2,084,828				
12	9310	2,333,233	2,179,253				
13	9311	2,110,231	2,126,201				
14	9312	2,741,592	2,045,967				
15	9401	1,932,846	2,049,636				
16	9402	2,123,645	2,059,701				
17	9403	3,347,265	2,067,138				
18	9404	2,032,877	2,077,461				
19	9405	2,758,846	2,113,078				
20	9406	2,234,673	2,204,034				
21	9407	2,068,804	2,250,216				
仕事は=							



実行後

55	1	2	3	4	5	6	7	8
1	【月別売上集計表】		95.04.01	混	L=0077	C=0204		
2	F=4,12,12,6,10,10,10,10,10,10							
3								
4	年月	売上	移動平均	移動平均	0	1000000	2000000	30000
5								
6	9304	1,909,000	2,371,853	[Bar Chart]				
7	9305	2,331,443	2,410,304	[Bar Chart]				
8	9306	1,143,200	2,194,315	[Bar Chart]				
9	9307	1,514,623	2,165,962	[Bar Chart]				
10	9308	308,168	2,138,513	[Bar Chart]				
11	9309	3,010,416	2,084,828	[Bar Chart]				
12	9310	2,333,233	2,179,253	[Bar Chart]				
13	9311	2,110,231	2,126,201	[Bar Chart]				
14	9312	2,741,592	2,045,967	[Bar Chart]				
15	9401	1,932,846	2,049,636	[Bar Chart]				
16	9402	2,123,645	2,059,701	[Bar Chart]				
17	9403	3,347,265	2,067,138	[Bar Chart]				
18	9404	2,032,877	2,077,461	[Bar Chart]				
19	9405	2,758,846	2,113,078	[Bar Chart]				
20	9406	2,234,673	2,204,034	[Bar Chart]				
21	9407	2,068,804	2,250,216	[Bar Chart]				
仕事は=								

WAVEファイルを作成する

- Windowsの標準的な音声・音楽のデータ形式である、WAVE形式のファイルを作成します。

実行前の確認

- 音声データを作成する場合、お使いのパソコンにサウンドカードが取り付けられている必要があります。

仕事は =



作成するウェーブファイル名は :

音声・音楽を追加、もしくは新規作成するWAVEファイルに付けるファイル名を入力します。

- ONGAKU.WAV というファイル名で作成する。
- 拡張子 (.WAV) は、指定しなくても自動的に付けられます。
ディレクトリ名を指定しない場合、マイツールをセットアップしたディレクトリの下で“MYBMP”のディレクトリに作成されます。
ディレクトリ名から指定する場合、ディレクトリ名とファイル名の前に“¥”を付けてください。

《例》“MUSIC”というディレクトリに“JAZZ.WAV”というファイル名で書き込む。

- 1 追加作成
- 2 新規作成

既存のファイルに追加するか、新しく作成するか、番号で選択します。

作成方法は :

- 既存のファイルに追加する。 (または)
で指定したファイル名が存在しない場合、新しく作成します。
- 新規に作成する。

録音時間は (単位 : 秒)
[: 最大 ()] :

録音する時間を秒数で入力します。
録音時間を入力すると、ただちに録音が始まります。
サウンドカードのマイク端子につなげたマイク、もしくは外部端子につなげた再生機器などから音声を入力してください。

() の部分には、書き込み先のディスク容量から計算された最大録音可能時間が表示されます。

- 20 秒間録音する。

ただいま録音中です。

録音中は、左のメッセージが表示されます。
途中で録音を中止するには キーを押します。

録音を終了しました。
録音時間は 秒です。

録音を終了すると、左のメッセージが表示されます。

INFORMATION

- ◆サウンドカードとは、パソコン上でデジタル音声を再生・録音するために必要な拡張ボードです。
- ◆録音時のサンプリング条件は、お使いのサウンドカードのミキサーの設定に準拠します。
- ◆WAVEファイルの作成サイズの上限は、4096Mバイトです。
- ◆フロッピーディスクやMOディスク (光磁気ディスク) など、読み書き速度の遅いメディアに録音すると、音飛びなどの現象が生じます。WAVEファイルはハードディスクなどに作成するようにしてください。
- ◆WAVEファイルは、PLAY命令で再生することができます。

表のフォーマットを、指定した表に合わせる

- フォーマット文の異なる表を、複数ページにわたって、同じフォーマットに合わせます。

実行前の確認

- フォーマットを合わせられるのは、フォーマットページと集計するページの項目名の一致するものだけです。フォーマットページにない項目名の列は、書き込み先の表に挿入されません。
- フォーマットページの列幅が小さい場合、はみ出してしまうデータは、左側から順に削られます。

仕事は =



集計するページは[画面 ↵] :

フォーマットを合わせるページを指定します。

- 画面のデータのフォーマットを整える。 
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

フォーマットページは[裏画面 ↵] :

基になるフォーマットの入ったページを指定します。

- 裏画面の表を基にする。 
- 10 ページの表を基にする。 
- 単独指定が可能です。
- フォーマット文のないページを指定すると、処理を中止します。

書き込み先頭ページは :

フォーマットを合わせた表を、何ページから書き込むかを指定します。

- 11 ページから書き込む。 
- ドライブAのデータフロッピーの9 ページから書き込む。 

INFORMATION

- ◆フォーマットページにデータが入力されている場合は、後ろにデータを追加していきます。
- ◆複数ページを処理中に[エスケープ]キーを押すと一時停止します。停止中に[↵]キーを押すと再開します。もう一度[エスケープ]キーを押すと処理を中止します。

例題

57 ページ「得意先名簿追加分」のフォーマットを、52 ページ「得意先名簿」に合わせます。

R : 57回

R F 回

回.....画面のページのフォーマットを変更する。

52回.....52 ページのフォーマットに合わせてデータを追加する。

回.....結果を画面に書き込む。

実行前

57	1	2	3	4	5	6
1	[得意先名簿追加分]			95.04.01	混	L=0057 C=0144
2	F=11,14,20,16,11,6,30,12,14					
3						
4	氏名	TEL	会社名	所属	役職	
5						
6	青木 吉国	03-3000-2245	(株)青木スリック		常務取締役	
7	杉村 良美	042-200-3851	(有)トリエティセロ	吉祥寺店	プランナー	
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
仕事(は=						

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿]			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
8	103	1995.0315	伊藤デザイン(株)	デザイン部		佐藤 博子	106
9	104	1995.0415	伊藤デザイン(株)	デザイン部		猫柳 史子	106
10	105	1995.0415	伊藤デザイン(株)	営業部営業一課	課長	江口 かなな	106
11	106	1995.0415	伊藤デザイン(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107
13	108	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
14	109	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
15	110	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
16	111	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106
17	112	1995.0412	ｽﾌﾟﾙ2001	開発部	部長	佐藤 春男	150
18							
19	(株)青木スリック				常務取締役	青木 吉国	101
20	(有)トリエティセロ			吉祥寺店	プランナー	杉村 良美	180 東
21							
仕事(は=							

52 ページの「得意先名簿」

M 52	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿]			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
8	103	1995.0315	伊藤デザイン(株)	デザイン部		佐藤 博子	106
9	104	1995.0415	伊藤デザイン(株)	デザイン部		猫柳 史子	106
10	105	1995.0415	伊藤デザイン(株)	営業部営業一課	課長	江口 かなな	106
11	106	1995.0415	伊藤デザイン(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107
13	108	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
14	109	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
15	110	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
16	111	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106
17	112	1995.0412	ｽﾌﾟﾙ2001	開発部	部長	佐藤 春男	150
18							
19							
20							
21							
仕事(は=							

- 指定したページファイルを画面に読み出します。

重要

- RFL 命令を実行すると、現在画面に表示されている内容は消去され、読み出したページの内容にかわります。必要なデータは、W命令でページに書き込んでおいてください。

仕事は =

RFL

読み出すファイル名は :

画面に読み出すページファイルの、ファイル名を指定します。

- “MEIBO” というページファイルを読み出す。 MEIBO↵
 ページファイルは、マイツールをインストールしたディレクトリの下
 の “MYFILEX” のディレクトリに書き込まれます。それ以外のディレ
 クトリやドライブに書きこんだページファイルを読み込む場合は次
 のように指定します。

《例》 “ETC” というディレクトリにある “MEIBO” というページ
 ファイルを読み出す。 ¥ETC¥MEIBO↵

Aドライブのフロッピーに書き込んだ “MEIBO” というペー
 ジファイルを読み出す。 *A:¥MEIBO*↵

INFORMATION

- ◆ ページファイルとは、拡張されたページやRC命令などでつ
 なげられたページを、つながったままの状態で保存するこ
 とができる形式のファイルです。
- ◆ ページファイルは、R命令でも読み出すことができます。ま
 た、各命令でのページ指定時に、通常のページと同様に指定
 することができます。ただし、EF命令、DF命令でデータ
 ページとして指定することはできません。
- ◆ ページファイルは、WFL命令で画面のページにファイル名
 を付けて書き込むか、FILEX命令の“ファイル作成”で
 作ります。
- ◆ ページファイルの一覧はFILEX命令で見ることができ
 ます。
- ◆ 読み出したページファイルはマイツールのデータページと
 変わりません。W命令で通常のページに書き込むこともでき
 ます。
- ◆ ページファイルにはP型とX型があります。詳しくはWFL
 命令、FILEX命令をご覧ください。

RLOG

Read Logging (リード ロギング)

これまで使った命令やデータを画面に読み出す

- RLOG命令を実行した時点からさかのぼって、入力した命令やデータを画面に表示します。
- 1行につき1命令単位で表示されます。

実行前の確認

- RLOG命令を実行すると、現在画面に表示されている内容は消去されます。

類似命令

- DS...画面分割して、幅画面にロギングエリアを表示します。

仕事は =



INFORMATION

- ◆ 1行につき1命令(操作の最初から最後まで)ずつ表示されます。RLOG命令を含めて、74個前までの実行履歴を表示します。
- ◆ 実行履歴の保存される場所をロギングエリアといい、RLOG命令はロギングエリアの内容を画面に読み出すものです。ロギングエリアの内容をすべて消去する場合は、BLOG命令を使います。
- ◆ オートプログラムを作るときや、これまでの手順を確認するときに便利です。
- ◆ マイツールを終了すると、保管していたこれまでの命令やデータはすべて消えてしまいます。
- ◆ (Esc)キーは“:”と、(Esc)は“ESC:”と表示されます。また、間違えて入力したのも、そのまま表示され、エラーを起こした箇所は“★:”と表示されます。
- ◆ これまで入力した命令やデータは、RLOG命令を使わなくても(Up)(Down)(Left)(Right)(Ctrl)+(Up)(Down)(Left)(Right)キーを使って入力バーに呼び出すことができます。(Ctrl)+(Up)(Down)キーでは、入力した命令やデータを1つずつ入力行に呼び戻します。(Ctrl)+(Left)(Right)キーでは、1つの命令単位で入力したものを入力バーに呼び戻します。
- ◆ RLOG命令で画面に表示した内容は、空白ページにED命令で書き込んだ状態と同じですから、そのままW命令で保存することができます。

例題

いくつかの操作を行った後、ロギングエリアの内容を読み出します。

まず、BLOG命令でロギングエリアの内容を消去します。

BLOG

次にいくつかのコマンドを実行します。

T (Esc) R:5 ACM C2,4 + DRC

RLOG命令でロギングエリアの内容を読み出します。

RLOG

実行後

```
0 .....1.....2.....3.....4.....5.....6.....7.....+
1 [RLOG] 95.04.01 混 L=0075 C=0106
2 T:ESC:
3 R:5:
4 ACM:C2,4+:
5 DRC::
6 RLOG:
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
仕事は =
```

列のデータを縦方向にずらす

- 画面の表の列のデータを、上方向もしくは下方向にずらします。

実行前の確認

- フォーマット行のないページでは実行できません。

類似命令

- ROL...行のデータを横方向にずらします。

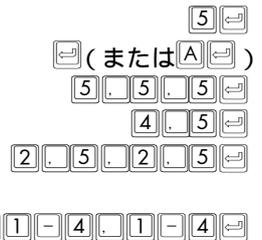
仕事は =



何列目をずらしますか :

ずらす列の、列番号を指定します。

- 5 列目のデータを 1 行分ずらす。
- すべてのデータを 1 行分ずらす。
- 5 列目のデータを 3 行分ずらす。
- 4 列目と 5 列目を 1 行分ずらす。
- 2 列目と 5 列目を 2 行分ずらす。
- 1 列目から 4 列目までを 3 行分ずらす。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

ずらす方向は [上 1 , 下 2] :

上にずらすか、下にずらすか番号で選択します。

- 上にずらす。
- 下にずらす。
- 6 行目だけをのぞいて下へずらす。
- 6 行目と 7 行目をのぞいて上へずらす。
- 6 行目から 9 行目までをのぞいて下へずらす。



何列目をずらしますか :

他にもずらす列があれば、その列の番号を指定します。

からの操作方法と同様です。
なければ **[エスケープ]** キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 1 列でも複数の列でも、上下にずらすことができます。何行分ずらすかは、列指定のときにその回数だけカンマ (,) でつないでください。
- ◆ 各列の項目名はずらさずにデータだけをずらします。
- ◆ 横に引かれたケイ線は無視してデータだけをずらします。
- ◆ スケジュール表の修正などに便利です。

- ◆ 表の中にずらしたくない部分があるときは、“N” (Not 無視) 指定を使います。
- ◆ 2 度目以降の“何列目をずらしますか :”、“ずらす方向は :”のメッセージで **[エスケープ]** キーのみを押すと、前回の指定と同じになります。

例題

58 ページ「月別売上集計表」の、ずれたデータを、ROC 命令で修正します。

94 年 10 月に、誤って 94 年 9 月のデータを入力してしまったため、そこから後の各月のデータが一つずつずれてしまいました。これを ROC 命令を使って修正します。

R : 58回

ROC 回

2 回..... 2 列目のデータを一行分だけずらす。

1, 12 - T 回..... 12 行目から最終行までを、上にずらす。

(エスケープ)..... ROC 命令を終了する。

実行前

58	1	2	...	2	...	3	...	4	...	5	...	6	...	7	...
1	[月別売上集計表]			95.04.01	混	L=0077	C=0102								
2	F=4,12														
3															
4	年月	売上													
5															
6	9404	2,032,877													
7	9405	2,758,846													
8	9406	2,234,673													
9	9407	2,068,804													
10	9408	519,046													
11	9409	4,176,465													
12	9410	4,176,465													
13	9411	2,734,983													
14	9412	2,559,512													
15	9501	4,194,400													
16	9502	2,245,359													
17	9503	2,893,543													
18		3,753,217													
19															
20															
21															



実行後

58	1	2	...	2	...	3	...	4	...	5	...	6	...	7	...
1	[月別売上集計表]			95.04.01	混	L=0077	C=0102								
2	F=4,12														
3															
4	年月	売上													
5															
6	9404	2,032,877													
7	9405	2,758,846													
8	9406	2,234,673													
9	9407	2,068,804													
10	9408	519,046													
11	9409	4,176,465													
12	9410	2,734,983													
13	9411	2,559,512													
14	9412	4,194,400													
15	9501	2,245,359													
16	9502	2,893,543													
17	9503	3,753,217													
18		4,176,465													
19															
20															
21															

行のデータを横方向にずらす

- 画面の表の行のデータを、右方向もしくは左方向にずらします。

実行前の確認

- フォーマット行のないページでは実行できません。
- ずらした時に、列の桁数よりデータの文字数のほうが大きい場合、はみ出した部分は左側から削られます。

類似命令

- R O C...列のデータを縦方向にずらします。
- M L行を移動します。

仕事は =



何行目をずらしますか :

ずらす行の、行番号を指定します。

- 6 行目のデータを 1 列分ずらす。
- すべてのデータ行を 1 列分ずらす。
- 6 行目のデータを 3 列分ずらす。
- 7 行目と 8 行目を 1 列分ずらす。
- 7 行目と 9 行目を 2 列分ずらす。
- 7 行目から 9 行目までを 2 列分ずらす。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

ずらす方向は[左 1, 右 2] :

左にずらすか、右にずらすか番号で選択します。

- 左にずらす。
- 右にずらす。
- 1 列目をのぞいて右へずらす。
- 1 列目と 3 列目をのぞいて右へずらす。
- 1 列目から 5 列目までをのぞいて右へずらす。



何行目をずらしますか :

他にもずらす行があれば、その行を指定します。

からの操作方法と同様です。
なければ **[エスケープ]** キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 1 行でも複数の行でも、左右にずらすことができます。何列分ずらすかは、行指定のときにその回数だけカンマ (,) でつないでください。
- ◆ 縦に引かれたケイ線は無視してデータだけをずらします。
- ◆ スケジュール表の修正などに便利です。
- ◆ 表の中にずらしたくない部分があるときは、“N” (Not -無視) 指定を使います。
- ◆ ROL 命令では、項目行もずらすことができます。ただし、すべてのデータをずらす指定 (**[↵]** キーのみを押す) の場合、項目行は対象となりません。
- ◆ 2 度目以降の“何行目をずらしますか :” “ずらす方向は :” のメッセージで **[↵]** キーのみを押すと、前回の指定と同じになります。

例題

59 ページ「商品別売上計画」の、1月から始まる項目行を、4月から始まる項目行に変更します。

R : 59回

ROL 回

4, 4, 4回..... 4行目のデータを3列分ずらす。

1, N 1回..... 1列目を除いて、左にずらす。

エスケープ..... ROL命令を終了する。

実行前

59	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13+	
1	【商品別売上計画】							95.04.01	混	L=0050	C=0170				
2	F=10,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5														
3															
4	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月														
5															
6	TV														
7	洗濯機														
8	ステレオ														
9	冷蔵庫														
10	エアコン														
11	VTR														
12	電子レンジ														
13	パソコン														
14	カメラ														
15	ファクス														
16															
17															
18															
19															
20															
21															
≡仕事は≡															



実行後

59	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13+	
1	【商品別売上計画】							95.04.01	混	L=0050	C=0170				
2	F=10,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5,5														
3															
4	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月														
5															
6	TV														
7	洗濯機														
8	ステレオ														
9	冷蔵庫														
10	エアコン														
11	VTR														
12	電子レンジ														
13	パソコン														
14	カメラ														
15	ファクス														
16															
17															
18															
19															
20															
21															
≡仕事は≡															

オートプログラムを実行する

- PRO命令で登録したオートプログラムや、画面上のオートプログラムを実行します。

実行前の確認

- 画面上のプログラムを実行する場合は、PRO命令で登録されている必要はありませんが、画面の内容を変えるようなプログラムを実行すると、プログラム自身が消えてしまいますので注意してください。

類似命令

- PAGE...ページ間処理を行います。

仕事は =



プログラム名は :

PRO命令で登録済みのオートプログラム名を指定します。

- “在庫”というプログラムを実行する。 在庫
- 画面に表示中のプログラムを実行する。
画面上に複数のプログラムが存在する場合は、先頭のプログラムが実行されます。

【実行途中で **ストップ** (Ctrl + Pause) キーを押した場合】



オートプログラムの実行をどうするか、マウスで選択します。

- 実行を中止する場合は、[中止] ボタンを左クリックします。
- ポーズモード (停止状態) にする場合は [ポーズ] ボタンを左クリックします。
ポーズモードにすると、実行中のオートプログラムを入力バーに1ステップずつ表示し、 キーを押すごとに命令の内容を1つずつ実行することができます。
ポーズモードを抜けるには **ストップ** (Ctrl + Pause) キーを押してから、[再開] または [中止] を選択します。
- オートプログラムの実行を再開する場合は、[再開] ボタンを左クリックします。
- オートプログラムを一時中断し、他の命令を実行する場合は、[手入力] ボタンを左クリックします。
他の命令を実行後、**CONT** と入力すると、ふたたび のメッセージが表示されます。
命令の途中で止めたとき [手入力] ボタンは表示されません。

INFORMATION

- ◆ オートプログラムとは、マイツールの命令の実行手順をページに書き込んでおき、いろいろな仕事を自動的に行うものです。命令を組み合わせて作っていただければいいので、自分の仕事に合った、自由度の高いプログラムを作成することができます。

- 命令を実行したために前の画面が新しい画面が変わってしまったようなとき、実行前の画面に戻します。

仕事は =



INFORMATION

- ◆ DL 命令や DC 命令などでデータを削ってしまったり、誤って現在表示中の画面を消してしまったときなどに威力を発揮します。
- ◆ D 命令、DP 命令、P 命令 (印刷関係の命令)、SET 命令 (SET 関係の命令)、W 命令を行った後に RV 命令を実行しても、それはリカバリしません。ひとつ前に行った命令についてリカバリします。
《例》 DL : 25回 DP : 20 : 1回 RV 回
- ◆ DL 命令で 25 行目を消してから、DP 命令で 20 行 1 列目を表示させたような場合に RV 命令を行うと、DP 命令前の画面ではなく、DL 命令前の画面を表示します。
- ◆ SET C 命令で、“W 命令実行時のリカバリ” をセットしておく、誤って W 命令で書き込み先の内容を消してしまっても、RV 命令で画面に表示させることができます。ただし、ページ拡張時や WC 命令を使って書き込んだ場合は、最初の 1 ページのみを表示します。
- ◆ 誤って RV 命令を入力した場合は、もう一度 RV 命令を行ってください。
- ◆ C 命令中、途中の計算結果を SV 命令で保存しておけば、RV 命令でその内容を表示できます。
- ◆ RVOFF (オート命令) 状態のときは、RV 命令を実行することはできません。オートプログラム中に RV 命令を実行する場合は RVON 命令を入れてください。

例題

30 ページ「商品別地区別売上高」の 2 列目から 4 列目までを削除してから、削除前の状態に戻します。

R : 30回

DC 回

2 - 4 回..... 2 列目から 4 列目までの列を削除します。

RV 回..... 削除する前の状態に戻します。

R V 命令実行前

30	1	2	3	4	5	6	7
1	[商品別地区別売上高]			95.04.01	混	L=0043	C=0200
2	F=10						
3							
4							
5							
6	TV						
7	洗濯機						
8	ステレオ						
9	冷蔵庫						
10	エアコン						
11	VTR						
12	電子レンジ						
13	パソコン						
14	カメラ						
15	ファクス						
16							
17							
18							
19							
20							
21							
仕事は =							

R V 命令実行後

30	1	2	3	4	5	6	7
1	[商品別地区別売上高]			95.04.01	混	L=0043	C=0200
2	F=10, 13, 13, 13						
3							
4							
5							
6		A地区	B地区	C地区			
7	TV	40,400	44,400	35,520			
8	洗濯機	31,800	44,000	25,740			
9	ステレオ	40,600	50,600	31,740			
10	冷蔵庫	37,800	49,200	34,890			
11	エアコン	39,200	47,400	33,630			
12	VTR	41,800	48,600	29,500			
13	電子レンジ	37,700	49,000	39,500			
14	パソコン	39,200	46,400	34,890			
15	カメラ	40,600	45,000	33,630			
16	ファクス	35,540	45,200	39,150			
17							
18							
19							
20							
21							
仕事は =							

データを並べかえる

- 番号順、あいうえお順、ABC順、数の小さい順、大きい順など、必要に応じて自由にデータを行単位で並べかえることができます。
- 画面に表示しているデータ、または指定したページのデータを並べかえることができます。

重要

- 並べかえの処理中にエラーが発生した場合に、並べかえるページと結果の書き込み先のページが重なっているとデータが壊れます。並べかえるページと結果の書き込み先のページは、なるべく重ねて使用しないでください。

実行前の確認

- 先頭ページが混在モードの場合は、並べかえるページに漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、混在モードのページがあると、処理を中止します。
- フォーマット文の異なるページを並べかえると、桁ずれを起こします。並べかえる前に、CF命令で桁数をそろえておいてください。
- 先頭ページと2ページ目以降のページサイズが異なっていて、各ページのデータ件数に差があると、処理ができない場合があります。

類似命令

- SHG...キーページに合わせて検索・整理します。

仕事は =



並べかえるページは [画面 ←] :

並べかえたいページを指定します。

- 2ページから5ページまでのデータを並べかえる。
 - 画面のデータだけを並べかえる。
 - 2ページ、5ページ、7ページを並べかえる。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1番目のキー列は [終了 ←] :

どの列をキー列にして並べかえるのか、基準となる列の番号を指定します。

- 表の1列目をキー列にする。
 - キー列は指定しない。
- 単独指定が可能です。
キー列の説明は、後述の「キー列・行単位の並べかえ」をご覧ください。

- | | |
|---|---------|
| 1 | 文字正順 |
| 2 | 逆順 |
| 3 | 数字小さい順 |
| 4 | 大きい順 |
| 5 | あいうえお正順 |
| 6 | 逆順 |

並べ方は (1 ~ 6) :

並べ方を番号で選択します。

- JIS区点コード番号の小さい順に並べかえる。
- JIS区点コード番号の大きい順(逆順)に並べかえる。
- 数字の小さい順に並べかえる。
- 数字の大きい順に並べかえる。
- あいうえおの順に並べかえる。
- おえういあの順に並べかえる。

2番目のキー列は [終了 ←] :

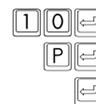
さらにキー列を指定する場合は、次に基準となる列の番号を指定します。

- 次のキー列に2列目を指定する。
 - 2番目のキー列は指定しない。
- 単独指定が可能です。
並べかえのキー列は5つまで指定することができます。2つ以上、キー列を指定する場合は、“キー列”の指定と“並べ方”の手順を繰り返してください。

結果の書き込み先頭ページは
[印刷 P, 画面 ↵] :

並べかえた結果をどうするか指定します。複数ページを並べかえた場合、その結果を、指定したページを先頭にして順に書き込みます。

- 10 ページから書き込む。
- 印刷する。
- 画面に表示する。



INFORMATION

- ◆ 漢字を“文字正順”、“文字逆順”で並べかえる順序は、JIS区点コードに基づいているので注意しましょう。必ずしも、あいうえお順にはなりません。

相沢	あ	→	加藤	か
池谷	い		海老原	え
海老原	え		相沢	あ
大兼	お		大兼	お
加藤	か		池谷	い

1 列目を文字正順で並べかえると

い	→	あ
あ		ア
ア		い
え		う
う		え

1 列目をあいうえお正順で並べかえると

- ◆ “あいうえお正順” “あいうえお逆順” は、ひらがな・カタカナが混じっていても、あいうえおの正順・逆順で並べかえます。また文字タイプは、ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナが正順になります（あ→ア→ア）。ひらがな・カタカナ以外の文字はJIS区点コード順で並べかえます。

- ◆ 複数の異なるファイルのページを並べかえる場合は、ファイルごとのページをS命令で並べかえてから、M命令で併合します。
- ◆ 複数ページを並べかえた結果に“画面”を選んだ場合、その最初のデータだけは画面に表示しますが、他のデータは消えてしまいます。

並べかえるときの注意・制限

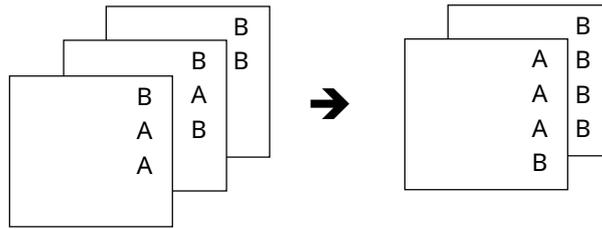
ページ数	注意	制限
1～サブページのページ数+60	<ul style="list-style-type: none"> ● データ量がサブページに書き込める範囲内であれば、書き込むことができます。 ● 3ページ以内の並べかえの場合にだけ、並べかえる前の先頭ページが裏画面に書き込まれます。 ● 4ページ以上並べかえる場合は、ワークエリアのデータと参照画面のデータが消えてしまいます。 	
サブページのページ数+61～サブページのページ数×2+60	<ul style="list-style-type: none"> ● サブページに入っている内容はすべて消えてしまいます。ただし、データ量により、一部のデータが残る場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 並べかえた結果の書き込み先にサブページは指定できません。
サブページのページ数×2+61～サブページのページ数×4	<ul style="list-style-type: none"> ● 並べかえに指定したページの内容とサブページの内容は、すべて消えてしまいます。 ● なるべく書き込み先頭ページに、並べかえて指定した先頭ページを指定してください。 ● 必要なデータはあらかじめ他のファイルやフロッピーにコピーしておいてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 並べかえに指定するページは、連続していなければなりません。 ● SET命令で指定した予備行数は無視されます。 ● 並べかえた結果の書き込み先にサブページ、画面、Pは指定できません。

サブページは、最大 2000 ページまで作れます。

S命令での最大処理ページ数は 8000 ページです。

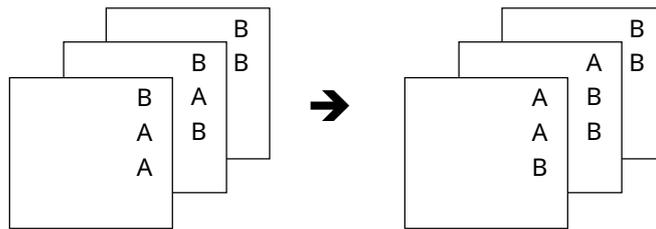
複数ページのデータを並べかえてつなく

S 命令で複数ページを並べかえて書き込むと、指定したページを先頭につめて書き込みます。



ページごとに並べかえる

各ページごとに並べかえた結果を書き込む場合は、PAGE 命令と組み合わせて、ページ単位で S 命令を実行します。



キ一列・行単位の並べかえ

キ一列とは？

並べかえの基準になる列のことをいいます。

どの列を基準に、行単位でデータを並べかえるのか列番号で指定します。

行単位で並べかえるとは？

下記の並べ方の例のように、1 列目をキ一列にして並べかえると、2 列目以降のデータもいっしょに並べかえられます。

1 列目	2 列目		1 列目	2 列目
4	ABC	➔	2	DEF
2	DEF		3	GHI
3	GHI		4	ABC

数字の小さい順に並べかえると…

★キ一列に同じ内容の行が複数個あった場合、並べかえを行うと、内容は同じでも、行の順序が入れ替わることがあります。

2 ~ 5 番目のキ一列は？

キ一列は、5 列まで指定することができます。

指定された順番に、優先順位が決まります。

1	2	3		1	2	3
男	B	180	➔	男	A	165
女	A	150		男	B	170
男	A	165		男	B	180
女	B	170		女	A	150

1 番目のキ一列…1 列目 (文字逆順)

2 番目のキ一列…2 列目 (文字正順)

3 番目のキ一列…3 列目 (数字小さい順)

1 番目のキ一列の指定でまず男と女を並べかえます。2 番目のキ一列の指定で、さらに男の A と B を並べかえます。3 番目のキ一列の指定で数字の小さい順に並べかえます。

例題

60 ページ「得意先名簿」を、“会社名”“氏名”の文字正順、“登録日”の日付順で並べかえます。

R : 60回

S 回

- 回.....画面のデータを並べかえる。
- 3 回..... 1 番目のキー列には、3 列目（会社名）を指定する。
- 1 回.....並べ方は、文字正順を指定する。
- 6 回..... 2 番目のキー列には、6 列目（氏名）を指定する。
- 1 回.....並べ方は、文字正順を指定する。
- 2 回..... 3 番目のキー列には、2 列目（登録日）を指定する。
- 3 回.....並べ方は、数字小さい順を指定する。
- 回.....キー列の指定を終了する。
- 回.....結果を画面に書き込む。

実行前

60	1	2	3	4	5	6	7
1	[[得意先名簿]]			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	代表取締役	森野 裕二	150
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
8	103	1995.0315	伊藤テック(株)	営業部	係長	江口 かなな	106
9	104	1995.0315	伊藤テック(株)	テック心部		佐藤 博子	106
10	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107
11	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
13	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長	新藤 悟	106
14	109	1995.0320	(株)TO商会	営業部	主任	豊田 秀雄	106
15	110	1995.0415	伊藤テック(株)	テック心部		猫柳 史子	106
16	111	1995.0415	伊藤テック(株)	営業部	課長	江口 かなな	106
17	112	1995.0415	伊藤テック(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106
18	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106
19	114	1995.0412	ｽﾌﾟﾙ2001	開発部	部長	佐藤 春男	150
20	115	1995.0412	ｽﾌﾟﾙ2001	開発部	係長	海野 広子	150
21							
≡仕事(は=							

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[[得意先名簿]]			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長	新藤 悟	106
7	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106
8	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
9	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
10	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
11	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
12	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107
13	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
14	112	1995.0415	伊藤テック(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106
15	103	1995.0315	伊藤テック(株)	営業部	営業一課	係長	江口 かなな
16	111	1995.0415	伊藤テック(株)	営業部	営業一課	課長	江口 かなな
17	104	1995.0315	伊藤テック(株)	テック心部		佐藤 博子	106
18	110	1995.0415	伊藤テック(株)	テック心部		猫柳 史子	106
19	115	1995.0412	ｽﾌﾟﾙ2001	開発部	係長	海野 広子	150
20	114	1995.0412	ｽﾌﾟﾙ2001	開発部	部長	佐藤 春男	150
21							
≡仕事(は=							

データをセンタリングする

- 指定した列の項目名とデータを、各列内の中央に寄せます。

実行前の確認

- フォーマット行のないページでは実行できません。

類似命令

- SL...データを左に寄せます。
- SR...データを右に寄せます。

仕事は =



何列目を中央に寄せますか：

データを中央に寄せる列の、列番号を指定します。

- すべての列のデータを中央に寄せる。 (または)
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ データといっしょに、列の項目名も中央に寄せます。
- ◆ ケイ線の列を指定しても、ケイ線は変化しません。
- ◆ データを左に寄せるならSL命令、右に寄せるならSR命令を使います。
- ◆ N指定はできません。

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」のデータを中央寄せにします。

R : 10

S C

..... すべての列を中央寄せにする。

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

- 表の中の1列を、複数の列に分離します。

類似命令

- C F P.....指定した列の分離・結合を行う

仕事は =



何列目を分離しますか：

分離する列を指定します。

- ★単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
- ★キーを押すとすべての列を指定したことになり、1列目から順に分離することができます。

今0列設定 あと残りは 桁です

色のついた列を分離します。必要な桁数を1列分ずつ指定します。

1列目の桁数は

- 8桁の列を5桁と3桁に分離する。 (または)

(0 ~ , [終了]) :

- この列はそのまま次の列指定へ移る。

F命令と同様に、“*”や“/”を使った指定もできます。

で複数の列を指定した場合、1列分の指定が終わると次の列の指定に移ります。

キーのみを押すと、分離せずに次の列へ移ります。指定した列の分離を終了すると、“仕事は=”に戻ります。

例題

9ページ「売上帳」の“年月日”の列を“年”“月”“日”の3列に分離します。

R : 9回

SEPA

- 1回.....1列目(年月日)を分離する。
- 2回.....“年”を2桁にする。
- 2回.....“月”を2桁にする。
- 2回.....“日”を2桁にする。

実行前

9	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]								
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
7	950403	107	(株)神崎建設	パソコン	30	360	10,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	透明ホケット	20	500	10,000		
9	950403	107	(株)神崎建設	製図ボード	20	2,500	50,000		
10	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	ホートスケール	15	2,000	30,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	フェイル	200	800	160,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900	
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
16	950403	116	(株)全日本出版	パソコン	25	360	9,000		
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000		
18	950403	116	(株)全日本出版	フェイル	6	800	4,800	145,400	
19									
20									
21									

実行後

9	2	3	4	5	6	7	8	9	10	+
1	[売上帳]									
2	F=6,2,2,4,15,12,6,6,12,12				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5										
6	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
7	950403	107	(株)神崎建設	パソコン	30	360	10,800			
8	950403	107	(株)神崎建設	透明ホケット	20	500	10,000			
9	950403	107	(株)神崎建設	製図ボード	20	2,500	50,000			
10	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000			
11	950403	107	(株)神崎建設	ホートスケール	15	2,000	30,000			
12	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000			
13	950403	107	(株)神崎建設	フェイル	200	800	160,000			
14	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500	318,900		
15	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600			
16	950403	116	(株)全日本出版	パソコン	25	360	9,000			
17	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000			
18	950403	116	(株)全日本出版	フェイル	6	800	4,800	145,400		
19										
20										
21										

SET

Set (セット)

ページの大きさやモードなどを設定する

- 現在、マイツールで設定されている状態を変更することができます。ただし、すでに作成したページでは、モード・1行の長さ・ページ内の行数を変えることはできません。

類似命令

- SETC...マウスの移動速度やブザー音などを調整します。

仕事は =



番号	内容	範囲	現在
0	現在値を標準値に戻す		
1	モード	(混在・1, 漢字・2)	1
2	1行の長さ《桁数》	(34~900)	170
3	ページ内の行数	(9~252)	50
4	ページ内の予備行数	(0~100)	0
5	ケイ線の色	(01234567)	3
6	『仕事は=』の入力モード変更	(英数・1, 変更なし・2)	1
8	シリアル《RS-232C》	(タブレット・1, 使用しない・2)	1
9	接続プリンタ機種		84
10	用紙の縦幅	(0~78)	78
11	用紙の縦幅	(0・1~20・5, 5)	0
12	印刷開始桁位置	(1~78)	1
13	1インチの行数	(6, 8, 0)	6
14	横書き/縦書き	(横書き・1, 縦書き・2)	1
15	見出し行印字	(0~5)	0
16	色指定が可能な列数	(0~50)	9

SET何番をセットしますか (0~16) :

左の画面が表示されます。

画面の右端には、現在設定されている状態が表示されます。

変更する番号を選択して[ESC]キーを押します。

- SET命令を終了するときは、[ESC]キーを押します。
- SET命令で設定した内容は、マイツールを終了してもそのまま残っているので、次に起動したときは、前回設定した状態で始まります。ただし、マイツールを正常に終了したときだけです。

0 現在値を標準値に戻す



入力バーに“何番をセットしますか(0~16)”とメッセージが表示されているときに、[0][ESC]とキーを押すと、各項目が、標準として設定されている値に戻ります。

ただし、8番“シリアル《RS-232C》”、9番“接続プリンタ機種”は変更されません。

INFORMATION

- ◆10~13番の標準値は、接続プリンタ機種ごとに異なりますので、9番の値によって設定されます。
- ◆0番で標準値に戻すと、PSET命令中の共通部分(9~15番)も自動的に変更されます。

1 モード



- 1 混在
- 2 漢字

ページのモード(1~2) :

これから作成するページのモードを、番号で選択します。
標準値は“1”です。

- 混在モードにする。
- 漢字モードにする。
- 現在の設定のまま変更しない。



すでに作成済みの表のモードを変更するには、設定後にCTP命令を実行します。

2 1行の長さ《桁数》

1行の長さ（34～900）：

これから作成するページの1行の長さ（桁数）を設定します。
標準値は“170”です。

- 100桁にする。
- 500桁にする。
- 現在の設定のまま変更しない。



設定した1行の長さ、つまり桁数を設定します。

1行の長さを34桁に、色指定を“0”に設定すると、ページの行数は自動的に252行に設定されます。また色指定を“16”に設定すると、171行に設定されます。

すでに作成済みの表の大きさを変えるには、設定後にCPS・CPS L命令を実行します。

1行の長さ



1行の長さ	34	100	150	170	500	900
行数	171	78	55	50	18	10

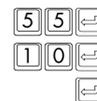
SETC命令の10番でページが拡張に設定されていると、行数がこの表の値とは異なります。

3 ページ内の行数

ページ内の行数（9～171）：

これから作成するページのページ内の行数を設定します。
標準値は“50”です。

- 55行にする。
- 10行にする。
- 現在の設定のまま変更しない。



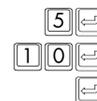
設定した行数によって“1行の長さ《桁数》”が変化します。

4 ページ内の予備行数

ページ内の予備行数（0～100）：

処理結果をページに書き込む際に、ページに設ける予備行数を指定します。
標準値は“0”です。

- 5行にする。
- 10行にする。
- 現在の設定のまま変更しない。
- S・SH命令などで結果を書き込む際、1ページに書ききれないと自動的に次のページに書き込みます。このとき、予備行数を設定していないとページいっぱい使ってしまうと、後からデータの追加ができません。予備行数を設定しておく、その行数だけ残して次のページから書き込みます。予備行数はページの行数を超えて設定することはできません。



ページ内行数の1/2を超える予備行数を設定した場合、超える分は無視されます。ただし、S命令の書き込み結果の場合は、データ行数の1/2が予備行数になります。

結果の書き込み先に画面を指定した場合は、予備行数の設定は無視されます。

5 ケイ線の色

- 0 黒色
- 1 青色
- 2 緑色
- 3 水色
- 4 赤色
- 5 紫色
- 6 黄色
- 7 白色

ケイ線の色 (0 ~ 7) :

画面に表示するケイ線の色を番号で選択します。
標準値は “ 3 ” です。

- 現在の設定のまま変更しない。



6 『仕事は=』の入力モード変更

- 1 英数
- 2 変更なし

『仕事は=』の入力モード (1 ~ 2) :

命令実行中に設定した入力モード (ひらがな、カタカナなど) を、「仕事は=」の状態に戻ったときに、自動的に英数モードに変更するか、変更しないかを、番号で選択します。

標準値は “ 1 ” です。

- モードを英数に変える。
- モードを英数に変えない。
- 現在の設定のまま変更しない。



8 シリアル《RS-232C》

- 1 タブレット
- 2 通信

RS - 232 C (1 ~ 2) :

パソコン本体のシリアル (RS - 232 C) に接続するものを、番号で選択します。

標準値は “ 2 ” です。

タブレットの接続に設定する。

通信用ケーブルの接続に設定する。

現在の設定のまま変更しない。

★タブレットが使える機種については、TAB命令をご覧ください。

★何も接続しない場合は、“2・通信”に設定してください。



9番“接続プリンタ機種”、10番“用紙の横幅”、11番“用紙の縦幅”、12番“印刷開始桁位置”、13番“1インチの行数”、14番“横書き/縦書き”、15番“見出し行の印字”の設定は、PSET命令と同じです。
PSET命令の該当部分をご覧ください。

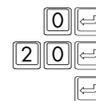
16 色指定が可能な列数



色指定が可能な列数 (0 ~ 50) :

色指定できる列数を設定します。
標準値は “ 9 ” です。

- 0 列にする。
- 20 列にする。
- 現在の設定のまま変更しない。



1 行の長さ		34	100	150	170	500	900
ページ内行数	色指定可能列数が 0 のとき	252	92	62	55	19	10
	” 9 のとき	171	78	55	50	18	10
	” 10 のとき	165	77	55	49	18	10
	” 20 のとき	123	66	49	44	17	10
	” 30 のとき	97	58	44	41	17	9
	” 40 のとき	81	52	41	37	16	9
	” 50 のとき	69	47	37	35	15	9

★色指定可能列数を減らすと、その情報部分をデータエリアとして使用するために、行数は増えます (ただし、2番の “1 行の長さ” は変わりません)。

★設定した列数によって、“ページ内の行数” が変化します。

INFORMATION

- ◆ 1 行の長さを “34”、色指定が可能な列数を “0” に設定すると、ページ内の行数を最大の 252 行にすることができます。ただし、ワークエリアは 180 行までしか扱えないために、C・ACM 命令などでワークエリアを使用する場合は、180 行を超える部分は消えてしまいますから、注意してください。
- ◆ “色指定が可能な列数” の設定を “0” にして表を作成したとき、SETP・SHU 命令などで色を指定できません。
- ◆ 作成済みの表の色指定可能列数を変更する場合には、SET 命令の 16 番で変更後、CPS・CPSL 命令を実行します。

マウスの移動速度やブザー音などを調整する

- 現在マイツールで設定されているプルダウン表示の方法や、マウスの移動速度、ブザー音の有無などを調整することができます。
- W命令（書き込み）のときに消してしまったページを、RV命令（リカバリ）で読み出す指定などができます。

類似命令

- S E T.....ページの大きさやモードなどを設定します。
- S E T D...キーボードやかな漢などを設定します。

仕事は =



<< S E T C 命 令 >>			
番号	内容	範囲	現在
0	現在値を標準値に戻す		
1	プルダウン表示	(消える..1, 残る..2)	2
2	マウスの移動速度	(遅 ← 1 ~ 10 → 速)	5
4	ブザー音	(無し..0, 有り..1)	1
5	音声ガイダンス	(しない..1, する..2)	2
6	『仕事は=』の入力モード変更	(英 数..1, 変換なし..2)	1
7	変換行での数字の変換	(しない..1, する..2)	1
9	W命令実行時のリカバリ	(しない..1, する..2)	2
10	ページの拡張	(1~3) ページ数..2	3
12	BMPファイルの表示	(1 ~ 3)	2
13	スクロールバーの表示	(しない..1, する..2)	2
14	パルーンヘルプの表示	(しない..1, する..2)	2
15	マウスモード	(M4互換..1, 標準..2)	2

何番をセットしますか (0~14) :

左の画面が表示されます。

画面の右端には、現在設定されている状態が表示されます。

変更する番号を選択して キーを押します。

- S E T C 命令を終了するときは、 キーを押します。
- S E T C 命令で設定した内容は、マイツールを終了してもそのまま残っているので、次に起動したときは、前回設定した状態で始まります。ただし、マイツールを正常に終了したときだけです。

0 現在値を標準値に戻す

入力バーに“ 何番をセットしますか (0 ~ 1 5) ”とメッセージが表示されているときに、 とキーを押すと、各項目が、標準として設定されている値に戻ります。

ただし、5番“ 音声ガイダンス ”、15番“ マウスモード ”は変更されません。

1 プルダウン表示

- 1 消える
- 2 残る

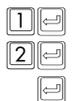
プルダウン表示 (1 ~ 2) :

メニューバーの各部分をマウスで左クリックすると、そのプルダウンメニューが表示されます。左ボタンを離すと、通常は表示中のプルダウンメニューは消えてしまいます。

左ボタンを離したとき、プルダウンメニューを残しておくか、消すかを番号で選択します。

標準値は“ 2 ”です。

- “ 消える ” にセットする。
- “ 残る ” にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆プルダウンメニューを残した場合、次の操作を行うか、 キーを押すまで、そのプルダウンメニューは表示されたまます。

2 マウスの移動速度

マウスの移動速度 (1 ~ 10) :

マウスカーソルの速度を指定します。数が小さいほど遅くなり、大きいほど速くなります。はじめは“ 5 ”にセットされています。

- 一番遅くする。
- 通常にする。
- 一番早くする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ マウスの移動速度は、Windowsのコントロールパネルにある「マウス」の“動作”でも設定できますが、マイツール側の設定が優先されます。コントロールパネルの設定を変更しても、マイツールをお使いになるとSETC命令での設定に変更されます。

4 ブザー音

- 0 無し
- 1 有り

ブザー音 (0 ~ 1) :

間違った命令や入力を行ったときに鳴る、ブザー音の有無を番号で選択します。

標準値は“ 1 ”です。

- ブザー音を鳴らさない。
- ブザー音を鳴らす。
- 現在の設定のまま変更しない。



5 音声ガイダンス

- 1 しない
- 2 する

音声ガイダンス (1 ~ 2) :

機能実行時に処理内容を音声で説明する音声ガイダンスを、使用するかどうかを番号で選択します。

はじめは“ 1 ”に設定されています。

- 音声ガイダンスを使う。
- 音声ガイダンスを使わない。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ 音声ガイダンスを使うには、お使いのパソコンにサウンドカードが装着されている必要があります。
- ◆ 音声ガイダンスされる機能は、おもにクイックメニューから実行する機能です。すべての機能で音声ガイダンスされるわけではありません。

6 『仕事は=』の入力モード変更

- 1 英数
- 2 変更なし

『仕事は=』の入力モード (1 ~ 2) :

命令実行中に設定した入力モード(ひらがな、カタカナなど)を、“仕事は=”の状態に戻ったときに、自動的に英数モードに変更するか、変更しないかを、番号で選択します。

- モードを英数に変える。
- そのままにしておく。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ SETC命令の6番を変更すると、SET命令の6番も変更されます。どちらも新しく設定した内容にしたがいます。

7 変換行での数字の変換

- 1 しない
- 2 する

変換行での数字の変換 (1 ~ 2) :

数字を入力したときに、直接入力バーに表示するか、入力した数字を変換行に表示して、変換ができるようにするかを番号で選択します。

標準値は“ 1 ”です。

- “ しない ” にセットする。
- “ する ” にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



9 W命令実行時のリカバリ

- 1 しない
- 2 する

W命令実行時のリカバリ (1 ~ 2) :

たとえば、画面のデータを1ページにW命令で書き込んだ場合、1ページにあった内容は画面のデータに書き変わります。RV命令でも元に戻すことはできません。ここで、“ する ” を設定すれば、誤ってW命令でデータを書き換えてしまっても、RV命令で表示できます。

標準値は“ 2 ”です。

- “ しない ” にセットする。
- “ する ” にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ “ する ” にセットしても、W命令実行直後にRV命令を行わなければ、もとのデータは表示できません。
- ◆ ページ拡張時、またはRC命令でページをつないでいる場合は、書き込み先頭ページだけをリカバリします。2ページ目以降はリカバリできません。
- ◆ “ する ” にセットした場合、W命令の実行時間が1.5倍ほど長くなります。

10 ページの拡張

- 1 固定
- 2 拡張
- 3 指定拡張

ページの拡張 (1 ~ 3) :

マイツールの1ページは、基本的に170桁×50行となっていますが、そのページサイズを超えて使うことができます。通常は、“ 1 固定 ” (170桁×50行) に設定されています。

“ 2 拡張 ” にすると3ページ分までの大きさを1ページとして扱えます。3ページ以上に設定する場合は“ 3 指定拡張 ” を選択してページ数を指定します。

標準値は“ 1 ”です。

- “ 固定 ” にセットする。
- “ 拡張 ” にセットする。
- ページ数を指定して“ 拡張 ” にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



【 “ 3 指定拡張 ” を選択した場合 】

現在の指定拡張ページ数は○ページです

指定拡張 (1 ~ 1 2 0) :

何ページまで拡張するか、ページ数を指定します。最大120ページまで指定することができます。

標準値は“ 1 ”です。

- 10ページまで拡張する。
- 120ページまで拡張する。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ “2・拡張” に設定すると、“3・指定拡張” のページ数が3ページに設定されます。
- ◆ ページ拡張設定後にF命令で作られる表は、指定されたページ数分を1ページとして扱えるようになります。ただし拡張されたページを書き込むときには、データを書き込むだけの複数ページが必要となります。複数ページに分れたページを再び1ページとして扱うにはRC命令でページをつなげます。
- ◆ WFL命令を使えば、2ページ以上に拡張されたページを、つながった状態のまま書き込むことができます。
- ◆ 拡張されたページのデータ数の最大は、32000行です。したがってデータの行数によって、実際に拡張できる最大ページ数が異なります。

12 BMPファイルの表示

1 2

- 1 しない
- 2 カラー
- 3 モノクロ

BMPファイルの表示(1~3):

表や文書内など、ページに取り込まれているBMPファイル名の、画像を表示するかどうか、また、カラーで表示するかモノクロで表示するかを番号で選択します。

標準値は“2”です。

- 画像を表示しない。
- 画像をカラーで表示する。
- 画像をモノクロで表示する。
- 現在の設定のまま変更しない。



13 スクロールバーの表示

1 3

- 1 しない
- 2 する

スクロールバーの表示(1~2):

マイツールウィンドウの右側に表示されている垂直スクロールバーと、下側に表示されている水平スクロールバーを表示するかどうかを、番号で選択します。

標準値は“2”です。

- スクロールバーを表示しない。
- スクロールバーを表示する。
- 現在の設定のまま変更しない。



14 バルーンヘルプの表示

1 4

- 1 しない
- 2 する

バルーンヘルプの表示(1~2):

ツールバーの各ボタンにマウスカーソルを合わせたときに、バルーンヘルプを表示するかどうかを、番号で選択します。

標準値は“2”です。

- バルーンヘルプを表示しない。
- バルーンヘルプを表示する。
- 現在の設定のまま変更しない。



15 マウスモード

1 5

- 1 M4互換
- 2 標準

マウスモード(1~2):

マウスを使ってクイックメニューを表示したり、範囲を指定してからツールバーのボタンで処理するなど、オブジェクト指向オペレーションをするかどうかを、番号で選択します。

標準値は“2”です。

- M4互換にする(オブジェクト指向オペレーションをしない)。
- オブジェクト指向オペレーションにする。
- 現在の設定のまま変更しない。



- お使いになっているキーボードのタイプの設定や、かな漢などの設定を行います。

実行前の確認

- SET.....ページの大きさやモードなどを設定します。
- SETD...マウスの移動速度やブザー音などを設定します。

仕事は =



<< S E T D 命 令 >>			
番号	内容	範囲	現在
1	キーボードの種類	(1~2)	2
2	文字入力確定方法	(1~2)	2
3	画面背景色	(1~2)	1
4	画面背景色白の時の輝度	(1~5)	1
5	文字設定	(1~2)	1

SETD何番をセットしますか (1~5) :

左の画面が表示されます。

画面の右端には、現在設定されている状態が表示されます。

変更する番号を選択して キーを押します。

- SETD命令を終了するときは、 キーを押します。
- SETD命令で設定した内容は、マイツールを終了してもそのまま残っているので、次に起動したときは、前回設定した状態で始まります。ただし、マイツールを正常に終了したときだけです。

1 キーボードの種類

- コンパクトキーボード
- その他のキーボード

キーボードの種類は (1 ~ 2) :

お使いのパソコンの、キーボードの種類を番号で選択します。

- “コンパクトキーボード” にセットする。
- “その他のキーボード” にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ キーボードの設定は、セットアップのときに指定しますので、設定が正しければ変更する必要はありません。

2 文字入力確定方法

- 実行キーで入力
- 実行キーで確定

文字確定入力方法は (1 ~ 2) :

文字入力時の確定方法を、番号で選択します。

- “実行キーで入力” にセットする。
- “実行キーで確定” にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ “文字入力確定方法” は、Windows の日本語入力システムに「日本語自動変換システム」をお使いの場合のみ表示され、設定することができます。
- ◆ “1..実行キーで入力” を選択すると、キーボードから文字を入力した（文字を変換した）後に キーを押すと、ただちにその内容を実行（もしくは入力）します。“2..実行キーで確定” を選択すると、文字を入力をした後に キーを押すと、一度入力バーに取り込まれます。

3 画面背景色

- 背景黒（標準）
- 背景白

画面背景色は (1 ~ 2) :

画面の背景色を、番号で選択します。

- “背景黒（標準）” にセットする。
- “背景白” にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ “2…背景白” に設定すると、SET命令、SETP命令、COLOR命令での“黒”は“白”として扱われます。
- ◆ F行の色はSET命令の5番“ケイ線の色”で変更してください。作成済みの表でF行の色を変更する場合は、SET命令の5番“ケイ線の色”で変更した後、CPS命令またはCPSL命令で変更できます。
- ◆ 背景色を白に設定したときの白の明るさを“4 画面背景色白の時の輝度”で設定できます。

4 画面背景色白の時の輝度

白の輝度（1～5）：

背景色を白に設定したときの白の輝度（明るさ）を設定します。

1～5までの5段階で設定できます。“1”が最も明るく、“5”が最も暗くなります。

- “1”にセットする。
- “5”にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ ここでの設定は、“3 画面背景色”で“2…背景白”が選択されているときに有効です。

5 文字設定

- 1 マイツール標準
- 2 Windows 標準

文字の設定は（1～2）：

キーボードから長音やマイナス記号を入力したとき、データとして処理する文字を設定します。

- “マイツール標準”にセットする。
- “Windows 標準”にセットする。
- 現在の設定のまま変更しない。



INFORMATION

- ◆ “1…マイツール標準”に設定すると、マイツールの標準文字設定になります。
- ◆ “2…Windows 標準”に設定すると、長音やマイナス記号をそのまま入力・表示・出力します。ただし、この場合従来のマイツールとの互換がなくなります。
- ◆ 入力した文字とデータとして入力される文字の関係は下の表のようになります。

No.	入力文字	名称	全角・半角	設定	データ	画面表示	印刷時	出力時 ^{注1}	解析時 ^{注2}
①	-	長音	全角	マイツール標準	②に変換		②に変換 ^{注3}	④に変換	⑥として処理
				Windows 標準					
②		記号長	全角	マイツール標準	入力した文字		入力した文字 ^{注3}	④に変換	⑥として処理
				Windows 標準				入力した文字	
③		記号短 (ハイフン)	全角	マイツール標準	入力した文字				
				Windows 標準					
④	-	マイナス	全角	マイツール標準	②に変換		②に変換 ^{注3}	④に変換	⑥として処理
				Windows 標準	入力した文字	入力した文字 ^{注3}	入力した文字		
⑤	-	長音	半角	マイツール標準	⑥に変換		⑥に変換 ^{注4}	⑥に変換	⑥として処理
				Windows 標準	入力した文字				
⑥	-	マイナス	半角	マイツール標準	入力した文字		入力した文字 ^{注4}	入力した文字	
				Windows 標準					
SHU命令で置換した場合				マイツール標準	そのまま	そのまま	注3、4	そのまま	注5
				Windows 標準	そのまま	そのまま	注3、4	そのまま	注5

※ 注1：SPUT、CPUT、MCOPY命令などでの出力時です。

※ 注2：計算式中のマイナス記号やページや列指定時のハイフンの処理です。

⑤として処理されるとエラーになります。

※ 注3：前の文字が全角ひらがな、全角カタカナの場合、全角長音（-）で印字されます。

※ 注4：前の文字が半角カタカナの場合、半角長音（-）で印字されます。

※ 注5：Windows 標準になります。

プルダウンメニューの内容を変更する

- プルダウンメニューの内容を変更して登録できます。

類似命令

- CMD...命令を登録します。
- BTN...命令などを登録したボタンを表示する。

仕事は =



- 1 仕事は = のメニュー
- 2 命令中のメニュー
- 3 C 命令中のメニュー

登録するのは (1 ~ 3) :

登録するページは [画面] :

変更して登録するプルダウンメニューの種類を、番号で選択します。

- “仕事は = ” のときのプルダウンメニューを登録する。

1 (または)

- 命令実行中のプルダウンメニューを登録する。

2

- C 命令中のプルダウンメニューを登録する。

3

変更したプルダウンメニューの書き込まれているページを指定します。

- 10 ページのメニューを登録する。

10

- 画面に表示しているメニューを登録する。

INFORMATION

- ◆ プルダウンメニューの の部分は変更できません。
- ◆ SYS/1、SYS/2、SYS/3の各ページの表フォーマットは、基本的に変更できません。ただし、“登録命令”の列と“命令”の列が対になっていれば、追加したり削除したりできます。また、データ行数を18行以上にすることはできません。
- ◆ “登録命令”のデータを修正する際に、データの最後に“&”をつけておけば、マウスで指定するとすぐに実行します。“&”を付けないと、データが入力行に表示されるだけです。
- ◆ SYS/1ページの表題を変えて書き込み直すと、“仕事は =”のメッセージを変更することができます。
- ◆ メニューバーの項目（[基本]など）を変更・追加する場合、メニューバーの1行を超えて指定することはできません（あまり長い項目名にしたり、項目数を増やしすぎたりはできません）。
- ◆ プルダウンメニューで表示させる文字に、マイツール外字以外の外字、および115区以降の外字を使用すると、正しく表示されません。

SETP

Set Page Attribute (セット ページ アトリビュート)

画面に固定する行や列、またはデータに付ける色を設定する

- 指定した行や列を、画面上で動かないように固定することができます。
- 指定した行や列、またはセルの色を変更します。

類似命令

- SHU...データを検索して、条件に合うデータを書きかえます。

仕事は =



- 1 行の固定
- 2 列の固定
- 3 色の指定

設定するのは (1 ~ 3) :

設定する内容を、番号で選択します。

- 画面に行を固定する。
- 画面に列を固定する。
- データに色を付ける。



【行の固定を選んだ場合】

何行目まで固定しますか
(1 ~ , [解除]) :

何行目まで固定するか指定します。

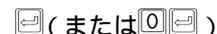
- 5 行目までを画面に固定する。



単独指定が可能です。

最高 20 行まで固定できます。最終使用行数が 20 以下の場合、最終使用行を除く行数まで固定できます。

- 行の固定を解除する。



【列の固定を選んだ場合】

何列目まで固定しますか
(1 ~ , [解除]) :

何列目まで固定するか指定します。

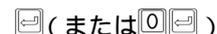
- 2 列目までを画面に固定する。



単独指定が可能です。

最高で画面内に表示される最終使用列を除く列数まで固定できます (ただし、各列の合計が 70 桁までです)。

- 列の固定を解除する。



【色の指定を選んだ場合】

何行目に色を付けますか :

色を付ける行の、行番号を指定します。

- すべてのデータ行を指定する。



- すべての行を指定する。



(ただし、次に行う列指定でキー以外を指定した場合、行範囲は項目行とすべてのデータ行になります。)

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

何列目に色を付けますか :

色を付ける列の、列番号を指定します。

- すべての列を指定する。



- 1 桁目から最終桁までを指定する。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

0	黒色
1	青色
2	緑色
3	水色
4	赤色
5	紫色
6	黄色
7	白色

文字の色は (0 ~ 7) :

文字に付ける色を、番号で選択します。

- 通常の白色の文字にする。
- 現在と同じ色にする。



0	黒色
1	青色
2	緑色
3	水色
4	赤色
5	紫色
6	黄色
7	白色

背景の色は (0 ~ 7) :

背景に付ける色を、番号で選択します。

- 通常の黒色の背景色にする。
- 現在と同じ色にする。



INFORMATION

- ◆ 行を固定すると、表を上下にスクロールしても、固定した行はいつも画面に表示されています。
- ◆ 列を固定すると、表を左右にスクロールしても、固定した列はいつも画面に表示されています。
- ◆ 大きな表の場合、項目行や項目の列などを固定して見ると便利です。
- ◆ ED命令中は、固定行・固定列は削除されます。
- ◆ 行や列の固定を外すときは、行・列指定のときに、キーまたは0（ゼロ）を入力します。
- ◆ ケイ線の色は、この命令では変更できません。SET命令を使ってください（ただし、ケイ線の背景色はSET命令でも変更することはできません）。
- ◆ 条件に合うデータの色を変える場合は、SHU命令を使います。

例題

60 ページ「得意先名簿」の3列目まで、画面に固定します。

R : 60回

SET P回

2回.....列を固定する。

3回.....3列目までを画面に固定する。

マウスや  キーを使って、列が固定されていることを確認してください。

実行前

60	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿]			95.04.01	混	L=0057	C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
8	103	1995.0315	伊藤テック(株)	営業部営業一課	係長	江口 かなな	106
9	104	1995.0315	伊藤テック(株)	テック心部		佐藤 博子	106
10	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107
11	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
13	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部	課長	新藤 悟	106
14	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
15	110	1995.0415	伊藤テック(株)	テック心部		猫柳 史子	106
16	111	1995.0415	伊藤テック(株)	営業部営業一課	課長	江口 かなな	106
17	112	1995.0415	伊藤テック(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106
18	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106
19	114	1995.0412	ｼﾌﾞﾙ2001	開発部	部長	佐藤 春男	150
20	115	1995.0412	ｼﾌﾞﾙ2001	開発部	係長	海野 広子	150
21							

実行後

60	1	2	3	8	9	10
1	[得意先名簿]					
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14					
3						
4	NO	登録日	会社名	住所1	住所2	TEL
5						
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野	都渋谷区広尾4-1-26	ﾄﾍﾞｲﾝﾌ	03-3000-4694
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	都渋谷区広尾4-1-26	ﾄﾍﾞｲﾝﾌ	03-3000-4694
8	103	1995.0315	伊藤テック(株)	都港区麻布台1-5-25	ｲﾃｸﾞﾙ	03-3000-7892
9	104	1995.0315	伊藤テック(株)	都港区麻布台1-5-25	ｲﾃｸﾞﾙ	03-3000-7892
10	105	1995.0310	(有)上越工務店	黒区大岡山3-1-105		03-3001-1807
11	106	1995.0310	(有)上越工務店	黒区大岡山3-1-105		03-3001-1807
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	黒区大岡山3-1-105		03-3001-1807
13	108	1995.0320	(株)TO商会	都台東区上野2-8-8	ﾄﾞｲﾝﾌ	03-3000-2145
14	109	1995.0320	(株)TO商会	都台東区上野2-8-8	ﾄﾞｲﾝﾌ	03-3000-2145
15	110	1995.0415	伊藤テック(株)	都港区麻布台1-5-25	ｲﾃｸﾞﾙ	03-3000-7892
16	111	1995.0415	伊藤テック(株)	都港区麻布台1-5-25	ｲﾃｸﾞﾙ	03-3000-7892
17	112	1995.0415	伊藤テック(株)	都港区麻布台1-5-25	ｲﾃｸﾞﾙ	03-3000-7892
18	113	1995.0421	(株)TO商会	都台東区上野2-8-8	ﾄﾞｲﾝﾌ	03-3000-2145
19	114	1995.0412	ｼﾌﾞﾙ2001	谷渋谷2-9-11-901	第一森沢ﾋﾙ	03-3000-9925
20	115	1995.0412	ｼﾌﾞﾙ2001	谷渋谷2-9-11-901	第一森沢ﾋﾙ	03-3000-9925
21						

画面を右方向へスクロールしても、3列目までは固定して表示されます。

フォーマット行やデータ行を変更する

- 画面のフォーマット行やデータ行、また最終行を変更します。
- ED命令で作った文書を、表データに変更したいときなどにも使用します。

仕事は =



- 1 フォーマット行
- 2 計算開始行
- 3 計算終了行
- 4 最終使用行

変更するのは (1 ~ 4) :

変更する内容を、番号で選択します。
変更が終わったら **エスケープ** キーを押して終了します。

- フォーマット行を変更する。
- データ行の先頭を変更する。
- データ行の最後を変更する。
- ページ内で使っている行の最後を変更する。



【 “ 1 フォーマット行 ” を選んだ場合】

フォーマット行は :

フォーマット行にする、行の番号を指定します。
指定が終わると **↑** 戻ります。

- 12行目をフォーマット行にする。
単独指定が可能です。



【 “ 2 計算開始行 ” を選んだ場合】

計算開始行は :

先頭データ行にする、行の番号を指定します。
指定が終わると **↑** 戻ります。

- 16行目を計算開始行にする。
単独指定が可能です。



【 “ 3 計算終了行 ” を選んだ場合】

計算終了行は :

最終データ行にする、行の番号を指定します。
指定が終わると **↑** 戻ります。

- 20行目を計算終了行にする。
単独指定が可能です。



【 “ 4 最終使用行 ” を選んだ場合】

最終使用行は :

最終使用行にする、行の番号を指定します。
指定が終わると **↑** 戻ります。

- 40行目を最終使用行にする。
単独指定が可能です。



最終使用行を指定すると、指定した行から次の行以降のデータがすべて削除されます。SETX命令終了後は、通常どおりデータを入力することができます。



Scarnner Format (スキャナー フォーマット)

スキャナーで、データをイメージとして取り込む

- スキャナーを使って文字や絵などを読み込み、マイツールの表にイメージデータとして取り込みます。



- SF 命令を実行するには、TWA I N対応のスキャナーが必要となります。

実行前の確認

ださい。

- SF 命令を実行するには、あらかじめ S F E 命令で作った S F デザインページが必要になります。また、S F デザインページに合わせたデータページもあらかじめ作成しておいてく

仕事は =



デザインページは [裏画面 ↵] :

デザインページのあるページを指定します。

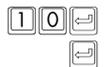
- 5 ページのデザインページを指定する。
- 裏画面のデザインページを指定する。
単独指定、表題指定、ワイルド指定が可能です。



書き込みページは [画面 ↵] :

読み取った結果を書き込む、先頭ページを指定します。

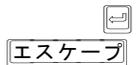
- 10 ページのデータページから書き込む。
- 画面のデータページを指定する。
単独指定、表題指定、ワイルド指定が可能です。



スキャナーの準備はよろしいですか

スキャナーの準備を確認して、よければ キーを押します。

- 読み取りを開始する。
- 中止する。
スキャナーの準備ができていない場合、「準備ができていません」とメッセージが表示されます。スキャナーが正しく接続されているかなどを確認してから、もう一度やり直してください。

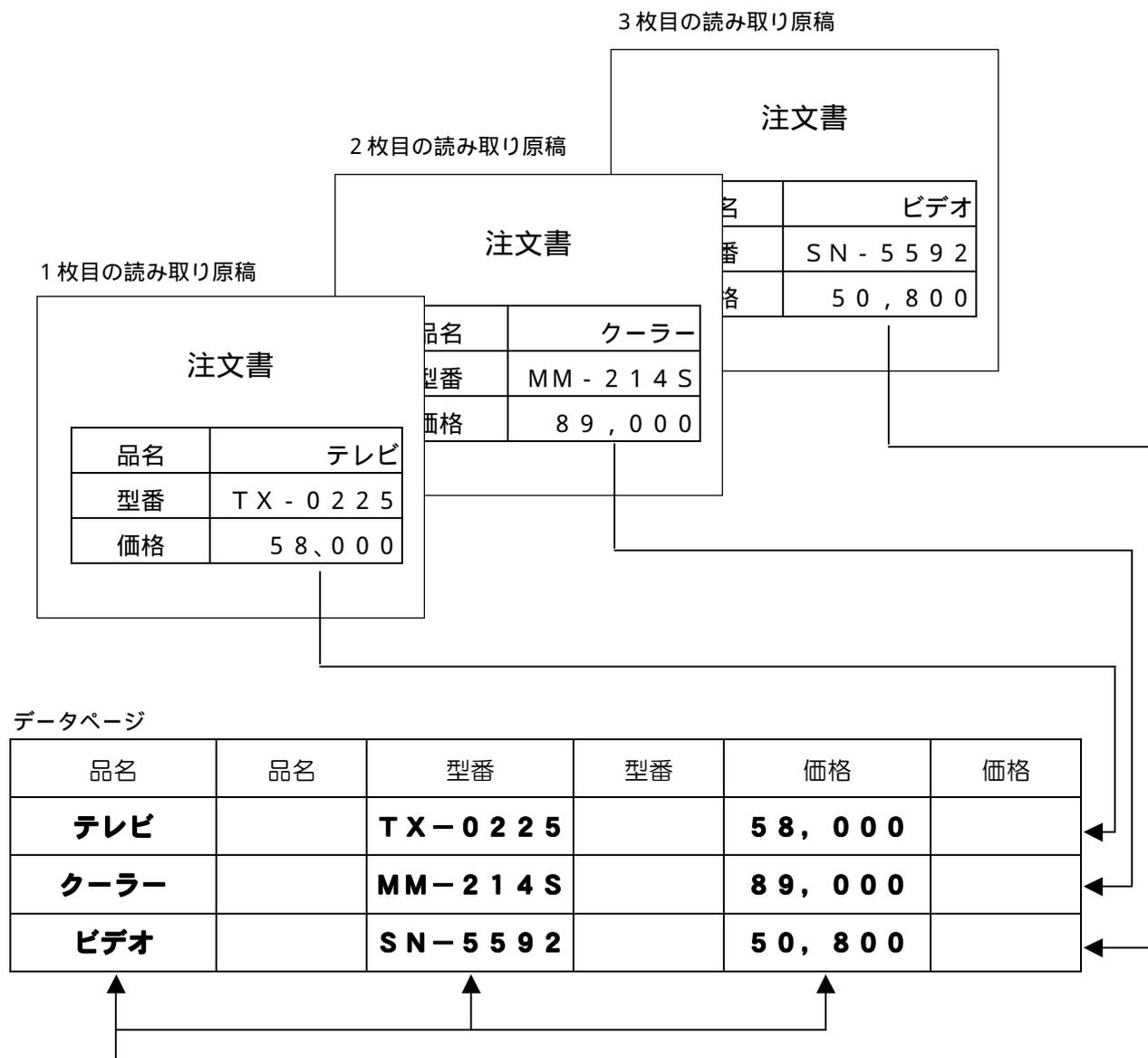


INFORMATION

- ◆ SF 命令は、スキャナーで原稿から写真や文字を読み取り、表の中に取り込みます。取り込まれたものは BMP 形式のイメージデータなので、読み取ったものが文字の場合、そのままではデータとして意味はありません。その後の加工として OCR 命令を使えば、文字イメージのデータを表データとして変換することができます。

S F命令のデータの流れ

S F命令では、次のように読み取ったイメージデータを表に取り込みます。



取り込まれたデータは、イメージデータ、そこでOCR命令を実行します。

OCR命令を実行すると

データページ

品名	品名	型番	型番	価格	価格
テレビ	テレビ	TX-0225	TX-0225	58,000	58,000
クーラー	クーラー	MM-214S	MM-214S	89,000	89,000
ビデオ	ビデオ	SN-5592	SN-5592	50,800	50,800

文字データとして変換されます。

スキャナーフォーマットページを作成する

- S F E 命令を実行する際に必要な、スキャナーフォーマットページを作成します。
- 実際に読み取る原稿をレイアウト画面で見ながら、読み取る部分の指定や各種設定を行うことができます。

重要

- S F E 命令を実行するには、T W A I N 対応のスキャナーが必要となります。

実行前の確認

- お使いのパソコンに、T W A I N 対応のスキャナーが正しく接続されていることを確認してください。

仕事は =



デザインページは [新規作成 ↵]

すでにあるデザインページを修正する場合は、デザインページのページ数を指定します。

新しくデザインページを作成する場合は キーのみを押します。

- 50 ページのデザインページを修正する。
- 新しくデザインページを作成する。

単独、表題指定、ワイルド指定が可能です。

【 “ 新規作成 ” を選んだ場合 】

表題を付けてください :

デザインページに付ける表題 (タイトル) を指定します。表題は全角文字で 15 字、半角文字で 30 文字で付けられます。

キーのみを押すと “ S P デザインページ ” という表題が付けられます。

- “ 案内状デザインページ ” と表題を付ける。案内状デザインページ
- “ S F デザインページ ” と表題を付ける。



“ スキャナーパラメータ設定 ” ウィンドウが表示されます。スキャナーで原稿を読み取る前に、原稿サイズなどを設定します。

“ スキャナーパラメータ設定 ” ウィンドウの各項目で次の設定を行うことができます。

原稿の種類.....読み取る原稿の大きさを設定します。 をマウスで左クリックすると左側に一覧が表示されますので、用紙の大きさを選択してください。設定できる大きさは A 6、A 5、A 4、B 5、B 6、FREE、HAGAKI (普通ハガキ)、HAGAKI 2 (往復ハガキ) です。“FREE” を指定すると、自由に大きさを指定することができます。下の入力欄に入力してください。

原稿サイズ.....「原稿種類」で設定した用紙の実際の大きさが表示されます。「原稿種類」で “FREE” を選択した場合は、自由な数値を入力することができます。ただし、スキャナーで読み取れるサイズ以上の大きさを指定しても無視されます。

原稿起点.....原稿の読み取り開始位置を設定します。 をマウスで左クリックすると左側に一覧が表示されますので、起点を選択してください。右下、右上、左下、左上を選択できます。

原稿の向き.....読み取る原稿の縦横の向きを設定します。

“スキャナパラメータ設定”ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。

- [読取実行]設定を完了して、スキャナから読み取りを開始できる状態にします。
- [標準設定]各項目の設定値を標準値に戻します。
- [エスケープ]S F E命令を中止して“仕事は=”の状態に戻ります。
- [?]ヘルプを表示します。

“スキャナパラメータ設定”ウィンドウで[読取実行]ボタンを左クリックすると、次のメッセージが表示されます。

原稿を読み取ります。原稿をセットしてください[OK ↵] :

を押すと、読み取りを開始します。

[エスケープ] キーを押すとS F E命令を中止して、“仕事は=”の状態に戻ります。

モノトーン(100dpi)、等倍で読み取ります。

スキャナに原稿をセットしてキー

原稿の読み取りが正常に終了すると、“項目設定”ウィンドウが開き、ウィンドウ内には読み取った原稿の画像が表示されます。

以後、各種ウィンドウを開いて必要な設定を行っていきます。

次の手順でデザインページを完成させていきます。

1. “項目設定”ウィンドウで、読み取り項目の位置、大きさを設定します。
2. “項目位置”ウィンドウで、各項目の基本設定を行います。
3. “各種設定”ウィンドウで、各項目の詳細設定を行います。

以上の操作が終わったら、デザインページを書き込むページを指定して終了です。

1. “項目設定”ウィンドウでの設定



“項目設定”ウィンドウでは、S F 命令実行時に読み取る各データをそれぞれ読み取り項目として、原稿サイズ内での位置と大きさを設定します。

左の画面は、例として③で「原稿種類」を“A5”、「原稿の向き」を“横”に設定して、FAX注文票を読み取った場合です。

“項目設定”ウィンドウの大きさは、「原稿種類」の大きさと、「原稿の向き」の設定により変わります。

“項目設定”ウィンドウが表示されたら、マウスを使って読み取り項目の位置と大きさを設定します。



項目の位置と領域の大きさの指定は、マウスで行います。

領域は、左上から右下、右上から左下というように、四角形の対角をマウスで左ドラッグして指定します。

項目指定後は、項目内でマウスの右クリックを行うとその項目に対する“項目位置”ウィンドウが表示され、各種設定を行うことができます。

一度設定した領域の右下の角にマウスカーソルを合わせて左ドラッグすれば、領域の大きさを変更することができます。

また、領域内にマウスカーソルを合わせて左ドラッグすれば、領域を移動することができます。

“項目設定”ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。

- [登録] S F E命令を終了し、設定した内容をページを指定して書き込むことができます。
- [エスケープ] S F E命令を中止して、“仕事は=”の状態に戻ります。
- [全面指定] 原稿全面を項目の領域として指定します。

“項目設定”ウィンドウで読み取り項目の位置と領域の大きさを設定したら、“項目位置”ウィンドウを開いて、設定を行います。

設定する読み取り項目の領域内にマウスカーソルを合わせて左クリックすると、“項目位置”ウィンドウが表示されます。

2. “項目位置”ウィンドウでの設定



“項目位置”ウィンドウでは、P F G命令実行時に印刷する各データをそれぞれ項目として、デザイン領域内での位置と大きさを設定します。

“項目位置”ウィンドウの各項目で次の設定を行うことができます。

項目位置.....読み取り項目の位置を設定します。「縦」で読み取り原稿サイズ上部からの位置を、「横」で左側からの位置を設定します。

項目サイズ.....読み取り項目の大きさを、縦横の長さで設定します。

代入する列.....S F命令を実行したときに、選択されている読み取り項目のデータを、データページのどの列に入力するかを設定します。

「仕上げ寸法」には、選択されている読み取り項目内の総ドット数が表示されます。

「総文字数」には、選択されている読み取り項目で読み取り可能な文字数（あくまで目安です）が表示されます。

“項目設定”ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。

- [登録] 設定を一時登録し“項目設定”ウィンドウに戻ります。
- [各種指定] 各読み取り項目に対する、さらに詳しい設定を行います。
- [エスケープ] 新たに設定した内容を取り消して、“項目設定”ウィンドウに戻ります。
- [?] ヘルプを表示します。
- [削除] 設定中の項目を削除して、“項目設定”ウィンドウに戻ります。

各項目に関するより詳細な設定は、“各種設定”のウィンドウで行います。

[各種指定] ボタンにマウスカーソルを合わせて左クリックすると、“各種設定”ウィンドウが表示されます。

3. “各種設定” ウィンドウでの設定



“各種設定” ウィンドウでは、“項目位置” ウィンドウで設定した各項目に対する各種設定を行います。

“各種設定” ウィンドウの各項目で次の設定を行うことができます。

DPI (ドット/インチ) ...データ読み取り時の解像度を設定します。1～1400dpi の範囲で設定できます。

倍率 (%)データ読み取り時の倍率を設定します。1～100%の範囲で設定できます。

タイプ.....データ読み取り時の画像タイプを設定します。をマウスで左クリックすると左側に一覧が表示されますので、画像タイプを選択してください。設定できる画像タイプはフルカラー、グレースケール、モノトーンです。読み取る原稿に合わせて設定してください。

明るさ (%)データ読み取り時の明るさの補正度数を設定します。-100～100%の範囲で設定できます。“0”が標準で、マイナス値が高いほど暗く、プラス値が高いほど明るく補正されます。

項目名.....読み取り項目に名前を付けることができます。項目名を付けておけば、作成後のSFデザインページで各項目を判別しやすくなります。

角度.....データ読み取り時の角度を設定します。0° 45° 90° 270° が設定できる角度です。

“各種設定” ウィンドウに表示されている各ボタンの機能は、次のようになります。

[標準値]各項目の設定値を標準値に戻します。

[登録]設定を一時登録し“項目位置” ウィンドウに戻ります。

[範囲指定] “項目位置” ウィンドウに戻ります。

[項目削除]設定中の項目を削除して、“項目位置” ウィンドウに戻ります。

[?]ヘルプを表示します。

すべての読み取り項目の設定が終わったら、“項目設定” ウィンドウまで戻り、[登録] ボタンをマウスで左クリックします。画面にSFデザインページが作成され、次のメッセージが表示されます。

何ページに書き込みますか：

デザインページを書き込むページ番号を指定します。

- 5ページに書き込む。

書き込み先の確認はなく、ただちに書き込まれます。

単独指定が可能です。



INFORMATION

- ◆ SF命令を使って実際に読み取れるのは、スキャナーの性能による最大サイズまでです。したがって“スキャナーパラメータ設定” ウィンドウで「原稿の種類」をそれより大きく設定しても、スキャナーの最大読み取りサイズ以上は読み取ることはできません。
- ◆ “項目位置” ウィンドウで「代入する列」を指定しなかった場合（スペース）、SF命令で実際に読み取ったデータは、BMPファイルとしてマイツールをインストールしたディレクトリに保存されますが、データページには書き込まれません。
- ◆ “各種設定” ウィンドウで“フルカラー”やDPIを500以上に設定した場合、読み取り速度が遅くなります。SF命令では、指定した項目をひとつずつスキャンしていきます。

S F E命令の実行例

次のようなF A X注文票をスキャナーで読み取って、表ヘイメージデータを取り込むためのS Fデザインページの作成方法を順を追って説明します。

F A X 注文票

品 名

発注者住所

発注者 TEL

発注者氏名

[F A X注文票データページ]		95.04.01	混	L=0050	C=0170
F=1,14,1,12,1,12,1,12,1					
品名	発注者住所	発注者TEL	発注者氏名		

書き込み先にするデータページ

F A X 注文票

S F E ④

④.....新しくデザインページを作成する。

F A X注文票デザインページ④.....デザインページの表題を“ F A X注文票デザインページ ”と付ける。

“ スキャナーパラメータ設定 ” で次のように設定します。

SFE:スキャナ読取のための設定を行います

原稿種類: 原稿起点:

原稿サイズ:

(縦) mm 原稿の向き: (縦) (横)

(横) mm

「原稿種類」を“ A 5 ”にする。

「原稿の向き」を“ 横 ”にする。

設定が終わったら、[読取実行] ボタンをマウスで左クリックします。

スキャナーの準備ができていることを確認し、読み取る原稿をセットして、 キーを押します。

読み取りが終了し、“ 項目設定 ” ウィンドウが表示されたら、次のように設定します。

SFE:項目位置を指定してください

F A X 注文票

品 名

発注者住所

発注者 TEL

発注者氏名

読み取り項目の領域を設定します。

“ 品名 ” “ 発注者住所 ” “ 発注者 TEL ” “ 発注者氏名 ”
それぞれ
の右側の記入欄に合わせて、読み取り項目を設定します。

マウスを使って読み取り項目とする範囲の、左上の部分
から
右下の部分までを左ドラッグします。

読み取り項目の位置と大きさを設定し終わったら、“氏名”の右側に作った項目の中でマウスを右クリックし、“項目位置”ウィンドウを表示します。

“氏名”はデータページの2列目に入れるので、「代入する列」に“2”と入力します。

終わったら[各種指定]ボタンを左クリックします。

“各種指定”ウィンドウが表示されます。

文字を取り込むので「タイプ」を“モノトーン”に設定し、「項目名」にデータページの項目名と同じ“品名”と入力する。

終わったら[登録]ボタンを左クリックします。

“項目設定”ウィンドウに戻ります。

“発注者住所”の右側に設定した項目の中にマウスカーソルを合わせ右クリックします。

“項目位置”ウィンドウが表示されます。

後は ~ と同様の操作で、それぞれを以下のように設定します。

- “発注者住所”の右側の項目は、「代入する列」を“4”、「タイプ」を“モノトーン”、「項目名」を“発注者住所”と設定します。
- “発注者TEL”の右側の項目は、「代入する列」を“6”、「タイプ」を“モノトーン”、「項目名」を“発注者TEL”と設定します。
- “発注者氏名”の右側の項目は、「代入する列」を“8”、「タイプ」を“モノトーン”、「項目名」を“発注者氏名”と設定します。

すべての項目の設定が終わったら、“項目設定” ウィンドウで [登録] ボタンを左クリックします。



画面に作成された S F デザインページが表示されます。書き込み先のページ数を指定して、デザインページを保存します。

以上で S F E 命令を終了しました。

[FAX注文票デザインページ] 95.04.01 混 L=0059 C=0140
 **SF
 F=1,20,1,8,1,8,1,8,1,8,1,4,1,6,1,6,1,8,1,6,1,6,1,6,1,4,1

項目名	X	Y	Xサイズ	Yサイズ	倍率	タイ°	DPI	仕上寸法	文字数	明るさ	代入列	角度
品名	69.0	46.0	127.0	14.0	100	2	300	21000	148	0	1	0
発注者住所	69.0	68.0	127.0	12.0	100	2	300	18000	127	0	4	0
発注者TEL	69.0	89.0	127.0	14.0	100	2	300	21000	148	0	3	0
発注者氏名	69.0	110.0	127.0	15.0	100	2	300	22500	158	0	4	0



一度作成した S F デザインページの修正は、S F E 命令でページ数を指定して行いますが、E L ・ E C 命令などの入力系命令や、E D 命令などで直接ページを修正することも可能です。

他のファイルをマイツールデータに変換する

- 他の形式で作成したファイルを読み込み、マイツールのデータとして、指定したページに書き込むことができます。

仕事は =



ドライブを指定しない場合はドライブ【A】から読み込みます

入力ファイルのファイル名は：

変換するファイル名を入力します。

ファイル名は、主ファイル名と、ピリオド (.) と、拡張子からなります。

《例》 NEWFILE.DAT など
8文字以内 ピリオド 拡張子

ドライブA以外から読み込む場合は、ドライブ名とコロンをつけて、ダブルコーテーションで囲んでください。

また、ディレクトリも指定する場合は、ディレクトリ名、ファイル名の前に“¥”を付けます。

《例》 “C:NEWFILE.DAT”

“C:¥DATA¥README.TXT” など

英数、カタカナなど、全角・半角の両方を持つ文字は、全角文字で入力しても半角文字として処理されますので、ファイル名にこれらの文字を全角で使用しているファイルは読み込めません。

- 1 マイツール形式
- 2 一般データ (可変長)
- 3 一般データ (固定長)
- 5 カンマ区切りデータ
- 7 文書データ (可変長)
- 12 一般データ (可変長) 追加形式
- 13 一般データ (固定長) 追加形式
- 15 カンマ区切りデータ 追加形式

入力ファイルの形式は：

変換するファイルのファイル形式を、番号で選択します。ファイル形式については、次ページ「入力ファイル形式について」をご覧ください。

フォーマットの文は (F = n , n , ~ の形で) :

で“2”、“3”、“5”を選択した場合のみ、マイツールデータにするときのフォーマット文を入力します。フォーマット文を入れずに キーを押すと列がないものとみなします。

③で“1”、“7”、“12”、“13”、“15”を選択した場合は、この操作はありません。

1行の長さは (~ 900) :

画面に表示される () 内の範囲で、桁数を指定します。

キーを押すと、自動的に最小値をとります。

“12”、“13”、“15”の形式の場合は、この操作はありません。

ページ内の予備行数は (0 ~) :

入力ファイルがマイツールの1ページ内に収まらない場合、ここで指定した行数分だけ空けて、次のページから続けて書き込みを行います。

キーを押すと、“0”を指定したことになります。

書き込み先頭ページは [画面] :

変換したファイルを書き込む、先頭ページ番号を指定します。

ここから変換が始まります。

キーを押すと一時停止します。 キーを押すと再開、もう一度 キーを押すと中止します。

入カファイル形式について

1…マイツール形式

データボックスなどで出力したのから表を作ります。

《例》

1	F=10, 5… (OD) 16 (OA) 16	←フォーマット行 (半角大文字)
2	品名, 単価, … (OD) 16 (OA) 16	←項目行
3	りんご, 200, 50, …	
	⋮	
	⋮	データ行
	⋮	
n	バナナ, 300… (OD) 16 (OA) 16 (1A) 16	

各データの間はカンマ “,” (2C) 16 で区切ってください。

★変換後は、すべて混在モードになります。

2…一般データ (可変長)

読み込んだデータを計算開始行からマイツールデータにします。

《例》

1	りんご 200… (OD) 16 (OA) 16
2	みかん 150… (OD) 16 (OA) 16
	⋮
	⋮
	⋮
n	バナナ 300… (OD) 16 (OA) 16 (1A) 16

ファイルのデータは元のままの形式で書き込みます。

★1レコードは (OD) 16 (OA) 16 で終わってください。

★終了は (1A) 16 で終わってください。

★変換後は、すべて混在モードになります。

3…一般データ (固定長)

読み込んだデータを計算開始行からマイツールデータにします。

★固定長タイプを選択すると、F文の有無によって1行の長さが変わります。

- ・ F文を指定した場合……列数の合計
- ・ F文を指定しない場合……ページの横のサイズ

★SGE T命令終了時に、エラー番号 12のエラーメッセージが表示されることがあります。その場合は、最後のページを書き込んでいないので、確認のうえ、W命令で書き込んでください。

★変換後は、すべて混在モードになります。

5…カンマ区切りデータ

読み込んだデータを計算開始行からマイツールデータにします。

★カンマ区切りデータとはCSV形式のデータのことです。データベースソフトのデータファイルをマイツールデータに変換するときに指定してください。

《例》

```
1 りんご, 200 (OD) 16 (OA) 16
2 みかん, 150 (OD) 16 (OA) 16
  :
  :
  :
n バナナ, 300, ... (OD) 16 (OA) 16 (1A) 16
```

ファイルのデータは元のままの形式で書き込みます。

- ★1レコードは (OD) 16 (OA) 16 で終わってください。
- ★終了は (1A) 16 で終わってください。
- ★変換後は、すべて混在モードになります。各データの間はカンマ “,” (2C) 16 で区切ってください。
- ★データにカンマ “,” (2C) 16 が含まれる場合は、ダブルコーテーション (“) (22) 16 で囲んでください。

7..文書データ (可変長)

《例》)

```
1 SGET 他のファイルを～ (OD) 16 (OA) 16
2 ・他の形式で作成した～ (OD) 16 (OA) 16
  :
  :
  :
n 行います。 (OD) 16 (OA) 16 (1A) 16
```

- ★1レコードは (OD) 16 (OA) 16 で終わってください。
- ★終了は (1A) 16 で終わってください。
- ★変換後は、すべて混在モードになります。
- ★読み込んだデータを2行目からマイルデータにします。

```
1 [XXXXXXXXXX] 92.12.01 混L=
2 SGET 他のファイルを～
3 ・他の形式で作成した～
  :
  :
  :
n 行います。
```

12..一般データ (可変長) 追加形式

読み込んだデータを、書き込みページのフォーマットにしたがって追加します。

- ★1レコードは (OD) 16 (OA) 16 で終わってください。
- ★終了は (1A) 16 で終わってください。
- ★フォーマット文の入力はありません。
- ★1行の長さの入力はありません。
- ★計算終了行の後から追加します。ページがいっぱいの場合、次のページから続けて書き込みます。
- ★漢字モードの場合、処理できません。

13・・・一般データ（固定長）追加形式

読み込んだデータを、書き込みページのフォーマットにしたがって追加します。

- ★固定タイプを選択すると、F文の有無によって1行の長さが変わります。
 - ・F文がある場合……列桁の合計
 - ・F文がない場合……ページの横のサイズ
- ★SGE T命令終了時に、エラー番号 12 のエラーメッセージが表示されることがあります。その場合は、最後のページを書き込んでいないので、確認のうえ、W命令で書き込んでください。
- ★フォーマット文の入力はありません。
- ★1行の長さの入力はありません。
- ★計算終了行の後から追加します。ページがいっぱいの場合、続けて次のページから書き込みます。
- ★漢字モードの場合、処理できません。

15・・・カンマ区切りデータ追加形式

読み込んだデータを、書き込みページのフォーマットにしたがって追加します。

- ★1レコードは（OD）16（OA）16で終わってください。
- ★終了は（1A）で終わってください。
- ★フォーマット文の入力はありません。
- ★1行の長さの入力はありません。
- ★計算終了行の後から追加します。ページがいっぱいの場合、次のページから続けて書き込みます。
- ★漢字モードの場合、処理できません。

データを検索する

- 指定した条件に合うデータだけを、行単位・列単位・ブロック単位で探し出すこと（検索）ができます。また、検索する件数を指定することもできます。

実行前の確認

- 検索を終了すると、元の表は裏画面に残ります。また、複数ページの検索を行ったときは、その最終ページだけが裏画面に残ります。
- 複数ページを検索する場合、先頭ページの桁数に合わせるので、桁数からはみ出したデータは削られます。
- 先頭ページが混在モードの場合は、検索ページ中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、検索ページ中に混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- SHD...データを検索して元データから削除します。
- SHG...キーページに合わせて検索します。
- SHU...データを検索して書きかえます。
- DSH...重複しているデータを検索します。

仕事は =



検索するページは [画面] :

検索するページを指定します。

- 画面のデータだけを検索する。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1 番目の検索条件式は [終了] :

検索する条件を指定します。

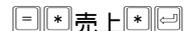
- 1 列目で “売上” というデータの行を探す。
- 2 列目で、100 より大きいデータがある行を探す。



- 3 列目の最小値の行を探す。



- 列に関係なく、“売上” という文字がある行を探す。



- 1 列目で、文字の色が “赤” で、背景色が “白” のデータがある行を探す。



- 検索する件数を 1 件にする。



件数指定について、詳しくは次ページをご覧ください。

2 番目の検索条件式は [終了] :

他の検索条件を指定します。

- 3 列目の中で、1 から 100 までのデータがある行を探す。



- 検索条件の指定を終わる。

検索条件は 5 つまで指定できます。

検索したデータをどうするのか指定します。

- 10 ページから書き込む。



- 印刷する。



- 画面に表示する。



検索条件式で最小値または最大値を指定した場合、1 ページ分しか書き込みません。また、“P” を指定しても画面に表示した分だけを印刷します。

INFORMATION

- ◆ 検索条件式は、半角文字で 100 文字、全角文字で 50 文字以内で指定してください。

- ◆ 複数ページの検索中、**エスケープ** キーを押すと一時停止します。**戻る** キーを押すと再開、もう一度**エスケープ** キーを押すと中止します。

ワイルド指定

複数ページの表題指定や、検索関係の条件式に使用します。データの一部だけ指定して、その文字（文字列）を含むすべてのデータを検索することができます。「*」は文字数に関係なく検索、「?」は1文字分として検索します。

指定方法	意味	例
売上*	売上で始まるすべてのデータ	売上表、売上データ、売上
*売上	売上で終わるすべてのデータ	2月売上、自動車売上、売上
売上	売上という文字を含むすべてのデータ	2月売上表、売上伝票、売上
売上?	売上の後ろに、1文字何かあるデータ	売上表
??売上	売上の前に、2文字何かあるデータ	2月売上、現金売上
*売上?	売上の後ろに、1文字付くすべてのデータ	2月売上表、売上比
?	?を含むすべてのデータ	
***	*を含むすべてのデータ	

3つの検索方法

SH命令の検索では、「行単位の検索」「列単位の検索」「ブロック検索」の3つの検索を行うことができます。

★5つまでの検索条件で、「行単位の検索」「列単位の検索」「ブロック検索」の3つの指定を混ぜて指定することはできません。

《行単位の検索》

条件に合うものが含まれる行を、選び出します。
次の例題を参照してください。

例題 14ページ「住所録」のデータから、住所が東京都の人を検索します。

R : 14回

SH回

回.....画面のデータを検索する。

C 3 = 東京 * 回.....住所が“東京”で始まる人を検索する（ワイルド検索）。

回.....検索条件式の指定を終了する。

回.....結果を画面に書き込む。

実行前

14	1	2	3	4
1	[住所録]		95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=10,12,28,24			
3				
4	名前	〒	住所	TEL
5				
6	井口 康	102	東京都千代田区麹町2-2	03-5000-0000
7	大井 治世	252	神奈川県藤沢市藤沢34-2	046-600-1111
8	小野 岩男	338	埼玉県浦和市大谷口1009	048-800-1029
9	藤田 昭子	433	静岡県浜松市幸福1-2-5	053-000-0000
10	清水 春江	272-01	千葉県市川市行徳901-2	047-300-5697
11	須佐 秀彦	930-13	富山県下川郡小山市700	076-000-0000
12	鈴木 紘一	784	高知県安芸市津津000	08873-0-0000
13	鈴木 時夫	151	東京都渋谷区永福1-23	03-3000-6919
14	須田 雅一	343	埼玉県越谷市大林385-6	048-900-8754
15	森 隆宏	259-12	神奈川県平塚市平塚12-9	046-300-5478
16	山田 和子	107	東京都港区青山1-15-5	03-3000-0000
17				
18				
19				
20				
21				
	仕事は=			

実行後

0	1	2	3	4
1	[住所録]		95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=10,12,28,24			
3				
4	名前	〒	住所	TEL
5				
6	井口 康	102	東京都千代田区麹町2-2	03-5000-0000
7	鈴木 時夫	151	東京都渋谷区永福1-23	03-3000-6919
8	山田 和子	107	東京都港区青山1-15-5	03-3000-0000
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
	仕事は=			

《列単位の検索》

条件に合うものが含まれる列を、選び出します。
次の例題を参照してください。

例題

37 ページ「営業所別上半期売上比較」のデータから、E 営業所の売上が 100,000 以上の月を検索します。

R : 37回

S H回

画面のデータを検索する。

L 10 > 100000回..... E 営業所の売上が、100,000 以上の列 (月) を検索します。

検索条件式の指定を終了する。

結果を画面に書き込む。

実行前

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
A 営業所	76,000	82,000	84,000	91,000	98,000	112,000
B 営業所	329,000	334,000	325,000	341,000	346,000	367,000
C 営業所	148,000	157,000	167,000	155,000	164,000	172,000
D 営業所	230,000	235,000	220,000	202,000	194,000	232,000
E 営業所	72,000	78,000	84,000	102,000	135,000	153,000
F 営業所	121,000	132,000	118,000	102,000	98,000	131,000
G 営業所	88,000	95,000	97,000	106,000	91,000	110,000

実行後

月	7月	8月	9月
A 営業所	91,000	98,000	112,000
B 営業所	341,000	346,000	367,000
C 営業所	155,000	164,000	172,000
D 営業所	202,000	194,000	232,000
E 営業所	102,000	135,000	153,000
F 営業所	102,000	98,000	131,000
G 営業所	106,000	91,000	110,000

《ブロック単位の検索》

条件に合うデータを含むブロックを、選び出します。
ブロック指定の場合は、条件の前に“ B ”をつけます。次の例題を参照してください。

ブロックの作り方

ブロック検索をする前に、まずブロック分けしなければなりません。各ブロックは、横ケイ線で分けます。たとえば、52 ページ「得意先名簿」の表を取引先別でブロック分けするなら、S 命令で取引先名で並べかえ、取引先ごとに横ケイ線を引きます。実際のブロック分けは次の例題を参照してください。

横ケイ線はDRL 命令、もしくはACMC 命令で引きます。

1 列目の 1 桁目に横ケイ線または交点があれば、それをブロックのマークとみなします。

ブロック分け実行前

NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
101	1995.0305	(株)TUBE森野	代表取締役	森野 裕二	150	
102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長 駒形 勝也	150	
103	1995.0315	伊藤サウ(株)	テマ心部	佐藤 博子	106	
104	1995.0415	伊藤サウ(株)	テマ心部	猫柳 史子	106	
105	1995.0415	伊藤サウ(株)	営業部営業一課	課長 江口 かんな	106	
106	1995.0415	伊藤サウ(株)	製造部	係長 伊藤 高志	106	
107	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長 踊場 二郎	107	
108	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任 吉野 友子	107	
109	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任 林 礼子	107	
110	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任 豊田 秀雄	106	
111	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長 新藤 悟	106	
112	1995.0412	シチズン2001	開発部	部長 佐藤 春男	150	

ブロック分け実行後

111	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長	新藤 悟	106
110	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106
102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
101	1995.0305	(株)TUBE森野	代表取締役	森野 裕二	150	
12	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任	吉野 友子	107
13	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長	踊場 二郎	107
14	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107
106	1995.0415	伊藤サウ(株)	製造部	係長	伊藤 高志	106
105	1995.0415	伊藤サウ(株)	営業部営業一課	課長	江口 かんな	106
103	1995.0315	伊藤サウ(株)	テマ心部	佐藤 博子	106	
104	1995.0415	伊藤サウ(株)	テマ心部	猫柳 史子	106	
112	1995.0412	シチズン2001	開発部	部長	佐藤 春男	150

例題

52 ページ「得意先名簿」のデータをブロック分けし、登録日が 1995 年 4 月 1 日以降のデータを含むブロックを検索します。

R : 52回

検索の前にデータを得意先ごとに並べかえ、ケイ線を引いてブロック分けしておきます。

S 回

- 回.....画面のデータを並べかえる。
- 3 回.....1 番目のキー列には、3 列目（会社名）を指定する。
- 1 回.....並べ方は文字正順を指定する。
- 6 回.....2 番目のキー列には、6 列目（氏名）を指定する。
- 1 回.....並べ方は文字正順を指定する。
- 回.....キー列の指定を終了する。
- 回.....結果を画面に書き込む。

A C M C 回

- 回.....画面のデータを計算する。
- 3 回.....1 番目のキー列には、3 列目（会社名）を指定する。
- 回.....キー列の指定を終了する。
- 回.....計算場所は指定しない。
- L 回.....キーごとにケイ線行を挿入する。
- 回.....結果を画面に書き込む。

S H 命令でブロック検索を行います。

S H 回

- 回.....画面のデータを検索する。
- B C 2 > = 1995.0401 回... 2 列目（登録日）が、1995.0401（1995 年 4 月 1 日）以降のデータを検索します。
- 回.....検索条件式の指定を終了する。
- 回.....結果を画面に書き込む。

実行前

52	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿]						
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野	代表取締役	森野 裕二	150	
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長 駒形 勝也	150	
8	103	1995.0315	伊藤テサ心(株)	テサ心部	佐藤 博子	106	
9	104	1995.0415	伊藤テサ心(株)	テサ心部	猫柳 史子	106	
10	105	1995.0415	伊藤テサ心(株)	営業部営業一課	課長江口 かんた	106	
11	106	1995.0415	伊藤テサ心(株)	製造部	係長 伊藤 高志	106	
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	部長 踏場 二郎	107	
13	108	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部	主任 吉野 友子	107	
14	109	1995.0310	(有)上越工務店	経理部	主任 林 礼子	107	
15	110	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任 豊田 秀雄	106	
16	111	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長 新藤 悟	106	
17	112	1995.0412	ｼﾌﾌﾙ2001	開発部	部長 佐藤 春男	150	
18							
19							
20							
21							
≡仕事は≡							

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿]						
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	111	1995.0421	(株)TO商会	営業部	部長 新藤 悟	106	
7	110	1995.0320	(株)TO商会	業務部	主任 豊田 秀雄	106	
8							
9	106	1995.0415	伊藤テサ心(株)	製造部	係長 伊藤 高志	106	
10	105	1995.0415	伊藤テサ心(株)	営業部営業一課	課長江口 かんた	106	
11	103	1995.0315	伊藤テサ心(株)	テサ心部	佐藤 博子	106	
12	104	1995.0415	伊藤テサ心(株)	テサ心部	猫柳 史子	106	
13							
14	112	1995.0412	ｼﾌﾌﾙ2001	開発部	部長 佐藤 春男	150	
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
≡仕事は≡							

条件の指定方法

ここでは、行単位の検索方法を例にとって説明していますが、列単位・ブロック単位も同様に指定することができます。

条件の指定方法	例
<p>列挙指定 指定したデータを選ぶ</p> <p>C列番号=データ</p> <p>C列番号=データ, データ, データ</p> <p>C列番号=C列番号</p> <p>データは数値、文字を混合してもかまいません。</p> <p>データは20個まで指定できます。</p>	<p>C1=15 (1列目が15のものを選ぶ)</p> <p>C2=りんご, みかん, バナナ</p> <p>(2列目が、りんごかみかんかバナナのものを選ぶ)</p> <p>C1=C2 (1列目と2列目の内容が等しいものを選ぶ)</p> <p>注: NOT指定と列挙指定は、同時に指定できません。</p>
<p>範囲指定 指定範囲内の数値を選ぶ</p> <p>C列番号 #下限-上限</p> <p>C列番号 #下限-上限, 下限-上限</p> <p>範囲は10組まで指定できます。</p> <p>最小値をS、最大値をLで表せます。</p>	<p>C2#1-99 (2列目が1以上99以下のものを選ぶ)</p> <p>C3#1-10, 100-200</p> <p>(3列目が1以上10以下、または100以上200以下のものを選ぶ)</p> <p>C4#S-50 (4列目が50以下のものを選ぶ)</p>
<p>大小指定 数値の大小を比較して選ぶ</p> <p>C列番号 比較演算子 データ</p> <p>C列番号 比較演算子 C列番号</p> <p>比較演算子 データ</p> <p>比較演算子 C列番号</p> <p>比較演算子</p> <p>>より大きい、<より小さい</p> <p>>=以上、<=以下</p> <p>数値以外のデータは文字コードで比較します。</p>	<p>C3<100 (3列目が100未満のものを選ぶ)</p> <p>C3<=100 (3列目が100以下のものを選ぶ)</p> <p>C1>C2 (1列目の数値が2列目より大きいものを選ぶ)</p> <p>C3>=C4 (3列目の数値が4列目以上のものを選ぶ)</p> <p>>50 (50より大きいものを選ぶ)</p> <p>>C1 (1列目の数値より大きいものを選ぶ)</p>
<p>NOT指定 指定したデータ以外のものを選ぶ</p> <p>C列番号<>データ</p> <p>C列番号<>C列番号</p>	<p>C4<>0 (4列目が0以外のものを選ぶ)</p> <p>C1<>C2 (1列目と2列目が異なるものを選ぶ)</p>
<p>OR指定 指定した条件のどれか1個以上合うものを選ぶ</p> <p>条件式!条件式</p> <p>条件式を“!”でつないでOR (または) 条件にします。</p> <p>条件は20個までです。</p>	<p>C2=1, 2, 3!C3>5!5=東京, 大阪, 広島</p> <p>(2列目が1、2、3のものか、3列目が5より大きいものか、5列目が東京、大阪、広島であるものを選ぶ)</p>
<p>文字検索 指定した文字を含むものを選ぶ</p> <p>C列番号=*文字列*</p> <p>=*文字列*</p>	<p>C1=売上*</p> <p>(1列目に、“売上”で始まる文字があるものを選ぶ)</p> <p>C2=*売上*</p> <p>(2列目で、“売上”という文字が入っているものを選ぶ)</p> <p>=*売上*またはC=*売上*</p> <p>(“売上”という文字が入っているものを選ぶ)</p>
<p>文字検索 ページ内のすべての文字について、指定した文字を含む行を選ぶ</p> <p>S=*文字列*</p> <p>ED命令で作成した、フォーマット行のないページの検索は、この指定方法を使います。</p> <p>フォーマット行のある行の場合、隣の列にまたがっているデータでも検索します。</p>	<p>S=売上</p> <p>(ページ内全部から、“売上”という文字だけの行を選ぶ)</p> <p>売上という文字を含む行の検索は、S=*売上*です。</p> <p>特殊文字を検索する場合は、ダブルコーテーション(”)で囲んでください。(S=“*!*”など)</p> <p>注: フォーマット行のないページの検索は、文字検索しかできません。</p>

条件の指定方法	例
<p>カラー検索 文字や背景の色から選ぶ</p> <p>C列番号=#文字の色, 背景色 C列番号=#文字の色 C列番号=#, 背景色</p> <p>SETP・SHU命令などで色をつけたデータを検索するには、この指定方法を使います。 文字の色、背景色の色は漢字1文字で指定します。 注 水色は“水”と指定してください。</p>	<p>C1=#白, 赤 (1列目で文字の色が赤、背景色が白のデータを選ぶ)</p> <p>C2=#青 (2列目で文字の色が青のデータを選ぶ)</p> <p>CT=#, 水 (最終列で背景色が水色のデータを選ぶ)</p>
<p>最小値・最大値 最小値・最大値を選ぶ (SH命令のみ)</p> <p>C列番号#S C列番号#L</p> <p>数値以外のデータは検索できません。 注: 検索中の画面のスクロールはしません。 検索指定は、無視されます。 ブロック検索時には、最小値・最大値の指定はできません。また、最小値と最大値を同時に指定することもできません。</p>	<p>C1#S (1列目の最小値のものを選ぶ)</p> <p>C2#L (2列目の最大値のものを選ぶ)</p> <p>最小値・最大値の指定では、検索条件の順番によって結果が異なる場合があります。</p> <p>C1#S C2=東京 (最小値の中の東京を検索する) C1#S (東京の中の最小値を検索する)</p>

INFORMATION

- ◆ 検索する文字列中にダブルコーテーション (") があるときは、前後に中カッコ ({ }) をつけてください。
- ◆ 《例》 “A” という文字を検索するときに、 { " A" } のように指定します。

SH命令とSHD命令の違い

- SH命令.....条件に合うデータを選び出して新しい表を作りますが、元の表はそのままの状態が残ります。
- SHD命令...条件に合うデータを元の表から削除します。
抜き出した条件に合うデータと、残ったデータとで2つの表を作ることができます。

データを検索して、元データから抜き出す

- 指定した条件に合うものだけを、行単位および列単位で探し出すこと（検索）ができます。また、ブロック単位で探し出すこともできます。SH命令と違うのは、選んだ必要なデータと残ったデータとで、新しい2つの表を作ることです。

実行前の確認

- “検索するページは:”のメッセージでページ指定を行うと、指定したページのデータは書きかえられてしまいます。いったん書きかえが行われると、データの修復はできません。ページ指定は、書きかえられてもかまわないデータかどうかを確認してから行ってください。

類似命令

- SH.....データを検索します。
- SHG...キーページに合わせて検索します。
- SHU...データを検索して書きかえます。
- DSH...重複しているデータを検索します。

仕事は =



検索するページは [画面] :

検索するページを指定します。

- 画面のデータだけを検索する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。ページを指定すると、指定したページのデータは書きかえられます。ご注意ください。

1番目の検索条件式は [終了] :

検索する条件を指定します。

- 1列目で、“売上”というデータ行を探す。
- 2列目で、100より大きいデータがある行を探す。
- 列に関係なく、“売上”という文字がある行を探す。
- 条件を指定しない。

2番目の検索条件式は [終了] :

他の検索条件を指定します。条件がなければ、キーを押します。

- 3列目の中で、1から100までのデータがある行を探す。
- 検索条件の指定を終わる。
- 検索条件は5つまで指定できます。
- 条件の指定方法は、SH命令の表をご覧ください。

結果の書き込み先頭ページは [印刷 P, 画面] :

検索したデータをどうするか、指定します。結果の書き込みページを指定した場合、検索したページと同じページ数を指定ページから書き込みます。

- 10ページから書き込む。
- 印刷する。
- 画面に表示する。
- 複数ページの検索を行ったときに“画面”を選んだ場合、その最終のデータだけを画面に表示します。

INFORMATION

- ◆ 条件の指定方法は、SH命令の表をご覧ください。列検索・ブロック検索については、SH命令と同様です。
- ◆ 最小値・最大値の指定はできません。

- ◆ 条件に合うデータ（元表から削除したデータ）は必ず画面に表示されます。それ以外のデータは裏画面に残ります。また、複数ページ検索を行った場合は、その最終ページだけが裏画面に残ります。

- ◆ 複数ページの検索中、キーを押すと一時停止します。停止中にキーを押すと再開します。もう一度キーを押すと中止します。

例題

14 ページ「住所録」のデータから、住所が東京都の人を削除します。

R : 14回

S H D回

回.....画面のデータを検索する。

C 3 = 東京 * 回.....住所が “ 東京 ” で始まる人を削除する (ワイルド検索) 。

回.....検索条件式の指定を終了する。

回.....結果を画面に書き込む。

おもて画面には削除されたデータが書き込まれ、裏画面には削除後の元データが書き込まれます。X 命令などで確認してください。

ここでは画面のデータを指定していますが、検索するページを指定すれば、指定したページから検索条件にあうデータは削除され、削除したデータが画面に書き込まれます。

実行前

14	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[住所録]			95.04.01	混	L=0050	C=0170			
2	F=10,12,28,24									
3										
4	名前	〒	住所	TEL						
5										
6	井口 康	102	東京都千代田区麹町2-2	03-5000-0000						
7	大井 治世	252	神奈川県藤沢市藤沢34-2	046-600-1111						
8	小野 岩男	338	埼玉県浦和市大谷口1009	048-800-1029						
9	兼田 昭子	433	静岡県浜松市幸福1-2-5	053-000-0000						
10	清水 春江	272-01	千葉県市川市行徳901-2	047-300-5697						
11	須佐 秀彦	930-13	富山県下大川郡小山市700	076-000-0000						
12	鈴木 純一	784	高知県安芸市津津000	08873-0-0000						
13	鈴木 時夫	151	東京都渋谷区永福1-2-3	03-3000-6919						
14	須田 雅一	343	埼玉県越谷市大林385-6	048-900-8754						
15	森 隆宏	259-12	神奈川県平塚市平塚12-9	046-300-5478						
16	山田 和子	107	東京都港区青山1-15-5	03-3000-0000						
17										
18										
19										
20										
21										
	仕事は=									

実行後

61	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0150	C=0100	
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額		
5										
6	950407 10007 101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000		
7	950428 10039 101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000		
8	950410 10009 102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000		
9	950410 10009 102	(有)上越工務店	1006	フチ	A	100	1000	80,000		
10	950418 10028 102	(有)上越工務店	1014	フチ	C	500	300	150,000		
11	950418 10028 102	(有)上越工務店	1012	フチ	B	300	250	75,000		
12	950421 10031 103	シガタ2001	1013	両面テープ	B	200	800	160,000		
13	950427 10037 104	シガタ2001	1025	平行定規	F	50	600	30,000		
14	950420 10030 105	伊藤がサ心(株)	1006	フチ	A	200	1000	160,000		
15	950428 10038 105	伊藤がサ心(株)	1006	フチ	A	100	1000	80,000		
16	950404 10004 106	伊藤がサ心(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000		
17	950423 10032 106	伊藤がサ心(株)	1006	フチ	A	100	1000	80,000		
18	950403 10001 107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000		
19	950403 10001 107	(株)神崎建設	1005	A4用紙	A	300	360	108,000		
20	950403 10001 107	(株)神崎建設	1010	透明ホット	A	200	500	100,000		
21	950407 10008 107	(株)神崎建設	1007	書類カズ	A	300	1200	360,000		
	仕事は=									

裏画面に残るデータ

14	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[住所録]			95.04.01	混	L=0050	C=0170			
2	F=10,12,28,24									
3										
4	名前	〒	住所	TEL						
5										
6	大井 治世	252	神奈川県藤沢市藤沢34-2	046-600-1111						
7	小野 岩男	338	埼玉県浦和市大谷口1009	048-800-1029						
8	兼田 昭子	433	静岡県浜松市幸福1-2-5	053-000-0000						
9	清水 春江	272-01	千葉県市川市行徳901-2	047-300-5697						
10	須佐 秀彦	930-13	富山県下大川郡小山市700	076-000-0000						
11	鈴木 純一	784	高知県安芸市津津000	08873-0-0000						
12	須田 雅一	343	埼玉県越谷市大林385-6	048-900-8754						
13	森 隆宏	259-12	神奈川県平塚市平塚12-9	046-300-5478						
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
	仕事は=									

SH命令とSHD命令の違い

SH命令.....条件に合うデータを選び出して新しい表を作りますが、元の表はそのままの状態が残ります。

SHD命令...条件に合うデータを元の表から削除します。

抜き出した条件に合うデータと、残ったデータとで2つの表を作ることができます。

キーページに合わせて検索整理する

- あらかじめ用意したキーページのキーと一致するデータを検索し、キーページの並び方に合わせてデータを整理します。

重要

- SHG命令を実行すると、サブページのデータを消去します。必要なデータがある場合は、他のファイルやフロッピーへコピーしてください。

実行前の確認

- あらかじめキーページを用意しておきます。
- 異なるフォーマットの複数ページを検索整理した場合、先頭ページの桁数にそろえられます。

類似命令

- SH.....データを検索します。
- SHD...データを検索して元データから削除します。
- SHU...データを検索して書きかえます。
- DSH...重複しているデータを検索します。

仕事は =



検索するページは [画面] :

検索するページを指定します。

- 画面のデータだけを検索する。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

キーページは :

何ページの表に合わせて検索、整理するか、そのページ番号を指定します。

- 10ページに入っている表に合わせて。

単独指定が可能です。

指定したキーページの、1列目に合わせて整理します。キーページの1列目には、縦ケイ線を引かないようにしましょう。

画面のキー列は :

整理する表(画面に出ています)の何列目を、キーページの1列目に合わせるか指定します。

- 画面の1列目を、キーページの1列目に合わせる。

単独指定が可能です。

結果の書き込み先頭ページは
[印刷 P, サブページ] :

検索、整理したデータをどうするか、指定します。

- 11ページから書き込む。

- 印刷する。

- サブページに書き込む。

サブページに書き込む場合は、ページ番号で指定できません。サブの1ページから書き込まれます。キーを押して書き込んでください。

【結果の出力先にページ番号を入れた場合】

キーが変わるたびにページを変えますか? [Y/N] :

キーが変わるたびにページを変えるか、変えないか、指定します。

- キーが変わるたびに、ページを変えて書き込む。

- ページを変えないで、結果を指定ページから書き込む。

N (または)

INFORMATION

- ◆ SHG命令は、たとえば講演の出席者を「名簿の役職順」にまとめたり、売上げを「曜日別」に整理したり、固定資産の計算などに使うと便利です。
- ◆ キーページとして使えるのは1ページだけです。キーページの1列目を基準にするので、縦ケイ線は引かないでください。
- ◆ 結果の出力先に「印刷」を選んだ場合、キーごとにページを分けることはできません。

- ◆ キーページにないデータは検索されません。
- ◆ キーページに、ケイ線やブランク（空白）だけの行がある場合にも検索します。
- ◆ 検索した結果が、サブページのページ数を超える場合、検索整理はできません。

例題

8ページ「売上帳」のデータを、得意先コードで整理します。

R : 8回

SHG回

回.....画面のデータを検索する。

24回.....24ページ「得意先名簿」をキーページに指定する。

3回.....画面の3列目をキー列に指定する。

回.....結果をサブファイルに書き込む。

実行前

8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混		L=0078	C=0100
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	118,000
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハインター	A	300	360	108,000
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明*ケット	A	200	500	100,000
9	950403	10002	112	鈴木工務店	1030	ル*ペ	F	2000	500	1,000,000
10	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1010	透明*ケット	A	250	500	125,000
11	950403	10003	118	(有)紅梅物産	1002	A3用紙	A	600	620	372,000
12	950404	10004	106	伊藤*サイン(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000
13	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	ファル	A	250	800	200,000
14	950405	10005	118	(有)紅梅物産	1006	ファル	A	200	800	160,000
15	950406	10006	125	井上*アル(株)	1015	鉛筆削り	C	100	1100	110,000
16	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
17	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類*ス	A	300	1200	360,000
18	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
19	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファル	A	100	800	80,000
20	950410	10010	119	(株)マ*カフ	1003	B5用紙	A	1000	480	480,000
21	950411	10011	122	(株)イ*ライ	1005	ハインター	A	100	360	36,000

実行後

8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混		L=0078	C=0100
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
7	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
8	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
9	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファル	A	100	800	80,000
10	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ナイフ	C	500	300	150,000
11	950418	10028	102	(有)上越工務店	1012	セテ*フ	B	300	250	75,000
12	950421	10031	103	システム2001	1013	両面*フ	B	200	800	160,000
13	950427	10037	104	システム2001	1025	平行定規	F	50	600	30,000
14	950420	10030	105	伊藤*サイン(株)	1006	ファル	A	200	800	160,000
15	950428	10038	105	伊藤*サイン(株)	1006	ファル	A	100	800	80,000
16	950404	10004	106	伊藤*サイン(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000
17	950423	10032	106	伊藤*サイン(株)	1006	ファル	A	100	800	80,000
18	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	118,000
19	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハインター	A	300	360	108,000
20	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明*ケット	A	200	500	100,000
21	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類*ス	A	300	1200	360,000

キーページとなる「得意先名簿」

24	1	2	3	4	5	6	7
1	[得意先名簿]				95.04.01	混	L=0057 C=0144
2	F=3,10,15,16,11,11,6,30,12,14,14						
3							
4	NO	登録日	会社名	所属	役職	氏名	〒
5							
6	101	1995.0305	(株)TUBE森野		代表取締役	森野 裕二	150
7	102	1995.0305	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150
8	103	1995.0315	伊藤*サイン(株)	営業部営業一課		係長江口 かん	106
9	104	1995.0315	伊藤*サイン(株)	テ*心部		部長 佐藤 博子	106
10	105	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部		部長 踊場 二郎	107
11	106	1995.0310	(有)上越工務店	開発設計部		主任 吉野 友子	107
12	107	1995.0310	(有)上越工務店	経理部		主任 林 礼子	107
13	108	1995.0320	(株)TO商会	営業部		課長 新藤 悟	106
14	109	1995.0320	(株)TO商会	業務部		主任 豊田 秀雄	106
15	110	1995.0415	伊藤*サイン(株)	テ*心部		猫柳 史子	106
16	111	1995.0415	伊藤*サイン(株)	営業部営業一課		課長江口 かん	106
17	112	1995.0415	伊藤*サイン(株)	製造部		係長 伊藤 高志	106
18	113	1995.0421	(株)TO商会	営業部		部長 新藤 悟	106
19	114	1995.0412	システム2001	開発部		部長 佐藤 春男	150
20	115	1995.0412	システム2001	開発部		係長 海野 広子	150
21							

表題をグループに分ける

- ページ番号や表題などでタイトル一覧を検索し、グループ化します。
- グループは4つまで分けることができます。

実行前の確認

- Sファイル、およびV型ファイルのタイトルはグループ化できません。
- インデックス型ファイルのページは、グループ化できません。

仕事は =

ページ番号か、=表題、グループ番号で
選んでください

グループ化するページは :

タイトル一覧が表示されます。[↑][↓]キーで画面を動かしながらグループ化するページを確認し、ページ番号か、表題を指定します。

- 2ページから5ページまでの表題を、グループ化する。 [2][5]
- ドライブAにセットされているデータフロッピーの表題を検索しグループ化する。 [A]
- すでにグループ番号1にグループ化されているページを、指定する。 [G][1]
- 売上という文字を含むすべての表題を、グループ化する(ワイルド指定)。
単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
表題の検索方法には、ワイルド指定(“?”や“*”)が使えます。

ページ番号か、=表題、グループ番号で
選んでください

グループ化するページは[終了 ↵] :

他にも、同じグループにするページがあれば、と同様に指定します。指定を終了する場合は、[↵]キーを押します。

- グループ化のページ指定を終わる。 [↵]
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

グループ番号は [1 , 2 , 3 , 4] :

指定したページをどのグループにするか、番号で選択します。

- 1 (G 1) のグループにする。 [1]

グループ名をつけてください

指定したグループに付ける、グループ名を入力します。また、すでに指定してあるグループ分けを外したいときは、[↵]キーを押します。グループ名は、半角で4文字、全角で2文字以内でつけます。

- “売上”というグループ名をつける。 [売上]
- 前に付けたグループ名を消す。 [↵]

もう一度行いますか
[行う ↵, 終了 エスケープ] :

他にもグループ分けするか、これでグループ分けを終わるか指定します。

- 次のグループを作る。 [↵]
- この場合、②からの操作を繰り返すことができます。
- グループ分けを終わる。 [エスケープ]

INFORMATION

◆ グループ化されているタイトルのあるファイルをインデックス型に設定すると、グループ化の指定は解除されます。インデックス型を解除しても、グループ化の情報はもとに戻りません。

◆ すでにグループ化されているもの、(たとえばG1)に、新しくページを追加する場合は、“グループ化するページは:”のメッセージで、追加ページといっしょにもう一度“G1”を指定してください。“G1”を指定せずに、グループ化すると、以前“G1”にグループ化したものが消えてしまいます。

データを検索して、条件に合うデータを書きかえる

- 指定した条件に合うデータを更新することができます。
- 指定した条件に合うデータの色を変えることができます。
- データの更新は、自動でも、手作業で確認しながらでも行うことができます。
- データ中の1文字だけを、更新することができます。

実行前の確認

- “検索するページは：” のメッセージで、複数ページを指定すると、検索後、元のデータを書きかえてしまいます。書きかえてもよいデータかどうかを確認してからページを指定してください。

類似命令

- SH.....データを検索します。
- SHG...キーページに合わせて検索します。
- DSH...重複しているデータを検索します。
- SHD...データを検索して元データから削除します。

仕事は =



検索するページは [画面] :

検索するページを指定します。

- 画面のデータだけを検索する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1番目の検索条件式は [終了] :

検索する条件を指定します。

- 1列目が“売上”というデータの行を探す。
 - 2列目に、100以上のデータがある行を探す。
 - 列に関係なく、“売上”という文字がある行を探す。
 - 検索する条件は指定しない。
- 検索条件の指定方法は、SH命令をご覧ください。

2番目の検索条件式は [終了] :

他の検索条件を指定します。条件がなければキーを押します。

- 検索条件の指定を終わる。
- 検索条件は5つまで指定できます。

書きかえは一度に行いますか
[一度に Y / 一行ずつ N] :

検索したデータを一度に修正・着色するのか、一行ずつ確認しながら修正・着色するのかを指定します。

- 検索したデータを一度に修正する。
 - 一行ずつ確認しながら修正する。
- 検索条件を指定した場合は、条件にあった行のデータについて修正・着色します。指定しない場合は、すべての行について修正・着色ができます。

【Yを選んだ場合】

《データ修正》

文字の指定方法は、後述の「書きかえる列（または文字データ）の指定方法」をご覧ください。

どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能) :

検索条件に一致した行の中で修正したいデータのある列、または修正したい文字を指定します。

- 2列目を修正する。
 - “エンピツ”という文字を修正する。
 - すべての列を修正する。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

新しいデータは：

で指定した列や文字を何に書きかえるか指定します。

- “コンパス”に変える。  コンパス 
-  キーのみを押すと、指定した列や文字はスペースに変わります。

どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能)：

他に修正した列や文字があれば ~ と同様に指定します。修正の指定を終える場合は  キーを押します。

- 4列目を修正する。  
 - 修正を終わる。 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
⑥～⑦の手順を繰り返し、“データ修正”および“着色”合わせて5種類の書きかえの指定ができます。

《着色》

色の指定方法は、後述の“書きかえる列(または文字データ)の指定方法”をご覧ください。

どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能)：

検索条件の中で、色を変えたい列を指定します。

- 2列目の色を変える。  
 - すべての列の色を変える。  
 - 行の色を変える。  
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

0	黒
1	青
2	緑
3	水色
4	赤
5	紫
6	黄
7	白

文字につける色を番号で選択します。

- 普通の白色の文字にする。   (または )
- 現在と同じ色にする。  

文字の色は [白 ]：

0	黒
1	青
2	緑
3	水色
4	赤
5	紫
6	黄
7	白

背景につける色を番号で選択します。

- 普通の黒色の背景色にする。   (または )
- 現在と同じ色にする。  

背景の色は [黒 ]：

どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能)：

他に着色する列があれば ~ と同様に指定します。着色を終わる場合は  キーを押します。

- 3列目の色を変える。  
 - 修正を終わる。 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

【Nを選んだ場合】

書きかえの種類は
[置換 R , 削除 D , 変更なし S] :

検索条件に一致した行を1行ずつ青い網をかけて表示します。この行の変更の方法を指定します。

- 現在青い網のデータを修正(または色付け)する。 
- 現在青い網の1行を削除する。 
- 何もしないで、次の検索行へ移る。  (または )

《置換(データ修正)》

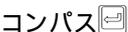
どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能) :

で“ Y ”を選んだときと同様に、修正したい列や文字データを指定します。

- 3列目を修正する。 
 - “エンピツ”という文字を修正する。  エンピツ 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

新しいデータは :

で指定した列や文字を何に書きかえるか、指定します。

- “コンパス”に変える。 

どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能) :

現在青い網がかかっている行の他の列や文字を変更する場合は、と同様に指定します。次の検索行へ移る場合は、 キーを押します。

- 4列目を修正する。 
 - 修正を終わる。 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
 キーを押さない限り、同じ行の修正を繰り返します。

《置換(着色)》

どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能) :

で“ Y ”を選んだときと同様に、色を変えたい列や文字を指定します。

- 3列目の文字に色をつける。  # 
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

0 黒
1 青
2 緑
3 水色
4 赤
5 紫
6 黄
7 白

文字に付ける色を番号で選択します。

- 普通の白色の文字にする。  (または )
- 現在と同じ色にする。 

文字の色は [白 ] :

0 黒
1 青
2 緑
3 水色
4 赤
5 紫
6 黄
7 白

背景に付ける色を番号で選択します。

- 普通の黒色の背景色にする。  (または )
- 現在と同じ色にする。 

背景の色は [黒 ] :

どの列を書きかえますか
(文字修正や着色も可能) :

や文字を変更する場合は、と同様に指定します。次の検索行へ移る場合は、キーを押します。

- 4列目を修正する。
- 修正を終わる。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
キーを押さない限り、同じ行の修正を繰り返します。

現在青い網がかかっている行の他の列

書きかえる列 (または文字データ) の指定方法

分類	指定方法	例	意味
列のデータ修正	列番号	2	2列目を変える
文字修正	\$文字列 列番号\$文字列	\$エンピツ 2\$エンピツ	エンピツという文字をすべて変える 2列目のエンピツという文字を変える
着色	# 列番号#	# 3#	行の色を変える 3列目の色を変える
ケイ線修正	縦ケイ線 () 横ケイ線 (—)	\$ \$ —	縦ケイ線を変える 横ケイ線を変える

INFORMATION

- ◆ 検索条件の指定方法は、SH命令の表をご覧ください。ただし、最小値・最大値指定、件数指定はできません。
- ◆ SHU命令では、“1番目の検索条件式は:”で、キーを押して検索条件指定をしなかった場合、全データの列・文字について修正・着色を行うことができます。
- ◆ 列検索はできませんが、ブロック検索はできます。詳しいブロック検索の説明は、SH命令をご覧ください。
- ◆ 複数ページの処理中、**エスケープ**キーを押すと一時停止します。停止中にキーを押すと再開します。もう一度**エスケープ**キーを押すと中止します。
- ◆ 文字列を修正する際、元の文字列の長さより短い文字列を入れると、左側に空白が補われます。長い場合は、入れた文字列の後ろが削られます。
- ◆ “新しいデータは:”のメッセージで、キーやキーを使うと、前の行または前の列と同じデータを続けて入力することができます。また、データの一部だけを修正したい場合は、**バックタブ** ( Shift) + キーを使うと便利です。

例題

61 ページ「売上帳」のデータを検索して、“ファイル”の単価のみを“1000”に書きかえます。

R : 61回

S H U

- ☐.....画面のデータを検索する。
- C 6 = ファイル☐..... 6 列目が“ファイル”のデータを検索する (“ファイル”の文字は半角で入力してください)。
- ☐..... 検索条件の指定を終了する。
- Y☐.....データを一度に書きかえる。
- 9☐..... 9 列目のデータを書きかえる。
- 1000☐.....新しいデータは“1000”
- ☐.....書きかえる列の指定を終了して、書きかえを実行する。

実行前

61	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0078	C=0100	
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
7	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
8	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
9	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファイル	A	100	800	80,000
10	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ノート	C	500	300	150,000
11	950418	10028	102	(有)上越工務店	1012	ビニール	B	300	250	75,000
12	950421	10031	103	ツチノコ	1013	両面テープ	B	200	800	160,000
13	950427	10037	104	ツチノコ	1025	平行定規	F	50	600	30,000
14	950420	10030	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	200	800	160,000
15	950428	10038	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	800	80,000
16	950404	10004	106	伊藤テック	1025	平行定規	F	350	600	210,000
17	950423	10032	106	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	800	80,000
18	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000
19	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハンカチ	A	300	360	108,000
20	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明テープ	A	200	500	100,000
21	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000

実行後

61	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0150	C=0100	
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
7	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
8	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
9	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファイル	A	100	1000	80,000
10	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ノート	C	500	300	150,000
11	950418	10028	102	(有)上越工務店	1012	ビニール	B	300	250	75,000
12	950421	10031	103	ツチノコ	1013	両面テープ	B	200	800	160,000
13	950427	10037	104	ツチノコ	1025	平行定規	F	50	600	30,000
14	950420	10030	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	200	1000	160,000
15	950428	10038	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	1000	80,000
16	950404	10004	106	伊藤テック	1025	平行定規	F	350	600	210,000
17	950423	10032	106	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	1000	80,000
18	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000
19	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハンカチ	A	300	360	108,000
20	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明テープ	A	200	500	100,000
21	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000

例題

61 ページ「売上帳」の、“平行定規”というデータを“製図定規”に書きかえます。

R : 61回

S H U

- ☐.....画面のデータを検索する。
- ☐..... 検索条件は指定しない。
- Y☐.....データを一度に書きかえる。
- \$ 平行定規☐..... “平行定規”という文字を書きかえる。
- 製図定規☐..... “製図定規”という文字に書きかえる。
- ☐.....書きかえるデータの指定を終了して、書きかえを実行する。

実行前

M 61	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0150	C=0100	
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
7	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
8	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
9	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファイル	A	100	800	80,000
10	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ノート	C	500	300	150,000
11	950418	10028	102	(有)上越工務店	1012	ビニール	B	300	250	75,000
12	950421	10031	103	ツチノコ	1013	両面テープ	B	200	800	160,000
13	950427	10037	104	ツチノコ	1025	平行定規	F	50	600	30,000
14	950420	10030	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	200	800	160,000
15	950428	10038	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	800	80,000
16	950404	10004	106	伊藤テック	1025	平行定規	F	350	600	210,000
17	950423	10032	106	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	800	80,000
18	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000
19	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハンカチ	A	300	360	108,000
20	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明テープ	A	200	500	100,000
21	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000

実行後

61	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0150	C=0100	
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
7	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
8	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	製図定規	F	250	600	150,000
9	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファイル	A	100	800	80,000
10	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ノート	C	500	300	150,000
11	950418	10028	102	(有)上越工務店	1012	ビニール	B	300	250	75,000
12	950421	10031	103	ツチノコ	1013	両面テープ	B	200	800	160,000
13	950427	10037	104	ツチノコ	1025	製図定規	F	50	600	30,000
14	950420	10030	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	200	800	160,000
15	950428	10038	105	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	800	80,000
16	950404	10004	106	伊藤テック	1025	製図定規	F	350	600	210,000
17	950423	10032	106	伊藤テック	1006	ファイル	A	100	800	80,000
18	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000
19	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005	ハンカチ	A	300	360	108,000
20	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010	透明テープ	A	200	500	100,000
21	950407	10008	107	(株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000

例題

61 ページ「売上帳」の、“金額”が“150000”以上のデータに色を付けます。

R : 61回

S H U回

- ☐.....画面のデータを検索する。
 - C 10 > 150000回.....10 列目（金額）が“150000”以上のデータを検索する。
 - ☐.....検索条件の指定を終了する。
 - Y回.....データを一度に書きかえる。
 - #回.....行の色を変える。
 - 2回.....文字の色を緑にする。
 - ☐.....背景の色は黒にする。
 - ☐.....書きかえ（色付け）の指定を終了して、書きかえ（色付け）を実行する。
- 金額が“150,000”以上のデータの行の文字が、緑色に変わります。

実行前

61	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0150	C=0100	
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950407	10007	101 (株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000	
7	950428	10039	101 (株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000	
8	950410	10009	102 (有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000	
9	950410	10009	102 (有)上越工務店	1006	ファシ	A	100	800	80,000	
10	950418	10028	102 (有)上越工務店	1014	ナフ	C	500	300	150,000	
11	950418	10028	102 (有)上越工務店	1012	ビロ	B	300	250	75,000	
12	950421	10031	103	1013	両面テープ	B	200	800	160,000	
13	950427	10037	104	1025	平行定規	F	50	600	30,000	
14	950420	10030	105 伊藤デザイン(株)	1006	ファシ	A	200	800	160,000	
15	950428	10038	105 伊藤デザイン(株)	1006	ファシ	A	100	800	80,000	
16	950404	10004	106 伊藤デザイン(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000	
17	950423	10032	106 伊藤デザイン(株)	1006	ファシ	A	100	800	80,000	
18	950403	10001	107 (株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000	
19	950403	10001	107 (株)神崎建設	1005	ハンカチ	A	300	360	108,000	
20	950403	10001	107 (株)神崎建設	1010	透明ポケット	A	200	500	100,000	
21	950407	10008	107 (株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000	

実行後

61	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0150	C=0100	
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950407	10007	101 (株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000	
7	950428	10039	101 (株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000	
8	950410	10009	102 (有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000	
9	950410	10009	102 (有)上越工務店	1006	ファシ	A	100	800	80,000	
10	950418	10028	102 (有)上越工務店	1014	ナフ	C	500	300	150,000	
11	950418	10028	102 (有)上越工務店	1012	ビロ	B	300	250	75,000	
12	950421	10031	103	1013	両面テープ	B	200	800	160,000	
13	950427	10037	104	1025	平行定規	F	50	600	30,000	
14	950420	10030	105 伊藤デザイン(株)	1006	ファシ	A	200	800	160,000	
15	950428	10038	105 伊藤デザイン(株)	1006	ファシ	A	100	800	80,000	
16	950404	10004	106 伊藤デザイン(株)	1025	平行定規	F	350	600	210,000	
17	950423	10032	106 伊藤デザイン(株)	1006	ファシ	A	100	800	80,000	
18	950403	10001	107 (株)神崎建設	1001	A4用紙	A	200	580	116,000	
19	950403	10001	107 (株)神崎建設	1005	ハンカチ	A	300	360	108,000	
20	950403	10001	107 (株)神崎建設	1010	透明ポケット	A	200	500	100,000	
21	950407	10008	107 (株)神崎建設	1007	書類ケース	A	300	1200	360,000	

データを修正してから、計算式にしたがって再計算する

- あらかじめ作っておいた計算式にしたがって、データの修正と再計算を繰り返し行います。

実行前の確認

- 表の下に、あらかじめE D命令で書き込んだ計算式が必要です。

仕事は =



何行目からデータを入れますか：

データを修正する、行の番号を指定します。

- 10行目からデータを入れる。
単独、H・T、@指定が可能です。



何列目からデータを入れますか：

データを修正する、列の番号を指定します。

- 2列目からデータを入れる。
単独、H・T、@指定が可能です。



データは：

データを入力します。

複数のセルのデータを修正する場合は、データを入れた後、キーを押してブロックカーソルを移動します。

- “144”と修正して、キーで次の修正位置までブロックカーソルを移動する。



同じ手順で、何個所でもデータの修正ができます。

- データを入力した後、キーを押すと計算を始めます。

計算が終了しました

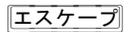
[続行 , 終了 エスケープ]：

再計算を終わりました。もう一度再計算を行うか、終了するか指定します。

- ふたたび新しくデータを入れて、再計算を行う。

この場合、②からの操作を繰り返すことができます。また、行と列の指定でキーのみを押すと、同じ位置から入力することができます。

- 再計算を終了する。



INFORMATION

- ◆計算式は、E D命令やI L命令を使って表の下に作ってください。SIM命令は、計画を立てたりするときに使うと便利です。
- ◆複数データの修正はデータ入力後にキーを押さず、キーでカーソルを移動して行ってください。キーを押すと、再計算を行います。
- ◆キーを押すまで、何度でも再計算を行うことができます。
- ◆計算する項目や列によって、小数点や計算結果の指定が異なる場合、DR命令を使って指定します。

- ◆計算式は、C命令で使う式とまったく同じです。また、C命令で使える関数もすべて使えます。
- ◆計算結果(整数部)が書き込み先の桁数を超えた場合、そのセルを“*”でうめます(“*”は最大18まで表示します)。
- ◆入力するデータ内にコロン(:)やエスケープ(ESC)がある場合は、データ全体をダブルコーテーション(")で囲んでください。
- ◆計算式部分にSTOP文を書いておくことができます。その場合は、STOP以下の式や指定はすべて無視されます。

SIM計算式の作り方

SIM計算式は、再計算したい表の下に、ED命令やIL命令で作ります。

C命令で使う式と同じ要領で作ってください。各計算式の後は“：(コロン)”を書き込んでください。また、SIM計算中で、ACM・ICM・DCM・DRの4つの命令が使えます。

62ページ「売上帳」の14~15行目にある計算式は、3列目(数量)と4列目(単価)を乗算して5列目(金額)に書き込み、次に先頭データ行(LH)から最終データ行の前の行(L(T-1))までをすべて加算し、最終データ行の最終列のみ(LT,T)に書き込むものです。

62	1	2	3	4	57.....+
1	[売上帳]				95.04.01	混 L=0067 C=0120
2	F=5,22,8,8,17					
3						
4	CODE	品名	数量	単価	金額	
5						
6	1001	A4用紙	200	580	116,000	
7	1005	ハインター	300	360	108,000	
8	1010	透明ホケット	200	500	100,000	
9	1030	ルペ	2000	500	1,000,000	
10	1010	透明ホケット	250	500	125,000	
11	1002	A3用紙	600	620	372,000	
12		合計			1,821,000	
13						
14	C3*C4=C5:					
15	LH+L(T-1)=/LT,T:					
16						
17						
18						
19						
20						
21						
	仕事は=					

例題

62ページ「売上帳」のデータを修正して、再計算します。

R : 62回

SIM回

6回..... 6行目からのデータを修正する。

3回..... 3列目(数量)からのデータを修正する。

300 → 数量を“300”に修正する。

560回 単価を“560”に修正して、再計算を実行する。

(エスケープ)..... SIM命令を終了する。

実行前

62	1	2	3	4	57.....+
1	[売上帳]				95.04.01	混 L=0067 C=0120
2	F=5,22,8,8,17					
3						
4	CODE	品名	数量	単価	金額	
5						
6	1001	A4用紙	200	580	116,000	
7	1005	ハインター	300	360	108,000	
8	1010	透明ホケット	200	500	100,000	
9	1030	ルペ	2000	500	1,000,000	
10	1010	透明ホケット	250	500	125,000	
11	1002	A3用紙	600	620	372,000	
12		合計			1,821,000	
13						
14	C3*C4=C5:					
15	LH+L(T-1)=/LT,T:					
16						
17						
18						
19						
20						
21						
	仕事は=					

実行後

62	1	2	3	4	57.....+
1	[売上帳]				95.04.01	混 L=0067 C=0120
2	F=5,22,8,8,17					
3						
4	CODE	品名	数量	単価	金額	
5						
6	1001	A4用紙	300	560	168,000	
7	1005	ハインター	300	360	108,000	
8	1010	透明ホケット	200	500	100,000	
9	1030	ルペ	2000	500	1,000,000	
10	1010	透明ホケット	250	500	125,000	
11	1002	A3用紙	600	620	372,000	
12		合計			1,873,000	
13						
14	C3*C4=C5:					
15	LH+L(T-1)=/LT,T:					
16						
17						
18						
19						
20						
21						
	仕事は=					

コントロール行とコメント行

S I M命令の計算式部分には、再計算の方法を指定するコントロール行と、注釈(コメント)を書いておくコメント行の2つを入れることができます。

★コントロール行は“*A”、“*O”、“*L”の3種類です。また、行頭“*”の次に任意の文字を入れてコメントを書くことができます(コントロール指定以外の行頭の“*”は、その行すべてをコメントとみなします)。

コントロール行の指定方法

コントロール行は、それぞれ次のように機能します。

★コントロール行は、計算式部分のどこにあっても構いません。ただし、STOP文がある場合はそれ以前で指定してください。

★コントロール行は、複数個指定できません。

★ブロックカーソルの移動方向は、“データは [→] :”のように、メッセージの後ろに矢印の向きで表示されます。(Alt)+(↑)(↓)(←)(→) (Alt)+(F5)(F6)(F7)(F8)、ただし、下方向に移動する場合は、(Alt)+(Ctrl)キーを押しながら(F6)キーを押します)キーを押すと、矢印の方向が変わりデータ入力後のブロックカーソルの移動方向を指定できます。

1 データ修正ごとに再計算を繰り返す—*A

計算式部分に“*A”を指定すると、データをひとつ修正するごとに、再計算を行うことができます。

- データ入力後(↵)...再計算後、ブロックカーソルが移動し、次のデータ入力待ちになります。
★この操作を繰り返し行います。
- (Esc)キーを押すと、S I M命令を終了します。

複数データを繰り返し修正後に再計算する—*O

計算式部分に“*O”を指定すると、データを次々に修正してから再計算を行うことができます。

- データ入力後(↵)...データを修正すると、ブロックカーソルが移動します。
★この操作を繰り返し行います。
- (Esc)キーを押すと、再計算を行いS I M命令を終了します。

複数データを修正して再計算を繰り返す—*L

計算式部分に“*L”を指定すると、データを次々に入力して再計算したあと、同じ手順で再計算を行うことができます。

データ入力後(↵)...データを修正すると、ブロックカーソルが移動します。

★この操作を繰り返します。

- (Esc)キーを押すと再計算後、行の指定に戻り、続けて位置指定から操作が行えます。もう一度(Esc)キーを押すと、S I M命令を終了します。

例題

63 ページ「見積書」にデータを入力し、S I M式にしたがって計算します。

R : 63回

S I M回

- 12回12 行目からのデータを入力する。
- 2 回..... 2 列目 (品名) からのデータを入力する。
- A 4 用紙回.....品名 “ A 4 用紙 ” を入力する。
- 20回数量 “ 20 ” を入力する。
- 580回.....単価 “ 580 ” を入力する。
- 回.....金額は入力しない。
- バインダー回.....品名 “ バインダー ” を入力する。
- 30回数量 “ 30 ” を入力する。
- 360回.....単価 “ 360 ” を入力する。
- エスケープ**.....計算を行って、S I M命令を終了する。

コントロール行に “ * O ” が書かれているので、通常のデータ入力と同じように **Enter** キーを使って次々とデータを入力することができます。

エスケープ キーを押すことで再計算を行い、S I M命令を終了します。

実行前

63	1	見積書	2	御令	見令	積令	書令	4	95.04.01	混	L=0092	C=0100	8	平成★年4月1日
	2													
	3													
	4	(株) 株式会社 建設 御中												
	5													
	6	F=1,35,1,10,1,12,1,12,1												
	7													見積金額
	8													
	9													
	10		品名	数量	単価	金額								
	11													
	12													
	13													
	14													
	15													
	16		税抜き合計											
	17													
	18		消費税											
	19													
	20		税込み合計											
	21													

実行後

63	1	見積書	2	御令	見令	積令	書令	4	95.04.01	混	L=0092	C=0100	8	平成★年4月1日
	2													
	3													
	4	(株) 株式会社 建設 御中												
	5													
	6	F=1,35,1,10,1,12,1,12,1												
	7													見積金額 ￥23,072-
	8													
	9													
	10		品名	数量	単価	金額								
	11													
	12			A4用紙	20	580	11,600							
	13			バインダー	30	360	10,800							
	14													
	15													
	16		税抜き合計				22,400							
	17													
	18		消費税				672							
	19													
	20		税込み合計				23,072							
	21													



Shift Left (シフト レフト)

データを左に寄せる

- 指定した列の項目名とデータを、各列内の左に寄せます。

実行前の確認

- フォーマット文のないページでは実行できません。

類似命令

- SC...データをセンタリングします。
- SR...データを右に寄せます。

仕事は =



何列目を左に寄せますか：

データを左へ寄せる、列の番号を指定します。

- 2列目のデータを左に寄せる。
- すべての列のデータを左に寄せる。



(または A)

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ データをいっしょに、列の項目名も左に寄せます。
- ◆ N指定はできません。
- ◆ ケイ線の列を指定しても、ケイ線は変化しません。

例題

6 ページ「売上帳」のデータを左寄せにします。

R : 6回

SL回

回.....すべてのデータを左寄せにする。

実行前

M	6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12									
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5										
6	950403	118	(株)TO商会	ファイル	100	800	80,000			
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	10	580	5,800			
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
9	950403	107	(株)神崎建設	バインダー	30	360	10,800			
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ホック	20	500	10,000			
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ボード	20	2,500	50,000			
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000			
13	950403	107	(株)神崎建設	ホードスカル	15	2,000	30,000			
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000			
15	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000			
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500			
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600			
18	950403	116	(株)全日本出版	バインダー	25	360	9,000			
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000			
20	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800			
21										

実行後

M	6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]					95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12									
3										
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5										
6	950403	118	(株)TO商会	ファイル	100	800	80,000			
7	950403	118	(株)TO商会	A4用紙	10	580	5,800			
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
9	950403	107	(株)神崎建設	バインダー	30	360	10,800			
10	950403	107	(株)神崎建設	透明ホック	20	500	10,000			
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ボード	20	2,500	50,000			
12	950403	107	(株)神崎建設	コンパス	30	300	9,000			
13	950403	107	(株)神崎建設	ホードスカル	15	2,000	30,000			
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000			
15	950403	107	(株)神崎建設	ファイル	200	800	160,000			
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リフ	150	150	22,500			
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600			
18	950403	116	(株)全日本出版	バインダー	25	360	9,000			
19	950403	116	(株)全日本出版	書類ケース	100	1,200	120,000			
20	950403	116	(株)全日本出版	ファイル	6	800	4,800			
21										

マイツールデータを他のファイルに変換する

- マイツールで作成したデータを、他の形式のファイルに変換し、指定したファイル名で出力します。

仕事は =



入力ページは [画面 ⇐] :

変換するデータのページ番号を指定します。

キーのみを押すと、画面のデータを変換します。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

出力ファイルのファイル名は :

変換後のファイルにつけるファイル名を入力します。

ファイル名は、主ファイル名と、ピリオド (.) と、拡張子からなります。

《例》 NEWFILE. DAT など
 8文字以内 ↑ 拡張子
 ピリオド

ドライブA以外から書き込む場合は、ドライブ名とコロンをつけて、ダブルコーテーションで囲んでください。

また、ディレクトリも指定する場合は、ディレクトリ名、ファイル名の前に “¥” を付けます。

《例》 “C : NEWFILE. DAT”

“C : ¥DATA¥README. TXT” など

英数、カタカナなど、全角・半角の両方を持つ文字は、全角文字で入力しても半角文字として処理されますので、ファイル名にこれらの文字を全角で使用することはできません。

- 1 マイツール形式
- 2 一般データ (可変長)
- 3 一般データ (固定長 : 区切りあり)
- 4 一般データ (固定長 : 区切りなし)
- 5 カンマ区切りデータ
- 6 カンマ区切りデータ (“ ” 付き)
- 7 文書データ (可変長)

出力するファイルのファイル形式を、番号で選択します。

変換が開始されます。

キーを押すと一時停止します。キーを押すと再開、もう一度 キーを押すと中止します。

出力ファイルの形式は :

出力ファイル形式について

- ★レコード長の最大値は 900 です。
- ★行単位の終了位置を示すコードは (OD) 16 (OA) 16 です。
- ★ファイルの終了位置を示すコードは (1A) 16 です。
- ★固定長タイプを選択すると、F 行の有無によって、変換される範囲が次のように変わります。
 - フォーマット行がある場合…最終列まで
 - フォーマット行がない場合…ページ横サイズまで
- ★変換するデータの範囲は、計算開始行から計算終了行までです。

《例》

1: [DATA]
2: F=5, 12, 6, 4
3: _____
4: CODE 品名 単価 個数
5: _____
6: 0101 りんご 200 50
7: 0102 みかん 150
:
:
:
n: 0999 パイナップル 1200 60
: _____

1…マイツール形式

1	TL=DATA (OD) 16 (OA) 16	←タイトル行
2	CS=170 (OD) 16 (OA) 16	←ページ横サイズ
3	HN=1 (OD) 16 (OA) 16	←項目行数
4	F=5, 12, 6, 4 (OD) 16 (OA) 16	←フォーマット行
5	CODE, 品名, 単価, 個数 (OD) 16 (OA) 16	
6	0101, りんご, 200, 50 (OD) 16 (OA) 16	
7	0102, みかん, 150 (OD) 16 (OA) 16	
	:	
	:	
	:	
n	0999, パイナップル, 1200, 60 (OD) 16 (OA) 16	

2…一般データ (可変長)

1	0101 りんご 200 50 (OD) 16 (OA) 16
2	0102 みかん 150 (OD) 16 (OA) 16
	:
	:
	:
n	0999 パイナップル 1200 60 (OD) 16 (OA) 16 (1A) 16

3…一般データ (固定長: 区切りあり)

1	0101 りんご 200 50 (OD) 16 (OA) 16
2	0102 みかん 150 (OD) 16 (OA) 16
	:
	:
	:
n	0999 パイナップル 1200 60 (OD) 16 (OA) 16 (1A) 16

4..一般データ（固定長：区切りなし）

★3と同様ですが、行単位の終了位置・ファイルの終了位置を示すコードがつきません。

5..カンマ区切りデータ

```
1 0101,りんご,200,50,... (0D) 16 (0A) 16
2 0102,みかん,150,40,... (0D) 16 (0A) 16
  :
  :
  :
n 0999,パイナップル,1200,60,... (0D) 16 (0A) 16 (1A) 16
```

★データの中のカンマは除いて出力します。

6..カンマ区切りデータ（”付き）

```
1 0101,"りんご",200,50,... (0D) 16 (0A) 16
2 0102,"みかん",150,40,... (0D) 16 (0A) 16
  :
  :
  :
n 0999,"パイナップル",1200,60,... (0D) 16 (0A) 16 (1A) 16
```

★数値データの中からカンマは除いて出力します。

7..文書データ（可変長）

《例》

```
1 [XXXXXXX] 92.12.01 混L=
2 SGET 他のファイルを～
3 ・他の形式で作成した～
  :
  :
  :
n 行います。
```

```
1 SGET 他のファイルを～ (0D) 16 (0A) 16
2 ・他の形式で作成した～ (0D) 16 (0A) 16
  :
  :
  :
n 行います。(0D) 16 (0A) 16 (1A) 16
```

★変換するデータの範囲は、2行目から最終行までです。

データを右に寄せる

- 指定した列の項目名とデータを、各列内の右に寄せます。

実行前の確認

- フォーマット行のないページでは実行できません。

類似命令

- SC...データをセンタリングします。
- SL...データを左に寄せます。

仕事は =



何列目を右に寄せますか：

データを右に寄せる、列の番号を指定します。

- 3列目のデータを右に寄せる。
- すべての列のデータを右に寄せる。 (または)
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ データといっしょに、列の項目名も右に寄せます。
- ◆ N指定はできません。
- ◆ ケイ線の列を指定しても、ケイ線は変化しません。

例題

21 ページ「キャンペーン日程」の、「キャンペーン地」「担当者」「前キャンペーン地」のデータを右寄せにします。

R : 21回

SR回

2 - 6回..... 2列目(キャンペーン地)から6列目(前キャンペーン地)までのデータを右寄せにする。

実行前

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1	[キャンペーン日程]				95.04.01	混	L=0194	C=0074		
2	F=1,20,1,10,1,20,1,8,1,10,1									
3										
4	キャンペーン地	担当者	前キャンペーン地	開始	所要日数					
6	札幌キャンペーン	熊野	札幌キャンペーン	1	3					
7	青森キャンペーン	踊場	札幌キャンペーン	5	9					
8	静岡キャンペーン	駒形	青森キャンペーン	9	3					
9	京都キャンペーン	熊野	静岡キャンペーン	13	3					
10	鳥取キャンペーン	踊場	京都キャンペーン	17	3					
11	福岡キャンペーン	駒形	鳥取キャンペーン	21	1					
12	沖縄キャンペーン	亜室	福岡キャンペーン	25	3					
13	東京キャンペーン	白澤	沖縄キャンペーン	29	3					

実行後

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1	[キャンペーン日程]				95.04.01	混	L=0194	C=0074		
2	F=1,20,1,10,1,20,1,8,1,10,1									
3										
4	キャンペーン地	担当者	前キャンペーン地	開始	所要日数					
6	札幌キャンペーン	熊野	札幌キャンペーン	1	3					
7	青森キャンペーン	踊場	札幌キャンペーン	5	9					
8	静岡キャンペーン	駒形	青森キャンペーン	9	3					
9	京都キャンペーン	熊野	静岡キャンペーン	13	3					
10	鳥取キャンペーン	踊場	京都キャンペーン	17	3					
11	福岡キャンペーン	駒形	鳥取キャンペーン	21	1					
12	沖縄キャンペーン	亜室	福岡キャンペーン	25	3					
13	東京キャンペーン	白澤	沖縄キャンペーン	29	3					

条件を指定してページを並べかえる

- 指定したページを、表題や作成日などをキー列にして、並べかえます。

重要

- ST 命令を実行すると S ファイルのページが消去されます。必要なデータがある場合は、あらかじめ他のファイルやフロッピーへコピーしてください。

実行前の確認

- 並べかえるページが S ファイルのページ数 × 100 より多い場合、ST 命令は実行できません。

類似命令

- MT... ページを移動します。

仕事は =



並べかえる表題は [全体 ↵] :

タイトル一覧が表示されます。

並べかえるファイル名、またはページを指定します。

- 現在のファイルのページをすべて並べかえる。
- 2 から 5 ページと 10 ページを並べかえる。
- “支払い” ファイルのページをすべて並べかえる。 支払い
- ドライブ A にセットしたデータフロッピーのページを並べかえる。 A

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
ページの指定には、ワイルド指定やグループ指定が便利です。

S (サブファイル)、SYS ファイルは指定できません。

ファイル名を指定すると、そのファイルのタイトル一覧を表示します。

1 番目のキー列は [終了 ↵] :

タイトル一覧が表になって表示され、サブファイルの 1 ページから書き込まれます。

どの列をキー列にして並べかえるのか、基準となる列の番号を指定します。

- 表の 2 列目 (表題) をキー列にする。
 - キー列は指定しない。
- 単独指定が可能です。
キー列について詳しくは、S 命令の説明をご覧ください。

- 1 文字正順
- 2 逆順
- 3 数字小さい順
- 4 大きい順

並べ方は (1 ~ 4) :

並べ方を 1、2、3、4 の中から選びます。

- J I S 区点コード番号の小さい順に並べかえる。
- J I S 区点コード番号の大きい順 (逆順) に並べかえる。
- 数字の小さい順に並べかえる。
- 数字の大きい順に並べかえる。

2 番目のキー列は [終了 ↵] :

さらにキー列を指定する場合は、次に基準となる列の番号を指定します。

- 次のキー列に 3 列目 (作成日) を指定する。
 - 2 番目のキー列は指定しない。
- 単独指定が可能です。

並べかえのキー列は 5 つまで指定することができます。2 つ以上、キー列を指定する場合、“キー列”の指定と“並べ方”の手順を繰り返してください。

キー列の指定を終えると、ページの並べかえを行います。

INFORMATION

- ◆ 並べかえるページは、100 ページ分ずつサブファイルの 1 ページから順に書き込まれます。

- ◆ ST 命令は、空白ページを抜かしたり、作成日の順に並べかえるのに便利です。

例題

マスターファイルの1から100ページまでを、表題をキー列にして並べかえます。

実際に例題を実行すると、マスターファイルのページ番号がずれてしまいますのでご注意ください。
また、S(サブ)ファイルにあるデータが消されますので、必要なデータがあれば他のファイルにコピーしておいてください。

ST回

- 1 - 100回..... 1ページから100ページを並べかえる。
- 2回..... キー列に2列目を指定する。
- 2回..... 並べ方は“文字逆順”を指定する。
- 回..... キー列の指定を終了し、並べかえを実行する。

ST命令実行前のタイトル一覧

タイトル	ページ	作成日	行数	桁数	キー
1 住所録		95.04.01	16	170	
2				170	
3				170	
4 売上帳		95.04.01	46	110	
5 売上集計		95.04.01	13	120	
6 売上帳		95.04.01	21	120	
7 成績集計表		95.04.01	18	170	
8 売上帳		95.04.01	53	100	
9 売上帳		95.04.01	19	120	
10 支店別売上表94年		95.04.01	10	170	
11 支店別売上表93年		95.04.01	10	170	
12 和西暦年齢		95.04.01	21	170	
13 年齢条件式		95.04.01	10	170	
14 住所録		95.04.01	17	170	
15 データ貸出 DFデータバンク		95.04.01	25	170	
16 会員コード表		95.04.01	21	170	
17 作品コード表		95.04.01	22	170	
18 ビデオデータ貸出管理表		95.04.01	21	170	
19 売上実績表		95.04.01	16	170	
20 キャンペーン通知		95.04.01	12	74	

見たい表題は (ページ番号, =表題, [↑, ↓, 1カブ]) :

ST命令実行後のタイトル一覧

タイトル	ページ	作成日	行数	桁数	キー
1 和西暦年齢		95.04.01	21	170	
2 売上伝票 EFDデザインページ		95.04.01	41	170	
3 売上帳入力データバンク		95.04.01	46	170	
4 売上帳		95.04.01	9	100	
5 売上帳		95.04.01	21	120	
6 売上帳		95.04.01	53	100	
7 売上帳		95.04.01	9	100	
8 売上帳		95.04.01	6	100	
9 売上帳		95.04.01	46	110	
10 売上帳		95.04.01	25	120	
11 売上帳		95.04.01	19	120	
12 売上帳		95.04.01	53	100	
13 売上帳		95.04.01	15	120	
14 売上帳		95.04.01	15	100	
15 売上帳		95.04.01	66	120	
16 売上帳		95.04.01	12	120	
17 売上集計		95.04.01	13	120	
18 売上集計		95.04.01	13	120	
19 売上実績表		95.04.01	16	170	
20 納品書		95.04.01	68	74	

見たい表題は (ページ番号, =表題, [↑, ↓, 1カブ]) :

データを集計して分析値を求める

- 指定した表のデータの標準偏差・平均偏差・合計・件数・根2乗計・平均・最大値・最小値・標本偏差を求めます。

実行前の確認

- 小数点以下の設定は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- 複数ページを指定する場合、指定する各ページのフォーマット文や項目名の内容が一致していないと、正しく計算できません。

類似命令

- AV...平均を求めます。
- TL...縦・横の合計を求めます。

仕事は =



集計するページは [画面 ↵] :

集計するデータのある、ページを指定します。

- 3ページのデータを指定する。
- 画面のデータを指定する。



単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

集計する列は :

どの列を計算して集計するのか、列の番号を指定します。

- すべての列を計算する。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。指定した列以外は削除されます。

INFORMATION

- ◆ 結果は画面に表示されます。書き込み先の指定はできません。必要な場合は、W命令で空きページに書き込んでください。
- ◆ 1列目には、自動的に8桁の列が挿入され、各行の項目名が入力されます。ただし、ページ内に8桁以上の余裕がない場合は挿入されません。
- ◆ 空欄(スペース)は、データを“O”と見なして計算します。
- ◆ 数値以外の文字データは消去されます。
- ◆ 最大200列まで指定できます。
- ◆ 計算結果を表示する欄は、計算する列の桁数に合わせて作られます。計算結果が収まるよう桁数にご注意ください。収まらない場合は“*”でうめられます。
- ◆ 表の横の長さがページサイズいっぱいになる場合は、1列目の“標準偏差”などの文字は入りません。
- ◆ 複数ページを計算中に[エスケープ]キーを押すと一時停止します。停止中に[↵]キーを押すと再開します。もう一度[エスケープ]キーを押すと処理を中止します。

偏差値の求め方

テストなど得点が、標準と比べてどの程度のレベルなのかを判断する目安として、よく偏差値が用いられます。偏差値は、STAT命令で求めた標準偏差の値を使って計算することができます。偏差値を求める公式は、次のようになっています。

$$\frac{(\text{得点} - \text{平均点})}{\text{標準偏差}} \times 10 + 50 = \text{偏差値}$$

例題

64 ページ「成績表」のデータを集計し、て各種分析値を求めます。

DR 命令で、小数点以下の桁数を “ 1 ” に、計算結果を “ 四捨五入 ” に設定します。

DR ④ 1 ④ 1 ④

R : 64 ④

STAT ④

④.....画面のデータを集計する。

3 - 8 ④..... 3 列目から 8 列目のデータを集計する。

実行前

No	氏 名	英語	数学	国語	理科	社会	合計
1	秋田 智子	91	64	91	85	82	393
2	浅野 正江	77	69	75	79	84	384
3	荒川 康広	82	76	61	72	49	340
4	荒木 澄朗	70	63	46	56	78	313
5	池田 常臣	82	39	53	48	76	298
6	石田 次郎	62	60	39	55	68	284
7	逸見 秀安	73	56	49	58	71	307
8	伊藤 恵子	82	52	73	59	47	313
9	植田 三朗	83	49	57	67	52	308
10	大野 章義	55	46	77	82	42	302
11	奥村 本泰	39	56	49	58	69	271
12	小野 明子	71	49	39	83	51	293
13	角田 精子	62	78	56	59	75	330
14	加藤 靖憲	64	83	73	62	65	347
20	金丸 修子	85	46	76	62	36	285
21	金田 義記	90	62	46	74	68	340

実行後

	英語	数学	国語	理科	社会	合計
標準偏差	12.9	15.5	13.4	13.1	13.7	34.0
平均偏差	10.5	13.2	10.8	10.5	11.5	26.0
合計	2923.0	2614.0	2838.0	2788.0	2796.0	13959.0
件数	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0	44.0
根2乗計	448.8	407.3	436.9	429.1	431.2	2116.4
平均	66.4	59.4	64.5	63.4	63.5	317.3
最大	93.0	95.0	95.0	94.0	92.0	417.0
最小	39.0	36.0	39.0	38.0	36.0	256.0
標本偏差	13.0	15.7	13.5	13.2	13.9	34.4

SV

Save (セーブ)

画面の内容を一時的に保管する

- 計算中や編集集中に、画面を一時的に保管します。保管した画面を呼び出すときはRV命令を使います。



INFORMATION

- ◆ 計算途中や編集途中のデータを、画面ごと一時的に保管することができます。
- ◆ SV命令で画面の内容を保管し、何か命令を実行した後RV命令を実行すると、SV命令を実行した時の画面に戻すことができます。ただし、RV命令を実行する前に何か命令を実行してしまうと、戻すことはできません。

- 画面の指定した列を、一時的に保管します。

実行前の確認

- SVC命令を実行すると、SVL命令やSVP命令で保管されている内容は消去されます。

類似命令

- SVL...行を保管します。
- SVP...セルを保管します。

仕事は =



何列目を保管しますか：

保管する列の番号を指定します。

- 8行目を保管する。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ SVC命令とLDC命令はペアで使います。SVC命令で列の内容を保管したら、LDC命令で読み出します。
- ◆ 縦ケイ線を保管することもできます。
- ◆ SVC命令の後に、SVL命令やSVP命令を行うと、保管した内容は消えてしまいます。
- ◆ マイツールを終了すると、保管した列の内容は消えてしまいます。

例題

64ページ「成績表」の列を保存して、7ページ「成績集計表」の列に読み出します。

まずSVC命令で、64ページの2列目を保存します。

R : 64回

SVC 2回..... 2列目を保存する。

7ページ「成績集計表」のデータをすべて削除し、空白行を挿入します。

R : 7回

DL A ILS 回回

保存した列をLDC命令で画面に読み出します。

LDC回

1回..... 1列目に読み出す。

実行前

M	7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7
1	[成績集計表] 95.04.01 混 L=0050 C=0170												
2	F=12,6,6,6,6,6												
3													
4	氏	名	国語	数学	理科	社会	英語						
5													
6	北野	広二	65	81	43	71	68						
7	奥村	本泰	61	55	48	65	68						
8	加藤	芳記	80	72	63	71	39						
9	金尾	義子	48	82	63	70	73						
10	原田	秋子	67	55	59	55	46						
11	荒川	康広	74	93	37	65	77						
12	渋谷	行江	72	46	61	69	64						
13	小池	勇作	62	79	52	60	39						
14	水戸	陽子	75	67	79	68	86						
15	杉山	実貴	45	38	61	84	90						
16	石田	次郎	82	61	75	66	76						
17	田代	由香	94	68	80	51	61						
18													
19													
20													
21													

実行後

M	7	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7
1	[成績集計表] 95.04.01 混 L=0050 C=0170												
2	F=12,6,6,6,6,6												
3													
4	氏	名	国語	数学	理科	社会	英語						
5													
6	秋田	智子											
7	浅野	正江											
8	荒川	康広											
9	荒木	澄朗											
10	池田	常臣											
11	石田	次郎											
12	逸見	秀安											
13	伊藤	恵子											
14	植田	三朗											
15	大野	章義											
16	奥村	本泰											
17	小野	明子											
18	角田	精志											
19	加藤	靖憲											
20	金丸	修子											
21	金田	義記											

- 画面の指定した行を、一時的に保管します。

実行前の確認

- SVL命令を実行すると、SVC命令やSVP命令で保管されている内容は消去されます。

類似命令

- SVC...列を保管します。
- SVP...セルを保管します。

仕事は =



何行目を保管しますか :

保管する行の番号を指定します。

- 10行目を保管する。



単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

INFORMATION

- ◆SVL命令とLDL命令はペアで使います。SVL命令で行の内容を保管したら、LDL命令で読み出します。
- ◆マイツールを終了すると、保管した行の内容は消えてしまいます。
- ◆SVL命令の後に、SVC命令やSVP命令を行うと、保管した内容は消えてしまいます。

例題

10ページ「支店別売上表94年」の右寄せになっているデータの、項目行だけを中央寄せにします。

R : 10回

すべての列のデータを中央寄せにして、SVL命令で項目行を保存した後、すべてのデータを右寄せに戻します。

SC 4 SVL 4 SR 4

保存した項目行をLDL命令を使って画面に読み出します。

LDL 4

4回.....4行目に読み出す。

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

- 画面の指定したセルを、一時的に保管します。

実行前の確認

- SVP命令を実行すると、SVC命令・SVL命令で保管されている内容は消去されます。

類似命令

- SVC...列を保管します。
- SVL...行を保管します。

仕事は =



何行目を保管しますか：

保管するセルのある、行の番号を指定します。

- 10行目にあるセルを保管する。
単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。



何列目を保管しますか：

保管するセルのある、列の番号を指定します。

- すでに指定した10行目の、1列目にあるセルを保管する。
単独、H・T、条件式、@指定が可能です。



INFORMATION

- ◆ SVP命令とLDP命令はペアで使います。SVP命令でセルを保管したら、LDP命令で読み出します。
- ◆ SVP命令の後に、SVL命令やSVC命令を行うと、保管したセルが消えてしまいます。
- ◆ 保管できるのは1セルだけです。
- ◆ マイツールを終了すると、保管したセルの内容は消えてしまいます。

例題

64ページ「成績表」の“伊藤恵子”を、7ページ「成績集計表」に読み出します。

まずSVP命令で、64ページ「成績表」の13行2列目のセルのデータを保存します。

R : 64回 SVP 13回 2回

R : 7回

保存したセルをLDP命令で画面に読み出します。

LDP 6回

6回.....6行目を指定する。

1回.....さらに1列目を指定して、読み出すセルを確定する。

実行前

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
北野 広二	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61

実行後

氏名	国語	数学	理科	社会	英語
伊藤 恵子	65	81	43	71	68
奥村 本泰	61	55	48	65	68
加藤 芳記	80	72	63	71	39
金尾 義子	48	82	63	70	73
原田 秋子	67	55	59	55	46
荒川 康広	74	93	37	65	77
渋谷 行江	72	46	61	69	64
小池 勇作	62	79	52	60	39
水戸 陽子	75	67	79	68	86
杉山 実貴	45	38	61	84	90
石田 次郎	82	61	75	66	76
田代 由香	94	68	80	51	61



Title (タイトル)

タイトル一覧を表示する

- ハードディスク内のファイルやデータフロッピーに入っているページの、タイトル一覧を見ることができます。

類似命令

- T S...サブページのタイトル一覧を画面に表示します。

仕事は =



見たい表題は (ページ番号 , = 表題 , [, , エスケープ]) :

見たい表題のページ番号か、グループ指定、ワイルド指定を行ってください。

キーや、キーを使って見ることができます。

キーを押すと終了します。

- 21 ページから 40 ページまでの表題を見る。

- 80 ページ以降の表題を見る。

- “売上” という文字を含むページの表題を見る。

- グループ 1 に入っているページの表題を見る。

- 表題のつけられているページだけ見る。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。



【指定したページの表題だけを見る場合】

- 20 ページから 30 ページまでと、40 ページの表題を見る。.....

- グループ 3 に入っている表題を見る。.....

もう一度、ページ番号を1つ指定すると、またそれ以降のすべての表題を見ることができます。

キーで、指定したページ内をスクロールさせて見ることができます。

【データフロッピーの目次を見る場合】

- の後 を押すと、ドライブ A にセットされているデータフロッピーの目次を見ることができます。

は、現在使用しているファイルまたはドライブの目次が表示されます。

は、データフロッピー (ドライブ A にセットした) の目次の表示です。

INFORMATION

- ◆ T 命令を終了して “仕事は=” に戻っても、画面にはタイトルが表示されています。前の画面を見る場合は D 命令を使いますが、そのまま W 命令を使うと、前の画面を書き込みます。

- ◆ T 命令中に、R 命令と W 命令が使えます。

- ◆ T 命令は、キーで 1 行ずつ、キーで 1 画面ずつスクロールさせることができます。また、 (+) キーでスクロールモードを切り替えると、キーで 1 画面ずつスクロールさせることができます。

TAB

Tablet Set (タブレットセット)

ファンクションタブレットに言葉や命令を登録する

- ファンクションタブレット上に設定されている命令を、自由に付け替えることができます。
- 命令だけでなく、頻繁に使うデータ（文字や数字）を登録することができます。
- 自分の好きな命令やデータを登録するには、はじめに登録用の表を作ります。
★ファンクションタブレットをお使いになれる機種は限定されます（INFORMATION 参照）。

実行前の確認

- SET命令の8番（シリアル）を“1…タブレット”にセットしてから、TAB命令をお使いください。
- TAB命令を実行する前に、必ず使うデータを画面に読み出しておいてください。
- TAB命令の実行には、ファンクションタブレット タイプF1、およびタブレット接続ケーブル タイプN2が必要です。

仕事は =

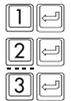


- 1 標準
- 2 画面表示中の内容
- 3 画面表示中の内容（2列）

タブレットの内容は：

タブレットの使い方を選んでください。よく使うデータを登録する場合は、画面に登録するデータを作ってから指定しましょう。

- タブレットに同梱のシートに書かれている、標準でセットされた命令を、そのまま使う。
- 自分で作ったデータページの1列目の内容を登録する。
- 自分で作ったデータページの2列目の内容を登録する。



INFORMATION

- ◆END命令でマイツールを終了させると、タブレットに登録した内容（データや命令）は消えてしまいます。タブレットに使う表は、必ずW命令でページに書き込んでおいてください。
- ◆標準でセットされたタブレットの内容は、一部だけを書きかえるといったことはできません。
- ◆表の1列目のデータが56行に満たないときは、登録されていない場所のタブレットのキーを押しても、無視されます。
- ◆ファンクションタブレットが使える機種は、330R、350R、250Rです（1998年5月現在）。

タブレットに、自分で使いたいデータや命令を登録するには

F命令で登録用の表を作成します。

TAB 1	TAB 2
A	1
B	2
C	3
D	4
E	5
:	:
1列目	2列目

1列は70桁（半角文字で70文字、全角文字で35文字）まで登録することができます。

データ数は56個（56行）までです。それ以上のデータは無視されます。

ケイ線も無視されます。

タブレットに登録されるのは、TAB命令で“2”もしくは、“3”を選んだ場合で次のようになります。

T

“ 2 画面表示中の内容 ” を選んだ場合

“ T A B 1 ” の列のデータだけがタブレットに登録されます。
 “ T A B 1 ” の列のデータを “ 仕事は = ” の状態で使うことができます。

“ 3 画面表示中の内容 ” を選んだ場合

“ T A B 1 ” と “ T A B 2 ” の列のデータがタブレットに登録されます。
 “ T A B 1 ” の列のデータを “ 仕事は = ” の状態で使うことができます。
 “ T A B 2 ” の列のデータを命令中 (“ 仕事は = ” 以外) で使うことができます。
 ★ 2 列目のデータがないときは、1 列目のデータを命令中で使うことができます。

タブレットには、登録用の表のデータが次のように登録されます。1 個目から 48 個目までのデータは、タブレットの 1 行目から 8 行目に 6 個ずつ左から登録され、49 個目から 56 個目までのデータは、タブレットの右端の列に登録されます。

1	→	2	→	3	→	4	→	5	→	6	→	49
7	→	8	→	9	→	10	→	11	→	12	→	50
13	→	14	→	15	→	16	→	17	→	18	→	51
19	→	20	→	21	→	22	→	23	→	24	→	52
25	→	26	→	27	→	28	→	29	→	30	→	53
31	→	32	→	33	→	34	→	35	→	36	→	54
37	→	38	→	39	→	40	→	41	→	42	→	55
43	→	44	→	45	→	46	→	47	→	48	→	56

次のような登録用の表の場合、T A B 1 のデータは、図のようにタブレットに登録されます。

《登録用の表》

TAB 1	TAB 2
A	1
B	2
C	3
D	4
E	5
!	6
F	7
:	:
:	:
:	:
。	48
+	49
-	50
*	51
/	52
,	53
.	54
?	55
—	56

《タブレット》

A	B	C	D	E	!	+
F	G	H	I	J	#	-
K	L	M	N	O	\$	*
P	Q	R	S	T	%	/
U	V	W	X	Y	&	,
Z	=	—		¥	@	.
[]	{	}	()	?
<	>	.	'	,	。	—

タブレットの使用例

●入力の手簡略化に使う

名簿や住所録を作成するときに、47 都道府県を登録しておけば、いちいち入力する手間が省けます。

登録用の表

県名	
北海道 & 青森県 & 岩手県 & 宮城県 & 秋田県 & 山形県 & 福島県 & 茨城県 & : :	

タブレット

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県
福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県
東京都	神奈川	新潟県	富山県	石川県
山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県

都道府県の他に、取引先や商品名などを登録しておくとも便利です。
データの最後に“&”を付けておけば、データの入力とキーの入力を登録したことになります。

●命令の手簡略化に使う

オートプログラムやセミオートを登録しておき、仕事の流れにそって誰にでも使えるように図式化します。

登録用の表

仕事は =	
RUN: 社会保険料記入修正 & RUN: 人事基礎台帳修正 & DC : 27-T:PC:X:DC:4-26:PC& :	

タブレット

人事基礎台帳			社会保険料記入修正	
	人事基礎台帳修正		人事基礎台帳印刷	
給与計算			控除額修正	
	給与台帳作成		超過勤務時間記入	
賞与計算			給与計算	

ひとつひとつの仕事の手順を細かく分けておけるので、長いオートプログラムを作る必要がありません。
仕事に合わせて、いくつかの登録表とシートを用意して使い分ければ、仕事の効率化につながります。
2列目に簡単な計算式や、決まりきった額（控除額）などを登録しておくこともできます。

小計・総計を求める

- 複数ページの小計・総計を求めます。表の中に小計行・総計行を書き加えたり、小計ごとにページをかえたり、あるいは小計行と総計行だけを抜き出して表を作ったりすることができます。
- 指定した列、またはそれを除いた列の小計・総計を求めることができます。キー列を指定した場合、列内の項目が変わるごとに小計行を挿入します。

重要

- 複数ページの小計・総計を求める場合、結果の書き込み先には入力ページと同じページを指定しないでください。データの失われるおそれがあります。

実行前の確認

- 計算するページは、あらかじめキー列を S 命令で並べかえておくか、SHG 命令で検索整理しておきます。
- TC 命令を実行すると、裏画面の内容は消去されます。
- 先頭ページが混在モードの場合は、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合には、混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- TL... 縦・横の合計を求めます。

仕事は =



計算するページは[画面 ←] :

小計・総計を求めるページを指定します。

- 画面のデータの小計を指定する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1 番目のキー列は[終了 ←] :

どの列をキー列にして小計を求めるのか、列の番号を指定します。

- 表の 1 列目をキー列にする。
- キー列は指定しない。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

2 番目のキー列は[終了 ←] :

さらにキー列を指定する場合は、次に基準となる列の番号を指定します。これ以上キー列を指定しないときは、キーを押します。

- 次のキー列に 2 列目を指定する。
- キー列の指定を終了する。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
- 小計のキー列は、5 つまで指定することができます。

小計行の挿入 I, II (キー列表示)
改ページ P, PP (キー列表示)
計のみ T, TT (キー列表示)
計行なし KT

計算方法は :

小計の求め方を指定します。I、P、T を選ぶと、キー列の同一項目名を省略して表示します。II、PP、TT を選ぶと、キーの項目名を省略せずにそのまま表示します。KT を選ぶと、キー列の同一項目を 1 行にまとめて合計だけを表示します。

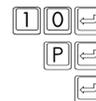
I、II、P、PP、T、TT、KT の後ろに列の指定がない場合は、すべての列について計算します。

- キーの内容が変わるたびに、小計を出す。
- 5 列目だけの小計を出す。
- 小計を求め、1 番目のキーごとにページをかえる。
- 小計と総計を抜き出した表をつくる。
- 5 列目を除いて、小計と総計を抜き出した表を作る。
- キーごとに計算して、小計・総計行は挿入しない。
- キーの項目名を省略せずに表示する場合は、それぞれ II・PP・T T を使って、同様に指定してください。

結果の書き込み先頭ページは
[印刷 P, 画面 ]:

計算結果をどうするか指定します。

- 10 ページから書き込む。
- 印刷する。
- 画面に表示する。



INFORMATION

- ◆ 計算結果は画面に、元の表は裏画面に残ります。ただし、複数ページの場合、裏画面に残るのは、元の表の最終ページになります。
- ◆ スペースは“O”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。
- ◆ 単価や個数など、小計や総計を求める必要がない列がある場合は、N (NOT) 指定が便利です。
- ◆ I と P を選んだ場合、小計行には“=”が入られます。あとから、自分用の見出しに修正してください。
- ◆ 計算結果 (整数部) が書き込み先の桁数を越えた場合、そのセルを“*”でうめめます。
- ◆ 計算結果の小数点以下は、上から順に出会ったデータの小数点以下の桁数に合わせて表示されます。たとえば、最初のキーに小数点以下 2 桁を持つデータが、2 番目のキーに小数点以下 5 桁を持つデータがあった場合、最初のキーの小計の小数点以下の桁数は 2 桁に、2 番目以降のキーでは 5 桁となります。また、小数点以下の無意味な部分 (末尾に付加されている“0”) はデータとして認められません。
- ◆ 複数ページの処理中 Esc キーを押すと一時停止します。停止中に Enter キーを押すと再開します。もう一度 Esc キーを押すと中止します。

例題

65 ページ「売上帳」のデータの、得意先ごとに小計と総計を求めます。

R : 65 

T C 

 画面のデータを集計する。

3  1 番目のキー列には、3 列目を指定する。

 キー列の指定を終了する。

I , 10 , 12  小計行を挿入して、10 列目 (金額) と 12 列目 (粗利益) だけを集計する。

 結果を画面に書き込む。

実行前

65	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	【売上帳】				95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日	伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額
5										
6	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
7	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
8	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
9	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファル	A	100	800	80,000
10	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ナイ	C	500	300	150,000
11	950421	10031	103	システム2001	1013	両面テープ	B	200	800	160,000
12	950427	10037	104	システム2001	1025	平行定規	F	50	600	30,000
13	950420	10030	105	伊藤テサ心(株)	1006	ファル	A	200	800	160,000
14	950428	10038	105	伊藤テサ心(株)	1006	ファル	A	100	800	80,000
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
≡仕事は≡										

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	【売上帳】				95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,5,12									
3										
4	年月日	伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額
5										
6	950407	10007	101	(株)TUBE森野	1008	情報カード	A	200	300	60,000
7	950428	10039	101	(株)TUBE森野	1001	A4用紙	A	500	580	290,000
8										350,000
9	950410	10009	102	(有)上越工務店	1025	平行定規	F	250	600	150,000
10	950410	10009	102	(有)上越工務店	1006	ファル	A	100	800	80,000
11	950418	10028	102	(有)上越工務店	1014	ナイ	C	500	300	150,000
12										380,000
13	950421	10031	103	システム2001	1013	両面テープ	B	200	800	160,000
14										160,000
15	950427	10037	104	システム2001	1025	平行定規	F	50	600	30,000
16										30,000
17	950420	10030	105	伊藤テサ心(株)	1006	ファル	A	200	800	160,000
18	950428	10038	105	伊藤テサ心(株)	1006	ファル	A	100	800	80,000
19										240,000
20										1,160,000
21										
≡仕事は≡										

- ファイル名の一覧を表示します。

仕事は =

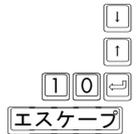


No.	名前	作成日	型	頁数	ドライブ	キーワード	備考
1	S	95.05.01	F	25	C		サブページ
2	M	95.05.01	F	100	C		マスターページ
3	A	95.05.01	F	100	A		フロッピーファイル 1
4	E	95.05.01	F	100	E		フロッピーファイル 2
10	SYS	95.05.01	V	37	C		システムファイル
15	顧客名簿	95.05.01	F	50	C		

見たいファイルの番号は (↓, ↑, [数字]) :

ファイル一覧が表示されます。

- 下方方向へスクロールする。
- 上方方向へスクロールする。
- 10番目のファイルを先頭にして表示する。
- ファイル一覧の表示を終了する。



インデックス型ファイルは、ドライブの欄の右端に“1”が表示されます。

TIME

Time (タイム)

時刻の表示や変更を行う

- 現在の時刻を表示させることができます。
- セットされている時刻を、変更することができます。
- セットした時刻に、命令やオートプログラムなどを実行することができます。

仕事は =

T I M E ↵

- 1 時刻変更
- 2 時刻表示
- 3 タイマーセット

選択するのは (1 ~ 3) :

時刻を変更するのか、表示させるのか、タイマーをセットするのかを番号で選択します。

- 時刻を変更する。
- 時刻を表示する。
- タイマーをセットする。

1 (または)

2

3

【時刻変更を選んだ場合】

現在の時刻は 18 時 45 分 20 秒です

時刻を入れてください
(時・分・秒の順で) :

時刻を入力します。

- 午後 7 時に変更する。
- 現在設定されている時刻を変更しない。

1 9 0 0 0 0

↵

セットするときには、時と分と秒の間にピリオド (.) を入れてください。ピリオドの代わりに、ハイフン (-) やスラッシュ (/) など使えます。

【時刻表示を選んだ場合】

現在の時刻は 15 時 25 分 50 秒です

現在の時刻がリアルタイムで表示されます。

1 秒経過するたびに、“ピッ”という音が鳴ります。

【エスケープ】キーを押すと、“仕事は = ”の状態に戻ります。

【タイマーセットを選んだ場合】

現在の時刻は 15 時 25 分 50 秒です

何時何分何秒より処理を開始しますか :

タイマーセットの時刻を指定します。

- 午後 5 時 30 分にセットする。

1 7 . 3 0 0 0 0

実行する内容は :

セットした時刻がきたときに、実行する内容を指定します。

- “売上”というオートを実行する。

RUN 売上

タイマーセットを行って待機中は、他の命令を受け付けません。

途中で、【エスケープ】キーを押すと、“処理を中止しますか[Y/N] : ”のメッセージが表示されます。中止するときは【Y】 (または【N】)、続行するときは【N】とキーを押します。

実行する内容にコロン (:) やエスケープ (ESC :) がある場合は、全体をダブルコーテーション (“ ”) で囲んでください。

INFORMATION

- ◆時刻は 24 時間法で表示されます。(例：午後 3 時 25 分 50 秒は 15 時 25 分 50 秒)
- ◆ T I M E 命令で時刻の変更を行うと、システムの時刻も変更されます。

- ◆時刻の指定では、時と分と秒の間にコロン (:) を入れて指定することもできます。ただし、コロン (:) を使って時刻を指定する場合は、全体をダブルコーテーション (“ ”) で囲んでください。

縦方向・横方向の合計を求める

- 縦方向、横方向の合計を求めます。
- 同時に縦・横両方の合計も求めることもできます。

実行前の確認

- 小数点以下の桁数は、あらかじめDR命令で設定しておきます。

類似命令

- TC...小計・総計を求める。

仕事は =



合計を求める範囲は :

合計を求める範囲を指定します。

- 縦方向・横方向両方のすべての合計を求める。
 - 縦方向のすべての合計を求める。
 - 横方向のすべての合計を求める。
 - 2列目から最終列(T)までの合計を求める。
 - 6行目から最終行(T)までの範囲で、2列目だけの合計を求める。
 - 1列目から最終列(T)までの範囲で、最終行だけは求めない。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、条件式指定が可能です。

INFORMATION

- ◆ 縦または横方向の合計は、指定された範囲の次の行・列に合計欄を追加して書き込みます。
- ◆ 合計欄は自動的に作られますので、前もって作っておく必要はありません。

- ◆ 計算結果の整数部の桁数が、書き込み先の桁数を越えた場合、そのセルを“*”でうめます。
- ◆ スペースは“O”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。

例題

66 ページ「支店別売上表 94 年」のデータの、縦方向および横方向のすべての合計を求めます。

R : 66回

TL回

回.....縦方向および横方向のすべての合計を求める。

実行前

支店名	4月	5月	6月
A支店	70,000	38,000	80,000
B支店	30,000	60,000	70,000
C支店	70,000	35,000	90,000

実行後

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000

**縦軸、横軸を指定してマトリックス表を作る**

- 今ある表の2つの列を縦軸、横軸に指定して、新しいマトリックス集計表を作ります。
- 集計方法には①項目別の数値集計、②項目別のデータ発生件数の集計、③横項目に範囲を指定したデータ発生件数の集計、④横項目に範囲を指定した数値集計、⑤スケジュール表などに使う文字集計、⑥指定した列の範囲を指定した数値集計の6つの種類があります。

実行前の確認

- 先頭ページが混在モードの場合は、集計中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合、混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- TMT... 3次元マトリックス表を作ります。

仕事は =



集計するページは [画面 ←] :

集計するデータのあるページを指定します。

- 画面のデータを集計する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

縦軸は何列目ですか :

マトリックス表の縦軸にする、列の番号を指定します。

- 1列目を縦軸にとる。
- 縦軸はとらない。
- 単独、H・T、@指定が可能です。
- キーのみを押した場合、データの合計件数だけのマトリックス表を作ります。

横軸は何列目ですか :

マトリックス表の横軸にする、列の番号を指定します。

- 2列目を横軸にとる。
- 横軸はとらない。
- 単独、H・T、@指定が可能です。
- 集計方法の“2…件数”、“3…範囲別件数”、“4…範囲別数値”は、ここで指定した列をデータ列として集計します。

1 数値	4 範囲別数値
2 件数	5 文字集計
3 範囲別件数	6 範囲別数値 (指定列)

集計方法は (1 ~ 6) :

集計方法を番号で選択します。

- データ列を指定して、その数値集計をする。
- 横軸に指定した列のデータ発生件数を、項目別に集計する。 (または)
- 横軸に指定した列のデータ発生件数を、ある範囲に分けて集計する。
- 横軸に指定した列の数値を、ある範囲に分けて集計する。
- データ列を指定して、その文字データを縦・横にあてはめたマトリックス表を作る。
- データ列を指定して、その数値をある範囲に分けて集計する。

【数値、または文字集計を選んだ場合】

集計するのは何列目ですか :

集計する数値、または文字データの列を指定します。

- 3列目のデータを集計する。
- 単独、H・T、@指定が可能です。

【範囲別件数、または範囲別数値、範囲別数値（指定列）を選んだ場合】

範囲を指定してください
(初めの値, 分割数, 増分) :

横軸に指定した列をある範囲ごとに集計するので、その範囲を“初めの値, 分割数, 増分”で指定します。

- 初めの値を 100、分割数を 4、増分を 10 にする。

例のように指定すると、100 未満、110 未満、120 未満、120 以上、の 4 項目に分けて集計します。

分割数は最大 32 までです。

増分にマイナスの指定を行うことができます。

“6”の範囲別数値（指定列）の場合は、このあと集計するデータの列を指定します。

【範囲別数値（指定列）を選んだ場合】

集計するのは何列目ですか :

集計する数値、または文字データの列を指定します。

- 3 列目のデータを集計する。

単独、H・T、@指定が可能です。

新しい 1 行の長さは
(~ 900, [変更なし]) :

集計結果のマトリックス表のページサイズを変更する場合は、そのページの 1 行の桁数を指定します。

- 1 行を半角文字で 300 桁に変更する。

- 集計データの最初のページサイズと同じにする。

- 処理可能な最小のページサイズにする。

INFORMATION

◆ データの種類が多すぎたり、指定した範囲の分割数が多くて、集計結果の表がページ内に収まらない場合、はみだした分のデータは“その他”として集計されます。それを防ぐ場合は、“新しい 1 行の長さは : ”で 1 行の桁数を調整してください。また 1 行の桁数を変えることで、意図的に“その他”の項目を作ることができます。

◆ 複数ページの処理中、**Esc** キーを押すと一時停止します。停止中に **Enter** キーを押すと再開します。もう一度 **Esc** キーを押すと中止します。

◆ T M 命令実行後、できた表の横軸の桁数（第 2 列から最終列まで）は、集計方法（1～6）により異なります。

集計方法が、“1” “4” “6” の場合

a : 集計対象列の桁数 + モード（漢字モードは 4 桁、混在

モードは 2 桁）

b : 横軸の列の桁数

★ a と b のうち、大きい方が新しい桁数となる。

集計方法が “2” の場合

集計対象列（横軸の列）の桁数が新しい桁数となる。

集計方法が “3” の場合

横軸の列の桁数 + モード（漢字モードは 2 桁、混在モードは 1 桁）の数値が新しい桁数となる。

集計方法が “5” の場合

横軸の列の桁数と集計対象列の桁数のうち、大きい方が新しい桁数となる。

例題

67 ページ「商品売上帳」を、支店別商品群別で金額を集計します。

R : 67回

TM回

- ☑.....画面のデータを集計する。
- 3回.....縦軸には3列目(支店名)を指定する。
- 4回.....横軸には4列目(商品群)を指定する。
- 1回.....数値を集計する。
- 8回.....8列目(金額)の数値を集計する。
- ☑.....1行の長さは変更しない。

実行前

67	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...	
1	商品売上帳							95.04.01	混	L=0085	C=0090
2	F=2,2,8,10,16,6,10,12										
3											
4	月日	支店名	商品群	品名	数量	単価	金額				
5											
6	4 3	A支店	パソコン	アッパル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000				
7	4 3	B支店	パソコン	AMカンパリスⅧ	3	320,000	960,000				
8	4 5	C支店	VTR	マツダトVWYU	2	78,000	156,000				
9	4 6	C支店	TV	PRESTAGE WX40	4	120,000	480,000				
10	4 6	C支店	VTR	霸王 VT	1	125,000	125,000				
11	4 7	B支店	パソコン	SB/V ビジョン	3	430,000	1,290,000				
12	4 11	B支店	TV	ニュービジョン WD5	2	310,000	620,000				
13	4 12	C支店	パソコン	ロザリオ 334	2	250,000	500,000				
14	4 13	A支店	TV	コヒカハツ KB20	7	90,000	630,000				
15	4 18	A支店	パソコン	アッパル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000				
16	4 19	A支店	TV	霸王 C28	6	220,000	1,320,000				
17	4 20	C支店	パソコン	ロザリオ 334	10	250,000	2,500,000				
18	4 24	B支店	VTR	マツダトVWYU	4	78,000	312,000				
19	4 26	B支店	TV	ニュービジョン WD5	10	430,000	4,300,000				
20	4 27	C支店	パソコン	SB/V ビジョン	5	430,000	2,150,000				
21	4 28	A支店	TV	ニュービジョン WD5	3	310,000	930,000				

実行後

0	1	2	3	4	5	...	7	...	
1	商品売上帳					95.04.01	混	L=0085	C=0090
2	F=8,14,14,14,14								
3									
4	支店名	パソコン	VTR	TV	合計				
5									
6	A支店	18,450,000	3,076,000	10,010,000	31,536,000				
7	B支店	13,310,000	4,530,000	7,750,000	25,590,000				
8	C支店	15,590,000	1,749,000	3,140,000	20,479,000				
9	合計	47,350,000	9,355,000	20,900,000	77,605,000				

例題

67 ページ「商品売上帳」を、支店別商品群別で売上件数を集計します。

R : 67回

TM回

- ☑.....画面のデータを集計する。
- 3回.....縦軸には3列目(支店名)を指定する。
- 4回.....横軸には4列目(商品群)を指定する。
- 2回.....件数を集計する。
- ☑.....1行の長さは変更しない。

実行前

67	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...	
1	商品売上帳							95.04.01	混	L=0085	C=0090
2	F=2,2,8,10,16,6,10,12										
3											
4	月日	支店名	商品群	品名	数量	単価	金額				
5											
6	4 3	A支店	パソコン	アッパル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000				
7	4 3	B支店	パソコン	AMカンパリスⅧ	3	320,000	960,000				
8	4 5	C支店	VTR	マツダトVWYU	2	78,000	156,000				
9	4 6	C支店	TV	PRESTAGE WX40	4	120,000	480,000				
10	4 6	C支店	VTR	霸王 VT	1	125,000	125,000				
11	4 7	B支店	パソコン	SB/V ビジョン	3	430,000	1,290,000				
12	4 11	B支店	TV	ニュービジョン WD5	2	310,000	620,000				
13	4 12	C支店	パソコン	ロザリオ 334	2	250,000	500,000				
14	4 13	A支店	TV	コヒカハツ KB20	7	90,000	630,000				
15	4 18	A支店	パソコン	アッパル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000				
16	4 19	A支店	TV	霸王 C28	6	220,000	1,320,000				
17	4 20	C支店	パソコン	ロザリオ 334	10	250,000	2,500,000				
18	4 24	B支店	VTR	マツダトVWYU	4	78,000	312,000				
19	4 26	B支店	TV	ニュービジョン WD5	10	430,000	4,300,000				
20	4 27	C支店	パソコン	SB/V ビジョン	5	430,000	2,150,000				
21	4 28	A支店	TV	ニュービジョン WD5	3	310,000	930,000				

実行後

0	1	2	3	4	5	...	6	...	
1	商品売上帳					95.04.01	混	L=0085	C=0090
2	F=8,10,10,10,10								
3									
4	支店名	パソコン	VTR	TV	合計				
5									
6	A支店	6	5	10	21				
7	B支店	9	5	5	19				
8	C支店	8	4	4	16				
9	合計	23	14	19	56				

例題

67 ページ「商品売上帳」を、支店別数量別で販売回数を範囲で集計します。

R : 67回

TM回

- 回.....画面のデータを集計する。
- 3 回.....縦軸には 3 列目 (支店名) を指定する。
- 6 回.....横軸には 6 列目 (数量) を指定する。
- 3 回.....範囲別件数を集計する。
- 5, 4, 5 回.....初めの値を “ 5 ”、分割数を “ 4 ”、増分を “ 5 ” にする。
- 回.....1 行の長さは変更しない。

実行前

67	1	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...	+				
1	[商品売上帳]											95.04.01	混	L=0085	C=0090	
2	F=2,2,8,10,16,6,10,12															
3																
4	月日	支店名	商品群	品名	数量	単価	金額									
5																
6	4 3	A支店	パソコン	アッフル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000									
7	4 3	B支店	パソコン	AMカントリーⅥ	3	320,000	960,000									
8	4 5	C支店	VTR	マッドトVYU	2	78,000	156,000									
9	4 6	C支店	TV	PRESTAGE WX40	4	120,000	480,000									
10	4 6	C支店	VTR	霸王 VT	1	125,000	125,000									
11	4 7	B支店	パソコン	SB/V ビジョン	3	430,000	1,290,000									
12	4 11	B支店	TV	ニュービジョン WD5	2	310,000	620,000									
13	4 12	C支店	パソコン	ロザリオ 334	2	250,000	500,000									
14	4 13	A支店	TV	コジカハツ KB20	7	90,000	630,000									
15	4 18	A支店	パソコン	アッフル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000									
16	4 19	A支店	TV	霸王 C28	6	220,000	1,320,000									
17	4 20	C支店	パソコン	ロザリオ 334	10	250,000	2,500,000									
18	4 24	B支店	VTR	マッドトVYU	4	78,000	312,000									
19	4 26	B支店	TV	ニュービジョン WD5	10	430,000	4,300,000									
20	4 27	C支店	パソコン	SB/V ビジョン	5	430,000	2,150,000									
21	4 28	A支店	TV	ニュービジョン WD5	3	310,000	930,000									
仕事は=																

実行後

0	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7	...	+					
1	[商品売上帳]													95.04.01	混	L=0085	C=0090		
2	F=8,7,7,7,7,7																		
3																			
4	支店名	<5	<10	<15	以上	合計													
5																			
6	A支店	6	11	3	1	21													
7	B支店	10	5	3	1	19													
8	C支店	7	6	3	1	16													
9	合計	23	22	9	2	56													
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
19																			
20																			
21																			
仕事は=																			

例題

67 ページ「商品売上帳」を、各支店の商品の販売数量を範囲別で集計します。

R : 67回

TM回

- 回.....画面のデータを集計する。
- 3 回.....縦軸には 3 列目 (支店名) を指定する。
- 6 回.....横軸には 6 列目 (数量) を指定する。
- 4 回.....範囲別数値を集計する。
- 5, 4, 5 回.....初めの値を “ 5 ”、分割数を “ 4 ”、増分を “ 5 ” にする。
- 回.....1 行の長さは変更しない。

実行前

67	1	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...	+					
1	[商品売上帳]											95.04.01	混	L=0085	C=0090		
2	F=2,2,8,10,16,6,10,12																
3																	
4	月日	支店名	商品群	品名	数量	単価	金額										
5																	
6	4 3	A支店	パソコン	アッフル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000										
7	4 3	B支店	パソコン	AMカントリーⅥ	3	320,000	960,000										
8	4 5	C支店	VTR	マッドトVYU	2	78,000	156,000										
9	4 6	C支店	TV	PRESTAGE WX40	4	120,000	480,000										
10	4 6	C支店	VTR	霸王 VT	1	125,000	125,000										
11	4 7	B支店	パソコン	SB/V ビジョン	3	430,000	1,290,000										
12	4 11	B支店	TV	ニュービジョン WD5	2	310,000	620,000										
13	4 12	C支店	パソコン	ロザリオ 334	2	250,000	500,000										
14	4 13	A支店	TV	コジカハツ KB20	7	90,000	630,000										
15	4 18	A支店	パソコン	アッフル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000										
16	4 19	A支店	TV	霸王 C28	6	220,000	1,320,000										
17	4 20	C支店	パソコン	ロザリオ 334	10	250,000	2,500,000										
18	4 24	B支店	VTR	マッドトVYU	4	78,000	312,000										
19	4 26	B支店	TV	ニュービジョン WD5	10	430,000	4,300,000										
20	4 27	C支店	パソコン	SB/V ビジョン	5	430,000	2,150,000										
21	4 28	A支店	TV	ニュービジョン WD5	3	310,000	930,000										
仕事は=																	

実行後

0	1	2	3	4	5	6	...	5	...	6	...	7	...	+					
1	[商品売上帳]													95.04.01	混	L=0085	C=0090		
2	F=8,8,8,8,8,8																		
3																			
4	支店名	<5	<10	<15	以上	合計													
5																			
6	A支店	16	63	32	15	126													
7	B支店	26	28	30	15	99													
8	C支店	17	39	30	16	86													
9	合計	59	130	92	30	311													
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
19																			
20																			
21																			
仕事は=																			

例題

68 ページ「現場ローテーション」を、曜日別の各現場のローテーション表を作成します。

R : 68回

TM回

- 画面のデータを集計する。
- 1回.....縦軸には1列目(曜日)を指定する。
- 2回.....横軸には2列目(現場)を指定する。
- 5回.....文字集計を指定する。
- 3回.....3列目(氏名)を集計する。
- 画面の1行の長さは変更しない。

実行前

68	1	2	3	4	5	6	7
1	[現場ローテーション]			95.04.01	混	L=0055	C=0170
2	F=6,8,6						
3							
4	曜日	現場	氏名				
5							
6	月	大井町	高橋				
7	火	大井町	中林				
8	水	大井町	高橋				
9	木	大井町	田中				
10	金	大井町	中村				
11	月	鯉洲	後藤				
12	火	鯉洲	田中				
13	水	鯉洲	佐藤				
14	木	鯉洲	大林				
15	金	鯉洲	佐藤				
16	月	錦糸町	鈴木				
17	火	錦糸町	鈴木				
18	水	錦糸町	大林				
19	木	錦糸町	小林				
20	金	錦糸町	大林				
21							

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7
1	[現場ローテーション]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=6,8,8,8						
3							
4	曜日	大井町	鯉洲	錦糸町			
5							
6	月	高橋	後藤	鈴木			
7	火	中林	田中	鈴木			
8	水	高橋	佐藤	大林			
9	木	田中	大林	小林			
10	金	中村	佐藤	大林			
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

例題

67 ページ「商品売上帳」を、支店別で単価の範囲を指定して金額を集計します。

R : 67回

TM回

- 画面のデータを集計する。
- 3回.....縦軸には3列目(支店名)を指定する。
- 7回.....横軸には7列目(単価)を指定する。
- 6回.....範囲別数値(指定列)を集計する。
- 100000, 3, 200000回.....初めの値を“100000”、分割数を“3”、増分を“200000”にする。
- 8回.....8列目(金額)の数値を集計する。
- 画面の1行の長さは変更しない。

実行前

67	2	3	4	5	6	7	8	...	7
1	[商品売上帳]			95.04.01	混	L=0085	C=0090		
2	F=2,2,8,10,16,6,10,12								
3									
4	月日	支店名	商品群	品名	数量	単価	金額		
5									
6	4 3	A支店	パソコン	コアール GOAⅧ	5	450,000	2,250,000		
7	4 3	B支店	パソコン	AMカドリス VI	3	320,000	960,000		
8	4 5	C支店	VTR	マッドトVYU	2	78,000	156,000		
9	4 6	C支店	TV	PRESTAGE WX40	4	120,000	480,000		
10	4 6	C支店	VTR	霸王 VT	1	125,000	125,000		
11	4 7	B支店	パソコン	SB/V ビジョン	3	430,000	1,290,000		
12	4 11	B支店	TV	ニュービジョン WD5	2	310,000	620,000		
13	4 12	C支店	パソコン	ロザリオ 334	2	250,000	500,000		
14	4 13	A支店	TV	コシカハッツ KB20	7	90,000	630,000		
15	4 18	A支店	パソコン	コアール GOAⅧ	5	450,000	2,250,000		
16	4 19	A支店	TV	霸王 C28	6	220,000	1,320,000		
17	4 20	C支店	パソコン	ロザリオ 334	10	250,000	2,500,000		
18	4 24	B支店	VTR	マッドトVYU	4	78,000	312,000		
19	4 26	B支店	TV	ニュービジョン WD5	10	430,000	4,300,000		
20	4 27	C支店	パソコン	SB/V ビジョン	5	430,000	2,150,000		
21	4 28	A支店	TV	ニュービジョン WD5	3	310,000	930,000		

実行後

0	1	2	3	4	5	6	7	...	7
1	[商品売上帳]			95.04.01	混	L=0085	C=0090		
2	F=8,14,14,14,14								
3									
4	支店名	<100000	<300000	以上	合計				
5									
6	A支店	1,956,000	8,650,000	20,930,000	31,536,000				
7	B支店	780,000	5,030,000	19,780,000	25,590,000				
8	C支店	624,000	9,395,000	10,460,000	20,479,000				
9	合計	3,360,000	23,075,000	51,170,000	77,605,000				
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									

縦軸・第2縦軸・横軸を指定して、三次元マトリックス表を作る

- 今ある表から縦軸・第2縦軸・横軸に指定して、新しい三次元マトリックス集計表を作ります。
- 集計方法には①項目別の数値集計、②項目別のデータ発生件数の集計、③スケジュール表などに使う文字集計の3種類があります。

実行前の確認

- 先頭ページが混在モードの場合は、集計中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- T M...縦軸・横軸を指定して、マトリックス表を作ります。

仕事は =



集計するページは[画面 ↵] :

集計するデータのあるページを指定します。
複数ページの集計もできます。

- 画面のデータを集計する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

縦軸は何列目ですか :

マトリックス表の1番目の縦軸にする、列の番号を指定します。

- 1列目を縦軸にとる。
- 2列目を縦軸にとる。
- 単独、H・T、@指定が可能です。

第2縦軸は何列目ですか :

マトリックス表の2番目の縦軸にする、列の番号を指定します。

- 2列目を縦軸にとる。
- 3列目を縦軸にとる。

横軸は何列目ですか :

マトリックス表の横軸にする、列の番号を指定します。

- 3列目を横軸にする。
- 4列目を横軸にとる。
- 単独、H・T、@指定が可能です。

- 1 数値
- 2 件数
- 3 文字集計

集計方法は (1 ~ 3) :

集計方法を番号で選択します。

- 集計に指定した列の数値を集計する。
- 横軸に指定した列の項目別に、集計に指定した列のデータ発生件数を集計する。
- 横軸に指定した列の項目別に、集計に指定した列の文字データを縦・横に当てはめたマトリックス表を作る。

集計するのは何列目ですか :

集計する数値、または文字データの列を指定します。

- 3列目のデータを集計する。
- 単独、H・T、@指定が可能です。

現在の桁数は です

新しい1行の長さは
(〇 ~ 900 , [変更なし ↵]) :

集計結果のマトリックス表のページサイズを変更する場合は、そのページの1行の桁数を指定します。

- 1行を半角文字で300桁に変更する。
- 集計データの最初のページサイズと同じにする。

INFORMATION

- ◆データの種類が多すぎて、集計結果の表がページ内に収まらない場合、はみ出した分のデータは“その他”として集計されます。それを防ぐには、“新しい1行の長さは：”のメッセージで行の長さを調整してください。また、これを利用して、意図的に“その他”の項目を作ることできます。
- ◆列の指定で キーのみの指定は行えません。必ず列番号を指定してください。

- ◆複数ページを集計中に キーを押すと一時停止します。停止中に キーを押すと再開します。もう一度 キーを押すと処理を中止します。
- ◆T M命令実行後、できた表の横軸の桁数(3列目から最終列まで)は、集計に指定した列の桁数が新しい桁数となります。
- ◆横軸の列の桁数と、集計に指定した列の桁数のうち、大きい方が新しい桁数となります。

例題

67 ページ「商品売上帳」のデータから、各支店が何月にどの商品群をいくら販売したか、その金額を三次元集計します。

R : 67

T M T

-画面のデータを集計する。
- 3 縦軸には3列目(支店名)を指定する。
- 1 第2縦軸には1列目(月)を指定する。
- 4 横軸には4列目(商品群)を指定する。
- 1 数値を集計する。
- 8 8列目(金額)の数値を集計する。
-1行の長さは変更しない。

実行前

67	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...	4
1	[商品売上帳]										
2	F=2,2,8,10,16,6,10,12 95.04.01 混 L=0085 C=0090										
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
4	月日	支店名	商品群	品名	数量	単価	金額				
5	6	4 3	A支店	パソコン	アッパル GOA VII	5	450,000	2,250,000			
6	7	4 3	B支店	パソコン	AMカントリー VI	3	320,000	960,000			
7	8	4 5	C支店	VTR	マッドロード VVYU	2	78,000	156,000			
8	9	4 6	C支店	TV	PRESTAGE WX40	4	120,000	480,000			
9	10	4 6	C支店	VTR	霸王 VT	1	125,000	125,000			
10	11	4 7	B支店	パソコン	SB/V ビジョン	3	430,000	1,290,000			
11	12	4 11	B支店	TV	ニュービジョン WD5	2	310,000	620,000			
12	13	4 12	C支店	パソコン	ロザリオ 334	2	250,000	500,000			
13	14	4 13	A支店	TV	コシカハッツ KB20	7	90,000	630,000			
14	15	4 18	A支店	パソコン	アッパル GOA VII	5	450,000	2,250,000			
15	16	4 19	A支店	TV	霸王 C28	6	220,000	1,320,000			
16	17	4 20	C支店	パソコン	ロザリオ 334	10	250,000	2,500,000			
17	18	4 24	B支店	VTR	マッドロード VVYU	4	78,000	312,000			
18	19	4 26	B支店	TV	ニュービジョン WD5	10	430,000	4,300,000			
19	20	4 27	C支店	パソコン	SB/V ビジョン	5	430,000	2,150,000			
20	21	4 28	A支店	TV	ニュービジョン WD5	3	310,000	930,000			
21	仕事は=										

実行後

0	1	2	3	4	5	6	...	6	...	7	...	4
1	[商品売上帳]											
2	F=8,2,12,12,12,12 95.04.01 混 L=0085 C=0090											
3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4	支店名	月	パソコン	VTR	TV	合計						
5	6	A支店	4	4500000	250000	2880000	7630000					
6	7	B支店	4	2250000	312000	4920000	7482000					
7	8	C支店	4	5150000	281000	480000	5911000					
8	9	A支店	5	9450000	858000	1160000	11468000					
9	10	B支店	5	6950000	1250000	2390000	10590000					
10	11	C支店	5	2040000	1000000	1200000	4240000					
11	12	A支店	6	4500000	1968000	5970000	12438000					
12	13	B支店	6	4110000	2968000	440000	7518000					
13	14	C支店	6	8400000	468000	1460000	10328000					
14	15	合計		47350000	9355000	20900000	77605000					
15	仕事は=											

複数ページの同位置のセルの数値を計算する

- 複数のページにわたって、同位置にあるセルの数値を四則演算します。

実行前の確認

- 小数点以下の桁数は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- 各ページと同じ行、同じ列にある数値を計算するので、行数や列数が違っていると思いどおりに集計できません。各ページの表のフォーマットをすべて統一してから計算してください。
- 計算結果、新しくできる表の表題、フォーマット、項目行などはすべて、先頭ページと同じです。したがって、各ページのフォーマットが異なる場合、先頭ページの行・列からはみ出したデータは無視され、小さい場合は、不足するセルには“0”が入っているものとして計算します。

仕事は =



計算するページは [画面 ↵] :

計算するデータのあるページを指定します。

- 1 から 3 ページまでの、同位置のセルを加算する。
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
- キーを押して画面を選んだ場合、なにも計算しません。

計算の種類は [+ , - , * , /] :

計算の種類を指定します。

- ページの先頭から順に、加算を繰り返す。 (または)
- ページの先頭から順に、減算を繰り返す。
- ページの先頭から順に、乗算を繰り返す。
- ページの先頭から順に、除算を繰り返す。

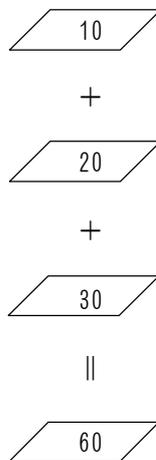
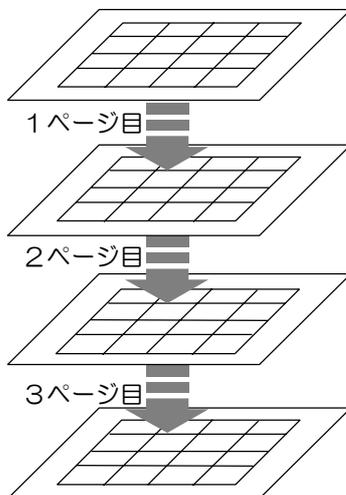
結果の書き込みページは
[印刷 P , 画面 ↵] :

計算した結果をどうするか指定します。

- 10 ページに書き込む。
- 印刷する。
- 画面に表示する。

INFORMATION

- ◆ スペースは“0”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。
- ◆ 計算結果（整数部）が書き込み先の桁数を越えた場合、そのセルを“*”でうめめます。
- ◆ 複数ページの処理中、**エスケープ**キーを押すと一時停止します。停止中に**↵**キーを押すと再開します。もう一度**エスケープ**キーを押すと中止します。



1 ページ目から 3 ページ目までの同位置のセルを加算する。

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」と、11 ページ「支店別売上表 93 年」のデータから、各支店の前年同月比を求めます。

まず DR 命令で、小数点以下の桁数を “ 3 桁 ” に、計算結果を “ 四捨五入 ” に設定しておきます。

DR ③ ④ ① ④

TP ④

10-11 回.....10 ページから 11 ページのデータを集計する。

/ ④.....最初のページを、指定したページで次々に除算する。

④.....結果を画面に書き込む。

★結果は倍率になります。これをパーセント (%) に直すには、小数点以下を調節してから、全体に 100 を掛けます。

実行前 (10 ページ「支店別売上表 94 年」)

10	1	2	3	4	57.....+
1	【支店別売上表94年】				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4		支店名	4月	5月	6月	合計
5						
6		A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
7		B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
8		C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
9		合計	170,000	133,000	240,000	543,000
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						



実行後

0	1	2	3	4	57.....+
1	【支店別売上表94年】				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4		支店名	4月	5月	6月	合計
5						
6		A支店	1.556	0.950	0.941	1.106
7		B支店	0.667	2.609	1.077	1.203
8		C支店	1.077	1.750	0.818	1.000
9		合計	1.097	1.602	0.923	1.090
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

(11 ページ「支店別売上表 93 年」)

11	1	2	3	4	57.....+
1	【支店別売上表93年】				95.04.01	混 L=0050 C=0170
2	F=14,12,12,12,12					
3						
4		支店名	4月	5月	6月	合計
5						
6		A支店	45,000	40,000	85,000	170,000
7		B支店	45,000	23,000	65,000	133,000
8		C支店	65,000	20,000	110,000	195,000
9		合計	155,000	83,000	260,000	498,000
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

- 表の縦の内容を横に、横の内容を縦に入れ替えます。

実行前の確認

- 行と列を入れ替えた結果、表ページのサイズを超えてしまった場合は、その時点で入れ替えを中止します。

類似命令

- X Y...項目行を指定して、表の行と列を入れ替えます。

仕事は =



INFORMATION

- ◆ 行と列のデータ数が等しくなくても、入れ替えることができます。
- ◆ TRP 命令を行う場合、縦と横のデータ数によって次のような表を作ります。
- ◆ ケイ線が引かれていても、行列の入れ替えに問題はありません。

縦項目 (A、 B、 C) と横項目 (イ、 ロ、 ハ) の数が同じとき、

(元の表)				(入れかえた表)			
	イ	ロ	ハ		A	B	C
A	1	2	3	イ	1	4	7
B	4	5	6	ロ	2	5	8
C	7	8	9	ハ	3	6	9

縦項目 (A、 B) より、横項目 (イ、 ロ、 ハ、 ニ) の数のほうが大きいとき、

(元の表)					(入れかえた表)				
	イ	ロ	ハ	ニ		A	B		
A	1	2	3	4	イ	1	5		
B	5	6	7	8	ロ	2	6		
					ハ	3	7		
					ニ	4	8		

横項目の多い分だけ、新しい表に行を増やします。

横項目 (イ、 ロ) より、縦項目 (A、 B、 C、 D) の数のほうが大きいとき、

(元の表)			(入れかえた表)				
	イ	ロ		A	B	C	D
A	123456	1234	イ	123456	1000	2000	300
B	1000	100	ロ	1234	100	20	3
C	2000	20					
D	300	3					

縦項目の多い分だけ、新しい表に列を増やします。その際、新しく作る “ C ” と “ D ” の列は “ A ” “ B ” の中で一番大きい有効桁数になります。

例題

5 ページ「売上集計表」の、行と列を入れかえます。

R : 5 回

T R P 回

実行前

M	5	1	2	3	4	5	6	7
1	[売上集計]							
2	F=6,12,6		95.04.01	混	L=0067	C=0120		
3								
4	品名	売上	%					
5								
6	F	968,000	37.9					
7	A	754,000	29.5					
8	G	324,000	12.6					
9	B	262,000	10.2					
10	C	128,000	5.0					
11	E	62,000	2.4					
12	D	54,000	2.1					
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								



実行後

M	5	1	2	3	4	5	6	7	8
1	[売上集計]								
2	F=6,12,6,7,7,7,7,7		95.04.01	混	L=0067	C=0120			
3									
4	品名	F	A	G	B	C	E	D	
5									
6	売上	968,000	54,000	324,000	262,000	128,000	62,000	54,000	
7	%	37.9	29.5	12.6	10.2	5.0	2.4	2.1	
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									

- 表の中の連続した複数の列を、ひとつの列に結合します。

実行前の確認

- 結合できるのは、連続している列です。はなれた列をひとつの列に結合することはできません。
- 複数の列を結合する場合、指定する列の合計が漢字モードでは 150 桁、混在モードでは 300 桁を超えると処理できません。

類似命令

- C F P.....指定した列の分離・結合を行う

仕事は =



何列目を結合しますか :

結合する列を指定します。

- 1 列目から 3 列目を結合する。
- 全体を結合する。



(または A) (または A)

連続、H・T、A指定が可能です。
連続していない列は結合できません。

例題

6 ページ「売上帳」の、“NO”の列と“得意先名”の列を結合します。

R : 6 回

UNIT 回

3 - 4 回..... 3 列目と 4 列目を結合する。

実行前

6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.02	混	L=0067	C=0120	
2	F=6, 4, 15, 12, 6, 6, 12, 12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	118	(株)T0商会	ファィ	100	800	80,000		
7	950403	118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
9	950403	107	(株)神崎建設	バンダ-	30	360	10,800		
10	950403	107	(株)神崎建設	透明グット	20	500	10,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ホ-ド	20	2,500	50,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	コハ-ス	30	300	9,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ホ-ト-カ-ル	15	2,000	30,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
15	950403	107	(株)神崎建設	ファィ	200	800	160,000		
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リ-フ	150	150	22,500		
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
18	950403	116	(株)全日本出版	バンダ-	25	360	9,000		
19	950403	116	(株)全日本出版	書類カ-ス	100	1,200	120,000		
20	950403	116	(株)全日本出版	ファィ	6	800	4,800		
21	仕事は =								

実行後

6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.02	混	L=0067	C=0120	
2	F=6, 4, 27, 6, 6, 12, 12								
3									
4	年月日	NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計	
5									
6	950403	118	(株)T0商会	ファィ	100	800	80,000		
7	950403	118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800		
8	950403	107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600		
9	950403	107	(株)神崎建設	バンダ-	30	360	10,800		
10	950403	107	(株)神崎建設	透明グット	20	500	10,000		
11	950403	107	(株)神崎建設	製図ホ-ド	20	2,500	50,000		
12	950403	107	(株)神崎建設	コハ-ス	30	300	9,000		
13	950403	107	(株)神崎建設	ホ-ト-カ-ル	15	2,000	30,000		
14	950403	107	(株)神崎建設	12cm三角定規	100	150	15,000		
15	950403	107	(株)神崎建設	ファィ	200	800	160,000		
16	950403	107	(株)神崎建設	50枚リ-フ	150	150	22,500		
17	950403	116	(株)全日本出版	A4用紙	20	580	11,600		
18	950403	116	(株)全日本出版	バンダ-	25	360	9,000		
19	950403	116	(株)全日本出版	書類カ-ス	100	1,200	120,000		
20	950403	116	(株)全日本出版	ファィ	6	800	4,800		
21	仕事は =								

UNLOCK

UNLOCK (アンロック)

共有ファイルの占有を解除する

- LOCK命令で設定した、共有ファイルの占有を解除します。
- 占有を解除すると、他のクライアントの待ち状態が解除されます。
- 占有ファイルの占有は、LOCK命令で行います。

実行前の確認

- 一回の操作で占有を解除できるファイルはひとつだけです。複数のファイルの占有を解除する場合は、UNLOCK命令を繰り返してください。

仕事は =

U N L O C K ↵

共有ファイル一覧が表示されます。

現在占有されているファイルには、ファイル一覧の“LOCK”欄に占有しているステーション(クライアント)名が表示されます。

- E I G Y O Uファイルの占有を解除する。 E I G Y O U ↵
他のクライアントが占有しているファイルは解除できません。

仕事は =

占有が解除されると、“仕事は =”の状態に戻ります。

INFORMATION

- ◆他のクライアントで命令の実行を待機していた場合は、解除と同時に命令が実行されます。

UPD

Update (アップデート)

表と表を照合して、条件に合うデータを書きかえる

- 他の表のデータを使って、キーの一致したデータを変更します。変更の種類には、データの修正、四則演算、大小の選択、元の表の演算などがあります。
- 逆に、キーの一致しないデータに対してマークをつけることができます。

実行前の確認

- 小数点以下の桁数は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- 書きかえる列にキー列は指定しないでください。
- 先頭ページが混在モードの場合は、集計中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- UPDS...複数ページにわたって、条件に合うデータを照合して書きかえます。
- UPM.....表と表を照合して、条件に合うデータを集計する。

仕事は =



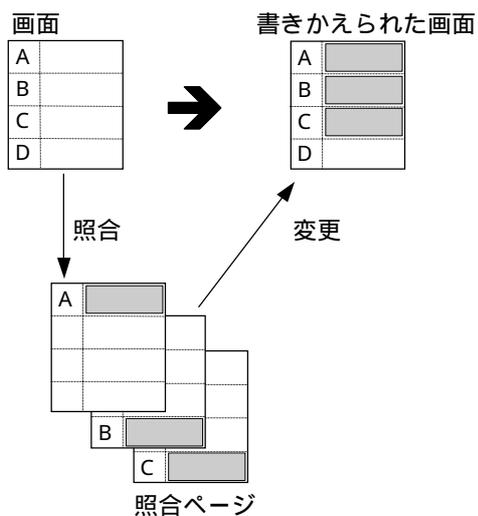
書きかえるのは
[画面 1, ページ 2, 複数 3] :

画面とページのどちらの表を変更するか、番号で選択します。

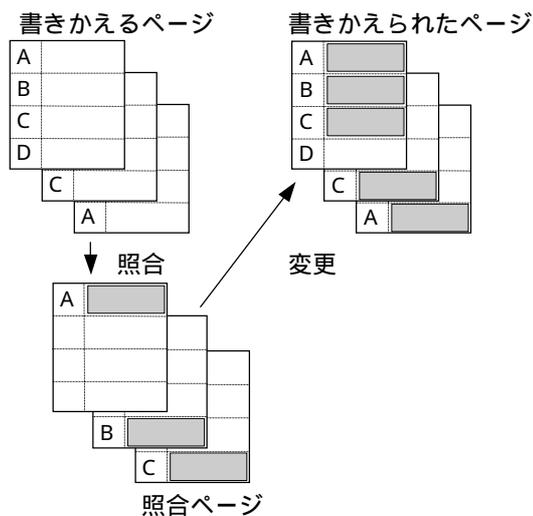
- 画面の表のデータを変更する。 (または)
- 指定ページの表のデータを変更する。
- 複数ページの表を、複数ページの表と照合して変更する。

【画面、もしくは複数を選んだ場合】

画面の場合



複数の場合



書きかえるページは [画面] :

複数を選んだ場合、書きかえや演算などを行って変更する複数ページの番号を指定します。

画面を選んだ場合はこのメッセージは表示されません。次からの操作を行ってください。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

キーのみを押すと、裏画面を指定したことになります。

照合するページは [裏画面 ・] :

画面 (または書きかえるページ) と照合するページを指定します。
ページは 1 ページだけでも、複数ページでも指定できます。
単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
 キーのみを押すと、裏画面を指定したことになります。

画面のキー列は :

画面 (または書きかえるページ) の表の中で照合のキー列となる列を、指定します。キー列は最大 5 つまで指定できます。
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
キー列を複数列指定するときは、カンマ “ , ” やハイフン “ - ” で区切って指定します。
 キーのみを押すと、1 列目を指定したことになります。

ページのキー列は :

画面 (または書きかえるページ) のキー列と対応するページのキー列を、指定します。
画面 (または書きかえるページ) のキー列を複数指定した場合、その列数だけメッセージが表示されるので、順番に指定します。
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
 キーのみを押すと、1 列目を指定したことになります。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

キー列を照合した結果が一致している行について、このあとにどのような処理をするか、指定します。

書きかえの種類は [終了 ⇐] :

《 R , M , N , + , - , * , / を選ぶと 》

ページの何列目を使いますか :

指定ページの表の中で、書きかえ処理に使うデータの列番号を指定します。

画面の何列目を書きかえますか :

画面 (または書きかえるページ) の表の中で、書きかえるデータの列番号を指定します。
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
で指定した処理で変更されたデータは、ここで指定した列に書き込まれます。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。
他に変更するものがなければ、 キーを押します。

書きかえの種類は [終了 ⇐] :

《 C を選ぶと 》

計算式は :

キー列の照合結果が一致した行に対して行う、計算式を入力します。
C 命令で使う計算式と同じです。
● 2 列目と 3 列目の合計を、4 列目に書く。  2  +  3  =  4  ⇐
ただし、ACM や DR などの命令は使えません。また、行・マトリックス・ワークエリアに関する式は使えません。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

書きかえの種類は [終了 ↵] :

キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。他に変更するものがなければ、キーを押します。

《Uを選ぶと》

ページの何列目にマークを付けますか :

キーが一致しなかった場合、ページの表に印をつけて書き込みます。どの列に印をつけるか指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
書き込み禁止のプロテクトをかけたV型ファイルの場合でも書き込みます。

画面（または書きかえるページ）のデータにはマークはつきません。

マークは :

指定した列につける印を入力します。

- “マーク”という印を入れる。

マーク 

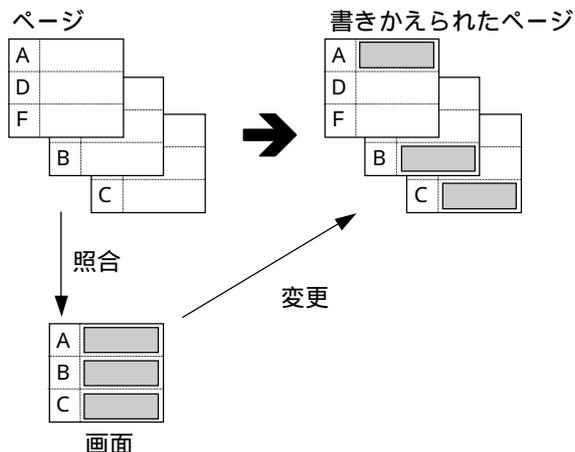
R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

書きかえの種類は [終了 ↵] :

キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。

他に変更するものがなければ、キーを押します。

【ページを選んだ場合】



書きかえるページは [裏画面 ↵] :

書きかえや演算などを行って変更するページ番号を、指定します。
複数ページの指定も可能です。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
裏画面を指定した場合は、ページには何も書き込まれません。

画面のキー列は：

画面の表の中で照合のキー列となる列を、指定します。

キー列は最大5つまで指定できます。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

キーのみを押すと、1列目を指定したことになります。

キー列を複数列指定するときは、カンマ“,”やハイフン“-”で区切って指定します。

ページのキー列は：

画面のキー列と対応するページのキー列を、指定します。

画面のキー列を複数指定した場合、その列数だけメッセージが表示されるので、順番に指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

キーのみを押すと、1列目を指定したことになります。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

キー列を照合した結果が一致している行について、このあとにどのような処理をするか、指定します。

書きかえの種類は [終了 ] :

《R, M, N, +, -, *, / を選ぶと》

ページの何列目を使いますか：

画面の表の中で、書きかえ処理に使うデータの列番号を指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

画面の何列目を書きかえますか：

指定ページの表の中で、書きかえるデータの列番号を指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

で指定した処理で変更されたデータは、ここで指定した列に書き込まれます。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。

他に変更するものがなければ、キーを押します。

書きかえの種類は [終了 ] :

《C を選ぶと》

計算式は：

キー列の照合結果が一致した行について、指定ページ中で行う計算式を入力します。

C 命令で使う計算式と同じです。

● 指定ページの2列目と3列目の合計を、4列目に書く。

ただし、ACMやDRなどの命令は使えません。また、行・マトリックス・ワークエリアに間する式は使えません。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

書きかえの種類は [終了 ↵] :

《Uを選ぶと》

画面の何列目にマークを付けますか :

マークは :

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
U マーク / 除算

書きかえの種類は [終了 ↵] :

キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。

他に変更するものがなければ、キーを押します。

キーが一致しなかった場合、画面の表に印をつけます。どの列に印をつけるか指定します。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。ページのデータにマークはつきません。

指定した列につける印を入力します。

- “***”という印をつける。



キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。

他に変更するものがなければ、キーを押します。

INFORMATION

《処理の種類と意味》

- ◆書きかえようとする表のデータをもとのデータ、書きかえに使用する表のデータを新しいデータとして下記の処理を行います。

種類	意味
R	もとのデータを消して、新しいデータに書きかえる。
M	もとのデータと新しいデータのうち、大きい方を選ぶ(最大値)。
N	もとのデータと新しいデータのうち、小さい方を選ぶ(最小値)。
C	書きかえる表の中で計算する。
U	一致しなかったデータについて、照合する表の指定した列に印をつける。
+	もとのデータに新しいデータを加える(累算)。
-	もとのデータから新しいデータを引く(累算)。
*	もとのデータに新しいデータを掛ける(累算)。
/	もとのデータを新しいデータで割る。(累算)

- ◆書きかえの処理は全部で5回指定できます。
- ◆計算(C)・演算(+、-、*、/)結果や、最大値(M)、最小値(N)が書きかえる列の桁数より大きすぎた場合は、そのセルを“*”でうめめます。
- ◆スペースは“O”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します(マーク以外)。
- ◆“U”を選ぶと、照合するデータの表にマークを入れることができます。もとの表のデータには影響しません。
- ◆複数ページの処理中、エスケープキーを押すと一時停止します。停止中に↵キーを押すと再開します。もう一度エスケープキーを押すと中止します。
- ◆小数点以下や四捨五入などは、あらかじめDR命令で指定してください。
- ◆オートプログラム中で“*”を指定する場合は、*の前後にダブルコーテーション(“)をつけてください。

例題

69 ページ「売上帳」を画面に読み出し、26 ページ「得意先台帳」と照合して書きかえます。

R : 69回

UPD回

- 1回.....画面の表を書きかえる。
- 26回.....26 ページ「得意先台帳」と照合する。
- 3回.....画面のキー列には、3列目(得意先NO)を指定する。
- 1回.....ページのキー列には、1列目(得意先NO)を指定する。
- R回.....ページのデータで画面のデータを書きかえる。
- 2回.....ページの2列目(会社名)を使って書きかえる。
- 4回.....画面の4列目(会社名)を書きかえる。
- 回.....書きかえの指定を終了して、書きかえを実行する。

実行前

69	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,6,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	会社名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950403	10001	107	1001			20			
7	950403	10001	107	1005			30			
8	950403	10001	107	1010			20			
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
≡仕事は≡										

実行後

69	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0078	C=0100		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,6,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	会社名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950403	10001	107	(株)神崎建設	1001		20			
7	950403	10001	107	(株)神崎建設	1005		30			
8	950403	10001	107	(株)神崎建設	1010		20			
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
≡仕事は≡										

26 ページの画面

26	1	2	3	4	5	6		
1	[得意先台帳]				95.04.01	混	L=0036	C=0260
2	F=3,15,16,11,11,6,30,12,14,14,8,5,12,12,12,12							
3								
4	NO	会社名	所属	役職	氏名	〒		
5								
6	101	(株)TUBE森野	営業一課	課長	駒形 勝也	150 東京		
7	102	(有)上越工務店	経理部	主任	林 礼子	107 東京都目		
8	103	システム2001	開発部	係長	海野 広子	150 東京都共		
9	104	システム2001	技術支援部		川原 泉	150 東京都共		
10	105	伊藤デザイン(株)	営業部営業一課	課長	江口 かな	106 東京		
11	106	伊藤デザイン(株)	デザイン部		猫柳 史子	106 東京		
12	107	(株)神崎建設	住宅建築部	課長	安森 真美	160 東京都		
13	108	(株)神崎建設	インテリア開発部	部長	佐藤 睦代	160 東京都		
14	109	(株)イースト	マーケティング部	課長	中臣 高次	150 東京都		
15	110	(株)イースト	営業部	主任	桃井 安一	150 東京都		
16	111	東京設備工(株)	営業部二課		細木 泰司	133 東京都江戸		
17	112	鈴木工務店	システム営業部		堀江 明	107 東京		
18	113	(株)新証興行	営業部	係長	安達 美樹	272 千葉		
19	114	(株)TO商会	業務部	主任	豊田 秀雄	106 東京		
20	115	中原電機(株)	総務部		権名 元男	242 神奈川県大		
21	116	(株)全日本出版	経理部	主任	元井 蘭子	182 東京都		
≡仕事は≡								

例題

69 ページ「売上帳」を画面に読み出し、27 ページ「商品台帳」と照合して書きかえます。

R : 69回

UPD回

- 1回.....画面の表を書きかえる。
- 27回.....27 ページ「商品台帳」と照合する。
- 5回.....画面のキー列には、5 列目（商品コード）を指定する。
- 1回.....ページのキー列には、1 列目（商品コード）を指定する。
- R回.....ページのデータで画面のデータを書きかえる。
- 2回.....ページの2 列目（品名）を使って書きかえる。
- 6回.....画面の6 列目（品名）を書きかえる。
- R回.....ページのデータで画面のデータを書きかえる。
- 3回.....ページの3 列目（商品グループ）を使って書きかえる。
- 7回.....画面の7 列目（商品グループ）を書きかえる。
- R回.....ページのデータで画面のデータを書きかえる。
- 4回.....ページの4 列目（単価）を使って書きかえる。
- 9回.....画面の9 列目（単価）を書きかえる。
- R回.....ページのデータで画面のデータを書きかえる。
- 5回.....ページの5 列目（原価）を使って書きかえる。
- 11回.....画面の11 列目（原価）を書きかえる。
- 回.....書きかえの指定を終了して、書きかえを実行する。

実行前

69	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0078	C=0100			
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,6,12										
3											
4	年月日伝票NO	NO	会社名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額		
5											
6	950403	10001	107		1001		20				
7	950403	10001	107		1005		30				
8	950403	10001	107		1010		20				
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
仕事は=											

実行後

69	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0078	C=0100			
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,6,12										
3											
4	年月日伝票NO	NO	会社名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額		
5											
6	950403	10001	107		1001	A4用紙 A	20	580			
7	950403	10001	107		1005	ハ心カ- A	30	360			
8	950403	10001	107		1010	透明紙カッ A	20	500			
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
仕事は=											

27 ページの画面

27	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	[商品台帳]				95.04.01	混	L=0050	C=0170			
2	F=4,12,2,6,6,10,10,10,10,10,10										
3											
4	CODE	品名	GR	単価	原価	前月在庫	在庫金額	当月入庫	当月出庫	当月	
5											
6	1001	A4用紙 A		580	440	405	178200				
7	1002	A3用紙 A		620	480	390	148200				
8	1003	B5用紙 A		480	340	2850	256500				
9	1004	B4用紙 A		600	460	1790	196900				
10	1005	ハ心カ- A		360	270	900	243000				
11	1006	ファル A		800	600	200	120000				
12	1007	書類カ- A		1200	900	185	168500				
13	1008	情報カ- A		300	230	530	121900				
14	1009	手帳 A		600	450	200	90000				
15	1010	透明紙カッ A		500	380	250	95000				
16	1011	ツケカ- A		600	450	205	92250				
17	1012	セキカ- B		250	190	1240	235600				
18	1013	両面カ- B		800	600	515	309000				
19	1014	ナイ C		300	230	55	12650				
20	1015	鉛筆削り C		1100	830	230	190900				
21	1016	はさみ C		500	380	440	167200				
仕事は=											

UPDS

Update Sequential (アップデート シーケンシャル)

複数の表と複数の表を照合して、条件に合うデータを書きかえる

- 他の複数にわたるページのデータを使って、キーの一致した複数ページのデータを、変更することができます。変更の種類には、データの修正、四則演算、大小の選択、元表の演算などがあります。

実行前の確認

- 小数点以下の桁数は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- 書きかえるページと照合するページのデータは、あらかじめS命令で文字正順に並べかえておいてください。
- 先頭ページが混在モードの場合は、集計中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、混在モードのページがあると処理を中止します。

類似命令

- UPD...表と表を照合して、条件に合うデータを書きかえます。
- UPM...表と表を照合して、条件に合うデータを照合して書きかえます。

仕事は =

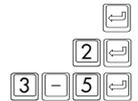
UPDS

書きかえるページは [画面 ↵] :

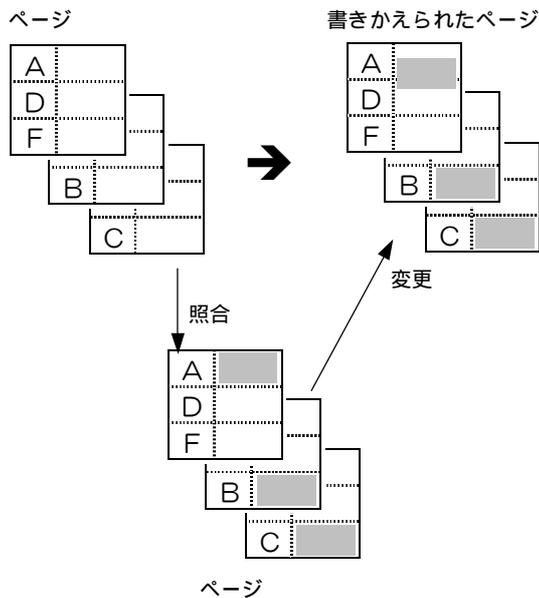
書きかえるページを指定します。

ページは1ページだけでも、複数ページでも指定できます。☰キーを押せば、画面の表が選択されます。

- 画面の表のデータを書きかえる。
- 2ページの表のデータを書きかえる。
- 3から5ページの表のデータを書きかえる。



単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。



照合するページは [裏画面 ↵] :

で指定したページと照合するページを指定します。

ページは1ページだけでも、複数ページでも指定できます。☰キーを押せば、裏画面の表が選択されます。

単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。最大600ページまで指定できます。

書きかえるページのキー列は：

書きかえるページの表の中で照合のキー列となる列を、指定します。
キー列は最大5つまで指定できます。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

キーを押すと、1列目を指定したことになります。

キー列を複数指定するときは、カンマ“,”やハイフン“-”で区切って指定します。

照合するページの1番目のキー列は：

書きかえるページのキー列と対応するページのキー列を、指定します。
書きかえるページのキー列を複数指定した場合、その列数だけメッセージが表示されるので、順番に指定してください。

単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。

キーを押すと、1列目を指定したことになります。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
/ 除算

キー列の照合した結果が一致している行について、このあとにどのような処理をするのか、選択します。

書きかえの種類は [終了 

【R, M, N, +, -, *, / を選んだ場合】

ページの何列目を使いますか：

照合するページの表の中で、書きかえ処理に使うデータの列番号を指定します。

画面の何列目を使いますか：

書きかえるページの表の中で、書きかえるデータの列番号を指定します。
単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、@指定が可能です。
⑥で指定した処理で変更されたデータは、ここで指定した列に書き込まれます。

R 置換 《演算》
M 最大値 + 加算
N 最小値 - 減算
C 計算 * 乗算
/ 除算

キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。

他に変更するものがなければ、キーを押します。

書きかえの種類は [終了 

【Cを選んだ場合】

計算式は：

キー列の照合結果が一致した行について、書きかえるページ中で行う計算式を入力します。計算式は、C命令と同じです。

●書きかえるページの2列目と3列目の合計を、4列目に書く。

  +   = 

ただし、ACMやDRなどの命令は使えません。また、行・マトリックス・ワークエリアに関する式は使えません。

R	置換	《演算》
M	最大値	+ 加算
N	最小値	- 減算
C	計算	* 乗算
		/ 除算

書きかえの種類は [終了 ] :

キー列の照合結果が一致した行について、まだ変更するものがあれば、と同様に指定します。

他に変更するものがなければ、 キーを押します。

INFORMATION

- ◆フォーマット文のないページは、書きかえるページには指定できません。

《処理の種類と意味》

書きかえようとする表のデータをもとのデータ、書きかえに使用する表のデータを新しいデータとして下記の処理を行います。

種類	意味
R	もとのデータを消して、新しいデータに書きかえる。
M	もとのデータと新しいデータのうち、大きい方を選ぶ（最大値）。
N	もとのデータと新しいデータのうち、小さい方を選ぶ（最小値）。
C	書きかえる表の中の計算をする。
+	もとのデータに新しいデータを加える（累算）。
-	もとのデータから新しいデータを引く（累算）。
*	もとのデータに新しいデータを掛ける（累算）。
/	もとのデータを新しいデータで割る（累算）。

- ◆書きかえの処理は全部で5回指定できます。
- ◆計算(C)・演算(+、-、*、/)の結果や、最大値(M)、最小値(N)が書きかえる列の桁数より大きすぎた場合は、そのセルを“*”でうめます。
- ◆スペースは“0”として計算し、数値データ以外の文字データは無視します。
- ◆複数ページの処理中、エスケープキーを押すと一時停止します。停止中にキーを押すと再開します。もう一度エスケープキーを押すと中止します。
- ◆オートプログラム中で“*”を指定する場合は、*の前後にダブルコーテーション(“)をつけてください。

例題

70, 71 ページ「売上帳」を、72, 73 ページ「商品構成台帳 A / B グループ」と照合して書きかえます。

この例題を実行すると70, 71 ページのデータは書きかえられてしまいます。
必要であれば、別のページにコピーしておいてください。

UPDS 図

- 70 - 71 図.....70, 71 ページの「売上帳」を書きかえる。
- 72 - 73 図.....72, 73 ページの「商品構成台帳 A / B グループ」と照合する。
- 5 図.....書きかえるページのキー列には、5 列目 (商品コード) を指定する。
- 1 図.....照合するページのキー列には、1 列目 (商品コード) を指定する。
- R 図.....72, 73 ページのデータで70, 71 ページを書きかえる。
- 2 図.....ページの2 列目 (品名) を使って書きかえる。
- 6 図.....画面の6 列目 (品名) を書きかえる。
- R 図.....72, 73 ページのデータで70, 71 ページを書きかえる。
- 3 図.....ページの3 列目 (商品グループ) を使って書きかえる。
- 7 図.....画面の7 列目 (商品グループ) を書きかえる。
- R 図.....72, 73 ページのデータで70, 71 ページを書きかえる。
- 4 図.....ページの4 列目 (単価) を使って書きかえる。
- 9 図.....画面の9 列目 (単価) を書きかえる。
- 図.....書きかえの指定を終了して、書きかえを実行する。

実行前の70 ページ「売上帳」

70	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1004		20			
7	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1001		30			
8	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1011		20			
9	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1005		30			
10	950404	21002	110	(株)イースト	1002		50			
11	950404	21003	116	(株)全日本出版	1016		25			
12	950404	21003	116	(株)全日本出版	1017		6			
13	950404	21003	116	(株)全日本出版	1012		20			
14	950404	21004	119	(株)マシカフット	1028		1			
15	950404	21005	115	中原電機(株)	1025		30			
16	950404	21005	115	中原電機(株)	1026		10			
17	950406	21006	107	(株)神崎建設	1003		10			
18	950406	21006	107	(株)神崎建設	1005		6			
19	950406	21006	107	(株)神崎建設	1006		10			
20	950406	21006	107	(株)神崎建設	1007		5			
21	950407	21007	110	(株)イースト	1010		20			

実行後の70 ページ「売上帳」

70	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
2	F=6,6,4,15,5,12,2,6,6,12,12									
3										
4	年月日伝票NO	NO	得意先名	CODE	品名	GR	数量	単価	金額	
5										
6	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1004	製図ホ-ト	A	20	2500	
7	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1001	製図ハンセット	A	30	4600	
8	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1011	定規セット	A	20	1100	
9	950403	21001	101	(株)TUBE森野	1005	コパス	A	30	350	
10	950404	21002	110	(株)イースト	1002	製図ハン本体	A	50	3000	
11	950404	21003	116	(株)全日本出版	1016	ハンカ-	B	25	400	
12	950404	21003	116	(株)全日本出版	1017	ファイル	B	6	800	
13	950404	21003	116	(株)全日本出版	1012	A4用紙	B	20	580	
14	950404	21004	119	(株)マシカフット	1028	両面テープ	B	1	800	
15	950404	21005	115	中原電機(株)	1025	タックラベル	B	30	600	
16	950404	21005	115	中原電機(株)	1026	インク	B	10	600	
17	950406	21006	107	(株)神崎建設	1003	製図ハン先	A	10	3000	
18	950406	21006	107	(株)神崎建設	1005	コパス	A	6	350	
19	950406	21006	107	(株)神崎建設	1006	30cm直定規	A	10	200	
20	950406	21006	107	(株)神崎建設	1007	100712cm三角定規	A	5	150	
21	950407	21007	110	(株)イースト	1010	ホ-トスケ-ル	A	20	2000	

照合する72 ページ「商品構成台帳 A グループ」

72	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[商品構成台帳Aグループ]				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
2	F=5,12,2,6,5,12,8,6									
3										
4	CODE	品名	GR	単価	子CD	品名	部品数	単価		
5										
6	1001	製図ハンセット	A	4600	1002	製図ハン本体	1	2000		
7	1001	製図ハンセット	A	4600	1003	製図ハン先	3	1000		
8	1001	製図ハンセット	A	4600	1024	ハンカ-	1	1000		
9	1001	製図ハンセット	A	4600	1026	インク	2	600		
10	1002	製図ハン本体	A	3000	1002	製図ハン本体	1	2000		
11	1003	製図ハン先	A	3000	1003	製図ハン先	3	1000		
12	1004	製図ホ-ト	A	2500	1010	ホ-トスケ-ル	1	2000		
13	1004	製図ホ-ト	A	2500	1006	30cm直定規	1	200		
14	1004	製図ホ-ト	A	2500	1009	ファイル	1	300		
15	1005	コパス	A	350	1005	コパス	1	350		
16	1006	30cm直定規	A	200	1006	30cm直定規	1	200		
17	1007	12cm三角定規	A	150	1007	12cm三角定規	1	150		
18	1008	9cm分度器	A	150	1008	9cm分度器	1	150		
19	1009	ファイル	A	300	1009	ファイル	1	300		
20	1010	ホ-トスケ-ル	A	2000	1010	ホ-トスケ-ル	1	2000		
21	1011	定規セット	A	1100	1006	30cm直定規	1	200		

照合する73 ページ「商品構成台帳 B グループ」

73	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	[商品構成台帳Bグループ]				95.04.01	混	L=0067	C=0120		
2	F=5,12,2,6,5,12,8,6									
3										
4	CODE	品名	GR	単価	子CD	品名	部品数	単価		
5										
6	1012	A4用紙	B	580	1012	A4用紙	1	580		
7	1013	A3用紙	B	620	1013	A3用紙	1	620		
8	1014	B5用紙	B	480	1014	B5用紙	1	480		
9	1015	B4用紙	B	600	1015	B4用紙	1	600		
10	1016	ハンカ-	B	400	1016	ハンカ-	1	400		
11	1017	ファイル	B	800	1017	ファイル	1	800		
12	1018	書類ケース	B	1200	1018	書類ケース	1	1200		
13	1019	情報カード	B	300	1019	情報カード	1	300		
14	1020	手帳セット	B	600	1021	手帳本体	1	450		
15	1020	手帳セット	B	600	1022	50枚用紙	1	150		
16	1021	手帳本体	B	450	1021	手帳本体	1	450		
17	1022	50枚用紙	B	150	1022	50枚用紙	1	150		
18	1023	透明カ-ット	B	500	1023	透明カ-ット	1	500		
19	1024	1024用紙	B	1000	1024	1024用紙	1	1000		
20	1025	タックラベル	B	600	1025	タックラベル	1	600		
21	1026	インク	B	600	1026	インク	2	600		

表と表を照合して、条件に合うデータを集計する

- 2つの表を照合して、条件の一致した列のデータを指定した方法で集計します。
- 売上傳票のデータを使って、売上表や在庫表を書きかえることができます。

実行前の確認

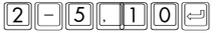
- 小数点以下の設定は、あらかじめDR命令で設定しておきます。
- 複数ページを指定した場合、先頭ページが混在モードの場合は、集計中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、混在モードのページがあると処理を中止します。

仕事は =



照合するページは [画面 ↩] :

照合するデータが入ったページを指定します。

- 画面のデータを使って集計する。 
 - 2から5ページと10ページを使って集計する。  2 5 10 
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

書きかえるページは [裏画面 ↩] :

照合して、書きかえる表の入ったページを指定します。

- 裏画面の表を書きかえる。 
 - 6ページの表を書きかえる。  6 
- 単独、連続、複数、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。
ここで指定したページが、書きかえられます。
裏画面を指定すると、書きかえは行われません。

縦軸にあたる列は :

照合するページの表の中で、書きかえる表の縦軸(キー列)にあたる列を指定します。

- 縦軸は2列目。  2 
- 単独、H・T、@指定が可能です。

横軸にあたる列は :

照合するページの表の中で、書きかえる表の横軸(項目行)にあたる列を指定します。

- 横軸は3列目。  3 
- 単独、H・T、@指定が可能です。

データ列は :

照合するページの表の中で、縦軸と横軸のデータが一致した場合に、書きかえに使うデータの入った列を指定します。

- データ列は4列目。  4 
- 単独、H・T、@指定が可能です。

書き込み先のキー列は :

書きかえる表のキー列を指定します。

- キー列は2列目。  2 
- 単独、H・T、@指定が可能です。

- | |
|--------|
| 1 数量 + |
| 2 数量 - |
| 3 件数 + |
| 4 件数 - |

集計方法は (1 ~ 4) :

条件が一致した場合の集計方法を、番号で選択します。
データ列のデータが数値データの場合は“数量”を、文字データの場合は“件数”を指定します。

- 現在のデータにデータ列の数値を足す。
- 現在のデータからデータ列の数値を引く。
- 現在の件数にデータ列の件数を足す。
- 現在の件数からデータ列の件数を引く。



INFORMATION

- ◆結果の書き込み先指定はできません。結果は、“書きかえるページは：”で指定したページに書き込まれます。
- ◆マスター集計するページの表に、合計の行・列がある場合は、合計を計算して結果を書き込みます。

- ◆複数ページを処理中に`Esc`キーを押すと一時停止します。停止中に`Enter`キーを押すと再開します。もう一度`Esc`キーを押すと処理を中止します。

例題

74 ページ「商品売上帳」を、75 ページ「重点管理商品マスター」と照合して集計します。

R : 74回

R B : 75回

U P M回

回.....画面の表で照合する。

回.....裏画面の表を書きかえる。

3 回.....縦軸にあたる列には、3 列目（支店名）を指定する。

4 回.....横軸にあたる列には、4 列目（商品群）を指定する。

8 回.....データ列には、8 列目（金額）を指定する。

2 回.....書き込み先のキー列には、2 列目（支店名）を指定する。

1 回.....集計方法には、“数量 + ”を指定する。

実行前

74	2	3	4	5	6	7	8	...	7	...
1	[商品売上帳]									
2	F=2,2,8,10,16,6,10,12 95.04.01 混 L=0085 C=0090									
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
4	月日	支店名	商品群	品名	数量	単価	金額			
5	6	4 3	A支店	パソコン	277ル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000		
6	7	4 3	B支店	パソコン	AMカトリス VI	3	320,000	960,000		
7	8	4 5	C支店	VTR	マックロト VVYU	2	78,000	156,000		
8	9	4 6	C支店	TV	PRESTAGE WX40	4	120,000	480,000		
9	10	4 6	A支店	エアコン	美ケ原	2	130,000	260,000		
10	11	4 6	C支店	VTR	覇王 VT	1	125,000	125,000		
11	12	4 7	B支店	パソコン	SB/V ビジョン	3	430,000	1,290,000		
12	13	410	C支店	ラジカセ	ステレオ AVW100	5	80,000	400,000		
13	14	411	B支店	TV	ニュービジョン WD5	2	310,000	620,000		
14	15	412	C支店	パソコン	ロザリア 334	2	250,000	500,000		
15	16	412	A支店	エアコン	日影	5	120,000	600,000		
16	17	413	A支店	TV	コシカガハツ KB20	7	90,000	630,000		
17	18	414	C支店	ステレオ	PICRUS 8000	3	80,000	240,000		
18	19	417	B支店	ラジカセ	セフィウス CD500	10	35,000	350,000		
19	20	418	A支店	パソコン	277ル GOAⅧ	5	450,000	2,250,000		
20	21	419	A支店	TV	覇王 C28	6	220,000	1,320,000		
21	仕事は=									

実行後

75	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	[重点管理商品マスタ]										
2	F=1,8,1,14,1,14,1,14,1,14,1 95.04.01 混 L=0085 C=0090										
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
4	支店名	パソコン	VTR	TV	合計						
5	6	A支店	18450000	3076000	10010000	31536000					
6	7	B支店	13310000	4530000	7750000	25590000					
7	8	C支店	15590000	1749000	3140000	20479000					
8	9	合計	47350000	9355000	20900000	77605000					
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
10	仕事は=										

照合する 75 ページの「重点管理商品マスター」

75	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	[重点管理商品マスタ]										
2	F=1,8,1,14,1,14,1,14,1,14,1 95.04.01 混 L=0085 C=0090										
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
4	支店名	パソコン	VTR	TV	合計						
5	6	A支店									
6	7	B支店									
7	8	C支店									
8	9	合計									
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
10	仕事は=										

文章データを音声で読み上げる

- ED命令で作成した文章データやテキストデータを、音声で読み上げます。

実行前の確認

- VOICE命令を実行するには、お使いのパソコンにサウンドボードとスピーカーが取り付けられている必要があります。
- データ行の文字データは読み上げることはできません。表のデータを読み上げる場合はVSP命令を使ってください。

類似命令

- VSP...表のデータを音声で読み上げる

仕事は =

VOICE

音声データの入力 [ページから 1 ,
キーボードから 2] :

音声で読み上げるデータの入力を、ページからにするかキーボードからにするか、番号で選択します。

- ページの文字データを音声で読み上げる。
- キーボードから入力した文字を音声で読み上げる。



【ページを指定した場合】

何ページを読み上げますか
[画面 ↵] :

読み上げるデータのあるページを指定します。

- 3ページの文章を読み上げる。
- 単独、連続、複数、混合、表題、ワイルド指定が可能です。



【キーボードを指定した場合】

音声データは :

キーボードから読み上げるデータを入力します。

- “あいうえお”と読み上げる。
- “せんきゅうひゃくきゅうじゅうご”と読み上げる。



音声データは
[↵のみで音声出力開始] :

続けて読み上げるデータがある場合、データを入力します。

☞キーのみを押すと読み上げを開始します。

読み上げを終了すると、 から操作が繰り返されます。
読み上げを終了する場合 **エスケープ** キーを押します。

INFORMATION

- ◆ 漢字・ひらがな・カタカナ。数字・英文字を読み上げます。
- ◆ 下の記号は次のように読み上げられます。
 - %……パーセント
 - &……アンド
 - -……マイナス
 - +……プラス
 - ￥……円
 - <……小なり
 - >……大なり
- ◆ 上記以外の記号は読み上げません。
- ◆ 外字は読み上げることはできません。
- ◆ タイトル行やフォーマット文は読み上げません。
- ◆ 数値は位取りして読み上げます。ただし、位取りできるのは20桁(千京)までです。
- ◆ 数値に付いているカンマ(,)は読み飛ばします。
- ◆ 数値にピリオド(.)が付いていると小数点と判断し、ピリオドを“てん”と読み、小数点以下を数値読みにします。

例題

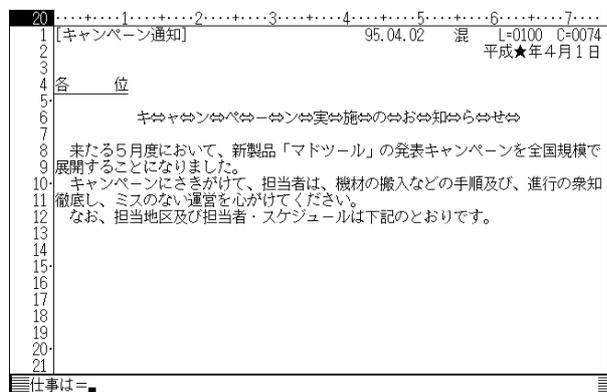
20 ページ「キャンペーン通知」の内容を、音声で読み上げます。

R : 20回

VOICE回

1回.....ページの内容を読み上げる。

回.....画面のページを読み上げる。



ページの文章が音声で読み上げられます。

“★”や倍角記号(≡)などの外字などは読み上げません。

エスケープキーを押すと、読み上げを中止します。

表のデータを音声で読み上げる

- 表の中に入力されている文字データを、セル単位で音声で読み上げます。

実行前の確認

- VOICE 命令を実行するには、お使いのパソコンにサウンドボードとスピーカーが取り付けられている必要があります。
- あらかじめ読み上げるデータのある表を、画面に読み出しておいてください。
- フォーマット文のない文章データは V S P 命令では読み上げられません。VOICE 命令を使ってください。

類似命令

- VOICE...文章データを音声で読み上げる

仕事は =



読み上げる行は :

読み上げるデータのある行の、行番号を指定します。

- 6 行目から 12 行目までのデータを読み上げる。
 - すべてのデータ行を読み上げる。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

読み上げる列は :

読み上げるデータのある列の、列番号を指定します。

- 指定した行の 4 列目を読み上げる。
 - すべての列を読み上げる。
- 単独、連続、複数、混合、H・T、A、条件式、¥指定が可能です。

【読み上げ中に キーで中止した場合】



左のメッセージボックスが表示されます。

- 読み上げを再開する場合、[再開]ボタンをマウスで左クリックします。
- 読み上げを中止する場合、[中止]ボタンをマウスで左クリックします。

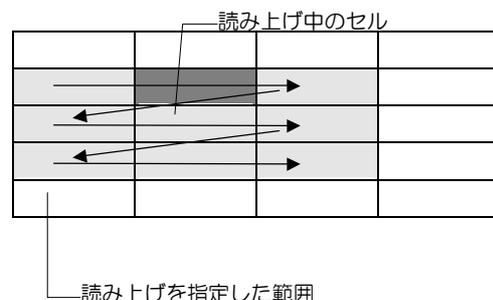
INFORMATION

- ◆フォーマット行のない表は、データの読み上げはできません。
- ◆漢字・ひらがな・カタカナ・数字・英文字を読み上げます。
- ◆下の記号は次のように読み上げられます。
 - %……パーセント
 - &……アンド
 - -……マイナス
 - +……プラス
 - ¥……円
 - <……小なり
 - >……大なり

上記以外の記号は読み上げません。

- ◆外字は読み上げることはできません。
- ◆タイトル行やフォーマット文は読み上げません。
- ◆数値は位取りして読み上げます。ただし、位取りできるのは 20 桁 (千京) までです。

- ◆数値に付いているカンマ (,) は読み飛ばします。
- ◆数値にピリオド (.) が付いていると小数点と判断し、ピリオドを“てん”と読み、小数点以下を数値読みにします。
- ◆読み上げを開始すると、指定した範囲の中で行方向に読み進みます。また、指定した範囲と読み上げ中のセルに色が付けられます。



データを時系列で集計する

- 指定したページの中で、キー列・キー行と一致しているものを探し出して新しい表を作ります。
- 月ごとにまとめられた売上表の中から、特定の営業所のデータを取り出して、時系列でデータを見るのに便利です。

実行前の確認

- 複数ページを集計する場合、表の形式を先頭ページのフォーマット文に合わせるため、桁数からはみ出したデータは削られます。
- 行の集計を複数ページにわたって行う場合、先頭ページよりも列数の多い表があると、はみ出す列は削られます。
- 先頭ページが混在モードの場合は、集計中に漢字モードのページがあっても、結果はすべて混在モードになります。先頭ページが漢字モードの場合は、混在モードのページがあると処理を中止します。

仕事は =



集計するページは[画面 ↩] :

集計するページを指定します。

- 画面のデータを集計する。
 - 2 から 5 ページと 10 ページを集計する。
- 単独、連続、複合、混合、グループ、表題、ワイルド指定が可能です。

1 行
2 列

行と列のどちらを集計するのかを指定します。

- 行を集計する。
- 列を集計する。 (または)

集計するのは :

【行を選んだ場合】

集計行は :

集計の基準となる行を指定します。

- 10 行目を指定する。
 - 先頭データ行を指定する。
- 単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。

キー列は :

基準となる行と照合する列(キー列)を指定します。

- 3 列目をキー列にする。
 - 先頭列をキー列にする。
- 単独、H・T、条件式、@指定が可能です。
集計行とキー列の交わったところの内容が表題になります。

【列を選んだ場合】

集計列は :

集計の基準となる列を指定します。

- 10 列目を指定する。
 - 先頭列を指定する。
- 単独、H・T、条件式、@指定が可能です。

キー行は :

基準となる列と照合する行(キー行)を指定します。

- 4 行目(項目行)をキー列にする。
 - 計算開始行(H)をキー列にする。 (または)
- 単独、H・T、条件式、¥指定が可能です。
集計列とキー行の交わった欄の内容が、新しい表の表題になります。

キー列は：

新しい表に組み込む列（キー列）を指定します。

- 3列目をキー列にする。
- 先頭列をキー列にする。

単独、H・T、条件式、@指定が可能です。



INFORMATION

◆ 集計の結果は画面に表示されます。

◆ キー列・キー行の内容と一致する行・列だけが、新しい表に組み込まれます。

◆ 複数ページを集計中に、**Esc**キーを押すと一時停止します。停止中に**Enter**キーを押すと再開します。もう一度**Esc**キーを押すと処理を中止します。

例題

76ページから78ページまでの、支店別の売上集計表から“4月”の売上を商品別月別で集計して、新しい表を作ります。

V T

76 - 7876ページから78ページまでの表を集計する。

2列を集計する。

22列目（4月）を集計する。

4キー行には、4行目（項目行）を指定する。

1キー列には、1列目を指定する。

実行前

76	1	2	3	4678
1	[A支店]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=14,12,12,12						
3							
4		支店名	4月	5月	6月		
5							
6		パソコン	70,000	38,000	80,000		
7		VTR	40,000	20,000	60,000		
8		TV	30,000	40,000	50,000		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

0	1	2	3	4678
1	[4月]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=14,12,12,12						
3							
4		支店名	A支店	B支店	C支店		
5							
6		パソコン	70,000	30,000	70,000		
7		VTR	40,000	25,000	45,000		
8		TV	30,000	20,000	30,000		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

78	1	2	3	4678
1	[C支店]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=14,12,12,12						
3							
4		支店名	4月	5月	6月		
5							
6		パソコン	70,000	35,000	90,000		
7		VTR	45,000	25,000	80,000		
8		TV	30,000	50,000	60,000		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							

実行後

0	1	2	3	4678
1	[4月]			95.04.01	混	L=0050	C=0170
2	F=14,12,12,12						
3							
4		支店名	A支店	B支店	C支店		
5							
6		パソコン	70,000	30,000	70,000		
7		VTR	40,000	25,000	45,000		
8		TV	30,000	20,000	30,000		
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							



◀ 76~78ページの各支店別売上表

例題

76 ページから 78 ページまでの、支店別の売上集計表から “ パソコン ” の売上を支店別月別で集計して、新しい表を作ります。

V T 関

76 - 78 関.....76 ページから 78 ページまでの表を集計する。

1 関.....行を集計する。

6 関..... 6 行目を集計する。

1 関.....キー列には、1 列目を指定する。

実行前

76	1	2	3	4	6	7
1	[A支店]			95.04.01	混	L=0050		C=0170	
2	F=14,12,12,12								
3									
4		支店名	4月	5月	6月				
5									
6		パソコン	70,000	38,000	80,000				
7		VTR	40,000	20,000	60,000				
8		TV	30,000	40,000	50,000				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
	仕事は=								

実行後

0	1	2	3	4	6	7
1	[パソコン]			95.04.01	混	L=0050		C=0170	
2	F=14,12,12,12								
3									
4		支店名	4月	5月	6月				
5									
6		A支店	70,000	38,000	80,000				
7		B支店	30,000	60,000	70,000				
8		C支店	70,000	35,000	90,000				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
	仕事は=								



77	1	2	3	4	6	7
1	[B支店]			95.04.01	混	L=0050		C=0170	
2	F=14,12,12,12								
3									
4		支店名	4月	5月	6月				
5									
6		パソコン	30,000	60,000	70,000				
7		VTR	25,000	20,000	50,000				
8		TV	20,000	15,000	40,000				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
	仕事は=								

78	1	2	3	4	6	7
1	[C支店]			95.04.01	混	L=0050		C=0170	
2	F=14,12,12,12								
3									
4		支店名	4月	5月	6月				
5									
6		パソコン	70,000	35,000	90,000				
7		VTR	45,000	25,000	80,000				
8		TV	30,000	50,000	60,000				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
	仕事は=								

◀ 76 ~ 78 ページの各支店別売上表



Write (ライト)

指定したページに画面の内容を書き込む

- 画面の内容を指定したページに書き込み、保存することができます。

重要

- W命令を行うと、書き込み先の内容はすべて消去され、画面の内容に書きかえられます。書き込むときは十分に注意しましょう。
- データが1ページ以上あるときにW命令を行うと、複数ページに書き込みます。
- サブページを指定すると、表題の確認を行わずそのまま書き込みます。

類似命令

- WC.....RC命令でつないだページを、指定したページに書き込みます。
- WFL...ページファイルを書き込みます。

仕事は =



何ページに書き込みますか：

画面の内容を何ページに書き込むか、指定します。

- 23ページに書き込む。
 - サブの1ページに書き込む。
 - 現在のファイルの一番はじめにある空白ページに書き込む。
 - ドライブAのフロッピーの5ページに書き込む。
 - メニューバー・プルダウンメニューを変更して、システムファイルの2ページに書き込む。
 - 直前のR・RB・RB B命令またはW・WB命令で指定したページと、同じページに書き込む。
- オートプログラム中で“*”指定を行う場合は、前後にダブルコーテーション(“)をつけてください。
- 直前のR・RB・RB B命令またはW・WB命令で指定した、次のページに書き込む。
 - 直前のR・RB・RB B命令またはW・WB命令で指定した、前のページに書き込む。
 - 現在のファイルの先頭空きページに書き込む。

○ページの表題は [] です

書き込んでよければ[⇐]キーを押してください

書き込み先の表題が表示されるので、そのページに書き込んでよいか、確認します。

- 23ページに、画面の内容を書き込む。
 - 書き込むのを中止する。
- エスケープキーを押すと、“仕事は=”の状態に戻ります。
- ページが拡張されている場合やRC命令でつないでいる場合は、指定ページから複数ページにわたって書き込みます。画面には、複数ページの表題が表示されるので、書き込んでよければキーを押してください。

【ページがプロテクトされている場合】

キーワードを入れてください：

指定したページにつけられた、キーワードを入力します。

- キーワード“88”を入れる。



INFORMATION

- ◆ あらかじめSETC命令で“W命令実行時のリカバリ”を設定してからRV命令を行えば、消した内容を画面に表示させることができます（W命令実行直後）。ただし、ページ拡張時、またはRC命令でページをつないでいる場合には、最初の1ページだけ画面に表示します。
- ◆ サブページは、メモ帳のつもりで、とりあえず書き込んでおくのに便利です。もちろん保存しておきたい内容は、データフロッピー内のページやファイルのページに書き込んだほうが良いでしょう。
- ◆ 書き込み先に指定したページがプロテクト（保護）されている場合は、正しいキーワードを入れるまで書き込むことができません。
- ◆ 書き込み先に、使っていないページや表題のつけられていないページを指定した場合、表題欄には何も表示されません。
- ◆ W命令は、T命令中にも使うことができます。
- ◆ R命令、W命令、RB命令、WB命令、RBB命令以外の命令の場合、ページ指定に“+” “-” “*” は使えません。

裏画面を指定したページに書き込む

- 裏画面のページを、指定したページに書き込みます。

重要

- WB命令を行うと、書き込み先の内容はすべて消去され、裏画面の内容に書きかえられます。書き込むときは十分に注意しましょう。

仕事は =



何ページに書き込みますか：

裏画面の内容を何ページに書き込むか、指定します。

- 23ページに書き込む。
- サブの1ページに書き込む。
- 現在のファイルの一番はじめにある空白ページに書き込む。
- ドライブAのフロッピーの5ページに書き込む。
- メニューバー・プルダウンメニューを変更して、システムファイルの2ページに書き込む。
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定したページと、同じページに書き込む。
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定した、次のページに書き込む。
- 直前のR・RB・RBB命令またはW・WB命令で指定した、前のページに書き込む。
- 現在のファイルの先頭空きページに書き込む。

○○ページの表題は [○○○] です

書き込んで込んでよければ [↵] を押してください：

書き込み先の表題が表示されるので、そのページに書き込んでよいか、確認します。

- 書き込みを行う。
 - 書き込むのを中止する。
- エスケープキーを押すと、“仕事は=”の状態に戻ります。ページが拡張されている場合やRC命令でつないでいる場合は、指定ページから複数ページにわたって書き込みます。画面には、複数ページの表題が表示されるので、書き込んでよければ キーを押してください。

【ページがプロテクトされている場合】

キーワードを入れてください：

指定したページにつけられた、キーワードを入力します。

- キーワード“88”を入れる。

INFORMATION

- ◆あらかじめSETC命令で“W命令実行時のリカバリ”を設定してからRV命令を行えば、消した内容を画面に表示させることができます(W命令実行直後)。ただし、ページ拡張時、またはRC命令でページをつないでいる場合には、最初の1ページだけ画面に表示します。
- ◆サブページは、メモ帳のつもりで、とりあえず書き込んでおくのに便利です。もちろん保存しておきたい内容は、データフロッピー内のページやファイルのページに書き込んだほうが良いでしょう。
- ◆書き込み先に指定したページがプロテクト(保護)されている場合は、正しいキーワードを入れるまで書き込むことができません。
- ◆書き込み先に、使っていないページや表題のつけられていないページを指定した場合、表題欄には何も表示されません。
- ◆R命令、W命令、RB命令、WB命令、RBB命令以外の命令の場合、ページ指定に“+” “-” “*”は使えません。

RC命令でつないだページを、指定したページに書き込む

- RC命令でつないだデータを、指定ページから書き込むことができます。

重要

- WC命令を行うと、書き込み先の内容はすべて消去され、画面の内容に書きかえられます。書き込むときは十分に注意しましょう。

類似命令

- W.....指定したページに画面の内容を書き込みます。
- WFL...ページファイルを書き込みます。

仕事は =



書き込み先頭ページは :

つないだ結果を何ページから書き込むか、指定します。

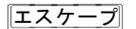
- 50 ページから書き込む。



ページの表題は[]です
ページの表題は[]です

書き込み先の表題が表示されるので、そのページに書き込んでよいか確認してから、キーを押します。

- 内容を書き込む。
- 書き込むのを中止する。



書き込んでよければ
[]キーを押してください :

書き込み先のページの表題がすべて表示されます。ただし、ページ数が8ページ以上になる場合は、最初の6ページと最後の1ページの表題だけが表示されます。

【ページがプロテクトされている場合】

キーワードを入れてください :

指定したページにつけられた、キーワードを入力します。

- キーワード“88”を入れる。



INFORMATION

- ◆ W命令でも同様にページへ書き込むことができます。
- ◆ W命令やWC命令でページに書き込むと、つながっていたページは1ページ単位で切りはなされます。
- ◆ データの少ないページでも、最終ページにはデータのない内容が書き込まれます。
- ◆ サブページに書き込むこともできます。サブページへ書き込むと、表題の確認を行わずそのまま書き込みます。
- ◆ WFL命令を使えば、ページをつなげた状態のままのページファイルとして書き込むことができます。
- ◆ 書き込み先に指定したページがプロテクト（保護）されている場合は、正しいキーワードを入れるまで書き込むことができません。
- ◆ 何も書き込まれていないページや表題のつけられていないページを指定した場合、表題欄には何も表示しません。
- ◆ SET命令で、“W命令実行時のリカバリ”が“する”にセットしてあれば、WC命令実行直後にRV命令を行って最初の1ページを表示することができます。

- 画面上のページを、ページファイルに書き込みます。

類似命令

- W.....指定したページに、画面の内容を書き込みます。
- WC.....RC 命令でつないだページを、指定したページに書き込みます。

仕事は =



書き込むファイル名は :

書き込むページファイルに付ける、ファイル名を入力します。

- “MEIBO” とファイル名を付ける。



ファイル名として付けることのできない文字があります。詳しくは「INFORMATION」をご覧ください。

ページに付けられている表題とファイル名は別のものです。ページの表題はそのまま残ります。

ページファイルは、マイツールをインストールしたディレクトリの下“MYFILEX”のディレクトリに書き込まれます。それ以外のディレクトリやドライブに書きこむ場合は次のように指定します。

《例》 “ETC” というディレクトリに “MEIBO” というファイル名を付けて書き込む。



Aドライブのフロッピーに “MEIBO” というファイル名を付けて書き込む。



パックしますか
[Y する / N しない] :

書き込むページファイルをパックするかどうかを指定します。

パックとは、表の中に BMP、WAVE、AVI ファイルのファイル名が取り込まれているとき、表データといっしょにこれらのデータも圧縮してページファイル内に書き込むことです。

- パックして書き込む。



- パックしないで書き込む。



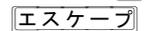
【新しいファイルの場合】

[○○○] は新規ファイルです。

書き込んでよければ実行キーを押して下さい :

で入力したファイル名が表示されます。

- 新しく書き込む。
- 書き込むのを中止する。



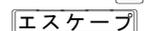
【既存のファイルの場合】

[○○○] は既存ファイルです。

上書きしてよければ実行キーを押して下さい :

で入力したファイル名がすでに存在する場合、左のように表示されま

- 上書きして書き込む。
- 書き込むのを中止する。



INFORMATION

◆ページファイルとは、拡張されたページやRC命令などでつなげられたページを、つながったままの状態で保存することができる形式のファイルです。

◆書き込んだページファイルはマイツールをインストールしたディレクトリの下の“MYFILEX”のディレクトリに、ファイル(マイツールのFILE命令で作られるファイルではなく、ひとつのデータファイル)として保存されます。

◆ページファイルに付けるファイル名として、次の文字を半角で付けることはできません。

. , / * " : ; < > + = ¥ |

全角文字であれば付けることができます。また、スペースは半角、全角どちらでも付けることはできません。

◆書き込んだページファイルは、RFL命令で画面に読み出します。

◆ページファイルの一覧はFILEX命令で見ることができます。

◆ページファイルは各命令のページ指定時で、通常のページと同様に指定することができます。ただし、EF命令、DF命令でデータページとして指定することはできません。

◆BMPファイル、WAVEファイル、AVIファイルがページに取り込まれている(ファイル名が書き込まれている)場合、そのページをCOPY命令でフロッピーにコピーしても、BMPファイルなどのファイルそのものはコピーされません。

BMPファイルなどをいっしょに書き込みたい場合は、WFL命令でページファイルとして書き込み、バックを“する”にします。

◆バックしたページファイルはP型のページファイルとなり、FILEX命令で見るとファイル名の右側に“MYP”と表示されます。バックしないページファイルは、X型のページファイルとなり、ファイル名の右側に“MYX”と表示されます。この“MYP”“MYX”はファイルにつけられる拡張子でもあります。

- マイツール上から、Windowsのアプリケーションを起動します。

仕事は =

WINEXE

コマンドは [] : explorer.exe :

起動するアプリケーションの、プログラム名を入力します。

EXE形式であれば、カンマ()以下の拡張子は省略可能です。

キーのみを押すとファイルマネージャが起動します。

● Windowsのペイントブラシを起動する。 PBRUSH

● エクスプローラを起動する。

“WINDOWS”のディレクトリまたはその下の“SYSTEM”以外のディレクトリにあるプログラムを起動する場合は、ディレクトリ名を含めて入力します。

この場合、ディレクトリ名とファイル名の前に“¥”を付けてください。

《例》 “TOOL”というディレクトリにある、“DEMO.EXE”というプログラムを起動する。 ¥TOOL¥DEMO

マイツールをインストールしたドライブ以外のドライブからプログラムを起動する場合は、ファイル名の前にドライブ名とコロン(:)を付けて、ダブルコーテーションで囲んでください。

《例》 EドライブのCD-ROMから“DEMO.EXE”というプログラムを起動する。 *C:¥D¥E¥M¥O

INFORMATION

◆ Windowsのディレクトリにあるプログラムには、たとえば次のようなものがあります。

- 電卓 (calc.exe)
- メモ帳 (notepad.exe)
- ペイント (pbrush.exe)
- CDプレーヤー (cdplayer.exe)
- ワードパッド (write.exe)

◆ “コマンドは:”のメッセージで、プログラム名の後にファイル名を付けて指定すれば、プログラムを起動すると同時にファイルを開くこともできます。ただし、そのファイルが編集可能なプログラムである場合に限りです。

《例》 ペイントの起動と同時に“CAT.BMP”というBMPファイルを編集する。

PBRUSH CAT.BMP と入力します。

★ “CAT.BMP”というBMPファイルがマイツールをインストールしたディレクトリ(標準で“MTFREE”)、もしくはその下の“MYBMP”のディレクトリにある場合です。その他のディレクトリにある場合はディレクトリ名から指定する必要があります。

◆ Windowsの機能で“アプリケーションとの関連付け”がされている拡張子の付けられたファイルであれば、“コマンドは:”のメッセージで、そのファイル名を入力すれば、関連付けされたアプリケーションを起動してから、ファイルを開くことができます。

《例》 “WAV”という拡張子が“sndrec32.EXE(サウンドレコーダー)”というプログラムに関連付けされている場合。

BAYBAY.WAV と入力すると、サウンドレコーダーが起動し“BAYBAY.WAV”のファイルを編集(再生)することができます。

★ “BAYBAY.WAV”というWAVEファイルがマイツールをインストールしたディレクトリ(標準で“MTFREE”)もしくはその下の“WAVE”のディレクトリにある場合です。その他のディレクトリにある場合はディレクトリ名から指定する必要があります。



Exchange (エクスチェンジ)

おもて画面と裏画面とを入れかえる

- おもて画面の内容を裏画面に移し、裏画面の内容をおもて画面に表示します。

仕事は =



INFORMATION

- ◆ 作りかけの表や参考用の表を裏画面に移しておき、おもて画面と裏画面を見くらべながら効率的に仕事ができます。
- ◆ X命令は、CMP・ICB・ILB・DOC・DOCR命令の際によく使います。
- ◆ 次の命令を使うと、裏画面に保存しておいた内容は消えてしまいます。注意しましょう。ACMC・CNC・CPS・CPSL・CTP (モード変更)・BEST・DF・DSH・EF・G (帯・点・散布図・工程管理)・MAT・MT・MTE・MTL・RF・S・SH・SHD・SHG・TC・TMT・UPD・UPDS・UPM・VT・XY

例題

おもて画面と裏画面を交互に表示します。

わかりやすくするために、まずDS命令で画面を分割しておきます。

DS 1 1 1 1

続けておもて画面と裏画面にデータを読み出します。

R : 5

RB : 6

X命令で、おもて画面と裏画面を入れかえます。

X

X命令をくり返し行くと、おもて画面と裏画面のデータが交互に入れかわるのがわかります。

実行前

6	1	2	3	4	5	6	7	8	+
1	[売上帳]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12								
3									
4	年月日 NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計		
5									
6	950403 118	(株)T0商会	ﾌﾌｲ	100	800	80,000			
7	950403 118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800			
8	950403 107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600			
9	950403 107	(株)神崎建設	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	30	360	10,800			
10	950403 107	(株)神崎建設	透明ｶｯﾄ	20	500	10,000			
1	[売上集計]				95.04.01	混	L=0067	C=0120	
2	F=6,12,6								
3									
4	品名	売上	%						
5									
6	F	968,000	37.9						
7	A	754,000	29.5						
8	G	324,000	12.6						
9	B	262,000	10.2						
10	C	128,000	5.0						

実行後

5	1	2	3	+	3	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
1	[売上集計]									95.04.01	混	L=0067	C=0120							
2	F=6,4,15,12,6,6,12,12																			
3																				
4	年月日 NO	得意先名	品名	数量	単価	金額	金額累計													
5																				
6	950403 118	(株)T0商会	ﾌﾌｲ	100	800	80,000														
7	950403 118	(株)T0商会	A4用紙	10	580	5,800														
8	950403 107	(株)神崎建設	A4用紙	20	580	11,600														
9	950403 107	(株)神崎建設	ﾊﾞｲﾀﾞｰ	30	360	10,800														
10	950403 107	(株)神崎建設	透明ｶｯﾄ	20	500	10,000														
1	[売上帳]									95.04.01	混	L=0067	C=0120							
2	F=6,12,6																			
3																				
4	品名	売上	%																	
5																				
6	F	968,000	37.9																	
7	A	754,000	29.5																	
8	G	324,000	12.6																	
9	B	262,000	10.2																	
10	C	128,000	5.0																	

XY

X Y Change (エックス ワイ チェンジ)

項目行を指定して、表の行と列を入れかえる

- 表の行と列を入れかえて、新しい行数・列数・桁数の表にします。
- 項目行にする列が、選択できます。
- 行と列を入れかえた結果、行数・列数が足りなくなるようなときでも、ページサイズを変更してページに収まるようにします。

類似命令

- TRP...行と列を入れかえます。

仕事は =



何列目を項目行にしますか :

行と列を入れかえた表の、項目行にする列の番号を指定します。

- 1列目を項目行にする。  (または )
 - 3列目を項目行にする。 
- 単独、H・T、条件式、@指定が可能です。
キーのみを押した場合、処理可能な先頭列をとります。

INFORMATION

- ◆行と列のデータ数が等しくなくても、入れかえることができます。
- ◆ケイ線が引かれていても、行列の入れかえに問題はありません。
- ◆TRP命令と異なり、入れかえの結果、データが削られるようなことはありません。
- ◆入れかえの結果、空白(スペース)になる行・列は、削ります。
- ◆XY命令を行う場合、縦と横のデータ数によって、次の①～③のような表を作ります。

縦項目(A、B、C)と横項目(イ、ロ、ハ)の数が同じとき。

<元の表>

	イ	ロ	ハ
A	1	2	3
B	4	5	6
C	7	8	9



<入れかえた表>

	A	B	C
イ	1	4	7
ロ	2	5	8
ハ	3	6	9

項目行にする列

縦項目(A、B)より、横項目(イ、ロ、ハ、ニ)の数の方が大きいとき。

<元の表>

	イ	ロ	ハ	ニ
A	1	2	3	4
B	5	6	7	8



<入れかえた表>

	A	B
イ	1	5
ロ	2	6
ハ	3	7
ニ	4	8

項目行にする列

★横項目の多い分だけ、新しい表に行を増やします。また、縦項目の数に合わせて列を削ります。

横項目（イ、ロ）より、縦項目（A、B、C、D）の数の方が大きいとき。

<元の表>

	イ	ロ
A	123456	1234
B	1000	100
C	2000	20
D	200	3



<入れかえた表>

	A	B	C	D
イ	123456	1000	2000	200
ロ	1234	100	20	3

項目行にする列

縦項目の多い分だけ、新しい表に列を増やし、列幅はデータに1桁足した桁数になります。また、横項目の数に合わせて行を削ります。

入れかえの結果、表がページのサイズを超えてしまった場合は、ページサイズを変更して、ページに収まるようにします。

例題

10 ページ「支店別売上表 94 年」の、表の行と列を入れかえます。

R : 10回

X Y回

1回..... 1列目を項目行にする。

実行前

支店名	4月	5月	6月	合計
A支店	70,000	38,000	80,000	188,000
B支店	30,000	60,000	70,000	160,000
C支店	70,000	35,000	90,000	195,000
合計	170,000	133,000	240,000	543,000



実行後

支店名	A支店	B支店	C支店	合計
4月	70,000	30,000	70,000	170,000
5月	38,000	60,000	35,000	133,000
6月	80,000	70,000	90,000	240,000
合計	188,000	160,000	195,000	543,000

PART2

資料

エラーメッセージと対策.....	470
用語解説.....	479
指定方法一覧.....	488
マイツール命令早見表.....	490

エラーメッセージと対策

エラーの原因と、対策の説明です。

マイツールを使用しているときに、間違った操作や間違った入力をする、エラー番号とエラーメッセージが画面に表示されます。該当部分をご覧ください。

★使う命令によって、多少違った表現のメッセージが表示されることがあります。

★オートプログラム実行中にはメッセージ中にエラーのある行番号を表示します。

0 という命令はありません

入力した命令はありません。
または、入力した計算式の演算子、カッコ（ ）、関数の使い方に誤りがあります。

2 命令が実行できません

バージョンが違うため、この命令は使えません。

6 ディスク領域がいっぱいです

命令やプログラムを実行するためのディスクメモリーが足りません。FILE命令で不要なページ数を減らして、もう一度実行してください。

10 ドライブのフロッピーが違います ドライブの [ファイル名] が見つかりません

ドライブにセットしたフロッピーが違います。
ドライブA（またはB）にはデータフロッピーを入れてください。

11 ドライブの入出力エラーです

フロッピーディスクドライブまたはハードディスクドライブの入出力エラーが発生したとき、**[エスケープ]**キーを押しました。

12 ドライブの [ページ] が読めません

正しくページやファイルが読み込めませんでした。
もう一度やり直してもメッセージが表示される場合、そのページは使用しないでください。

13 ドライブの [ページ] が書けません

正しくページやファイルが書き込めませんでした。
もう一度やり直してもメッセージが表示される場合、そのページは使用しないでください。

15 領域が足りないので初期化できません フォーマット中エラー発生

システムのフォーマットを行ってください。不良セクターの表示が出なかったら、もう一度INI命令を行ってください。不良セクターが表示された場合はマイツールのデータフロッピーとしては使用できません。

22 『↵』のみの入力ではできません

命令実行中や処理を選択する場合など、なんらかのデータを必要とするものでは、**[↵]**キーのみでは実行できません。適切なデータを入力してください。

23 『↵』以外の入力ではできません

処理を続行する場合は、必ず**[↵]**キーを押してください。

24 入力された指定はできません

区分、番号、値などその命令の入力データには指定できないものを入力しました。または、命令実行後にその命令の入力データの制限を超えたものを入力しました。
使っている命令をもう一度確認してください。

26 入力が範囲外です 正しい行（列）番号を入力してください 正しい値を入力してください

指定された行や列の番号が1より小さかったり、最大行や最大列を超えているか、または表の中のデータではない部分の行や列を指定しています。

《例》

ACM、TLなど計算関係の命令では計算可能な行は項目目の次（通常6行目）からです。

確認後、もう一度入力してください。

28 行（列）の指定が誤りです

行列指定で、間違った行または列を指定しました。
確認後、もう一度入力してください。

30 指定されたファイル名はありません

指定されたファイル名は登録されていません。
確認後、もう一度入力してください。

32 指定されたファイルは使用中です

SH命令などで指定したV型の入力ファイルと同じファイルを書き込み先に指定しました。
PAGE命令で指定したV型ファイルと同じファイルにページ間処理の命令の書き込み先の指定をしました。

40 ページ指定に誤りがあります

- 数字以外の指定、グループ番号1～4以外の指定、1～S3などの指定、W命令以外でBの指定などを行いました。
- R・W命令以外で+、-、*を指定しました。
- T命令でR・W命令以外の命令を指定しました。
- 固定（F）型ファイルに対してファイル名のみを指定したか、または可変（V）型ファイルに対して部分指定をしました。
- PAGE命令で出力指定した可変（V）型ファイル（またはページ）に対して読み書きしようとした。
- インデックス型ファイルでは、グループ指定はできません。

41 ページ番号が大きすぎます

最後のページ数よりも大きい値を指定しました。確認後、もう一度入力してください。

42 ページ数が多すぎます

- RC命令などで、指定可能なページ数よりも多いページを入力しました。
- R命令などで、複数のページを指定しました。
- 確認後、もう一度入力してください。

43 ページが見つかりません

検索指定（=OO）かグループ指定（G1～G4）をしたとき、該当するページがありませんでした。確認後、もう一度入力してください。

46 空きページがありません 処理を中止します 空きページがありません

フロッピーの最終ページまで書き込んでしまい、これ以上書き込めません。不要なページを削除してください。《例》

1. W命令で空きページに書き込もうとしましたが、空きページがありませんでした。不要ページを削除するか、不要ページに書き込んでください。
2. S・SH・WC命令などで複数ページにわたる結果を書き込む途中で、最終ページを超えてしまいました。または、指定された書き込みページの範囲を超えてしまいました。書き込み先頭ページ番号か、書き込みページの範囲を変更してください。

47 書き込み先が不足です

S・COPY・PAGE・GEDなどの命令で、データを書き込む際、データが最終ページを超えてしまいます。書き込み先頭ページを変更してください。

48 ページが連続していません

連続していないページを指定しました。ハイフン（-）を使って指定してください。カンマ（,）は使えません。

50 入力されたキーワードに誤りがあります キーワードのエラーです（ ）

画面に出る内容（OO）の番号ごとに下記の原因があるので、PRT命令でキーワードを削除するか、変更してください。

- 20=入力ページの先頭にキーワードがないのに、それ以降のページにキーワードがあります。
- 21=入力ページの先頭のキーワードと、それ以降のキーワードが違います。
- 30=出力ページの先頭にキーワードがないのに、それ以降のページにキーワードがあります。
- 31=出力ページの先頭のキーワードとそれ以降のキーワードが違います。

（注）ただし、途中でキーワードのないページがあってもかまいません。

52 指定されたファイルにはページがありません

ページが1つもないファイルを指定しました。確認後、もう一度入力してください。

54 指定されたファイルは処理できません

- 可変ファイルまたはフロッピーファイルのページ数は変更できません。
- S・M・A・B・Cのファイル、CHF命令で指定されているファイル、PAGE命令で指定されているファイルはファイル名をかえたり、内容を空白にしたり、削除することはできません。
- 固定ファイルはプロテクトできません。
- プロテクトがかけられているページがあるファイルを削除することはできません。
- インデックス型ファイルは、プロテクトやグループ指定できません。

55 ページファイルは指定できません

拡張されたページや、WFL命令で書き込んだファイルは指定できません。

56 指定されたドライブは削除することはできません

指定されたドライブに、ファイルが登録されています。ファイルを削除して、再実行してください。

58 R V O F F中なのでR V命令は使えません

R V O N命令を実行してください

59 漢字モードのページは処理できません

書き込みページが漢字モードの場合はSGE T命令を実行することはできません。C T P命令で混在モードに変更してください。

60 モードが合わないため処理を中止します

実行中の命令では使えないモードのページを使っています。各命令の注意にしたがって、CTP命令でモードの変更をしてください。

《例》

1. SやSHなど検索関係の命令で、漢字モードの複数ページを処理中、混在モードのページが現れました。全部どちらかのモードに統一してください。
2. DOC・DOCR命令などでは漢字モードのページに混在モードのデータは入れられません。モードを統一してください。

62 グラフィックページなので処理できません

この命令では、グラフィックページを指定できません。

64 処理できる行または列がないので入力された命令は使えません

フォーマット行のないページやデータ行がないページでは列を指定する命令や計算、検索関係の命令は使えません。

《例》

MC・IC・ECや計算、検索関係の命令は、ページの中に表があってもフォーマット行（F=10, 8, 8 など）がなければ処理できないので、CFA命令などで、フォーマット行を挿入してください。

66 このページは行または列がいっぱいです これ以上行や列を増やすことはできません

指定されたページの行または列がページサイズでいっぱいのため、これ以上行や列を増やせません。不要な行や列を削除したり、CPS命令でページサイズを変更してください。

《例》

IL命令やIC命令で行や列を挿入している場合は、DL命令やDC命令で不要な行や列を削除してから行ってください。

67 横方向にページを結合中なので入力された命令は使えません

RC命令で横方向にページを結合中は、入力された命令は使えません。

結合中に使えない命令については、RC命令をご覧ください。

68 ページを結合中なので入力された命令は使えません

RC命令で複数ページを結合中なので、入力された命令は使えません。WC命令で書き込んでしまおうか、R命令で他のページを読み出すなどしてください。

結合中に使えない命令については、RC命令をご覧ください。

69 拡張モードの時にL指定はできません

拡張モードの場合は入力された指定はできません。

SETC命令で固定モードに変更してください。

70 データが多すぎるので処理を中止します

データ数の上限を超えているので、処理を2回に分けるか、表から不要なデータを削除してデータ数を減らしてください。

《例》

DOC命令で結合した結果、ページ内におさまらない行があった場合、処理を中止します。2つの表の不要な行を削除して、再実行してください。

71 指定された行または列が見つかりません

表の中のない行または列を指定しています。確認してください。

72 キー列の指定が誤りです

画面で指定したキー列数と合いません。確認後、もう一度入力してください。

73 照合するページのキー列の 行目が文字正順になっていません

MTE・UPDS命令で、照合するページに指定したキー列のデータが、文字正順で並べかえてありません。S命令で並べかえてから実行してください。

74 これ以上色をつけることはできません 1行につけられる色は50列までです

1行につけられる色（階調）は50列までです。指定された場所に、51列以上色をつけることはできません。

《例》

SETP命令で色指定をするとき、1行に50までしか色はつけられません。

75 奇数桁の列があるので変更できません 偶数桁にしてください 半角の文字または連続していない半角スペースがあるので変更できません

奇数桁の列は偶数桁に、半角文字は全角文字に、奇数個のスペースは偶数個のスペースに変えてください。

76 始値，分割数，増分のいずれかの指定に誤りがあります

“初めの値，分割数，増分”の指定が誤っています。

《例》

100から20ずつ、5段階に分ける場合は、“100, 5, 20”と指定します。

78 指定した桁数が小さいため新しい表が作れません

ページの横方向の長さが少なく新しい表ができません。新しい表の1行の長さを指定し直してください。

80 フォーマット行より上か、項目行が多すぎるので
入力された命令は使えません

フォーマット行より上にたくさんのデータがあったり、項目行が何 10 行にもわたるような状態で、1 ページ分を超えている場合、入力された命令は使えません。DL 命令などで不要な行を削除してください。

190 プリンタの設定に誤りがあります

PSET 命令の接続プリンタ機種の設定が、ご使用のプリンタの機種と一致しているか確認してください。一致していない場合は、プリンタ機種の設定を変えてください。

191 コントロールコードの指定に誤りがあります

コントロールコードの指定が誤っています。“PCON”で指定できるコントロールコードは 16 進で 00~FF までの 2 桁以内の数字です。

195 データページのモードが合いません
データページのモードを統一してください

PF・DF 命令で複数ページを処理中、先頭データページとモードが違うページが現れました。CTP 命令で全部どちらかのモードに統一してください。

300 計算式に誤りがあります

入力された計算式の演算子、()、関数の使い方などが違ってきます。

301 『=』がありません
または 右辺式に誤りがあります

計算式に“=”がありません。
計算式を書いた場合、必ず“=”を入れてください。
または、計算式の右辺が誤っています。
確認後、再入力してください。

302 計算場所指定に誤りがあります

計算場所指定が誤っています。
《例》
C3 * C4 = C5, Nなどは指定できません。

303 『(』と『)』が正しく対応していません
または演算子を 2 つ以上連続して指定しています

入力された計算式のカッコ()、演算子の使い方を誤っています。
カッコ()は対応して使ってください。演算子は“*”以外、2 つ以上続けて指定できません。

304 行・列・マトリックス指定に誤りがあります

行や列、マトリックスの指定が誤っています。
《例》
LA+LB=L Tのように、行番号が入るところに無意味な文字は使えません。

305 行・列番号の指定が誤っています

規定の範囲外の行・列を指定しました。
確認後、もう一度入力してください。

306 定数項の指定に誤りがあります

数値でない項や、数値であっても桁数が大きすぎる項があります。または、YMD関数で“日付”として認められない文字列を使っています。
数値に直すか、または桁数を 35 桁より下に修正してください。

307 C (列)とL (行)の混じった計算式は使えません

1 つの計算式に、C (列)とL (行)は混ぜて使えません。
《例》
C5 * C6 = L12などは使えません。

308 左辺式と右辺式が適合していません

左辺式と右辺式が適合していません。
行・列・ワーク列を含む計算式では、右辺式でマトリックスを指定することはできません。またMTR式では右辺の指定はできません。右辺でマトリックスを指定した場合、計算場所指定はできません。

309 連続指定・特殊関数の計算式に誤りがあります

連続指定、特殊関数の計算式に誤りがあります。
行・列・ワーク列以外の項を含んでいるか、第 1 項と第 2 項の項の種類が違ってきます。
または、左辺の項数が 2 つ以上です。

310 関数式に誤りがあります

関数名のつづり間違いか、C 命令では使えない関数名を使っています。
一般関数、特殊関数、カウント関数、ストリング関数など、関数名をもう一度確かめてください。
または、カッコ [] の位置が間違っています。

312 行方向または『W』指定の計算はできません

ACMC 命令やMAV 命令の複数ページを指定した場合は、行方向への計算や、ワークエリアに書き込むことはできません。

319 ACM命令の書式に誤りがあります

SIM 命令の書式の中で、ACM 命令の部分に誤りがあります。修正後、もう一度やり直してください。

DR 命令の書式に誤りがあります

SIM 命令の書式の中で、DR 命令の部分に誤りがあります。修正後、もう一度やり直してください。

ICM命令の書式に誤りがあります。

SIM命令の書式の中で、ICM命令の部分に誤りがあります。修正後、もう一度やり直してください。

DCM命令の書式に誤りがあります

SIM命令の書式の中で、DCM命令の部分に誤りがあります。修正後、もう一度やり直してください。

320 書き込み先頭ページの指定に誤りがあります

- S命令実行時の書き込み先頭ページのエラーです。
- 入力ページ数がサブページのページ数+47 ページ以上のときに、書き込み場所としてサブページを指定しました。サブページのページ数×2+47 ページ以上の並べかえでは、書き込み先頭ページは入力先頭ページと同じか、それより小さくしてください。

321 項目行が多すぎるので処理を中止します

入力先頭ページの項目行が多すぎます。DL命令などで不要な項目行を削除するか、入力先頭ページを変更してください。

322 入力ページの指定に誤りがあります 連続したページを指定してください

連続したページを指定しなければならない入力で、連続していないページを指定しています。ページの内容を移して連続させてください。

《例》

S命令で72ページ以上の処理をする場合、入力ページの指定は1-72など、連続ページにかぎります。
1-70, 80, 81などは実行できません。

324 入力件数が多すぎるため処理を中止します

S命令で並べかえることのできる最大件数を超えました。

- 横の長さが大きく異なるページは、処理できないことがあります。

326 エラー発生、処理を中止します

入力と出力の件数が合いませんでした。
S命令で並べかえている途中で、データが壊れました。

330 検索条件式に誤りがあります

検索条件式の書式が違います。
正しい書式を入力してください。

332 SHUの検索条件では使用できません

SHU命令で列検索の指定を行いました。
SHU命令では、列検索はできません。

334 最初の検索条件と違います

1番目で指定した検索条件式と違ったものを指定しました。

《例》

1番目…S=*売上*
2番目…C1>=10など
もう一度入力してください。

336 左辺と右辺が違います

左辺と右辺で、列指定と行指定を混ぜて指定しました。
確認後、もう一度入力してください。

338 書きかえの指定が違います

SHU命令の“どの列を書きかえますか：”のメッセージで、データのない列を指定したり、誤った指定を行いました。

352 『@@』は1列目には使用できません 項目とそのデータを入力してください

バランスグラフにする表の“@@”は先に指定した列と同じデータを使う場合の記号なので“1番目の項目は”で“@@”のある列を指定することはできません。はじめに指定する列には項目名とそのデータを必ず入れてください。

354 マイナスのデータは最下行以外に書くことはできません

バランスグラフにする表は、マイナスのデータは最下行以外に書くことはできません。ML命令などでマイナスのデータを移動してください。

356 各列の合計値が一致しません

バランスグラフにする表の指定した列ごとの合計が一致していません。一致するように修正してください。

《例》

- ① 1番目に指定した列の合計と、2、3番目に指定した列の合計が違ってきます。
- ② “@@”は、表中の左隣と同じデータではなく、先に指定した列と同じデータになるので注意してください。

358 データが多すぎるので、入力された指定はできません

データ数の上限を超えているので、入力された指定はできません。データ数を減らして、もう一度実行してください。

《例》

XYグラフのデータ数が多すぎるので、値表示ができません。

402 『CMD』は登録できません

CMD命令で半角文字のCMDは登録できません。
他の名前登録してください。

403 登録する名前にスペースおよび["], [:]は使えません

CMD命令で登録する名前に、スペースや["] [:]は使えません。
もう一度、登録し直してください。

404 この名前はすでに登録されています

この名前はすでにCMD命令で登録してあります。
名前を変えて登録するか、古い名前を削除してから登録し直してください。

410 このページには同じ名称のプログラムが複数あります

プログラム名を変更するか、前のプログラムを削除してください。

412 登録エリアに空きがありません

不要なプログラムを削除してください。

423 ログエリアの容量を超えたため、PAGE命令はキャンセルされました

PAGE命令中に実行される命令や指定がロギングエリアの最大行数を超えたため、PAGE命令を続けることはできません。
もう一度、はじめから入力してください。

425 ページの書き込みは1ページだけです

PAGE命令中に画面のデータが1ページを超えた場合、書き込むことはできません。

《例》

拡張モード時に、CPL命令などでデータが1ページ分を超えました。

450 指定部分以外に『*』があります
『*』を削除してください

指定部分の最初の行ではないのに、行の左端に『*』があります。『*』を削除してください。

452 指定が100を超えています
100以内におさめてください

指定できる列は100までです。書き込む列の数を減らしてください。

453 指定が100を超えています
100以内におさめてください

コード指定かコード表が多すぎます。
コード指定数、コード表ページ数の最大は100までです。

454 書き込みページにない列を指定しています

書き込みページに存在していない列を指定しています。
書き込みページの列番号を確認してください。

456 同じ列番号を何度も指定しています

1つの指定部分で同じ列番号を複数回指定しています。
どちらかの列指定を削除するか、変更してください。

458 形式指定部分の書式に誤りがあります

形式指定部分の書式が間違っています。
形式指定部分のデータの形式を指定する式を正しく書きかえてください。

460 画面指定部分にない列を指定しています

形式指定部分で画面指定部分に書かれていない列を定義しています。
画面指定部分で列を指定するか、形式指定部分の対応する式を削除してください。

462 画面指定部分が一画面におさまっていません
一画面内におさめてください

画面指定部分で入力画面を定義するときに一画面におさまりきらないような入力画面を定義しています。
画面指定部分を書きかえて、画面におさまるようにしてください。

464 条件指定部分の書式に誤りがあります

条件指定部分の書き方が間違っています。
条件を指定する、それぞれの式を正しく書きかえてください。

466 自動挿入項目に誤りがあります

自動計算指定部分で自動挿入項目ではない項目について計算式を定義しています。あるいは、同じ項目に対して複数の計算式を定義しています。あるいは、コード入力式を定義しています。
自動挿入項目に対して以外の計算式やコード入力式は削除してください。

467 コード書式に誤りがあります

CODE [C 1, 2, 3] = C 4の書式で書いていません。または、指定した列がありません。
正しい書式に直してください。

468 ページのモードが合いません

書き込みページとデザインページまたは、コード表のページのモードが合いません。

470 形式指定部分が複数あります
1ヶ所にまとめてください

形式指定部分が複数個あります。
形式指定部分を1ヶ所にまとめてください。

472 条件指定部分が複数あります
1ヶ所にまとめてください

条件指定部分が複数個あります。
条件指定部分を1ヶ所にまとめてください。

474 自動計算指定部分が複数あります
1ヶ所にまとめてください

自動計算指定部分が複数個あります。
自動計算指定部分を1ヶ所にまとめてください。

476 画面指定部分で列を指定していません

画面指定部分で列指定が一つもありません。
入力画面として使えるように列の指定を行ってください。

478 形式指定部分がありません

形式指定部分がありません。
画面指定部分に合わせて、形式指定部分をつくり、書き込みページに合わせて、データの形式を定義してください。

480 形式指定部分での列の指定が足りません

形式指定部分での列の定義が足りません。
画面指定部分で指定したすべての列について、データの形式を定義してください。

482 自動計算指定がありません
計算式を指定してください

自動挿入項目の指定があるのに、自動計算指定部分がありません。
自動計算指定部分を書き込み、計算式を定義してください。

484 条件指定の数が多すぎます
5つ以内に減らしてください

条件が多すぎます。
条件指定部分での条件指定の式を減らしてください。
条件は最大5つまでです。

486 自動挿入項目がありません

自動計算指定部分で計算式やコード入力式が定義されていない自動挿入項目があります。
すべての自動挿入項目に計算やコード入力式を定義してください。

488 デザインページの横サイズが足りません

デザインページの横幅が小さすぎます。
横方向のサイズを広げてください。

490 デザインページが作成できません

データページに誤りがあるため、DF命令で簡易デザインページが作成できません。データページを確認してください。

500 ページの指定に誤りがあります。

RC命令でつなぐことができるのは、縦方向に200ページ以内、横方向に6ページ以内です。
確認後、もう一度入力してください。

502 接続するページのモードやサイズが違っていません

接続するページ間で、ページのモードやページのサイズ（行数や1行の桁数）が違っていると接続できません。
CTP命令でモードを変更したり、CPS命令でページのサイズをそろえてください。

503 ページの指定に誤りがあります

RC命令でつないだページをWC命令で書き込むとき、書き込めないページを指定しました。

《例》

RC命令で3ページをつないでファイルの最終ページから書き込もうとすると、書ききれないのでこのエラーが表示されます。

504 RC命令でつなげることのできる行数を超えました

RC命令でつなげることのできる行数を超えました。または項目行が大きすぎるのでつなげることができません。DL命令などで不要な行を削除するか、つなげるページを変更してください。

505 画面の表はつながれていません

RC命令で接続していない通常のページに対して、WC命令を実行することはできません。

506 フォーマット行より上か、項目行が多すぎるので書き込めません

フォーマット行より上か、項目行が1ページ分を超えているので書き込めません。
または、書き込み先にページを指定しました。DL命令などで不要な行を削除してください。

507 6ページ以内に分割できません

横に接続したページについて、WC命令を実行する前に、列の追加をしたり、列の桁数や構成などを変えたため、WC命令で各ページに分割すると、つないだ数を超えました。DC命令で不要な列を削除したり、CF命令やCFA命令で、列の桁数を変更してください。

508 列の合計が 300 を超えています

横に接続した結果、列の合計が 300 を超えました。
DC 命令で不要な列を削除して、列の合計が 300 以内におさまるようにしてください。

510 列目の大きさが分割後のページ幅を超えています

○列の桁数がページ幅を超えています。
CF 命令や CFA 命令で列を小さくするか、RC 命令を行う前の各ページの幅を CPS 命令で変更してから行ってください。

511 フォーマット行に誤りがあるので書き込みません

横に接続したページのフォーマット行に誤りがあります。
フォーマット行を削除するか、CFA 命令などで正しいフォーマット行を作成してから書き込んでください。

624 オーバーフローです

Z 変数に -2147483647 から 2147483647 の範囲を超えるデータを代入しようとしてしました。
代入するデータを範囲内に納めてください。

800 オート命令の構文エラーです

FOR・NEXT・CONTINUE・BREAK・IF・ELSE・ENDIF・DATA・RESTORE・ON・?・GOTO・GOSUB・RETURN・STOP・ESC の書き方が間違っています。修正してください。

810 プログラムの終わりに STOP がありません

プログラムが“STOP:”で終わっていません。
プログラムを“STOP:”で終了するようにしてください (STOP はいくつ書いてもかまいません)。

**815 パラメータの最後に「:」(コロンの)がありません
あるいは「"」(ダブルコーテーション)の対応が正しくとれていません**

一行は必ずコロン(:)で終わり、一行内のダブルコーテーション(")の数は偶数個でなくてはなりません。
★ただし、空白行とラベル行(コメント行)には、必要ありません。

820 変数名に誤りがあります

使用できる変数は、ZO~Z100、RO~R100、VO~V50、TO~T1 です。
また、T 変数への代入はできません。

822 計算式に誤りがあります

計算式は、C 命令のものとは、書き方が違います。

824 計算式のオーバーフローです

計算式が複雑すぎて結果を求めることができません。途中結果を一時変数などに入れるなどして計算式を単純化してください。

830 ラベルが不適当です

GOTO 文などのラベルが不適当です。ラベルはアスタリクス(*)ではじまる文字列でカンマ(,)、ダブルコーテーション(")、コロン(:)、スペース()は使用できません。

832 飛び先のラベルが見つかりません

GOTO 文などの飛び先のラベルがありません。

834 飛び先のラベルが複数個あります

GOTO 文などの飛び先のラベルが複数個あります。

839 MANU モード中は RUN 命令は使えません

MANU モードを解除してください。

840 RUN の入れ子が 10 個を超えています

プログラム中に RUN 命令を書いて“入れ子”にできるのは 10 個までです。

841 画面実行は一度だけです

RUN 命令で画面を指定できるのは 1 回だけです。

842 IF 文 GOSUB 文 FOR 文の入れ子が 30 個を超えています

IF・GOSUB・FOR の“入れ子”が 30 個を超えています。

844 オート命令の使い方が不適当です

NEXT 文・CONTINUE 文・BREAK 文・RETURN 文・ELSE 文・ENDIF 文などの使い方が不適当です。

《例》

1. FOR 文がないのに NEXT 文が現れました。
2. FOR~NEXT のループ外で CONTINUE 文・BREAK 文が現れました。
3. GOSUB 文で飛んだ先ではないのに、RETURN 文が現れました。
4. IF 文がないのに、ELSE 文や ENDIF 文が現れました。

846 FOR IF に対する NEXT ENDIF などが見つかりません

FOR 文に対する NEXT 文、IF 文に対する ENDIF 文が見つかりません。

850 %を読みだすべきデータがありません

“%”で使って呼びだすデータがありません。
データを作ってください。

890 この命令はオートプログラム中では使用できません

オートプログラム中には使用できない命令を使用した場合に表示されます。

895 指定されたプログラムが見つかりません

指定したプログラムは登録されていません。
確認後再指定してください。

1650 音声合成の処理が正しく行えません

WAVファイルが見つかりません。または他のアプリケーションで使用可能です。
WAVファイルを確認して、もう一度実行してください。
音声合成に必要なメモリが足りません。
現在使用していない他のアプリケーションを終了してください。

1660 音声合成に必要な辞書が読めません

音声合成に必要な辞書ファイルが見つかりません。
辞書ファイルを確認してください。

1700 辞書が読み込めません

OCR・OCRS命令で必要な辞書ファイルが見つかりません。

1705 ファイルが見つかりません

指定したBMPファイルが見つかりません。
ファイル名が間違っていないか、確認してください。

1800 ファイルが見つかりません

PLAY命令で指定したWAVファイルが見つかりません。ファイル名が間違っていないか、確認してください。

1850 ファイルが読み込めません

BMPファイルが正しく読み込めません。
BMPファイルを確認してください。

1855 正しく書き込めません

ディスクがいっぱいで、正しく書き込めません。
不要なファイルを削除してください。

1860 処理を中止します

BMPファイルを扱うためのメモリが足りません。
現在使用していない他のアプリケーションを終了してください。

1900 プリンタデバイスにエラーが発生しました

プリンタ側でエラーが発生しました。
プリンタを確認して、設定し直してください。
Windowsプリンタに設定している場合、Windows側の通常使うプリンタの設定が、ご使用のプリンタとあっているか確認してください。

1905 デザインが指定の用紙に入りきりません

印字した結果が、指定した用紙内に収まりません。
用紙を変更するか、デザインページを変更するかしてください。

1910 デザインページの全体設定が正しく設定されていません

デザインページの全体設定部分に誤りがあります。
デザインページを見直してください。

1915 デザインページの項目列が正しく設定されていません

デザインページの項目列部分に誤りがあります。
デザインページを見直してください。

**1920 デザインページに誤りがあります
最大件数は、1000件までです**

デザインページのデータ行数は、最大1000件までです。
データ行数を減らして、もう一度実行してください。

用語解説

記号・英字

@

データを入力しているときに、同じ行に同じ内容のデータを入れなければならないことがあります。
@ とキーを押すと、同じ行の1つ左のデータと同じものを入力できます。

e f g h		
---------	--	--



e f g h	e f g h	
---------	---------	--

@を入力すると、同行前列のデータが入力されます。
“@項目名”で列を指定することができます。
@数量 * @単位 = @合計

¥

データを入力しているとき、同じ列に同じ内容のデータを入れなければならないことがあります。
¥ とキーを押すと、同じ列の1つ上の行のデータと同じものを入力します。

a b c d e				

 →

a b c d e				
a b c d e				

¥を入力すると、前行同列のデータが入力されます。
行を指定する場合、
¥ データ とキーを押すと、その内容の列を含む行を指定することができます。

- (ハイフン)

ページや行、列などを指定するときに、最初の数値と最後の数値をハイフン記号(-)でつなぐことによって、連続した数値の中間の数値を省略することができます。また、数値のマイナスや減算記号として使うこともできます。

, (カンマ)

カンマはデータの区切りを意味する記号です。複数の行、複数の列を指定するときなどに使います。また、数字を3桁ごとに区切るカンマは、値の大きい数値を見やすくします。カンマは数値の計算には影響を与えません。

: (コロン)

セミオート機能やオートプログラムでよく使う記号です。表示される各メッセージごとに入れる命令やデータをコロンでつなげば、一連の操作をまとめて入力することができます。
つまり、コロンは(⇐)キーと同じ働きをするわけです。コロンをデータとして入力する場合は、前後をダブルコーテーション(")で囲んでください。

↑ ↓ ← → (二重矢印) キー

今までキーボードから入力した命令やデータを、順に入力行に呼び出すことができます。
↑ キーを押すと、最後にキーボードから入力した命令やデータから順番に表示されます。目的のところを行きすぎたときは、↓ キーで戻すこともできます。
← キーを押すと、命令単位で順に表示され、→ キーで戻ります。
↑ ↓ ← → キーで表示させることのできる命令やデータは、ロギングエリアに保存されているものと同じです。
上記はコンパクトキーボードの場合で、それ以外のキーボードの場合、Ctrl + ↑ ↓ ← → キーを押すと、同じ働きをします。

⇐ (実行) キー

キーボードには、⇐ というキーがあります。命令やデータを入力した後に押すのが⇐ キーです。つまり⇐ とは命令やデータの入力を実行させるという意味です。また、マイツールではほとんどの命令が、条件など指定せずに⇐ キーだけで行うことができます。これを“とりあえず機能”と呼びます。
桁数を指定せずにとりあえず表を作っておく、とりあえず表題をつけておくといったことが可能です。後から使いやすいようにいくらかでも修正すればよいという目的で作られました。

A (A指定)

D C 命令やD L 命令などで、列や行の指定をするときに用います。“A”は“ALL”の略です。“すべて”を対象とするという意味です。
A . と押すだけで、すべての列あるいは、すべての行を指定したことになります。また“~以外”という指定をするには、N指定を行います。

AVIファイル

Windowsで標準的に扱われる動画データのファイルです。ファイルの拡張子が○○○.AVIであることからこう呼ばれます。

動画だけでなく音声データも記録することができます。マイツールでは、MOVIE命令でAVIファイルを再生することができます。

B (B指定)

W命令で **B** () と指定すると、空いている最初のページ (番号の一番小さいページ) に自動的に書き込むことができます。“B”は“BLANK”(空白)の略です。

BMPファイル

画像データの保存形式のひとつで、Windowsで最も標準的に扱われるファイルです。ファイルの拡張子が○○○.BMPであることからこう呼ばれます。

マイツールでは、BMP命令でBMPファイルを表示することができます。

dpi

1インチに含まれるドットの数であらわすための単位です。プリンタの解像度などを表現するための目安として使われます。数値が大きいほど、解像度が高くなります。

GDIプリンタ

Windowsによって管理される、ビットマップデータだけを印字するためのプリンタです。

プリンタ本体にはフォントや描画コマンドを持たず、Windowsから出力されるビットマップデータだけを印字します。

H (H指定)

行、列などを指定するとき、とくに数字で指定しなくても、Hでデータの先頭行や先頭列を指定することができます。“H”は“HEAD”の略です。“H=はじめ”と覚えてください。また、“H+1”は先頭から一つ後ろの番号を意味し、“H-T”は“HからTまで”の意味で、すべての行、またはすべての列の範囲を表します。“H=はじめ”に対して、最後は“T”で表します。

K (K指定)

DC命令やDL命令で、ケイ線だけを一度に消すときに使います。“K”は“ケイ線”の略です。

L (L指定)

「一番大きい数値」を意味する記号として使います。“L”は“LARGE”の略です。

検索の範囲を指定するとき、“100-L”と指定すると、100以上の数値を指定したのと同じ働きをします。SとLを同時に使って、“S-L”とすると、すべての数値の意味になります。

N (N指定)

計算などで行や列の指定をするときに用います。

“N”は“NOT”の略です。

たとえば、C1-3, N14⇐と押すと、“1列目から3列目のデータの中で、14行目だけは無視する”と指定したことになります。

PCM

アナログ音源をデジタル音源に変えるための、変調方式の一つです。

アナログ音声の音量や音の高低を、周波数や波長の数値データ(デジタルデータ)に変換して記録し、それをアナログ音声に戻して再生します。

S (S指定)

「一番小さい数値」を意味する記号として使います。

“S”は“SMALL”の略です。

検索の範囲を指定するとき、“S-100”と指定すると、100以下の数値を指定したのと同じ働きをします。“S”と“L”は、数値の範囲を指定する場合に使うことができます。

T (T指定)

行、列などを指定するときは、とくに数字でなくても“T”だけで最終行、最終列を指定することができます。

“T”は“TAIL”の略です。

“T=おしまい”と覚えてください。

また“T-1”は最終から1つ前、“T+1”は最終から後ろの番号を意味し、“H-T”は“HからTまで”の意味で、すべての行、またはすべての列の範囲を表します。

True Typeフォント

Windowsが使用しているフォントで、拡大・縮小してもぎざぎざにならないという特長を持っています。

WAVEファイル

Windowsにおいて、デジタル音声データを記録するための標準的なファイル形式です。

アナログ音声をPCMでデジタル化して記録します。

ファイルの拡張子は .WAVです。

マイツールでは、PLAY命令でWAVEファイルを再生することができます。

あ行

移動平均

売上率などを求めるときに使います。
過去10ヶ月の売上率を求めるときなどは、月によって変動しているデータを、前後の月でならず（平均化する）ことによって、上昇しているのか、下降しているのかが分かります。

インデックス型ファイル

キー列のデータの最大・最小を、インデックスとしてタイトル一覧に表示したファイルのことです。インデックスがついているため、通常のファイルよりも検索速度が速いのが特長です。

裏画面

1ページ分のデータページを、一時的に保管しておく場所が“裏画面”です。バックエリアとも呼びます。裏画面はそのままではみることができませんが、X命令を使うと、おもて画面と裏画面の内容が入れかわります。ただし画面分割中は、副画面に表示させることができます。

エスケープ

“エスケープ”は“逃げる”とか“抜け出す”といった意味です。
“仕事は=”で間違った命令を実行してしまったときに、**エスケープ**キーを押すと、その命令が取り消されて“仕事は=”の状態に戻すことができます。ただし、命令によっては、取り消すことのできない場合もあります。実行中の命令を中断・終了するときにも**エスケープ**キーを使います。
また、キーを押し間違えたときに**エスケープ**キーを押すと、打っている途中の文字を全部消すことができます。
変換キーを使った漢字変換のときなどは、ひらがなに戻すこともできます。

オートプログラム

同じことの繰り返しや、よく使うにもかかわらず手順の複雑な仕事は、手順を登録しておいて、自動的に行えるようにしておく便利です。
マイツールでは、このように登録した手順のことをオートプログラムと呼びます。
命令や指示およびデータの一部を、あらかじめ用意して、オートプログラムとしてPRO命令で登録すると、それ以降は、RUN命令とプログラム名を入力するだけで使えます。

か行

カーソル

文字を打てる位置を示すマークを“カーソル”と呼びます。つまり、ペン先の役割をするのが“カーソル”です。カーソルには次の種類があります。
カーソル.....画面の入力行にある緑色の点滅マーク。
ブロックカーソル.....入力関係命令（Eなど）を使った際に入力可能な行列を示す白い四角形。
カーソル（ED命令時）...ED命令を行った際に表示される緑や水色のマーク。
マウスカーソル.....画面に表示している“”マーク。
このカーソルのみは、マウスで移動させる。
カーソルは、キーやマウスで移動させます。

書き込む

W命令で画面の内容を保存することを、“書き込む”といいます。書き込む命令には、PAGE・S・SH・WC命令などがあります。

漢字モード

画面のタイトル行に“漢”と表示されているページを“漢字モード”のページといいます。
漢字モードでは、半角の文字は使えません。使えるのは全角文字だけです。半角の文字を使いたい場合は、CTP命令で“混在モード”のページに変えてください。

画面（おもて画面）

マイツールで、表を作ったり文章を作ったり編集などの作業を行うところが“画面”です。フロントエリアとも呼びます。なお、画面分割を行ったときは、画面のことを操作画面と呼んでいます。マイツールには、他にも裏画面（バックエリア）やロギングエリア、ワークエリアと呼ばれる画面がありますが、単に画面と呼んだときは、この“画面”（フロントエリア）を指します。

画面分割

マイツールでは、D S命令やマウスを使って、画面を2つに分けることができます。画面は、上下にも左右にも分けられます。上下に分けた場合、下に位置するのが通常の画面（操作画面）で、上の画面は“副画面”と呼びます（“副画面”参照）。左右に分けた場合は、左側が通常の画面、右側は“副画面”になります。D S命令を使えば、分割方向（上下・左右）、分割幅、副画面に表示する内容をまとめて指定できます。マウスの場合はメニューバーのを使って指定します。

キー列

A C M C命令、S命令、M A T命令などで使います。キー列とは、並べかえ（S命令）などを行うときの基準となる列のことです。どの列を基準にするのか、その列番号で指定します。

行番号

画面の左側に並んでいる数字のことで、行の番号を示します。行の指定は、行番号で行います。

キーを使って行を指定することもできます。

繰り越し演算

数値の先頭から順に計算を繰り返します。現金出納帳の差し引き残高を求めたり、売上の累計を求めたりするのが代表的な繰り越し演算の例です。A C M・A C M C命令で使います。

グラフ画面

グラフを表示する画面のことをグラフ画面と呼びます。グラフ画面は、縮小・拡大・変形および移動することができます。また、グラフ画面の内容は、B M P W命令でB M Pファイルとして保存することができます。

グループ番号

命令によっては、複数のページを指定できるものがあります。その際、ページ番号を入力するかわりに、グループ番号を“G 1”“G 2”のように指定できます。Gはグループを表しています。グループ番号はS H T命令でつけます。たとえば、G 4と入力すると、グループ番号4にあてはまるページすべてを入力したのと同じ意味になります。T命令でタイトル一覧をみると、グループ番号をつけたページをみることができます。

ケイ線

表の枠などの線を“ケイ線”と呼びます。マイツールでは、D R C・D R L命令で縦・横のケイ線を引きます。また、E D命令中は、プルダウンメニューの“ケイ線モード”、“ケイ線描画”で引くことができます。

桁数表示

“列番号表示”中に、（ + ）キーを押して表示するのが、“桁数表示”です。

（ + ）キーを押すたびに、“列番号表示”と“桁数表示”、“累計桁数表示”を切りかえます。マウスを使う場合は、のプルダウンメニューから選んでください。

更新

もとからあるデータを、新しいデータに置きかえることを“更新”といいます。

マイツールでは、S H U命令やU P D命令などで、古いデータを新しいデータに“更新”できます。

固定行・固定列

大きな表の場合、データのすみずみまでみようとするとスクロールすると、項目名が入力されている行や列は見えなくなってしまいます。

そこで、S E T P命令で必要な行や列を固定してしまえば、スクロールしても常に指定行、列を画面に表示しておくことができます。S E T P命令で固定した行や列を“固定行、固定列”と呼びます。

混在モード

画面のタイトル行に“混”と表示されているページを“混在モード”のページといいます。混在モードの場合は、半角文字と全角文字の両方が使えます。混在モードのページを漢字モードに変える場合には、C T P命令を使います。

コントロールパネル

Windowsにおいて、システム上の周辺機器（プリンタやマウスなど）や各種設定（画面の色やデザインなど）を管理するためのプログラムです。

コントロールパネルを起動し、表示されるアイコンの中から設定したいものを選択して設定を行います。

設定終了後にすぐに反映されるものと、Windowsを再起動しないと設定が反映されないものがあります。

さ行

再計算

一度計算したデータに対して、数値や計算式を変えてふたたび計算し直すことをいいます。

S I M命令で行うことができます。

サウンドカード

パソコン上で、デジタル音声を再生・録音するために必要な拡張ボードです。

PLAY命令でWAVE形式の音声データを再生する場合や、MOVIE命令で音声つき動画の音声を再生するにはサウンドカードとスピーカーがパソコンに装着されている必要があります。

参照画面

参照画面は、**インサ** (**Ctrl** + **F 11**) キーやマウスを使って、画面に表示させることができます。

参照画面に表示させる内容は、RBB命令を使って読み出します。

“仕事は=”

マイツールのもっとも基本的なメッセージです。

画面の入力バーに表示されます。

マイツールは190以上の命令(コマンド)で仕事をしますが、そのほとんどの命令は“仕事は=”のメッセージ表示中に入力しなければなりません。

四則演算

計算の中で、もっとも基本的な、加算・減算・乗算・除算の4つを四則演算といいます。

四則演算の各記号(+、-、×、÷)を演算子と呼びますが、マイツールでは“+”、“-”、“*”、“/”の記号を使います。乗算、除算の演算子は表示が違うので注意しましょう。

集計

集計とは多くのデータを集め、加算などの計算を行って、データの意味を明確にとらえられる形に変換すること。合計というと、数字を加算する意味合いだけですが、集計は表の形のデータを各項目ごとに合計するといった、高度な内容を含んでいます。

照合

2つの表を比べて、同じ内容を持つ項目だけをまとめて1つの表にすることを“照合”といいます。

マイツールでは、MAT命令で複数の表を1つの表に“照合”します。

初期化(フォーマット)

市販のフロッピーディスクは、そのままでは使えません。読み出し、書き込みできるようにするのが“初期化”です。

マイツールでは、INI命令やCPD命令の中でこの操作を行っています。

初期化は、フロッピーディスクを購入して初めて使うときに1回だけ行ってください。それ以降は必要ありません。

スクロール

マイツールでは、画面に表示されるのは、ページの一部分だけです。そのために、画面に表示されていない部分を見るためには、表示される範囲を動かす必要があります。この操作をスクロールといいます。

スクロールは、やマウスを使って自由に行うことができます。また、データを画面のはじめで入力すると、画面が自動的にスクロールします。

セル

データを書き込むための一つの欄のことをいいます。マイツールの表は、縦と横に広がっていますから、行番号と列番号で指定します。

指定した行番号と列番号の一致したところが、指定したセルの番号になります。

挿入・修正・削除

挿入とは表や文章の中に、新しく行や列、文字などを書き加えることです。もとの内容にデータを追加することができます。もとの内容を変えてしまうことは、修正あるいは訂正と呼びます。

また、すでにある行や列、文字を消してしまうことは削除といいます。

た行

タイトル一覧

各ページのタイトル(表題)一覧、つまり目次のことです。タイトル一覧はT命令を使って見ることができます。タイトル一覧には、それぞれページの表題・データ作成日・使用行数・桁数・グループ分け・キーワードの有無・インデックス(インデックス型ファイルのみ)が表示されています。

タイトル行

画面上にある“表題”の行をタイトル行といいます。タイトル行には、“表題”と“データ作成日”、“漢字・混在モードの区別”、そして“ページサイズ”が表示されます。

ダブルコーテーション

マイツールでは、:(コロン)のあるデータを入力するときなど、ダブルコーテーション(")で囲みます。ダブルコーテーションをつけないで:(コロン)を入力すると、キーを押したことになります。

データ行

表のデータが入っている行です。

データ行の行番号表示の右となりには、水色の帯が表示されます。

データ行は、この水色の帯で判別することができます。

テンキー

メニューバーの  から [テンキー] を選択すると、テンキーが表示されます。テンキーの表示は、マウスを使って通常のテンキーと同様の入力ができます。

電卓

メニューバーの  から [電卓] を選択すると、電卓が表示されます。電卓のキーをマウスで左クリックして四則演算が行えます。計算結果は、[E] で入力行に取り込むことができます。また、[] キーを一度左クリックすると、ドレミの音階をつけて音楽の演奏ができます。

ドライブ

フロッピーディスクドライブやハードディスクドライブなどの記憶装置を略してドライブと呼んでいます。システム上やマイツールの命令で、データを読み書きする時に、ドライブの指定をすることがあります。アルファベットでドライブを指定する場合、フロッピーディスクは A (または B)、ハードディスクに内蔵されているドライブは C です。また内蔵されているドライブ以外に、外部ドライブも接続することができます。ただし、お使いのパソコンにより異なる場合があります。

な行

入力バー

“仕事は=” “データは:” などのメッセージが表示される部分を、入力バーと呼びます。命令やデータをマイツールに入力する部分です。

は行

ハードディスク

マイツールには、記憶装置として、フロッピーディスクとハードディスクがあります。ハードディスクはフロッピーディスクに比べて、記憶容量が多いことと、読み書きのスピードが速い点が特長です。

範囲指定

E D 命令で、各機能を実行する範囲を指定することができます。この機能を範囲指定と呼びます。範囲を指定することにより、自動スクロールなどの機能が働き、日本語ワープロとして使う場合、より操作が容易になります。

半角・全角

文字には半角文字と全角文字があります。半角文字は、アルファベット・数字・カタカナに使うことができます。全角文字は、すべての文字・記号が使えます。

バイト

半角 1 文字分を “ 1 バイト ” といいます。マイツールでは 1 ページに半角文字で約 8500 文字を書き込むことができます。つまり、1 ページの容量は約 8500 バイトであると表現できます。ただし、ページを拡張している場合は、ページ数分容量がふえます。

バックアップ

予備を作ることを “ バックアップ ” といいます。データフロッピーは大切なものです。なるべくバックアップをとっておきましょう。バックアップは C P D 命令を使って行います。また、ハードディスク内のページも定期的にバックアップをとるようにしましょう。

左寄せ (左づめ)

データを列内で左側に寄せることをいいます。E・E C 命令など入力関係の命令を実行中は、 () キーを押すと、データを左づめで入力できます。また、右寄せのデータを左側に寄せるには、S L 命令を使います。セル内のデータが文字列の場合は、S L 命令で列内の内容を左側にそろえると見やすくなります。逆に数字は右にそろっている方が見やすくなります。右に寄せる命令は S R 命令です。

表題

タイトル行に表示される、ページのタイトルのことです。表題は、作成したデータの内容がすぐわかるように全角 15 文字 (半角なら 30 文字) 以内で簡潔につけましょう。また、オートプログラムの場合は、表題がオートプログラム名になるので、入力が簡単でわかりやすい表題にしましょう。

ファイル

パソコンで扱う、データの 1 つのまとまりをファイルと呼びます。マイツールではページの集まりをファイルとしており、“売上” ファイルとか、“集計” ファイルというように内容に応じてファイルを分けておくと整理がしやすくなります。ファイルの作成や変更は F I L E 命令で行います。

ファンクションキー

(F 1) から (F 16) ((F 1) から (F 12)) までのキーをファンクションキーと呼びます。

(F 1) から (F 8) までのファンクションキーには、 F K S 命令で全角 20 文字 (半角なら 40 文字) 以内のデータやセミオートを登録することができます。

よく使うデータやセミオートを登録しておけば、ファンクションキーを押すだけで効率的に仕事ができます。また、 E D 命令実行時にはファンクションキーでプルダウンメニューを表示させることができます。

フォーマット行

表の 2 行目にある “ F = ” のことをフォーマット文といいます。フォーマット文のある行がフォーマット行です。フォーマット行には、表の列の桁数と列数が表示されません。フォーマット文を消してしまうと、計算・検索などはできなくなるので注意しましょう。フォーマット行の作り直しは、 C F A 命令で行います。

副画面

上下に分割したときは上の画面、左右に分割したときは右の画面を “ 副画面 ” と呼びます。

副画面には、おもて画面・裏画面・タイトル一覧・ワークエリア・ロギングエリア・ファイル一覧を表示させることができます。

副画面に “ おもて画面 ” または “ 裏画面 ” を表示している場合、 E ・ E L ・ E C ・ E R ・ I C ・ I L 命令などでマウスを使って、副画面のデータなどを画面の入力行へ移すことができます。 E D 命令のときは、画面のカーソル位置へ移します。

フロッピー

フロッピーとは、フロッピーディスクの略です。マイツールでは、 I N I 命令で専用のデータフロッピーを作成し、ページの読み書きを行います。

★フロッピーは消耗品です。バックアップをとるようにしましょう。

ブロック

ある範囲 (四角形) をブロックと呼びます。

特に E D 命令実行中、編集する範囲を指定するときに、対角となる 2 点を、ブロックの始点・ブロックの終点と呼んでいます。

プロテクト

重要なデータは、他人にみられないように、そして内容をうっかり消してしまわないようにしたいもの。

そこで、プロテクト!! 日本語でいう “ 保護する ” こと。 P R T 命令で自分だけにしかわからない暗証 (キーワード) をつけて、ページの内容を保護します。

★暗証を忘れてしまうと、そのページを読み出せなくなるので、ご注意ください。

プロテクトタブ (ライトプロテクトタブ)

フロッピー (3.5 インチフロッピーディスク) には、書き込み禁止の状態に変えられるスライドスイッチがついています。このスイッチを、プロテクトタブ (ライトプロテクトタブ) といいます。

プロテクトタブが開いた状態 (穴があいている状態) が書き込み禁止、プロテクトタブが閉じている状態 (穴が閉じた状態) では、書き込み可能になります。

変換行

画面の最下行を変換行と呼びます。

変換行では、漢字の変換を行うことができます。キーボードから入力した読みは、いったん変換行に表示され、 (変換) キーで漢字に変わります。

変数

変数とは、計算結果などの数値や、文字列を一時的に保存し、必要な時に取り出すことができる、いわば引き出しのようなものです。変数はオートプログラムで使用します。

変数を使用することで、高度なオートプログラムを作成することができます。

ページサイズ

1 ページの大きさは、はじめに縦 50 行、横 170 桁 (半角文字) で設定されています (画面ではその一部しかみることができません)。この縦横の比率を S E T 命令で自由に変更してページのサイズを作ることができます。すでに作ってしまったページのサイズを変える場合は C P S 命令を使ってください。マイツールでは、1 ページに半角文字で約 8500 文字を書き込むことができます。

ページファイル

1 ページの大きさは、上の 「 ページサイズ 」 で書かれているように、50 行 170 桁が基本です。

ページの拡張を行えば、最大 32,000 のデータ行を持つ表を画面上で扱うことができるようになります。しかしこの大きな表を W ・ W C 命令でページに書き込むと、1 ページごとに分けて書き込まれます。

これをページファイルとして保存すれば、常にページがつながった状態のまま読み書きができるようになります。

大量のデータを常にひとつの表として扱いたい場合は、ページファイルとして保存しておく便利です。

ページファイルは、 R C 命令でつなげられるページ数と同じで、最大 120 ページ分 (約 3 万行) までの大きさで作ることができます。

ページ番号

ツールバーの下の画面左上隅に表示されている数字のことです。

書き込まれているページを画面に読み込んだ場合、そのページ番号が表示されます。

また、画面に表示されているページがマスターファイルのページであれば“M”が、サブファイルの場合は“S”がページ番号の前に表示されます。

ま行

マウス

画面のスクロールや命令の選択、命令実行中の選択などは、なるべくキーボードを使わないで、手軽に操作できるようにしたいものです。マウスがこれを行います。

通常、選択は左ボタン、スクロールは右ボタンで行います。

マトリックス集計

マトリックス集計とは、バラバラのデータを、ある共通の要因でまとめて1つの表にし、縦・横からみて一目でわかりやすい表にすることです。

T M ・ T M T 命令で行うことができます。

右寄せ（右づめ）

データを列内で右側に寄せることをいいます。S R 命令を使います。右寄せすると、データの桁数がみやすくなります。左に寄せる命令はS L 命令です。

命令

マイツールに、いろいろな仕事を命じるときに使う言葉です。コマンドとも呼びます。

マイツールには 190 以上の命令がありますが、それぞれの命令名は主に英単語の頭文字をとってつけられています（“R”は“Read”、“W”は“Write”など）。

メッセージボックス

命令実行中、操作に関するメッセージがワクで囲まれて表示されることがあります。これをメッセージボックスと呼びます。

や行

予備行数

A C M C ・ E F ・ T C ・ S ・ S H ・ S H G などの命令で結果を指定ページに書き込む場合、1ページに書ききれないと自動的に次のページに書き込みます。

このとき、ページいっぱいデータを書き込んでしまうと、後でデータの追加などができなくなります。

そこで、予備行数を設定しておけば、予備行数分だけは残して次のページに書き込むので、後からデータを追加することができます。予備行数の設定はS E T 命令で行います。

読み出す（呼び出す）

データフロッピーやハードディスク内に保存しておいたデータを、画面に表示させることを“読み出す”といいます。読み出す命令には、R 命令などがあります。

ら行

リセット

実行中のアプリケーションが、何らかの原因で正常に動作しなくなったとき、この操作を行います。

リセットは、(ALT) キーと (Ctrl) キーを押しながら、(Delete) キーを押します。

一度リセットすれば、操作中のアプリケーションのみを強制的に終了し、Windows に戻ることができます。Windows までも動作しなくなった場合は、もう一度リセットを行います。この場合パソコンの電源をいったん切り、再び入れ直した状態になります。

ただし、アプリケーション実行中にリセットを行うと、データを破壊するおそれがありますので、非常の場合以外は決して行わないでください。

累計桁数表示

(F9) (Ctrl) + (F9) キーを押して表示するのが“累計桁数表示”です。1列目から順に各列の合計桁数を表示します。マウスを使う場合は、を指定してから選んでください。

列番号

画面上部にある数字のこと。列の番号を表します。わかりやすいように奇数番号の列番号は反転して表示されます。列の指定は、必ず列番号で行います。列を表示していないときは、桁数を表示します。

また、(F9) (Ctrl) + (F9) キーやマウスを使って、列番号表示を各列の“桁数表示”と“累計桁数表示”に変えることもできます（「桁数表示」「累計桁数表示」参照）。

ロギングエリア

マイツールでは、キーボードから入力した命令やデータをロギングエリアに保存しています。

ロギングエリアは、RLOG命令、もしくは入力バーの“仕事は=”の部分をマウスで左クリックすることでみることができます。

命令やデータを74個までみることができます。

画面分割を行って副画面に表示させることもできます。

わ行

ワークエリア

データを、一時的に保管しておくところが“ワークエリア”です。ワークエリア内には、3つの保管場所(W1・W2・W3)があり、それぞれにデータを180個まで保管できます。DW命令を使うと、ワークエリアをみることができます。

★ワークエリアを使うことができる命令

DW・C・ACM・MAV・ICW・ILW

ワイルドカード

検索関係の命令で、文字の一部を指定して、その一部を含んだデータすべてを選び出すのが“ワイルドカード”です。

ワイルドカードで使う記号には“*”と“?”があります。

指定方法一覧

マイツールの命令実行中、ページや行、または列を指定するとき、単に数字で指定するだけでなく、英文字や記号を使って指定することができる場合があります。

指定するものによってはとても便利なので、大いに活用してください。

【ページの指定方法の種類】

指定方法	指定例	意味	メッセージ例
単独指定	1	1ページを指定する	何ページを 読み出しますか：
連続指定	1-3	1、2、3ページを指定する	
複数指定	1, 3, 5	1、3、5ページを指定する	
混合指定	1, 5-7, 9	1、5、6、7、9ページを指定する	
グループ指定	G1 (2, 3, 4)	グループ1 (2, 3, 4) に設定されているページを指定する	並べかえるページは [画面 ↵]
表題指定	=売上帳	表題が“売上帳”のページを指定する	
ワイルド指定	=売上*	表題が“売上”で始まるページを指定する	
	=*売上*	表題に“売上”という文字が入っているページを指定する	
	=???売上	表題が何か3文字ではじまり、その後に“売上”とつくページ	
			検索するページは [画面 ↵]

グループは、あらかじめSHT命令で設定しておく必要があります。ページにつけられたグループは、T命令で確認できます。サブファイルやV型ファイルのページにグループを設定することはできません。

表題指定やワイルド指定はR命令時にも使うことができますが、指定した条件に合うページが複数あるとエラーになります。

表題指定やワイルド指定でカタカナ・数字などの文字を指定する場合や、半角・全角の文字、英文字を指定する場合は半角・全角・大文字・小文字などは区別されますので、正しく入力してください。

●異なるファイルのページを直接指定する方法

上記の指定方法でページを指定した場合、CHF命令で設定されている現在のファイル(カレントファイル)のページを処理します。

現在のファイル以外のファイルにあるページを指定したい場合は、CHF命令で現在のファイルを変更するか、次のような形式で指定を行います。

ファイル名/ページ指定

《例》 SAMPLE / 10 “SAMPLE” というファイルの10ページ

売上 / = 4月売上 “売上” というファイルの “4月売上” という表題のページ

★指定するファイルが“M(マスターファイル)” “S(サブファイル)” “A(フロッピードライブ)” であれば“/”は省略可能です。ただし、グループ指定、表題指定、ワイルド指定を行う場合には省略できません。

【特殊なページの指定方法】

指定方法	意味	指定できる命令	備考
B指定	先頭の空白ページを指定する	W・WB命令	マイツール起動直後の、ページの読み出しや書き込みを行っていない状態で指定すると、エラーになります。
+指定	直前に読み出しや書き込みを行ったページの次のページを指定する	R・W・WB命令	
-指定	直前に読み出しや書き込みを行ったページの前のページを指定する	R・W・WB命令	
*指定	直前に読み出しや書き込みを行ったページを指定する	R・W・WB命令	

V型ファイルのページにB指定でページを書き込むことはできません。

上記の指定方法は、ページファイルに対しては無効です。たとえば、RFL命令でページファイルを読み込んだ後にR命令で“*指定”を行っても、RFL命令実行前に読み書きを行ったページが読み込まれます。

B指定は、上記「異なるファイルのページを直接指定する方法」と同じ指定が可能です。

《例》 A/B Aドライブのデータフロッピーの、先頭の空白ページを指定する。

SAMPLE/B... “SAMPLE” というファイルの、先頭の空白ページを指定する。

【行・列の指定方法の種類】

指定方法	指定例	意味	メッセージ例
単独指定	1	1行(列)目を指定する	何行目を削除しますか (○~○) :
連続指定	1-3	1、2、3行(列)目を指定する	
複数指定	1, 3, 5	1、3、5行(列)目を指定する	何列目を削除しますか (○~○) :
混合指定	1, 5-7, 9	1、5、6、7、9行(列)目を指定する	
H・T指定	6-T	6行(列)目から、最終行(列)までを指定する	
	H-T	データの先頭行(列)から、最終行(列)までを指定する	
	10-(T-1)	10行(列)目から、最終行(列)の1行(列)前までを指定する	
A(全体)指定	A	データのすべて行(列)を指定する	合計を求める範囲は :
行の範囲指定	L6-10	6行目から10行目までを指定する	
列の範囲指定	C1-4	1列目から4列目までを指定する	
部分指定	L6-10, 2	6行目から10行目までの2列目を指定する	
	C1-4, 8	1列目から4列目までの8行目を指定する	
N(not)指定	L6-10, N9	9列目を除く、6行目から10行目までを指定する	
	C1-10, N4-5	4、5行目を除く、1列目から10列目までを指定する	

【条件式による行・列の指定方法】

指定例	意味	メッセージ例
C1 =	1列目がスペースの行を指定する	何行目を削除しますか (○~○) :
L6 = *売上*	6行目のデータに“売上”という文字が入っている列を指定する	
C1 = ???売上	1列目のデータに、何か3文字ではじまりその後に“売上”という文字のある行を指定する	何列目を削除しますか (○~○) :
C3 < 10	3列目が10未満の行を指定する	
L4 = 10	4行目が10の列を指定する	
C3 < 10 & C4 < 50	3列目が10未満で、かつ4列目が50未満の列を指定する	
L4 < 10 ! #赤, 白	文字の色が“赤”で、背景の色が“白”のデータを指定する	1番目の検索条件式は [終了 ↵]
C1 = #水	文字の色が“水色”のみ指定する	
C1 = #, 赤	背景の色が“赤”のみ指定する	

【その他の行・列の指定方法】

指定例	意味	メッセージ例
¥合計	“合計”という文字が、いずれかのセルに入力されている行	何行目を削除しますか (○~○) :
@単価	“単価”という文字が、項目行に入っている列を指定する	何列目を削除しますか (○~○) :

“¥” “@” は計算式中に使うこともできます。

《例》 ¥小計+¥消費税=¥合計, 10…… “小計”という文字のある行と、“消費税”という文字のある行を加算して、“合計”という文字のある行の10列目のみに書き込む。

“@” で指定した場合、項目行以外に入力されていると対象になりません。

条件にあてはまる行、または列が複数ある場合、該当する先頭の行、または列のみが処理されます。

マイツール命令早見表

命令	処理概要	ページ
ACM	累計を求める	16
ACMC	条件を指定して累計を求める	18
ADD	V型ファイルにページを追加する	21
AV	平均を求める	22
BC	列のデータだけを空白にする	23
BEST	ベスト10、ワースト10などを求める	24
BFL	イメージデータなどのファイル一覧を作成する	26
BGS	BMP形式の画像データをグレースケールに変換する	28
BL	行を空白にする	30
BLOG	ロギングエリアの内容を消去する	31
BMPR	BMPファイルを読み出す	32
BMPW	BMPファイルを書き込む	33
BMS	BMP形式の画像データを2値化する	35
BR	指定した範囲のセルを空白にする	37
BT	ページの内容を空白にする	38
BTN	命令などを登録したボタンを表示する	39
C	四則演算・関数計算を行う	42
CALE	カレンダーを作成する	60
CCOPY	クリップボードへデータを転送する	63
CF	列の桁数を変更する	64
CFA	すべての列の桁数を変更する	67
CFP	指定した列の分離・結合を行う	69
CGET	CSV形式のファイルをマイツールデータに変換する	71
CHF	現在のファイルを変更する	72
CMD	命令を登録する	74
CMP	おもて画面と裏画面のデータを比較して色をつける	76
CNC	条件ページの条件と一致した行を計算する	79
COPY	ページの内容を別のページにコピーする	81
CPAST	クリップボードからデータを取り込む	83
CPC	列の内容を複写する	85
CPD	データフロッピーやファイルをコピーする	86
CPL	行の内容を複写する	88
CPPB	裏画面の指定したセルの内容を、おもて画面の表に複写する	89
CPR	指定した範囲の内容を複写する	91
CPRB	裏画面の指定した範囲の内容を、おもて画面の表に複写する	92
CPS	ページサイズを変更する	94
CPSL	ページサイズを行数で変更する	96
CPUT	マイツールデータをCSV形式のファイルに変換する	97
CT	表題を変更する	98
CTP	文字タイプやページのモードを変更する	99
D	画面の先頭を表示する	101
DATE	日付を変更する	102
DATEMY	マイツール上での日付を変更する	103
DC	列を削除する	104
DCM	数値のカンマを削除する	105
DF	デザインページを使って、データの検索や修正を行う	106
DFL	イメージ、音声、動画などのファイルを削除する	119
DIA	画面のページ情報を表示する	121
DIF	データの変位を求める	122
DL	行を削除する	124
DOC	おもて画面の下に裏画面を結合する	125
DOCR	おもて画面の上に裏画面を結合する	126
DOS	DOSに移行する	127
DP	指定したセル位置から表示する	128
DR	小数点以下の桁数や端数処理を設定する	129

命令	処理概要	ページ
DRC	縦ケイ線を引く	131
DRL	横ケイ線を引く	132
DS	画面分割の設定を変更する	133
DSH	重複しているデータを抜き出す	135
DW	ワークエリアを表示する	137
E	表にデータを追加する	138
EC	列方向にデータを入力する	139
ED	ワープロとして使う	140
EF	デザインページを使って表にデータを入れる	158
EL	行方向にデータを入力する	168
END	マイツールを終了する	169
ENDW	Windowsを終了する	170
EP	指定したセルにデータを入力する	171
ER	指定した範囲のセルにデータを入力する	172
F	新しく表を作る	173
FILE	ファイルの作成や変更を行う	175
FILEX	ページファイルを作成したり変更する	186
FKS	ファンクションキーに登録する	189
FS	用紙サイズを指定して表を作る	191
G	データをグラフにする	193
GEDR	DOS版マイツールのGED命令で作成した絵を読み出す	220
HELP	マイツールヘルプの目次を表示する	221
IC	表に列を挿入して、データを入力する	226
ICB	裏画面の列を指定して、おもて画面に挿入する	228
ICM	数値の3桁ごとにカンマを挿入する	229
ICS	表にスペース列を挿入する	230
ICW	ワークエリアのデータを、画面の列に挿入する	231
IL	表に行を挿入して、データを入力する	233
ILB	裏画面の行を指定して、おもて画面に挿入する	234
ILS	表にスペース行を挿入する	235
ILW	ワークエリアのデータを、おもて画面の行に挿入する	236
INI	データフロッピーを初期化する	238
LDC	SVC命令で保管してある列を読み出す	240
LDL	SVL命令で保管してある行を読み出す	241
LDP	SVP命令で保管してあるセルを読み出す	242
LOCK	共有ファイルを占有する	243
LPSET	レーザープリンタの印刷方法を設定する	244
M	S命令で並べかえたデータどうしを併合する	250
MAT	表と表を照合して、必要な列で新しい表を作る	252
MAV	移動平均を求める	256
MC	列を移動する	258
MCOPY	マイツールデータをタブ区切り形式でコピーする	259
ML	行を移動する	260
MOVIE	動画データを再生する	261
MPAST	クリップボードからタブ区切り形式のデータを取り込む	262
MT	ページを移動する	263
MTE	複数の表と複数の表を照合して、必要な列で新しい表を作る	265
MTL	マトリックスデータを1行1データにする	268
NUM	列方向・行方向に連番を入力する	270
OCR	文字イメージを表のデータにする	272
OCRS	文字イメージを文章データにする	274
OFFDATE	タイトル行に日付を表示しない	276
ONDATE	タイトル行に日付を表示する	277
P	画面の内容を印刷する	278
PAGE・PCAN・PRUN	ページ間処理を行う	279

命令	処理概要	ページ
PB	裏画面を印刷する	282
PC	文字間をつめて印刷する	283
PD	複数ページを印刷する	284
PE	印刷範囲などを指定して印刷する	285
PER	百分率を求める	287
PF	デザインページの書式で印刷する	289
PFF	用紙を送る	295
PFG	イメージデータを使って書式印刷する	296
PFGE	PFG命令のデザインページを作成する	297
PG	グラフを印刷する	304
PL	印刷時のレイアウトを表示する	305
PLAY	WAVファイルを再生する	307
PR	画面の縦・横を入れかえて印刷する	308
PRO	オートプログラムを登録する	309
PRT	ページにプロテクトをかけて保護する	311
PSET	印刷方法などを設定する	313
PT	ページのタイトル一覧を印刷する	322
PTF	用紙の先頭位置を決める	323
PTS	サブページのタイトル一覧を印刷する	324
PUL	必要な行のみ抜き出して、それ以外の行を削除する	325
R	指定したページを画面に読み出す	326
RANK	データを集計して順位をつける	328
RB	指定したページを裏画面に読み出す	330
RBB	指定したページを参照画面に読み出す	332
RC	複数ページの内容をつないで、1画面で表示する	334
REC	WAVファイルを作成する	336
RF	表のフォーマットを、指定した表に合わせる	337
RFL	ページファイルを読み出す	339
RLOG	これまで使った命令やデータを画面に読み出す	340
ROC	列のデータを縦方向にずらす	341
ROL	行のデータを横方向にずらす	343
RUN	オートプログラムを実行する	345
RV	1つ前の画面に戻す	346
S	データを並べ替える	347
SC	データをセンタリングする	351
SEPA	列を分離する	352
SET	ページの大きさやモードなどを設定する	353
SETC	マウスの移動速度やブザー音などを調整する	357
SETD	キーボードやかな漢などを設定する	361
SETM	プルダウンメニューの内容を変更する	363
SETP	画面に固定する行や列、またはデータにつける色を設定する	364
SETX	フォーマット行やデータ行を変更する	367
SF	スキャナーで、データをイメージとして取り込む	368
SFE	スキャナーフォーマットページを作成する	370
SGET	他のファイルをマイツールデータに変換する	377
SH	データを検索する	381
SHD	データを検索して、元データから抜き出す	388
SHG	キーページに合わせて検索・整理する	390
SHT	表題をグループに分ける	392
SHU	データを検索して、条件に合うデータを書きかえる	393
SIM	データを修正してから、計算式にしたがって再計算する	399
SL	データを左に寄せる	403
SPUT	マイツールデータを他のファイルに変換する	404
SR	データを右に寄せる	407
ST	条件を指定してページを並べかえる	408
STAT	データを集計して分析値を求める	410

命令	処理概要	ページ
SV	画面の内容を一時的に保管する	412
SVC	列の内容を保管する	413
SVL	行の内容を保管する	414
SVP	セルの内容を保管する	415
T	タイトル一覧を表示する	416
TAB	ファンクションタブレットに言葉や命令を登録する (Mr. シリーズ)	417
TC	小計・総計を求める	420
TF	ファイル一覧を表示する	422
TIME	時刻の表示や変更を行う	423
TL	縦方向・横方向の合計を求める	424
TM	縦軸・横軸を指定してマトリックス表を作る	425
TMT	縦軸・第2縦軸・横軸を指定して、三次元マトリックス表を作る	430
TP	複数ページの同位置のセルの数値を計算する	432
TRP	行と列を入れかえる	434
TS	サブページのタイトル一覧を表示する	436
UNIT	複数の列を結合する	437
UNLOCK	共有ファイルの占有を解除する	438
UPD	表と表を照合して、条件に合うデータを書きかえる	439
UPDS	複数の表と複数の表を照合して、条件に合うデータを書きかえる	446
UPM	表と表と照合して、条件に合うデータを集計する	450
VOICE	文章データを音声で読みあげる	453
VSP	表のデータを音声で読みあげる	455
VT	データを時系列で集計する	456
W	指定したページに画面の内容を書き込む	459
WB	裏画面を指定したページに書き込む	461
WC	RC命令でつないだページを、指定したページに書き込む	462
WFL	ページファイルを書き込む	463
WINEXE	アプリケーションを起動する	465
X	おもて画面と裏画面を入れかえる	466
XY	項目行を指定して、表の行と列を入れかえる	467

オート命令一覧表(アルファベット順)

オート命令(オートプログラム中に使える命令)の中には、“仕事は=”の状態でも使えるものがあります。ここでは、“仕事は=”の状態でも便利に使うことのできるオート命令をご紹介します。

命令	処理概要
BEEP	ブザーをならす
CLS	画面を消去する
CONT	オートプログラムの手入力を解除する
DPOFF	画面表示を静止させる
DPON	画面表示の静止を解除する
LDPB	保管してあったセルを裏画面に読み出す
LPRINT	文字列を印刷する
MANU	オートプログラムを一時中断する
PRINT	データを表示する
RVOFF	リカバリ機能を中断する
RVON	リカバリ機能を再開する
SCLDS	列表示(スケール)を変更する
SVPB	裏画面のセルを一時保管する
TROFF	トレースモードを解除する
TRON	トレースモードを設定する
WINDOW	参照画面やグラフ画面を表示する